

鹿児島県三島村

*Fishes of Sou-jima and Take-shima Islands
Mishima, Kagoshima, Japan*

硫黄島・竹島の

魚類



本村 浩之
出羽 慎一
古田 和彦
松浦 啓一

鹿児島県三島村

硫黄島と竹島の魚類

Fishes of Iou-jima and Take-shima islands
Mishima, Kagoshima, Japan

本村浩之

出羽慎一

古田和彦

松浦啓一



目次

はじめに	3	ヒメジ科	163
謝辞	4	ハタンボ科	166
調査地・調査風景	5	イスズミ科	170
		メジナ科	171
ウツボ科	7	カゴカキダイ科	172
アナゴ科	14	チョウチョウウオ科	173
カタクチイワシ科	15	キンチャクダイ科	188
ニシン科	15	カワビシヤ科	203
ゴンズイ科	16	シマイサキ科	204
エソ科	16	ユゴイ科	205
アシロ科	17	イシダイ科	206
カエルアンコウ科	18	ゴンベ科	209
ボラ科	20	タカノハダイ科	213
トウゴロイワシ科	20	スズメダイ科	214
ダツ科	21	ベラ科	241
マツカサウオ科	21	ブダイ科	273
イトウダイ科	22	トラギス科	285
ウミテング科	31	トビギンボ科	289
カミソリウオ科	32	ヘビギンボ科	289
ヨウジウオ科	32	イソギンボ科	302
ヘラヤガラ科	35	コケギンボ科	313
ヤガラ科	35	ウバウオ科	314
フサカサゴ科	36	ネズツボ科	315
メバル科	67	ハゼ科	317
ハオコゼ科	67	クロユリハゼ科	340
オニオコゼ科	68	アイゴ科	343
コチ科	69	ツノダシ科	344
カワリハナダイ科	69	ニザダイ科	345
ハタ科	70	サバ科	353
メギス科	99	ササウシノシタ科	354
キントキダイ科	106	モンガラカワハギ科	356
テンジクダイ科	107	カワハギ科	363
キツネアマダイ科	139	ハコフグ科	366
シイラ科	142	フグ科	368
アジ科	142	ハリセンボン科	372
フエダイ科	147		
タカサゴ科	152	引用文献	373
イサキ科	155	和名索引	376
イトヨリダイ科	158	学名索引	382
フエフキダイ科	161	執筆者一覧	388
タイ科	162	編者	389



序

鹿児島大学総合研究博物館では、「鹿児島県魚類多様性調査プロジェクト」の一環として毎年各島嶼海域の魚類相調査を行っている。2008年～2009年は屋久島の調査を行い、同島から標本に基づく初記録374種を含む951種を報告した(Motomura & Matsuura, 2010)。この調査によって屋久島と鹿児島県本土の魚類相は大きく異なることが明らかになり、この結果、鹿児島県北部海域(トカラ列島以北)の魚類多様性を今後より深く理解するためには、地理的に屋久島と県本土の中間に位置する三島村の魚類相を把握する必要があることが分かった。

屋久島の魚類調査は明治時代から現在まで盛んに行われてきたが、三島村周辺海域の調査はこれまで実施された記録がない。そこで、2010年～2011年に同海域における史上初の魚類多様性に関する包括的な調査「硫黄島・竹島魚類多様性調査プロジェクト」を実施した。調査期間は、2010年5月から2011年5月までの計7回(2010年5月24～30日、6月19～20日、7月24～25日、8月13～14日、9月18～20日、11月6～7日、2011年5月10～19日)、調査地は鹿児島県三島村の硫黄島、竹島、昭和硫黄島の周辺海域である。三島村じゃんべスクールや硫黄島・竹島の民宿を拠点とし、日中はスクーバダイビングによる調査、夕方は標本処理、夜は釣り調査を行った。硫黄島の港内の海底からは鉄分を大量に含んだ水が湧出しているため、海が赤茶色に染まっており、沿岸からの調査ができない。そこで、調査は基本的にチャーター船によって透明度が高い沖合で実施された。イトヒキコハクハナダイ *Pseudanthias rubrolineatus* やヒマワリスズメダイ *Chromis analis*、ヒスイスズメダイ *Chromis earina* は今回の調査で得られた標本に基づいて新しい標準和名が提唱された魚である(Motomura et al., 2010; 岩坪・本村, 2010; 西山ほか, 2012)。

本調査によって、硫黄島、竹島、昭和硫黄島の周辺海域から **72科195属414種** が記録された。本書ではこれら全種を865枚のカラー写真(538枚の標

本写真と327枚の水中写真)で紹介する。各種の解説はCarpenter & Niem(1999–2001)、Randall(2005)、中坊(2013)などを基本的な参考資料とし、各種の最新の文献を個別に参照して書かれている。一方、本書には従来の知見に加え、分類学的新知見も多く含まれている。例えば、トゲイッテンフサカサゴ *Parascorpaena mcadamsi* やイッテンフサカサゴ *Parascorpaena moultoni* は分類学的に整理され、学名の適用などで新たな知見が提示された。日本初記録のカメレオンタナバタメギス(新称) *Pseudoplesiops annae* も記載されている。また、分布域の南限・北限の更新記録も多く含まれる。しかし、同海域の魚類相はまだ十分に解明されたとは言えない。本書を基礎資料として、今後のさらなる調査が期待される。

「硫黄島・竹島魚類多様性調査プロジェクト」は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」、国立科学博物館の「黒潮プロジェクト(浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る)」、JSPS 科研費(19770067、23580259、24370041)、JSPS アジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイバビリティの向上プロジェクト」の援助を受けて実施された。

- Carpenter, K. E. & V. H. Niem (eds.). 1999–2001. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vols. 4–6. FAO, Rome. 2069–4218 pp.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2010. スズメダイ科魚類 *Chromis analis* ヒマワリスズメダイ(新称)と *C. albicauda* コガネスズメダイの日本における記録と標準和名. 生物地理学会会報, 65: 57–64.
- Motomura, H., S. Dewa, K. Furuta & H. Senou. 2010. Description of *Pseudanthias rubrolineatus* (Serranidae: Anthiinae) collected from Take-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Biogeography, 12: 119–125.
- Motomura, H. & K. Matsuura (eds.). 2010. Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo. viii + 264 pp.
- 中坊徹次(編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 1–3巻. 東海大学出版会, 秦野市. xlix + 2428 pp.
- 西山 肇・出羽慎一・千葉 悟・本村浩之. 2012. 鹿児島県硫黄島から採集された日本初記録のスズメダイ科魚類ヒスイスズメダイ(新称) *Chromis earina*. 魚類学雑誌, 59: 61–67.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific. New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. University of Hawai'i Press, Honolulu. xii + 707 pp.

本村浩之

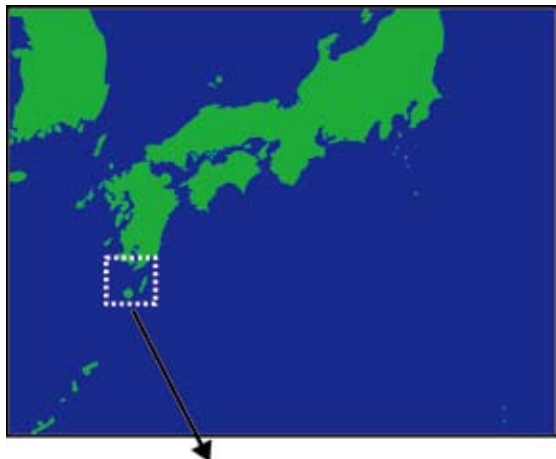
2013年3月18日

謝辞

硫黄島と竹島の魚類調査を実施するにあたり、多くの方のお世話になった。特に、三島村の日高郷士氏、大山辰夫氏、梶原一男氏、徳田和良氏、佐藤 浩氏、佐藤央隆氏、樋渡俊一氏、安永 孝氏、東宝水産（株）の東泊隆宏氏、新地哲也氏には調査に対し多大なご協力と便宜を頂いた。本書に使用されている水中写真は、硫黄島と竹島で長年スクーバダイビングをされている大井英俊氏、古宮 豊氏、新開恵利子氏、角野亜希子氏、園山暁子氏、中島賢友氏、松田裕一氏、松野和志氏、安留文子氏から提供して頂いた。表紙や島の写真は三島村役場の佐藤央隆氏のご厚意で使用させて頂いた。これらの方々に深くお礼申し上げる。硫黄島と竹島の魚類調査隊メンバーでありながら、執筆陣に加わらなかった松沼瑞樹氏、山下真弘氏、太田竜平氏、日ごろから標本収集にご協力下さっている高山真由美氏や西 大樹氏を始めとする鹿児島大学総合研究博物館のボランティアの方々に感謝する。

編者一同





鹿児島県三島村の硫黄島（三島村役場提供）



調査地（硫黄島、昭和硫黄島、竹島）



鹿児島県三島村の竹島（三島村役場提供）



硫黄島の漁港内から流出する鉄分を含んだ赤褐色の海水



鉄分を含んだ赤褐色の海水と透明度が高い外洋水の境界。調査は透明度が高い外洋で行った



噴煙を上げ続ける硫黄島



硫黄島で野生化するクジャク
(三島村役場提供)



硫黄島の東温泉（三島村役場提供）



ウナギ目 ウツボ科 アラシウツボ属

シマアラシウツボ*Echidna polyzona* (Richardson, 1845)

形態 脊椎骨 120–125。肛門における体高は全長の4–8%。背鰭起部は鰓孔前、肛門は体の中央かそれよりいくぶん前に位置する。後鼻孔は眼の前縁直上よりやや後方にあり、縁辺は総状を呈する。歯は臼歯で、鋤骨歯は洋梨状の幅広い歯体をなす。顎歯に性的二型があり、成熟した雄では、前上顎骨板歯は犬歯状になり、下顎はいくぶん湾曲する。

色彩 体に25–30本の暗褐色横帯がある。幼魚や若魚では横帯間は白く、横帯模様がよく目立つが、成長とともに褐色を帯びるようになり、尾部後方を除いて横帯模様は不明瞭となる。

分布 紅海を含むインド洋、東部太平洋を除く太平洋域に広く分布。本州南部の八丈島や高知県柏島、鹿児島県竹島、屋久島、琉球列島を経て台湾および南シナ海の島嶼部。

備考 サンゴ礁域の浅所に棲み、とくに礁湖の岩の間などでよくみかけられる。産卵時期は不明であるが、西表島周辺では秋に腹部の膨れた雌がみられる。全長60 cmに達する。

(波戸岡清峰)



シマアラシウツボ KAUM-I. 37767, 630.0 mm SL, Take-shima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

サンゴウツボ*Gymnothorax buroensis* (Bleeker, 1857)

形態 脊椎骨数はウツボ類としては少ないほうで112–114。背鰭起部は鰓孔より前、肛門は体の中央より少し前にある。肛門における体高はやや高く、全長の6–9%。歯は鋭い。顎の歯列は複数で、前上顎骨板の中央部の歯は3列、主上顎骨歯は2列、下顎歯は前方で2列。

色彩 体は暗褐色で、躯幹部に不明瞭な黒色点をもつ。口腔内は体と同様で暗褐色。尾端部は黄色（固定後は白色）。

分布 紅海を含むインド洋、太平洋全域に広く分布するが、ハワイ諸島では稀。鹿児島県硫黄島、沖縄諸島、宮古諸島、台湾。

備考 国内ではこれまで沖縄諸島以南から報告されていたが、今回の硫黄島産の標本は北限記録となる。全長30 cm前後の小型種で大きくても40 cmくらいまで。

(波戸岡清峰)



サンゴウツボ KAUM-I. 30565, 143.8 mm SL, Iou-jima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ミナミウツボ

Gymnothorax chilospilus Bleeker, 1864

形態 脊椎椎骨 124-136。背鰭起部は鰓孔より前、肛門は体の中央か、それより少し前にある。肛門における体高は全長の4-6%。歯は鋭い。顎歯は1列ないし2列で、前上顎骨板の中央部は1列。

色彩 褐色の地肌に不明瞭な暗褐色横帯をもつ。

分布 インド洋、東部太平洋を除く太平洋域に広く分布。本州南部の八丈島や高知県柏島、鹿児島県硫黄島、屋久島から沖縄諸島、台湾周辺。

備考 Böhlke & Randall (2000)によれば、本種の顎歯には性的二型がみられ、雌の主上顎骨は2列であるのに対し、雄は1列。

本州周辺に主に分布するウツボ *G. kidako* によく似ているが、本種の臀鰭にはウツボにみられるような明瞭な白色はなく、また、両顎の頭部側線管孔の周囲は白く縁どられる。

本種はサンゴ礁域の浅場でみられる。全長が30 cm 前後の小型種で、大きいても40 cm くらいまで。

(波戸岡清峰)



ミナミウツボ KAUM-I. 29405, 217.9 mm SL, Iou-jima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ヘリゴイシウツボ

Gymnothorax fimbriatus (Bennett, 1832)

形態 脊椎骨数 131-136。背鰭起部は鰓孔より前、肛門は体の中央より少し前にある。肛門における体高は全長の5-6%。吻は長く、むしろ尖る。歯は鋭い。顎歯は1列で、前上顎骨板の中央部も1列。若魚では、主上顎骨の前方内側には外側よりやや大きな歯の列があるが、成長に伴い消失する。下顎先端の数本は後方のものに比べて大きい。

色彩 淡褐色の地肌に、おおよそ眼径大の円形ないし背腹方向に延長した不規則な形の黒褐色の斑点が数縦列あり横帯状に並ぶ。背鰭や臀鰭にも同様の斑紋がある。腹面には斑紋はほとんどない。頭部にも黒褐色の斑点があるが体の斑紋と同大(写真)か多くの場合それよりむしろ小さい。頭部の斑紋は成長にともない小さくなる。垂直鰭の縁辺は白い。生時、頭部は黄色の粘液を被る。

分布 インド洋、ハワイ諸島やジョンストン島と東部太平洋を除く太平洋域に広く分布



ヘリゴイシウツボ KAUM-I. 37755, 304.5 mm SL, Take-shima

する。本州南部の八丈島や高知県柏島、小笠原諸島、鹿児島県竹島、屋久島、琉球列島を経て台湾および南シナ海の島嶼部。

備考 やや大型の種で、全長80 cm くらいになる。

(波戸岡清峰)



ウツボ KAUM-I. 37905, 448.5 mm SL, Showaiou-jima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ウツボ

Gymnothorax kidako (Temminck & Schlegel, 1847)

形態 脊椎骨数 136–143。背鰭起部は鰓孔より前、肛門は体の中央かそれより少し前にある。肛門における体高は全長の6–8%。歯は鋭い。顎歯は一列で、前上顎骨板の中央部は一列。

色彩 黄褐色の地肌に濃茶褐色の不規則な横帯を持つ。臀鰭基部は濃褐色で縁辺は明瞭な白色。

分布 朝鮮半島南部、台湾。国内では、山陰地方および茨城県以西の本州・四国・九州沿岸、小笠原諸島、鹿児島県硫黄島、屋久島から慶良間諸島（稀）。

備考 本種が極東アジア以外のハワイ諸島、オーストラリア、ソシエテ諸島に分布するという意見もあるが（Böhlke & Randall, 2000; Böhlke & McCosker, 2001）、これらの海域のものの斑紋は日本近海のものとは幾分異なり、その異同の検討が必要とされる。琉球列島を除く南日本の沿岸岩礁域の普通種。高知県や和歌山県では、生鮮魚はちり鍋の材料とされる。和歌山県の皮ごと細かく切り刻まれた揚げ物風佃煮は有名。やや大型の種で、全長80 cmくらいになる。

（波戸岡清峰）



ウツボ Iou-jima, 12 May 2010, K. Nakajima



ヒメウツボ KAUM-I. 29749, 222.7 mm SL, Iou-jima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ヒメウツボ

Gymnothorax melatremus Schultz, 1953

形態 脊椎骨数 132–149。背鰭起部は鰓孔より前、肛門は体中央よりやや前にある。肛門における体高は全長の4–6%。後鼻孔は眼の前縁より後方の背面にあり、孔の周囲は小さな突起状の皮弁で縁取られる。鰓孔は体のほぼ中央部にある。歯は臼歯とはいわいまでも、鈍い。前上顎骨板中央に1–2本の短くて鈍い歯がある。主上顎骨は2列で、内側のもは細く長い。下顎は、前端部2列、後方1列。前方の内側の歯はやや大きい。

色彩 生鮮時、体は赤みを帯びた薄い茶褐色で、細かな網目状斑紋がある。腹部はやや淡く、尾部後方は緑味を帯びた黄

色。海では全体が鮮やかな黄色にみえる。鰓孔や眼は黒く縁取られ、生鮮なものでは眼に背腹方向に横切る黒色帯がみられる。保存後は、体の黄色は退色するが、眼と鰓孔周囲の縁取りはよく残る。

分布 インド洋、東部太平洋を除く太平洋域に広く分布する。本州南部の八丈島や和歌山県串本町、小笠原諸島、鹿児島県硫黄島、屋久島、沖縄諸島を経て台湾周辺。

備考 ウツボ類における脊椎骨数の変異幅はおおむね全脊椎骨数の10個程度であるが、本種はかなり大きい（形態での記載は Böhlke & Randall, 2000 による）。ウツ

ボ類としては小型種で、大きくても全長は30 cm程度。岩礁域やサンゴ礁のやや深みで見られる。

(波戸岡清峰)



ヒメウツボ (固定標本) KAUM-I. 29749, 222.7 mm SL, Iou-jima



ワカウツボ KAUM-I. 31398, 472.0 mm SL, Take-shima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ワカウツボ

Gymnothorax meleagris (Shaw, 1795)

形態 脊椎骨数 119–130。背鰭起部は鰓孔より前、肛門は体の中央より前にある。肛門における体高は全長の5–8%。両顎はいくぶん湾曲し、歯は鋭い。顎歯列は複数で、前上顎骨板の中央部の歯は3列、主上顎骨歯は2列、下顎歯は前方で2列。

色彩 体色は非常に変異に富み、あざき色の地肌に、多くのぜん虫状、円状の黄白色点（生時）、黒色点をもつのが普通。中には黒色点がなく、黄白色のぜん虫状斑紋だけをもつもの、全体が白色のものもある。口腔内は体と同様の色彩。

分布 北西部を除くインド洋、東部太平洋を除く太平洋域に広く分布する。房総半島から高知県西部にかけての南日本、小笠

原諸島、鹿児島県竹島・硫黄島、琉球列島から台湾周辺。

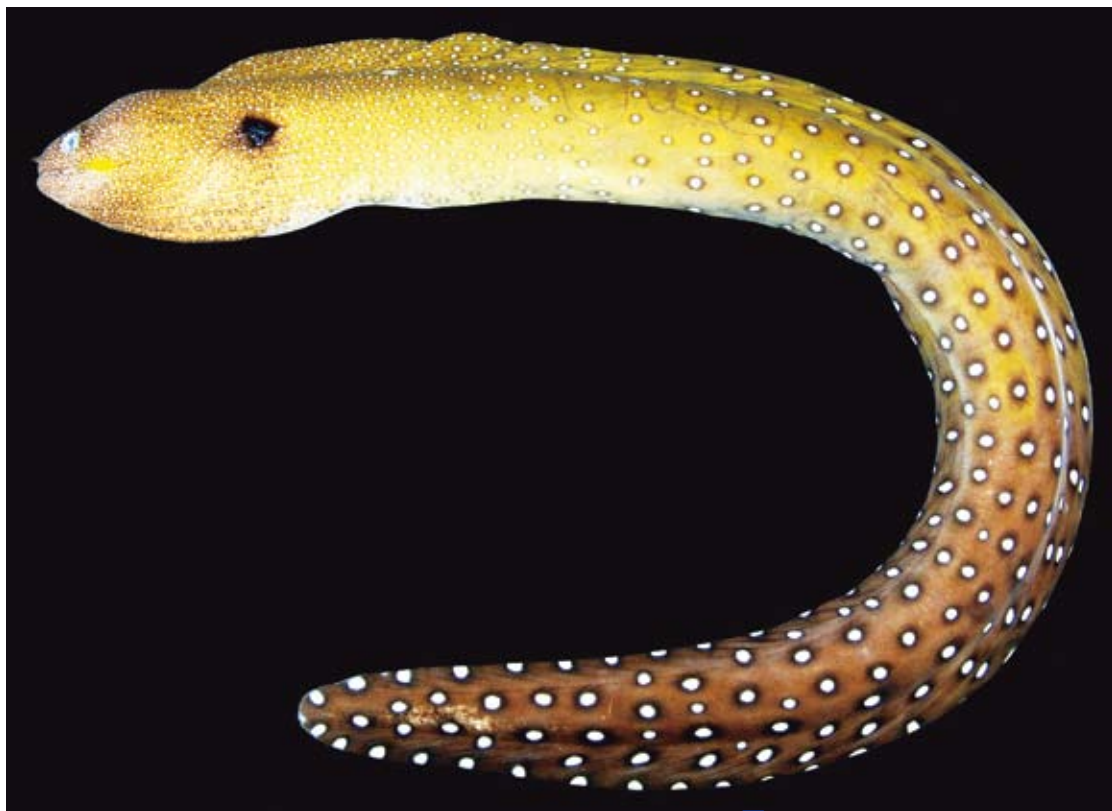
備考 南日本では極めて普通にみられ、沿岸の岩礁域やサンゴ礁域に生息する。海外の研究者（例えば、Böhlke & Randall, 2000）は、本種を *G. eurostus* (Abboott, 1861) と同定し、顎歯は同じであるが、体に白色小斑点をもち、口腔内が白いことで異なり、本邦でハナビラウツボとされているウツボ類を *G. meleagris* と同定しているが、前者は後者の新参異名である。なお、ハナビラウツボの学名は *Gymnothorax chlorostigma* (Kaup, 1856) である。全長60 cm くらいになる中型種。

(波戸岡清峰)



ワカウツボ KAUM-I. 29601, juvenile, 124.0 mm SL, Iou-jima

Other collected specimens: KAUM-I. 29509, 340.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29697, 400.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29698, 524.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30616, 256.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37604, 322.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37673, 516.5 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106075, 341.4 mm SL, Iou-jima.



アデウツボ KAUM-I. 30613, 394.0 mm SL, Iou-jima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

アデウツボ

Gymnothorax nudivomer (Günther, 1867)

形態 脊椎椎骨 135-136。背鰭起部は鰓孔より前、肛門は体の中央より少し前にある。肛門における体高は全長の5-6%。歯は鋭く、前後縁辺は鋸歯状。顎歯は1列で、前上顎骨板の中央部や鋤骨に歯はない。

色彩 体の前半部では淡黄褐色の地肌に微小小点が密に分布し、尾部では赤褐色の地肌にほぼ眼径大の卵型ないし楕円形の白色点が疎に分布する。口腔内は黄色。虹彩に黒点があり、鰓孔は黒く縁取られる。

分布 紅海を含むインド洋、東部太平洋を除く太平洋域に広く分布する。本州南部の八丈島や高知県柏島、鹿児島県硫黄島、屋久島、奄美諸島から沖縄諸島を経て南シナ海。

備考 タンパク質からなる魚毒性（一緒に容器に入れると他の魚が死ぬということ）、溶血性の皮膚毒をもつ。全長1 mくらいになる大型種で、やや深みに棲息する。

(波戸岡清峰)



アデウツボ KAUM-I. 29561, 481.0 mm SL, Iou-jima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

シノビウツボ

Gymnothorax phasmatodes (Smith, 1962)

形態 脊椎骨 160–174。肛門は体中央より僅か後方。顎歯は鋭く、一列。

色彩 体は乳白色。垂直鰭縁辺は白色。眼の虹彩は白色。

分布 和歌山県みなべ、四国南西部、先島諸島水納島、西インド洋、西太平洋。

備考 歯に性的二型がみられ、雄の上顎前方（前上顎骨板）中央に歯はないが、雌には顎歯よりやや大きな数本の歯がある。

（波戸岡清峰）



シノビウツボ lou-jima, 26 July 2010, E. Shinkai



サビウツボ KAUM-I. 31399, 640.0 mm SL, Take-shima

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

サビウツボ

Gymnothorax thyrsoideus (Richardson, 1845)

形態 脊椎骨数 123–138。背鰭起部は鰓孔より前、肛門は体中央より明らかに前にある。肛門における体高は全長の 3–5%。歯は臼歯とはいわいまでも、鈍い。前上顎骨板中央に 1–2 本の短くて鈍い歯がある。鋤骨歯は 2 列で前上顎骨板歯とほ

ぼ同大でやや大きく、鈍い。主上顎骨は 2 列で、内側のものは細く長い。下顎歯は中央より前方は 2 列で、内側の歯は大きく鈍い。

色彩 淡褐色の地肌にそれよりやや濃い小褐色斑点が密に分布する。頭部前半は一樣に体色より濃い褐色。虹彩は白色。

分布 モルディブ諸島、インド洋東部、東

部太平洋やハワイ諸島を除く太平洋域に広く分布する。三重県から高知県西部にかけての南日本、小笠原諸島、鹿児島県竹島、琉球列島から南シナ海。

備考 琉球列島を含む南日本のサンゴ礁域の浅場では至る所でみられる。中型種で全長 60 cm くらいになる。ホルマリン溶液で固定された標本の粘液は緑色になる。

（波戸岡清峰）

ウナギ目 アナゴ科 クロアナゴ属

クロアナゴ

Conger japonicus Bleeker, 1879

形態 胸鰭 15-16 軟条、肛門前側線孔数 35-39、脊椎骨数 142-145。背鰭起部は胸鰭の先端より後方にある。上唇、下唇には遊離縁がある。顎歯は前方を除いてほぼ 1 列。

色彩 体は黒褐色。背鰭と臀鰭はやや淡く、縁は黒褐色。

分布 青森県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸、八丈島、瀬戸内海、九州沿岸、京都府以西の日本海沿岸、鹿児島県竹島・硫黄島、屋久島、朝鮮半島南西岸、済州島、台湾、澎湖諸島。

備考 琉球列島を除く、南日本沿岸の浅海での普通種。稀に大陸棚の縁辺域でもみられる。琉球列島での普通種キリアナゴ *Conger cinereus* Rüppell, 1830 とは胸鰭の黒斑や生時の横帯の有無（本種にはない）、背鰭起部の位置（キリアナゴでは胸鰭先端より前）で区別できる。大型種で全長 1.4 m に達する。

（波戸岡清峰）

Other collected specimens: KAUM-I. 32316, 87.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37603, 256.7 mm SL, Iou-jima.



■ クロアナゴ KAUM-I. 30591, 160.0 mm SL, Iou-jima



■ クロアナゴ KAUM-I. 37740, 116.6 mm SL, Take-shima



■ チンアナゴ Take-shima, 8 July 2008, S. Dewa

ウナギ目 アナゴ科 チンアナゴ属

チンアナゴ

Heteroconger hassi (Klausewitz & Eibl-Eibesfeldt, 1959)

形態 胸鰭 11-12；肛門前側線孔数 62-71；脊椎骨 163-176。胸鰭は小さい。背鰭は低く、胸鰭のほぼ上方付より始まる。頭長は肛門前長の約 15%。吻は短い。口は非常に小さく、その後端は眼の前端あたりまで。上唇の左右の遊離縁（上方への折り返し）は顕著で、前方でつながり、前鼻孔、頭部感覚孔は遊離縁上に開く。歯は小さく、歯帯をなす。

色彩 体全体に明瞭な小斑点が密に分布する。鰓孔周辺、躯幹部前寄り、肛門周辺に大きな黒色斑がある。幼魚は黒っぽく、これらの黒色斑はあまり目立たない。虹彩は黄色。

分布 国内では、小笠原諸島、静岡県戸、高知県柏島、鹿児島県屋久島と硫黄島、琉球列島で普通に見られる。国外では、台湾南部、インド洋、ハワイ諸島を除くライン諸島までの太平洋の熱帯・温帯域に広く分布。

備考 本種を含めアナゴ科チンアナゴ亜科 Heterocongrinae のアナゴ類は、砂底に巢孔を掘って、集団をなしてすみ、孔から体を半分ほど出し、頭を横にして流れてくるプランクトンを眼で追いつながら食べる。巢孔は粘液で固められ、その形状に種間に違いが見られるということであるが本種は不明。全長 36 cm。

（波戸岡清峰）



カタクチイワシ KAUM-I. 37808, 77.9 mm SL, Iou-jima

ニシン目 カタクチイワシ科 カタクチイワシ属

カタクチイワシ

Engraulis japonicus Temminck & Schlegel, 1846

形態 背鰭 14–16；臀鰭 15–18。体は細長く、円筒形。腹部正中線に稜鱗がない。胸鰭は伸長しない。臀鰭基部は背鰭起部よりも後位。尾鰭は2叉形。胸鰭に遊離軟条はない。

色彩 体背面は黒色。体側から体腹面は一樣に銀色。背鰭および尾鰭の各軟条は黒色。胸鰭、腹鰭および臀鰭の各軟条は白色。



カタクチイワシ KAUM-I. 37813, 77.0 mm SL, Iou-jima

分布 日本全域の沿岸から朝鮮半島、中国、フィリピンに分布する。

備考 日本産の同科他種とは尾鰭が2叉

形であること、胸鰭に遊離軟条がないこと、腹鰭前方に稜鱗がないことで識別される。
(畑 晴陵)

Other collected specimen: NSMT-P 106132, 76.5 mm SL, Iou-jima.



キビナゴ KAUM-I. 29783, 28.4 mm SL, Take-shima

ニシン目 ニシン科 キビナゴ属

キビナゴ

Spratelloides gracilis (Temminck & Schlegel, 1846)

形態 背鰭 12–13；臀鰭 12–13；胸鰭 13–15；腹鰭 8；鰓耙数 10–12 + 34–37。体は細長く、円筒形。腹部正中線に稜鱗がない。前上顎骨は三角形。体側に1本の銀色帯を有する。眼径は吻長より短い。

色彩 体は乳白色の半透明。側中線に銀色縦帯があり、その上方に黒色縦帯が入る。

分布 南日本から東南アジアにかけての西太平洋、インド洋、紅海に広く分布する。

備考 同属のリウキュウキビナゴ *S. atrofasciatus* Schultz, 1943 とは眼径が吻長より短い (vs. 眼径は吻長より長い) こと、第1鰓弓の鰓耙数が 10–12 + 34–37 (vs. 7–9 + 20–24) であること、ミナミキビナゴ *S. delicatulus* (Bennet, 1832) とは体側に銀色縦帯を有する (vs. 体側に銀色縦帯を有さない) こと、第1鰓弓下枝上の鰓耙数が 34–37 である (vs. 27–30) ことで区別される。

(畑 晴陵)



キビナゴ Iou-jima, 13 July 2009, Y. Komiya



ゴンズイ KAUM-I. 29580, 99.5 mm SL, Iou-jima

ナマズ目 ゴンズイ科 ゴンズイ属

ゴンズイ

Plotosus japonicus Yoshino & Kishimoto, 2008

形態 背鰭 I, 4 + 70-95; 臀鰭 58-75; 尾鰭 10-11; 胸鰭 I, 10-12; 腹鰭 10-13; 鰓条骨 10-12; 鰓耙数 5-7 + 16-20 = 21-27; 総脊椎骨数 48-53。体は細長く、頭は扁平し幅広い。吻と下顎にそれぞれ2対の長いひげを備える。尾鰭の背側起部は腹鰭基部中央部直上より後方、かつ臀鰭起部直上よりわずかに前方より始まる。泌尿生殖孔から突出している樹状突起は顕著である。背鰭と胸鰭の第1鰭条は棘状を呈し、基部に毒腺を有する。

色彩 体は濃茶色で、吻端から尾鰭にかけて2本の黄色縦帯が走る。体前方の腹面は白色。鰭は全て黄色がかかった透明。髭は薄い茶色。泌尿生殖孔から突出している樹状突起は黄色みを帯びた茶色。

分布 現在のところ日本沿岸にのみ分布することが知られている。東北地方以南から琉球列島にかけて広く分布しているが、八重山諸島での出現は稀とされている。

備考 Yoshino & Kishimoto (2008) は、日本周辺のゴンズイ属魚類に2種の存在を認め、一方は従来通り *Plotosus lineatus* に同定し新標準和名ミナミゴンズイを与え、もう一方を *Plotosus japonicus* として新種記載した。そして *P. japonicus* の標準和名に常用されてきたゴンズイを適用した。ゴンズイは鰓耙数が 5-7 + 16-20 = 21-27 (vs. ミナミゴンズイでは 6-8 + 19-23 = 25-31)、垂直鰭の鰭条数 70-95 (vs. 89-111)、総脊椎骨数 48-53 (vs. 52-58) などの特徴からミナミゴンズイと区別される。

(西山 肇)

Other collected specimens: KAUM-I. 29579, 103.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30042, 105.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30044, 94.6 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106946, 15.3 mm SL, Iou-jima.

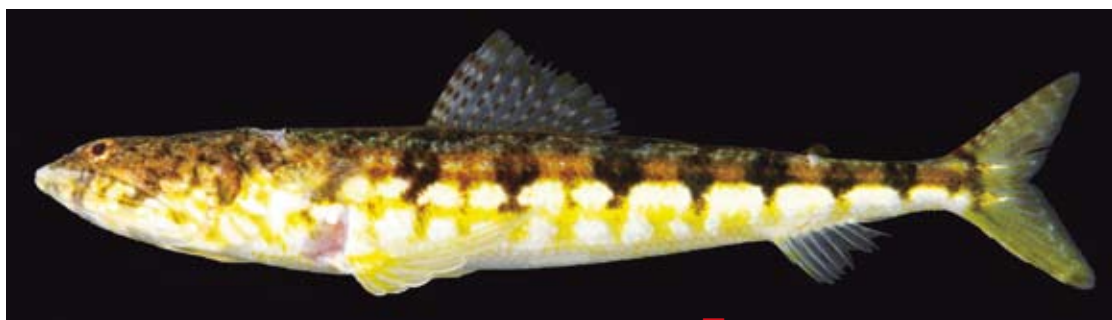


ゴンズイ Iou-jima, 26 July 2010, E. Shinkai



ゴンズイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

Synodontidae



ミナミアカエソ KAUM-I. 37722, 143.2 mm SL, Take-shima

ヒメ目 エソ科 アカエソ属

ミナミアカエソ

Synodus dermatogenys Fowler, 1912

形態 背鰭 10-13; 臀鰭 8-10; 胸鰭 11-13; 側線有孔鱗数 56-64; 側線上方鱗数

は 5 1/2。口蓋骨歯に1歯帯があり、先端付近のみが他のものより長い。前鼻孔の皮弁は細い。

色彩 体色は変異に富む。体側正中線に沿って8-9個の黒色や赤色などの有色斑紋が並ぶ。

分布 紅海を含むインド洋から西太平洋に分布す。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南に生息する。

備考 浅海の岩礁域や砂地に生息する。(西山 肇)

Other collected specimens: KAUM-I. 37635, 190.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37642, 166.2 mm SL, Iou-jima.



■ ミナミアカエソ KAUM-I. 37783, 213.4 mm SL, Take-shima



■ アカエソ KAUM-I. 29568, 40.0 mm SL, Take-shima

ヒメ目エソ科アカエソ属

アカエソ

Synodus ulae Schultz, 1953

形態 背鰭 13-14；臀鰭 8-11；胸鰭 12-14；側線有孔鱗数 60-66；側線上方鱗数は 5 1/2。口蓋骨歯に 1 歯帯があり、先端

付近のみが他のものより長い。前鼻孔の皮弁は幅広く、へら状。

色彩 体は暗褐色。体側中央部に 8-9 個の濃赤色の斑紋が並ぶ。胸鰭を除いた各鰭の鰭条には、赤褐色斑が並ぶ。

分布 西太平洋とハワイ諸島に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県

以南に分布する。

備考 同属のミナミアカエソ *Synodus dematogenys* Fowler, 1912 とは背鰭軟条数 13-14 (ミナミアカエソは 10-13)、側線鱗数 60-66 (56-64)、前鼻孔の皮弁は幅広くへら状 (細い) などの特徴により識別される。

(西山 肇)

Ophidiidae

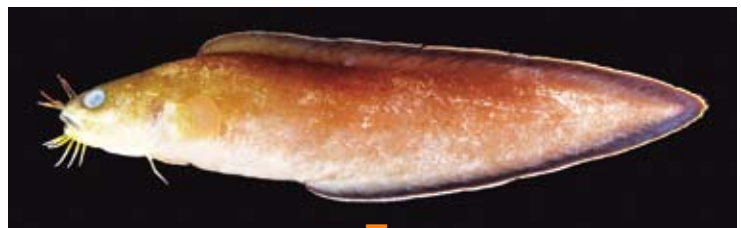
アシロ目アシロ科イタチウオ属

イタチウオ

Brotula multibarbata Temminck & Schlegel, 1846

形態 背鰭 109-139；臀鰭 80-106；胸鰭 20-26；腹鰭 2；尾鰭 10。体は円筒状で尾柄は側扁し、体表は細かい円鱗で覆われる。吻部と下顎にそれぞれ 3 対のひげがある。背鰭と臀鰭の後端は尾鰭と繋がり、尾鰭の先端は尖る。腹鰭は 2 本の軟条からなり、先端で遊離する。

色彩 体は褐色で、頭部下部と腹部は白色。連続する背鰭、臀鰭および尾鰭は暗褐色で縁辺は白色。吻部のひげは暗赤褐色、下顎のひげは黄色で生時はより鮮明。



■ イタチウオ KAUM-I. 31652, 133.8 mm TL, Iou-jima

分布 インド・西部太平洋の沿岸に広く分布する。国内では新潟県以南の日本海、千葉県以南の太平洋沿岸に生息する。

備考 本種は吻部に 3 対のひげをもつことで、同属他種と容易に識別される。体長

60 cm に達する大型種で、市場に出回る頻度は少ないが食用にされる。アシロ科魚類はそのほとんどが深海性であるが、本種は浅海の岩礁域に生息し、稀に潮だまりで見られる。

(田代郷国)

アンコウ目 カエルアンコウ科 カエルアンコウ属

オオモンカエルアンコウ

Antennarius commerson (Latreille, 1804)

形態 背鰭 I+I, 11-13; 臀鰭 8; 胸鰭 10-11; 腹鰭 I, 5。体高は高く、やや側扁する。吻上棘先端に皮弁がある。吻上棘は背鰭第2棘に比べ長い。吻上棘基底は上顎縫合部より後方にある。背鰭第2棘は後方の被膜により頭部と連結する。

色彩 体色は赤色、や黄色など変異に富むが、硫黄島で撮影された本種の体全体は橙色。眼の周囲には放射状に伸びる3本の淡黄色線がはしる。胸鰭基部の上方および背鰭鰭膜には濃橙斑を有する。

分布 本種は紅海やハワイ諸島を含むインド・太平洋域、東太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南に分布する。

備考 本種はクマドリカエルアンコウ *A. maculatus* (Desjardins, 1840)、*A. multiocellatus* (Valenciennes, 1837)、*A. pardalis* (Valenciennes, 1837)、およびイロカエルアンコウ *A. pictus* (Shaw, 1794) らとともに *A. pictus* 類似種群を構成する (Pietsch & Grobecker, 1987)。オオモンカエルアンコウは背鰭第2棘の鰭膜部分が



オオモンカエルアンコウ lou-jima, 11 Oct. 2010, E. Shinkai

小さい、臀鰭軟条数が8、胸鰭軟条数が11、および背鰭軟条数が13であることから上記4種と区別可能である。

日本産カエルアンコウ科魚類の中ではひじょうに大型になる種で最大体長は29

cmに達する。ほかに20cmを越える種はソウシカエルアンコウ *Fowlerichthys scriptissimus* (Jordan, 1902) のみ。

(吉田朋弘)

アンコウ目 カエルアンコウ科 カエルアンコウ属

ベニカエルアンコウ

Antennarius nummifer (Cuvier, 1817)

形態 背鰭 I+I, 12-13; 臀鰭 7-8; 胸鰭 9-12; 腹鰭 I, 5。体高は高く、やや側扁する。吻上棘先端に明瞭な皮弁がある。吻上棘は背鰭第2棘とほぼ同じ長さか、やや短い。吻上棘基底は上顎縫合部より後方にある。背鰭第2棘は後方の被膜を欠き、頭部から独立する。背鰭基底の眼状斑は明瞭。

色彩 体色は黄色や赤色など変異に富むが、硫黄島で採集された個体における体色は以下の通りである。体側は橙色であるが、腹部は黄色を呈する。各鰭は黄色。背鰭鰭膜中央に4つの赤色斑がある。背鰭基底に褐色の明瞭な眼状斑がある。

分布 本種はインド・太平洋域、東太平洋の温帯域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、館山湾以南に分布する。

備考 本種は背鰭第2棘が後方の皮膜を欠き頭部から独立すること、吻上棘が背鰭第2棘と同じ長さかやや短いこと、背鰭基底の眼状斑は明瞭であること、胸鰭軟条数が10-11であることにより、日本産同属他種と区別可能である。



ベニカエルアンコウ KAUM-I. 30567, 43.5 mm SL, lou-jima

本調査では硫黄島の水深30m以浅の岩礁域から採集された。

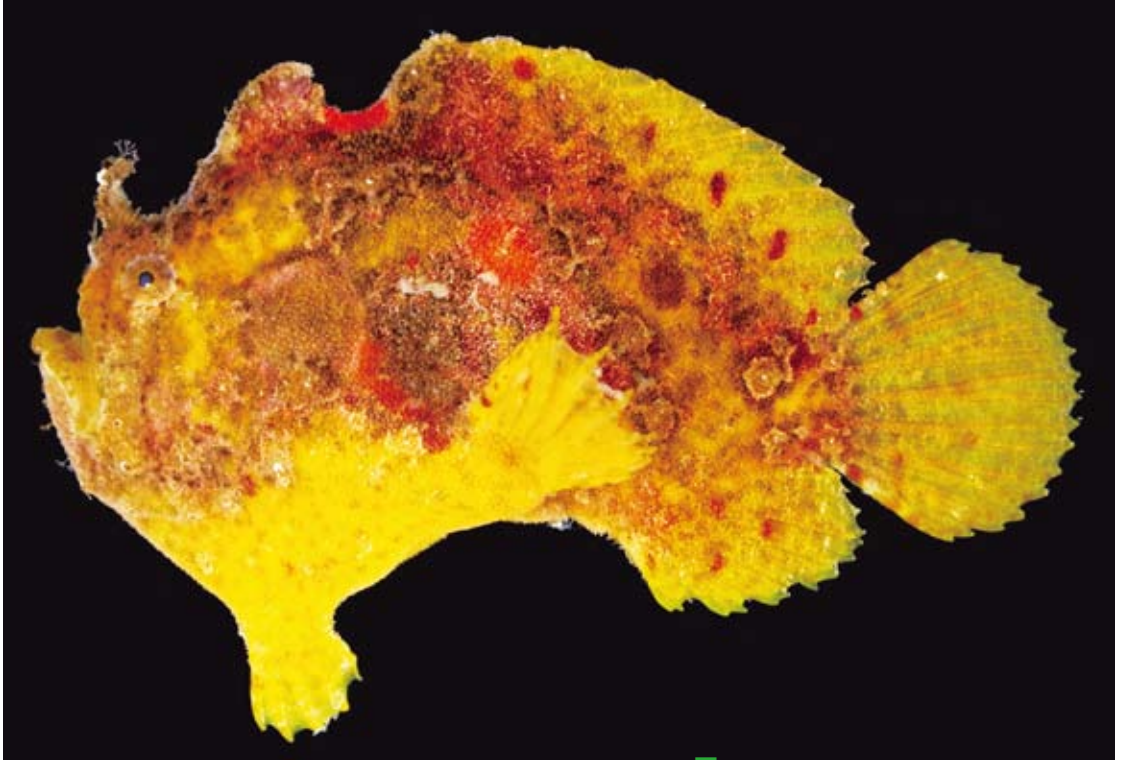
吻上棘先端の皮弁はエスカと呼ばれ、疑似餌のように前後に動かして小魚をはじめとする餌を誘い、捕食する。本科魚類はあまり動かずにじっとしていることが多いが、意外と動きは俊敏である。本科魚類に含まれるカエルアンコウモドキ *Antennarius*

rosaceus (Cuvier, 1817) など一部の種はエスカをもたない。

2007年に日本魚類学会により本科の改名が行われ、英名の Frogfish にちなみ日本ではカエルアンコウ科と呼ばれるようになった。

(吉田朋弘)

Other collected specimen: KAUM-I. 29519, 19.2 mm SL, lou-jima.



ベニカエルアンコウ KAUM-I. 32324, 41.6 mm SL, Iou-jima

アンコウ目 カエルアンコウ科 ハナオコゼ属

ハナオコゼ

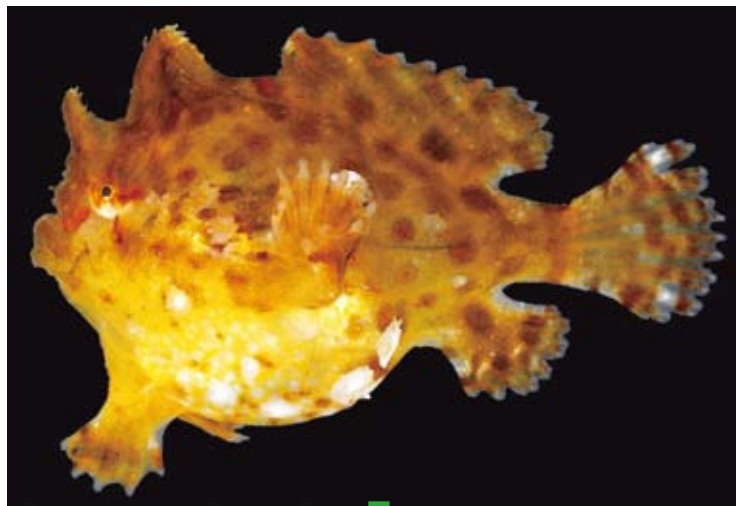
Histrio histrio (Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 I+I+I, 11-13; 臀鰭 6-8; 胸鰭 9-11; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝軟条数 7。体高は高く、やや側扁する。体表はなめらか。吻上棘は背鰭第 2 棘より短い。腹鰭は大きく、標準体長の 25% に達する。体の各部位および各鰭に皮弁を有する。背鰭最後軟条の切込みが深く、尾柄は第二背鰭棘長と同等の長さである。

色彩 体側は褐色を呈し、腹部は黄色みを帯びる。各鰭を含む体全体に黒褐色斑が散在し、腹部には白色斑がやや密に散在する。眼の周囲には赤褐色線が放射線状にはしる。腹鰭は黄色みを帯び、腹鰭を除く各鰭は褐色を呈する。各鰭の縁辺は白色を呈する。

分布 本種は中太平洋と東太平洋をのぞく世界中の温帯・熱帯域に広く分布する。国内では日本各地に分布する。

備考 本種は世界で 1 属 1 種であり、体側や吻端から吻上棘の間にある皮弁により他属他種と区別することが可能である。最大



ハナオコゼ KAUM-I. 37799, 19.0 mm SL, Iou-jima

体長は 14 cm にも達する。

本科魚類の多くは岩礁などの海底で生活するが、本種はホンダワラなどの流れ藻やブイといった浮遊物に付いていることが多い。実際に本調査においても硫黄島西側に浮遊していた流れ藻から採集された。

また本科魚類は口を大きく開けることが可

能で、体長とほぼ同じ大きさの魚やカニなどの動物も問題なく捕食することができる。

食用にされることはなく、ユニークな形態や生態から観賞魚として人気が高い。

(吉田朋弘)



コボラ KAUM-I. 37842, 28.3 mm SL, Iou-jima

ボラ目 ボラ科 メナダ属

コボラ

Chelon macrolepis (Smith, 1846)

形態 背鰭 IV, 8-9; 臀鰭 III, 8-10; 胸鰭 15-18; 縦列鱗数 30-34; 幽門垂数 4-5。尾鰭は深く湾入する。脂脰は未発達で、眼の後方に膜状に広がるのみ。上唇下部はなめらか。主上顎骨後端は口角部のはるか後方に達する。背中線は隆起縁を形成しない。体側中央の鱗は弱い櫛鱗。

色彩 体背面は黒色。体側および体腹面は一樣に銀色。胸鰭は透明。胸鰭基部に金色の横帯がある。

分布 インド・太平洋域に広く分布し、国内では千葉県以南に生息する。

備考 同属のヒルギメナダ *C. melinopterus* (Valenciennes, 1836) とは縦列鱗数が 30-34 (ヒルギメナダでは 26-29) であること、胸鰭基部に金色の横帯がある(胸鰭基部は一樣に銀色) ことで、アンピンボラ *C. subviridis* (Valenciennes, 1836) とは脂脰が未発達で眼の後方に膜状に広がるのみである(後者では脂脰がよく発達し、虹彩も被う) ことで、メナダ *C. haematocheilus* (Temminck & Schlegel, 1845) とは列鱗数が 30-34 (後者では 36-43) であること、頭部は円筒形に近い(縦扁する) ことで、セスジボラ *C. affinis* (Günther, 1861) とは背中線が隆起縁を形成しない(後者では

隆起縁を形成する) ことで識別される。(畑 晴陵)

Other collected specimens: KAUM-I. 37702, 28.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37843, 19.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37844, 26.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37845, 28.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37886, 23.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41015, 26.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41016, 26.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41017, 26.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41018, 26.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41019, 27.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41020, 23.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41021, 25.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41022, 22.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41023, 24.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41024, 25.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41025, 26.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41026, 26.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41027, 22.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41028, 26.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 41029, 24.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106144, 26.7 mm SL, Iou-jima.

Atherinidae



ムギイワシ KAUM-I. 37719, 43.9 mm SL, Take-shima

トウゴロウイワシ目 トウゴロウイワシ科 ムギイワシ属

ムギイワシ

Atherion elymus Jordan & Starks, 1901

形態 背鰭 III-V + I, 8-11; 臀鰭 I, 15-16; 縦列鱗数 35-44。体は円筒形で尾部

はやや側扁する。尾鰭は二分する。頭部に小棘列がある。

色彩 体背面は茶褐色。体側は銀色で、側中線上に青色縦帯が入る。体腹面は一樣に銀色。

分布 西太平洋域に分布する。国内では南日本に分布する。

備考 日本産の同科他種とは、頭部に小棘列があること、縦列鱗数が 35-44 であること、眼窩上縁や眼隔域が骨質であること、などから識別される。(畑 晴陵)



オキザヨリ lou-jima, 8 Oct. 2011, K. Furuta

ダツ目 ダツ科 テンジクダツ属

オキザヨリ

Tylosurus crocodilus crocodilus (Péron & Lesueur, 1821)

形態 背鰭 21–24；臀鰭 19–22；胸鰭 14–15；腹鰭 6；背鰭前方鱗数 310–360。体は細長い円筒形。両顎は長く伸長する。背鰭は体の後方に位置し、臀鰭とほぼ対在する。各鰭は棘をもたない。尾柄部は側扁し、側面に隆起線をもつ。第一鰓弓に鰓耙がない。歯は鋭く、大型個体の上顎後方の犬歯は湾曲し、前方を向く。

色彩 背部は暗青色、体側及び腹部は銀白色。生時、前鰓蓋骨前部に暗青色の横帯が入るが、死後は不明瞭になる。

分布 紅海、ハワイ諸島を含む世界中の熱帯から温帯域かけて分布するが、東太平洋には生息しない。国内では津軽海峡以南の日本海沿岸、三陸以南の太平洋沿岸

に分布する。

備考 本種はひじょうに大型になり、全長 1.3 m 以上に成長する。同属のテンジクダツ *Tylosurus acus* (Bleeker, 1851) とよく似るが、背鰭軟条数が 21–24 (テンジクダツでは 24–27)、前鰓蓋骨前部に暗青色の横帯が入る(生時)ことなどから識別される。沿岸の表層を遊泳し、釣りで魚の引きを楽しむゲームフィッシュとしても知られている。

(田代郷国)

Monocentridae

キンメダイ目 マツカサウオ科 マツカサウオ属

マツカサウオ

Monocentris japonica (Houttuyn, 1782)

形態 背鰭 V–VII, 10–12；臀鰭 9–11；胸鰭 13–15；側線鱗 13–16。体は側扁し、体高が高い。頭部は発達した骨板と皮膚で覆われ、吻は丸い。尾柄を除く体側は棘のある大きな厚い鱗で覆われるため、左右に振り動かせるのは背鰭軟条より後方の部分のみ。背鰭は 2 基。背鰭棘は鰭膜がなく強大。特に第 2, 3 棘が顕著で、互いに交差するように開く。腹鰭はきわめて強大な 1 棘があり、水平に大きく開くと一定の角度でロックする。臀鰭は棘がなく軟条のみ。

色彩 体は淡黄色で、黒色の網目模様がある。本標本は幼魚で、体色は濃い黄色。成長するほど黄色味が薄くなる。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では南日本に広く分布する。



マツカサウオ KAUM-I. 29733, 20.7 mm SL, lou-jima

備考 硬くて大きな鱗の形状が松かさのように見えることが和名の由来。夜行性で昼間は岩礁の割れ目などに潜み、水深 150 m 以浅に生息する。下顎前端に発光バクテリ

アによる発光器が 1 対あり、暗闇で弱い光を放つ。本種は鰾に付着する発音筋を使って音を発することが確認されている。

(原口百合子)



アカマツカサ KAUM-I. 31708, 150.0 mm SL, Iou-jima

キンメダイ目 イットウダイ科 アカマツカサ属

アカマツカサ

Myripristis berndti Jordan & Evermann, 1903

形態 背鰭 X-I, 13-15; 臀鰭 IV, 11-14; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗数 28-30; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 12-14 + 24-27 =

36-44。頬部鱗列数 4; 背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は完全に分離する。胸鰭腋部に小鱗がある。下顎の歯塊は 1 対。下顎は上顎よりかなり前に出る。

色彩 体は赤色で、腹面側に行くにつれ色合いは薄くなる。鰓蓋膜上部から胸鰭基部にかけて黒色域がある。背鰭棘条部上方は赤黄色で、下方は白色。

分布 インド洋・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、相模湾、和歌山県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 近似種のナミマツカサ *M. kochiensis* Randall & Yamakawa, 1996 とは下顎が上顎よりかなり前出する（ナミマツカサはわずかに前出）、総鰓耙数が 36-44（32-36）などの特徴により識別される。

（西山 肇）



ウロコマツカサ KAUM-I. 29797, 180.5 mm SL, Take-shima



ウロコマツカサ Take-shima, 7 July 2009, Y. Komiya



ウロコマツカサ Iou-jima, 10 Aug. 2011, K. Furuta

キンメダイ目 イットウダイ科 アカマツカサ属

ウロコマツカサ

Myripristis botche Cuvier, 1829

形態 背鰭 X-1, 13-14; 臀鰭 IV, 12-13; 胸鰭 14-15; 側線有孔鱗数 27-29; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 11-14 + 22-25 = 34-39; 頬部鱗列数 4。体はやや側扁する。前鰓蓋骨隅角部に棘がない。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は完全に分離する。鱗の表面はなめらか。胸鰭腋部に小鱗がない。下顎の歯塊は 2 対。下顎は上顎とほぼ等長。

色彩 生時、頭部前方は赤色で前鰓蓋と主鰓蓋は銀白色。体側上方鱗の後縁は暗赤色で縁取られる。主鰓蓋上部から鰓蓋

膜上を通り胸鰭基部にかけて暗赤色横帯が走る。鰓蓋膜は黒色。背鰭、臀鰭、尾鰭は一律に赤色。胸鰭と腹鰭は白味がかかった透明。背鰭と臀鰭の軟条部および尾鰭両葉の先端部には黒色域がある。死後、体全体の赤味が増す。

分布 紅海を含むインド洋・西太平洋に分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾、高知県以南の太平洋沿岸、琉球列島から知られている。ダイバーが撮った水中写真から、三重県や和歌山県沿岸にも生息していると考えられる。

備考 近似種のツマリマツカサ *M. greenfieldi* Randall & Yamakawa, 1996 とは、歯塊は 2 対（ツマリマツカサでは 1 対）、生時の背鰭膜は全体が赤黄色（背鰭膜は上縁が赤色）などの特徴から識別される。



ウロコマツカサ Take-shima, 9 July 2009, S. Dewa

本種は水深 15 m 以深の転石域や岩礁域に群れで遊泳している。本調査では、竹島西岸の水深 15 m 付近から 1 個体が採集された。本種は体長が 30 cm 近くまで大きくなることが知られており、アカマツカサ属の中では大型種である。

(西山 肇)



ナミマツカサ KAUM-I. 29545, 82.4 mm SL, Iou-jima



ナミマツカサ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

キンメダイ目 イットウダイ科 アカマツカサ属

ナミマツカサ

Myripristis kochiensis Randall & Yamakawa, 1996

形態 背鰭 X-I, 14; 臀鰭 IV, 12; 胸鰭 15; 側線有孔鱗数 28-29; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 11-12 + 21-24 = 32-36; 頬部鱗列数 4。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は完全に分離する。胸鰭腋部に小鱗が

ある。下顎の歯塊は 1 対。下顎は上顎よりわずかに前出する。

色彩 体は一樣に赤色。鰓蓋膜上部から胸鰭基部にかけて黒色域がある。

分布 伊豆諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、鹿児島県の硫黄島、竹島、奄美大島に分布する。

備考 本州から四国にかけての太平洋沿岸

で採集されるアカマツカサ属の多くは、本種である。

(西山 肇)

Other collected specimens: KAUM-I. 29496, 131.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29497, 132.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29498, 134.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30564, 44.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31709, 104.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31710, 120.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31711, 140.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31712, 89.7 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106963, 137.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106964, 139.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106965, 114.0 mm SL, Iou-jima.



クロオビマツカサ KAUM-I. 29671, 140.8 mm SL, Take-shima

キンメダイ目イトトウダイ科アカマツカサ属

クロオビマツカサ

Myripristis kuntzei Valenciennes, 1831

形態 背鰭 X-I, 15-17; 臀鰭 IV, 14-16; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗数 38-43; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 12-15 + 22-26 =

35-41; 頬部鱗列数 4。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は完全に分離する。胸鰭腋部に小鱗がない。下顎の歯塊は 1 対。下顎は上顎とほぼ等長。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 同属他種と比べ体側鱗が小さく、側線有孔鱗数が多い。

(西山 肇)

Other collected specimen: KAUM-I. 29670, 112.2 mm SL, Take-shima.

キンメダイ目イトトウダイ科アカマツカサ属

ベニマツカサ

Myripristis vittata Valenciennes, 1831

形態 背鰭 X-I, 14-15; 臀鰭 IV, 12-13; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗数 35-38; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 11-14 + 22-25 = 34-39; 頬部鱗列数 4。体はやや側扁する。前鰓蓋骨隅角部に棘がない。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は完全に分離する。鱗の表面はなめらか。胸鰭腋部に小鱗がない。下顎の歯塊は 1 対。下顎は上顎とほぼ等長。

色彩 体は一樣に赤色。瞳孔の上方に黒色域がある。鰓蓋膜は濃赤色。背鰭棘条部の先端は白色で、他は赤色。背鰭軟条部、胸鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭は赤色。

分布 インド洋・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、高知県以南の太平洋沿岸、琉球列島から知られている。ダイバーが撮った水中写真から、



ベニマツカサ KAUM-I. 37925, 148.4 mm SL, Iou-jima

和歌山県沿岸での生息も確認されている。

備考 体は一樣に赤く、鰓蓋部に暗色域がないことから、他のアカマツカサ属と区別で

きる。上記の分布域以外にも、本調査では、硫黄島南岸の水深 10-30 m から 1 個体が採集された。

(西山 肇)



ホホベニイトウダイ KAUM-I. 37629, 155.7 mm SL, lou-jima

キンメダイ目 イットウダイ科 ウケグチイトウダイ属

ホホベニイトウダイ

Neoniphon aurolineatus (Liénard, 1839)

形態 背鰭 X-I, 12-13 ; 臀鰭 IV, 8-9 ; 胸鰭 14 ; 側線有孔鱗数 44-56 ; 側線上方鱗数 3 1/2 ; 鰓耙数 5-6 + 10-11 = 16-17 ; 頬部鱗列数 4 ; 体は側扁する。吻部はやや尖る。前鰓蓋骨隅角部に強く長い 1 棘がある。背鰭棘状部の最終棘は後ろから 2 番目の棘より短く、第 1 軟条にかなり接近する。鼻骨後部と後鼻孔縁辺には小棘がない。

色彩 頭部と尾柄部は薄い赤色で、体側には 11-12 本の細い黄色縦帯が走る。頭頂部から主鰓蓋上にかけて瞳孔大の赤色横帯がかかる。前鰓蓋後縁は白色。吻端から眼窩下を通り主鰓蓋下部にかけて銀白色帯が伸びる。背鰭棘条部は赤色。背鰭軟条部、胸鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭の鰭条は薄い赤色で、鰭膜は赤色がかった透明。死後、体全体は赤味を増す。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、紀伊半島以南の太平洋沿岸に分布する。

備考 本種は和歌山県白浜と沖繩島から得られた 3 標本に基づき、益田ほか (1975) によって日本初記録種として報告された。ウケグチイトウダイ属魚類は日本から 4 種が報告され、本種他にホソエビス *Neoniphon argenteus* (Valenciennes,



ホホベニイトウダイ lou-jima, 13 May 2010, K. Nakajima

1831)、ヒレグロイトウダイ *N. opercularis* (Valenciennes, 1831)、ウケグチイトウダイ *N. samara* (Forsskal, 1775) がいる。本種は背鰭棘状部の最終棘は後ろから 2

目の棘より短い (他 3 種は、2 番目の棘より長い) ことから、他の 3 種と容易に識別される。

(西山 肇)



■ クラカケエビス KAUM-I. 31707, 150.4 mm SL, Iou-jima

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

クラカケエビス

Sargocentron caudimaculatum (Rüppell, 1838)

形態 背鰭 XI, 13-15; 臀鰭 IV, 8-9; 胸鰭 13-15; 側線有孔鱗数 38-43; 鰓耙数 5-8 + 11-13 = 16-21。後鼻孔の縁辺に1本の小棘がある。

分布 紅海を含むインド洋・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、高知県柏島、屋久島、硫黄島、琉球列島に分布する。

備考 本種の最大体長は 25.3 cm。
(西山 肇)

色彩 体は一様に赤色。尾柄上部前方に白色斑（死後消失）がある。



■ ニジエビス KAUM-I. 29618, 137.0 mm SL, Iou-jima

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

ニジエビス

Sargocentron diadema (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XI, 12-14; 臀鰭 IV, 8-10; 胸鰭 13-15; 側線有孔鱗数 44-50; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 4-6 + 12-15 = 16-21; 頬部鱗列数 5-6。前鰓蓋骨隅角部に強くて長い 1 棘がある。背鰭棘状部の最終棘は後ろから 2 番目の棘と第 1 軟条との中間、もしくはその付近にある。鼻骨後部と後鼻孔縁辺には小棘がない。

色彩 体は赤色で、体側に 9-10 本の細い白色縦帯がある。前鰓蓋後縁は白い。吻端から眼窩下を通り主鰓蓋下部にかけて白色帯が走る。背鰭棘条部は暗赤色で、先端は透明。背鰭前端からのびる白色縦帯は途中で途切れる。

分布 紅海を含むインド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆半島以



■ ニジエビス KAUM-I. 37798, 139.3 mm SL, Iou-jima

南の太平洋沿岸、琉球列島から知られている。

備考 夜行性で、浅海の転石域や岩礁域に生息する。

Other collected specimens: KAUM-I. 29619, 133.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29620, 150.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 34003, 140.7 mm SL, Iou-jima.

(西山 肇)



■ テリエビス KAUM-I. 31683, 135.0 mm SL, Iou-jima

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

テリエビス

Sargocentron ittodai (Jordan & Fowler, 1902)

形態 背鰭 XI, 12-14; 臀鰭 IV, 8-10; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗数 44-49; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 4-6 + 12-14 = 17-20; 頬部鱗列数 5。前鰓蓋骨隅角部

に強くて長い 1 棘がある。鼻骨後部と後鼻孔縁辺には小棘がない。

色彩 体は赤色で、体側には複数本の瞳孔大赤色縦帯が走る。背鰭棘条部は濃赤色で、各鰭膜に不定形の白色斑が連続して並び、弧状の白色帯を形成する。

分布 紅海を含むインド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、

千葉県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 近似種のニジエビス *S. diadema* (Lacepède, 1802) とは、背鰭の白色縦帯が連続する (ニジエビスは途切れる) ことから識別される。(西山 肇)

Other collected specimens: NSMT-P 106966, 122.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106967, 141.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106968, 130.0 mm SL, Iou-jima.



スミツキカノコ KAUM-I. 37926, 182.4 mm SL, Iou-jima

キンメダイ目 イトトウダイ科 イトトウダイ属

スミツキカノコ

Sargocentron melanospilos (Bleeker, 1858)

形態 背鰭 XI, 12-14; 臀鰭 IV, 8-10; 胸鰭 13-14; 側線有孔鱗数 32-36; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 4-7 + 10-12 =

14-19; 頬部鱗列数 5。後鼻孔の縁辺に 1-4 本の小棘がある。上顎は下顎より前出する。

色彩 体はオレンジがかった赤色。背鰭軟条部基部、臀鰭基部後方および尾鰭基底中央付近にそれぞれ黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内

では伊豆諸島、小笠原諸島、高知県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 硫黄島と竹島では、水深 10-30 m の岩礁域と漁港内での釣りによって採集された。

(西山 肇)

Other collected specimen: KAUM-I. 30573, 184.8 mm SL, Take-shima.



クロオビエビス KAUM-I. 37909, 184.5 mm SL, Iou-jima

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

クロオビエビス

Sargocentron praslin (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XI, 12-13; 臀鰭 IV, 8-9; 胸鰭 13-16; 側線有孔鱗数 33-36; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 6-8 + 10-12 = 16-20; 頬部鱗列数 4。前鰓蓋骨隅角部

に強く長い 1 棘がある。鼻骨後部と後鼻孔縁には小棘がない。涙骨上縁に水平に突出する 1 小棘がある。

色彩 体は赤褐色。体側背面に 4-5 本の暗赤色縦帯が走る。背鰭棘条部は赤色で、各鰭膜に白色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では高知県、屋久島、硫黄島、琉球列島

に分布する。

備考 近似種のアヤマエビス *Sargocentron rubrum* (Forsskal, 1775) とは、頬の鱗列数が 4 枚 (アヤマエビスは 5) であること、体側背面の縦帯は 4-5 本 (1-2 本) であることなどの特徴から識別できる。

(西山 肇)



■ クロオビエビス KAUM-I. 29546, 101.9 mm SL, Iou-jima

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

ホシエビス

Sargocentron punctatissimum (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XI, 12-14; 臀鰭 IV, 9; 胸鰭 15; 側線有孔鱗数 42-45; 側線上方鱗数 2 1/2; 鰓耙数 5-7 + 10-12 = 15-19; 頬部鱗列数 5。前鰓蓋骨隅角部に強く長い 1 棘がある。涙骨上縁に水平に突出する小棘がない。前鰓蓋骨隅角部の棘長は眼径の 1/2。

色彩 体上方は薄い赤色で、腹面に行くにつれ色合いは薄くなり、銀色がかかる。前鰓蓋後縁と鰓蓋膜は赤色。背鰭棘条部の上方は赤色で、下方は赤味がかかった透明。背鰭軟条部、胸鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭の鰭条は薄い赤色で、鰭膜は赤味がかかった透明。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、高知県沖ノ島、屋久島、硫黄島、琉球列島から知られている。

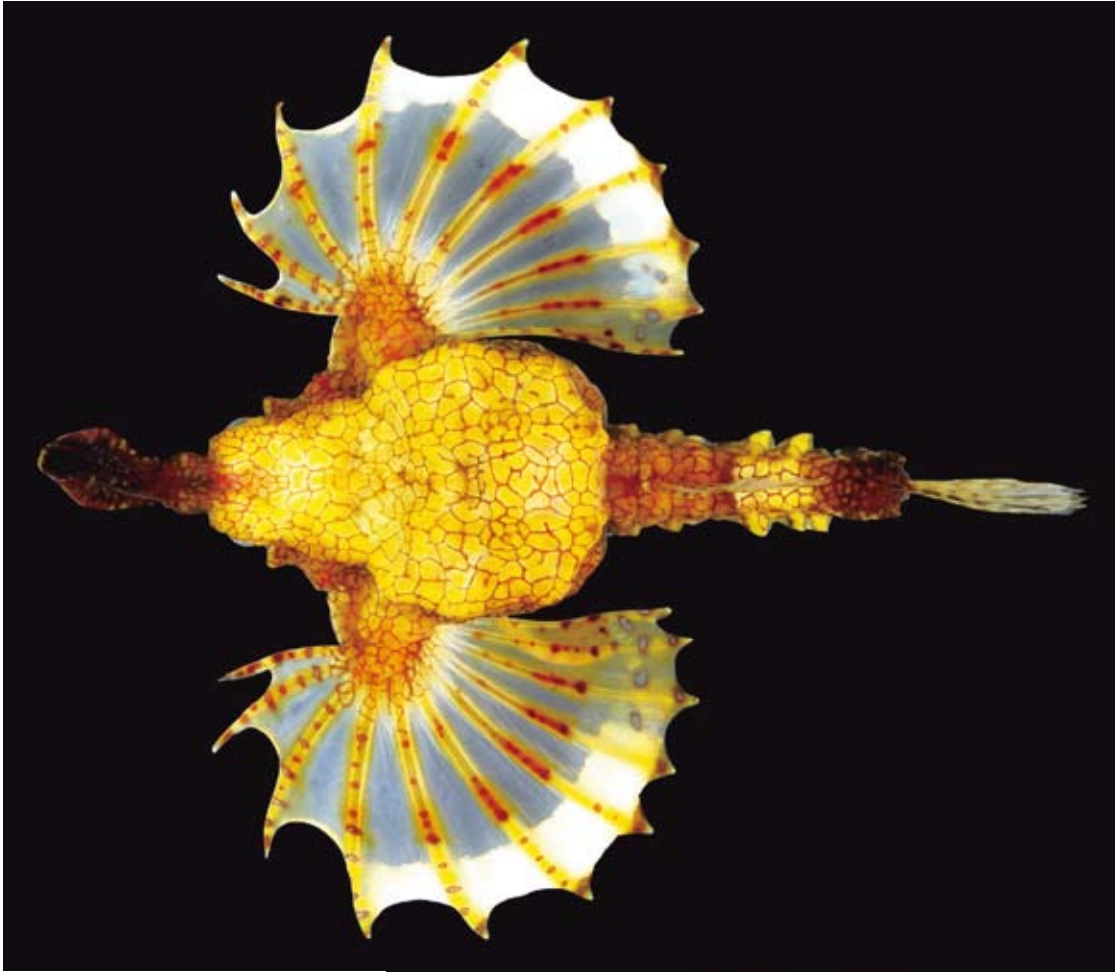


■ ホシエビス KAUM-I. 29613, 141.5 mm SL, Iou-jima

備考 本種は近似種のサクラエビス *Sargocentron tieerooides* (Bleeker, 1853) と比較して、側線有孔鱗数が 42-45 であること (サクラエビスは 40-41)、胸鰭軟条数が 15 (13-14) であること、および前鰓

蓋骨隅角部の棘長は眼径の 1/2 (2/3) であることなどの特徴から識別される。

(西山 肇)



トゲウオ目 ウミテング科 ウミテング属

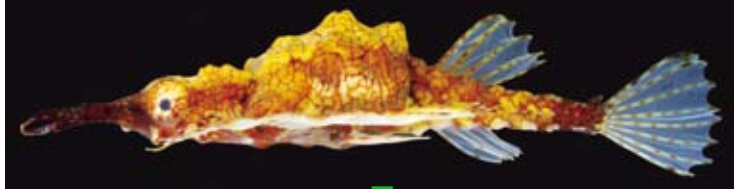
ウミテング

Eurypegasus draconis (Linnaeus, 1766)

形態 背鰭5；臀鰭5；胸鰭9-12。体は幅広く縦扁し硬い骨板で覆われる。各骨板は躯幹部では癒着しているが、尾部では癒着せず可動。口は突出した物の下面にあり歯はない。吻端は丸みがあるものが多い。体背面は起伏が大きく眼の直後に深い凹みがある。最終尾輪の背面に棘がある。尾輪数は8-9。

色彩 成魚の体色は変異に富み赤系、茶系、白系などがある。幼魚は黒。背面には網目模様がある。

分布 クレ環礁からハワイ諸島を除くインド・太平洋域。国内では千葉県以南に分布する。



ウミテング KAUM-I. 37927, 69.3 mm SL, Iou-jima



ウミテング Iou-jima, 26 July 2010, E. Shinkai

備考 全長15cmになる。沿岸浅所の主に砂底に生息し、しばしばペアでみられる。胸鰭を大きく広げ、細長い腹鰭を使って海底を這うように移動する。

(千葉 悟)



ウミテング KAUM-I. 37928, 54.0 mm SL, Iou-jima

トゲウオ目 カミソリウオ科 カミソリウオ属

ニシキフライウオ

Solenostomus paradoxus (Pallas, 1770)

形態 背鰭 V-17-21；臀鰭 17-20；胸鰭 25-28；腹鰭 I, 6。鰭や体には細長い単一の皮弁が無数に見られる。吻は細長く伸びている。第1背鰭と腹鰭の間にある骨質隆起線は背鰭基部よりも後方から始まる。尾柄部は細長く、尾鰭の鰭膜は深く切れ込む。第1背鰭の鰭膜も深く切れ込む。

色彩 体の地色は白色半透明で、黒、黄、赤などの縞模様があり、変異に富む。胸鰭、第2背鰭、臀鰭は透明。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では、伊豆諸島、房総半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 サンゴ礁域や岩礁域のヤギやウミトサカ、ウミシダの近くにみられ、体色はこれらに溶け込むようになっている。周囲の環境は体色に影響を与える因子である。本種は小型の甲殻類を捕食する。

カミソリウオ *Solenostomus cyanopterus*



ニシキフライウオ Take-shima, 26 July 2010, E. Shinkai

Bleeker, 1854 よりも適応水深範囲が広く、そのためカミソリウオよりも深場で見られる傾向がある。ホソフライウオ *Solenostomus leptosoma* Tanaka, 1908 との区別は容易で、ホソフライウオには皮弁が無く、あつたとしても扁平ではなく房状で吻にだけみられる。また、鰭や体には縞模様は無い。ニシキフライウオは日本においてはフライウオの変異とみな

されていたが、瀬能（1994）は本種の体色は変異に富んでいるものの、基本的に斑紋が縞模様であること、皮弁が単一であることなどから、本種に新和名ニシキフライウオを提唱したが、適用すべき学名については言及しなかった。学名は、Orr & Fritzsche (1993) により *S. paradoxus* (Pallas, 1770) を適用することが明らかになった。

(大石一樹)

Syngnathidae



イシヨウジ KAUM-I. 37724, 130.5 mm SL, Take-shima

トゲウオ目 ヨウジウオ科 イシヨウジ属

イシヨウジ

Corythoichthys haematopterus (Bleeker, 1851)

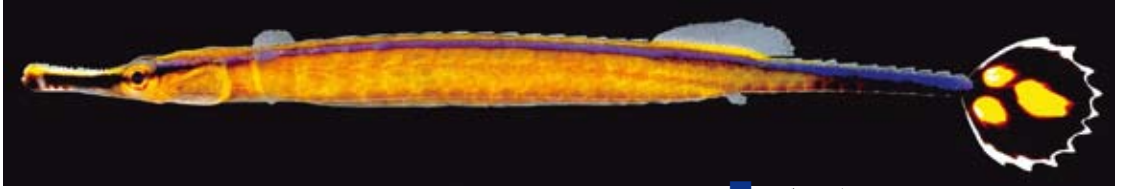
形態 背鰭 23-33；臀鰭 4；胸鰭 13-18；尾鰭 10；体輪数 16-18+32-37。躯幹部と尾部の上隆起線は不連続。躯幹部と尾部の下隆起線は連続。各隆起線は円滑。主鰓蓋骨の隆起線は発達する。吻背面の中央隆起線は円滑。腹部の中央隆起線は発達しない。吻長は頭部眼後長より長く、眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離に等しい。

色彩 体色は淡黄から灰褐色。体側には線や網目からなる多数の暗色斑や横帯が一行に並ぶが、不明瞭なことも多い。頭部側面には数条の暗色縦線がある。

分布 インド・太平洋域。国内では伊豆半島以南に分布する。

備考 サンゴ礁域や岩礁の浅く平坦な砂礫底でごく普通にみられる。育児嚢は皮摺が発達せず卵塊の大部分は露出する。クチナガイシヨウジ *Corythoichthys schultzi* Herald, 1953 に似るが、クチナガイシヨウジはその名前の通り吻長が長く（頭長の55.6%以上、イシヨウジは50%程度）、本種とは容易に区別される。雌雄のペアで見られることが多く、同じ雌雄が複数年にわたりペアを形成して配偶する「一夫一妻制」の配偶システムを示す。

(千葉 悟)



ノギリヨウジ KAUM-I. 37789, 60.5 mm SL, Iou-jima



ノギリヨウジ KAUM-I. 31413, 73.2 mm SL, Iou-jima

トゲウオ目 ヨウジウオ科 ヒバシヨウジ属

ノギリヨウジ

Doryrhamphus japonicus Araga & Yoshino, 1975

形態 背鰭 21–23；臀鰭 3–4；胸鰭 19–23；尾鰭 10；体輪数 19–20+14–15。軀幹部と尾部の上隆起線および下隆起線は不連続。尾鰭を除く尾部は軀幹部より短い。吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離より短い。背鰭前方の各軀幹輪の上隆起線には1棘がある。吻の背縁は強い鋸歯状。

色彩 体はオレンジ色。吻から眼を通り尾

鰭基底に達する1青色縦帯がある。青色縦帯の幅は狭く体高の1/4。尾鰭は赤褐色で通常は黄色斑が3個ある。

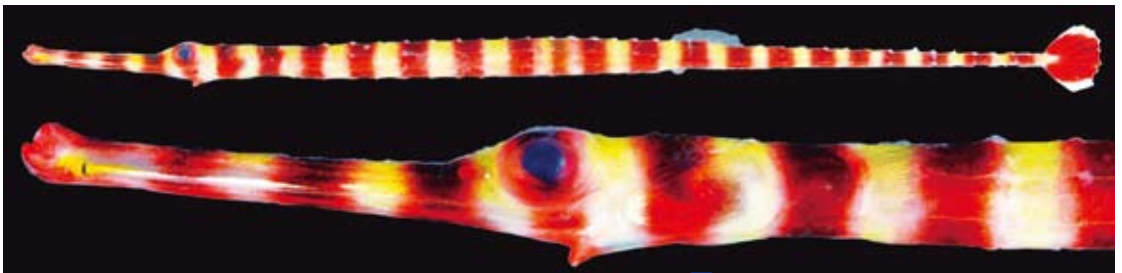
分布 相模湾から九州の太平洋岸、八丈島、台湾に分布する。

備考 岩礁域の洞穴や隙間などにみられる。遊泳性でクリーニング習性をもつ。セスジヨウジ *Doryrhamphus negrosensis*

negrosensis Herre, 1934 およびヒバシヨウジ *D. excisus excisus* Kaup, 1856 に似るが、セスジヨウジは体背面に白色縦帯があること（ノギリヨウジにはない）、ヒバシヨウジは軀幹部の青色縦帯が幅広く体高の1/2（ノギリヨウジでは狭く体高の1/4）であることから見分けられる。

（千葉 悟）

Other collected specimens: KAUM-I. 29504, 46.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29506, 52.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29685, 62.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30540, 61.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37790, 69.6 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106082, 54.9 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106166, 55.2 mm SL, Take-shima.



カスミオイランヨウジ KAUM-I. 30534, 88.7 mm SL, Iou-jima

トゲウオ目 ヨウジウオ科 オイランヨウジ属

カスミオイランヨウジ

Dunckerocampus naia Allen & Kuitert, 2004

形態 背鰭 20–22；臀鰭 4；胸鰭 19–20；尾鰭 10；体輪数 16–17+19–20。躯幹部と尾部の上隆起線および下隆起線は不連続。尾鰭を除く尾部は躯幹部より短い。吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離より長い。

色彩 頭部と体には黄色みを帯びた白色と暗赤色の横帯が多数ある。背鰭、胸鰭、臀鰭はほぼ透明。尾鰭は赤色で上縁と下

縁に白色域がある。

分布 中・西部太平洋域。国内では伊豆半島以南の南日本に分布する。

備考 オイランヨウジ *D. dactyliophorus* (Bleeker, 1853) に酷似するが、尾鰭中央に白色斑がないこと（オイランヨウジにはある）、尾鰭の上縁と下縁のみに白色域があること（オイランヨウジは尾鰭縁辺が白色域で縁取られる）、赤暗色横帯の輪郭が不明瞭であること（オイランヨウジは輪郭が明瞭）によって生時および鮮時は区別できる。

高田ら（2008）は奄美大島産の1標本（NSMT-P 75406）に基づき *D. naia* を日本初記録として報告し、新標準和名カスミ

オイランヨウジを提唱した。国内では伊豆半島以南でダイバーによって本種の生態写真が多く撮影されているが、退色した標本ではオイランヨウジとの区別が困難になるため、本種に同定されている標本は少ない。

本項の「形態」に記載された計数形質は、原記載論文に記載されたホロタイプとパラタイプのデータに加え、奄美大島産、加計呂麻島産および硫黄島で採集されたそれぞれ1個体の標本に基づく。

今回の調査では、硫黄島と竹島からオイランヨウジは採集されなかった。

（千葉 悟）



H. bargibanti Iou-jima, 8 July 2008, S. Dewa

トゲウオ目 ヨウジウオ科 タツノオトシゴ属

タツノオトシゴ属の1種

Hippocampus bargibanti Whitley, 1970

形態 背鰭 13–14；胸鰭 10–11；体輪数 11–12+31–33。頭部および体に顆粒状の突起が散在する。体輪は目立たない。吻は短く頭長の1/3程度。頂冠は短い。臀鰭がない個体もいる。

色彩 灰白色に緋色の模様が入るタイプや黄色みを帯びた白色に黄色の模様が入る

タイプなど様々。

分布 西部太平洋域。国内では南日本の太平洋岸に分布する。

備考 体は短く、大きくても体長 2.5cm 程度。水深 16–40m に生息する。うちわ状に枝が広がった八方サンゴ類の *Muricella* 属ヤギ類に尾部を巻き付けているのがみられる。体色は生息するヤギ類の色彩に擬態している。成魚はペアで見られることが多い。

本種は移動性が低く、パプアニューギニアでの観察例では、最長で 40 日間に渡り

同じヤギ類の上で観察された報告がある。

国内では 1990 年代に初めて本種が発見され、それ以降ダイバーらによって南日本の太平洋岸の各地で目撃されている。本種は「ピグミーシーホース」という名前で親しまれているが、この名前は本種に似た複数種の小型タツノオトシゴ属魚類に対して用いられており、標準和名はまだ提唱されていない。国内には未記載種を含む少なくとも 3 種の「ピグミーシーホース」が分布していると考えられており標準和名の提唱を含めた今後の研究が期待される。

（千葉 悟）



ヘラヤガラ NSMT-P 106150, 820.0 mm SL, Iou-jima

トゲウオ目ヘラヤガラ科ヘラヤガラ属

ヘラヤガラ

Aulostomus chinensis (Linnaeus, 1766)

形態 背鰭 VIII-XIII-iii, 23-28; 臀鰭 iii, 23-29; 腹鰭 6; 側線有孔鱗数 244-258; 背鰭棘条部側線上方横列鱗数 19-21; 側線下方横列鱗数 15-16; 脊椎骨数 25-26+37-38。吻と頭部は著しく側扁する。体はやや側扁する。吻と頭部は無鱗で、体は微小櫛鱗に被われる。口は長い管状の吻の先端に斜めに開く。下顎先端に髭がある。背鰭棘は互いに鱗膜で連続せず、分離する。

色彩 体色の変異が著しく、暗褐色から鮮黄色まで様々。横帯を現すこともある。通常は吻部に黒色縦帯がある。背鰭と臀鰭は基部付近が暗色でその先は明色。腹鰭

基部と尾鰭に黒色斑がある。

分布 インド・太平洋域および東部太平洋域。国内では相模湾以南に分布する。

備考 全長 1 m になる。浅い岩礁やサンゴ礁に生息する。海藻の茂みや岩陰に倒立したり、中・大型魚に寄り添って泳ぐなど特異な行動が知られている。

長い吻はスポイトのような役割で小魚や小甲殻類を吸い込むようにして捕食する。

ヘラヤガラ科は 1 属 3 種からなり、近縁なヤガラ科とは吻が長く体が細長いという形態の特徴は類似しているが、ヤガラ科には背鰭棘と髭が無いことから容易に区別できる。日本産はヘラヤガラ 1 種のみ。

竹島・硫黄島の岩礁域でごく普通にみられる。

(千葉 悟)



ヘラヤガラ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

Fistulariidae



アオヤガラ KAUM-I. 29622, 776.3 mm SL, Iou-jima



アオヤガラ Iou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

トゲウオ目ヤガラ科ヤガラ属

アオヤガラ

Fistularia commersonii Rüppell, 1838

形態 背鰭 15-17; 臀鰭 14-16; 胸鰭 13-15; 腹鰭 6。体は細長い。両眼の間の頭部背面は平坦。尾柄部の側線鱗には鋭い後向棘がない。

色彩 生時の体は淡緑色か淡褐色。興奮すると幅広い暗褐色の横帯を現す。

分布 インド・太平洋域および東部太平洋域。国内では本州中部以南に分布する。

備考 全長 1.5 m になる。沿岸浅所の岩礁やサンゴ礁に生息する。

(千葉 悟)

Other collected specimen: NSMT-P 106122, 890.0 mm SL, Take-shima.



アオヤガラ Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa



ヒレボシミノカサゴ KAUM-I. 29693, 58.9 mm SL, Take-shima



ヒレボシミノカサゴ Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

カサゴ目 フサカサゴ科 ヒメヤマノカミ属

ヒレボシミノカサゴ

Dendrochirus biocellatus (Fowler, 1938)

形態 背鰭 XIII, 9-10; 臀鰭 III, 5-6; 胸鰭 20-21; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 48-51。吻端に皮弁がない。涙骨下縁に2対の皮弁があり、後方皮弁は著しく長く、太い。胸鰭上方軟条は分枝し、下方軟条

は不分枝で遊離する。下顎腹面に鋸歯状隆起がない。眼下骨域に小棘が密に分布しない。頭頂骨に烏帽子状の隆起がない。

色彩 頭部と体側の地色は赤褐色。体側に濃褐色の4横帯がある。涙骨皮弁は濃赤褐色と黄白色のまだら。背鰭軟条部に眼径よりやや大きな2-3黒色斑がある。尾鰭は透明で黒色点が散在する。

分布 アフリカ東岸からツアモツ諸島にかけ

てのインド・太平洋に広く分布するが、ハワイ諸島には出現しない。国内では、伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 夜行性で昼間は岩陰に潜む。今後、分類学的研究が進めば別属に移される可能性が高い。

(本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 32670, 84.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37792, 82.0 mm SL, Iou-jima.

カサゴ目 フサカサゴ科 ヒメヤマノカミ属

シマヒメヤマノカミ

Dendrochirus brachypterus (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XIII, 9-10; 臀鰭 III, 5-6; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 42-45。吻端の皮弁は短い。涙骨下縁には短い皮弁がある。胸鰭上方軟条は分枝し、下方7軟条は不分枝で先端は遊離する。下顎腹面に鋸歯状隆起がない。眼下骨域に小棘が密に分布しない。頭部の棘は鋸歯状。頭頂骨に烏帽子状の隆起がない。

色彩 頭部と体側の地色は赤褐色から茶色。眼を中心に3本の赤褐色線が放射状にのびる。体側に5-6本の濃褐色あるいは赤褐色の横帯がある。胸鰭には8-10本の濃褐色帯があり、帯内に複数の濃青色から黒色の斑点が並ぶ。背鰭と臀鰭の軟条部と尾鰭は透明で小黒色点が規則的に鱗条上に並ぶ。

分布 紅海を含むインド洋とトンガ、サモア諸島までの西太平洋に広く分布する。国内では、千葉県以南の太平洋沿岸、山口県以南の日本海沿岸、大隅諸島、琉球列島



■ シマヒメヤマノカミ Take-shima, 26 July 2010, E. Shinkai

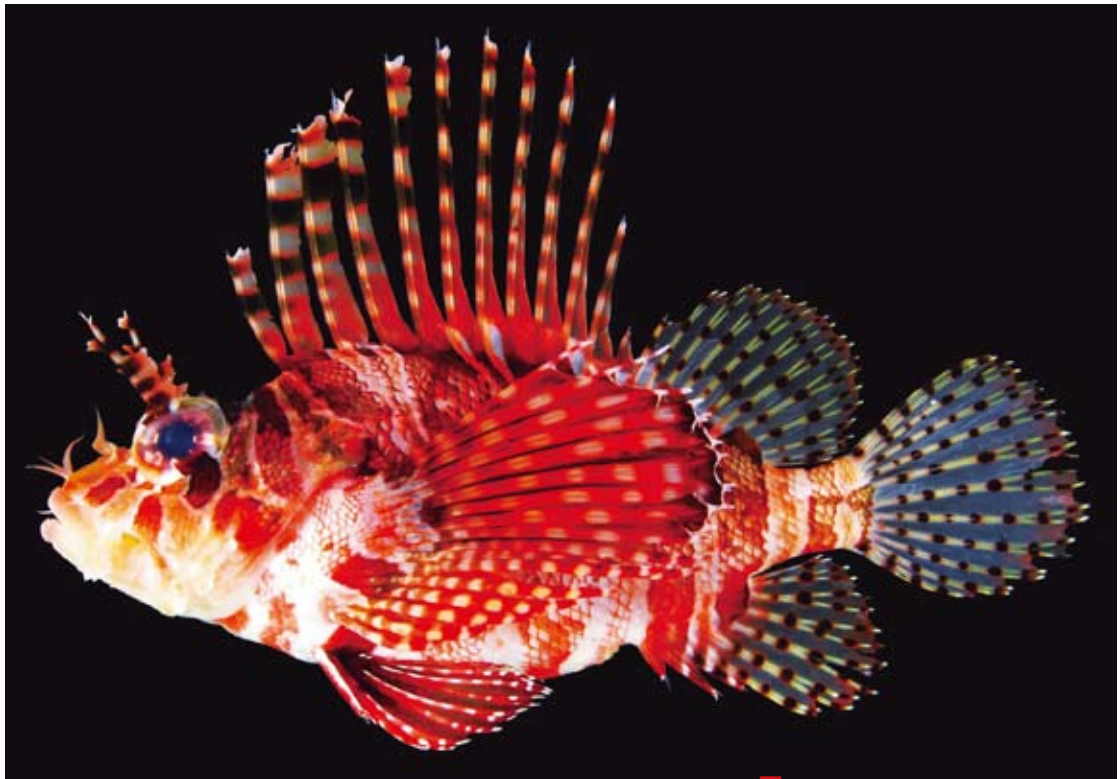
に生息する。

備考 水深80 m以浅の岩礁域に生息するシマヒメヤマノカミは近縁のヒメヤマノカミ *Dendrochirus bellus* (Jordan & Hubbs, 1925)と比較して、胸鰭と腹鰭の横帯内に

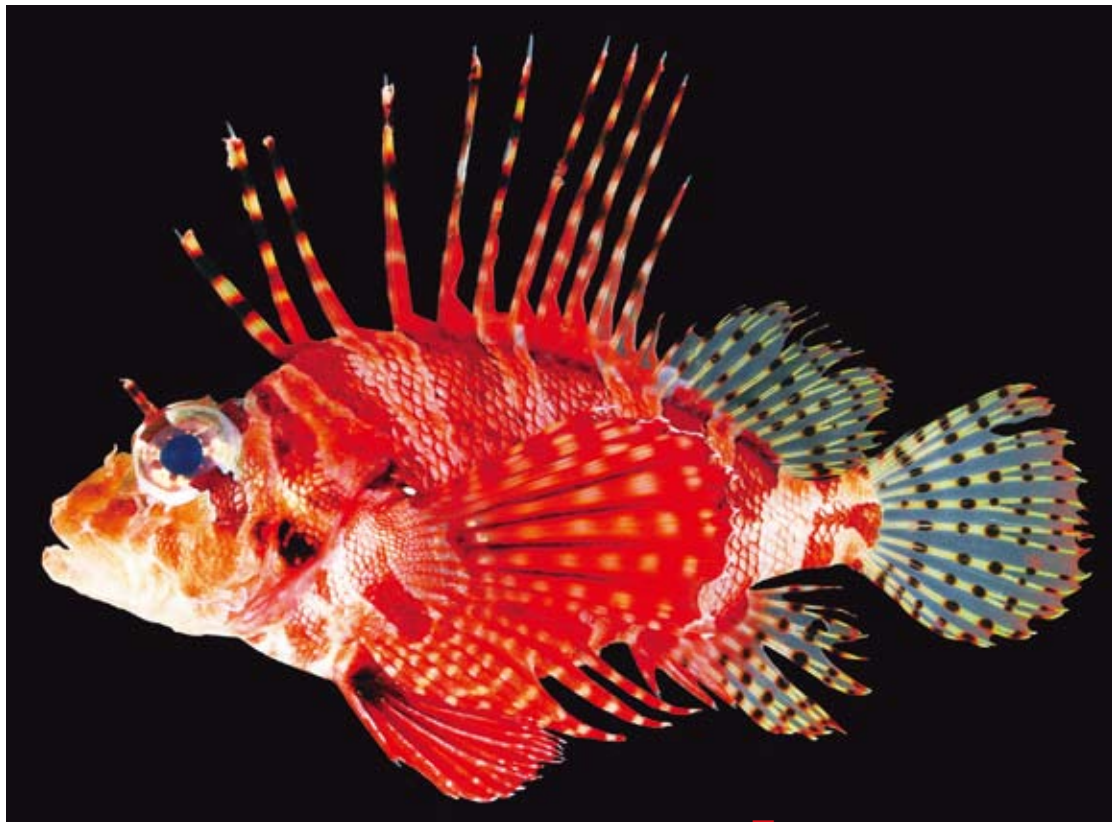
黒色から濃青色の斑点があること（ヒメヤマノカミでは斑点が無い）ことから容易に識別される。

現在、本種の分類学的研究が進められている。

（本村浩之）



■ キリンミノ KAUM-I. 29632, 98.4 mm SL, lou-jima



キリンミノ KAUM-I. 30624, 121.0 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 ヒメヤマノカミ属

キリンミノ

Dendrochirus zebra (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XIII, 10–11; 臀鰭 III, 6–7; 胸鰭 16–18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 45–48。吻端には3本の明瞭な皮弁がある。涙骨下縁には団扇状の幅広い皮弁がある。胸鰭軟条の一部は分枝し、下方7–8軟条は不分枝で先端は遊離する。下顎腹面に鋸歯状隆起がない。眼下骨域に小棘が密に分布しない。頭頂骨に烏帽子状の隆起がない。

色彩 体側に6本の赤褐色横帯があり、黄帯間の白色域中央に薄い赤褐色横線が走る。鰓蓋下方に眼径大の1黒色斑がある。胸鰭の様子は右写真のとおり。背鰭と臀鰭の軟条部と尾鰭は透明で小黒色点が鱗条上に規則的に並ぶ。

分布 紅海を除くインド・西太平洋とサモア諸島に分布する。国内では、小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

(本村浩之)

Other collected specimen: KAUM-I. 29569, 162.1 mm SL, Take-shima.



キリンミノ (右胸鰭の内側) KAUM-I. 30624, 121.0 mm SL, Iou-jima



トゲイテンフサカサゴ (オス) KAUM-I. 29562, 66.6 mm SL, Iou-jima



トゲイテンフサカサゴ (メス) KAUM-I. 37668, 65.1 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 ネットアイフサカサゴ属

トゲイテンフサカサゴ

Parascorpaena mcadamsi (Fowler, 1938)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 39-46; 側線有孔鱗 21-24; 鰓耙 10-13。体側の鱗は円鱗。涙骨下縁には2棘あり、成魚の後方棘は前方に向かい、幼魚では下に向かって伸びる。涙骨側棘はない。眼下骨

棘は3本。眼下縁窩前方は浅く窪む。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。額棘と余棘はない。後頭窩はいちじるしく浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入する。上・下後側頭棘、頭頂棘、上擬



トゲイッテンフサカサゴ（メス幼魚）KAUM-I. 37666, 32.0 mm SL, Iou-jima

鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。眼上皮弁の長さは変異に富むが、眼径より長くなることは稀。オスの成魚は下顎歯の一部が伸長し、犬歯状になる。メスは成長しても下顎歯は鋸歯状あるいは絨毛状のまま。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは赤みを帯びる。オスの第7と第11背鰭棘の間に眼径よりやや大きな1黒斑があるが、メスにはない。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯・熱帯域に広く分布する。国内では、これまでのところ伊豆諸島、高知県以南の太平洋沿岸、琉球列島から確認されている（Motomura, unpub. data）。

備考 中坊（1993）は沖縄島産の1標本（URM-P 27073, 50.1 mm SL）に基づき *Parascorpaena maculipinnis* Smith, 1957 を日本初記録として報告し、新標準和名トゲイッテンフサカサゴを提唱した。標準和名の基準となった沖縄産の標本を本研究で調査したところ、同標本は胸鰭軟条が16本（右側は奇形で13本のみ）であること、体側鱗が円鱗であること、涙骨後方棘が前方に向かうこと、眼下骨棘が3本であること、後頭窩が平坦であることなどから *Parascorpaena mcadamsi* (Fowler, 1938) と同定された。したがって、標準和名トゲイッテンフサカサゴに適用すべき学名は *P. mcadamsi* となる。なお、*P. maculipinnis* は *P. mcadamsi* の新参同物異名（Motomura, unpub. data）。

一方、中坊（1993）は沖縄島産の1標本（URM-P 6502, 50.6 mm SL）に基づ



トゲイッテンフサカサゴ（メス成魚）KAUM-I. 29630, 61.5 mm SL, Iou-jima

き *Parascorpaena mcadamsi* を日本初記録として報告し、新標準和名イッテンフサカサゴを提唱した。中坊（1993, 2000）の *P. mcadamsi* は眼下骨棘が2本であることなどから *Parascorpaena moultoni* (Whitley, 1961) と同定される（Motomura et al., 2011）。したがって、標準和名イッテンフサカサゴに対応する学名は *P. moultoni*。

なお、中坊（1993, 2000）のクロホシフサカサゴ *Parascorpaena* sp. はネットイフサカサゴ *Parascorpaena mossambica* (Peters, 1855) の若魚である（詳細はネットイフサカサゴの解説ページを参照）。

最近、Motomura et al. (2009) は *Parascorpaena aurita* (Rüppell, 1838) を日本初記録として鹿児島県と沖縄県から報告し、屋久島を本種の北限記録とした。今回の

調査では、硫黄島と竹島における *P. aurita* の生息は確認されなかった。

以上のことから、現在日本から記録されているネットイフサカサゴ属 *Parascorpaena* は以下の4種である。チブルネットイフサカサゴ *P. aurita*、トゲイッテンフサカサゴ *P. mcadamsi*、ネットイフサカサゴ *P. mossambica*、イッテンフサカサゴ *P. moultoni*。このうち、トゲイッテンフサカサゴとイッテンフサカサゴの2種のみが背鰭の黒斑の有無による性的二型が認められる。

（本村浩之）

Other collected specimens: KAUM-I. 32345, male, 45.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37665, male, 36.9 mm SL, Iou-jima.



■ ネットアイフサカサゴ KAUM-I. 30548, 53.0 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 ネットアイフサカサゴ属

ネットアイフサカサゴ

Parascorpaena mossambica (Peters, 1855)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 37-45; 側線有孔鱗 22-23; 鰓耙 11-15。体側の鱗は円鱗だが、稀に弱い鋸歯を有する鱗もある。涙骨下縁には2棘あり、成魚の後方棘は前方に向かい、幼魚では下に向かって伸びる。涙骨側棘はない。眼下骨棘は3本。眼下縁窩前方は浅く窪む。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。額棘と余棘はない。後頭窩は深く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入する。上・下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。眼上皮弁の長さは変異に富み、眼径より長くなることも稀ではない。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは茶色味を帯びる。尾柄部に白色斑があり、その前縁から体色の地色が白色斑の中央に侵入する。雌雄とも背鰭棘の鰭膜には黒色斑がない。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯・熱帯域に広く分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 本種はネットアイフサカサゴ属の中で

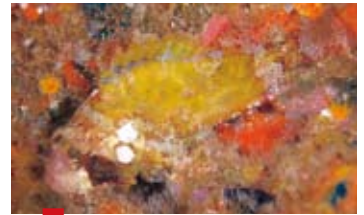
は最も個体数も多く、熱帯・亜熱帯域を中心に浅い岩礁やサンゴ礁でごく普通にみられる。しかし、硫黄島と竹島では、本種よりもトゲイッテンフサカサゴ *Parascorpaena mcadamsi* の方が多く採集された。

本項の「形態」に記載された計数形質は西太平洋産のネットアイフサカサゴ 79 個体に基づく。最大体長は 99.2 mm。

ネットアイフサカサゴは眼下骨棘が 3 本であることから、トゲイッテンフサカサゴを除く同属他種とは容易に識別される。前者は後者と比較して、体色が茶色味を帯びること（トゲイッテンフサカサゴでは赤味を帯びる）、尾柄部の白色斑に、その前縁から体色の地色が白色斑の中央に深く侵入すること（ほとんど侵入しない）、後頭窩が深いこと（浅く、ほぼ平坦）などによって区別可能。さらに、トゲイッテンフサカサゴにみられる背鰭鰭膜上の黒色斑の有無や下顎歯の発達などの性的二型はネットアイフサカサゴにはみられない。

ネットアイフサカサゴはインド・西太平洋に広く分布するが、インド洋と太平洋の個体群は別種である可能性が高いことが指摘されている（Motomura et al., 2011）。タイプ産地がモザンビークである *Parascorpaena mossambica* はインド洋の個体群に、東南アジアがタイプ産地の *Parascorpaena armata* (Sauvage, 1973) が太平洋の個体群に適用すべき学名であろう。今後の詳細な調査・検討が必要である。

益田ほか（1975）はクロホシフサカサゴ（仮称）*Scorpaena* sp. 1 として瀬底島から採集された 1 標本を報告した。この標本は清水（1984）によってクロホシフサカサゴ



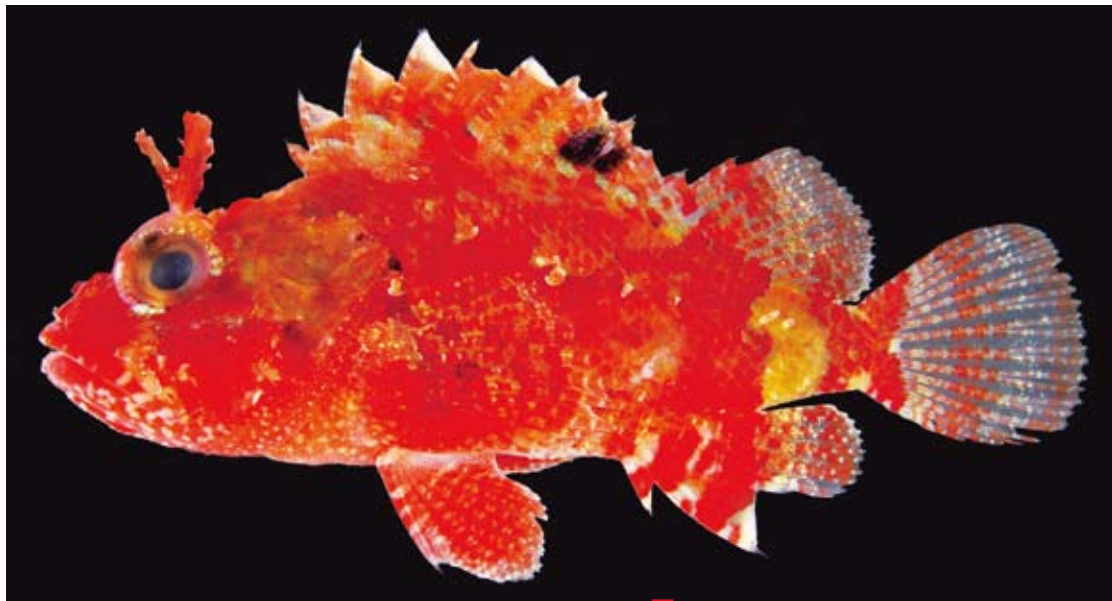
■ ネットアイフサカサゴ Iou-jima, 27 June 2009, Y. Komiya

Scorpaena bynoensis Richardson、中坊（1993, 2000）によってクロホシフサカサゴ *Parascorpaena* sp. とそれぞれ同定された。本標本（URM-P 4227, 43.4 mm SL）を調査した結果、ネットアイフサカサゴと同定されたため、和名クロホシフサカサゴは無効である。なお、*Scorpaena bynoensis* は *Parascorpaena aurita* (Rüppell, 1838) の新参同物異名である（Motomura et al., 2009）。

益田ほか（1975）がネットアイフサカサゴ *Scorpaena zanzibarensis* として、清水（1984）がネットアイフサカサゴ *Scorpaena picta* として報告した個体は同一個体であるが、現時点の知見ではヒメサツマカサゴ *Scorpaenopsis cotticeps* Fowler, 1938 に同定される。

（本村浩之）

Other collected specimens: KAUM-I. 37732, 39.5 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106111, 76.3 mm SL, Take-shima.



■ イッテンフサカサゴ (オス) KAUM-I. 29629, 46.3 mm SL, Iou-jima



■ イッテンフサカサゴ (メス) KAUM-I. 30549, 42.8 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 ネットイフサカサゴ属

イッテンフサカサゴ

Parascorpaena moultoni (Whitley, 1961)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 39-46; 側線有孔鱗 21-23; 鰓耙 11-14。体側の鱗は円鱗。涙骨下縁には2棘あり、成魚の後方棘は前方に向かい、幼魚では下に向かって伸びる。涙骨側棘はない。眼下

骨棘は2本。眼下縁窩前方は浅く窪む。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。額棘と余棘はない。後頭窩は浅く、ほぼ平ら。後頭窩の前縁の隆起は背面からみて後方に湾入する。上・下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。眼上皮弁の長さは変異に富み、眼径より長くなることも稀ではない。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは赤味を帯びる。尾柄部に白色～黄色斑がある。

オスの第7と第11背鰭棘の間に眼径よりやや大きな1黒斑があるが、メスにはない。

分布 インド・太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。国内では、高知県以南の太平洋沿岸から琉球列島にかけて分布する (Motomura, unpub. data)。

備考 本種は原記載以降、2011年まで正体不明の名義種であったが、Motomura et al. (2011) によって有効種として認められた。

中坊 (1993, 2000) の *Parascorpaena mcadamsi* は *P. moultoni* である (詳細はトゲイテンフサカサゴの解説ページを参照)。

本項の「形態」に記載された計数形質はインド・太平洋産のイッテンフサカサゴ 58 個体に基づく。最大体長は 56.2 mm。

イッテンフサカサゴは眼下骨棘が 2 本で

あることから、チブルネットアイフサカサゴ *P. aurita* (Rüppell, 1838) と *P. picta* (Cuvier, 1829) を除く同属他種とは容易に識別される。イッテンフサカサゴの眼下骨棘は、第 1 眼下骨隆起上に 1 棘、第 2 眼下骨隆起上に 1 棘であるが、チブルネットアイフサカサゴと *P. picta* は第 2 眼下骨隆起上に 2 棘である。また、イッテンフサカサゴのオス

は背鰭鰭膜に 1 黒色斑をもつが、後者 2 種には黒色斑がない。

(本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 30588, male, 41.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31644, male, 24.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32672, female, 24.9 mm SL, Iou-jima.



■ ネットイミノカサゴ KAUM-I. 29746, 154.0 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 ミノカサゴ属

ネットイミノカサゴ

Pterois antennata (Bloch, 1787)

形態 背鰭 XII, 10–12; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 16–18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 48–58。頭部と体側上方は微細な小棘をもつ楕鱗で、体側中央から腹面は円鱗。鋤骨歯を有するが、口蓋骨歯はない。吻端に 3 本のやや長い皮弁が等間隔につき、それぞれの長さは前鼻孔の皮弁の長さと同長。眼上皮弁はよく発達し、通常眼径より長い。第 7 背鰭棘が最長で、体長の 36–62%。胸鰭軟条はすべて不分枝で、最長軟条は体長の 77–109% に達する。涙骨後方棘は発達し、1 皮弁を有する。眼下骨隆起は鋸歯状。眼前棘と眼上棘は単尖頭。眼後棘は鋸歯状。額棘と耳棘はない。

後頭窩は浅く、ほぼ平ら。後頭窩の前縁の隆起は背面からみて後方に湾入する。

色彩 頭部と体側の地色は赤色みの乳白色。頭と体の側面に濃い赤褐色の横帯が多数ある。間鰓蓋には白色線で縁取られる眼径大の黒色斑がある。太い暗色帯が眼上棘基部から眼を斜走し前鰓蓋の後縁に伸びる。下顎腹面に斑紋はない。体側面には約 20 本の横帯があり、躯幹部の側面では太い横帯の間に細い横帯がある。背鰭第 4–6 棘の基部下の横帯が最も太く、その幅は光彩と同幅がそれ以上。尾柄部側面には細い赤褐色線が斜走する。体側面の横帯は腹面で左右のものが接合する。背鰭は棘条の地色が乳白色、軟条と鰭膜の地色が半透明で、それぞれの棘条に赤褐色から黒色の太い縞模様がある。軟条部は軟条上に黒色小点がある。臀鰭は棘条の地色が白色、軟条と鰭膜の地色が半



■ ネットイミノカサゴ (右胸鰭の内側) KAUM-I. 29746, 154.0 mm SL, Iou-jima



■ ネットイミノカサゴ KAUM-I. 29634, 72.4 mm SL, Iou-jima



■ ネットイミノカサゴ Take-shima, 9 Aug. 2011, K. Furuta

透明で、体側面の横帯が延長して前方に斜走し、軟条上には黒色小点がある。尾鰭は半透明で、鰭条上に黒色小点がある。胸鰭軟条の地色は白色で、若干赤味を帯びるが、縞模様はない。胸鰭鰭膜は赤色で、その後縁は黒色で縁取られない。胸鰭基部付近の鰭膜には3-17個の黒色斑が散在する。

分布 インド・太平洋の亜熱帯・熱帯域に広く分布する。国内では、千葉県以南の太平洋沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島、琉球列島に分布する（松沼ほか，2011）。

備考 本種は体側面に多数の横帯があること、頭部の棘や皮弁の状態など外見的特徴が2011年に松沼・本村（2011）によって日本初記録として報告されたミズヒキミノカサゴ *Pterois mombasae* (Smith, 1957) と酷似する。しかし、ネットイミノカサゴはミズヒキミノカサゴと比較して背鰭が通常12棘11軟条であること（後者では通常13棘10軟条）、胸鰭条数が通常18以上（通常17）、胸鰭の鰭膜に3-17個の斑点があり、軟条は一様に赤色または白色であること（6-24個の斑点があり、軟条に赤色

から褐色の縞模様がある) から容易に識別される。さらに、両種は眼径、背鰭棘長および胸鰭長などの計測形質も異なる(松沼・本村, 2011)。

ネットイミノカサゴとミズキミノカサゴはほぼ同所的に生息するが、後者の方がより黒潮に依存していると考えられている(松沼ほか, 2011)。硫黄島と竹島にもミズビ

キミノカサゴが生息している可能性が高いが、今回の調査では確認されなかった。(本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 29635, 74.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29745, 101.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37938, 67.3 mm SL, Iou-jima.

カサゴ目 フサカサゴ科 ミノカサゴ属

キミオコゼ

Pterois radiata Cuvier, 1829

形態 背鰭 XII, 11; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5。鋤骨歯を有するが、口蓋骨歯はない。吻端に皮弁がない。眼上皮弁はよく発達し、眼径よりはるかに長い。背鰭棘の鰭膜は基部付近のみ発達する。胸鰭軟条はすべて不分枝で、最長軟条は尾鰭を超える。

色彩 頭部後方と体側の地色は赤褐色。物は橙色。頭と体の側面に白色横線が多数走る。尾柄部には2本の短い白色縦線がある。背鰭、臀鰭、尾鰭の軟条部は半透明で黒色斑がない。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。国内では、伊豆諸島、和歌



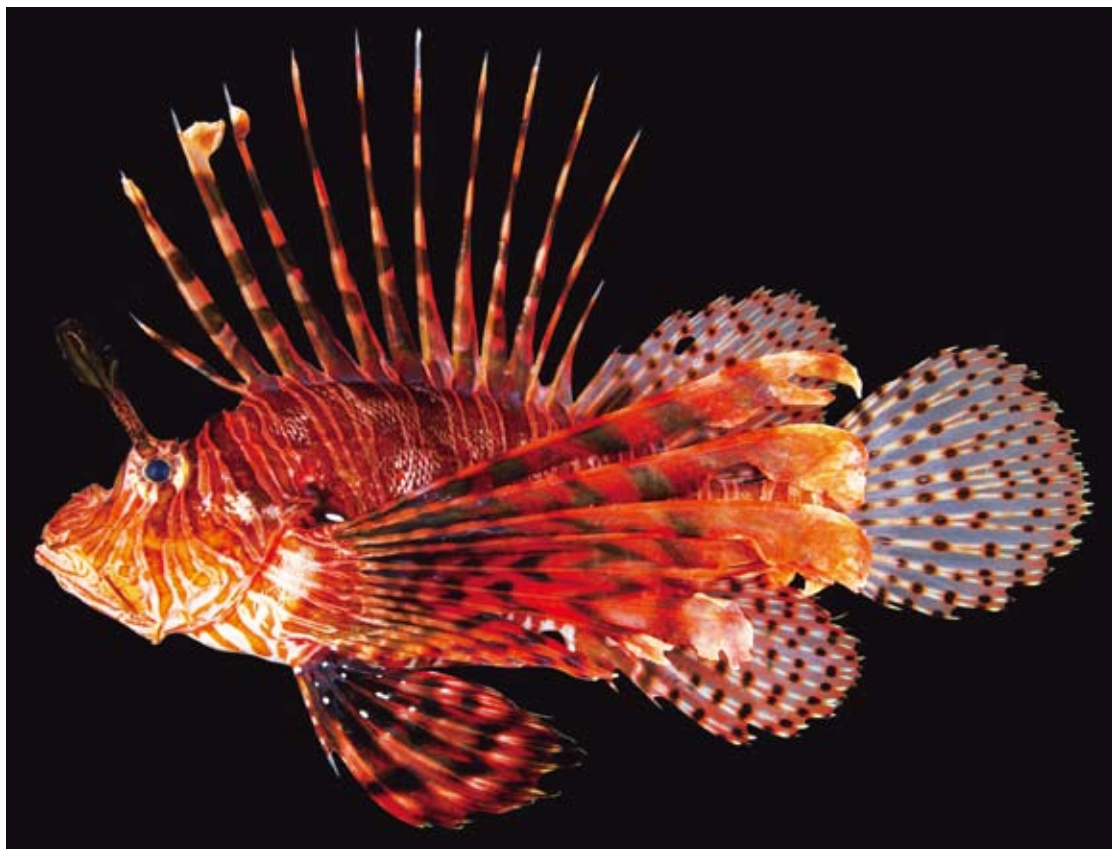
■ キミオコゼ Iou-jima, 9 Aug. 2009, S. Dewa

山県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 硫黄島と竹島でもごく普通に生息するが、標本は得られなかった。(本村浩之)



■ ハナミノカサゴ KAUM-I. 29633, 147.3 mm SL, Iou-jima



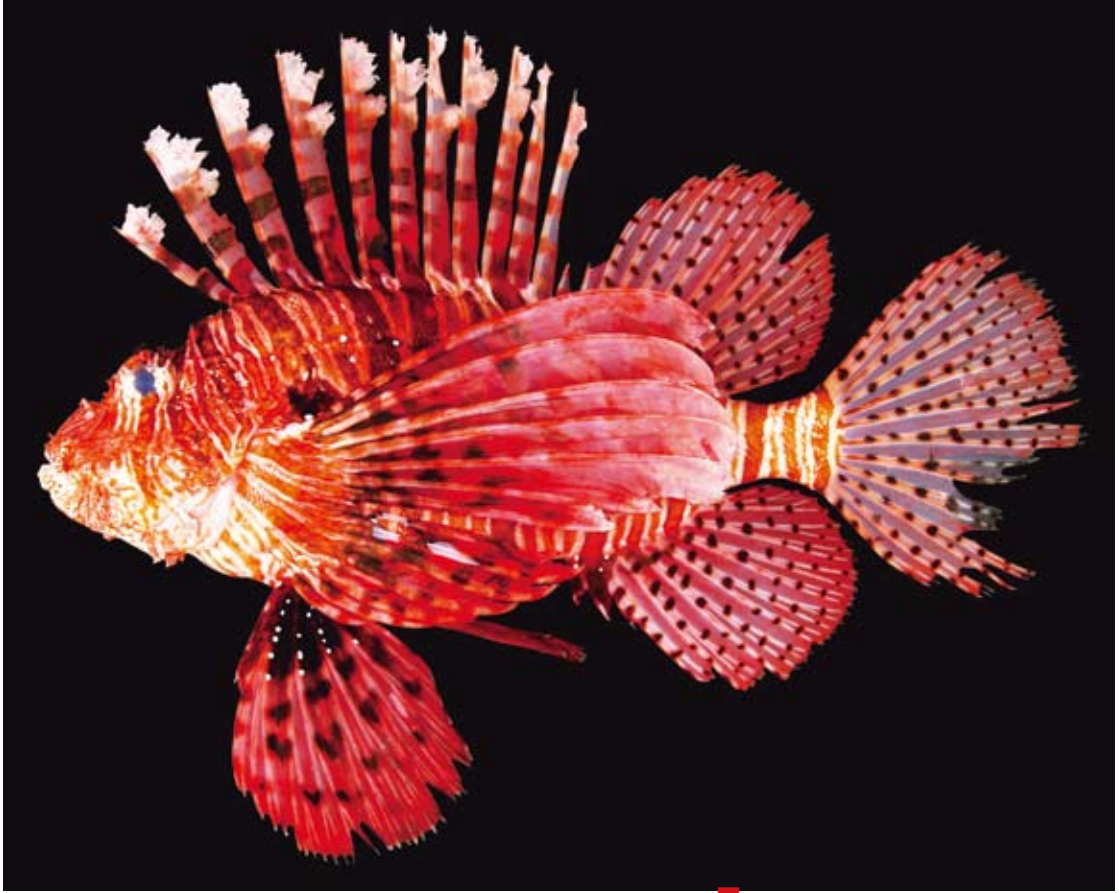
■ ハナミノカサゴ KAUM-I. 29525, 187.2 mm SL, Iou-jima



■ ハナミノカサゴ Iou-jima, 13 July 2009, Y. Komiya



■ ハナミノカサゴ (右胸鰭の内側) KAUM-I. 29525, 187.2 mm SL, Iou-jima



ハナミノカサゴ KAUM-I. 37995, 264.2 mm SL, Iou-jima



ハナミノカサゴ KAUM-I. 29636, 70.4 mm SL, Iou-jima



ハナミノカサゴ Iou-jima, 26 July 2010, E. Shinkai



ハナミノカサゴ KAUM-I. 29637, 28.2 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 ミノカサゴ属

ハナミノカサゴ

Pterois volitans (Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 XIII, 10-11; 臀鰭 III, 6-7; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 5。口蓋骨歯はない。背鰭棘と胸鰭軟条の鰭膜は棘条の先端ま

で達する。胸鰭軟条はすべて不分枝。

色彩 背鰭、臀鰭、尾鰭の軟条部は半透明で多くの黒色点がある。頭部腹面と胸部には縞模様がある。

分布 太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。

備考 近年、本種の大西洋への導入・定着が問題になっている。

(本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 29524, 153.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29526, 83.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29570, 121.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29744, 122.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37996, 230.0 mm SL, Iou-jima.



■ イソカサゴ KAUM-I. 29627, 76.2 mm SL, Iou-jima



■ イソカサゴ KAUM-I. 29493, 37.0 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 イソカサゴ属

イソカサゴ

Scorpaenodes evides (Jordan & Thompson, 1914)

形態 背鰭 XIII–XIV, 6–9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 16–19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 42–49; 側線有孔鱗 22–26; 鰓耙 14–20。体側の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には2棘あるが未発達で逆三角形あ

るいは丸みを帯びる。涙骨側棘はよく発達する。眼下骨棘は2本で、第1棘は眼の下方、2棘は眼の後方に位置する。第1眼下骨棘の下方に1棘ある。眼下縁窩前方は浅く窪む。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼

後棘は単尖頭。眼隔棘と額棘はそれぞれ1対ある。後頭窩は浅く、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。上・下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。前鰓蓋骨棘は3本で、第1棘の基部に前鰓蓋骨補棘がある。眼上皮弁の長さは変異に富むが、眼径より長くなることは稀。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは赤味を帯びる。次頁の写真個体のように茶色

味を帯びるものも稀にみられる。間鰓蓋骨に眼径よりやや小さい1黒色斑がある。稀に背鰭棘後部に不明瞭な1黒色斑がある。生時の個体の多くは、眼の後方と背鰭棘中央部をそれぞれ前縁と後縁とする幅広い白色鞍形帯がみられる。

分布 インド・太平洋の温帯～亜熱帯域に分布するが、赤道付近には生息せず、反赤道性分布を示す。分布が連続しない個体群は、東アジア、南アフリカ、スリランカ、オーストラリア、ニュージーランド、フレンチポリネシア、ハワイ諸島から知られている (Motomura et al., 2010a)。国内では南日本に広く分布する。

備考 本種の学名は2010年まで *Scorpaenodes littoralis* (Tanaka, 1917) とされてきたが、Motomura et al. (2010a) によって同名義種は *Scorpaenodes evides* (Jordan & Thompson, 1914) の新参同物異名であることが明らかになった。

分布が連続していない各海域の個体群はそれぞれ形態が若干異なり、現在、形態と分子の両面から分類学的研究が進められている。本項の計数形質の記載は東アジア個体群（日本と台湾）の58個体に基づく。最大体長は83 mm。イソカサゴ属 *Scorpaenodes* は小型のカサゴであり、同所的に生息するネッタフサカサゴ属 *Parascorpaena* やマダラフサカサゴ属 *Sebastapistes* に似るが、背鰭棘が13本で、各棘が短いことから容易に区別される。イソカサゴは間鰓蓋骨上に明瞭な1黒色



■ イソカサゴ KAUM-I. 29784, 41.2 mm SL, Take-shima

斑をもつことから、同属他種とは容易に識別される。

硫黄島ではフサカサゴ科魚類の中で最も多くの個体数が確認された。

(本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 29492, 43.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29494, 41.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29499, 57.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29518, 23.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29628, 73.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29675, 27.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29732, 31.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29766, 41.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30547, 69.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30550, 34.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30587, 42.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30589, 29.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30590, 26.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31405, 49.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31641, 52.7 mm SL, Iou-

jima; KAUM-I. 31642, 73.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31682, 22.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31702, 62.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32319, 55.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32320, 58.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32321, 48.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32340, 70.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32341, 47.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32342, 44.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32343, 44.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32344, 27.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37667, 19.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37696, 73.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37821, 61.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37826, 52.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37828, 53.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37829, 52.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37830, 26.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37831, 52.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106098, 65.3 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106099, 49.3 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106100, 40.4 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106138, 47.4 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106157, 62.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106158, 59.8 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106159, 41.5 mm SL, Iou-jima.



■ マメサンゴカサゴ KAUM-I. 37662, 26.2 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 イソカサゴ属

マメサンゴカサゴ

Scorpaenodes hirsutus (Smith, 1957)

形態 背鰭 XIII, 8; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 31。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には2棘あるが未発達で逆三角形あるいは丸みを帯びる。涙骨側棘はない。眼下骨棘は3本。眼下骨隆

起の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。眼隔棘、および額棘はない。後頭窩は浅く、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。上・

下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

色彩 体は茶色味を帯びたまだら模様。主鰓蓋骨と間鰓蓋骨上に黒色斑はない。背鰭棘部に黒色斑はない。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。

備考 本項の記載は硫黄島から採集された

1標本に基づく。*Scorpaenodes hirsutus* (Smith, 1957) と *Scorpaenodes kelloggi* (Jenkins, 1903) は分類学的に混乱しており、両名義種のタイプ標本を含めた多くの標本に基づく分類学的研究が現在進められている。日本からは *S. hirsutus* のみが記録されており、標準和名マメサンゴカサゴが提唱されている(中坊, 2000)。硫黄島産の標本は、*S. kelloggi* のタイプ標本と形質がよく一致するため (Motomura, unpub. data)、*S. hirsutus* ではなく、*S. kelloggi*

である可能性が高い。しかし、中坊 (2000) の「マメサンゴカサゴ *S. hirsutus*」や *S. hirsutus* 自体の正体が現時点では不明なため、和名の検討等は今後の研究結果を待たなければならない。ここでは便宜的にこれまで日本から記録されている「マメサンゴカサゴ *S. hirsutus*」として掲載する。

硫黄島産の標本はどちらの種であっても分布の北限更新記録となる。

(本村浩之)



■ グアムカサゴ KAUM-I. 32673, 22.0 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 イソカサゴ属

グアムカサゴ

Scorpaenodes guamensis (Quoy & Gaimard, 1824)

形態 背鰭 XIII, 8-9; 臀鰭 III, 4-5; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 42-45。体側の鱗は楯鱗。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には2棘あるが未発達で逆三角形あるいは丸みを帯びる。涙骨側棘はよく発達するが、稀に隆起のみで棘をもたないこともある。眼下骨棘は2本で、第1棘は眼の下方、2棘は眼の後方に位置する。第1眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は

単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。眼隔棘と耳棘はない。後頭窩は浅く、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは茶色味を帯びる。主鰓蓋骨上に1黒色斑をもつ。ふつう胸鰭基底には黒色帯がないが、写

真個体のように薄い黒色帯をもつものもある。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。

備考 *Scorpaenodes guamensis* とサンゴカサゴ *Scorpaenodes scaber* (Ramsay & Ogilby, 1886) を含むグアムカサゴ類似種群は分類学的にきわめて混乱している。現在研究が進んでいるが、*S. scaber* はオーストラリア温帯域の固有種で、サンゴカサゴと呼ばれている種は未記載種の可能性が高い (Motomura, unpub. data)。

硫黄島からは幼魚1個体のみが採集された。この個体(写真)は典型的なグアムカサゴと比べて体高が低く、一見マメサンゴカサゴのように見える。しかし、計数形質や色彩はグアムカサゴの特徴を示しており、本報告ではグアムカサゴと同定した。

(本村浩之)



■ セボシイソカサゴ KAUM-I. 37694, 12.5 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 イソカサゴ属

セボシイソカサゴ

Scorpaenodes varipinnis Smith, 1958

形態 背鰭 XIII, 8; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 38-40。体側の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には2棘あるが未発達で逆三角形あるいは丸みを帯びる。涙骨側棘はよく発達するが、稀に隆起のみで棘をもたないこともある。眼下骨棘は2本で、第1棘は眼の下方、2棘は眼の後方に位置する。第1眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。眼隔棘と額棘はない。後頭窩は浅く、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鑑蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは茶色味を帯びる。背鰭棘部後方に1黒色斑をもつ。胸鰭基底に明瞭な黒色帯がある。成魚は主鑑蓋骨上に1黒色斑をもつ。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では、伊豆諸島と琉球列島から標本に基づき記録されている。硫黄島産の標本は鹿児島県における本種の北限記録。



セボシソカサゴ KAUM-I. 30581, 11.5 mm SL, Iou-jima

備考 硫黄島からは幼魚2個体のみが採集された。硫黄島を含む大隅諸島からは本種の成魚が確認されておらず、同海域で本種が再生産しているかどうかは不明。

篠原(1998)は、Randall et al.(1997)の写真(pl. 4B: *S. varipinnis*)を引用して本種の分布域に小笠原諸島を含めたが、Randall et al.(1997)の *S. varipinnis* はイ

ソカサゴ *S. evides* である。したがって、セボシソカサゴは今だ標本に基づく小笠原諸島からの記録がない。

セボシソカサゴは、背鰭棘部後方に1黒色斑をもつこと、胸鰭基底に明瞭な黒色帯があることなどから同属他種と容易に識別される。

(新村浩之)



オニカサゴ Iou-jima, 9 Aug. 2011, K. Furuta

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

オニカサゴ

Scorpaenopsis cirrosa (Thunberg, 1793)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 54-62。吻長は頭長の28.9-32.8%。頭部各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。眼下縁窩は浅い。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨

隆起は良く発達し、後鼻孔後方から延び耳棘基底前方を越える。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は浅く、体側面からみて、眼の上方約1/4が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。後頭窩は極めて浅く、その前縁の隆起は背

面からみて後方に湾入し、後縁を縁取る隆起線は不明瞭、あるいは欠如する。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間はふつう無鱗であるが、ごく稀に極めて微小な鱗がある。最長背鰭棘は第4-5棘。臀鰭第2棘は第3棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富む。胸部と腹部を除く体と各鰭に小さな黒色点が散在する。

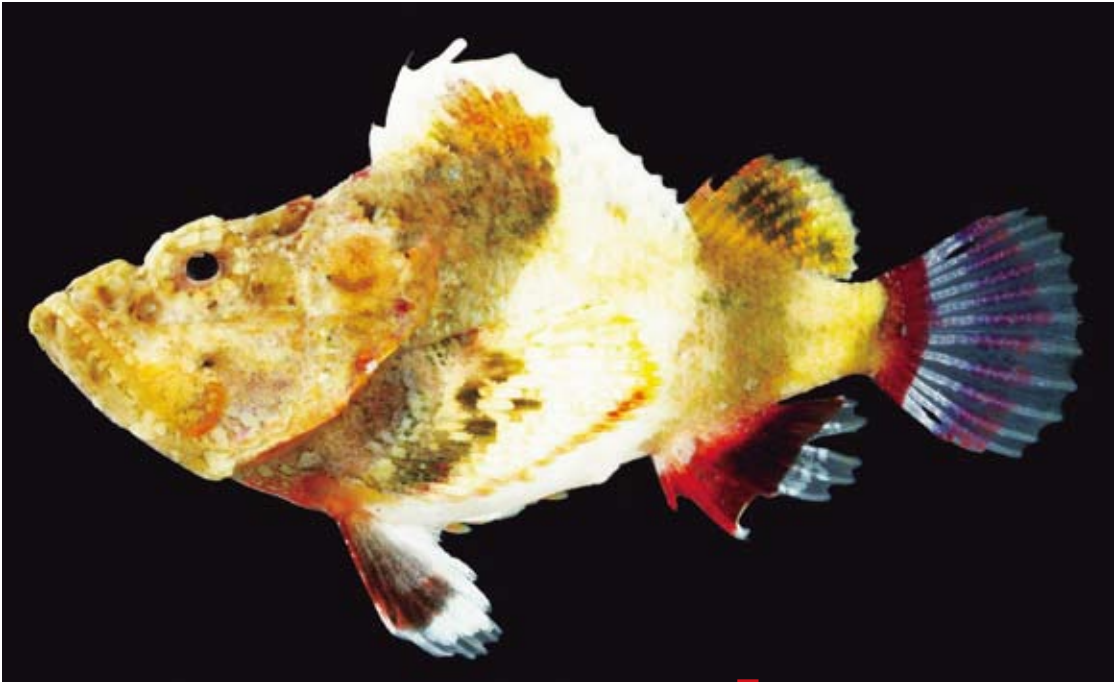
分布 東アジアの固有種で、日本、中国、および香港から記録されている。国内では、千葉・新潟両県から鹿児島県の沿岸域、および伊豆諸島に分布する。屋久島からの目視記録（市川ほか、1992；国安、1999）があるが、これらの記録は、オニカサゴに酷似し屋久島でごく普通にみられるイヌカサゴ *Scorpaenopsis ramaraoi* Randall & Eschmeyer, 2002 であると考えられている（Motomura et al., 2010c）。し

たがって、現在、オニカサゴの日本における確かな南限記録は硫黄島となる。

備考 オニカサゴは胸部と腹部を除く体と各鰭に小さな黒色点散在することから同属他種と容易に識別される。

硫黄島・竹島からは標本を採集することができなかったものの、確実に同定が可能な水中写真が撮影された。

（本村浩之）



ニライカサゴ KAUM-I. 37663, 24.8 mm SL, Iou-jima



ニライカサゴ KAUM-I. 29604, 17.2 mm SL, Iou-jima



ニライカサゴ Take-shima, 13 July 2007, S. Dewa

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

ニライカサゴ

Scorpaenopsis diabolus (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 41-47; 鰓耙 12-15。吻長は頭長の 29.6-35.8%。眼隔幅は頭長の 20.4-25.3% で、眼窩径より大きい。眼窩径は頭長の 14.4-19.9%。涙骨隆起は鋸歯状を呈し、その先端はふつう露出するが、稀に先端が皮下に埋没する。涙骨下縁には 2 棘あり、幼魚では単尖頭だが、成魚では稀に複尖頭。眼下骨棘は 4 本で鋸歯状を呈し、成長に伴いそれぞれが繋がり、鋸歯状の 1 隆起線を形成する。眼下縁窩前方は深く窪む。鼻棘は鋸歯状を呈さず、2-7 尖頭を有する。成長に伴い鼻棘の尖頭数は多くなる傾向がある。吻膨大部の後縁は後鼻孔後縁に達するが僅かに越える。前頭骨隆起は眼前棘基底中央から眼上棘基底後方に達する。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘の縁辺は鋸歯状を呈す。耳棘の基底は眼上棘と眼後棘の基底と癒合する。後頭窩は深く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入し、後縁を縁取る隆起線は良く発達する。額棘はふつうないが、痕跡的な額棘を片側だけもつ個体と両側によく発達した額棘をもつ個体もみられる。上後側頭棘はふつう 2 尖頭だが、ごく稀に 3 尖頭。体長約 180 mm 以上の大型個体は上後側頭棘が鋸歯状を呈す。頭頂棘、頭

棘翼耳骨、下後側頭棘および上擬鎖骨棘は鋸歯状を呈す。主鰓蓋骨上方棘の後端は 5-10 尖頭、下方棘は 3-8 尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗、背鰭基底前方で体の背縁が著しく隆起する。最長背鰭棘は第 3 棘。臀鰭第 2 棘は第 3 棘より長い。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側の第 1 鰭条から第 6 鰭条までの鰭膜の外縁付近に眼径より大きい長楕円形の 1 黒斑がある。胸鰭内側の基底上方の鰭膜および鰭条部に眼径よりやや大きい 1 黒斑がある個体と黒斑がない個体がある。胸鰭内側の基底部には明瞭な黒斑はなく、まだら模様を呈す。体長約 110 mm 以下の幼魚は、背鰭棘部基底中央から胸鰭基底を通り、胸部にかけての体側上を眼径より太い 1 黒色帯が斜めに走る（生時）。

分布 南アフリカからマルキーズ諸島にかけてのインド・太平洋域に広く分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、南日本太平洋岸、琉球列島から知られている。

備考 中坊（1993）は本種の標準和名としてセムシカサゴを提唱した。しかし、「せむし（僂僂）」は、背骨が後方に湾曲して前かがみになっていることを意味し、身体障害者に対する差別用語として社会的に広く認識されている。そのため、本村ほか（2004）はセムシカサゴを改称し、ニライカサゴとした。

本種は眼窩径が眼隔幅より広いこと、眼

隔域中央隆起が欠如すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が複尖頭であることによって、マルスベカサゴ *Scorpaenopsis macrochir* Ogilby, 1910 とサツマカサゴ *Scorpaenopsis neglecta* Heckel, 1837 を除く日本産同属他種と区別される。ニライカサゴは上記 2 種と比較して、上後側頭棘がふつう 2-3 尖頭であること（後者 2 種ではふつう単尖頭）、主鰓蓋骨下方棘の後端が 3-8 尖頭であること（ふつう単尖頭）、背鰭第 3 棘が最長であること（第 4 棘が最長）、胸鰭条数がふつう 18 であること（ふつう 17）、および胸鰭内側の外縁上方に眼径より大きい 1 黒斑があること（1 黒斑はなく、外縁近くに 1 黒色帯があることなど）によって、容易に識別される。ただし、ニライカサゴの大型個体（体長約 180 mm 以上）とサツマカサゴはともに上後側頭棘が鋸歯状を呈するため、この形質のみで両種を区別できない。また、ニライカサゴの鰓耙数は 12-15（最頻値 13）であり、14-15（14）のマルスベカサゴと 14-16（14）のサツマカサゴより若干少ない傾向がある（本村ほか、2004）。

硫黄島から採集された体長 17.2 mm の個体（前写真）は典型的なニライカサゴと比べて体高が著しく低い。硫黄島と竹島からはニライカサゴの若魚・成魚を確認することができなかった。本種が同周辺海域で再生産しているかどうかは不明である。なお、現在のところ、近縁のサツマカサゴとマルスベカサゴも同海域における生息は確認されていない。

（本村浩之）



トウヨウウルマカサゴ KAUM-I. 37701, 295.8 mm SL, Iou-jima



トウヨウウルマカサゴ KAUM-I. 31403, 86.9 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

トウヨウウルマカサゴ

Scorpaenopsis orientalis Randall & Eschmeyer, 2002

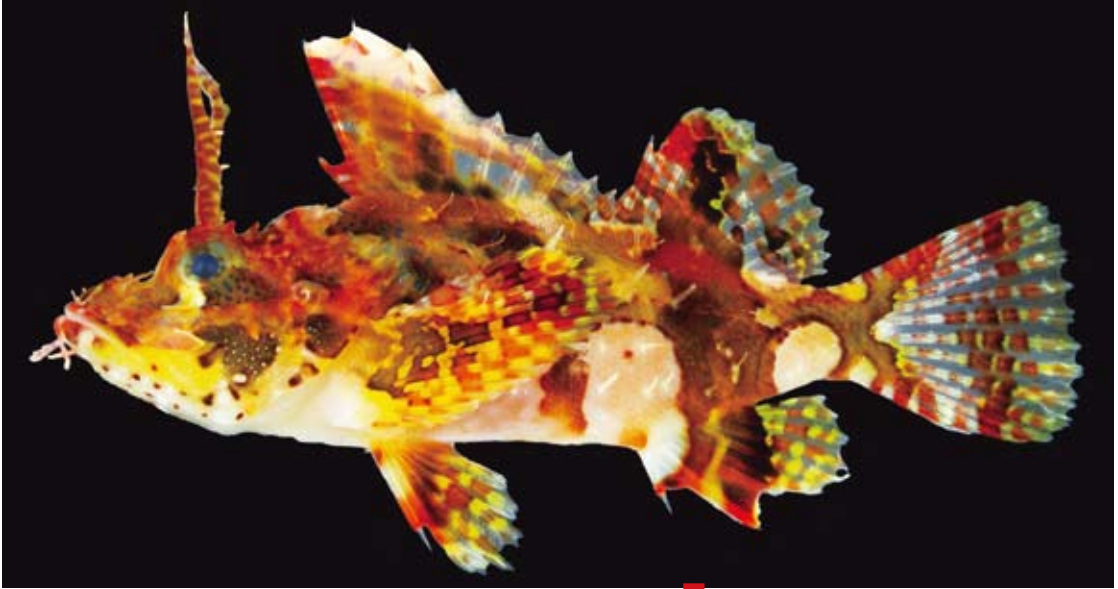
形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 18-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 54-60。吻長は頭長の 32.8-35.7%。眼窩径は頭長の 15.6-20.6%。頭部の各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。眼下縁窩は著しく窪み、眼窩前縁下方で最深。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は後鼻孔後方から眼後棘基底後方に延びる。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は深く、体側面からみて、眼の上方約 1/2 が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。後頭窩は浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入し、成魚では後縁を縁取る

隆起線が良く発達する。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗。最長背鰭棘は第 3 棘。

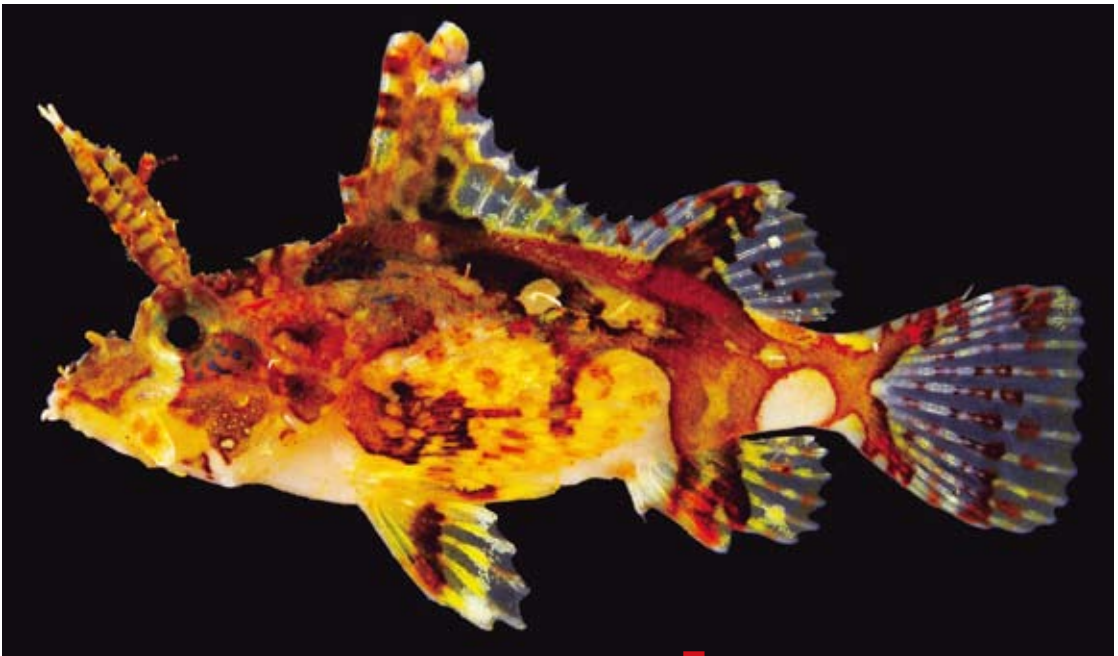
色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側の基部上方には眼径とほぼ同大で輪郭が不明瞭な 1 黒色斑がある。

分布 現在のところ小笠原諸島、宮崎県、鹿児島県（硫黄島）からのみ標本に基づいて記録されている。水中写真から判断すると伊豆諸島や和歌山県以南の南日本、琉球列島に広く分布すると思われる。

備考 トウヨウウルマカサゴは眼窩径が眼隔幅より狭いこと、眼隔域中央隆起が発達すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が単尖頭であることなどで、日本産オニカサゴ属 6 種と類似種群を形成する（本村ほか, 2004）。これら 6 種は、オニカサゴ *Scorpaenopsis cirrosa* (Thunberg, 1793)、オオウルマカサゴ *Scorpaenopsis oxycephala* (Bleeker, 1849)、ウルマカサゴ *Scorpaenopsis papuensis* (Cuvier, 1829)、ミトゲオニカサゴ *Scorpaenopsis possi* Randall & Eschmeyer, 2002、イヌカサゴ *Scorpaenopsis ramaraoi* Randall & Eschmeyer, 2002、およびヒユウガカサゴ *Scorpaenopsis venosa* (Cuvier, 1829)。トウヨウウルマカサゴは、オオウルマカサゴとウルマカサゴに外観上良く類似することから、日本ではこれまで混同されてきた。



トウヨウウルマカサゴ KAUM-I. 30551, 33.5 mm SL, Iou-jima



トウヨウウルマカサゴ KAUM-I. 29429, 19.7 mm SL, Iou-jima

しかし、ウルマカサゴはトウヨウウルマカサゴとオオウルマカサゴと比較して、成魚では主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間に鱗があることにより容易に識別される（後者2種では成長によらず無鱗）。また、ウルマカサゴは側線鱗横列数が少なく47-55であること、吻が背面からみてやや太短く、吻長が頭長の32.5-35.6%であること、眼はやや大きく、眼窩径が頭長の17.1-22.1%であることから、トウヨウウルマカサゴとオオウルマカサゴの両種（側線鱗横列数54-

67；吻長が頭長の32.8-36.6%；眼窩径が頭長の14.6-20.6%）とは識別される。

オオウルマカサゴは、トウヨウウルマカサゴと極めて類似するが、成魚では浅い後頭窩の後縁を縁取る隆起線が欠如することで、その隆起線が良く発達するトウヨウウルマカサゴと容易に区別される。しかし、後頭窩の窪みが形成される前の幼魚では、この形質で両種を識別することは難しい。オオウルマカサゴは胸鰭条数が18-20（最頻値20）、および側線鱗横列

数が59-67（64）であることから、それぞれ値が18-19（18）、および54-60（57）であるトウヨウウルマカサゴと識別することが可能である。

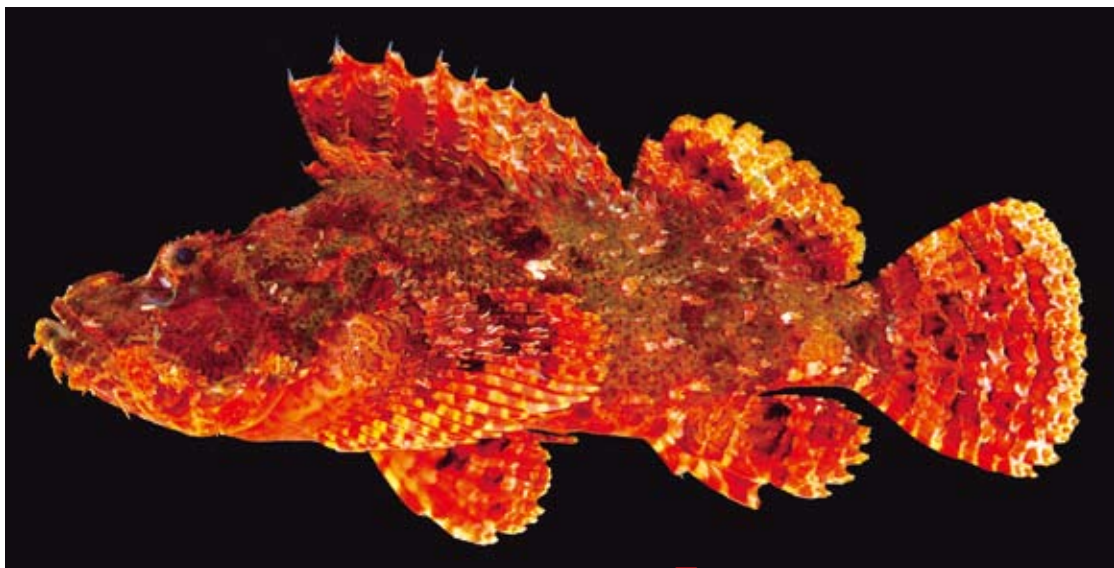
硫黄島からは幼魚から成魚まで幅広いステージが採集・観察されており、同海域に定着しているのは疑いが無い。

（本村浩之）

Other collected specimens: KAUM-I. 32322, 60.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 33935, 77.2 mm SL, Iou-jima.



トウヨウウルマカサゴ lou-jima, 27 June 2010, Y. Matsuda



オオウルマカサゴ KAUM-I. 29640, 209.8 mm SL, Take-shima

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

オオウルマカサゴ

Scorpaenopsis oxycephala (Bleeker, 1849)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 59-67。吻長は頭長の 32.8-37.0%。成魚の眼窩径は頭長の 14.7-17.7%。頭部の各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。眼下縁窩は著しく窪み、眼窩前縁下方で最深。吻膨状部後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は後鼻孔後方から眼後棘基底後方まで延びる。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は深く、体側面からみて、眼の上方約 1/2 が頭部の

輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。後頭窩は極めて浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入し、後縁を縁取る隆起線はない。額棘はない。上後側頭棘は著しく小さい。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗。最長背鰭棘は第 3 棘。臀鰭第 2 と第 3 棘はほぼ同長。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側に顕著な色彩的特徴はない。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。国内からは沖縄島（本村ほか, 2004）と硫黄島からのみ標本に基づいて知られている。水中写真から判断すると琉球列島に広く分布すると考えられる。

備考 オオウルマカサゴは眼窩径が眼隔幅より狭いこと、眼隔域中央隆起が発達すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が単尖頭であることなどで、日本産オニカサゴ属 6 種と類似種群を形成する（6 種の詳細はトウヨウウルマカサゴの備考を参照）。本種とオニカサゴ *Scorpaenopsis cirrosa* (Thunberg, 1793) を比較すると、オオウルマカサゴは背鰭第 3 棘が最長であること（オニカサゴでは第 4 か 5 棘）、眼隔域が深く、体側面からみて、眼の上方約 1/2 が頭部の輪郭から突出すること（眼隔域が浅く、眼の突出は約 1/4）、および吻が長く頭長の 32.8-36.6% であること（28.9-32.8%）などから識別される。また、オニカサゴは胸部と腹部を除く体と各鰭に小さな黒色点が散在するが、この色彩的特徴はオニカサ

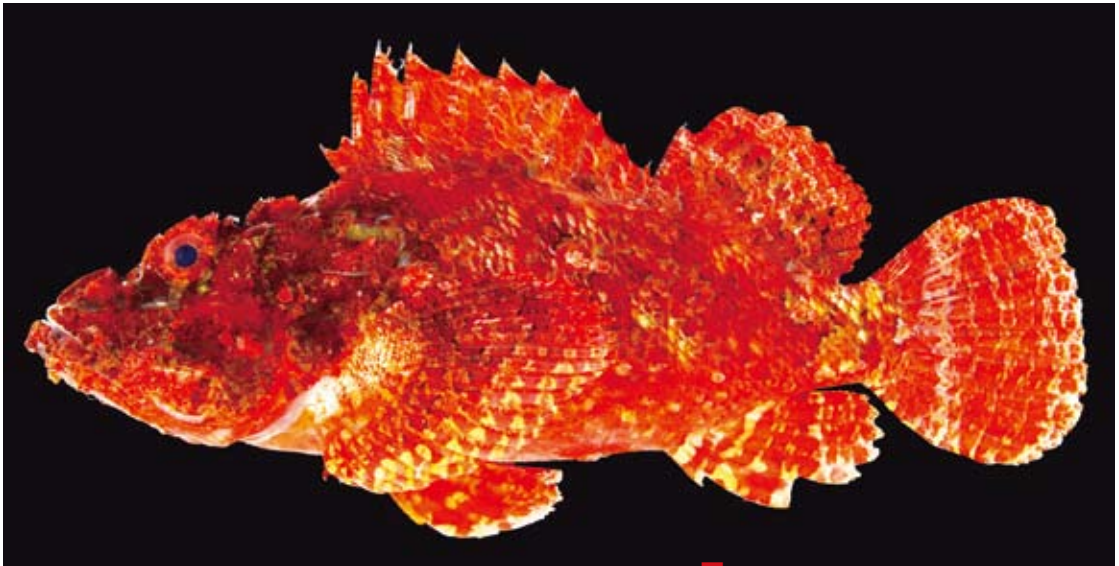
ゴのみにみられる特徴である。オオウルマカサゴと硫黄島・竹島から確認されたオニカサゴ以外の近縁種との比較は後者の備考を参照。

中坊（1993）は、日本初記録種としてウルマカサゴ *Scorpaenopsis oxycephala* を報告した。しかし、中坊（1993）がウルマカサゴとした標本を調査した結果、これらの

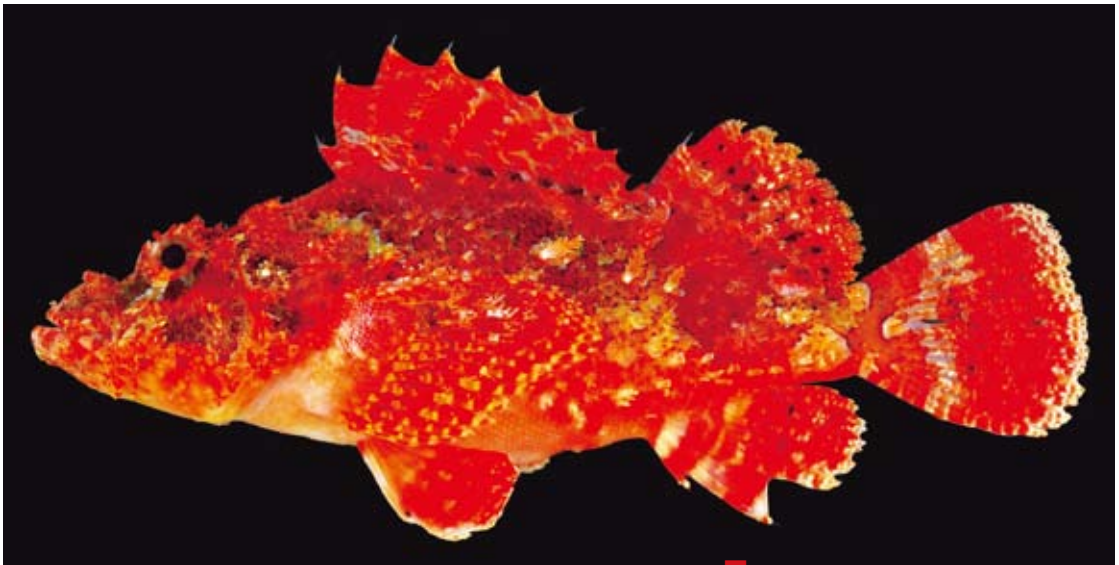
標本は *Scorpaenopsis papuensis* であることが明らかになった（本村ほか，2004）。このため、標準和名ウルマカサゴを *S. papuensis* に対応させ、*S. oxycephala* の標準和名として新たにオオウルマカサゴが提唱された（本村ほか，2004）。*Scorpaenopsis papuensis* の最大体長が 223 mm であるのに対し、*S. oxycephala*

は本属の中でも大型で、体長 340 mm に達する。これが「オオ」ウルマカサゴの由来である。

竹島産の標本（写真個体）はオオウルマカサゴの国内産で 2 番目の標本である。（本村浩之）



■ ウルマカサゴ KAUM-I. 29638, 207.5 mm SL, Take-shima



■ ウルマカサゴ KAUM-I. 29608, 121.2 mm SL, Iou-jima

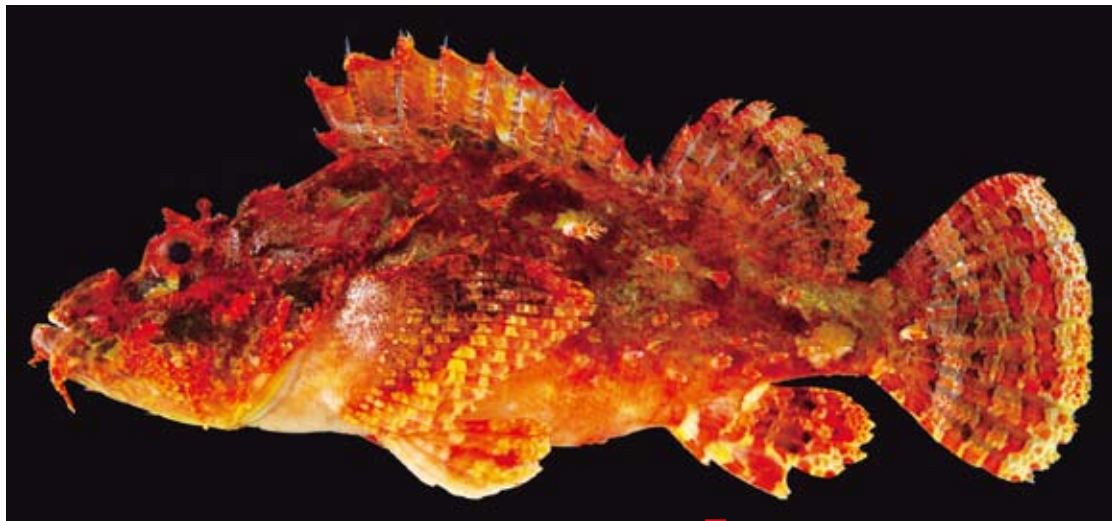
カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

ウルマカサゴ

Scorpaenopsis papuensis (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17–20; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 47–55。吻長は頭長の 32.5–35.6%。眼窩径は頭長の 17.1–22.1%。頭部の各棘は鋸歯状を

呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。眼下縁窩は著しく窪み、眼窩前縁下方で最深。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は良く発達し、後



ウルマカサゴ KAUM-I. 29639, 187.6 mm SL, Take-shima

鼻孔後方から延び耳棘基底前方を越える。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は深く、体側面からみて、眼の上方約 $\frac{1}{2}$ が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。眼上棘には小型の個体ほど良く発達した1皮弁があるが、大型の個体では皮弁が痕跡的に残るか、あるいは欠如する。耳棘は良く発達し、その基底は稀に前頭骨隆起と連絡する。後頭窩は浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入する。成魚では窪みの後縁を縁取る隆起線が発達するが、体長10 cm以下の個体では隆起線が不明瞭あるいは欠如する。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。体長10 cm以上の個体は主鰓

蓋骨上方棘と下方棘の間に鱗を有するが、体長9 cm以下の個体では無鱗。最長背鰭棘は第3棘。臀鰭第2棘は第3棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側に顕著な色彩的特徴はない。

分布 東インドと（ハワイを除く）西太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。国内からは南日本太平洋岸、伊豆諸島、琉球列島から知られている。

備考 ウルマカサゴは眼窩径が眼隔幅より狭いこと、眼隔域中央隆起が発達すること、

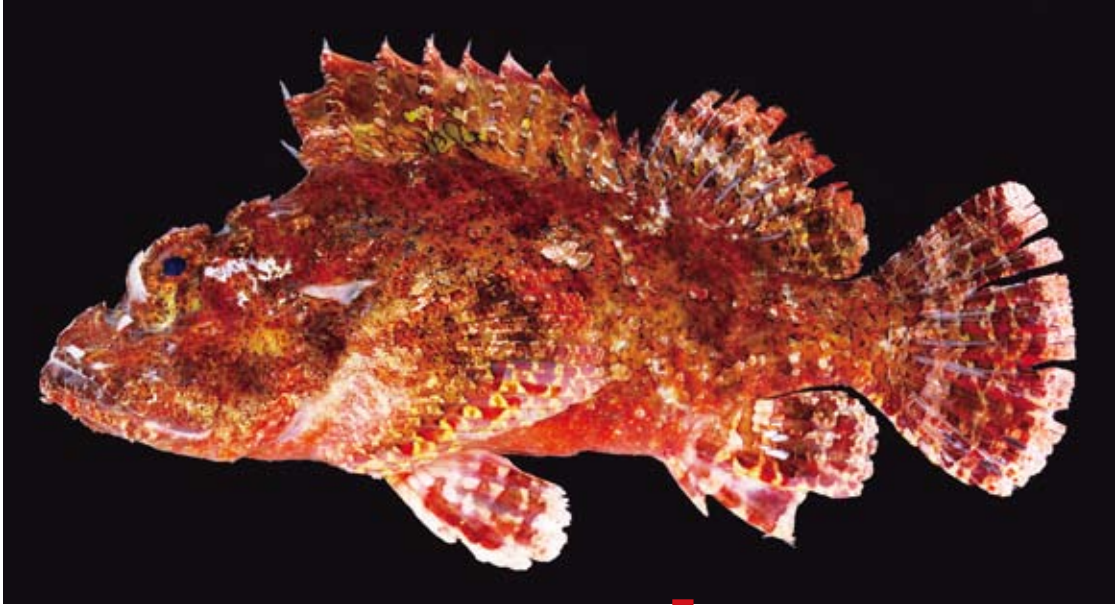
主鰓蓋骨上方棘の後端が単尖頭であることなどで、日本産オニカサゴ属6種と類似種群を形成する（6種の詳細はトウヨウウルマカサゴの備考を参照）。ウルマカサゴと硫黄島・竹島から確認された近縁種の比較は後者の備考を参照。

（本村浩之）

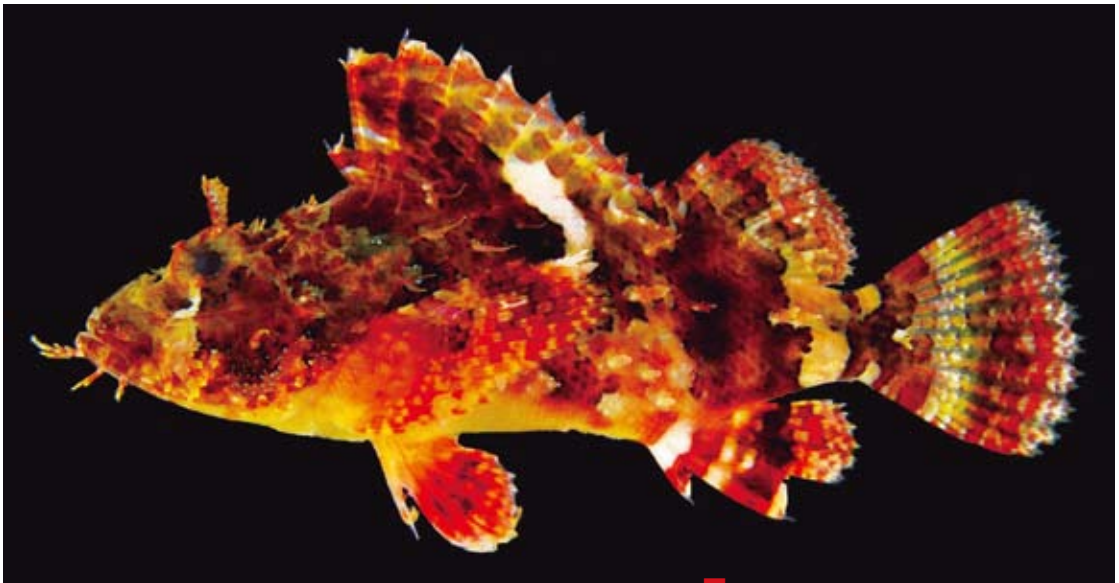
Other collected specimens: KAUM-I. 29564, 166.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31404, 81.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31643, 32.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 33934, 104.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37608, 175.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37697, 90.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37827, 86.2 mm SL, Iou-jima.



ミトゲオニカサゴ KAUM-I. 29606, 132.2 mm SL, Iou-jima



■ ミミトゲオニカサゴ KAUM-I. 31389, 175.5 mm SL, Take-shima



■ ミミトゲオニカサゴ KAUM-I. 29563, 54.1 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

ミミトゲオニカサゴ

Scorpaenopsis possi Randall & Eschmeyer, 2002

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 44-49。眼隔域は頭長の 13.2-17.5%。頭部の各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。眼下縁窩はやや深い。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は良く発達し、後鼻孔後方から

延び耳棘基底前方を僅かに越える。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は深く、体側面からみて、眼の上方約 1/2 が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。成魚ではふつう発達した 1 余棘がある (稀に 2-6 棘あるいは小瘤)。後頭窩は浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方



■ ミミトゲオニカサゴ KAUM-I. 31704, 17.7 mm SL, Iou-jima

に湾入し、後縁を縁取る隆起線は不明瞭。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗。最長背鰭棘は第3-4棘。臀鰭第2棘は第3棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側に顕著な色彩的特徴はない。

分布 南アフリカ共和国からマルキーズ諸島にかけて、インド・太平洋域の熱帯・亜熱帯域に広く分布するが、南西太平洋では近縁種の *Scorpaenopsis eschmeyeri* Randall & Greenfield, 2004 が生息し、ミミゲオニカサゴは同海域には出現しない。国内では九州以南に分布する。

備考 ミミゲオニカサゴの成魚は、ふつう眼後棘内側の耳棘前方に発達した1余棘(稀に2-6棘)をもつことから、他種と容易に区別される。しかし、本種の体長60mm以下の幼魚および稀に成魚でも余棘がない個体があり、余棘の有無の差異のみで外観上類似するオニカサゴ *S. cirrosa* とイヌカサゴ *S. ramaraoi* から区別することは難しい。ミミゲオニカサゴと後者2種を比較すると、前者は胸鰭条数が17-18(最頻値17)であること[後者2種では17-19(18)]、側線上方鱗横列数が44-49(46)であること[オニカサゴでは54-62(57)]、最長背鰭棘が第3-4棘であること(後者2種では第4-5棘)、および眼隔域が比較的深く、体側面からみて、眼の上方約1/2が頭部の輪郭から突出すること(後者2種

では約1/4)などから幼魚でも識別することが可能である。なお、ミミゲオニカサゴの胸鰭条数は17-18であるが、本村ほか(2004)で調査された35個体中32個体が17本であり、18本を有する残りの3個体中2個体も右側の胸鰭条数が17であることから、本種の胸鰭条数は、範囲があるものの識別的特徴としては十分な形質であるといえる。また、ミミゲオニカサゴは眼隔幅が頭長の13.2-17.5%であり、近縁種の中で最も広い傾向がある。

(本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 31388, 133.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31684, 12.8 mm SL, Iou-jima.



イヌカサゴ KAUM-I. 29412, 132.1 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

イヌカサゴ

Scorpaenopsis ramaraoi Randall & Eschmeyer, 2002

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方鱗横列数 45-51。頭部各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は尖り、皮膚から露出する(幼魚では皮膚に埋没する)。眼下縁高は窪まない。吻膨大部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は不明瞭。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は浅く、体側面からみて、眼の上方約1/4が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。眼上棘には1皮弁がある。後頭高は極めて浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入し、後縁を縁取る隆起線はない。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗。最長背鰭棘は第4棘(ごく稀に第3棘が

最長)。臀鰭第2棘は第3棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは灰色あるいは茶色味を帯びる。胸鰭内側に顕著な色彩的特徴はない。

分布 パキスタン以東のインド洋、およびオーストラリアを除くニューカレドニア以西の西太平洋に分布する。国内では宮崎県、鹿児島県、および沖縄県から標本に基づく記録がある。

備考 イヌカサゴは眼窩径が眼隔幅より狭いこと、眼隔域中央隆起が発達すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が単尖頭であることなどで、日本産オニカサゴ属6種と類似種

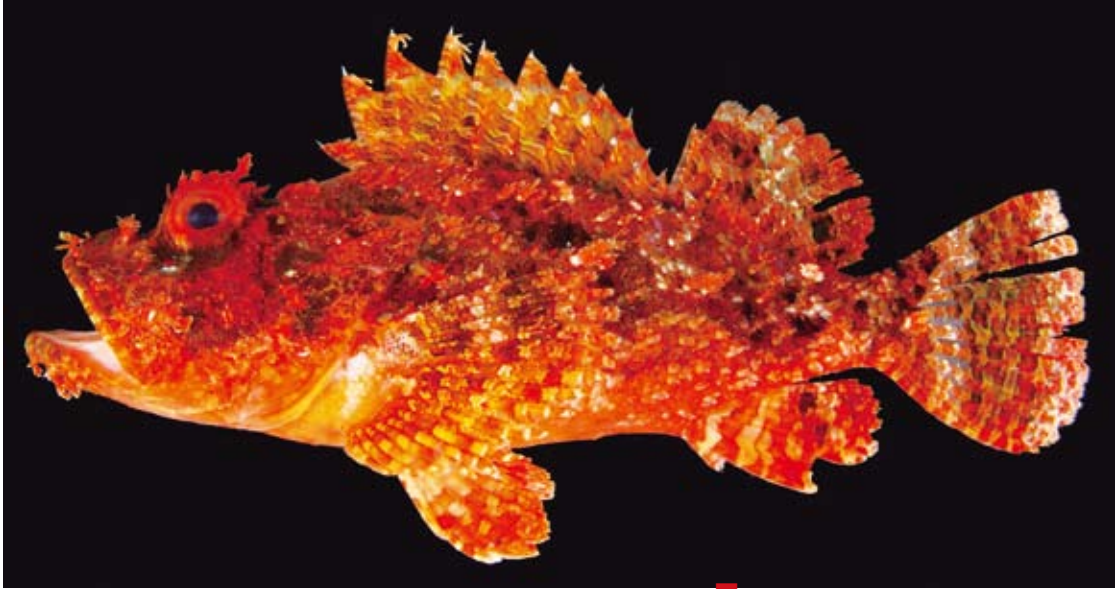
群を形成する(6種の詳細はトウヨウウルマカサゴの備考を参照)。イヌカサゴの成魚は涙骨隆起の先端が尖り、皮膚から露出することから、本群の他種と容易に区別される。イヌカサゴの体長90mm以下の幼魚は涙骨隆起の先端が皮膚に埋没するが、涙骨隆起の特徴が発現していない幼魚時でも、最も類似するオニカサゴ *S. cirrosa* とは側線上方鱗横列数が少ないことから容易に区別することができる。

本種の上顎前部に突き出している尖った涙骨隆起はイヌの犬歯を連想させるため、イヌカサゴと命名された(本村ほか, 2004)。

硫黄島からは2個体が採集されたにすぎないが、屋久島では本属魚類の中でも数が多く、容易に観察される。

(本村浩之)

Other collected specimen: NSMT-P 106173, 96.7 mm SL, Iou-jima.



ヒュウガカサゴ KAUM-I. 37640, 140.3 mm SL, Iou-jima



ヒュウガカサゴ KAUM-I. 31701, 45.4 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

ヒュウガカサゴ*Scorpaenopsis venosa* (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 47-53。眼窩径は頭長の 20.0-22.9%。頭部各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。眼下縁窩前方はやや窪む。

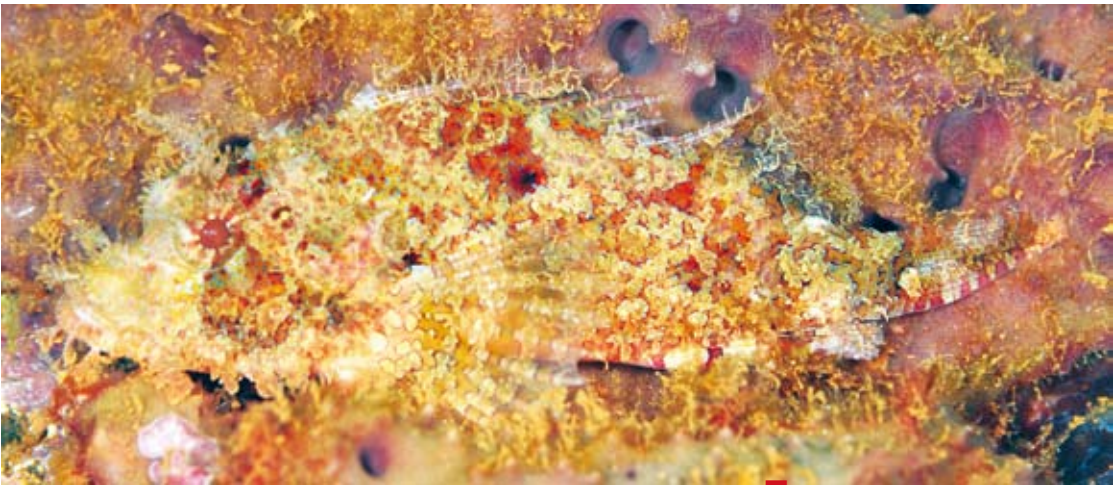
吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は発達し、鼻孔後方から延び耳棘基底前方に達する。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は深く、体側面からみて、眼の上方約 1/2 が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。眼上棘の皮弁は完全に欠如する個体から眼窩径より長い皮弁を有する個体まで変異に富み、この変異は成長段階に因らない。耳棘は良く発達し、その基底は前頭骨隆起と連絡し、さらに左右耳棘を結ぶ隆起線は

後頭窩前縁を形成する。後頭窩は著しく深く、その前縁の隆起は直線あるいは背面からみて前方にやや湾入する。この窪みの後縁を縁取る隆起は発達する。額棘はふつうないが、ごく稀に頭部片側にのみ額棘がある。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間に鱗がある個体と無鱗の個体がいる。最長背鰭棘は第 3-4 棘。臀鰭第 2 棘は第 3 棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側に頭



ヒュウガカサゴ Iou-jima, 7 Nov. 2010, Y. Matsuda



ヒュウガカサゴ Iou-jima, 20 Aug. 2011, S. Dewa

著な色彩的特徴はない。

分布 インド・西太平洋域の大陸棚上を中心に分布する。国内では高知県、宮崎県、および鹿児島県（硫黄島）から標本に基づき記録されている。水中写真から、本種は南日本の太平洋沿岸に広く生息すると考えられる。

備考 ヒュウガカサゴは眼窩径が眼隔幅より狭いこと、眼隔域中央隆起が発達すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が単尖頭であることなどで、日本産オニカサゴ属6種と類似種群を形成する（6種の詳細はトヨウウルマカサゴの備考を参照）。ヒュウガカサゴは後頭窩が著しく深く（右の頭部拡大写真を参照）、その前縁の隆起線が直線あ

るいは前方に向かって湾入していることなどからすべての同属他種と容易に区別される。また、ヒュウガカサゴは眼窩径が頭長の20.0–22.9%（平均21.1%）であり、本群の中で最も眼が大きい。

オニカサゴ属魚類はふつう岩礁やサンゴ礁に好んで生息するが、ヒュウガカサゴやサツマカサゴなど一部の種は岩礁やサンゴ礁の近くにある砂地や砂泥底でじっとしているところがよく観察される。

本種は宮崎県では年間を通して大量に水揚げされており、宮崎県沿岸の日向灘海域では同属の普通種オニカサゴ *S. cirrosa* と同程度の生息数であると考えられている（本村ほか，2004）。本種の標準和名は生息数が多い日向灘に由来する。

（本村浩之）

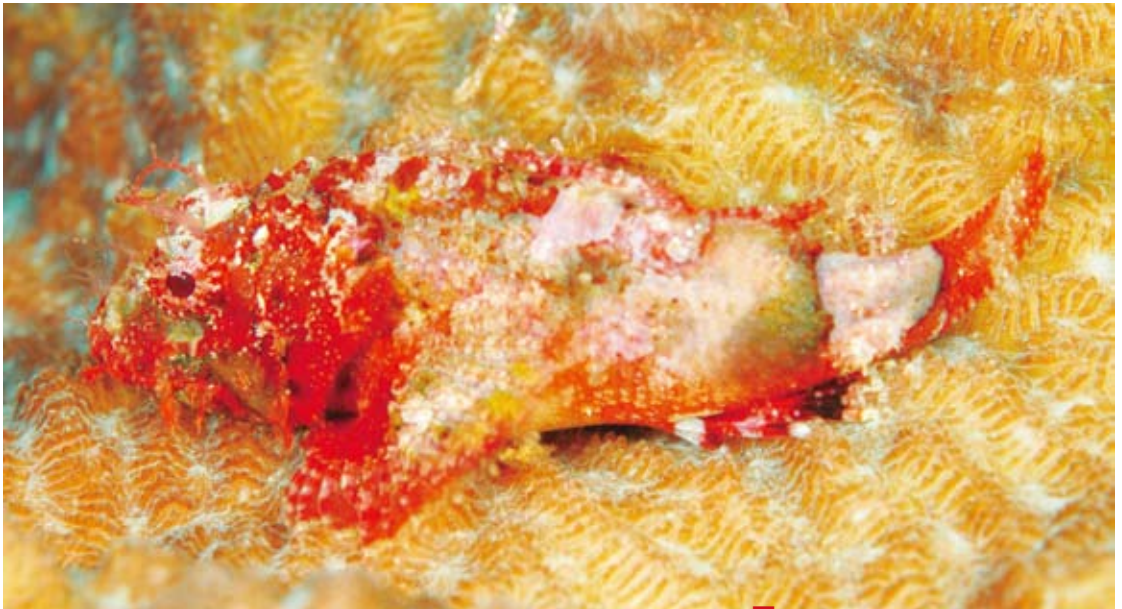


ヒュウガカサゴ Iou-jima, 21 Aug. 2011, E. Shinkai

Other collected specimens: KAUM-I. 29501, 142.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29502, 123.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29503, 88.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31651, 96.2 mm SL, Iou-jima.



コガタオニカサゴ KAUM-I. 31703, 36.8 mm SL, Iou-jima



コガタオニカサゴ Iou-jima, 9 Oct. 2010, E. Shinkai

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

コガタオニカサゴ

Scorpaenopsis vittapinna Randall & Eschmeyer, 2002

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 40-44。体高は体長の 36.0-36.1%。眼窩径は頭長の 20.7-21.6%。体は側扁する。頭部の各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。涙骨下縁には 2 棘あり、後方棘の先端は 2 尖頭。眼下縁窩前方はやや窪む。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁を越えない。前頭骨隆起は後鼻孔

後方から伸び眼後棘基底前方に達する。眼隔域中央隆起は欠如する。眼隔幅は眼窩径より小さい。後頭高は極めて浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入し、後縁を縁取る隆起線はない。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘の後端は 2 尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗。最長背鰭棘は第 4-5 棘。臀鰭第 2 棘は第 3 棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側に顕著な色彩的特徴はない。腹鰭と臀鰭にそれぞれ黒色あるいは暗赤色の幅の広い帯がある（固定後は黒色帯）。

分布 南アフリカ共和国からタヒチにかけて、オーストラリアとハワイなどを除くインド・太平洋域に広く分布する。国内では鹿児島県（硫黄島）、沖縄県、および小笠原諸島からのみ標本に基づく記録がある。

備考 コガタオニカサゴは眼窩径が眼隔幅より狭いこと、眼隔域中央隆起が欠如すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が複尖

Scorpaenidae

頭であることなどから、ヒメサツマカサゴ *Scorpaenopsis cotticeps* Fowler, 1938 を除く日本産同属他種と識別される。

コガタオニカサゴは、ヒメサツマカサゴと比較して、涙骨下縁の後方棘が成魚では2尖頭であること（後者では単先頭）、胸

鰭条数が17-19（16-17）、側線上方鱗横列数が40-44（33-38）、有孔側線鱗数が20-21（16-18）、吻膨状部の後縁が後鼻孔後縁を越えること（越えない）などから識別される。

コガタオニカサゴの姉妹種 *Scorpaeno-*

psis brevifrons Eschmeyer & Randall, 1975 はハワイ諸島の固有種であるが、本名義種は2002年までコガタオニカサゴの学名として使用されていた。

（本村浩之）



ブチフサカサゴ KAUM-I. 37664, 24.4 mm SL, Iou-jima



ブチフサカサゴ KAUM-I. 29674, 26.6 mm SL, Take-shima

カサゴ目 フサカサゴ科 マダラフサカサゴ属

ブチフサカサゴ

Sebastapistes fowleri (Pietschmann, 1934)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-16; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 30-34。体側上方の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には3棘あり、後方棘は下向き。涙骨側棘はない。眼下骨棘は2本で、第1棘は眼の下方、2棘は眼の後方に位置する。第1眼下骨棘の下に棘はない。鼻棘は単尖頭で、しばしば皮下に埋没する。眼隔域中央隆起、眼隔棘、額棘、および余棘はない。眼上棘と眼後棘は単尖頭で、耳棘より小さい。後頭窩はなく、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。

カサゴ目 フサカサゴ科 マダラフサカサゴ属

マダラフサカサゴ

Sebastapistes strongia (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 14-16; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 40-44。体側上方の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はある。涙骨下縁には2棘あり、後方棘は強大で後向き。涙骨側棘はない。眼下骨棘は2-3本。第1眼下骨棘の下に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起、眼隔棘、額棘、および余棘はない。眼上棘と眼後棘は単尖頭。後頭窩はなく、ほぼ平ら。耳棘基底の後端は翼耳棘基底前端より後ろに位置する。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰭蓋骨上方・下方棘は単尖頭。主鰭蓋骨下方棘は中央隆起線がある。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは灰色あるいは褐色のまだら模様。下顎下面に複数の褐色あるいは黒色の横線が走る。

分布 インド・太平洋域に分布する。国内では南日本の太平洋岸から琉球列島にか

カサゴ目 フサカサゴ科 ハダカハオコゼ属

ハダカハオコゼ

Taenianotus triacanthus Lacepède, 1802

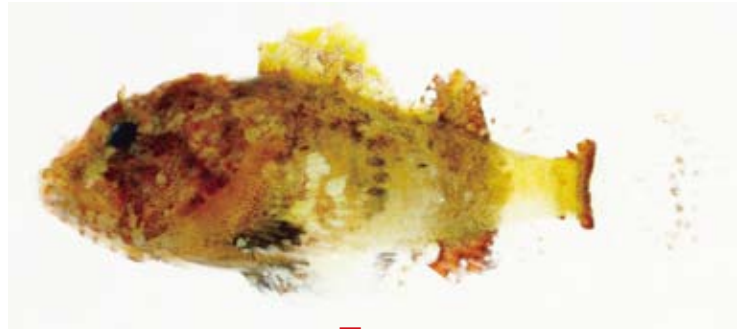
形態 背鰭 XII, 10; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5。頭と体は強く側扁する。体側に鱗はない。口蓋骨歯はない。涙骨側棘、眼下骨棘はない。

色彩 体色は黄色、桃色、茶色、白色など変異に富む。同一個体が様々な色に変化することができる。

下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰭蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

色彩 体色は変異に富む。色彩における性的二型は知られていない。

分布 インド・太平洋域に広く分布する。国内では石垣島、伊江島、加計呂麻島、および屋久島から標本に基づき記録されている (Motomura & Senou, 2009)。本調査によって、鹿児島県硫黄島と竹島、高知県沖ノ島 (BSKU 75474, 30.3 mm SL)、および伊豆半島東岸 (FAKU 59114, 34.6 mm SL) から得られた標本が確認された。したがって、本種は伊豆半島以南の太平洋岸と琉球列島に広く生息すると考えられる。



マダラフサカサゴ KAUM-I. 30580, 9.1 mm SL, Iou-jima

けて広く生息する。

備考 本種は、主鰭蓋骨下方棘に中央隆起線があること、耳棘基底の後端が翼耳棘基底前端より後ろに位置すること、涙骨下縁に2棘あることなどから *Sebastapistes taeniophrys* (Fowler, 1943) を除く同属他種と識別される。

マダラフサカサゴは *S. taeniophrys* と比較して、側線上方横列鱗数が 40-44 と多

備考 本項の計数形質の記載は日本産15個体に基づく。本種は口蓋骨歯がないことから、長い間オニカサゴ属に帰属されていた。しかし、近年はマダラフサカサゴ属であると考られている。本種は口蓋骨歯がないことから、同属があるマダラフサカサゴ属全種から容易に区別されるが、他にも涙骨後方棘が下向きであること (同属他種では後向き) からも識別される。

ブチフサカサゴの最大体長は 37 mm で、フサカサゴ科魚類の中で最も小型であり、体長 18 mm で成熟したメス個体も見ついている。これは標準名ブチフサカサゴの由来でもある。

(本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 29517, 13.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29673, 30.0 mm SL, Take-shima.

いこと (後者では 31-33)、総鰭基数が 13-16 と多いこと (12) などから区別される。また、マダラフサカサゴは岩礁やサンゴ礁に生息するのに対し、*S. taeniophrys* はアマ藻場や砂泥底に好んで生息する。

(本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 37730, 47.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37731, 36.1 mm SL, Take-shima.

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。東太平洋のガラパゴス諸島からも記録されている。国内では伊豆半島以南の太平洋岸、伊豆諸島、小笠原諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種は～ハオコゼという名前がついているが、ハオコゼ科ではなく、フサカサゴ科である。

ハダカハオコゼは体高が高く、体が著しく側扁していることから、フサカサゴ科ポロカサゴ属に外見が良く似るが、前者は鱗がないことから容易に識別される。

(本村浩之)



ハダカハオコゼ Take-shima, 25 July 2010, Y. Matsuda



■ ハダカハオコゼ KAUM-I. 37659, 44.0 mm SL, Iou-jima



■ ハダカハオコゼ Take-shima, 10 Oct. 2010, Y. Matsuda



カサゴ KAUM-I. 37993, 179.4 mm SL, Take-shima

カサゴ目 メバル科 カサゴ属

カサゴ

Sebastes marmoratus (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XII, 10-12; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 49-54。頬部に棘はない。胸鰭上半部の後縁は浅く湾入する。胸鰭腋部には皮弁がない。

色彩 体色は黒色から赤味を帯びるものまで変異に富む。

分布 北海道から韓国、中国、台湾、香港、ベトナム北部の沿岸域に分布する。標本に基づく日本国内での分布の南限は鹿児島県竹島（本標本）となる。屋久島からの目撃情報もあるが、同海域における生息個体数は著しく少なく、標本は得られていない。

備考 本種の自然分布は上記のとおりであるが、パラスト水による導入によってオーストラリアのシドニー湾から1個体が報告されている。

本種は生息水深が深いほど体色が赤味を帯び、浅いほど黒味がかかる傾向がある。近縁のウツカリカサゴ *Sebastes tertius* (Barsukov & Chen, 1978) はカサゴよりも深い水深に生息し、体色はつねに赤味を帯びる。

(本村浩之)



ツマジロオコゼ KAUM-I. 37692, 44.7 mm SL, Iou-jima

カサゴ目 ハオコゼ科 ツマジロオコゼ属

ツマジロオコゼ

Ablabys taenianotus (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XVII–XVIII, 6–7; 臀鰭 III, 4–5; 胸鰭 11–12; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗数 88–108; 側線有孔鱗 54–68。体は強く側扁し、小鱗におおわれる。背鰭は眼の前縁直上から始まり、第1棘は著しく短く、第2棘が最長。尾鰭は二重截形で、後端は波状になる。

色彩 眼の前方を除いて、体は黒褐色。背鰭、臀鰭、尾鰭、腹鰭の各縁辺は淡い褐色で縁取られる。胸鰭は体色より濃い褐色で、後端は淡い褐色で縁取られる。

分布 アフリカ東岸からフィジーにかけてのインド・太平洋（ハワイ諸島を除く）に分布する。国内では、八丈島と静岡県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本属魚類はインド・太平洋域で3有効種が知られており、*Ablabys macracanthus* (Bleeker, 1852) は臀鰭軟

条数が多いこと（9–10）で他の2種と識別される。ツマジロオコゼは西インド洋に分布する *A. binotatus* (Peters 1855) と比較して背鰭棘数が少ない（15）、涙骨前方棘が長いことから識別される。

本種は体長 10 cm 前後に達する。浅海のサンゴ礁、岩礁域に単独で生息する。うねりや波の揺れに合わせて体を左右に揺らし、落ち葉や海藻に擬態している。

和名は、頭部背面が白色であることに由来するが、頭部が白色にならず体全体が褐色の個体もいる。

(荻原豪太)

Synanceiidae



オニダルマオコゼ Take-shima, F. Yasudome

カサゴ目 オニオコゼ科 オニダルマオコゼ属

オニダルマオコゼ

Synanceia verrucosa Bloch & Schneider, 1801

形態 背鰭 XII–XIV, 5–6 (XVIII, 6); 臀鰭 III, 5–6 (5); 胸鰭 17–19 (18); 腹鰭 I, 5; 有孔側線数 9–11; 鰓耙数 1–2 + 6–8; 脊椎骨数 24。頭部は縦扁し、眼は背面に位置する。両眼隔は深く窪む。口は上向きで大きく開く。上顎の後端は後涙棘基部の直下付近に達する。鼻孔は2対。鱗がなく、体全体が厚い皮膚でおおわれ、一様に瘤状突起がある。胸鰭は著しく大きく、その後端は背鰭 10 棘直下付近に達する。側線は鰓蓋後端上部の直後から始まり、尾鰭基底まで走り、後方に向かってゆるやかに傾斜する。背鰭の鰭膜はほとんど切れ込まない。背鰭は腹鰭始部直上よりも後方から始まり、背鰭鰭条は低い。腹鰭を閉じ

たときの後端は肛門に達しない。腹鰭の最後軟条は腹部と鰭膜で接合する。背鰭と臀鰭の最後軟条は鰭膜でそれぞれ尾柄の背面と腹面と接合する。尾鰭は円形。眼下骨棘は大きな1本。鰓蓋骨棘は通常2本で稀に3本ある。浮き袋を欠く。口蓋骨歯と鋤骨歯を欠く。

色彩 体は一様に黒褐色、褐色および赤褐色。稀に体色が黄白色の個体もいる。背鰭も体色と同様で、軟条部は淡い褐色で縁取られる。臀鰭、胸鰭および腹鰭は体色と同様。尾鰭も体色と同様で、中央よりやや前方と後端に淡い褐色横帯が入る。

分布 本種はオニダルマオコゼ属の中で最も分布範囲が広く、アフリカ東岸と紅海からツアモツ諸島までの南太平洋まで分布する（ただしハワイ諸島には生息しない）。国内では、小笠原諸島、伊豆諸島、高知県、宮崎県、鹿児島県竹島、種子島、屋久島、

中之島、奄美大島、沖縄島、伊江島、渡嘉敷島、西表島などから記録されている。

備考 本属魚類はインド・太平洋域に5有効種が知られており、そのうち日本に分布するのは本種とツノダルマオコゼ *Synanceia horrid* Linnaeus, 1766 の2種である。本種はツノダルマオコゼと比較して、胸鰭条数が多い（ツノダルマオコゼでは通常16）、背鰭第3棘までの鰭膜が欠刻しない（欠刻する）、眼上棘が発達しない（発達することなどにより容易に識別される。体長 40 cm 前後に達し、本属最大種である。浅海のサンゴ礁や岩礁域に生息し、体を砂泥底に埋もれさせ、石や岩に擬態している。沖縄県では高級魚である。背鰭の棘条は毒腺と連続し、強力な神経毒を分泌する。本種は特に強い毒をもっており、刺された人間の死亡例もある。

(荻原豪太)



クロシマゴチ KAUM-I. 37723, 100.6 mm SL, Take-shima

カサゴ目 コチ科 クロシマゴチ属

クロシマゴチ

Thysanophrys chiltonae (Schultz, 1966)

形態 背鰭 I-VIII-12；臀鰭 11；胸鰭 20-21；腹鰭 I, 5；側線有孔鱗数 50-57。体は著しく縦扁し、ひらべったい。背部は

櫛鱗、腹部は円鱗で覆われる。下顎は上顎より突出する。虹彩皮膜は短く、枝状に分枝する。眼上皮弁をもたない。

色彩 体の地色は白色、背部全体が不明瞭な褐色のまだら模様で覆われる。生時、頭部と体側に複数の暗褐色横帯が入る。頭部の横帯は1本で両眼を通過する。これらの横帯は死後、不明瞭になる。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 同属のセレベスゴチ *T. celebica* (Bleeker, 1854) とよく似るが、眼上皮弁をもたないことや、臀鰭軟条数が11であることなどから識別される。

(田代郷国)

Symphysanodontidae



スズキ目 カワリハナダイ科 カワリハナダイ属

カワリハナダイ

Symphysanodon katayamai Anderson, 1970

形態 背鰭 IX, 10；臀鰭 III, 7；胸鰭 16-17；腹鰭 I, 5；側線有孔鱗数 50-55；鰓耙数 11-12 + 22-24。体は側扁する。腹鰭第1軟条はわずかに伸長する。臀鰭

を倒したときの始部から後端までの長さは体長の34.0-39.0%。

色彩 体の地色は桃色で、背側に向かって橙色がかかる。眼下に短い黄色斜帯がある。吻端から体側面にかけて幅広い黄色縦帯がある。背鰭は半透明で、黄色がかかる。腹鰭と臀鰭は半透明で、桃色がかかる。

分布 台湾南部、スラウエン島、パラオ諸島、

カワリハナダイ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

ハワイ諸島に分布する。国内では八丈島と相模湾から高知県柏島にかけての太平洋沿岸に分布するとされていた。したがって、硫黄島での記録はカワリハナダイの日本における南限記録となる。

備考 カワリハナダイ属は、フエダイ科やスズキ科との類縁性が示唆されているが、益田ほか(1988)と瀬能(2013)にしたがって、本属をカワリハナダイ科に含めた。

(岩坪洗樹)



ユカタハタ KAUM-I. 29672, 342.3 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 ユカタハタ属

ユカタハタ

Cephalopholis miniata (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IX, 14–16; 臀鰭 III, 8–9; 胸鰭 17–18 (18); 縦列鱗数 94–114; 有孔側線鱗 47–55; 鰓耙 7–9 + 13–15。涙骨の表面は円滑。主上顎骨後下端は突出しない。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、前鰓蓋骨下縁に前方に向く棘がない。腹鰭第5軟条と腹部の間に鰭膜がある。腹鰭をたた

んだ時の後端は肛門に達しない。尾鰭は円形。

色彩 体色の地色は橙色みがかかった赤色で、体側後半はやや黒みがかかった赤色なる。胸鰭と腹鰭を除き瞳孔より小さな青色点が多数ある。腹鰭、背鰭および腹鰭の各軟条部縁辺と尾鰭後端は青色帯で縁取られ、その内側に黒色線がある。

分布 ペルシャ湾、アラビア海を除くインド洋とライン諸島までのハワイを除く西部・南部太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸

島、小笠原諸島、相模湾以南の南日本、屋久島、硫黄島、竹島、琉球列島に分布する。

備考 本種は全長 410 mm に達し、浅海のサンゴ礁域に生息する。

(荻原豪太)

Other collected specimens: KAUM-I. 37641, 265.5 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106126, 253.1 mm SL, Iou-jima.



コクハンハタ Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ハタ科 ユカタハタ属

コクハンハタ

Cephalopholis sexmaculata (Rüppell, 1830)

形態 背鰭 IX, 14–16; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 16–18; 縦列鱗数 95–108; 有孔側線鱗 49–54; 鰓耙 7–9 + 14–17。涙骨の表面は円滑。主上顎骨後端は眼の後端直下を大きく超える。前鰓蓋骨下縁は円滑で、前方に向く棘がない。腹面は櫛鱗に被われる。腹鰭をたたんだ時の後端は肛門に達するかもしれない。尾鰭は円形。

色彩 体地色は橙色みがかかった赤色で、体全体に多数の小さな青色点がある。頭部は青色点が縦列になる傾向がある。体

側背側縁辺に四角形の黒色斑が6つあり、最初の4つは背鰭基部から体側にかけてあり、後半の2つは尾柄部縁辺にある。その黒色斑の間を通るように白色横帯がある。幼魚も成魚とほぼ同様の色体色である。老成魚は6つの黒色斑が不明瞭になる。

分布 ペルシャ湾を除くインド洋とマルキーズ諸島までのハワイを除く太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、高知県、愛媛県、鹿児島県硫黄島などの南日本と琉球列島に分布する。

備考 本種は *Serranus zanana* Valenciennes in Cuvier & Valenciennes として 1828 年に新種記載されたが、この学名は論文中に数回しか使用されず、1830 年に *Cephalopholis sexmaculata* として記載さ

れた本種の学名が長年使用されてきた。そこで Randall et al. (1985) は、本種の学名の混乱を防ぐために国際動物命名規約の優先権の逆転により、長く使用されてきた *Cephalopholis sexmaculata* を本種の学名とした。

本種の老成魚では、体側背側縁辺の黒色斑が不明瞭になるため、ユカタハタ *Cephalopholis miniata* に酷似する。しかし、頭部の青色点が縦列していることでユカタハタと識別される。

本種は体長 390 mm 程度の中型種。水深 10–150 m のサンゴ礁域に生息し、テンジクダイ科、フグ科、ニザダイ科およびハナダイ科などの魚類や甲殻類を餌としている。

(荻原豪太)



アザハタ KAUM-I. 37786, 358.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 ユカタハタ属

アザハタ

Cephalopholis sonnerati (Valenciennes, 1828)

形態 背鰭 IX, 14–16 (15); 臀鰭 III, 9; 胸鰭 18–20 (19); 縦列鱗数 115–134; 有孔側線鱗 66–80; 鰓耙 7–9 + 14–16。体高はやや高く、体長は体高の 2.3–2.75 倍。上顎後端は眼の後端を大きく超える。腹鰭をたたんだ時の後端は肛門に達する。尾鰭は円形。

色彩 体色の地色は明るい赤褐色で、体側に無数の赤色点がある。頭部ではその赤色点が網目状になる。胸鰭は黒色に近い赤色。尾鰭は黒みがかった赤色で白色

点が散在する。

分布 紅海とペルシャ湾を除くインド洋と南日本からライン諸島までのハワイを除く西部・南部太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、駿河湾以南の南日本、鹿児島県屋久島・竹島、琉球列島に分布する。

備考 本種は全長 570 mm に達し、やや深場のサンゴ礁域に生息する。主にテンジクダイなどの小魚や甲殻類を食べる。本種は、体長が体高の 2.3–2.75 倍、側線鱗



アザハタ KAUM-I. 37786, 358.6 mm SL, Take-shima

数が 66–80、体全体に無数の赤色から赤褐色点があることなどから同属他種から明瞭に識別される。

(荻原豪太)

Other collected specimen: NSMT-P 106149, 370.0 mm SL, Take-shima.



■ ニジハタ KAUM-I. 37627, 198.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハタ科 ユカタハタ属

ニジハタ

Cephalopholis urodeta (Forster, 1801)

形態 背鰭 IX, 14–16; 臀鰭 III, 8–9; 胸鰭 17–19; 縦列鱗数 88–108; 有孔側線鱗 54–68; 鰓耙 7–9 + 14–17。涙骨の表面は円滑。主上顎骨後下端は突出しない。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、前鰓蓋骨下縁に前方に向く棘がない。腹鰭第 5 軟条と腹部の間に鱗膜がある。腹鰭をたたんだ時の後端は肛門に達しない。尾鰭は円形。

色彩 体色の地色は橙色みがかかった赤色で、体側後半はやや黒みがかかった赤色なる。胸鰭基部は体側同様に橙色で、胸鰭後端は黄色。頭部には多数の橙色みがかかった赤色点が集積する。背鰭と臀鰭の各軟条部縁辺と尾鰭後端が灰青色で縁取られる。尾鰭に白色斜帯が 2 本あり、その内側は多数の白色点と不明瞭な黒色斑がある。

分布 紅海とペルシャ湾を除くインド洋と南日本からビトケアン諸島までのハワイを除く西部・南部太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、三重県以南の

南日本、屋久島、硫黄島、および口之島、奄美大島、沖縄島、伊江島、渡嘉敷島などの琉球列島に分布する。

備考 本種は全長 273 mm に達し、浅海のサンゴ礁域に生息する。本種はイトウダイ科やニザダイ科魚類、甲殻類を捕食する。本種は側線鱗数 54–68、尾鰭に白色斜帯が 2 本あるなどにより同属他種から明瞭に識別される。

(荻原豪太)

Other collected specimen: NSMT-P 106087, 199.8 mm SL, Iou-jima.



■ オオモンハタ KAUM-I. 37787, 362.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 マハタ属

オオモンハタ

Epinephelus areolatus (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 XI, 15-17; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 17-19; 縦列鱗数 97-116; 有孔側線鱗 49-53; 鰓耙 8-10 + 14-16。両眼間窩はわずかにふくらむ。上顎後端は瞳孔後端直下を超える。背鰭棘条部は前方で少

し高くなり、第3棘もしくは第4棘が最長。腹鰭をたたんだ時の後端は肛門に達するかわずかに達しない。尾鰭は截形。

色彩 体全体に多数の褐色斑点があり、その斑点は網目模様を形成する。尾鰭の後端は白く縁取られる。

分布 インド洋、南日本からニューカレドニアまでの西部太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山、高知県、愛媛県、

鹿児島県屋久島・竹島などの南日本、九州西岸、および琉球列島に分布する。

備考 本種は全長 395 mm に達し、水深 6-200 m の間から記録があり、浅海から深場のサンゴ礁域や岩礁域に生息する。(荻原豪太)

Other collected specimen: NSMT-P 106169, 415.0 mm SL, Take-shima.



■ ホウセキハタ Take-shima, 10 June 2007, S. Dewa

スズキ目 ハタ科 マハタ属

ホウセキハタ

Epinephelus chlorostigma (Valenciennes, 1828)

形態 背鰭 XI, 16-18 (17); 臀鰭 III, 8; 胸鰭 17-19 (18); 縦列鱗数 96-125; 側線有孔鱗 48-53; 鰓耙 8-11 + 14-18。主上顎骨後端は眼の後端直下をわずかに超える。腹鰭をたたんだ時の後端は肛門に達しないか肛門に達する。尾鰭は截形。

色彩 体に瞳孔大または小さな褐色点が多数あり、網目模様を形成する。

分布 ペルシャ湾を除くインド洋と南日本からサモアまでの西太平洋に広く分布する。

(荻原豪太)



■ チャイロマルハタ KAUM-I. 37805, 470.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハタ科 マハタ属

チャイロマルハタ

Epinephelus coioides (Hamilton, 1822)

形態 背鰭 XI, 13-16 (15); 臀鰭 III, 8; 胸鰭 18-20 (20); 縦列鱗数 100-118; 側線有孔鱗 58-65; 鰓耙 8-10 + 14-17。両眼間窩はわずかにふくらむ。上顎後端は眼の後端直下を超える。背鰭棘条部は前

方で少し高くなり、第4棘が最長。腹鰭をたたんだ時の後端は肛門に達しない。尾鰭は円形。

色彩 体側背側は黒褐色で腹側では褐色になる。瞳孔大もしくは瞳孔より小さな褐色点が頭部と体側に多数ある。その褐色点は、背側では黒褐色で、腹側では橙褐色になる。体側に不明瞭な5本の黒褐色横帯が入り、1本目の横帯は主鰓蓋骨後端付近で途切れる。背鰭軟条部、臀鰭軟条部、

尾鰭および胸鰭の各基部を除いて黒褐色。

分布 インド洋と西部・南部太平洋に分布する。国内では和歌山県以南の南日本、新潟県以南の日本海沿岸、鹿児島県屋久島・硫黄島、琉球列島に分布する。

備考 本種は全長 945 mm に達し、浅海のサンゴ礁域や岩礁域に生息する。(荻原豪太)



■ アカハタ KAUM-I. 37651, 266.1 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハタ科 マハタ属

アカハタ

Epinephelus fasciatus (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 XI, 15-17; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 18-20; 縦列鱗数 92-135; 有孔側線鱗 49-75; 鰓耙 6-8 + 14-18。両眼間窩は凹まない。上顎後端は眼の後端直下をわずかに超える。下鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺はなめらか。腹鰭をたたんだ時の後端は肛門に達しない。尾鰭は円形。

色彩 体側は淡赤色で、5-6本の暗赤色横帯が入る。背鰭棘条部の黒色で縁取られる。胸鰭は白味がかかった赤色で後方にくにつれて橙色が強くなる。背鰭と臀鰭の軟条部は黄色みがかかった赤色。尾鰭は後方にくにつれては黄色みがかかった赤色になる。

分布 ペルシャ湾を除くインド洋と南日本からビトケアン諸島までの西部・南部太平洋に広く分布する。国内では富山湾以南の日本海沿岸、小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 紅海、インド洋、西太平洋、日本、太平洋プレートの海域およびマルキーズ諸島の各産地によって有孔側線鱗数、縦列鱗数および体色に差異があることが Randall & Heemstra (1991) によって報告されている。本標本は、有孔側線鱗数 58、縦列鱗数 103 から Randall & Heemstra (1991) のいう日本個体群に一致した。

(荻原豪太)

Other collected specimen: NSMT-P 106170, 318.5 mm SL, Iou-jima.



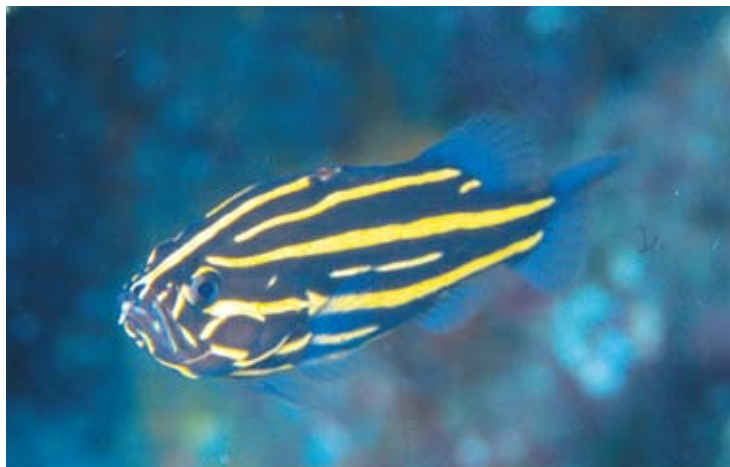
■ ヌメサラン KAUM-I. 31657, 32.9 mm SL, Iou-jima



■ ヌノサラシ KAUM-I. 29556, 101.7 mm SL, Iou-jima



■ ヌノサラシ Iou-jima, 11 July 2009, Y. Matsuda



■ ヌノサラシ Iou-jima, 10 June 2007, S. Dewa

スズキ目 ハタ科 ヌノサラシ属

ヌノサラシ*Grammistes sexlineatus* (Thunberg, 1792)

形態 背鰭 VII, 12-14; 臀鰭 II, 9; 胸鰭 16-18; 縦列鱗数 82-88; 有孔側線鱗 60-72; 鰓耙 1-3 + 7-9。体高はやや高く、体長は体高の 2.2-2.8 倍。背鰭は 1 基で

スズキ目 ハタ科 イッテンサクラダイ属

マダラハナダイ*Odontanthias borbonius* (Valenciennes, 1828)

形態 背鰭 X, 16-18; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 16-18; 有孔側線鱗 39-43; 側線上方横列鱗数 8; 側線下方横列鱗数 22; 鰓耙 11-13 + 27-29。体高は高く、側扁する。上顎後端は瞳孔の後端直下付近に達する。腹鰭をたたんだ時の後端は臀鰭始部に達する。尾鰭は深く湾入し、両葉の先端は丸い。

色彩 体の地色は背側で濃い桃色で、腹側でいくにつれて淡い桃色になる。体側に大きな褐色斑が石垣状並ぶ。上顎先端から胸鰭後端まで黄色縦帯が走る。背鰭は基部が桃色でその外側は黄色。背鰭の軟条は伸長する。臀鰭、腹鰭および尾鰭は黄色で、外縁は桃色で縁どられる。

深く欠刻する。体は円鱗で被われる。下顎先端に小さな皮弁がある。尾鰭は円形。

色彩 体地色は黒褐色で、体側に黄白色縦帯が入る。眼の前縁と後縁からそれぞれ下顎まで黄白色横帯がある。背鰭第 1 棘から第 3 棘の鰭膜は橙赤色で、残りの棘条部は黒褐色。背鰭軟条部、臀鰭、胸鰭、腹鰭、尾鰭は淡色。成長に伴い黄白色縦帯は増加し、棘条部の橙赤色は消失する。

分布 ベルシャ湾を除くインド洋と岩手県以南の太平洋沿岸からケルマディック諸島までの西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、南日本、鹿児島県屋久島・硫黄島、および口之島、伊江島、渡嘉敷島などの琉球列島に分布する。

備考 本種は皮膚から粘液毒を出すことが知られている。

(荻原豪太)

Other collected specimens: KAUM-I. 30043, 44.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37606, 55.4 mm SL, Iou-jima.

分布 アフリカ東岸のインド洋からスラウエシ島までの西太平洋に分布する。国内では、小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、琉球列島に分布する。

備考 本種は従来 *Holanthias* とされていたが、Randall & Heemstra (2006) によって *Odontanthias* に帰属された。本種は体長が体高の 1.9-2.25 倍、背鰭軟条が 16-18 本、眼径より大きい明瞭な褐色から黄色斑が体側に入る、上顎から胸鰭基部にかけて黄色帯が入ることなどから同属他種から明瞭に識別される。

(荻原豪太)



マダラハナダイ KAUM-I. 37921, 116.7 mm SL, Iou-jima



マダラハナダイ Iou-jima, 21 Aug. 2011, S. Dewa



■ チビハナダイ KAUM-I. 32671, 17.6 mm SL, Iou-jima



■ チビハナダイ KAUM-I. 30538, 13.4 mm SL, Iou-jima



■ チビハナダイ Iou-jima, 18 Sept. 2009, Y. Matsuda

スズキ目 ハタ科 イズハナダイ属

チビハナダイ

Plectranthias longimanus (Weber, 1913)

形態 背鰭 X, 13–15; 臀鰭 III, 6–7; 胸鰭 12–13 (13); 有孔側線鱗数 12–16; 側線上方横列鱗数 2; 鰓耙 4–6 + 9–12。背鰭は1基で棘条部と軟条部の間が深く欠刻する。側線は不完全で背鰭軟条部の中央直下付近までしか達しない。尾鰭は円形。

色彩 体地色は淡い褐色で、腹面は白色。体側に不明瞭な幅広い褐色横帯が6本入る。尾柄の背縁と腹縁に1対の黒褐色斑がある。背鰭の棘条部基部は褐色であとは透明。背鰭軟条部、臀鰭、胸鰭、腹鰭および尾鰭は透明。

分布 紅海とアラビア海を除くインド洋と南日本からフィジーまでの西太平洋に分布する。

備考 最大全長 36 mm の小型種で、水深 6–73 m に生息する。

(荻原豪太)

Other collected specimen: KAUM-I. 29780, 22.8 mm SL, Take-shima.



■ チビハナダイ Iou-jima, 21 Sept. 2009, Y. Matsuda



スジアラ NSMT-P 99039, 617.3 mm SL, Take-shima



スジアラ KAUM-I. 37918, 556.9 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 スジアラ属

スジアラ

Plectropomus leopardus (Lacepède 1802)

形態 背鰭 VIII, 11; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 14-17; 縦列鱗数 112-130; 有孔側線鱗数 81-99; 鰓耙 1-3 + 6-10。涙骨の表面は円滑。上顎後端は眼の後端直下付近に達する。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、前

鰓蓋骨下縁に前方に向く棘がある。腹鰭第5軟条と腹部の間に鰭膜がある。臀鰭第1棘は皮下に埋没する。尾鰭後端はやや湾入する。

色彩 体地色は橙赤色で、頭部、体側、胸鰭基部、腹鰭、臀鰭、尾鰭に小青色点が多数ある。胸鰭は後方にくにつれて赤褐色から橙色になる。尾鰭は後方にくにつれて赤褐色から黒褐色になり、後端は青白色で縁どられる。

分布 南日本からオーストラリア、フィジーまでの西太平洋に分布する。国内では、相模湾以南の太平洋沿岸、山口県以南の日本海沿岸、鹿児島県硫黄島・竹島、琉球列島に分布する。

備考 本種は全長 700 mm に達し、水深 3-100 m のサンゴ礁外縁に生息する。

(荻原豪太)

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

フタイロハナゴイ

Pseudanthias bicolor (Randall, 1979)

形態 背鰭 X, 16-18; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 19-21 (20); 有孔側線鱗 57-64; 側

線上方横列鱗数 8-9; 側線下方横列鱗数 21-23; 鰓耙 11-12 + 26-28。下鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺はなめらか。オスは背鰭第2棘と3棘がよく伸長し、上顎の唇が厚く、わずかに尖る。腹鰭をたたんだ時の後端は、臀鰭始部に達する(オスは臀鰭棘条部を超える)。尾鰭は深く湾入し、両葉の先端が伸長する。

色彩 体側の背側は橙色みがかった黄色で、薄紫色から桃色。上顎先端から眼にかかり、胸鰭基部まで桃色に縁どられた黄色帯が入る。背鰭と尾鰭は橙色みがかった黄色で、外縁が桃色で縁どられる。胸鰭、臀鰭および腹鰭は淡い桃色で、臀鰭と腹鰭は桃色で縁どられる。

分布 インド洋と南日本からライン諸島とミクロネシアまでの西太平洋に分布する。国内では、相模湾以南の南日本、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 最大全長 130 mm に達し、水深 5–68 m の浅海から深場のサンゴ礁域や岩礁域に生息する。

(荻原豪太)



フタイロハナゴイ Take-shima, 10 Oct. 2010, E. Shinkai



フタイロハナゴイ KAUM-I. 29763, 63.8 mm SL, Take-shima



カシワハナダイ KAUM-I. 29765, 40.8 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

カシワハナダイ

Pseudanthias cooperi (Regan, 1902)

形態 背鰭 X, 15-17; 臀鰭 III, 7-8 (7); 胸鰭 18-20; 有孔側線鱗 45-52; 側線上方横列鱗数 5-6; 側線下方横列鱗数 17-18; 鰓耙 9-12+23-27。上顎後端は眼の瞳孔後端直下付近に達する。下鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺は鋸歯状。背鰭棘は後方にくいつれて長くなる。腹鰭をたたんだ時の後端は、臀鰭始部にわずかに達し

ない。尾鰭は深く湾入し、三日月形。オスの尾鰭両葉先端は糸状に伸長する。

色彩 体側は背側から腹側に向かって黒味がかかった橙赤色から白色になる。上顎先端から眼下を通り胸鰭基部まで薄紫色の細い線が走る。背鰭は橙赤色で縁辺は紫色で縁どられる。胸鰭は透明。腹鰭は棘が桃色、第 1、2 軟条が橙赤色で他は淡い桃色。臀鰭は淡い桃色で先端が濃くなる。尾鰭は鮮やかな橙赤色で背側と腹側の外縁が薄紫色で縁どられる。オスは体側に赤色横帯が入る。幼魚とメスは尾鰭両葉の先端が赤色。

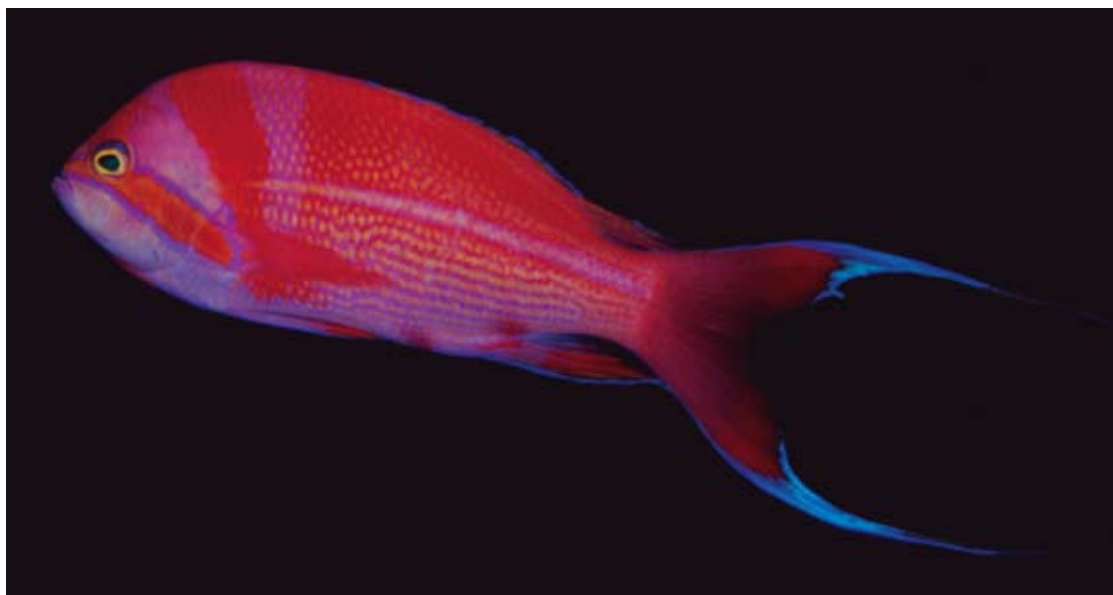
分布 アフリカ東岸のインド洋と南日本からライン諸島とミクロネシアまでの西太平洋に分布する。国内では、小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県竹島、琉球列島に分布する。

備考 最大全長 140 mm に達し、水深 16-60 m の浅海から深場のサンゴ礁域や岩礁域に生息する。

(荻原豪太)



スジハナダイ KAUM-I. 29792, 49.2 mm SL, Take-shima



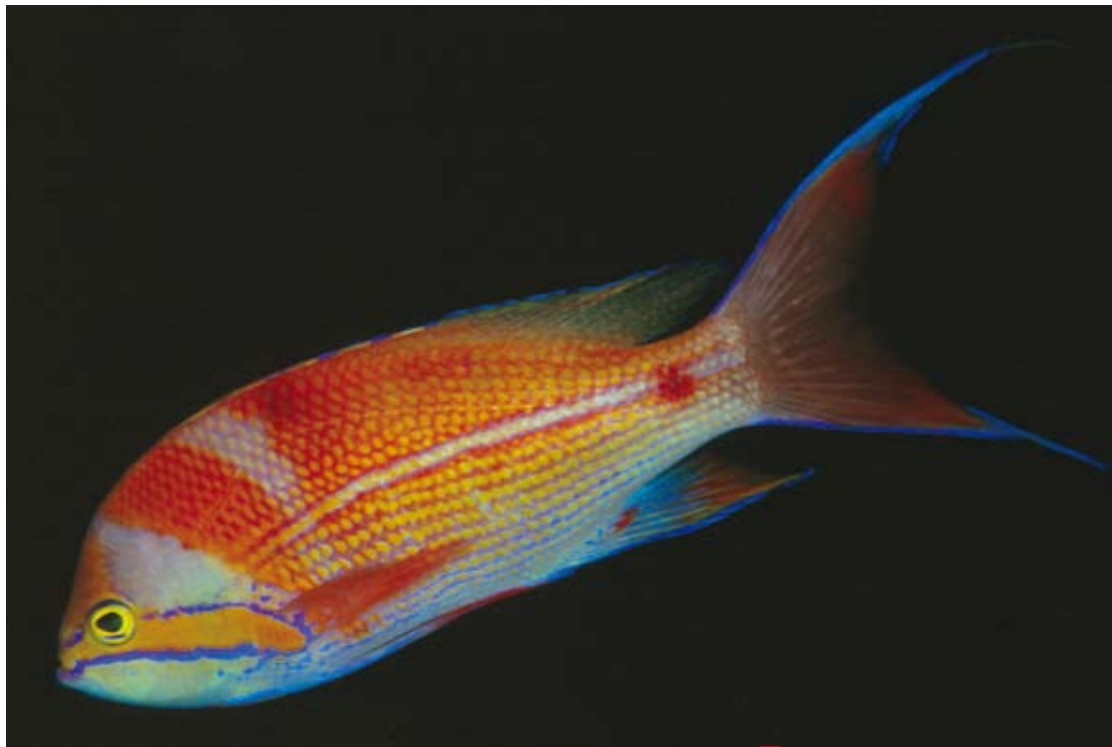
スジハナダイ Take-shima, F. Yasudome



スジハナダイ Take-shima, F. Yasudome



スジハナダイ Take-shima, 25 July 2010, Y. Matsuda



スジハナダイ Take-shima, 8 Sept. 2007, S. Dewa

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

スジハナダイ

Pseudanthias fasciatus (Kamohara, 1955)

形態 背鰭 X, 16-17; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 17-18; 有孔側線鱗 41-45; 側線上方横列鱗数 7; 側線下方横列鱗数 18; 鰓耙 10-12+24-30。上顎後端は眼の瞳孔後端直下付近に達する。舌上に歯板がない。下鰓蓋骨下縁は鋸歯状。腹鰭をたたんだ時の後端は、臀鰭始部に達しない。尾鰭は深く湾入し、両葉先端は伸長する。

色彩 体側に白色で縁どられた赤色縦帯が 1 本走り、その縦帯の背側は褐色みがかった橙色で、腹側は黄色から白色になる。頭部は背側が橙色で腹側は黄色。上顎先端から胸鰭基部付近まで赤色縦帯が入る。胸鰭は淡い黄色。腹鰭は棘が薄紫色、軟条部が淡い黄色。臀鰭は黄色で、棘部と第 1、2 軟条の先端が薄紫色。尾鰭は黄色で背側と腹側の外縁が薄紫色で縁どられる。

分布 南日本を含む西太平洋域に広く分布する。国内では、伊豆諸島、相模湾以南の南日本、大隅諸島、および琉球列島に分布する。



スジハナダイ Iou-jima, 4 June 2009, Y. Komiya

備考 最大全長 140 mm に達し、水深 20-68 m の浅海から深場のサンゴ礁域や岩礁域に小さな群れで生息する。

(荻原豪太)

Other collected specimen: KAUM-I. 29624, 63.9 mm SL, Iou-jima.



スジハナダイ Iou-jima, 14 June 2009, S. Dewa



ケラマハナダイ KAUM-I. 29770, 21.8 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

ケラマハナダイ

Pseudanthias hypselosoma Bleeker, 1878

形態 背鰭 X, 15-17 (16); 臀鰭 III, 7; 胸鰭 18-20; 有孔側線鱗 44-48; 側線上方横列鱗数 5; 側線下方横列鱗数 18-19; 鰓耙 11-13 + 26-29。上顎後端は眼の瞳孔後端直下付近に達する。下鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺は鋸歯状。腹鰭をたたんだ時の後端は、臀鰭始部にわずかに達しない。尾鰭は浅い湾入形。

色彩 体側は背側から腹側に向けて桃色から白色になる。各鱗に黄色点があり、腹面から面背面にいくにつれて黄色点が大きくなる。頭部の背側は橙色で腹側は淡い桃色。背鰭の縁辺は紫色で縁取られ、その内側の棘条部は橙色で小黒色が散在し、軟条部は桃色で小橙色斑がある。臀鰭は桃色で小橙色斑があり、棘部と第 1-4 軟条の先端が紫色。尾鰭は淡い桃色で小橙色斑があり、背側と腹側の外縁が紫色で縁どられる。メスの体色は桃色から赤紫色で、尾鰭の後端が鮮やかな赤色で縁取られる。オスの体色は薄紫色で、尾鰭の両葉先端付近が青色で縁取られる。

分布 モルディブ以東のインド洋と南日本からトンガまでの西太平洋に分布する。

備考 最大全長 190 mm に達し、水深 6-50 m の浅海から深場のサンゴ礁域や岩礁域に群れで生息する。本種は沿岸域の岩礁やラグーンに守られながら、サンゴが隆起した上を群れている。竹島でも同様の環境の水深 45 m 付近で幼魚が採集された。

(荻原豪太)



ケラマハナダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



ケラマハナダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



アカボシハナゴイ Take-shima, 11 May 2010, K. Nakajima

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

アカボシハナゴイ

Pseudanthias lori (Lubbock & Randall, 1976)

形態 背鰭 X, 16-17; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 49-52; 鰓耙 8-9 + 21-24。雄の背鰭第3棘は糸状に伸長する。

色彩 体地色は桃色で、腹側に向かって白くなる。体側面に黄色または濃い桃色の斑点が散在し、体側背面には4-6個の赤色斑がある。尾柄部に橙色~赤色の太い帯がある。

分布 東部インド洋から中・西部太平洋にかけて広く分布する。国内では、八丈島、高知県柏島、鹿児島県硫黄島、琉球列島に分布する。

(岩坪洗樹)



アカボシハナゴイ Take-shima, F. Yasudome

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

コウリンハナダイ

Pseudanthias parvirostris (Randall & Lubbock, 1981)

形態 背鰭 X, 15-16; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭 10 + 9; 側線有

孔鱗 41-44; 鰓耙 8-11 + 21-24。眼高後縁には小乳頭状突起がある。主鰓蓋骨

に扁平な3本の棘があり、全体が鱗で覆われる。この3本の棘は中央のものが最大で、上方のものが最小。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、下縁は円滑。吻背面前端、眼前域、下顎腹面前方、咽喉を除く頭部と体部は櫛鱗で覆われる。背鰭棘はいずれも伸長せず、第5棘が最長となる。尾鰭は三日月形。

色彩 頭部と体部の地色は赤みがかった黄色で、体側面下半部は黄みがかった桃色。体腹面を除き、各鱗の後縁に紫がかった桃色の斑点がある。吻端から左右に分かれ、両後鼻孔の直上を通り、左右の眼窩上縁に接して走るこい紫がかった桃色の細い線がある。この線は項部で環状線を形成した後、1本となり背部正中線を通り背鰭始部に達する。下顎下縁から上顎を横切り、眼の下縁に至る紫がかった桃色のやや

不明瞭な細い線がある。眼の後縁から鰓蓋上縁に至る2本の紫がかった桃色の線がある。この2本の線はやや不明瞭で所々途切れる。尾鰭は明るい黄色で、中央部から後縁に向かい淡くなる。上下両葉の外縁は紫がかった桃色で縁取られる。

分布 日本国外では、ソロモン諸島、フィリピン・パラワン島、モルジブ諸島から報告されている。国内では東京都伊豆大島、

高知県柏島、鹿児島県竹島に分布する。

備考 日本国内におけるコウリンハナダイの分布は、東京都伊豆大島のみとされていたが、高知県柏島と鹿児島県竹島からも生息が確認された(岩坪ほか, 2011)。本種は日本の黒潮流域である太平洋沿岸に広く分布している可能性が高い。
(岩坪洗樹)



コウリンハナダイ KAUM-I. 29776, 62.7 mm SL, Take-shima



コウリンハナダイ Take-shima, 25 July 2010, Y. Matsuda



ハナゴイ KAUM-I. 30606, 23.2 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

ハナゴイ

Pseudanthias pascalus (Jordan & Tanaka, 1927)

形態 背鰭 X, 15–17; 臀鰭 III, 7–8; 胸鰭 16–19 (18); 有孔側線鱗 48–52; 側線上方横列鱗数 6; 側線下方横列鱗数 15–16; 鰓耙 9–11 + 23–27。体は細長く、体長は体高の 2.9–3.4 倍。鰓蓋骨に 2 本の棘をもつ。下鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺はなめらか。尾鰭は深く湾入し、オスはその両葉先端が伸長する。

色彩 体は青色みがかった紫色で、背側から腹側にいくにつれて淡い紫色になる。上顎先端から胸鰭基部まで橙赤色縦帯が入る。背鰭は薄紫色で小橙色が入る。臀鰭と腹鰭は薄紫色。背鰭は透明。尾鰭は薄紫色で両葉先端が橙色。成魚の雄は、背鰭軟条部の外縁が橙赤色になる。

分布 高知県以南の南日本からツアモツ諸島までの西太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県屋久島・硫黄島、および口之島、伊江島、渡嘉敷島などの琉球列島に分布する。

備考 本種は最大全長 170 mm に達し、岩礁外縁の斜面の水深 5–60 m に生息する。硫黄島でも同様の環境の水深 15 m 付近で幼魚が採集された。

(荻原豪太)

Other collected specimen: KAUM-I. 30607, 18.3 mm SL, Iou-jima.



スミレナガハナダイ Take-shima, 19 Sept. 2010, Y. Matsuda



スミレナガハナダイ (メス) KAUM-I. 29623, 71.7 mm SL, Iou-jima



スミレナガハナダイ (オス) KAUM-I. 29626, 92.3 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

スミレナガハナダイ

Pseudanthias pleurotaenia (Bleeker, 1857)

形態 背鰭 X, 16-18; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 17-19; 有孔側線鱗 45-50; 側線上方横列鱗数 7; 側線下方横列鱗数 18-19; 鰓耙 8-13+26-31。上顎後端は瞳孔の中央または後端直下付近に達する。下鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺は弱い鋸歯状。腹鰭をたたんだ時の後端は、臀鰭始部を超える。背鰭第3棘は伸長する。尾鰭は深く湾入し、その両葉先端は伸長する。

色彩 雄の体色は橙赤色で、鰓蓋の直後に四角形に近い桃色の斑紋がある。上顎先端から眼にかかり、胸鰭基部を通り尾柄の下部まで桃色に縁どられた橙赤色帯が入る。背鰭の外縁は桃色で縁取られる。臀鰭は薄紫色で、軟条部に黄色斑と赤色斑が入る。腹鰭は棘が薄紫色で、軟条部は赤色。尾鰭は淡い橙赤色で両葉先端が淡い桃色。雌の体色の黄色で、腹側の鱗を除いて鱗の後端は橙色で縁取られる。上顎先端から眼にかかり、胸鰭基部を通り尾柄の下部まで薄紫色に縁どられた黄色帯が入る。背鰭の外縁は桃色で縁取られる。尾鰭は黄色で、両葉の外縁が薄紫色で縁取られる。

分布 琉球列島からサモアまでの西太平洋に分布する。国内では、伊豆諸島、駿河湾、硫黄島、竹島、屋久島、沖縄島、伊江島、慶良間諸島、西表島などに分布する。

備考 本種は最大全長 200 mm に達する。水深 20-70 m のサンゴ礁外縁の斜面に群れで生息する。

(荻原豪太)

Other collected specimen: KAUM-I. 29621, 115.0 mm SL, Iou-jima.



■ スミレナガハナダイ Take-shima, 19 Sept. 2010, Y. Matsuda



■ スミレナガハナダイ Iou-jima, 8 July 2009, Y. Komiya



スミレナガハナダイ lou-jima, F. Yasudome



フチドリハナダイ KAUM-I. 31387, 26.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

フチドリハナダイ

Pseudanthias randalli (Lubbock & Allen, 1978)

形態 背鰭X, 15-17; 臀鰭III, 7; 胸鰭16-18; 有孔側線鱗38-47; 側線上方横列鱗数5; 側線下方横列鱗数18-21; 鰓耙8-10+21-24。舌上に歯板がない。上顎後端は眼の瞳孔後端直下付近に達しない。下顎蓋骨の縁辺は鋸歯状。腹鰭をたたんだ時の後端は、臀鰭始部に達しない。尾鰭の両葉先端は伸長しない。尾鰭は浅

い湾入形。雄の背鰭第3棘は伸長し、先端の鰭膜は皮弁状になる。

色彩 本研究で採集された雄個体に基づく。頭部と体側の背側は黄色で、腹側は桃色で、体全体に多数の鮮やかな赤色点が入る。上顎先端から眼にかかり、胸鰭基部まで橙色帯が入る。背鰭は基部から外縁にいくにつれて黄色～桃色～紫色になり、第3-4棘の鰭膜に小黒色点が密集する。臀鰭と腹鰭は紫色で鮮やかな赤色点が入る。胸鰭は淡い桃色。尾鰭は桃色で、両葉の外縁が薄紫色で縁取られる。

分布 西太平洋に分布する。国内では、伊豆諸島、高知県、鹿児島県竹島、琉球列島などから知られている。

備考 本種は水深15-120mのサンゴ礁外縁の急斜面にある岩棚の下や洞窟に群れで生息する。

(荻原豪太)

Other collected specimen: KAUM-I. 29767, 24.8 mm SL, Take-shima.



イトヒキコハクハナダイ (オス) KAUM-I. 29771, 92.2 mm SL, Take-shima



イトヒキコハクハナダイ (メス) KAUM-I. 29772, 74.1 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

イトヒキコハクハナダイ

Pseudanthias rubrolineatus (Fourmanoir & Rivaton, 1979)

形態 背鰭 X, 16; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 37-40; 鰓耙 35-38。体前方の断面は側扁形。下顎の後方に歯がない。側線は完全で尾柄まで達する。雄の背鰭第3棘は伸長する。背鰭と臀鰭の棘部基底は無鱗。尾鰭は湾入形で、上葉・下葉から数本の軟条が伸長する。

色彩 体側はオレンジがかった赤色で、腹部は薄い桃色。各鱗の後縁は黄色く、体

側下方ほど明瞭。胸鰭基底上方から尾柄上方後端にかけて明瞭な1縦帯が走る。この縦帯の前方は黄色く、後方に向かって赤みが強くなる。吻端から眼窩下縁を経て胸鰭基底にかけて黄色帯が走る。この黄色帯の下縁は紫色の細い線で縁どられる。背鰭は黄色で、鰭の下半分は虫食い状の赤色模様があり、地色である黄色が斑点のようにみえる。背鰭の縁は紫色。胸鰭は半透明。腹鰭は赤みがかった白色。臀鰭は黄色味を帯びるが縁辺部は半透明の白



イトヒキコハクハナダイ Take-shima, 9 Oct. 2011, S. Dewa

色。尾鰭の中央付近は黄色味を帯びた赤色で、上下の縁は黄色、後縁は半透明の黄色。尾鰭の糸状軟条は黄色。

分布 ニューカレドニアと日本から知られている。国内では、南日本の太平洋側から多くの水中写真が報告されているが、標本は鹿児島県の竹島、高知県土佐清水、小

笠原諸島の塚島と父島からのみ採集されている。

備考 本種は鹿児島県竹島から採集された標本に基づき2010年に標準和名イトヒキコハクハナダイが提唱された(Motomura et al., 2010b)。本種は竹島では水深55–80 mの大きな転石が転がった斜面に

5–6個体のハレムを形成して生息している。

なお、西オーストラリアから報告された *Pseudanthias georgei* (Allen, 1976) は本種の子参異名である可能性があり、今後の分類学的検討が望まれる。

(本村浩之・出羽慎一・古田和彦)



■ キンギョハナダイ KAUM-I. 29440, 22.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

キンギョハナダイ

Pseudanthias squamipinnis (Peters, 1855)

形態 背鰭X, 17; 臀鰭III, 7–8; 胸鰭16–18; 有孔側線鱗39–43; 側線上方横列鱗数6–7; 側線下方横列鱗数16–19; 鰓耙9–11+22–24。上顎後端は瞳孔の中央または後端直下付近に達する。下鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁は鋸歯状。腹鰭をたたんだ時の後端は、雄は臀鰭始部を大きく超えるが雌や幼魚では達しない。雄の背鰭第3棘はよく伸長する。尾鰭は深く湾入し、その両葉先端は伸長する。

色彩 雄の体色は背側が橙赤色で腹側は薄紫色になり、各鱗に黄色斑がある。胸鰭は透明で、上部外縁に眼径大の鮮やかな赤色斑が入る。背鰭と尾鰭は橙赤色で、外縁は薄紫色で縁取られる。臀鰭は薄紫色で、小橙色斑が入る。腹鰭は赤色。雌の体色は黄色で、各鱗に橙色から黄色の斑紋がある。上顎先端から眼にかかり、胸鰭基部まで薄紫色に縁どられた橙黄色帯が入る。背鰭は橙色で、鰭条に沿って黄色斑が並び、外縁は薄紫色で縁取られる。



■ キンギョハナダイ KAUM-I. 29439, 25.4 mm SL, Iou-jima

臀鰭と尾鰭は黄色で、外縁が薄紫色で縁取られる。腹鰭と胸鰭は黄色。

分布 インド・西太平洋域に広く分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島・

竹島・屋久島、および口之島、伊江島、慶良間諸島、西表島などの琉球列島に分布する。

備考 本種は最大全長150 mmに達し、水深2–40 mのサンゴ礁や岩礁に群



■ キンギョハナダイ KAUM-I. 29434, 67.3 mm SL, Iou-jima



■ キンギョハナダイ Take-shima, 15 July 2009, Y. Komiya

れで生息する。本種の雌はナガハナダイ *Pseudanthias elongatus* (Franz, 1910) の雌に色彩が酷似するが、体側の小黄色斑が連ならないことで識別される。

(荻原豪太)

Other collected specimens: KAUM-I. 29435, 45.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29436, 51.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29437, 46.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29438, 55.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29447, 21.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29448, 22.9 mm SL, Iou-

jima; KAUM-I. 29449, 12.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29450, 19.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29451, 18.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29452, 18.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29453, 18.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29454, 18.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29455, 19.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29456, 16.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29457, 17.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29458, 15.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29459, 16.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29460, 18.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29461, 16.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29462, 16.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29463, 16.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29464, 14.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29465, 16.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29466, 15.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29467, 16.3

mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29468, 15.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29469, 14.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29470, 16.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29471, 16.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29472, 15.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29473, 14.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29474, 15.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29482, 68.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29712, 20.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29713, 24.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29714, 17.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29715, 19.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29730, 85.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29731, 58.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29736, 17.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30050, 21.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30051, 18.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30052, 19.1



■ キンギョハナダイ KAUM-I. 29729, 91.4 mm SL, lou-jima



■ キンギョハナダイ KAUM-I. 29728, 100.2 mm SL, lou-jima

mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30053, 18.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30054, 17.6 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30055, 19.1 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30056, 19.1 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30057, 16.4 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30058, 17.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30067, 23.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30124, 27.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30125, 28.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30126, 31.7 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30127, 17.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30128, 19.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30129, 19.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30130, 18.6 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 31390, 25.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37791, 72.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I.

37964, 16.8 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106101, 31.8 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106102, 29.4 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106156, 3, 18.0–44.7 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106164, 50.1 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106903, 3, 13.8–21.0 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106906, 73.6 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106909, 70.4 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106911, 63.2 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106912, 6, 14.2–39.0 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106924, 2, 15.3–16.2 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106931, 8, 15.4–32.3 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106939, 3, 12.6–20.5 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106947, 34.2 mm SL, lou-jima.



■ キンギョハナダイ lou-jima, 9 Oct. 2011, K. Furuta



ベニハナダイ KAUM-I. 37983, 112.1 mm SL, Take-shima



ベニハナダイ Iou-jima, 18 June 2009, S. Dewa

スズキ目ハタ科ナガハナダイ属

ベニハナダイ

Pseudanthias sp.

形態 背鰭 X, 16; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 17;
有孔側線鱗 40-44; 側線上方横列鱗

数 6-7; 側線下方横列鱗数 18; 鰓耙
10+26。舌上に歯板がない。上顎後端は
眼の瞳孔後端直下付近に達する。下鰓蓋
骨の縁辺は鋸齒状。腹鰭をたたんだ時の
後端は、臀鰭始部に達する。尾鰭の両葉
先端は伸長しない。尾鰭は浅い湾入形。

色彩 本研究で採集された雄個体に基づく。

体側の前半は背側から腹側にかけて赤橙
色～黄色～薄紫色になり、後半は背側か
ら腹側にかけて赤橙色～紫色～薄紫色に
なる。鱗の後端に斑紋があり、体側の前
方から後方にいくにつれて赤橙色～黄色に
なる。上顎先端から眼にかかり、胸鰭基部
まで桃色に縁どられた黄色帯が入る。その
黄色帯の上部は赤橙色で、下部は橙色。



■ ペニハナダイ lou-jima, 27 June 2009, Y. Komiya



■ ペニハナダイ Take-shima, 11 May 2010, K. Matsuno



ベニハナダイ Take-shima, 23 July 2011, Y. Matsuda



ベニハナダイ Take-shima, 19 Sept. 2010, Y. Matsuda



ベニハナダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, K. Furuta

背鰭棘条部は黄色で、棘条部には不規則な紫色斑が入り、背鰭第1-2棘の鰭膜と第4-7棘の基部付近の鰭膜は赤橙色。背鰭軟条部は淡い赤橙色で、不規則に黄色点が入り、外縁は紫色で縁取られる。臀鰭は薄紫色で、第2棘から第5軟条までの鰭膜は黄色。腹鰭は薄紫色で、第1棘から第3軟条までの鰭膜は橙色から黄色。尾鰭は両葉の外縁は薄紫色で縁取られ、その内側は黄色から赤橙色。

分布 パラオ、フィリピン、インドネシア、南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。
(荻原豪太)



トゲメギス KAUM-I. 29791, 40.2 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタ科 トゲメギス属

トゲメギス

Pseudogramma polyacantha (Bleeker, 1856)

形態 背鰭 VII, 19–22; 臀鰭 III, 16–18; 胸鰭 14–17; 背鰭前鱗列数 18–20; 縦列鱗数 46–50; 側線有孔鱗 31–41; 鰓耙 4–6 + 10–13; 脊椎骨数 10 + 16=26。口は大きく、眼の後端直下を超える。側線は1本で不完全。両眼間隔域に1対の感覚管孔がある。腹鰭をたたんだ時の後端は、背鰭始部に達する。尾鰭は円形。

色彩 鰓蓋に眼径大の黒褐色斑が1つあ

る。眼の後端から鰓蓋の黒色斑にかけて、不明瞭な淡い黒色縦帯があり、その縦帯に平行して黒色点が4つ並ぶ。体色の地色は褐色で、体側に約5列の黄色斑が鰓蓋の直後から尾柄にかけて縦に並び、市松模様を形成する。背鰭、臀鰭、尾鰭および胸鰭は一樣に褐色で、縁辺に向かって淡くなる。

分布 紅海、ペルシャ湾、インドを除くインド洋と、中国大陸を除く西太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、鹿児島県屋久島・硫黄島・竹島、琉球列島に分布する。

備考 ハワイ諸島とジョンストン島に分布

する本種の個体群は、他の海域と比較して、背鰭軟条数と胸鰭軟条数の最頻値に差異があり、Randall & Baldwin (1997)により亜種 *Pseudogramma polyacanthum hawaiiensis* が提唱された。しかし、同名義種は現在では *P. polyacantha* の新参異名と考えられている。今後の詳細な研究に期待する。

(荻原豪太)

Other collected specimens: KAUM-I. 30061, 40.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30543, 46.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30544, 42.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37621, 31.6 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106136, 32.2 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106184, 27.6 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106914, 2, 21.4–35.7 mm SL, Iou-jima.

スズキ目 ハタ科 ハナゴンベ属

ハナゴンベ

Serranocirrhitis latus Watanabe, 1949

形態 背鰭 X, 18–20; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 13–14; 有孔側線鱗 33–38; 側線上方横列鱗数 5; 側線下方横列鱗数 11–12; 鰓耙数 9–10 + 23–26。体は円盤状で体高は高く、体長は体高の1.9–2.2倍。下鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺はなめらか。腹鰭をたたんだ時の後端は、背鰭始部に達する。尾鰭は湾入形。

色彩 体地色は桃色で、各鱗に黄色点があり、背面にいくにつれて黄色点が大きくなる。下顎から眼を横切り、背鰭始部から基部に平行に黄色帯が走る。頭部背面から3本の斜帯が胸鰭基部付近まで入る。背鰭棘条部先端と軟条部基部は濃い桃色。胸鰭、腹鰭および臀鰭は淡い桃色。尾鰭は背縁と腹縁は濃い桃色で縁どられ、それと平行に黄色縦帯が内側に入る。



ハナゴンベ KAUM-I. 29583, 16.6 mm SL, Iou-jima

分布 伊豆諸島と伊豆半島以南の南日本からフィジーまでの西太平洋に分布する。

備考 本種は水深15–70 mのサンゴ礁外縁の急斜面にある岩棚の下や洞窟に群れで生息する。

(荻原豪太)



ハナゴンベ Iou-jima, 20 Aug. 2011, A. Sumino



ハナゴンベ Iou-jima, 11 May 2010, K. Matsuno



バラハタ KAUM-I. 37650, 379.7 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハタ科 バラハタ属

バラハタ

Variola louti (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IX, 13-14; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16-19; 縦列鱗数 113-135; 有孔側線鱗 66-77; 鰓耙 7-10 + 15-18。両眼間窩はわずかにふくらむ。上顎後端は眼の後端直下を大きく超える。腹鰭の先端は伸長し、

それをたたんだ時の後端は肛門を超える。尾鰭は深く湾入し、その両葉の先端は伸長する。

色彩 体地色は赤色で、体側背部は黒赤色、腹部に向かって鮮やかな赤色になる。下顎腹面は橙色。体全体に青色、桃色、白色の不揃いの小点があり、頭部の点は体側のそれと比較して小さく、密集する。

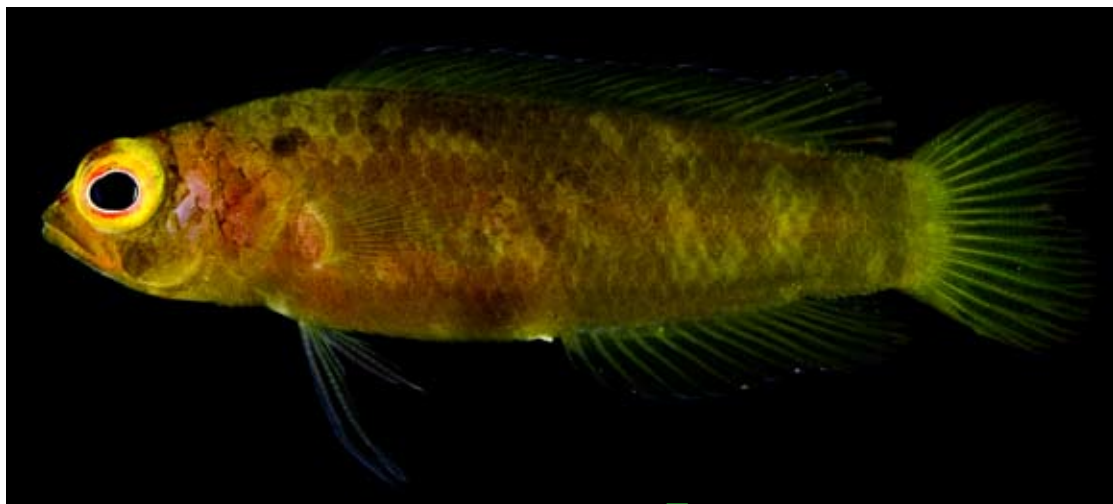
分布 ペルシャ湾、アラビア海を除くインド

洋と南日本からビトケアン諸島までのハワイを除く太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、南日本太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は全長 1 m に達する。水深 10-240 m から記録があり、浅海から深場のサンゴ礁や岩礁域に生息する。
(荻原豪太)

Other collected specimen: NSMT-P 106127, 343.5 mm SL, Iou-jima.

Pseudochromidae



オオメタナバタメギス KAUM-I. 29651, 27.3 mm SL, Take-shima

スズキ目 メギス科 オオメタナバタメギス属

オオメタナバタメギス

Amsichthys knighti (Allen, 1987)

形態 背鰭 I, 23; 臀鰭 I, 14; 胸鰭 16–17; 腹鰭 I, 4; 側線有孔鱗 1; 鰓耙数 14–15。体は細長く側扁する。主上顎骨の後端は眼の中央を越える。瞳孔は西洋梨型。眼は大きく体長の 10.6–12.1%。

色彩 体全体は暗黄緑色で頭部はやや赤みを帯びる。腹鰭を除く各鰭は黄緑色で中央部は黒色素胞がやや密に分布し、先端は白色。腹鰭は透明。

分布 本種はオーストラリア東岸、パプアニューギニア、ソロモン諸島、インドネシアおよび日本に分布する。日本国内では、硫黄島・竹島（本研究）および奄美大島から記録されている。

備考 本種は Allen (1987) によって、オーストラリアのグレートバリアリーフの Ribbon



オオメタナバタメギス KAUM-I. 29651, 27.3 mm SL, Take-shima

Reef 産の標本に基づき新種記載された。林 (1993) は、奄美大島産の標本に基づき本種を日本初記録として報告し、オオメタナバタメギス *Pseudoplesiops knighti* とした。Gill & Edwards (1999) は本種をタイプ種として、*Amsichthys* 属を設立した。本報告では Gill & Edwards (1999) に従い、オオメタナバタメギスの学名を *Amsichthys knighti* とした。

本調査において硫黄島・竹島の水深 5–20m の岩礁から採集された。単独で生息すると考えられる。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29742, 29.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37775, 30.0 mm SL, Take-shima.



メギス Iou-jima, 3 June 2009, Y. Komiya

スズキ目 メギス科 メギス属

メギス

Labracinus cyclophthalmus (Müller & Troschel, 1849)

形態 背鰭 II, 25; 臀鰭 III, 14; 胸鰭 18–19; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 53–56+19–24。体は細長く側扁する。頭部眼上縁は丸い。吻端はやや尖る。背鰭棘は細くてしなやか。

色彩 オスは吻端が黄緑色、頭部から腹部にかけて黄色がかった赤色で、その他の体側は鮮やかな赤色を呈する。背鰭、臀

鰭および尾鰭は一律に赤く、胸鰭と腹鰭は黄色である。背側に黒色斑が線をなすように並ぶ。

メスは吻端から体側中央にかけて暗緑褐色を呈し、体側中央から尾柄部にかけて赤色を呈する。背鰭と臀鰭は灰色がかった赤色で、尾鰭の中央部は灰色がかった赤色で、後端は黄色を呈する。胸鰭と腹鰭は

黄色。背側に黒色斑が線をなすように並ぶ。

分布 本種は西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では和歌山県以南に分布する。

備考 本種は雌雄で色彩が異なる。メギス科魚類の中でも大型で、体長 12 cm ほどにも達する。岩やサンゴの隙間に生息する。本調査では硫黄島の水深 2 m の岩礁域から採集された。

(吉田朋弘)

Other collected specimen: KAUM-I. 37961, 114.7 mm SL, Iou-jima.



メギス KAUM-I. 32328, 110.4 mm SL, Iou-jima



メギス KAUM-I. 37960, 106.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 メギス科 *Pictichromis* 属**クレナイニセスズメ***Pictichromis porphyrea*
(Lubbock & Goldman, 1974)

形態 背鰭 III, 22; 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 21-25+7-10; 鰓耙数 18-23。体は細長く側扁する。頭部眼上縁は丸い。吻端はやや尖る。背鰭棘は細くてしなやか。

色彩 体色は一律に紫色を呈する。尾鰭基部を除いて各鰭は透明。

分布 本種は西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では硫黄島・竹島以南に分布する。



クレナイニセスズメ Iou-jima, 7 July 2008, S. Dewa

備考 Allen et al. (2008) に従い、本種の学名を *Pictichromis porphyrea* とした。本科魚類の中で、体色が一律に赤紫色を呈する種は、本種と *Pseudochromis fridmani* Klausewitz, 1968 の2種のみが知られている。前者は吻端から眼まで暗灰色線がないこと（後者はある）、背鰭軟条数が21-22であること（25-27）、臀鰭軟条数が11-12であること（14-15）から容易に識別される。

本調査では水中写真によって生息が確認されたが、標本を採集することはできなかった。華やかな外見から観賞魚としても人気がある。

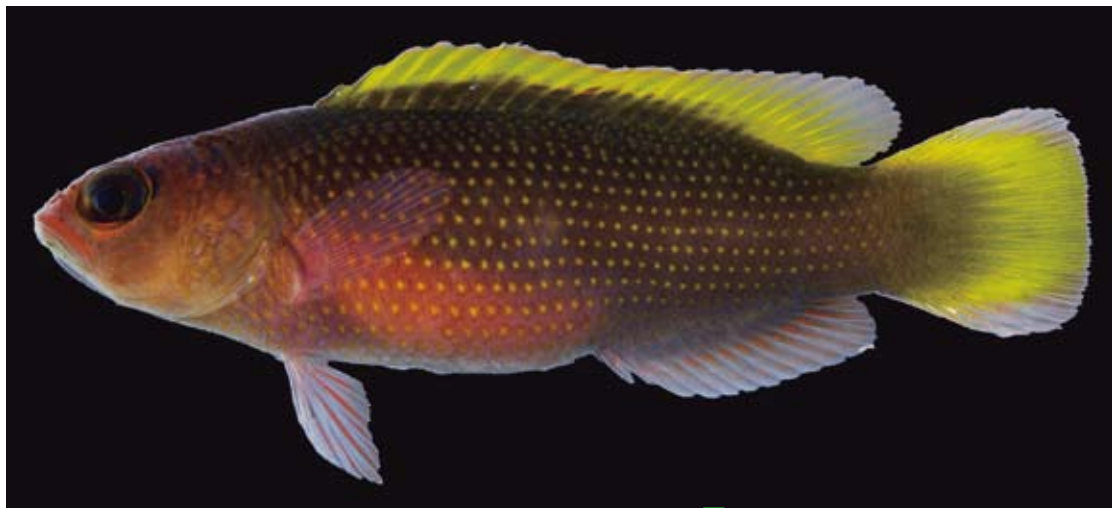
(吉田朋弘)



クレナイニセスズメ lou-jima, 7 July 2008, S. Dewa



ホシニセスズメ KAUM-I. 37699, 44.7 mm SL, lou-jima



ホシニセスズメ KAUM-I. 29610, 41.0 mm SL, Take-shima



ホシニセスズメ KAUM-I. 30566, 38.2 mm SL, Iou-jima

スズキ目 メギス科 ニセスズメ属

ホシニセスズメ

Pseudochromis marshallensis Schultz, 1953

形態 背鰭 III, 24–26; 臀鰭 III, 11–14; 胸鰭 17–19; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24–32+6–15。体は細長く側扁する。頭部眼上縁は丸い。背鰭棘は細くてしなやか。上下顎の犬歯状歯は同長。

色彩 体全体は暗紫色。体側の各鱗中央

に1黄色小斑があり、縦列点状に並ぶ。背鰭と尾鰭は縁辺を除き、黄色。

分布 本種は台湾、フィリピン、オーストラリア、ミクロネシアなどの西太平洋熱帯域に広く分布する。国内では八丈島および硫黄島・竹島以南に分布する。

備考 本種は尾鰭後縁の形に変異がみられることが知られている。左ページの上の個体は尾鰭の上・下方の軟条が伸長するタイプで、下の個体と本ページ上の個体は尾鰭後縁が丸いタイプ。軟条が伸長するタイプは1個体のみが採集された。これらの尾鰭二型が雌雄の差であるのか、複数種が含まれるのか、今後の検討が必要である。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29678, 34.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29711, 33.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 32355, 42.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32357, 50.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 33944, 35.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 33945, 34.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 33946, 29.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37620, 48.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37669, 43.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37676, 46.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37698, 46.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37814, 40.0 mm SL, Iou-jima.



カメレオンタナバタメギス KAUM-I. 30617, 25.7 mm SL, Iou-jima



カメレオンタナバタメギス KAUM-I. 31411, 27.1 mm SL, Iou-jima



カメレオンタナバタメギス KAUM-I. 31411, 27.1 mm SL, Iou-jima

スズキ目 メギス科 タナバタメギス属

カメレオンタナバタメギス (新称)*Pseudoplesiops annae* (Weber, 1913)

標本 KAUM-I. 30617、標準体長 25.7 mm、鹿児島県三島村硫黄島西側（北緯 30 度 47 分 4 秒、東経 130 度 15 分 42 秒）、水深 2–22 m、2010 年 6 月 27 日、タモ網、荻原豪太・吉田朋弘；KAUM-I. 31411、標準体長 27.1 mm、KAUM-I. 31412、標準体長 22.0 mm、鹿児島県三島村硫黄島西側（北緯 30 度 47 分 4 秒、東経 130 度 15 分 42 秒）、水深 2–22 m、2010 年 7 月 24 日、タモ網、KAUM 魚類チーム。

形態 背鰭 1 棘 25 軟条。臀鰭 1 棘 15–16 軟条。腹鰭 1 棘 3 軟条。胸鰭 17 軟条、うち 11–12 軟条は分枝。尾鰭 17 軟条、うち 13 軟条は分枝。側線有孔鱗 1 枚。体側縦列鱗 35 枚。背鰭前方鱗 7 枚。鰓耙 10–11 本。

体各部の体長に対する割合 (%) は以下の通り：体高 23.5–25.4；体幅 13.8–14.5；頭長 27.3–31.0；吻長 5.6–6.1；眼窩径 7.4–8.7；両眼間隔幅 4.7–4.8；上顎

長 9.1–10.0；尾柄高 13.4–14.9；尾柄長 6.4–7.7；背鰭前長 31.4–33.3；臀鰭前長 57.4–61.8；腹鰭前長 28.0–30.3；背鰭基底長 60.3–61.9；臀鰭基底長 30.1–32.9；尾鰭長 22.4–23.0；胸鰭長 19.8–21.2；腹鰭長 26.8–31.8。

体は側扁し、細長い。頭部は背鰭始部から吻端にかけて緩やかに曲がる。両顎には小歯が 1–2 列に並ぶ。鋤骨と口蓋骨には小歯がある。上顎後端は瞳孔中央に達する。瞳孔は西洋梨型で前方に尖る。頭部と体側の鱗は円鱗。鰓孔上端に 1 有孔側線鱗がある。腹鰭後端は肛門に達する。腹鰭始部は背鰭始部よりやや前方に位置する。臀鰭始部は背鰭第 11 軟条基底直下に位置する。胸鰭の後端は折畳んだ腹



カメレオンタナバタメギス KAUM-I. 31412, 22.0 mm SL, lou-jima



カメレオンタナバタメギス KAUM-I. 31412, 22.0 mm SL, lou-jima

鰭の後端に達しない。尾鰭は截形で両角はわずかに丸い。

色彩 体色は個体差があるが、体全体は赤褐色または淡黄緑色で、吻端から頭頂部にかけて、前鰓蓋骨下方前部は赤みや黒色を帯びる。背鰭と臀鰭は白色である鰭膜の周縁部を除き、一様に淡黄緑色を呈する。胸鰭は透明で軟条部は赤色である。尾鰭は淡赤色から淡黄緑色と変異がある。黒色の西洋梨型の瞳は黄色で縁取られ、その周囲は黄色がかった赤色を呈する。前鼻管は淡赤色。

分布 本種は琉球列島からフィリピン、インドネシア、オーストラリア北西部、ソロモン諸島、バヌアツなどの西太平洋に広く分布する (Allen & Erdmann, 2012)。Allen & Erdmann (2012) は本種の分布域に琉球

列島を含めたが、詳細な産地の記載や標本の情報を明示しておらず、写真も掲載されていない。硫黄島産の3標本は日本における本種の標本に基づく初めての記録となり、同時に本種の北限記録でもある。

備考 硫黄島から得られた標本は、臀鰭始部における体高が標準体長の22.1–23.9%、背鰭軟条が25本、臀鰭軟条が15–16本、胸鰭軟条が17本、腹鰭が1棘3軟条、有孔側線鱗が1枚、および鰓膜が癒合しないことから、Gill (1999) が定義した *Pseudoplesiops* 属の特徴 (体高が20%以上、背鰭軟条が21–38、臀鰭軟条が10–21、胸鰭軟条が15–20、有孔側線鱗が1、腹鰭が1棘3–4軟条、および鰓膜が癒合しない) と一致する。

Pseudoplesiops 属は *P. annae* (Weber, 1913)、*P. collare* Gill, Randall & Edwards, 1991、

P. howensis Allen, 1987、*P. immaculatus* Gill & Edwards, 2002、*P. occidentalis* Gill & Edwards, 2002、*P. revillei* Schultz, 1953、*P. rosae* Schultz, 1943、*P. typus* Bleeker, 1858 および *P. wassi* Gill & Edwards, 2003 の9有効種から構成される (Gill, 1999 ; Gill & Edwards, 2003 ; Allen & Erdmann, 2012)。

硫黄島の標本は Gill (1999) と Allen & Erdmann (2012) による *P. annae* の記載や写真とよく一致した。 *Pseudoplesiops annae* は下顎中央に目立った皮弁をもたないことで、皮弁を有する *P. immaculatus* と *P. revillei* から区別される (Gill, 1999 ; Gill & Edwards, 2003)。また、本種は側線上方鱗横列数が35–37であることから、39–42の *P. collare*、26–28の *P. occidentalis*、および26–29の *P. rosae* から区別される (Gill, 1999 ; Gill & Edwards, 2002 ; Allen

& Erdmann, 2012)。さらに、本種は臀鰭が1棘16-17軟条であることから、1棘14軟条の *P. howensis* と2-3棘14-16軟条の *P. typus* から区別される (Allen, 1987; Allen & Erdmann, 2012)。本種は *P. wassi* と比較して背鰭条数が通常1棘25-26軟条であること (後者では通常1棘28軟条)、背鰭と臀鰭の鰭膜基底に青色斑点列がない (ある) などから区別される (Gill & Edwards, 2003)。

日本産タナバタメギス属魚類は、本種の他にタナバタメギス *P. rosae* が知られている (林, 2000; 本研究)。 *Pseudoplesiops annae* はタナバタメギスと比較して、先述の側線上方鱗横列数の相違に加え、背鰭軟条数が25-26 (タナバタメギスでは22-23)、臀鰭軟条数が14-16 (13-14)、眼の後縁が黒く縁取られない (縁取られる) などの特徴により識別される (Gill, 1999; 本研究)。

本種は硫黄島では水深2-22mのサンゴ礁の穴奥に生息していた。

Pseudoplesiops annae には標準和名が与えられていなかったため、本研究では鹿児島県硫黄島産の標本 (KAUM-I. 31411) に基づき、体色が赤褐色または淡黄緑色と変異があることに因み、新標準和名カメレオンタナバタメギスを提唱する。(吉田朋弘・出羽慎一・古田和彦・本村浩之)



ゴマヒレキントキ KAUM-I. 29667, 206.7 mm SL, Take-shima

スズキ目キントキダイ科ゴマヒレキントキ属

ゴマヒレキントキ

Heteropriacanthus cruentatus (Lacepède, 1801)

形態 背鰭 X, 12-13; 臀鰭 III, 14; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 58-62; 鰓耙数 21-23。体は長楕円形でよく側扁する。下顎は突出する。口は大きく、上顎後端は瞳孔に達する。尾鰭は普通ごく浅い二重截形。腹鰭の後端は臀鰭基部に達しないか、かろうじて達する。

色彩 体全体は赤色と銀色の斑模様で、頭部は赤みが強い。瞳孔は黒色であるが、眼球は赤みを帯びる。背鰭前半は黄色みが強く後半につれて赤色みがかかる。胸鰭と腹鰭は透明であるが、軟条部は赤色。臀鰭と尾鰭は、全体が赤色で黄色斑が散在する。

分布 本種は全世界の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。日本では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南に分布する。

備考 本種は尾鰭後縁が截形であること、背鰭、臀鰭および尾鰭に黄色斑が散在すること、側線有孔鱗数が65以下であることにより日本に分布する本科他種と区別される。本調査では竹島のサンゴ礁域の水深20mで浅から採集された。

(吉田朋弘)

スズキ目キントキダイ科キントキダイ属

ホウセキキントキ

Priacanthus hamrur (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X, 14-15; 臀鰭 III, 14-15; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 75-80; 鰓耙数 24-25。体は長楕円形でよく側扁する。下顎は突出する。口は大きく、上顎後端は瞳孔に達する。尾鰭は湾入形

で、上下両葉端は少しのびる。腹鰭の後端は臀鰭基部に達しないか、かろうじて達する。

色彩 体全体は赤色を呈し、側線上には8個程度の濃赤色斑がある。胸鰭は透明であるが、軟条部は赤色である。背鰭は一樣に赤く、後端はやや黒色がかかる。腹鰭と臀鰭も同様に赤いが、鰭膜基底と後端はやや密に黒色素胞が分布する。尾鰭は赤色で、後縁は黒色。

分布 本種はインド・西太平洋域に広く分布する。日本では八丈島、相模湾以南に分布する。

備考 本種は尾鰭が湾入形で上下両葉端が若干伸長すること、背鰭、臀鰭および尾鰭に斑紋がないことにより日本に分布する本科他種と区別可能である。本調査では硫黄島のサンゴ礁域の水深15mで浅から採集された。

(吉田朋弘)



ホウセキキントキ KAUM-I. 37836, 289.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ウスジマイシモチ

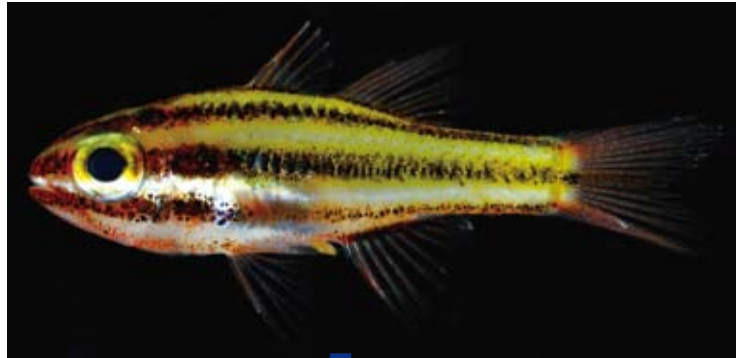
Apogon angustatus (Smith & Radcliffe, 1911)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24-25; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5+13-14=18-19; 櫛歯状に発達した鰓耙 2+10-11=12-13。

色彩 体色は白色で、体側に金色で縁取られた赤みを帯びた黒色縦線が 5 本走る。尾柄中央に黒色斑がある。体側中央の縦線は黒色斑を通り、尾柄後縁に達する。背鰭は透明であるが、第 1 背鰭の第 3 棘基底から第 5 棘先端にかけての鰭膜は金色である。第 2 背鰭の基底付近の鰭膜に金色の帯があり、黒色素胞が分布する。胸鰭と腹鰭は透明である。臀鰭は透明であるが、基底付近の鰭膜に金色の帯があり、黒色素胞が分布する。尾鰭は透明である。

分布 本種はインド・西部太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 本種はミナミフトスジイシモチ *Apogon nigrofasciatus* Lachner, 1953 に似るが、*A. angustatus* は尾柄に黒色斑があること（後者ではない）、体側中央の縦線は黒色斑を通り、尾柄後縁に達すること（尾柄後端で



ウスジマイシモチ KAUM-I. 30557, 17.8 mm SL, Iou-jima



ウスジマイシモチ Iou-jima, 5 June 2009, S. Dewa



ウスジマイシモチ KAUM-I. 29773, 54.7 mm SL, Take-shima



ウスジマイシモチ KAUM-I. 29773, 54.7 mm SL, Take-shima

終わる) から識別される。

本種は単独もしくは数匹の群れで岩の割れ目や岩奥などで生息している。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされて

いたが、近年 *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29643, 45.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30558, 34.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 31374, 56.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31630, 45.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37652, 54.6 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106092, 66.5 mm SL, lou-jima.

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

アオハナテンジクダイ

Apogon apogonides (Bleeker, 1856)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24-25; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙

5+14-15=19-20; 櫛歯状に発達した鰓耙 3+13=16。

色彩 体側上方は黄色がかった桃色、下



アオハナテンジクダイ KAUM-I. 29758, 64.3 mm SL, Take-shima



アオハナテンジクダイ KAUM-I. 29759, 38.7 mm SL, Take-shima



アオハナテンジクダイ KAUM-I. 29758, 64.3 mm SL, Take-shima

方は光沢のある黄色。吻端から眼を通り鰓蓋後端まで伸びる銀白色線が2本ある。腹鰭を除く各鰭は透明。第1背鰭第1棘から第5棘にかけて黄色で、先端に黒色素胞が密に分布する。腹鰭は黄色。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種はアオスジテンジクダイ *Apogon aureus* (Lacepède, 1802) に似るが、*A. apogonides* は尾柄に黒色帯がないこと(後者では黒色帯がある)から識別される。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 30117, 36.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30118, 35.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30119, 34.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30120, 28.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31384, 33.0 mm SL, Take-shima.



アオハナテンジクダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



アオスジテンジクダイ KAUM-I. 29607, 117.8 mm SL, Iou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

アオスジテンジクダイ

Apogon aureus (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24-25; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 6-7+17-18=23-24; 櫛歯状に発達した鰓耙 4+15-17=19-21。

色彩 体全体は黄色がかった橙色。尾柄後端に明瞭な黒色帯がある。吻端から眼を通り鰓蓋まで達する銀白色線が 2 本ある。上顎中央から口蓋骨を通る 1 本の銀白色線がある。各鰭は透明。腹鰭の鰭膜は黄色。臀鰭基底部に黒色線がある。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は吻端から眼を通り鰓蓋まで達する銀白色線が 2 本あること、尾柄後端に明瞭な黒色帯があることなどから同属他種と容易に識別される。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

Other collected specimen: NSMT-P 106179, 37.2 mm SL, Take-shima.



アオスジテンジクダイ Take-shima, 16 May 2010, Y. Matsuda

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

トゲナガイシモチ

Apogon caudicinctus Randall & Smith, 1988

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 12-13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 6-7; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3-4+12-13=15-17; 櫛歯状に発達した鰓耙 1+7-8=8-9。成魚は第 1 背鰭 2 棘が長く、後方に倒すと第 2 背鰭を越える。

色彩 体全体が赤色を呈する。鰓蓋後端から体側中央を通り尾柄部まで暗色がかった細い赤線がある。体の背縁は黒色素胞がやや密に分布する。尾柄部に黒色帯がある。各鰭は透明である。

分布 本種はインド・西太平洋域に広く分布する。日本では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の成魚は第 1 背鰭 2 棘が長く、後方に倒すと第 2 背鰭を越えること、尾柄部に黒色帯があることなどから同属他種と容易に識別される。

(吉田朋弘)



トゲナガイシモチ KAUM-I. 29534, 50.5 mm SL, Iou-jima



トゲナガイシモチ KAUM-I. 29536, 20.8 mm SL, Iou-jima

Other collected specimens: KAUM-I. 29537, 15.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29538, 13.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29560, 11.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31372, 13.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31680, 26.4 mm SL, Iou-jima.



トゲナガイシモチ KAUM-I. 29534, 50.5 mm SL, Iou-jima



トゲナガイシモチ KAUM-I. 29536, 20.8 mm SL, Iou-jima



ムナホシシモチ KAUM-I. 37922, 141.1 mm SL, Iou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ムナホシシモチ

Apogon cheni Hayashi, 1990

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 6+16=22; 櫛歯状に発達した鰓耙 4+15=19。

色彩 体全体は橙色で体側下方は黄色みを帯びる。吻端から眼を通り、鰓蓋後線を経て尾柄中央付近まで伸びる1本の金色線がある。眼上から鰓蓋上方を経て尾柄後端まで伸びる1本の金色線がある。尾柄後端に瞳孔大の黒色斑がある。各鰭は橙色。第1背鰭第1棘基底から第6棘先端の鰭膜は黒色がかった黄色である。

分布 本種は国外では台湾からのみ報告されている。国内では、沖縄県伊江島から

のみ記録されていたが、本調査によって鹿児島県硫黄島から採集された。

備考 Hayashi (1990) は沖縄県伊江島産1個体と台湾産3個体に基づき *Apogon cheni* を新種記載するとともに、新標準和名ムナホシシモチを提唱した。本種のこれまでの分布は伊江島であったが、ムナホシシモチは大隅諸島硫黄島で採集された本標本1個体によって、従来の報告より約700 km 北限を更新した。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

アカフジテンジクダイ

Apogon crassiceps Garman, 1903

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 22-23; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5-6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3-4+12-13=15-17; 櫛歯状に発達した鰓耙 1+7-8=8-9。

色彩 体全体は半透明な赤色を呈する。鰓蓋後端から体側中央を通り尾柄部まで暗色がかった細い赤線がある。頭部と体の背縁は黒色素胞がやや密に分布する。各鰭は



アカフジテンジクダイ KAUM-I. 29540, 11.9 mm SL, Iou-jima



アカフジテンジクダイ KAUM-I. 37653, 38.2 mm SL, Iou-jima



アカフジテンジクダイ KAUM-I. 37653, 38.2 mm SL, Iou-jima

透明である。尾柄部から尾鰭にかけて黒色素胞が二等辺三角形に分布する。

分布 本種は西太平洋域に広く分布する。日本では、大隅諸島の硫黄島と屋久島、奄美群島の奄美大島と与論島から記録されている。

備考 本種はコミナトテンジクダイ *Apogon kominatoensis* Ebina, 1935 に似るが、尾柄部から尾鰭にかけて黒色素胞が二等

三角形に分布することから容易に識別される。

林 (2000) をはじめとする国内の研究では、アカネテンジクダイの学名として *Apogon crassiceps* が用いられていた。しかし、アカネテンジクダイは腎臓条数、胸鰭軟条数、有孔側線鱗数、総鰓耙数、発達した鰓耙数および上神経骨数などから *Apogon talboti* Smith, 1961 と同定された (Yoshida et al., 2010)。そのため、Yoshida et al. (2010) によって *A.*

crassiceps に対応すべき和名としてアカフジテンジクダイが提唱された

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29539, 15.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30047, 13.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30555, 32.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30600, 22.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30601, 39.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31634, 31.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32305, 41.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 33947, 25.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37687, 38.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37688, 26.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37690, 29.3 mm SL, Iou-jima.



オオスジイシモチ KAUM-I. 31770, 104.4 mm SL, Take-shima



オオスジイシモチ KAUM-I. 31770, 104.4 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

オオスジイシモチ*Apogon doederleini* Jordan & Snyder, 1901

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6;

背鰭前方鱗 4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-5+13-14=17-19; 楯歯状に発達した鰓耙 2-3+10-13=12-14。

色彩 体側上方は黒色がかった桃色、下方は光沢のある銀白色。体側に黄色を帯びた茶色の縦線が5本はしる。尾柄中央に黒色斑がある。各背鰭は透明。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、小笠原諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は体側に黄色みを帯びた茶色の縦線が5本走ること、尾柄中央に黒色斑があることなどから同属他種と容易に識別される。



オオスジシモチ KAUM-I. 30556, 21.2 mm SL, Iou-jima



オオスジシモチ KAUM-I. 30556, 21.2 mm SL, Iou-jima

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29402, 105.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29403, 77.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29423, 72.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29424, 74.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29701, 79.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30568, 87.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30574, 108.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30575, 103.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30576, 109.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30577, 101.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30578, 102.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30579, 87.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37708, 112.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37709, 77.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37711, 82.5 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106161, 70.9 mm SL, Take-shima.



オオスジシモチ KAUM-I. 37710, 78.6 mm SL, Take-shima



コスジシモチ KAUM-I. 31375, 35.1 mm SL, Take-shima



コスジシモチ KAUM-I. 31375, 35.1 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

コスジシモチ

Apogon endekataenia Bleeker, 1852

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6;

背鰭前方鱗 3; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-5+13=17-18; 櫛歯状に発達した鰓耙 1-2+8-10=10-12。

色彩 体色は白色で、体側に黄色みを帯びた茶色の縦線が7本走る。尾柄中央に黒色斑がある。各背鰭は透明。第2背鰭の基底付近の鰭膜に黒色の帯がある。臀鰭の基底付近の鰭膜に黒色がある。

分布 本種は西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、小笠原諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は体側に黄色みを帯びた茶色の縦線が7本走ること、尾柄中央に黒色斑があることなどから日本産の同属他種と容易に識別される。



コスジシモチ KAUM-I. 31382, 26.5 mm SL, Take-shima

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 31376, 34.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31377, 33.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31378, 32.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31379, 31.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31380, 30.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31381, 31.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31383, 25.3 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106180, 4, 28.3–35.2 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106708, 31.7 mm SL, Ioujima.



コスジシモチ KAUM-I. 31382, 26.5 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ユカタイシモチ

Apogon exostigma (Jordan & Starks, 1906)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13–14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4–5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4–5+12–16=16–21; 櫛歯状に発達した鰓耙 2+8–11=10–13。

色彩 体側上方は黄色がかった桃色、下方は光沢のある桃白色。尾柄後端やや上方に黒色斑がある。吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する1本の黒色線がある。背鰭は透明であるが、第1背鰭第1棘から第4棘にかけて黒色、第2背鰭は基底付近に黒色素胞が密に分



ユカタイシモチ KAUM-I. 37703, 90.2 mm SL, Take-shima

布する。胸鰭と腹鰭は透明。腹臀鰭は透明であるが、基底付近に黒色素胞が密に

分布する。尾鰭は黄色で上下両葉の縁辺は黒色。



ユカタイシモチ KAUM-I. 37703, 90.2 mm SL, Take-shima

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では愛媛県以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種はヒトスジシモチ *Apogon fraenatus* Valenciennes, 1832 に似るが、尾柄の黒色斑は瞳孔より小さく、体側の縦線より上にあることから容易に識別される。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Pristiapogon* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)



ヒトスジシモチ KAUM-I. 37607, 66.4 mm SL, Iou-jima



ヒトスジシモチ KAUM-I. 37607, 66.4 mm SL, Iou-jima



ヒトスジシモチ KAUM-I. 31373, 30.8 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ヒトスジシモチ

Apogon fraenatus Valenciennes, 1832

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13-14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4+12-14=16-18; 櫛歯状に発達した鰓耙 2+8-10=10-12。

色彩 体側上方は黄色がかった桃色、下方は光沢のある桃白色。尾柄後端に黒色

斑がある。吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄後端まで達する1本の黒色線がある。背鰭は透明であるが、第1背鰭第1棘から第5棘にかけて黒色、第2背鰭は基底付近に黒色素胞が密に分布する。胸鰭と腹鰭は透明。腹臀鰭は透明であるが、基底付近に黒色素胞が密に分布する。尾鰭は透明で上下両葉の縁辺は黄色。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種はユカタイシモチ *Apogon exostigma* (Jordan & Starks, 1906) に似るが、尾柄の黒色斑は瞳孔大で、体側における縦線の延長上にあることから容易に識別される。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Pristiapogon* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29774, 71.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29775, 58.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 33940, 40.6 mm SL, Iou-jima.



フタスジイシモチ lou-jima, 11 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

フタスジイシモチ

Apogon fukuii Hayashi, 1990

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 25; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6-7; 背鰭前方鱗 5-6; 総鰭耙 4-5+15=19-20。

色彩 体全体は黒色がかった桃色。体側に2本の黒色縦線が走る。尾柄後端に黒

色斑がある。各鰭は透明。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では八丈島、相模湾、静岡県、和歌山県、高知県柏島、鹿児島県硫黄島および沖縄県から報告されている。

備考 本種はニセフタスジイシモチ *Apogon frassedai* Allen, Kuiter & Randall 1994 に似るが、体側中央にある縦線の幅が広く、瞳孔径とほぼ同大であることなどから容易に識別される。

(吉田朋弘)



フタスジイシモチ lou-jima, 17 June 2009, S. Dewa

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

リュウキュウイシモチ

Apogon indicus Greenfield, 2001

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 23; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5-6; 尾柄周鱗 12; 総鰭耙 3+11-13=14-16; 櫛歯状に発達した鰭耙 1+7-8=8-9。吻は丸い。

色彩 体全体が赤色を呈する。尾柄部に正三角形に黒色素胞が分布する。各鰭は透明。

分布 本種は西太平洋域に広く分布する。日本では伊豆諸島、高知県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 林 (2000) はリュウキュウイシモチに対する学名として *Apogon erythrinus* Snyder, 1904 を用いた。しかし、リュウ



リュウキュウイシモチ KAUM-I. 29586, 16.3 mm SL, lou-jima

キュウイシモチは *A. erythrinus* と比較して、胸鰭条数が 13 (後者では 14)、背鰭第 2 棘が短く標準体長の 22% 以下 (長く体長の 22% 以上) などの特徴により区別される (Greenfield, 2001; Yoshida et al., 2010)。また、上記リュウキュウイシモチの

特徴は *Apogon indicus* Greenfield, 2001 と一致するため、リュウキュウイシモチに対応する学名は *A. indicus* となる (吉郷ほか, 2005; Yoshida et al., 2010)。

本科魚類の中で、体色が赤く、最大体長が 5 cm 程度の小型種は、日本から 7 種



リュウキュウイシモチ KAUM-I. 30562, 25.7 mm SL, Iou-jima



リュウキュウイシモチ KAUM-I. 30562, 25.7 mm SL, Iou-jima

が報告されている（林, 2000; Yoshida et al., 2010）。リュウキュウイシモチは、背鰭第2棘が短く、後方に倒すと第2背鰭基底中央を越えないことで、背鰭第2棘が長く、後方に倒すと第2背鰭基底中央を越えるトゲナガイシモチ *A. caudicinctus* Randall & Smith, 1988 とヤライシモチ *A. doryssa* (Jordan & Seale, 1906) から区別される (Yoshida et al., 2010; 林, 2013)。また、リュウキュウイシモチは体色が一樣に赤いことから、体に黒色の染め分け状の模様があるヤミテンジクダイ *A. semiornatus* Peters, 1876 から区別される（林, 2000）。さら

に、リュウキュウイシモチは尾鰭が一樣に赤いことから、尾鰭下葉が黒いオグロテンジクダイ *A. seminigracaudus* Greenfield, 2007 から区別される（林, 2000; Yoshida et al., 2010）。リュウキュウイシモチは黒色素胞が尾柄部に正三角形に分布することから、黒色素胞が尾柄部に二等辺三角形に分布するアカフジテンジクダイ *A. crassiceps* Garman, 1903 と黒色素胞が体中に分布するコミナトテンジクダイ *A. kominatoensis* Ebina, 1935 から区別される（吉田, 未発表データ）。

（吉田朋弘）



リュウキュウイシモチ KAUM-I. 29586, 16.3 mm SL, Iou-jima

Other collected specimens: KAUM-I. 30563, 23.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106905, 28.5 mm SL, Takeshima.



カスリイシモチ KAUM-I. 31699, 110.0 mm SL, Take-shima



カスリイシモチ KAUM-I. 31699, 110.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

カスリイシモチ*Apogon kallopterus* Bleeker, 1856

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13;

腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-15+13-14=17-19; 櫛歯状に発達した鰓耙 1-2+8-11=10-13。

色彩 体側上方は黒色がかった茶褐色、下方は光沢のある銀白色。第2背鰭基部に鞍掛状に黒色素胞が密に分布する。尾柄後端やや上方に黒色斑がある。吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する1本の黒色線がある。背鰭

は黄色であるが、第1背鰭第1棘から第4棘にかけて黒色、第2背鰭は基底付近と先端の鰭膜に黒色素胞が密に分布する。胸鰭は透明。腹鰭第1棘から第2軟条にかけて黒色を帯びる。臀鰭は黄色であるが、基底付近と先端の鰭膜に黒色素胞が密に分布する。尾鰭は黄色で上下両葉の縁辺は黒い。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、および琉球列島に分布する。

備考 本種は吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する幅広の1本の黒色線があること、第2背鰭基底部に鞍掛状の黒色帯があることなどから同属他種と容易に識別される。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされて



カスリシモチ KAUM-I. 37832, 81.3 mm SL, Iou-jima

いたが、近年 *Pristiapogon* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 33942, 29.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37639, 114.5 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106139, 119.0 mm SL, Iou-jima.



コミナトテンジクダイ KAUM-I. 29585, 31.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

コミナトテンジクダイ

Apogon kominatoensis Ebina, 1935

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 22-23; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5-6; 尾柄周鱗 12; 総総耙 3-4+11-13=14-16; 櫛歯状に発達した鰓耙 1-2+7-8=8-10。

色彩 体全体が赤色を呈する。頭部や各鱗の後縁に黒色素胞が密に分布する。鰓蓋後端から体側中央を通り尾柄部まで暗色がかった細い赤線がある。各鰭は透明であるが、胸鰭と腹鰭を除く各鰭全体に黒色素胞が分布する。

分布 本種は千葉県の小湊、鹿児島県の薩摩半島西側、硫黄島、竹島、屋久島、奄美大島および与論島から報告されている。千葉県以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布すると考えられる。

備考 本種はアカフジテンジクダイ *Apogon crassiceps* Garman, 1903 に似るが、頭部や各鱗の後縁に黒色素胞が密に分布することから容易に識別される。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29709, 31.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29789, 31.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31633, 38.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31679, 28.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37769, 31.7 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106925, 40.4 mm SL, Iou-jima.



■ コミナオテンジクダイ KAUM-I. 29585, 31.9 mm SL, Iou-jima



■ ミナミフトスジイシモチ KAUM-I. 29508, 21.8 mm SL, Iou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ミナミフトスジイシモチ

Apogon nigrofasciatus Lachner, 1953

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗列 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-7 + 12-17

= 17-24; 櫛歯状に発達した鰓耙 2-4 + 9-14 = 11-18。吻端は尖る。

色彩 体側上方は黄色、下方は白色。体側に赤みを帯びた 5 本の黒色縦線がある。体側の第 2-4 縦帯は尾柄後端で終わる。体側の第 3 縦線の幅は均一。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布

する。日本では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種はタスジイシモチ *Apogon novemfasciatus* (Cuvier, 1828) に似るが、体側の第 3 縦線の幅が均一であること（後者では不均一）から識別される。

本種は単独もしくはペアでサンゴ礁の下



ミナミフトスジイシモチ KAUM-I. 32354, 29.3 mm SL, Iou-jima



ミナミフトスジイシモチ Iou-jima, 11 May 2010, K. Matsuno

や岩奥などで見かけられる。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 30559, 16.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30597, 59.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31416, 30.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31666, 19.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31681, 29.4 mm SL, Iou-jima.



ミナミフトスジイシモチ KAUM-I. 29508, 21.8 mm SL, Iou-jima



■ クロホシイシモチ KAUM-I. 29750, 61.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

クロホシイシモチ

Apogon notatus (Houttuyn, 1782)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗列 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 7-8 + 20-22 = 27-30; 櫛歯状に発達した鰓耙 5-7 + 20-22 = 25-29。

色彩 頭部から腹部にかけて黄色がかった

銀白色、体側上方は黒色がかった淡桃色、下方は光沢のある淡桃色。吻端から眼まで1本の明瞭な黒色線がある。鰓蓋上方と尾柄後端中央に黒色斑がある。背鰭はあさい桃色であるが、第1背鰭第1棘の鰭膜基部から第1背鰭第6棘の鰭膜先端にかけて黒色を帯びる。第2背鰭は基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。臀鰭と胸鰭と腹鰭および尾鰭はあさい桃色を呈する。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 本種は吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する幅広の1本の黒色線があること、第2背鰭基部に鞍掛状の黒色帯があることなどから同属他種と容易に識別される。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29702, 64.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29751, 64.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30103, 62.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30104, 65.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30105, 59.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30106, 63.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30107, 61.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30108, 67.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30109, 60.6 mm SL, Take-shima.



■ キンセンイシモチ KAUM-I. 32352, 23.5 mm SL, Iou-jima



■ キンセンイシモチ Iou-jima, 3 June 2009, S. Dewa



キンセンイシモチ KAUM-I. 29420, 50.5 mm SL, Iou-jima



キンセンイシモチ KAUM-I. 29420, 50.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

キンセンイシモチ

Apogon properuptus (Whitley, 1964)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背

鰭前方鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5-6+15-17=21-23; 櫛歯状に発達した鰓耙 3-4+14-16=18-20。

色彩 体全体は銀白色を呈する。体側に 6本の黄色縦線がある。胸鰭を除く各鰭は黄色。第 2 背鰭と臀鰭の鰭膜に白色線がある。眼下の銀白色線は線状。

分布 本種は徳島県大島、高知県、高知県網代、鹿児島県本土、硫黄島、竹島、口永良部島、屋久島、奄美大島、与論島および西表島から報告されている。

備考 国内でキンセンイシモチとされているものにはライン型とドット型の 2 型が含まれると考えられていた。林 (2013) はライン型をキンセンイシモチ *Apogon properuptus*

(Whitley, 1964)、ドット型をスジオテンジクダイ *Apogon holotaenia* Regan, 1905 とした。

硫黄島・竹島からはキンセンイシモチのみが確認された。キンセンイシモチは、スジオテンジクダイと比較して、眼下の銀白色線が線状であること（後者では点線状）

から識別される。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)



■ キンセンイシモチ KAUM-I. 32353, 15.0 mm SL, lou-jima

Other collected specimens: KAUM-I. 29417, 56.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29418, 49.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29419, 48.7 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29421, 45.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29438, 49.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29535, 46.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29680, 50.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29681, 48.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29704, 46.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29705, 52.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29706, 51.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29707, 48.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29708, 50.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30063, 49.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30064, 42.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30065, 47.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30066, 51.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30533, 57.7 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30598, 51.1 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30599, 51.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 31678, 54.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 32350, 37.0 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 32351, 33.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37712, 57.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37713, 55.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37714, 53.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37715, 53.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37716, 53.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37717, 48.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37718, 44.8 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106096, 53.0 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106093, 51.0 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106950, 16.3 mm SL, lou-jima.



■ ヤミテンジクダイ KAUM-I. 29609, 45.0 mm SL, lou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ヤミテンジクダイ

Apogon semiornatus Peters, 1876

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 12; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 7; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4+11-13=15-17; 櫛歯状に発達した鰓耙 1-2+6-9=7-11。

色彩 体全体は赤色を呈する。眼後端から臀鰭にかけて黒色線がある。第2背鰭直下の体側中央から尾鰭中央後端にかけて黒色線がある。鰓蓋後端から体側中央を通り尾柄部まで暗色がかった細い赤線がある。各鰭は透明である。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 本種は体に黒色の染め分け状の模

様があることなどから同属他種と容易に識別される。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29422, 39.1 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29432, 15.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29587, 13.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 31631, 30.0 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 31677, 35.0 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 32306, 37.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 32307, 40.6 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 33941, 38.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37824, 36.3 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106093, 42.2 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106908, 31.8 mm SL, lou-jima.



ヤマテンジクダイ KAUM-I. 29431, 15.8 mm SL, lou-jima



ミスジテンジクダイ KAUM-I. 37686, 82.3 mm SL, lou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ミスジテンジクダイ

Apogon taeniophorus Regan, 1908

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-5+13-14=17-19; 櫛歯状に発達した鰓耙 2-3+9-12=11-14。

色彩 体全体は白色を呈する。体側に6本の黒みを帯びた茶色縦線がある。体側の中央をはしる縦線は尾鰭後端の黒色斑に達する。尾柄後端に体側の縦線幅よりやや大きい黒色斑がある。各鰭は透明である。第1背鰭全体に黒色素胞が分布する。第2背鰭および臀鰭基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。腹鰭全体に黒色素胞が分布する。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布する。日本では小笠原諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 本種はスジシモチ *Apogon cookii* Macleay, 1881 に似るが、*A. taeniophorus* は胸鰭軟条数が14本と少ないこと（後者では15本）、尾柄部の黒色斑が小さいこと（後者では大きい）から識別される。

これまでミスジテンジクダイ（スポット型）と呼ばれていたものは本種であり、ミスジテンジクダイ（ライン型）は未記載種であると考えられている（Yoshida et al., 2010）。

本種の属名はこれまで *Apogon* とされていたが、近年 *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

（吉田朋弘）



ハナインシモチ KAUM-I. 29415, 105.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ハナインシモチ

Apogon unicolor Jordan & Snyder, 1901

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 3; 側線下方の横列鱗 8; 背鰭前方鱗 10-11; 尾柄周鱗 16; 総鰓耙 5+13-14=18-19; 櫛歯状に発達した鰓耙 2+8-9=10-11。上顎後端は眼の後縁に達する。前鰓蓋骨後縁は強い鋸歯状。

色彩 体全体は赤褐色、鱗縁は暗褐色である。背鰭は黄色がかった赤褐色であるが、基底付近以外の鰭膜に黒色素胞が分布する。胸鰭は白色がかった赤色。腹鰭と臀鰭は黄色がかった赤褐色であるが、後端に黒色素胞がやや密に分布する。尾鰭

は赤褐色で、黒色素胞が密に分布する。

分布 本種は台湾と日本に分布する。日本国内では千葉県鴨川市、相模湾、神奈川県三崎港、静岡県沼津市、高知県、鹿児島湾、大隅諸島硫黄島と屋久島から記録されている。本種は千葉県から屋久島にかけての南日本太平洋岸に広く分布すると思われる。

備考 *Apogon unicolor* は Steindachner & Döderlein (1883) によって初めて学名として記載されたが、彼らは同名義名を *A. bifasciatus* Rüppell, 1838 の新参異名として扱った。最初に学名として報告されたときに異名であったことから、Steindachner & Döderlein (1883) の *A. unicolor* は学名として適格であるための条件をみたしていない。その後、Jordan & Snyder (1901) は、*A. unicolor* を Döderlein の未公表名 (原稿名)



ハナインシモチ Iou-jima, 8 Oct. 2011, S. Dewa

として扱い、横浜から採集された1標本に基づき *A. unicolor* を改めて新種として記載した。したがって、*A. unicolor* の命名者と原記載は Jordan & Snyder (1901) が正しい (吉田ほか、2011)。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 ヤライシモチ属

リュウキュウヤライシモチ

Cheilodipterus macrodon (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 12-13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24-25; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5-6+13-16=19-21; 櫛歯状に発達した鰓耙 1+8-9=9-10。両顎に大きな犬歯を有する。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。

色彩 体全体は光沢のある銀白色。体側に黒みを帯びた茶色の縦線が9本ある。



リュウキュウヤライシモチ KAUM-I. 29644, 53.6 mm SL, Take-shima



リュウキュウヤライシモチ KAUM-I. 32304, 80.5 mm SL, Iou-jima



リュウキュウヤライシモチ KAUM-I. 32304, 80.5 mm SL, Iou-jima

吻端から眼後端付近は黄色がかかる。尾柄後端に黒色斑がある。各鰭は透明であるが、第1背鰭全体に黒色素胞が分布する。尾鰭の上下両葉の縁辺は黒い。

分布 本種はインド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県館山湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は体側に黒みを帯びた茶色の縦線が9本あること、尾柄後端に眼径より大きい黒色斑があることなどから日本に生



リュウキュウヤライシモチ KAUM-I. 32313, 29.7 mm SL, Iou-jima

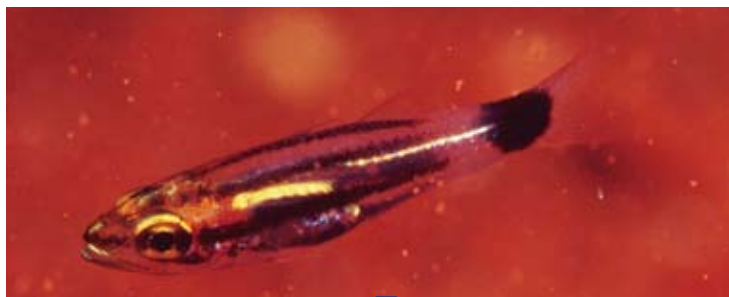


リュウキュウヤライシモチ lou-jima, 3 July 2009, Y. Komiya

息する同属他種と容易に識別される。尾柄の黒色斑は、成長するにつれて形が不明瞭になる。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 29433, 19.4 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29510, 19.5 mm SL, lou-jima.



リュウキュウヤライシモチ lou-jima, F. Yasudome



ヤライシモチ KAUM-I. 30561, 29.2 mm SL, lou-jima



■ ヤライシモチ KAUM-I. 37705, 72.4 mm SL, Take-shima



■ ヤライシモチ KAUM-I. 37705, 72.4 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 ヤライシモチ属

ヤライシモチ

Cheilodipterus quinquelineatus Cuvier, 1828

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 12-13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-5+12-14=16-18; 櫛歯状に発達した鰓耙 1-2+9-11=10-13。両顎に大きな犬歯

を有する。前鰓蓋骨縁は鋸歯状。

色彩 体全体は光沢のある銀白色。体側に黒色縦線が5本ある。尾柄後端に黒みを帯びた黄色で囲まれた黒色斑がある。各鰭は透明。

分布 本種はインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 本種は体側に黒色縦線が5本あるこ



■ ヤライシモチ KAUM-I. 30561, 29.2 mm SL, Iou-jima

と、尾柄後端に黒みを帯びた黄色で囲まれた黒色斑があることなどから日本に生息する同属他種と容易に識別される。

(吉田朋弘)



オニシモチ KAUM-I. 37923, 170.3 mm SL, Iou-jima



オニシモチ KAUM-I. 37923, 170.3 mm SL, Iou-jima

スズキ目 テンジクダイ科 オニシモチ属

オニシモチ*Coranthus polyacanthus* (Vaillant, 1877)

形態 背鰭 VII-I, 10; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方

鱗 5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5+13=18; 櫛歯状に発達した鰓耙 2+8-9=10-11。両顎に大きな犬歯状歯がある。側線有孔鱗の開孔は分枝する。

色彩 体全体は光沢のある銀白色。体の背縁は黒色素胞がやや密に分布する。眼下に黒みを帯びた金色の斜帯がある。体側中央に黒みを帯びた金色の縦帯がある。

尾柄後端に黒みを帯びた金色の横帯がある。背鰭と尾鰭は黄色。胸鰭と腹鰭および臀鰭は透明である。

分布 本種はインド・西太平洋に分布する。国内では大隅諸島硫黄島、奄美大島、沖縄島から記録された。

備考 本種は本科魚類の中でもひじょうに



オニイシモチ lou-jima, 20 Aug. 2011, S. Dewa



オニイシモチ lou-jima, 9 Aug. 2011, Y. Matsuda

大型になる種で、体長 20cm を越える。本調査で硫黄島の水深約 80 m 付近にて 5-6 匹の群れで生活していることが観察され、口内保育中の個体も確認された。

本種は国内では奄美大島と沖縄島から報告されていたが、鹿児島県硫黄島で採集された標本 2 個体によって、従来の報告より約 280 km 北限を更新した。

(吉田朋弘)

Other collected specimen: KAUM-I. 37924, 118.4 mm SL, lou-jima.



オニイシモチ lou-jima, 11 Aug. 2011, S. Dewa



バンダイシモチ KAUM-I. 29654, 50.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 ナミダテンジクダイ属

バンダイシモチ*Nectamia bandanensis* (Bleeker, 1854)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 3; 尾柄周鱗 12; 総鰭耙 6-7+18-19=24-26; 櫛歯状に発達した鰓

耙 5-7+18-19=23-26。

色彩 体全体は茶色みを帯びた銀白色。体側に3体の黒色横帯がある。眼下に黒色斜帯がある。各鰭は透明。第1背鰭全体に黒色素胞が分布する。

分布 本種は西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種の学名 *Nectamia bandanensis* は Fraser (2008) にしたがった。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 31693, 84.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31694, 83.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31695, 82.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31696, 83.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31697, 75.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31698, 59.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37704, 81.7 mm SL, Take-shima.



スカシテンジクダイ (オス) KAUM-I. 29757, 53.3 mm SL, Take-shima



スカシテンジクダイ (オス) KAUM-I. 29641, 54.8 mm SL, Take-shima



スカシテンジクダイ (メス) KAUM-I. 29756, 55.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 スカシテンジクダイ属

スカシテンジクダイ

Rhabdamia gracilis (Bleeker, 1856)

形態 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 II, 12-13; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5-6+18-19=23-25; 櫛歯状に発達した鰓耙 4-6+18-19=22-25。

色彩 体側上方は桃色、下方は銀白色。吻端に黑色素胞がやや密に分布し、黄色みを帯びる。各鰭は透明であるが、尾鰭の上下先端は黒色。



スカシテンジクダイ (メス) KAUM-I. 29756, 55.6 mm SL, Take-shima

分布 本種はインド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 日本産スカシテンジクダイ属は、本種とクロスジスカシテンジクダイ *Rhabdamia cypselurus* Weber, 1909 の 2 種が知られている。本種は臀鰭軟条数 12-13 と多いこと(後者では 9 本)から容易に識別される。

スカシテンジクダイには、尾柄部後下方部(下尾骨直下)に 1 黒色点を有するものと欠くものの 2 種が含まれると考えられている(馬淵, 2001)。分類学的研究により、1 黒色点を欠く種には学名 *Rhabdamia gracilis* が適用されると結論付けられた(馬淵, 2001)。一方で、Yoshida et

al. (2010) は、屋久島における水中観察から前述の 2 種が群れをなし、さらにペアになる個体も観察されたことから、これらは同種であると判断した。

しかし、インド・西太平洋域における本属魚類の分類学的研究の過程で、標本を用いて再検討した結果、黒色点の大きさは変異に富むことが確認された。黒色点がきわめて微小な個体は水中観察からは黒色点を確認することができないことが明らかになり、Yoshida et al. (2010) によって屋久島で観察された黒色点を有する個体と欠く個体のペアの内、黒色点を欠くと思われていた個体 (Yoshida et al., 2010; fig. 40A; 左上) は微小な黒色点がある可能性が高い。本研究では、1 黒色点の有無の 2 型

はそれぞれ別種であるという馬淵 (2001) 見解を支持する。硫黄島・竹島の調査では、1 黒色点を有する種は確認されなかった。

Rhabdamia gracilis のメス (KAUM-I. 29756) は、鰓蓋後端から第 2 背鰭下方後方にかけての体側中央に 2 本の暗橙色縦線をもつが、オス (KAUM-I. 29641) は同 2 暗橙色縦線をもたない(林, 2000; 馬淵, 2001; 本研究)。

また、本種は尾鰭上下葉後端が黒色を呈する(林, 2000; 馬淵, 2001)。この黒色部の濃淡は個体差がある(本研究)。(吉田朋弘・本村浩之)

Other collected specimens: KAUM-I. 29641, 54.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29642, 55.6 mm SL, Take-shima.



■ マジマクロイシモチ KAUM-I. 31371, 19.1 mm SL, Take-shima

スズキ目 テンジクダイ科 ヒカリイシモチ属

マジマクロイシモチ

Siphamia majimai Matsubara & Iwai, 1958

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 23; 側線上方の横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5-6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3-4+10-11=13-14; 櫛歯状に発達した鰓耙 1+6-7=7-8。咽頭部から臀鰭基底にかけて黒色の発光腺がある。

色彩 体全体は黒みを帯びた銀白色。各鰭は透明。体と各鰭には小さな赤色素が分布する。

分布 本種は西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、柏島以南の太平洋沿岸、琉球列島に生息する。



■ マジマクロイシモチ KAUM-I. 31371, 19.1 mm SL, Take-shima

備考 本種は第 1 背鰭が 6 棘であることから日本産同属他種と容易に識別される。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 31370, 19.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 32312, 17.0 mm SL, Ioujima; KAUM-I. 37707, 19.3 mm SL, Take-shima.

スズキ目 キツネアマダイ科 サンゴアマダイ属

オキナワサンゴアマダイ

Hoplostilus cuniculus Randall & Dooley, 1974

形態 背鰭 III-V, 29-34; 臀鰭 I, 19-20; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 側線鱗数 116-140; 鰓耙数 21-23。体は細長く、やや側扁する。背鰭起部は胸鰭起部のやや後方上に位置する。腹鰭起部は胸鰭起部の直下に位置する。尾鰭は浅い湾入形。

色彩 体は黒色がかった黄緑色で、頭部上方から背鰭基底まで青色縦帯がある。背鰭と臀鰭は黒色がかった黄緑色で、外縁は青色。腹鰭は光沢のある青色。胸鰭は透明。尾鰭上下両葉は青みを帯びた緑色。



オキナワサンゴアマダイ Iou-jima, 8 Oct. 2011, K. Furuta

分布 本種はインド・西太平洋域に広く分布する。国内では小笠原諸島、硫黄島、屋久島、小宝島、伊江島、沖縄島、宮古諸島、石垣島および西表島から報告されている。

備考 本種は背鰭条数が3-5棘 29-34軟条であること、臀鰭は1棘 19-20軟条であること、尾鰭上下両葉に暗色帯があることから、日本産における同属他種と識別可能である。

(吉田朋弘)



サンゴアマダイ属の1種 Take-shima, 2 June 2009, Y. Komiya

スズキ目 キツネアマダイ科 サンゴアマダイ属

サンゴアマダイ属の1種

Hoplostilus randalli Allen, Erdmann & Hamilton, 2010

形態 背鰭 X, 13; 臀鰭 II, 12; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗数 84-92; 鰓耙数 27-29。体は細長く、やや側扁する。背鰭起部は胸鰭起部のやや後方上に位置する。腹鰭起部は胸鰭起部の直下に位置する。尾鰭は二分する。

色彩 体は黒色がかった黄緑色で、吻端から眼前端まで青色縦帯があり、尾柄背側に青色の鞍掛状斑がある。背鰭と臀鰭は黒

色がかった黄緑色で、外縁は桃色。腹鰭は光沢のある緑色。胸鰭は透明で上方は青色。尾鰭は黄色で上下両葉は青みを帯びた緑色。

分布 本種は西太平洋域に広く分布する。国内では伊豆大島、硫黄島および屋久島から報告されている。

備考 日本における本種の報告は少ない。

Senou et al. (2006) は、伊豆大島で撮影された本種の幼魚を *Hoplostilus* sp. として報告した。続いて Motomura et al. (2010c) は、屋久島で撮影された水中写真に基づき本種の成魚を *H. fronticinctus* として報告した。どちらも標本が採集されていないため、標準和名は提唱されていない。その後、Allen et al. (2010) は *H. fronticinctus* の分類学的再検討を行い、学名 *H. fronticinctus* をインド洋の種に適用し、太平洋の種を新種 *H. randalli* として記載した。したがって、日本に生息する種は *H. randalli* となる。

(吉田朋弘・本村浩之)



アカオビスンゴアマダイ Iou-jima, 18 June 2009, S. Dewa

スズキ目 キツネアマダイ科 サンゴアマダイ属

アカオビスンゴアマダイ

Hoplolatilus marcosi Burgess, 1978

形態 背鰭 IX, 16; 臀鰭 II, 13; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗数 99; 鰓耙数 21-23。体は細長く、やや側扁する。背鰭起部は胸鰭起部のやや後方上に位置する。腹鰭起部は胸鰭起部の直下に位置する。尾鰭は浅い湾入形。

色彩 赤色縦帯（幼魚では黒色）が弧を描くように吻端から眼を通り尾柄部まで伸び、尾鰭まで達する。体側の縦帯より背側は茶褐色で、腹側は水色を帯びた銀白色。尾鰭は水色。臀鰭は透明で縁辺は青みがかかる銀白色。

分布 フィリピン、パラオ、ソロモン諸島、および硫黄島以南の日本に分布する。

備考 益田・Allen (1987) はアカオビスンゴアマダイを沖縄県伊江島近海から水中写真に基づき日本産としては初めて報告した。吉野・昆 (1998) は沖縄島産の標本に基づき本種を報告した。

本調査では標本が採集されなかったが、多くの水中写真が撮影された。

(吉田朋弘)



アカオビスンゴアマダイ Iou-jima, 7 July 2008, S. Dewa



アカオビスンゴアマダイ Iou-jima, 8 July 2009, Y. Komiya



ヤセアマダイ Iou-jima, 10 Oct. 2010, E. Shinkai

スズキ目 キツネアマダイ科 キツネアマダイ属

ヤセアマダイ

Malacanthus brevirostris Guichenot, 1848

形態 背鰭 IV, 50–60; 臀鰭 I, 46–53; 胸鰭 15–17; 腹鰭 I, 5; 側線鱗数 146–181; 鰓耙数 12–18。体は細長く、やや側扁する。背鰭起部は胸鰭起部のやや後方に位置する。腹鰭起部は胸鰭起部の直

下に位置する。尾鰭は截形。

色彩 体側上方は黒色を帯びた黄緑色で、尾柄部から尾鰭後端にかけて黒色を呈する。体側下方は吻端から尾鰭後端まで水色。尾鰭下方から後端まで黒色縦線がある。

分布 インド・西太平洋域に分布する。国内では伊豆半島東岸以南に生息する。

備考 キツネアマダイ属は主鰓蓋骨の棘が長いこと、尾鰭が截形であることによって特徴づけられる。ヤセアマダイは上顎後端が眼の前縁を越えること、体側に黒色帯がないこと、臀鰭軟条数が 46–53 であることなどから同属のキツネアマダイと識別される。(吉田朋弘)

スズキ目 キツネアマダイ科 キツネアマダイ属

キツネアマダイ

Malacanthus latovittatus (Lacepède, 1801)

形態 背鰭 IV, 43–47; 臀鰭 I, 37–40; 胸鰭 16–17; 腹鰭 I, 5; 側線鱗数 116–132; 鰓耙数 6–10。体は細長く、やや側扁する。背鰭起部は胸鰭起部のやや後方に位置する。腹鰭起部は胸鰭起部の直下に位置する。尾鰭は截形。

色彩 体側上方は吻端から尾柄後端まで白色、下方は黒色。尾鰭は黒色で上縁と後縁は白色。臀鰭は黒色で外縁は白色。胸鰭は透明。

分布 インド・西太平洋域に分布する。国内では相模湾以南から知られている。

備考 キツネアマダイは、上顎後端は眼の前縁に達しないこと、体側に黒色帯があること、臀鰭軟条数が 37–40 であることから、



キツネアマダイ Iou-jima, 26 July 2010, E. Shinkai

同属のヤセアマダイと識別される。また、幼魚時の体色はホンソメワケベラ

に似ており、擬態の可能性が指摘されている。

(吉田朋弘)



シイラ KAUM-I. 29631, 840.6 mm SL, Iou-jima



シイラ KAUM-I. 37800, 27.7 mm SL, Iou-jima

スズキ目 シイラ科 シイラ属

シイラ

Coryphaena hippurus Linnaeus, 1758

形態 背鰭 55-67；臀鰭 25-30；胸鰭 17-20；腹鰭 1, 5；側線鱗数 200-300；鰓耙数 0-1 + 7-9。体は側扁し、背縁と腹縁は直線状。体高は腹鰭基部付近で最大になる。成熟した雄は額部が角張るが、雌は丸みを帯びる。

色彩 成魚では背側が青みを帯びた銀白色、腹側が黄色みを帯びた銀白色を呈する。幼魚は体全体が黒みを帯び、体側には複数の暗色横帯がある。

分布 世界中の暖海に広く分布する。

備考 全長 2 m になる。本種は暖流の影響を受ける地域の表層に生息する。日本沿岸では夏から秋に普通にみられる。本種の幼魚は流れ藻に付随することが知られて

おり、硫黄島西岸で流れ藻に付随した体長 27.7 mm の幼魚が採集された。

エビスシイラ *Coryphaena equiselis* Linnaeus, 1758 に似るが、体の背縁と腹縁が丸いこと、体高は腹鰭後方で最大になること、背鰭が 48-59 軟条であることから識別される。

(千葉 悟)

スズキ目 アジ科 ツムブリ属

ツムブリ

Elagatis bipinnulata (Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 V-VI + I, 23-28 + 2；臀鰭 I + I, 15-20 + 2；鰓耙数 9-11 + 25-26；脊椎骨数 10+14。体は細い紡錘形で吻端は尖る。口は小さく、上顎後端は眼の前縁よ

りも前方に位置する。尾鰭は深く二叉する。尾柄部の背面と腹面に1つずつ小離鰭を有する。



■ ツムブリ lou-jima, 13 July 2009, Y. Komiya



■ ツムブリ lou-jima, 8 Oct. 2011, K. Furuta

色彩 体背面は暗緑青色。体側面は黄褐色で、吻端および眼の後縁から尾柄にかけて2本の青色縦帯が入る。体腹面は一律に銀色。

分布 全世界の暖海に広く分布。国内では南日本から知られる。

備考 日本産同科他種とは尾柄部に小離

鱗を有すること、第2背鰭起部が臀鰭起部より前方に位置すること、側線に稜鱗がないこと、腹鰭があること、背鰭棘条が皮下に埋没しないことなどから識別される。

(畑 晴陵)

スズキ目 アジ科 ヨロイアジ属

ナンヨウカイワリ

Carangoides orthogrammus

(Jordan & Gilbert, 1882)

形態 背鰭 VIII + I, 28-33; 臀鰭 II + I, 23-27; 稜鱗 19-31; 鰓耙数 8-10 + 20-23; 脊椎骨数 10 + 14。体は長卵形で側扁する。吻長は眼径より長く、吻端は尖る。胸部無鱗域は腹鰭基底後端に達する。稜鱗は側線直走部の前方にはない。背鰭と臀鰭の最後の軟条は直前の鰭条から離れていない。両顎歯は前方で歯帯を形成する。遊離臀鰭棘は露出しており、可動性。臀鰭および第2背鰭前部の先端が鎌状に伸長する。腹鰭は短い。腹部に溝がない。背鰭棘は長く、棘間に鰭膜がある。尾柄部に小離鰭がない。脂腺が発達する。

色彩 頭部背面および体背面は暗緑色。体側から体腹面は一樣に銀色で、体側に黄色斑点が散在する。胸鰭および腹鰭は透明。背鰭、臀鰭および尾鰭は青色。

分布 インド・太平洋域に広く分布し、国内では南日本、小笠原諸島に分布する。

備考 同属のクロヒラアジ *C. ferdau* (Forsskål, 1775) とは体側に暗色黄帯がなく、生時に黄色斑点が散在すること (vs. 体側に幅の広いやや不明瞭な暗色横帯があり、生時黄色斑点がない)、吻長が眼径より長く、吻端は尖ること (vs. 吻長は眼径



ナンヨウカイワリ Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

とほぼ同じで、吻端が丸い)、ホシカイワリ *C. fulvoguttatus* (Forsskål, 1775) およびアンダマンアジ *C. gymnostethus* (Cuvier, 1833) とは胸部無鱗域が腹鰭起部までしか達しないこと (vs. 胸部無鱗域は基底後端に達する)、コガネアジ *C. bajad* (Forsskål, 1775) およびインドカイワリ *C. plagiotænia* Bleeker, 1857 とは胸部に無鱗域があること (vs. 胸部は完全に、または腹中線上の一部を除き有鱗)、ヨロイアジ *C.*

armatus (Rüppell, 1830)、マルヒラアジ *C. caeruleopinnatus* (Rüppell, 1830)、リュウキュウヨロイアジ *C. hedlandensis* (Whitley, 1934)、タイワンヨロイアジ *C. malabaricus* (Bloch & Schneider, 1801)、およびキヒラアジ *C. uii* (Wakiya, 1924) とは背鰭軟条数が 28-33 であること (vs. 19-23)、臀鰭軟条数が 23-27 であること (vs. 14-20) などから識別される。

(畑 晴陵)

スズキ目 アジ科 ギンガメアジ属

カスミアジ

Caranx melampygus Cuvier, 1833

形態 背鰭 VIII + I, 21-24; 臀鰭 II + I, 17-20; 稜鱗 27-42; 鰓耙数 5-9 + 17-21; 脊椎骨数 10 + 14。体は長い楕円形で側扁する。吻端は眼の下端より下に位置する。主上顎骨後端は眼の後縁下に達しない。胸部は完全に鱗で被われる。第2背鰭前部は第1背鰭より高く、鎌状に伸長する。胸鰭は長く、後端は臀鰭起部直上を越えて伸長する。背鰭および臀鰭の最後軟条は直前の軟条から離れない。脂腺はよく発達し、開口部は半月型。上顎に歯がある。肩帯下部に突起はない。尾柄部に小離鰭がない。稜鱗は第2背鰭起部直下より後方から始まる。腹鰭がある。背鰭棘部は皮下に埋没しない。

色彩 体背面および体側面は青緑色で、体腹面は銀色。体側には小黒点および小青色斑が散在する。第2背鰭、臀鰭および尾鰭は青色。胸鰭は透明。



カスミアジ Take-shima, 14 June 2009, S. Dewa

分布 インド・太平洋域に広く分布し、国内では南日本に分布する。

備考 同属のロウニンアジ *C. ignobilis* (Forsskål, 1775) およびオニヒラアジ *C. papuensis* Alleyne & Macleay, 1877 とは胸部が完全に鱗で被われること (vs. 胸部に無鱗域がある)、カッポレ *C. lugubris* Poey, 1860 とは稜鱗が淡色であること (vs. 稜鱗は黒色)、頭部背縁は凹まないこと (vs.

頭部背縁は眼の前方で急に下降し、わずかに凹む)、ギンガメアジ *C. sexfasciatus* Quoy & Gaimard, 1825 およびミナミギンガメアジ *C. tille* Cuvier, 1833 とは鰓蓋上部に黒斑がないこと (vs. 鰓蓋上方に明瞭な黒斑がある)、主上顎骨後端が眼の後縁下に達しないこと (vs. 主上顎骨後端は眼の後縁下を越える) などから識別される。

(畑 晴陵)



クサヤモロ KAUM-I. 37838, 310.4 mm SL, Iou-jima



クサヤモロ KAUM-I. 37838, 310.4 mm SL, Iou-jima

ススキ目 アジ科 ムロアジ属

クサヤモロ

Decapterus macarellus (Cuvier, 1833)

形態 背鰭 VIII + I, 30–36 + 1; 臀鰭 II + I, 27–30 + 1; 稜鱗 25–35; 鰓耙数 10–13 + 34–41; 脊椎骨数 10 + 14。尾柄部に小離鰭を有する。稜鱗は側線直走部の後半分を占める。脂腺が良く発達する。腹鰭がある。背鰭棘部は皮下に埋没しない。

色彩 体背面は黒色。体側背部は緑がかつ

た銀色。体側は銀色で、1 青色縦帯を有する。鰓蓋後縁に 1 黒色斑を有する。尾鰭は淡黄色。口床後半部は淡色。

分布 全世界の暖海に広く分布。国内では南日本から知られる。

備考 同属のムロアジ *D. muroadsi* (Temminck & Schlegel, 1844) とは口床後半部が淡黄色であること (vs. 口床は全体が黒色素胞で被われる)、稜鱗が側線直走部の後半分を占めること (vs. 後 3/4 を占める)、生時に尾鰭が淡黄色であること (vs.

尾鰭は上葉が淡黄色、下葉が淡灰色)、オアカムロ *D. tabl* Berry, 1968、マルアジ *D. maruadsi* (Temminck & Schlegel, 1844)、およびアカアジ *D. akaadsi* Abe, 1958 とは稜鱗が側線直走部の後半分を被うこと (vs. 稜鱗が側線直走部の全体を被う)、インドマルアジ *D. russelli* (Rüppell, 1830) とムロ *D. macrosoma* Bleeker, 1851 とは背鰭前方鱗域が眼の中央に達する (vs. 背鰭前方鱗域が眼の中央に達しない) ことから識別される。

(畑 晴陵)

ススキ目 アジ科 ブリ属

ブリ

Seriola quinqueradiata
Temminck & Schlegel 1845

形態 背鰭 V–VI + I, 29–36; 臀鰭 II + I, 17–22; 鰓耙数 8–12 + 17–23。上顎上後角は角張る。胸鰭と腹鰭はほぼ同長。眼の中心は吻端を通る線上か、それより下にある。眼を通る暗色斜走帯がない。体側後半部に暗色斜走帯がない。吻は尖る。背鰭棘間には鰭膜で連なる。尾柄部に小離

鰭がない。背鰭軟条部は臀鰭軟条部始部よりもはるかに前にある。側線に稜鱗がない。腹鰭がある。背鰭棘部は皮下に埋没しない。

色彩 体背面は黒みを帯びた青色。体側は銀白色で、吻端から尾柄にかけて 1 黄色縦帯を有する。胸鰭は黒色で、その他の鰭は淡黄色。

分布 国内では琉球列島を除く全国に分布する。

備考 同属のヒラマサ *S. lalandi* Valenciennes, 1833 に似るが、上顎上後角が角張ること (vs. 上顎上後角は丸い) や胸鰭が腹鰭とほぼ同長であること (vs. 胸鰭は腹鰭より短い) から識別される。

(畑 晴陵)

Other collected specimens: KAUM-I. 30592, 29.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30618, 22.1 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106123, 599.0 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106920, 21.6 mm SL, Iou-jima.



プリ KAUM-I. 37788, 640.0 mm SL, Take-shima



ヒレナガカンパチ KAUM-I. 37648, 331.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 アジ科 プリ属

ヒレナガカンパチ

Seriola rivoliana Valenciennes, 1833

形態 背鰭 VII + I, 26-33; 臀鰭 II + I, 18-22; 鰓耙数 6-9 + 17-20。第2背鰭前部は鎌状。尾鰭下葉先端は白くない。眼の中心は吻端を通る線より上にある。眼を通る暗色斜走帯がある。体側後半部に暗色斜走帯がない。吻は尖る。背鰭棘間は鱗膜で連なる。尾柄部に小離鰭がない。背鰭軟条部は臀鰭軟条部始部よりもはるかに前にある。側線に稜鱗がない。腹鰭がある。背鰭棘部は皮下に埋没しない。

色彩 体背面は赤みを帯びた黒色。体側

は銀白色で、吻端から第1背鰭起部にかけて暗い黄色の斜走帯がある。第1背鰭、第2背鰭、胸鰭、腹鰭、および臀鰭は赤みがかった淡黄色。尾鰭は赤みがかった淡黄色で、後縁は黒い。

分布 全世界の温帯・熱帯海域に分布する。国内では南日本に分布する。

備考 本種は日本産同属のカンパチ *S. dumerili* (Risso, 1810) と比較して、第2背鰭前部が鎌状であること（後者では第2背鰭前部が鎌状でない）、尾鰭下葉先端が白くないこと（尾鰭下葉先端は白い）、および第1鰓弓下枝鰓耙数が17-20であること（12-16）など、プリ *S. quinquerediata* Temminck & Schlegel, 1845 とヒラマサ *S.*

lalandi Valenciennes, 1833 と比較して、眼の中心が吻端を通る線より上にあること（後者2種では眼の中心は吻端を通る線上か、それより下にある）、および眼を通る暗色斜走帯があること（暗色斜走帯がない）などから識別される。

(畑 晴陵)

Other collected specimen: NSMT-P 106091, 299.6 mm SL, Iou-jima.



マアジ KAUM-I. 37685, 57.0 mm SL, Iou-jima



マアジ KAUM-I. 37685, 57.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 アジ科 マアジ属

マアジ

Trachurus japonicus
(Temminck & Schlegel, 1844)**形態** 背鰭 VIII + I, 30-35 ; 臀鰭 II + I, 26-30 ; 稜鱗 69-73 ; 鰓耙数 13-15 + 37-41。

小離鰭がない。稜鱗は側線の全体にわたって発達する。腹鰭がある。背鰭棘部は皮下に埋没しない。

色彩 体側は銀色。体側背部は黄色がかかる。第1背鰭、第2背鰭、胸鰭および尾鰭の各鰭膜には小黒色斑が散在し、各鰭条は黄色がかかる。腹鰭および臀鰭の各鰭膜および各鰭条は白色の半透明。**分布** 日本各地、東シナ海、朝鮮半島に分布。**備考** 本種は稜鱗が側線の全体にわたり発達することや小離鰭がないことから日本産同科他種と識別される。

(畑 晴陵)

Other collected specimen: KAUM-I. 37919, 62.4 mm SL, Take-shima.

ヨスジフエダイ KAUM-I. 29761, 41.1 mm SL, Take-shima



ヨスジフエダイ KAUM-I. 37721, 121.9 mm SL, Take-shima



ヨスジフエダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, K. Furuta

スズキ目 フエダイ科 フエダイ属

ヨスジフエダイ

Lutjanus kasmira (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X-XI, 13-15; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 16-17; 側線有孔鱗数 47-51; 頬上鱗列数 6-8; 鰓耙 7-8 + 13-14。体はよく側扁する。尾鰭はわずかに切れ込む。側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並ぶ。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。背鰭基部は鱗に被われる部分がある。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。鋤骨歯帯の中央部は後方に突出しない。背鰭棘数は通常 10。

色彩 体側上部の 3 分の 2 は明るい黄色で、残りの下部 3 分の 1 は白色。各鰭は胸鰭上部を除いて明るい黄色。胸鰭上部は褐色。吻部はやや赤褐色。体側に 4 本の赤褐色に縁取られた青色縦線があり、体の下部の白色域に橙色の縦線がはいる。背鰭軟条前部下の青色線の 2 本目と 3 本目の間に黒色斑をもつ個体もある。幼魚は背鰭第 2 棘が伸長し、第 2 棘と 3 棘の間に黒色斑をもつ。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、富山湾以南の日本海沿岸、長崎県男女群

島、鹿児島島竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 ヨスジフエダイはベンガルフエダイ *L. bengalensis* (Bloch, 1790) によく似るが、背鰭棘数が 10 以下（ベンガルフエダイでは 11-12）であることから識別される。

本種は主に岩礁・サンゴ礁に生息し、本調査では水深 5-40 m の岩礁域や砂地で群れているところが観察された。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 29762, 39.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30062, 40.3 mm SL, Take-shima.

スズキ目 フエダイ科 フエダイ属

オキフエダイ*Lutjanus fulvus* (Forster, 1801)

形態 背鰭 X, 13-15; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16; 側線有孔鱗数 47-51; 頬上鱗列数 6-7; 鰓耙 6-7 + 10-13。体はよく側扁する。尾鰭はわずかに切れ込む。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しない。

色彩 体側はやや緑または褐色がかかった黄色で、腹部は白色。胸鰭、腹鰭と臀鰭は黄色。背鰭と尾鰭は赤褐色で、背鰭縁と尾鰭後縁は白く縁取られる。幼魚時には明確な黄色縦線を複数もつが成長にともない不明瞭になり成魚になると縦線は失われる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で



オキフエダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

は八丈島、小笠原諸島、三浦半島以南の太平洋沿岸、鹿児島県竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本種は前鰓蓋骨後縁の欠刻は深いことや色彩から同属他種と識別される。幼魚は汽水域でもみられる。

(目黒昌利)



ロクセンフエダイ KAUM-I. 29663, 70.4 mm SL, Take-shima

スズキ目 フエダイ科 フエダイ属

ロクセンフエダイ*Lutjanus quinquelineatus* (Bloch, 1790)

形態 背鰭 X, 13-15; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16-17; 側線有孔鱗数 47-50; 頬上鱗列数 8-10; 鰓耙 7-8 + 13-15。体はよく側扁する。尾鰭はわずかに切れ込む。側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並ぶ。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。背鰭基部は鱗に被われる部分がある。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しない。

色彩 体側は明るい黄色で、腹部は薄い黄色。各鰭も明るい黄色。吻部から眼後までやや赤褐色。体側に赤褐色に縁取られた青色縦線が 5 本、頭部に 6 本走る。背鰭軟条前部下の青色線の 2 本目と 3 本目の間に眼とほぼ同大の黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、鹿児島県竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 ロクセンフエダイはヨスジフエダイ L.

kasmira (Forsskal, 1775) とよく似るが、体側の縦帯の数がロクセンフエダイでは 5 本（後者では 4 本）であること、鰓蓋上の眼直下の縦帯が 2 本に分枝する（1 本で分枝しない）こと、腹部の色彩が黄色（白色）であることなどから識別される。

本調査では竹島の水深 5-20 m の岩礁域や砂地で多く観察された。

(目黒昌利)

Other collected specimen: KAUM-I. 29760, 72.0 mm SL, Take-shima.



■ キュウセンフエダイ KAUM-I. 37985, 178.8 mm SL, Take-shima

スズキ目 フエダイ科 フエダイ属

キュウセンフエダイ

Lutjanus rufolineatus (Valenciennes, 1830)

形態 背鰭 XI, 13-14; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16-17; 側線有孔鱗数 45-48; 頬上鱗列数 8-11; 鰓耙 6-7 + 13-15。体はよく側扁する。尾鰭はわずかに切れ込む。側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並ぶ。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。背鰭基部は鱗に被われる部分がある。前鰓蓋骨後縁の欠刻は浅い。鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しない。

色彩 体側は赤みがかった白色で、腹部は白色。頭部は朱色。各鰭は黄色。体側には 10 本ほどの黄色縦線がはいる。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、鹿児島県竹島、琉球列島に分布する。

備考 キュウセンフエダイは同属他種と比較して、背鰭軟条数が 13 以上であること、前鰓蓋骨後縁の欠刻が深いこと、体側に黒色斑がないこと、約 10 本の黄色縦帯が走ることから識別される。

本調査では竹島の水深 5-20 m の岩礁域転石帯や砂地で多く観察された。

(目黒昌利)



■ キュウセンフエダイ（後ろはヨスジフエダイの群れ） Take-shima, 10 Oct. 2011, Y. Matsuda



クロホシフエダイ KAUM-I. 37992, 340.7 mm SL, Take-shima

スズキ目 フエダイ科 フエダイ属

クロホシフエダイ

Lutjanus russellii (Bleeker, 1849)

形態 背鰭 X, 14–15; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16–17; 側線有孔鱗数 47–50; 頬上鱗列数 5–8; 鰓耙 6–7 + 7–11。体はよく扁平する。尾鰭はわずかに切れ込む。側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並ぶ。側頭部から延びる鱗列数が1–2列で、項部でやや広く途切れる。背鰭基部は鱗に被われる部分がある。前鰓蓋骨後縁の欠刻は浅い。鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出する。

色彩 体側はやや黒みがかった赤色で、腹部はうすい朱色。胸鰭、腹鰭と臀鰭は黄色い。背鰭と尾鰭は黒みがかった赤色。体側後方の側線上に大きな黒斑がある。幼魚時には明確な黒色縦帯をもつが、成長にともない褐色の縦帯になり、成魚になると縦帯は消失する。体側が黄褐色、背鰭と尾鰭は黒褐色のものもある。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、宮城県以南の太平洋沿岸、山口県、長崎県、鹿児島県竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本種は体側後方上部に黒斑があることから、ミナミフエダイ *L. ehrenbergii* (Peters, 1869)、ニセクロホシフエダイ *L. fulviflamma* (Forsskål, 1775)、イッテンフエダイ *L. monostigma* (Cuvier, 1828) に似るが、側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並ぶこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出すること、成魚に縦帯がないこと、側頭部から延びる鱗列が項部でやや広く途切れることなどから識別される。

クロホシフエダイは竹島の水深 5–20 m の岩礁域転石帯や砂地で多く観察された。(目黒昌利)

スズキ目 フエダイ科 マダラタルミ属

ホホスジタルミ

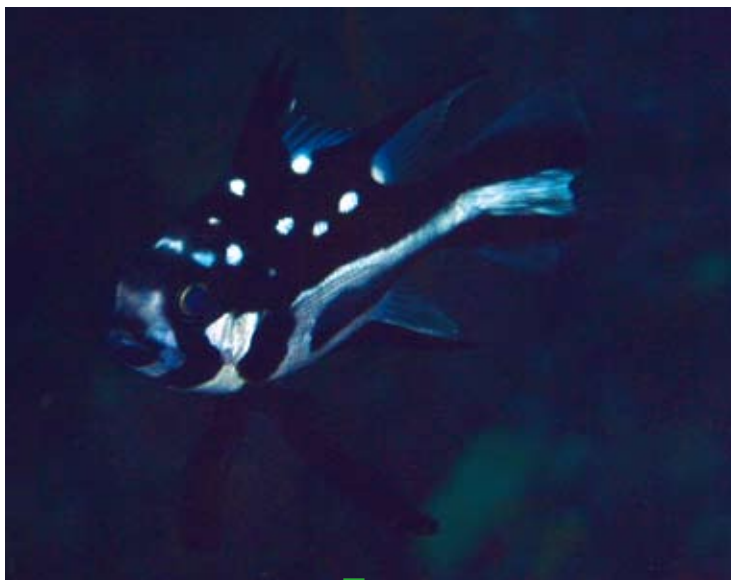
Macolor macularis Fowler, 1931

形態 背鰭 X, 13–14; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 17; 側線有孔鱗数 50–55; 鰓耙 37–42 + 71–81。背鰭基部は鱗に被われる。

色彩 成魚と幼魚では体色が大きく異なる。成長すると体側の白色斑や帯は不明瞭になり、鰓蓋下部から腹部、臀鰭基部にかけて黄色味を帯びる。頭部に多数の青色線や斑点をもつ。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、和歌山県串本、高知県柏島、鹿児島県竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 マダラタルミ *M. niger* (Forsskål, 1775) とよく似るが幼魚は背側の白色斑が6より多い、成魚は頭部に青色線・斑点をもつ、腹部が黄色であることなどから識別される。(目黒昌利)



ホホスジタルミ Take-shima, 26 June 2010, Y. Matsuda



ヨゴレアオダイ Take-shima, 9 Oct. 2011, S. Dewa

スズキ目 フエダイ科 アオダイ属

ヨゴレアオダイ*Paracaesio sordida* Abe & Shinohara, 1962

形態 背鰭 X, 9–10; 臀鰭 III, 8–9; 胸鰭 16–17; 側線有孔鱗数 68–73; 鰓耙 5–11 + 19–22。体は側扁する。尾鰭は深く切れ込み、二又する。体側の鱗列は側線と平行に並ぶ。背鰭基部は鱗に被われない。背鰭連続しており、棘部と軟条部の間に深い欠刻はない。前鰓蓋骨上に周囲の頬部の鱗から独立して1–3の鱗列がある。口は小さく、傾斜する。上顎後端は眼前縁に

達しないか、わずかに達する。顎の外側には円錐状歯、内側には絨毛状歯が並ぶ。鋤骨、口蓋骨にはひじょうに細かい絨毛状歯があり、舌上には歯はない。

色彩 体側全体が暗い紫色。鱗列に沿った褐色の縦線がならぶ。吻端から眼後方にかけて黄色。背鰭、腹鰭、臀鰭および尾鰭は褐色。尾鰭は上葉に比べ下葉は色彩が濃く、上縁は青白色に縁取られる。胸鰭は赤色で半透明。また体側上部は青緑色、下部は灰色。背鰭、腹鰭と臀鰭は明るい褐色の個体もみられる。

分布 インド・太平洋に分布する（インドネシア、ニューギニア、オーストラリア、ライン諸島、ハワイ諸島、イースター島を除く）。国内では八丈島、小笠原諸島、鹿児島県竹島、沖縄島以南の琉球列島に分布する。

備考 本種は尾鰭中央部が深く切れ込み二又する、側線有孔鱗数 68–73、両顎先端の歯が小さく犬歯状歯をもたない、主上顎上に鱗がない、尾鰭上葉長が長い、尾鰭が褐色、前鰓蓋骨上に周囲の頬部の鱗から独立して1–3の鱗列があることなどから同属他種と識別される。

(目黒昌利)

Caesionidae

スズキ目 タカサゴ科 タカサゴ属

ウメイロモドキ*Caesio teres* Seale, 1906

形態 背鰭 X, 14–16; 臀鰭 III, 12–3; 胸

鰭 18–23; 側線有孔鱗数 51–61; 尾柄周鱗数 11–13 + 14–17。体は側扁する。鱗は弱い櫛鱗。顎骨、鋤骨、口蓋骨に小さな円錐状歯をもつ。前上顎骨の後方突起は1。上顎後端は幅が広い。頭部背面に独立した鱗域があり、鱗域の中央部でほぼ

不連続となる。尾鰭は深く切れ込み、中央部に欠刻がある。

色彩 体側上部は青色で、体側下部はオレンジがかった赤色。体側後部側線上方から尾柄部側線後端まで黄色。背鰭、尾



■ ウメイロモドキ KAUM-I. 37897, 240.7 mm SL, Showaiou-jima



■ ウメイロモドキ Take-shima, 10 Oct. 2010, Y. Matsuda

鰭は黄色く、尾鰭縁辺は赤く縁取られる。胸鰭と腹鰭、臀鰭はオレンジがかった赤色で、腹鰭と臀鰭には黄色帯がある。胸鰭基部には黒色斑がある。

分布 インド・太平洋に分布する（ハワイ諸島を除く）。国内では小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県昭和硫黄島、竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 東インド洋と西太平洋に分布し、国内では小笠原諸島や琉球列島以南でみられるユメウメイロ *C. cuning* (Bloch, 1791) によく似るが、ウメイロモドキは背鰭の色彩が鮮やかな黄色（ユメウメイロは薄い黄色）であること、頭部背面の鱗域の中央部がほぼ不連続（広く連続する）であること、臀鰭軟条数が通常 12（通常 11）であることから識別される。

本調査では昭和硫黄島から採集された。潮通しの良い水深 8–20 m の岩礁域に群れでみられた。

（目黒昌利）

Other collected specimen: NSMT-P 106146, 256.7 mm SL, Showaiou-jima.



ニセタカサゴ KAUM-I. 37839, 262.5 mm SL, Iou-jima



ニセタカサゴ Take-shima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

スズキ目 タカサゴ科 クマササハナムロ属

ニセタカサゴ

Pterocaesio marri Schultz, 1953

形態 背鰭 X, 14–16; 臀鰭 III, 11–13; 胸鰭 22–24; 側線有孔鱗数 68–76; 尾柄周鱗数 12–14 + 15–17。体はやや側扁する。鱗は弱い楕円鱗。顎骨に小さな円錐状歯をもつ。前上顎骨の後方突起は2。上顎後端は幅が細い。頭部背面に独立した鱗域があり、鱗域の中央部は広く連続する。

尾鰭は深く切れ込み、中央部に欠刻がある。

色彩 体側全体は赤色で、体側上部は紫がかった青色。体側上部頭部後方から背鰭基部後端まで、鰓蓋上端から側線に沿って尾柄部後端まで、それぞれ1本の緑がかった黄色の縦帯が走る。各鰭は体側と同じく赤色で、尾鰭両葉先端には黒みがかった赤色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内

では八丈島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、竹島、琉球列島に分布する。

備考 イッセンタカサゴ *P. triineata* Carpenter, 1987、タカサゴ *P. diagramma* (Bleeker, 1864)とよく似るが、上部尾柄周鱗数が12枚以上である、体側に明瞭な2縦帯が走り、2本目の縦帯が側線上に沿って伸長することから識別される。本調査では潮通しの良い水深10–15 mに群れでみられた。(目黒昌利)



ヒレグロコショウダイ KAUM-I. 37915, 308.5 mm SL, Take-shima

スズキ目 イサキ科 コショウダイ属

ヒレグロコショウダイ

Plectorhinchus lessonii (Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XII-XIII, 19-20; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 16-18; 側線有孔鱗数 53-56。下顎腹面にひげがない。背鰭起部に前向棘がない。下顎正中線に縦長の溝がない。眼の下縁は吻端より上方。腹鰭先端は肛門に達しない。体長は体高の約2.8倍以上。側線有孔鱗数は通常60以下。第1鰓弓の鰓耙数は20-22。

色彩 成魚では暗灰色の肌に頭部で5-6本、体側部で4-5本の暗色縦帯が直走し、尾鰭では暗色斑紋になる。

分布 インド・西部南部太平洋域。国内では南日本に分布する。

備考 全長40 cmになる。浅海岩礁域やサンゴ礁域に生息する。ムスジコショウダイ *Plectorhinchus vittatus* (Linnaeus, 1758) に似るが、腹部に暗色縦帯がなく、あっても1本であること(ムスジコショウダイは2-3本の暗色縦帯がある)、腹鰭前半部が暗色であり(ムスジコショウダイはほぼ一様に淡色)、眼の直上の左右の暗色縦



ヒレグロコショウダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

帯は不連続で、それぞれ眼の前まで達すること(ムスジコショウダイは眼の前で連続する)によって識別される。幼魚はアヤコショウダイ *Plectorhinchus lineatus* (Linnaeus, 1758) に似るが、腹鰭に濃褐色斑がある(アヤコショウダイには濃褐色斑がない)こと、腹鰭に濃褐色斑がまだ形成されていないより小さな段階では左右の

体側上部の白色縦帯が後頭部で連なる(アヤコショウダイでは最初から吻端に向かう)ことで識別される。本種はムスジコショウダイと混同されていたが、瀬能・島田(1991)によってムスジコショウダイとは別種とみなされ、腹鰭の色彩的特徴にちなみ標準名ヒレグロコショウダイが提唱された。

(千葉 悟)

スズキ目 イサキ科 コショウダイ属

アジアコショウダイ

Plectorhinchus picus (Cuvier, 1828)

形態 背鰭 XII-XIV, 17-20; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 17; 側線有孔鱗数 70-75。下顎腹面にひげがない。背鰭起部に前向棘がない。下顎正中線に縦長の溝がない。眼の下縁は吻端より上方。腹鰭先端は肛

門に達しない。体長は体高の約2.8倍以上。側線有孔鱗数は通常70以上。

色彩 成魚は全身が青灰色で、腹側の一部を除いて暗褐色の小斑点が密に分布す

る。幼魚の斑紋は成魚とは異なり、黒色の体背部に5個、尾鰭に1個、頭部吻端に1個の白色円斑がある。成長するにつれて腹部の白色部が広がり、暗褐色の小斑点

が散在するようになる。

分布 インド・西太平洋域。国内では小笠原を含む南日本に分布する。

備考 全長55 cmになる。浅海岩礁域やサンゴ礁域で幼魚から成魚まで普通にみられる。成魚や若い個体は小さな群れをつくる。



■ アジアコショウダイ KAUM-I. 29625, 284.7 mm SL, Iou-jima



■ アジアコショウダイ Take-shima, 3 July 2009, Y. Komiya



■ アジアコショウダイ Take-shima, 21 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 イサキ科 コショウダイ属

ムスジコショウダイ

Plectorhinchus vittatus (Linnaeus, 1758)

形態 背鰭XIII, 19; 臀鰭III, 7; 胸鰭17; 側線有孔鱗数60。下顎腹面にひげがない。背鰭起部に前向棘がない。下顎正中線に縦長の溝がない。眼の下縁は吻端より上方。腹鰭先端は肛門に達しない。体長は体高の約2.8倍以上。側線有孔鱗数は通常60以下。第1鰓弓の鰓耙数は27-33。

本種を含むイサキ科コショウダイ亜科の幼魚は、成魚の色彩とは異なり奇抜で、体をくねらせる独特な泳ぎ方をする。これには有毒なヒラムシやウミウシ類の姿を模することで外敵から逃れる「ベーツ型擬態」の効

果があると考えられている。幼魚の斑紋パターンはムスジコショウダイ *Plectorhinchus vittatus* (Linnaeus, 1758) に似る（詳しくはムスジコショウダイの備考を参照）。成魚はコロダイ *Diagramma pictum pictum*

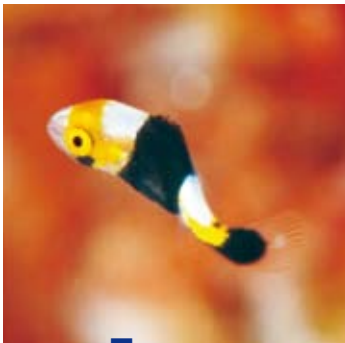
(Thunberg, 1792) に似ているが、体側の小斑点が暗褐色（コロダイは黄褐色）であることで識別される。

(千葉 悟)

Other collected specimens: KAUM-I. 37802, 288.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37917, 371.5 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106128, 445.0 mm SL, Iou-jima.



ムスジコショウダイ Iou-jima, 21 Aug. 2011, S. Dewa



ムスジコショウダイ Take-shima, 18 Sept. 2010, Y. Matsuda

色彩 成魚では体側全体に5-6本の暗色縦帯が走る。胸鰭はほぼ一様に淡色。尾鰭には暗色縦帯または暗色斑紋がある。幼魚の斑紋は成魚とは異なり、黒褐色の地肌に6個位の大きな白色斑が、体背部に4個、尾鰭に1個、頭部吻端に1個ある。この白い円斑が成長するにつれて前後に流れるように広がり暗色縦帯を形成するようになる。

分布 インド・南西太平洋域。国内では駿河湾、八丈島、高知県、琉球列島に分布する。

備考 全長45 cmになる。浅海岩礁域やサンゴ礁域に生息する。成魚はヒレグロコ



ムスジコショウダイ Iou-jima, 20 Sept. 2009, E. Shinkai

ショウダイ *P. lessonii* (Cuvier, 1830) に似る（詳しくはヒレグロコショウダイの備考を参照）。

幼魚の斑紋パターンはアジャコショウダイ *P. picus* (Cuvier, 1828) に似ているが、黒色域の縁辺にオレンジ色の滲みがある、胸鰭が黒いことで識別される。

体の縦帯が完成したステージでは、アヤコショウダイ *P. lineatus* (Linnaeus, 1758) の同ステージのものに似ているが、左右体

側の暗色帯が頭部背面で水平に連結する（アヤコショウダイでは左右の暗色帯が頭部背面で吻端に向かう）、胸鰭基底に暗色斑がある（アヤコショウダイにはない）ことなどで識別される。

本種を含むイサキ科コショウダイ亜科の幼魚は、成魚の色彩とは異なり奇抜で、体をくねらせる独特な泳ぎ方をする。

(千葉 悟)

スズキ目 イトヨリダイ科 キツネウオ属

ヤクシマキツネウオ

Pentapodus aureofasciatus Russell, 2001

形態 背鰭 X-XI, 8-9; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 42-48。体は細長く、体長は体高の3.4-3.7倍。吻長は眼径とほぼ同長。前鰓蓋骨に鱗がある。頭頂部の被鱗域は眼窩の前縁を超えるが後鼻孔まで達しない。腹鰭の後端は肛門に僅かに達しない。尾鰭の上・下葉ともに軟条が伸長しない。

色彩 成魚は体が白色がかり、吻端から尾柄後端上部にかけて幅広い黄色帯が走る。オスの成魚は尾鰭が赤味を帯びる。幼魚時は体がより青味を帯び、体側の黄色帯もより明瞭。さらに眼の上から尾柄部中央背面にかけて黄色縦線が走り、眼の前方でループ状につながる。

分布 日本からオーストラリアのクィーンズランド州にかけての西太平洋とサモア諸島に分布する。国内では和歌山県、高知県、大隅諸島、琉球列島から記録されている。



ヤクシマキツネウオ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

備考 Motomura & Harazaki (2007) は屋久島が本種の国内最大の繁殖地と推測した。屋久島の個体群は台湾から報告されている標本と特徴がよく一致したが、琉球列島から採集された標本とは形態的な相

違が確認された (Motomura & Harazaki, 2007)。また、各海域から報告されているオスの婚姻色が異なることから、本種には複数種が含まれることが示唆される。今後の分類学的研究が待たれる。

(本村浩之)



イトタマガシラ KAUM-I. 37602, 119.7 mm SL, lou-jima

スズキ目 イトヨリダイ科 キツネウオ属

イトタマガシラ

Pentapodus nagasakiensis (Tanaka, 1915)

形態 背鰭 X, 8-9; 臀鰭 III, 6-7; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 43-45; 鰓耙 10-11。体は細長く、体長は体高の3.9-4.5倍。吻長は眼径と同長か短い。第4眼下骨の後縁と前鰓蓋骨の下縁に鋸歯

がない。前鰓蓋骨に鱗がない。頭頂部の被鱗域は眼窩の前縁を超えるが後鼻孔まで達しない。尾鰭の上・下葉ともに軟条が伸長しない。

色彩 生時の成魚は体が白色がかり、吻端から尾柄後端上部にかけて幅広い褐色帯が走る。幼魚時は体がより青味を帯び、体側の褐色帯もより明瞭。生鮮時は体全体が黄色味を帯び、褐色体は不明瞭。

分布 南日本からオーストラリア北西部の西太平洋域に広く分布する。

備考 本種は水深 15-100 m の岩礁域の砂泥底に好んで生息している。硫黄島では水深 47 m から採集された。

本標本は典型的なイトタマガシラと若干色彩が異なる。追加標本の採集と詳細な比較検討が必要である。

(本村浩之)



フタスジタマガシラ (成魚) KAUM-I. 37615, 172.2 mm SL, Iou-jima

スズキ目 イトヨリダイ科 タマガシラ属

フタスジタマガシラ

Scolopsis bilineata (Bloch, 1793)

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 43-46; 鰓耙 10。体高は高く、体長は体高の2.5-3.0倍。吻長は眼径より短い。第4眼下骨の後縁と前鰓蓋骨の下縁に鋸歯があり、前者には大きな1棘がある。眼窩下縁と眼下骨の間に前方棘がある。上顎後端縁に鋸歯状突起がない。前鰓蓋骨に鱗がある。頭頂部の被鱗域は眼窩の前縁を超え、前鼻孔付近まで達する。尾鰭の上・下葉ともに軟条が伸長しない。

色彩 幼魚時は体側上方が黄色味がかり、下方は白色で、その地色上に複数の太い黒色縦帯が走る。背鰭前方部に大きな1黒斑がある。成魚では2本の褐色あるいは黒色の細い線が平行に頭部から背鰭軟条部の基底に向かって走る。背鰭棘条部は黄色く、軟条部は前方が黒色～赤褐色で後方が半透明の白色。臀鰭の前半部は黒色で、後半部は半透明の白色。尾鰭は生時は白色だが、生鮮時は赤みを帯びる。

分布 インドのラッカジブ諸島から東側のインド洋と西太平洋に分布する。国内では南日本に広く分布するが、成魚は大隅諸島以南から多く観察される。

(本村浩之)

Other collected specimen: NSMT-P 106086, 168.2 mm SL, Iou-jima.



フタスジタマガシラ (幼魚) KAUM-I. 31659, 32.2 mm SL, Iou-jima



フタスジタマガシラ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



カメンタマガシラ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 イトヨリダイ科 タマガシラ属

カメンタマガシラ

Scolopsis xenochroa Günther, 1872

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 42-45; 鰓耙 5 + 5 = 10。体は比較的細長い。上顎後縁に鋸歯状の突起がない。眼の下縁と眼下骨の間に前方棘がある。眼下棘の後縁上部に強大な1棘がある。前鰓蓋骨の下縁に鋸歯状突起がある。尾鰭の上・下葉ともに軟条が伸長しない。

色彩 成魚は体上部が青味を帯びた灰色で、下部は白色。頭部に白色横帯がない。鰓蓋後方に2本の短い黒色斜線があり、斜線の間は白色。斜線の後方に黒色点が散在する。黒色点域の後方には楕円形の白色域があり、その上方に輪郭が不明瞭な黄色域がある。各鰭は半透明で、目立った模様がない。幼魚は体が黄色味がかかり、4本の青色縦線が走る。最上青色線は背中線上に沿って走り、眼の前縁に達する。最下青色線は最も太く、しばしば白色を呈する。

分布 東インド洋と西太平洋に分布し、国内では和歌山県、高知県、大隅諸島と琉球列島から記録されている。

備考 本種は和歌山県以南の南日本から記録されているが、大隅諸島以北では幼魚のみの記録である。本州、四国で確認されている幼魚は黒潮によって運ばれてきたもので、無効分散であると考えられる。

(本村浩之)



カメンタマガシラ lou-jima, 8 July 2009, S. Dewa



カメンタマガシラ (幼魚) lou-jima, 21 Aug. 2011, S. Dewa



■ ハマフエフキ KAUM-I. 37766, 448.4 mm SL, Take-shima



■ ハマフエフキ Take-shima, 10 Aug. 2011, K. Furuta

スズキ目 フエフキダイ科 フエフキダイ属

ハマフエフキ

Lethrinus nebulosus (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 13; 側線有孔鱗数 45-48; 側線上方鱗数 6。体はよく側扁する。尾鰭はよく切れ込み、両葉先端はとがる。頬部には鱗がない。胸鰭基部の裏側に小鱗が密生する。尾柄部の側線下方鱗数は通常 15。吻部背面はほぼ平らで、吻はやや長く、体長の 42-56%。

色彩 体側は黒みがかった黄色で、下顎から腹部にかけて白色。各鰭も黒みがかった黄色で、背鰭、臀鰭と尾鰭の後縁は朱色になる。眼から放射状に数本の青みがかった灰色の線がはしる。体側には青白色点が散在する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、新潟県佐渡以南の日本海沿岸、鹿児島県竹島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属他種と比較して、胸鰭基

部の裏側に小鱗が密生する、側線上方鱗が 6 枚、眼から放射状に数本の青みがかった灰色の線がはしる、体側には暗色斑がなく、青白色点が多数散在することから識別される。

本調査では竹島の水深 5 m から採集された。主に岩礁域、砂礫域でみられ、大型の個体でも浅い水深まで索餌のために回遊してくる。

(目黒昌利)

Other collected specimen: NSMT-P 106162, 510.0 mm SL, Take-shima.



ヨコシマクロダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

スズキ目 フエフキダイ科 ヨコシマクロダイ属

ヨコシマクロダイ

Monotaxis grandoculis (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 13-14; 側線有孔鱗数 44-47; 側線上方鱗数 5; 側線下方鱗数 13.5。体はよく側扁する。尾鰭はよく切れ込み、両葉先端はとがる。頬部には鱗をもつ。胸鰭基部の裏側に鱗がある。下顎側部には5-7の臼歯状の歯をもつ。主上顎骨上に鋸歯状隆起がある。頭部形態は成長に伴い変化する。幼魚期には吻部から背鰭始部にかけてほぼ平坦だが、成長に伴い眼前方が突出し、曲線をえがくようになる。

色彩 幼魚と成魚で色彩が異なる。写真は若魚。幼魚の体側は白色。頭部に眼を通る1黒色帯がはしる。体側には常に幅の広い4黒色帯があり、そのうち2黒色帯は背鰭にまで伸びている。黒色帯間の白色線は3-4鱗列の幅をもつ。背鰭は白色。腹鰭・臀鰭の前半部は白色で、後半部は透明。尾鰭は透明で、両葉に橙色の帯がはいる。成魚の体側上部は暗緑色、体側下部は白銀色、鱗は褐色で縁取られる。体側の幅の広い4黒色帯は環境に応じて呈することができる。黒色帯間の白色線は3-4鱗の幅をもつ。主上顎骨は黄色。胸鰭基部裏側に黒色斑をもち、背鰭・臀鰭のそれぞれの軟条部基部に褐色または黒色斑がある。背鰭、尾鰭縁辺は赤褐色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋岸、鹿児島県竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属の *M. heterodon* (Bleeker, 1854) とよく似るが、体側にある黒色帯間の白線幅が広い(3-4鱗の幅)、主上顎骨が黄色、背鰭・臀鰭のそれぞれの軟条部基部に褐色または黒色斑がある、幼魚では眼を通る1黒色帯があることなどから容易に識別される。

(目黒昌利)

Sparidae

スズキ目 タイ科 ヘダイ属

ヘダイ

Rhabdosargus sarba (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 XI, 13; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 15; 側線鱗数 53-63; 側線上方横列鱗数 6.5-7.5; 鰓耙数 5-7+7-9=12-16。体は側扁し吻は丸みを帯びる。

色彩 成魚は体が銀白色で体側には複数の暗色縦帯が走る。幼魚には暗色横帯が出現する時期がある。

分布 インド洋と南日本からオーストラリアの西太平洋に広く分布する。

備考 普通は沿岸岩礁域に生息するが河口域にも入ることが知られている。特に仔



ヘダイ KAUM-I. 37846, 14.9 mm SL, Iou-jima

稚魚は河口などの汽水域で見られる。

硫黄島では、硫黄島港内の長浜浦で体長 14.9 mm の幼魚が採集された。この頃の幼魚にみられる暗色横帯は成長すると消失する。

本種には複数種が含まれている可能性が示されており、今後の分類学的研究が望まれる。

(千葉 悟)

スズキ目 ヒメジ科 アカヒメジ属

アカヒメジ

Mulloidichthys vanicolensis (Valenciennes, 1831)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 35-37; 鰓耙数 29-36。体は細長く、側扁する。鋤骨と口蓋骨に歯がない。第2背鰭は鱗で被われない。体側に1黒色斑がない。体高が高い(体長の26-30%)。

色彩 背側は黄色、腹側は白色。体側に黄色の1縦帯がある。胸鰭は透明であるが、胸鰭を除く各鰭は黄色。虹彩は赤色を呈する。

分布 本種はインド・太平洋域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 アカヒメジ属は世界で7種知られており、日本からは本種の他にモンツキアカヒメジ *Mulloidichthys flavolineatus* (Lacepède, 1801) とリュウキュウアカヒメジ *M. pfluegeri* (Steindachner, 1900) が報告されている。アカヒメジは体側に1黒色斑がないこと、体高が高いこと(体長の26-30%)、眼が大きいこと、体側に黄色



アカヒメジ (中央) Take-shima, 10 Aug. 2011, K. Furuta

の1縦線があることなどから、日本における同属他種と識別される。

最大体長は38 cmにも達し、味も良いので干物やフランス料理の食材としても用いられる。本種は群れをなすこともある。下顎に一对の独立した味蕾を有する髭をもち、

餌を探す時などに用いられる。

通常水深15mほどでみられるが、水深113mからの記録もある。本調査では標本は採取されなかったが、水中写真にて生息を確認した。

(吉田朋弘)



ホウライヒメジ KAUM-I. 37910, 227.7 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒゴイ属

ホウライヒメジ

Parupeneus ciliatus (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 28-30; 鰓耙数 29-32。体は細長く、側扁する。鋤骨と口蓋骨に歯がない。下顎のひげが鰓蓋後縁下に達しない。尾柄部の斑紋が鞍状になり、

その下縁は側線を越える。

色彩 背側は桃色、腹側は白色。体側に多数の赤色横帯があり、黄色斑が散在する。眼後方上部に黒色斑がある。第1背

鰭は赤色、第2背鰭は黄色みを帯びた赤色。腹鰭と尾鰭は赤色で、それらの縁辺は白色。臀鰭は赤色で白色斑が散在する。尾柄部の斑紋は鞍状になり、その下縁は側線を越える。髭は黄色。

分布 本種はインド・太平洋域に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、館山湾以南に広く分布する。

備考 本種はオキナヒメジ *Parupeneus spilurus* (Bleeker, 1854) に似るが、ホウライヒメジの臀鰭前縁長は臀鰭基底長とほぼ同じか、わずかに長いこと（後者では短い）から識別される。

本調査では、本種は硫黄島と竹島の水深 10–30 m から採集された。

(吉田朋弘)

Other collected specimen: NSMT-P 106172, 225.3 mm SL, Take-shima.



ホウライヒメジ Take-shima, 25 July 2010, Y. Matsuda



マルクチヒメジ KAUM-I. 37804, 337.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒゴイ属

マルクチヒメジ

Parupeneus cyclostomus (Lacepède, 1801)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 15–17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 27–32; 鰓耙 27–33。体は細長く、側扁する。鋤骨・口蓋骨に歯がない。第2背鰭は鱗で被われない。下顎の髭は長く、鰓蓋後端に達するか、越える。

色彩 背側は赤色、腹側は白色がかった桃色。尾柄部に淡黄色の鞍状斑紋がある。眼から放射状に赤紫線が走る。第1背鰭は赤色。第2背鰭は赤色で多数の黄色縦線がある。胸鰭は赤色。腹鰭の鰭膜は黄色で、軟条部は赤から白色を呈する。臀鰭は白色で不規則な黄色線がある。尾鰭は赤色で不規則な黄色線がある。髭は赤みを帯びた白色。

分布 本種はインド・太平洋域に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は尾柄部に淡黄色の鞍状斑紋があること、下顎の髭が長く、鰓蓋後縁に達するか、越えることなどから、日本における同属他種と識別される。

(吉田朋弘)



オジサン KAUM-I. 29400, 167.4 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒゴイ属

オジサン

Parupeneus multifasciatus

(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 27-30; 鰓耙 35-42。体は細長く、側扁する。鋤骨・口蓋骨に歯がない。下顎のひげは長く、前鰓蓋骨後縁をはるかに越える。

色彩 背側は赤色、腹側は白色がかった桃色。第2背鰭下と尾柄背側にやや濃い暗色横帯がある。眼付近に4本の赤紫線がはしる。第1背鰭は黄色を帯びた赤色、第2背鰭の基底付近は黒色を帯びた赤色で縁辺には数本の黄色縦線がある。胸鰭は透明。腹鰭は赤色。臀鰭は白色で不規則な黄色線がある。尾鰭は赤色で不規則な黄色線がある。髭は赤みを帯びた白色。

分布 本種はインド・太平洋域に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、琉球列島に広く分布する。

スズキ目 ヒメジ科 ヒメジ属

ミナミヒメジ

Upeneus vittatus (Forsskal, 1775)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 7; 胸鰭 15-17;



オジサン Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

備考 本種は第2背鰭下と尾柄背側にやや濃い暗色横帯があること、下顎の髭が長く、前鰓蓋骨後縁をはるかに越えることなどから、日本に生息する同属他種と識別される。

(吉田朋弘)

Other collected specimens: KAUM-I. 30123, 185.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 34006, 145.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37630, 219.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106121, 165.3 mm SL, Take-shima.

腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 32-38; 鰓耙数 25-31。体は細長く、側扁する。鋤骨・口蓋骨に歯がある。第2背鰭は鱗で被われる。

色彩 体側は光沢のある桃色で4本の黄

色縦線があり、腹側は一律に銀白色。第1背鰭は半透明で先端は黒色、中央わずかに下方に黄色横帯があり、その縁は黒色、基部近くには黄色横帯がある。第2背鰭は半透明で先端は黒色、中央わずか

Mullidae

ヒメジ科

上方と基部付近に黄色横帯がある。尾鰭上葉に4本、下葉に3本の黒色斜帯があり、下葉中央のものが最も太い。髭は白色。

分布 本種はインド・太平洋域に広く分布する。国内では館山湾以南に生息することが知られている。

備考 本種は第1背鰭の先端が黒いこと、尾鰭両葉に暗色帯があり、そのうち下葉中央部の暗色帯が広いことから日本に生息する同属他種と識別される。

(吉田朋弘)



■ ミナミヒメジ KAUM-I. 29401, 207.1 mm SL, Iou-jima



■ ミナミヒメジ KAUM-I. 29401, 207.1 mm SL, Iou-jima

Pempheridae

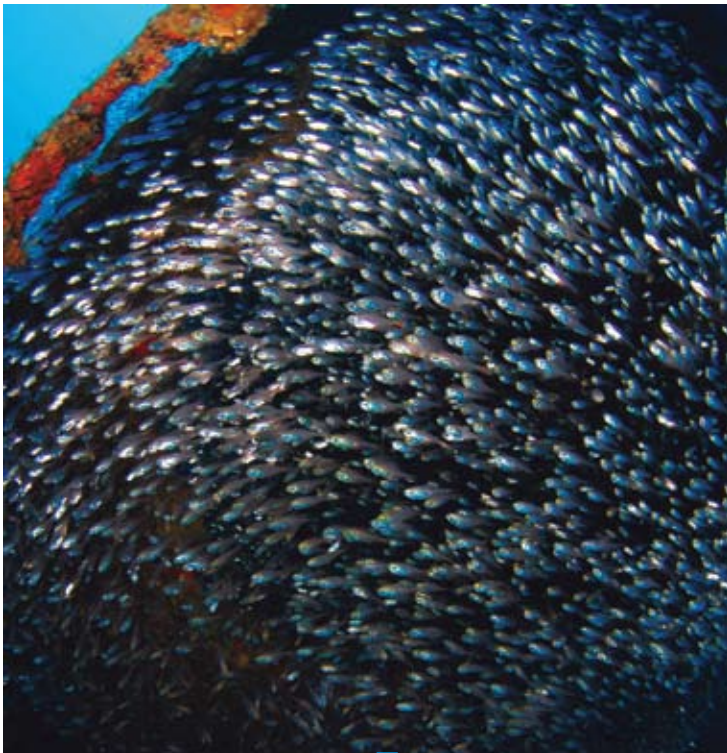
ハタンポ科



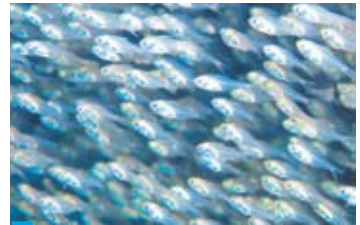
■ キンモドキ KAUM-I. 29785, 58.1 mm SL, Take-shima



キンメモドキ Take-shima, 10 Aug. 2011, K. Furuta



キンメモドキ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



キンメモドキ Take-shima, 7 July 2008, S. Dewa

スズキ目 ハタンボ科 キンメモドキ属

キンメモドキ*Parapriacanthus ransonneti*
Steindachner, 1870

形態 背鰭 V, 8-10; 臀鰭 III, 20-21; 胸鰭 16; 側線有孔鱗 63-79; 側線上方鱗 7 1/2。体は側扁する。側線は鰓蓋上部から尾鰭後端に達しない。臀鰭基底長は短い(体長の 30% 前後)。鱗は楕鱗。臀鰭基部には鱗がない。尾鰭は切れ込む。

色彩 体側は薄いピンク色で、腹部は銀白色。生鮮時は半透明。頭部から体側上部にかけて黄色。各鰭軟条は体側と同じく薄いピンク色で、各鰭膜は透明。尾鰭両葉の先端には黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では八丈島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州北 - 北西岸、鹿児島県硫黄島、竹島、

琉球列島に分布する。

備考 本科魚類は日本ではキンメドキ属とハタンボ属の2属が知られており、キンメドキ属は本種のみである。ハタンボ属より体高が低い、側線が尾鰭後端に達しない、体色から識別される。

本種はテンジクダイ科魚類の群れの中に混泳していることもあり、一見するとテンジクダイ科魚類に見えるが、背鰭が1基であることから容易に識別可能。

本調査では硫黄島と竹島から採集された。水深5-40 mの岩礁域、砂地の障害物の陰に群れてみられた。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 29786, 58.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30096, 51.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30097, 55.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30098, 54.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30099, 52.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30100, 48.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30101, 52.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30102, 56.3 mm SL, Iou-jima.



ツマグロハタンボ KAUM-I. 37894, 149.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハタンボ科 ハタンボ属

ツマグロハタンボ

Pempheris japonica Döderlein, 1883

形態 背鰭 VI-VII, 10-12; 臀鰭 III, 35-37; 胸鰭 17; 側線有孔鱗 70-82; 側線上方鱗 12。体は強く側扁する。側線は鰓蓋上部から尾鰭後端まで達する。臀鰭基底長は長く、体長の40%以上。鱗は強い櫛鱗で剥がれにくい。腹鰭前方に隆起線

がない。

色彩 体側は褐色で、腹部は銀白色。背鰭と臀鰭は前方部が褐色、後方に向かって透明になり、先端に黒色斑が入る。胸鰭、腹鰭、尾鰭は褐色。

分布 日本、朝鮮半島南部、台湾に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島と鹿島灘以南の太平洋沿岸、九州北-北西岸、

鹿児島県硫黄島、屋久島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種と比較して、鱗が強い櫛鱗で剥がれにくい、側線上方鱗が12枚、腹鰭前方に隆起線がないことなどから識別される。本種は昼間は障害物の陰で過ごし、夜間になると索餌のために動きまわる。本調査では硫黄島の水深5-10 mの岩礁域でみられた。

(目黒昌利)

スズキ目 ハタンボ科 ハタンボ属

ミナミハタンボ

Pempheris schwenkii Bleeker, 1855

形態 背鰭 V-VI, 8-10; 臀鰭 III, 34-41; 胸鰭 18; 側線有孔鱗 45-54; 側線上方鱗 3 1/2。体は強く側扁する。側線は鰓蓋上部から尾鰭後端まで達する。臀鰭基底長は長く、体長の40%以上。鱗は弱い櫛鱗と円鱗で剥がれやすい。腹鰭前方に隆起線がある。

側の鱗基部は黄褐色斑がはいる。背鰭は前方部が褐色、後方に行くにつれ透明になり、先端に黒色斑がはいる。臀鰭基部は褐色で、腹鰭と臀鰭は透明。胸鰭は褐色。尾鰭は黒みがかった黄色で、縁辺は褐色に縁取られる。

分布 インド・西太平洋域に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、福島県以南の太平洋沿岸、九州北西岸、鹿児島県硫黄島、竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

鱗が弱い櫛鱗と円鱗で剥がれやすい、側線上方鱗が3 1/2枚、腹鰭前方に隆起線があることなどから識別される。

本種は昼間は障害物の陰で過ごし、夜間になると索餌のために動きまわる。群れで行動する。本調査では硫黄島と竹島の水深5-30 mの岩礁域でみられた。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 31715, 136.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31716, 107.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31717, 110.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31718, 108.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37785, 126.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37911, 105.5 mm SL, Iou-jima.

色彩 体側は褐色で、腹部は銀白色。体

備考 日本でみられる同属他種と比較して、



ミナミハタンボ KAUM-I. 37911, 105.5 mm SL, Iou-jima



リュウキュウハタンボ KAUM-I. 37785, 126.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハタンボ科 ハタンボ属

リュウキュウハタンボ

Pempheris sp.

形態 背鰭 VI, 8-10; 臀鰭 III, 38-43; 胸

鰭 17-18; 側線有孔鱗 60-73。体は強く側扁する。側線は鰓蓋上部から尾鰭後端まで達する。臀鰭基底長は長く、体長の40%以上。鱗は弱い楕円鱗と円鱗で剥がれやすい。腹鰭前方に隆起線がない。

色彩 体側は褐色で、腹部は銀白色。背鰭は前方部が褐色、後方に向かってやや透明になる。背鰭先端に黒色斑が入る。臀鰭基部は褐色。胸鰭と臀鰭には黒色素が散在する。腹鰭と尾鰭は褐色。胸鰭

基部には黒斑がある。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では八丈島、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種と比較して、鱗が弱い櫛鱗と円鱗で剥がれやすいこと、腹鰭前方に隆起線がないこと、胸鰭基部に黒色斑があることなどから識別される。

リュウキュウハタンポには *P. oualensis* という学名が使用されていたが、日本からの *P. oualensis* は Snyder (1912) のリストのみに基づいて報告されたもので、和名も Okada (1938) によってそのリストに基づき提唱された実体のないものであった。その後、リュウキュウハタンポは益田ほか (1975) によって標本に基づいて報告された。しかし、*P. oualensis* のホロタイプを観察した Tominaga (1968) の記載と、リュウキュウハタンポとして報告された標本の形態には相違点がみられたため、リュウキュウハタンポの学名は暫定的に *Pempheris* sp. とされた (波戸岡, 2000)。

Koeda et al. (2010) は Snyder (1912) が報告した *P. oualensis* をリュウキュウハタンポ *Pempheris* sp. の誤同定とし、また

沖縄の八重山諸島から採集された標本に基づき *P. oualensis* に和名ユメハタンポを提唱した。現在、リュウキュウハタンポは *Pempheris* sp. として分類学的研究がすすめられている。

本種は昼間は障害物の陰で過ごし、夜間になると索餌のために動きまわる。本調査では硫黄島と竹島の水深 5-20 m の岩礁域でみられた。

(目黒昌利)



リュウキュウハタンポ KAUM-I. 37785, 126.6 mm SL, Take-shima



ノトイスズミ KAUM-I. 37757, 171.4 mm SL, Take-shima

スズキ目 イスズミ科 イスズミ属

ノトイスズミ

Kyphosus bigibbus Lacepède, 1801

形態 背鰭 X-XI, 11-13; 臀鰭 II-III, 10-12; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗

49-55; 鰓耙 21-24。体は高く側扁する。吻は短くやや丸い。尾柄は短い。背鰭軟条部の前方は高くなく、最長棘と同長かそれより短い。鰓蓋下半部は無鱗。

色彩 体側は褐色で腹部は白色。鰓蓋後

縁は黒色。頬は白色で主上顎骨から前鰓蓋骨先端に向けて黄色帯が走る。背鰭、臀鰭、尾鰭は褐色。腹鰭は褐色で基部は黄色み掛かる。

分布 能登半島と千葉県以南の本州から伊



メジナ KAUM-I. 37912, 264.0 mm SL, Iou-jima



メジナ KAUM-I. 37812, 30.8 mm SL, Iou-jima

ンド・西太平洋域に広く分布する。青森県と宮城県からの記録もある。

備考 日本産同属他種とは背鰭軟条が通常 12 本、臀鰭軟条が通常 11 本、第 1 鰓弓の鰓耙数が 21-24 であることなどから識別される。

(伊東正英)

スズキ目 メジナ科 メジナ属

メジナ

Girella punctata Gray, 1835

形態 背鰭 XIV-XV, 12-15; 臀鰭 III, 11-13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 50-56; 背鰭棘条部中央下横列鱗 6-9。体は高く側扁する。尾鰭はわずかに湾入する。両顎の外列歯は門歯状で通常 2 列。前鋤骨には歯がない。上唇は薄い。鰓蓋下半部は無鱗域となる。鰓蓋の後縁は黒くない。各鱗の基部あるいは中部に暗色点がある。成魚の尾柄部は高い。

色彩 体側、各鰭ともに黒く、腹部にかけて薄くなる。幼魚の体側に淡色横帯はない。

分布 新潟・房総半島以南から鹿児島に生息する。北海道や東北地方、琉球列島、小笠原諸島では稀。国外では、朝鮮半島から香港にかけて分布する。

備考 本種は同属他種と比較して上唇が薄いこと、鰓蓋下半部が無鱗であること、鰓蓋の後縁が黒くないこと、側線有孔鱗数が 50-56 であることにより識別される。

(伊東正英)

Other collected specimens: KAUM-I. 37880, 29.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37881, 29.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106143, 25.4 mm SL, Iou-jima.



カゴカキダイ KAUM-I. 37726, 41.9 mm SL, Take-shima

スズキ目 カゴカキダイ科 カゴカキダイ属

カゴカキダイ

Microcanthus strigatus (Cuvier, 1831)

形態 背鰭 XI, 16-18 ; 臀鰭 III, 13-14 ; 胸鰭 15-16 ; 側線有孔鱗 56-60。体は側扁し、体高は高い。頭部は小さく、眼の上方でわずかにくぼむ。吻はやや尖り、上下両顎ともに細長く尖った歯が帯状に並ぶ。口蓋骨と前鋤骨には歯がない。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。両鰓膜は峽部前方で癒合する。側線は完全で尾柄に達する。背鰭と臀鰭の軟条部は小さな鱗に覆われるが、棘条部は無鱗。腹鰭を倒すとその先端は臀鰭に達する。尾鰭は湾入形。

色彩 淡い黄色の体色に6本の明瞭な黒色の縦帯が斜めに入る。頭部には吻端から眼の後縁に伸びる黒色縦線と眼の後ろに2本の黒色横線がある。胸鰭と尾鰭は半透明で模様がない。

分布 反赤道性分布を示す。北半球では朝鮮半島南部から日本を含め中国南部まで分布し、南半球ではオーストラリア西岸・東岸、ニューカレドニア、ノーフォーク島に生息する。国内では青森県から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はチョウチョウオ科の魚によく



カゴカキダイ KAUM-I. 37727, 18.7 mm SL, Take-shima

似るが、稚魚期に頭部の各種の骨が肥大・伸長したトリクティス幼生期を経ないため、チョウチョウオ科の仲間ではない。本種はイズミ科カゴカキダイ亜科として分類されることもあるが、日本においては独立したカゴカキダイ科として扱うのが主流である。

昼行性でエビ類、ゴカイ類などを好んで食べる。沿岸や内湾の岩礁域で普通にみられ、小さな群れをつくることが多いが、琉球列島では水深のやや深い場所に生息する。幼魚は春から夏にタイドプールでよく見

受けられる。頭部の後からせりあがる部分が、駕籠かき人夫の発達した肩の筋肉に似ていることが名前の由来である。

本種は好奇心が強く人に慣れやすい。飼育が比較的容易なため、観賞用とされることが多い。食用魚としての価値は低いが塩焼き、煮付けなどにすると美味しい。

(原口百合子)

Other collected specimen: NSMT-P 106109, 16.6 mm SL, Take-shima.



カガミチヨウチヨウウオ KAUM-I. 37973, 91.1 mm SL, Take-shima

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

カガミチヨウチヨウウオ

Chaetodon argentatus Smith & Radcliffe, 1911

形態 背鰭 XIII–XIV, 21–24 ; 臀鰭 III, 16–17 ; 胸鰭 14–15 ; 腹鰭 I, 5 ; 側線有孔鱗 30–37。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭軟条部後縁は丸く、臀鰭軟条部後縁はやや尖る。

色彩 頭部の黒色横帯は眼直上で途切れる。体側面は地色が乳白色で黒色の網目模様があり、3本の黒色横帯がある。この黒色横帯は、前2本が途中で途切れる。尾鰭は1本の黒色横帯があり、後縁は黒く縁取られる。

分布 西太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、長崎県男女群島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面に網目模様があることで、アミメチヨウチヨウウオ *Chaetodon xanthurus* Bleeker, 1857、アミチヨウチヨウウオ *Chaetodon rafflesii* Bennett, 1830、およびユウゼン *Chaetodon daedalma*



カガミチヨウチヨウウオ Take-shima, 24 July 2010, Y. Matsuda

Jordan & Fowler, 1902 に似る。しかし、体の地色が本種では乳白色であるのに対し、アミメチヨウチヨウウオでは白色、アミチヨウチヨウウオでは黄色、およびユウゼンでは黒色であることで識別される。

(岩坪洗樹)



トゲチヨウチヨウウオ KAUM-I. 37633, 159.3 mm SL, Iou-jima

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

トゲチヨウチヨウウオ

Chaetodon auriga Forsskål, 1775

形態 背鰭 XII–XIII, 22–25; 臀鰭 III, 18–21; 胸鰭 14–15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 29–40。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。成魚の背鰭第 5, 6 軟条は伸長するが、幼魚では伸長せず背鰭軟条後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

チヨウチヨウウオ

Chaetodon auripes Jordan & Snyder, 1901

形態 背鰭 XII, 22–27; 臀鰭 III, 17–22; 胸鰭 14–15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 35–43。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 成魚・幼魚ともに、体の前半部が白色で、後半部は黄色～橙色になる。また、頭部に眼を通る黒色横帯がある。背鰭軟条部には黒色斑が 1 個あり、この黒色斑は成長にともない大きくなる。成魚は体側面に複数本の灰色斜帯がある。この斜帯は、体背面から前方へ向かう斜帯と、体腹面から前方へ向かう斜帯の 2 種類があるが、斜帯同士は交差しない。成魚は尾鰭が体後半部と同じく黄色または橙色で、明るい黄色の横帯が 1 本あるが、幼魚の尾鰭は透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、岩手県以南の太平

洋沿岸、九州、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種と同様に、成魚の背鰭軟条後縁が伸長する特徴をもつものに、レモンチヨウチヨウウオ *Chaetodon semeion* Bleeker, 1855 とセグロチヨウチヨウウオ *Chaetodon ephippium* Cuvier, 1831 がある。しかし、トゲチヨウチヨウウオは両種と比較して、背鰭軟条部に黒色斑が 1 個あること（レモンチヨウチヨウウオでは背鰭軟条部に黒色帯がある、セグロチヨウチヨウウオでは背鰭後半部が黒色域で覆われる）から容易に識別される。

(岩坪洗樹)

色彩 頭部は吻端から鰓蓋後端にかけて灰色～白色で、眼を通る黒色横帯がある。成魚は体側部の地色が黄色で、暗い橙色の縦帯が多数ある。幼魚は体側部が一樣に橙色で、背鰭軟条部に眼と同大の黒色斑が 1 個ある。

分布 北西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、津軽海峡以南の日本海沿岸、宮城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。



チヨウチヨウウオ Take-shima, 25 July 2010, Y. Matsuda



チヨウチヨウウオ KAUM-I. 30595, 135.0 mm SL, Iou-jima



チヨウチヨウウオ Take-shima,
25 July 2010, Y. Matsuda

備考 本種は、チヨウチヨウウオ属 *Chaetodon* の中では、もっとも北方まで分布が確認されており、九州本土以北でもよくみられる。

(岩坪洗樹)

Other collected specimen: NSMT-P 106108, 140.6 mm SL, Take-shima.



チヨウチヨウウオ KAUM-I. 31402, 24.7 mm SL, Take-shima



ゴマチョウチヨウウオ lou-jima, 26 July 2010, Y. Matsuda

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

ゴマチョウチヨウウオ

Chaetodon citrinellus Cuvier, 1831

形態 背鰭 XIII–XIV, 20–22; 臀鰭 III, 15–17; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 36–42。体は円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部と体側面の地色は薄黄色～黄色。眼を通る黒色横帯がある。体側面には黒色点が多数散在する。背鰭は白色で縁取られる。臀鰭縁辺は幅広い黒色域で縁取られ、その上部が白色がかかる。尾鰭は、成魚では体側面の地色と同様に薄黄色～黄色だが、幼魚では透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、熊本県、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は硫黄島と竹島にも生息するが、標本は得られなかった。

(岩坪洗樹)



コクテンカタギ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

コクテンカタギ

Chaetodon quentheri Ahl, 1923

形態 背鰭 XIII, 20–23; 臀鰭 III, 18–20; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 39–40。

体は円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部と体側面の地色は白色。眼を通る黒色横帯は腹面付近で途切れる。体側面には黒色点が多数散在する。背鰭と臀



コクテンカタギ lou-jima, 18 Sept. 2010, Y. Matsuda

鰭はそれぞれ黄色～橙色で、縁辺に向かって濃くなる。また、それぞれ白色で縁取られ、その内側に弧状の細い黒色帯がある。背鰭軟条部に眼径とほぼ同大の黒色斑があるが、この黒色斑がない個体もみられる。尾鰭は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では、八

丈島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面に黒色点が多数散在することでゴマチヨウチヨウウオ *Chaetodon citrinellus* Cuvier, 1831 に似る。しかし、コクテンカタギはゴマチヨウチヨウウオと比較して、体側面の地色が白色であること（ゴ

マチヨウチヨウウオでは薄黄色～黄色）、臀鰭に黒色域がないこと（臀鰭縁辺が幅広い黒色域で縁取られる）から識別される。

（岩坪洗樹）

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

ミゾレチヨウチヨウウオ

Chaetodon kleinii Bloch, 1790

形態 背鰭 XIII–XIV, 20–23；臀鰭 III, 17–20；胸鰭 13–15；腹鰭 I, 5；側線有孔鱗 29–30。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 体前半部は白色だが、後半部に向かい黄色～橙色になる。眼を通る明瞭な黒色横帯と体側中央を通る不明瞭な黒色横帯がある。背鰭、臀鰭軟条部は白く縁取られる。腹鰭は黒色。



ミゾレチヨウチヨウウオ lou-jima, 26 July 2010, Y. Matsuda



ミソレチヨウチヨウウオ KAUM-I. 31655, 43.7 mm SL, Iou-jima

分布 インド・太平洋に分布する。伊豆・小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、鹿児島県甞島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は幼魚と成魚では色彩において大きな差異はみられない。サンゴ礁域や岩礁域の比較的浅い場所でみられ、サンゴ礁域ではサンゴのポリプを好んで食べるが、岩礁域では底生の小型甲殻類などを食べる。

(岩坪洗樹)

Other collected specimens: KAUM-I. 31664, 27.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32327, 92.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37657, 94.6 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106076, 74.3 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106083, 98.8 mm SL, Iou-jima.



ミソレチヨウチヨウウオ KAUM-I. 30571, 25.7 mm SL, Iou-jima



ニセフウライチヨウチヨウウオ KAUM-I. 37616, 222.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

ニセフウライチヨウチヨウウオ

Chaetodon lineolatus Cuvier, 1831

形態 背鰭 XII, 24–28; 臀鰭 III, 20–22; 胸鰭 15–17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 21–30。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

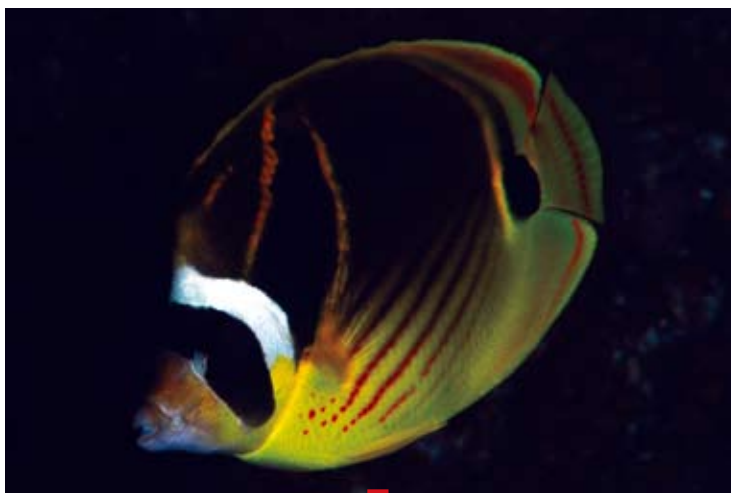
色彩 眼を通る黒色横帯は、眼上で二又する。体は白色で、細い黒色横帯が多数ある。この黒色横帯は腹部で途切れる。背鰭、臀鰭、尾鰭は黄色。背鰭軟条基部から尾柄にかけて黒色帯がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大阪湾、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はヒメフウライチヨウチヨウウオ *Chaetodon oxycephalus* Bleeker, 1853 とスダレチヨウチヨウウオ *Chaetodon ulietensis* Cuvier, 1831 に似る。しかし、ニセフウライチヨウチヨウウオはヒメフウライチヨウチヨウウオ、スダレチヨウチヨウウオと比較して、頭部の眼を通る黒色横帯が連

続すること（ヒメフウライチヨウチヨウウオでは眼上部で途切れる）、背鰭軟条基部から尾柄部にかけて黒色帯があること（スダレ

チヨウチヨウウオでは黒色帯はなく、尾柄部に黒色斑がある）から識別される。（岩坪洗樹）



チヨウハン Take-shima, 18 Sept. 2010, Y. Matsuda

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

チヨウハン

Chaetodon lunula (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XI–XIII, 22–25; 臀鰭 III, 17–19; 胸鰭 15–16; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 31–41。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。



チヨウハン KAUM-I. 37974, 161.0 mm SL, Take-shima

色彩 頭部は、眼を通る黒色横帯より前方が黄色で、後方が白色。眼を通る黒色横帯は、前鰓蓋骨下端付近で途切れる。成魚では、体側面の地色は黄色で背面はやや暗く、細い橙色縦帯が多数ある。体側面前上部に二又する太い黒色斜帯がある。また、背鰭軟条基底から尾柄にかけて黒色帯がある。幼魚では、体側面の地色は黄色で背面はやや暗く、前上部に不明

瞭な黒色斑がある。背鰭軟条部と尾柄に、それぞれ眼径と同大の黒色斑がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の幼魚はチヨウチヨウウオ *Chaetodon auripes* Jordan & Snyder,

1901に酷似する。しかし、チヨウハンとはチヨウチヨウウオと比較して、尾柄に黒色斑があること（チヨウチヨウウオにはない）から識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

ミスジチヨウチヨウウオ

Chaetodon lunulatus

Quoy & Gaimard, 1825

形態 背鰭 XIII-XIV, 20-22; 臀鰭 III, 18-21; 胸鰭 13-15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 30-39。体は楕円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部から体側腹面にかけて黄色で、

体側背面にむかって白色がかかる。吻端は褐色がかり、眼を通る黒色横帯がある。体側面には灰白色の縦帯が多数ある。腹鰭は黄色。背鰭軟条部基底から尾柄にかけて不明瞭な黒色帯がある。尾鰭基底に黒色横帯があり、尾鰭は透明。成魚の臀鰭は褐色で、2本の黒色帯がある。幼魚の臀鰭軟条部は黒色で縁取られる。

分布 東インド洋から太平洋にかけて分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、房総半島以南の太平洋沿岸、鹿児島県甬島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

(岩坪洗樹)



ミスジチヨウチヨウウオ KAUM-I. 32333, 40.9 mm SL, Iou-jima



ミスジチヨウチヨウウオ KAUM-I. 32333, 40.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

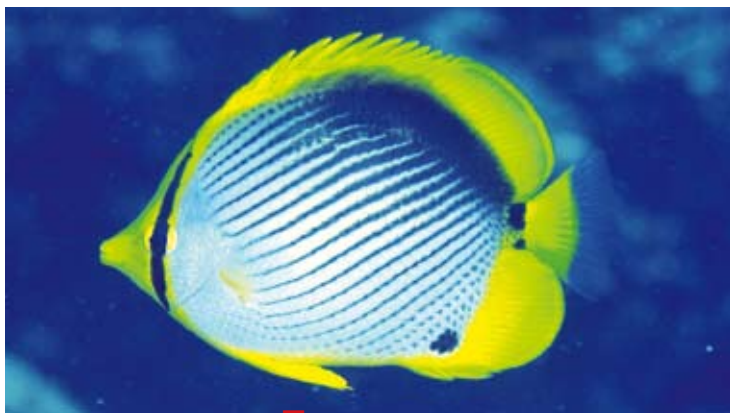
アケボノチヨウチヨウウオ

Chaetodon melannotus

Bloch & Schneider, 1801

形態 背鰭 XII-XIII, 17-20; 臀鰭 III, 17-18; 胸鰭 12-15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 29-36。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部は前半部が黄色で後半部が白色。目を通る黒色横帯がある。体側部の地色は白色で、多数の黒色点が斜線状に複数列並ぶ。この黒色点列は背面に向かって太くなり、背面で交わる。背鰭、臀鰭、腹鰭、および体側面縁は黄色。尾鰭は、成魚では黄色だが、幼魚では透明。また、幼魚の尾柄には眼と同大の黒色斑がある。

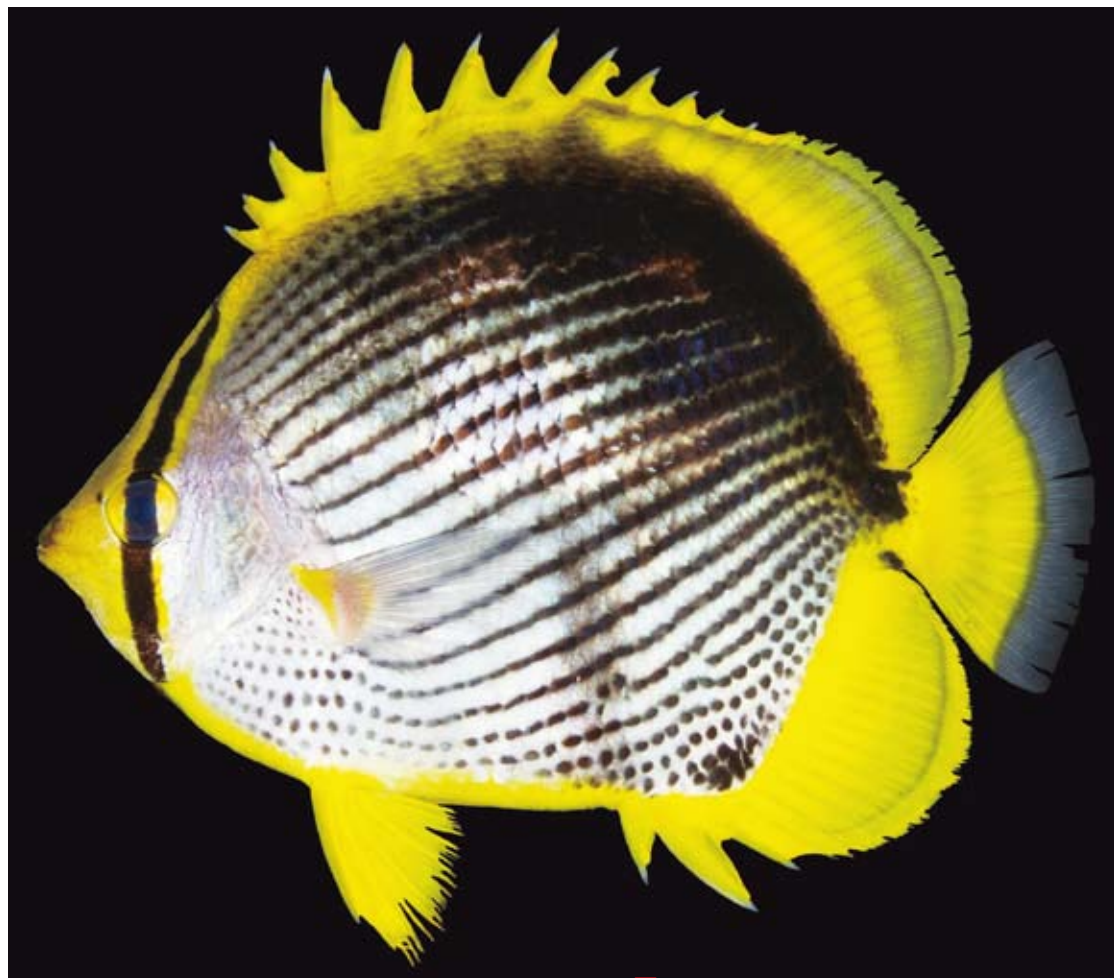


アケボノチヨウチヨウウオ Take-shima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の種小名 *melannotus* は体側の黒色点に由来する。

(岩坪洗樹)



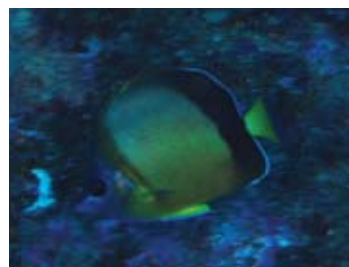
■ アケボノチヨウチヨウウオ KAUM-I. 37913, 129.8 mm SL, Take-shima



■ シラコダイ Take-shima, 21 Aug. 2011, S. Dewa



■ シラコダイ Take-shima, 9 Aug. 2011, S. Dewa



■ シラコダイ Take-shima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目チヨウチヨウウオ科チヨウチヨウウオ属

シラコダイ

Chaetodon nippon
Steindachner & Döderlein, 1883

形態 背鰭 XII-XIII, 18-21; 臀鰭 III, 15-17; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗



シラコダイ KAUM-I. 37896, 123.6 mm SL, Iou-jima

35-39. 体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部は白色。幼魚では眼を通る不明瞭な黒色横帯があるが、成魚では消失する。体側面は暗い乳白色。腹鰭はやや暗い黄色。成魚は、背鰭軟条部から臀鰭軟条部にかけて幅広い黒色横帯がある。また、尾柄は白色で臀鰭は黄色。幼魚は背鰭軟条部に黒色斑がある。また、尾柄は体側面と同様に暗い乳白色で、臀鰭は透明。

分布 北西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島に分布する。

備考 本種はチヨウチヨウウオ属 *Chaetodon* の中では、チヨウチヨウウオ *Chaetodon auripes* Jordan & Snyder, 1901 と同様に最も北方まで分布する。日本沿岸でも繁殖し、産卵期は春から秋。

(岩坪洗樹)



ヤリカタギ Take-shima, 11 May 2010, K. Matsuno

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

ヤリカタギ

Chaetodon trifascialis

Quoy & Gaimard, 1825

形態 背鰭 XIV, 14-17; 臀鰭 IV-V, 15-17; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 23-29。体は楕円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁が尖る。



■ ヤリカタギ Take-shima, 25 July 2010, Y. Matsuda

色彩 頭部から体側腹面の地色は白色で、眼を通る黒色横帯がある。体側面に「く」の字状の細い横帯が多数ある。背鰭棘条部は黄色。背鰭と臀鰭の軟条部はそれぞれ縁辺に向かって黄色がかり、白色で縁取られる。成魚は尾鰭が黒色で、上下縁は黄色で縁取られ、後縁に黄色横帯がある。腹鰭は白色。幼魚は吻端と腹鰭が黄色。背鰭軟条後半部から臀鰭軟条後半部にかけて幅広い黒色横帯がある。尾柄から尾鰭中央にかけて黄色で、尾鰭中央から後縁にかけて透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、男女群島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はモドリイシ類のポリブを主食としているため、サンゴへの依存度が高い(加藤, 2011)。幼魚は枝状サンゴ周辺やサンゴの枝の間で単独、または複数匹の群れで生活する。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

ツキチヨウチヨウウオ

Chaetodon wiebeli Kaup, 1863

形態 背鰭 XII–XIII, 22–26; 臀鰭 III, 18–20; 胸鰭 14–15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 38–46。体は円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部は吻端から鰓蓋後端にかけて灰色～白色で、眼を通る黒色横帯がある。体側面の地色は黄色で、暗い橙色の斜帯が多数ある。成魚は頂部に黒色斑がある。尾柄部は体側面の地色と同様に黄色。また、尾鰭は透明で、黒色横帯がある。幼魚は背鰭軟条部に眼径と同大の黒色斑が1個ある。尾柄部は黒色で、尾鰭は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では、伊豆諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大



■ ツキチヨウチヨウウオ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

阪湾、兵庫県以西の日本海沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 硫黄島と竹島にも生息するが、標本は得られなかった。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

アミメチヨウチヨウウオ

Chaetodon xanthurus Bleeker, 1857

形態 背鰭 XIII–XIV, 20–23; 臀鰭 III, 17–20; 胸鰭 13–15; 腹鰭 I, 5; 側線有

孔鱗 33–41。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭軟条部後縁と臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部の黒色横帯は主鰓蓋骨下縁で途切れる。背鰭起部前方に白く縁取られた1黒色斑がある。体側面は地色が白色

で黒色の網目模様がある。背鰭軟条部後縁は白色で縁取られ、その内側を細い黒色線が縁に沿ってはしる。臀鰭棘前縁は灰色。背鰭軟条後半部から臀鰭軟条後半部にかけて幅広い橙色域がある。尾鰭は1本の橙色横帯があり、この横帯の前方は白色、後方は半透明である。

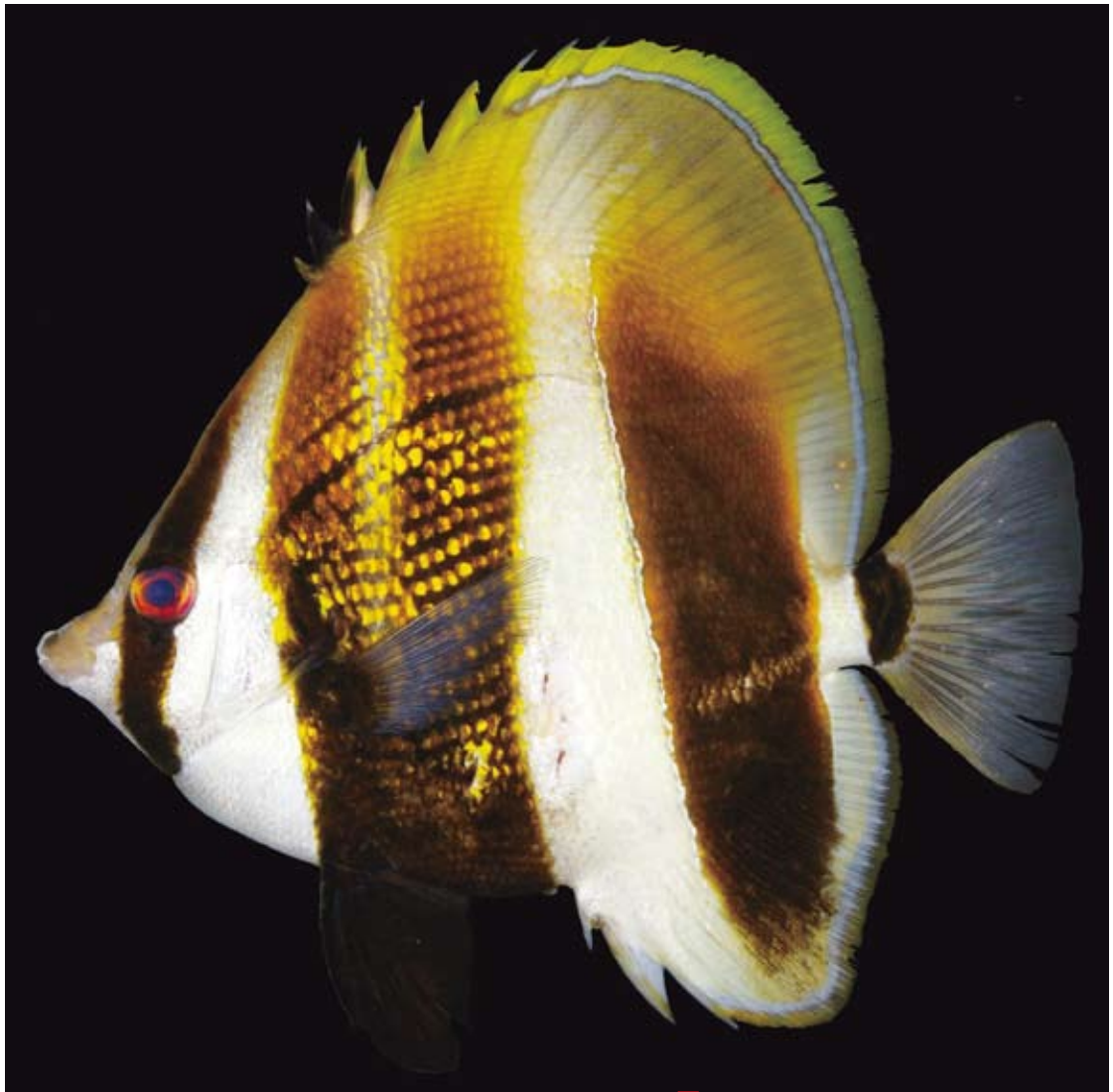
分布 西太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は、背鰭軟条後半部から臀鰭軟条後半部にかけて幅広い橙色域があること、尾鰭に1本の橙色横帯があることで、ベニオチヨウウオ *Chaetodon mertensii* Cuvier, 1831 に似る。しかし、本種は体側面に網目模様があるのに対し、ベニオチヨウウオでは体側面に「く」の字の模様があることで容易に識別される。

(岩坪洗樹)



■ アミメチヨウウオ lou-jima, 9 June 2007, S. Dewa



■ タキゲンロクダイ KAUM-I. 37982, 149.4 mm SL, Take-shima



■ タキゲンロクダイ KAUM-I. 37982, 149.4 mm SL, Take-shima

スズキ目 チョウチョウウオ科 タキゲンロクダイ属

タキゲンロクダイ

Coradion altivelis McCulloch, 1916

形態 背鰭 XIII, 28–30; 臀鰭 III, 19–22; 胸鰭 15–17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 48–52。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。側線が尾鰭基底まで達する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部は白色で、眼を通る褐色横帯がある。体側部の地色は白色で、褐色横帯が2本ある。この褐色横帯は背面でやや不明瞭になる。また、前の褐色横帯は体側中央よりやや下方で、背面に向かって二叉する。尾柄に1本の褐色横帯がある。腹鰭は褐色で、尾鰭は透明。

分布 アンダマン海から西太平洋にかけて分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、熊本県、鹿児島県甬島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はキスジゲンロクダイ *Coradion chrysozonus* Cuvier, 1831によく似る。しかし、タキゲンロクダイはキスジゲンロクダイと比較して、眼を通る褐色横帯が鰓蓋下部で途切れること（キスジゲンロクダイでは腹鰭基底付近まで達する）、背鰭が8棘28–30軟条（9棘28–30軟条）であることから容易に識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チョウチョウウオ科 フェヤッコダイ属

フェヤッコダイ

Forcipiger flavissimus

Jordan & McGregor, 1898

形態 背鰭 XII, 22–24; 臀鰭 III, 17–18; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 67–80。体は強く側扁する。吻は細長く、体高は吻長の約1.6–2.1倍。口は小さく、細い糸状



■ タキゲンロクダイ Take-shima, 11 Oct. 2010, Y. Matsuda



■ フェヤッコダイ KAUM-I. 32318, 79.1 mm SL, Iou-jima

の歯が密に分布する。背鰭軟条部後縁は丸く、臀鰭軟条部後縁はやや尖る。尾鰭上葉先端が突出する。側線が尾鰭基底まで達する。

色彩 頭部上半部は黒色で、下半部は白色。体部、背鰭、臀鰭、および胸鰭は黄色く、

臀鰭軟条後部に黒色斑が1個ある。胸鰭と尾鰭は透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、愛媛県、大隅諸島、琉球列島に分布する。



フエヤッコダイ KAUM-I. 32318, 79.1 mm SL, Iou-jima

備考 本種はオオフエヤッコダイ *Forcipiger longirostris* (Broussonet, 1782) に酷似する。しかし、フエヤッコダイはオオフエヤッコダイと比較して、背鰭が通常 12 棘であること（オオフエヤッコダイでは通常 11 棘）、体高は吻長の約 1.6–2.1 倍（体高は吻長の約 1.1–1.5 倍）から識別される。
(岩坪洗樹)

スズキ目 チョウチョウウオ科 ハタタテダイ属

ミナミハタタテダイ

Heniochus chrysostomus Cuvier, 1831

形態 背鰭 XII, 21–22；臀鰭 III, 17–19；胸鰭 16；腹鰭 I, 5；側線有孔鱗 57–61。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭第 4 棘が著しく伸長する。背鰭軟条部後縁は丸く、臀鰭軟条部後縁はやや尖る。側線が尾鰭基底まで達する。成魚は眼の上方に棘があるが、幼魚にはない。



ミナミハタタテダイ Take-shima, 26 July 2010, E. Shinkai

色彩 体地色は乳白色で、吻端は黄色。幅広い黒褐色斜帯が 3 本あり、前方の斜帯は頭部上方から腹鰭にかけて、中央の斜帯は背鰭棘部中央から臀鰭軟条部にかけて、後方の斜帯は背鰭棘後半部から背

鰭基底後端にかけて伸びる。尾鰭基底に三角形の褐色斑がある。背鰭と尾鰭の軟条は薄い黄色で、鰭膜は透明。幼魚は臀鰭軟条部に眼とほぼ同大の黄色で縁取られた黒色斑があるが、成魚では消失する。

分布 東インド洋から太平洋にかけて分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、愛媛県、福岡県、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は黒色帯が頭部上方から腹鰭にかけて走ることと同属多種と容易に識別される。

(岩坪洗樹)

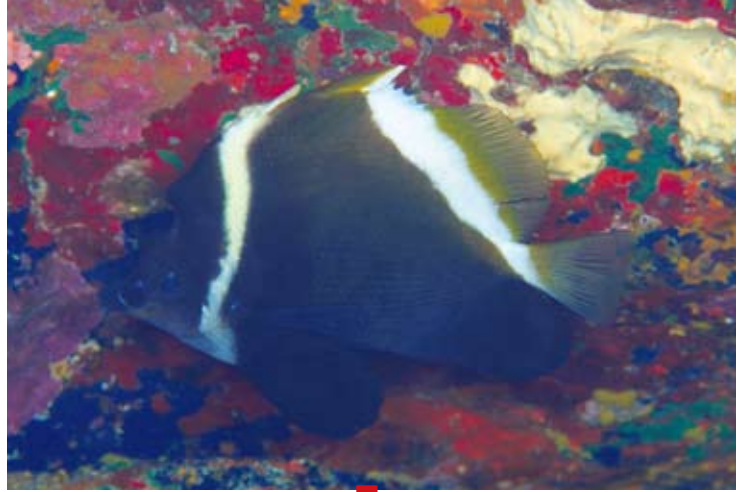
スズキ目 チョウチヨウウオ科 ハタタテダイ属

ツノハタタテダイ

Heniochus varius (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XI–XII, 21–24; 臀鰭 III, 17–18; 胸鰭 14–15; 腹鰭 I, 5。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭第4棘が伸長する。背鰭軟条部後縁は丸い。側線が尾鰭基底まで達する。成魚は発達した眼上棘があり、頭頂部の突起が前方へ著しく突出する。幼魚は眼上棘が小さく、頭頂部の突起がない。

色彩 体は全体的に黒色で、背鰭棘条前部から鰓蓋にかけてと背鰭棘後部から尾柄



■ ツノハタタテダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

部にかけて、それぞれ白色帯がある。背鰭軟条部と尾鰭は黄色がかった透明。

分布 東インド洋から太平洋にかけて分布する。国内では、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、鹿児島県竹島、琉球列島に分布する。

備考 本種は成魚では発達した眼上棘があり、頭頂部の突起が前方へ著しく突出すること、背鰭棘条前部から鰓蓋にかけて白色帯があることなどから同属他種と識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 キンチャクダイ科 シテンヤッコ属

シテンヤッコ

Apolemichthys trimaculatus (Cuvier, 1831)

形態 背鰭 XIV, 17–18; 臀鰭 III, 17–18; 胸鰭 17–18; 側線有孔鱗 38–47 + 4–6。間鰓蓋骨が大きく、下縁は滑らかである。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。背鰭、臀鰭後縁は丸い。



■ シテンヤッコ Take-shima, 15 May 2010, Y. Matsuda



■ シテンヤッコ KAUM-I. 29558, 150.0 mm SL, Iou-jima

色彩 額と主鰓蓋骨上端に眼とほぼ同大の黒色斑がある。唇は藤色。体と各鰭（臀鰭を除く）の地色は黄色。体側部は、緑が黒褐色の鱗が並び、密な網目状模様を形成する。成魚の臀鰭は上半部が白色で、下半部が黒色である。幼魚では眼を通る黒色横帯と背鰭軟条部に1黒色斑があるが、成長にしたがい消失する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

(岩坪洗樹)

Other collected specimen: KAUM-I. 37601, 146.7 mm SL, Iou-jima.



シテンヤッコ KAUM-I. 29558, 150.0 mm SL, Iou-jima



アブラヤッコ Iou-jima, 27 June 2010, Y. Matsuda



■ アブラヤッコ KAUM-I. 33949, 32.7 mm SL, Iou-jima

スズキ目 キンチャクダイ科 アブラヤッコ属

アブラヤッコ

Centropyge tibicen (Cuvier, 1831)

形態 背鰭 XIV, 16–17; 臀鰭 III, 16–17; 胸鰭 16–17; 側線有孔鱗 45–48。眼前骨前縁に弱い鋸歯がある。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆

われる。尾鰭後縁は丸い。

色彩 体全体はほぼ一様に黒いが、体前半部がやや黄みをおびる。腹鰭は黄色。臀鰭は外縁が黄色で縁取られる。体側面中央よりやや上方に白色斑がある。

分布 東インド・西太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、神奈川県

以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は雌性先熟の性転換を行うが、雌雄および幼魚に著しい差異はない。ハレムを形成する（島田，2009）。

（岩坪洗樹）

スズキ目 キンチャクダイ科 アブラヤッコ属

ナメラヤッコ

Centropyge vrolikii (Bleeker, 1853)

形態 背鰭 XIV, 15–16; 臀鰭 III, 16; 胸鰭 16。眼前骨前縁に弱い鋸歯がある。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭後縁は丸い。

色彩 頭部は紫色がかった白色で、虹彩は橙色である。主鰓蓋骨縁上半部は黒色。胸鰭基底は橙色。体側部は薄い茶色がかった緑色で、腹面に向かい白色になり、後半部に向かい黒色になる。背鰭と臀鰭の軟条部縁は白色。尾鰭は黒色で、後縁は白色。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 成魚の全長は約10 cm程度と、キンチャクダイ科の中では小型の種である。



■ ナメラヤッコ KAUM-I. 30542, 32.9 mm SL, Iou-jima

本種は雌性先熟の性転換を行う（島田，2009）。

（岩坪洗樹）



■ ナメラヤッコ KAUM-I. 30542, 32.9 mm SL, Iou-jima



■ フカミヤッコ (メス) KAUM-I. 37920, 95.0 mm SL, Iou-jima



フカミヤッコ (メス) KAUM-I. 37920, 95.0 mm SL, Iou-jima



フカミヤッコ (メス) Iou-jima, 20 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 キンチャクダイ科 タテジマヤッコ属

フカミヤッコ

Genicanthus bellus Randall, 1975

形態 背鰭 XV, 15-16; 臀鰭 III, 16-17; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗数 42-44; 鰓耙数 4-5 + 12-13 = 16-17;

体は側扁する。口は小さく端位で、口角は上顎の中央よりやや後方に達する。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状をなす。隅角部の1棘は強力で、先端は主鰓蓋骨後端下に達する。頭部は口唇と峽部、鰓膜を除いて小櫛鱗に被われる。体側鱗は側線上を除いてほぼ規則的に並ぶ。尾鰭は深く湾入し、両葉先端は糸状に伸長する。

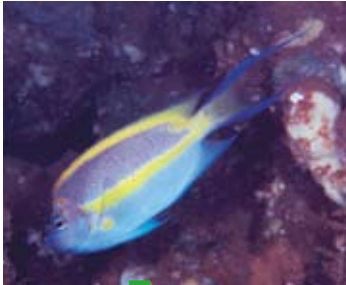
色彩 雄の体色は明灰色で、背面側にいくにつれ色合いが濃くなる。体側には主鰓蓋骨上部から尾柄部にかけて黄色の縦線が走る。頭部上縁、背鰭基底および胸鰭基底は黄色または橙色。背鰭は黄色。尾鰭の上下葉は青色で縁取られ、それ以外は黄色または橙色。胸鰭、腹鰭、臀鰭は透明または淡い黄色。雌の体色は吻部から



■ フカミヤッコ (メス) Iou-jima, 11 Aug. 2011, S. Dewa



■ フカミヤッコ (メス) Iou-jima, 9 Aug. 2011, K. Furuta



■ フカミヤッコ (オス) Iou-jima, F. Yasudome



■ フカミヤッコ (オス) Iou-jima, 24 July 2010, Y. Matsuda



フカミヤッコ（オス） Iou-jima, 15 June 2009, S. Dewa



フカミヤッコ（オス） Iou-jima, 18 June 2009, S. Dewa

頬部、胸部、腹部にかけて淡い灰色。後頭部から眼隔域にかけて青白い縁取りのある暗茶色の鞍状斑がある。胸鰭基部から前上方へ向かって鰓蓋上部を通り、項部で後方へ向きを変え、背鰭基底に沿って背鰭軟条に達し、そこで鰭の色彩に同化する暗茶色で青白い縁取りがある帯が走る。主鰓蓋骨上部から尾柄下部を通り、尾鰭下葉

の縦帯に同化する青白い縁取りを備えた縦帯が走る。

分布 東インド洋から太平洋に分布する。国内では硫黄島、硫黄島、伊江島、久米島および慶良間諸島安室島に分布する。

備考 フカミヤッコは 2009 年に伊江島で採

集された標本に基づき和名が提唱された。本種は水深 40–110 m と深い場所に生息しており、硫黄島においては水深 75 m から採集された。本科魚類は成長に伴い、雌から雄に性転換することが知られており、体色は大きく変わる。

(西山 肇)



タテジマヤッコ (オス) KAUM-I. 37643, 170.8 mm SL, Iou-jima



タテジマヤッコ (メス) KAUM-I. 37628, 164.3 mm SL, Iou-jima

スズキ目 キンチャクダイ科 タテジマヤッコ属

タテジマヤッコ*Genicanthus lamarck* (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XV, 15-16; 臀鰭 III, 16-17; 胸鰭 17。眼前骨前縁に強い鋸歯がある。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は深く湾入し、両葉先端が著しく伸長する。

色彩 体の地色は白色で、背面に向かい灰色になる。眼の付近から始まり尾柄部に至る、黒色縦帯が4列ある。背鰭は黒色で、軟条部下半部は灰色。また、背鰭軟条部下半部に黒色点がわずかに散在する。臀鰭は白色で、黒色点が多数散在する。腹鰭は、雄では黒色だが、雌では白色。尾鰭は白色で黒色点が多数散在し、雄は両



タテジマヤッコ (メス) Iou-jima, 29 June 2010, Y. Matsuda

葉が白色で縁取られるが、雌は両葉が黒色で縁取られる。

分布 インド・太平洋にかけて分布する。国内では、八丈島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は雌性先熟の性転換をおこなう。

(岩坪洗樹)

Other collected specimen: NSMT-P 106084, 175.7 mm SL, Iou-jima.



■ ヤイトヤッコ (オス) KAUM-I. 37625, 161.9 mm SL, Iou-jima



■ ヤイトヤッコ (メス) Iou-jima, 16 May 2010, Y. Matsuda



■ ヤイトヤッコ (オス) lou-jima, 4 June 2008, S. Dewa

スズキ目 キンチャクダイ科 タテジマヤッコ属

ヤイトヤッコ

Genicanthus melanospilos (Bleeker, 1857)

形態 背鰭 XV, 16; 臀鰭 III, 18; 胸鰭 15-17; 側線有孔鱗 46-48。眼前骨前縁に強い鋸歯がある。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は深く湾入し、両葉先端が著しく伸長する。

色彩 頭部の地色は灰色で、上半部に細い褐色横帯が並ぶ。体側部の地色は灰色で、腹面に向かい白色になり、細い褐色横帯が並ぶ。尾柄は黄色。背鰭、臀鰭、および尾鰭は、複雑な形の細かい黄色斑



■ ヤイトヤッコ (オス) lou-jima, 28 June 2009, E. Shinkai

が密に散在する。雌の尾鰭は両葉が黒色で縁取られる。

分布 インド・西太平洋にかけて分布する。八丈島、小笠原諸島、静岡県以南の太平

洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は雌性先熟の性転換を行い、ハレムを形成する(島田, 2009)。(岩坪洗樹)



■ トサヤッコ (オス) KAUM-I. 37644, 164.2 mm SL, lou-jima



トサヤッコ (オス) Iou-jima, 9 Oct. 2010, E. Shinkai



トサヤッコ (メス) Iou-jima, 27 June 2010, Y. Matsuda

スズキ目 キンチャクダイ科 タテジマヤッコ属

トサヤッコ

Genicanthus semifasciatus
(Kamohara, 1934)

形態 背鰭 XV, 15-16; 臀鰭 III, 16-18;

胸鰭 16。眼前骨前縁に強い鋸歯がある。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は深く湾入し、両葉先端が著しく伸長する。

色彩 雄は頭部上半部が黄色で、この黄色域は体側中央部まで続く。頭部下半部

は灰色。体側面の地色は灰色で、上半部に細い黒色横帯が密に並ぶ。なお、この黒色横帯は黄色域に侵入しない。背鰭と尾鰭は灰色で、複雑な形をした黄色斑が密に散在する。臀鰭は灰色で、後半部に黄色斑がわずかに散在する。雌の尾鰭は両葉が黒色で縁取られ、この黒色帯は尾柄部

でつながる。

分布 北西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は雌性先熟の性転換を行い、少夫多妻の行動様式をもつ（島田, 2009）。

本種の新参異名であるクマドリヤッコ *Genicanthus fucosus* Yasuda & Tominaga, 1970 は、三宅島から得られた本種の雌の標本に基づき記載された。

（岩坪洗樹）

スズキ目 キンチャクダイ科 シマヤッコ属

スミレヤッコ

Paracentropyge venusta

(Yasuda & Tominaga, 1969)

形態 背鰭 XIV, 16；臀鰭 III, 15；胸鰭 16。眼前骨前縁に弱い鋸歯がある。間鰓蓋骨下縁は鋸歯状。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭後縁は丸い。

色彩 頭部上半部と体側面上半部は青色で、腹面にむかって黄色になる。背鰭始部



スミレヤッコ lou-jima, 7 July 2008, S. Dewa

付近から体側腹面に向かって幅広い黄色帯がある。体上半部が一樣に青色の個体も存在する。腹鰭は黄色。腹鰭前縁と臀鰭の縁辺は青色で縁取られる。背鰭と臀鰭の軟条部、および尾鰭に薄い青色の虫食い状模様がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋

沿岸、琉球列島に分布する。

備考 スミレヤッコは Yasuda & Tominaga (1969) によって相模湾から得られた1標本に基づき新種記載された。本種の種小名の *venusta* は「魅力的な」、「美しい」の意。硫黄島と竹島にも生息するが、標本は得られなかった。

（岩坪洗樹）

スズキ目 キンチャクダイ科 サザナミヤッコ属

タテジマキンチャクダイ

Pomacanthus imperator (Bloch, 1787)

形態 背鰭 XIII, 19–21；臀鰭 III, 18–21；胸鰭 19–20；側線有孔鱗 77–99。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。側線は完全に尾柄部まで達する。成魚の背鰭後端は後方へ伸長する。臀鰭後縁は丸い。

色彩 幼魚は体の地色が黒色で、尾柄を中心とした白色円状線が並ぶ。若魚では、この白色円状線は背鰭、臀鰭、尾鰭で網目状になる。白色円状線は成長にともない増加するが、成魚では消失する。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の幼魚は、サザナミヤッコ *Pomacanthus semicirculatus* (Cuvier, 1831) の幼魚に酷似する。しかし、タテジマキンチャクダイはサザナミヤッコと比較して、両眼を結ぶ白色線があること（サザナ



タテジマキンチャクダイ KAUM-I. 29480, 19.6 mm SL, lou-jima

ミヤッコでは吻端から項部にかけて白色線がある）から識別される。ハレムを形成する（島田, 2009）。

（岩坪洗樹）

Other collected specimens: KAUM-I. 29505, 63.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37656, 225.7 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37689, 111.3 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106093, 42.2 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106089, 180.0 mm SL, lou-jima.



タデジマキンチャクダイ KAUM-I. 32334, 67.7 mm SL, Iou-jima



タデジマキンチャクダイ Iou-jima, 16 May 2011, K. Furuta



タデジマキンチャクダイ Iou-jima, 25 July 2010, E. Shinkai



タテジマキンチャクダイ KAUM-I. 29557, 183.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 キンチャクダイ科 サザナミヤッコ属

サザナミヤッコ

Pomacanthus semicirculatus (Cuvier, 1831)

形態 背鰭 XIII, 20-23; 臀鰭 III, 18-21; 胸鰭 19-21; 側線有孔鱗 65-70。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。側線は完全に尾柄部まで達する。成魚の背鰭、臀鰭後端は後方へ伸長する。

色彩 幼魚は体の地色が黒色で、尾柄を中心とした白色円状線が並ぶ。この白色円状線は成長にともない増加するが、成魚では消失する。成魚は体の地色が黄緑色で、体後半部に向かって濃くなる。体側面に多数の黒色点が散在する。鰓蓋と胸鰭を除く各鰭は、青白色で縁取られる。胸鰭は黄色。背鰭、臀鰭、尾鰭には、多数の白色点が散在する。



サザナミヤッコ KAUM-I. 37747, 14.8 mm SL, Take-shima

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、壱岐島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 キンチャクダイ科の中では大型種で、沖縄では食用とされる(島田, 2009)。(岩坪洗樹)



■ サザナミヤッコ KAUM-I. 37781, 231.8 mm SL, Take-shima



■ サザナミヤッコ Iou-jima, 27 June 2009, S. Dewa



テングダイ KAUM-I. 37780, 242.5 mm SL, Take-shima

スズキ目 カワビシヤ科 テングダイ属

テングダイ

Evistias acutirostris
(Temminck & Schlegel, 1844)

形態 背鰭 IV, 26–29; 臀鰭 III, 13; 胸鰭 17–18; 側線有孔鱗数 62–65。体はよく側扁し、体高が高い。吻は前方へ強く突出する。下顎に短いひげが密生する。背鰭は著しく高い。背鰭棘は後方のものほど長くなり、第4棘が背鰭前縁の半分程度を占める。臀鰭棘は第1棘が短く、第2棘と第3棘がほぼ同長である。尾鰭は截形に近いが、わずかに湾入し、両葉先端が丸みを帯びる。

色彩 頭部は黒褐色。体側面は地色が乳白色で背側に向かって黄色がかかる。また、黒褐色の横帯が5本ある。背鰭と臀鰭の軟条部、および尾鰭は黄色。胸鰭は半透

明で黄色がかかる。腹鰭は黒色。

分布 朝鮮半島、済州島、台湾、ロードハウ島、ニュージーランド、およびハワイ諸島などの西部太平洋から中部太平洋にかけて分布する。国内では、八丈島、小笠原諸島、北海道から九州南岸にかけての太平洋沿岸、北海道から新潟県にかけての日本海沿岸、香川県、鹿児島県硫黄島、および沖縄県伊江島に分布する。

備考 本種は体がよく側扁し、体高が高いこと、下顎に短いひげが密生すること、背鰭が4棘であること、および臀鰭が3棘であることなどから同科のカワビシヤ *Histiopertus typus* Temminck & Schlegel, 1844 に似る。しかし、テングダイはカワビシヤと比較して、背鰭棘は第4棘がもっとも長く、背鰭前縁の半分程度を占めること（カワビシヤでは第3棘がもっとも長く、背鰭前縁の大部分を占める）、臀鰭棘は第2



テングダイ KAUM-I. 37780, 242.5 mm SL, Take-shima

棘と第3棘はほぼ同長であること（第2棘がもっとも長い）、体側面の横帯が明瞭であること（やや不明瞭）などから識別される。（岩坪洗樹）



コトヒキ KAUM-I. 29414, 109.4 mm SL, lou-jima



コトヒキ KAUM-I. 29413, 81.6 mm SL, lou-jima

スズキ目 シマイサキ科 コトヒキ属

コトヒキ

Terapon jarbua (Forsskål, 1775)

形態 背鰭 XI-XII, 9-11; 臀鰭 III, 7-10; 胸鰭 13-14; 側線有孔鱗数 75-100; 背鰭棘部中央下側線上方横列鱗数 13-17; 側線下方横列鱗数 19-24; 鰓耙数 6-8+13-16; 脊椎骨数 10+15。体はやや

側扁する。吻は鈍く、その上部はゆるく湾曲する。両顎の前部に犬歯がある。主鰓蓋骨には鋭い棘がある。背鰭棘条と軟条部の間は欠刻する。尾鰭後縁は浅く湾入し、葉部の先端は円い。

色彩 体側に弓形の暗色縦帯が3条並ぶ。尾鰭に3-5本の明瞭な暗色帯がある。

分布 インド・太平洋域。国内では沖縄を

含む南日本に分布する。

備考 全長 25 cm になる。内湾や沿岸浅所、河口域に多く、群れをつくって生息する。幼魚は河口の汽水域に多い。鰾で発音する。

(千葉 悟)

Other collected specimen: KAUM-I. 41014, 12.9 mm SL, lou-jima.



コトヒキ KAUM-I. 37847, 13.9 mm SL, Iou-jima



ギンユゴイ KAUM-I. 37809, 58.4 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ユゴイ科 ユゴイ属

ギンユゴイ

Kuhlia mugil (Forster, 1801)

形態 背鰭 X, 10-11; 臀鰭 III, 10-12; 胸鰭 13-15; 側線有孔鱗数 49-52; 鰓耙 9-11 + 24-27。体はよく側扁する。上顎は眼前縁直下に到達する。上下顎には絨毛状歯が生える。鰓蓋に2本の曲がある。前鰓蓋骨縁下部は鋸歯状。鱗は櫛鱗で、頬部、鰓蓋上に鱗がある。吻部、眼隔域、上顎には鱗はない。尾鰭は深く切れ込む。

色彩 体側上部は銀灰色で、体側下部は銀白色。背鰭鰭膜は透明で上部は黒色に縁取られる。胸鰭、腹鰭、臀鰭は透明。幼魚期尾鰭には上下対称の黒色帯がはいる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、九州北西岸、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本調査では硫黄島の水深1 m以下のタイドプールでみられた。同属他種とは側線鱗数が49-53、背鰭軟条数は通常

10、尾鰭両葉に黒色帯があることから容易に識別される。生活史の一部を淡水域または汽水域で過ごす本科魚類では珍しく生涯海で過ごす。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 37810, 74.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37811, 92.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37819, 65.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37820, 67.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37848, 71.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37849, 72.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37850, 71.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37851, 57.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37852, 65.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37853, 73.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37854, 59.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I.

37855, 61.4 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37856, 45.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37857, 48.6 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37858, 65.7 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37859, 59.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37860, 59.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37861, 66.6 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37862, 52.6 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37863, 56.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37864, 27.0 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37865, 39.1 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37866, 57.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37867, 50.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37868, 47.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37869, 78.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37870, 71.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37871, 76.6 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37872, 75.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37873, 75.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37874, 84.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37875, 85.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37876, 77.4 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37877, 99.2 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106129, 68.2 mm SL, lou-jima.



ギンユゴイ KAUM-I. 37809, 58.4 mm SL, lou-jima



イシダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 イシダイ科 イシダイ属

イシダイ

Oplegnathus fasciatus
(Temminck & Schlegel, 1844)

形態 背鰭 XI-XII, 17-18; 臀鰭 III, 12-13。体は側扁する。両顎の各歯は接合し強固な嘴を形成する。臀鰭棘は遊離棘にならない。背鰭と臀鰭の軟条部がのびる。

色彩 体に暗色横帯がある。暗色横帯は幼魚や若魚、雌では明瞭だが、老成した雄では不明瞭になり、口周辺が黒くなる。幼魚の白色部は黄色みを帯びる。

分布 琉球列島と小笠原諸島を含む日本各



イシダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

地から韓国、台湾に分布する。ハワイ諸島からの記録もあるが、無効分散と思われる。

備考 全長 80 cm になる。浅海の岩礁域に生息する。イシダイ科は 1 属 7 種からなり、日本には本種とイシガキダイ *Oplegnathus punctatus* (Temminck & Schlegel, 1844) が分布する。

幼魚は流れ藻について海面で生活し、動物プランクトンを食べる。全長数センチになると着底して底生動物食に変わる。この頃の幼魚や若魚は港やタイドプールなど岸よりの浅いところに多い。若魚は好奇心が強く、しばしばダイバーの体をついばんだり、マスクの前を泳いで邪魔になるほど近寄ってくる。老成した雄は暗色横帯が不明瞭になり、口周辺だけが黒くなることから「クチグロ」と呼ばれる。一方、近縁種のイシガキダイの老成した雄は口周辺が白くなることから「クチジロ」と呼ばれる。

(千葉 悟)



イシガキダイ Take-shima, 13 July 2007, S. Dewa

スズキ目 イシダイ科 イシダイ属

イシガキダイ

Oplegnathus punctatus

(Temminck & Schlegel, 1844)

形態 背鰭 XII, 15–16; 臀鰭 III, 13。体は側扁する。両顎の各歯は接合し強固な嘴を形成する。臀鰭棘は遊離棘にならない。背鰭と臀鰭の軟条部がのびる。

色彩 体に黒褐色斑点が密に分布する。黒褐色斑点は成長にともなって細くなる。黒褐色斑点は、幼魚や若魚、雌では明瞭だが、老成した雄では不明瞭になり、口周辺が白くなる。

分布 琉球列島と小笠原諸島を含む日本各地からグアム、南シナ海に分布する。ハワイ諸島からの記録もあるが、無効分散と思われる。

備考 全長 80 cm になる。浅海の岩礁域に生息する。イシダイ *Oplegnathus fasciatus* (Temminck & Schlegel, 1844) によく似ているが、体に黒褐色斑点が密に分布する（イシダイでは体に暗色横帯がある）、老成した雄の口周辺は白い（イシダイの老成した雄の口周辺は黒い）、背鰭軟条数が 15–16（イシダイでは 17–18）であることから識別される。イシダイとよく似た生態的特徴を示すが、イシダイよりも南方系で、琉球列島や小笠原諸島では本種の方が多く生息している。イシダイよりも成長が早く大型になる。成長につれて体の黒褐色斑点が小さく、数が多くなる。老成した雄では黒褐色斑点は消失する。硫黄島で



イシガキダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

採集された標準体長 332.6 mm の個体は、大きな斑紋から小さな斑点への移行段階にあり、口がやや白くなり始めている。イシダイに比べて体高が高く、口が尖る。

イシガキダイと近縁種のイシダイと交雑することが知られている。交雑個体は、両種の間期的な特徴を示し、イシダイの横帯の明色部にイシガキダイの黒褐色斑点が現れる。近畿大学が人工交配によって雑種個体を生産し「きんだい」と名付けているが、天然の交雑個体も各地から知られてい

る。交雑個体は全長 30 cm 程度の若い個体がほとんどで、稔性をもたない（子孫を残さない）と考えられている。

稀にシガテラ中毒が発生していることから大型の個体には注意する必要がある。硫黄島の岩礁域ではイシダイよりも多く観察される。襲われたときなどは「ゲーゲー」と大きな音を出して相手を威嚇する。

(千葉 悟)



■ イシガキダイ KAUM-I. 37841, 332.6 mm SL, Iou-jima



■ イシガキダイ KAUM-I. 37841, 332.6 mm SL, Iou-jima



■ ミナミゴンベ KAUM-I. 29584, 37.0 mm SL, Iou-jima



■ ミナミゴンベ Iou-jima, 11 Aug. 2011, Y. Matsuda

スズキ目 ゴンベ科 オキゴンベ属

ミナミゴンベ

Cirrhichthys aprinus (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 X, 12; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 i + 7 + vi; 側線鱗数 41-45; 側線上方鱗数 3; 鰓耙数 4-5 + 1 + 9-11。体は側扁する。前鰓蓋骨の全縁は鋸歯状。頬部には鱗が4列ある。眼隔域、眼隔域前方に鱗はない。背鰭棘先端には房状の皮弁がある。背鰭第1軟条は糸状に伸びる。胸鰭は臀鰭の

基部まで届く。胸鰭の不分枝軟条は分枝軟条より明らかに伸長する。腹鰭は総排泄孔まで到達する。尾鰭後縁は浅く切れ込む。

色彩 体側は白色。頭部、体側に多くの暗赤色斑がある。鰓蓋上部に白く縁取られた1黒色斑がある。眼下に暗赤色線がはいる。背鰭棘部鰭膜先端は黄色。背鰭には明瞭な赤色、黒色または褐色斑がはいる。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では八丈島、千葉県以南の太平洋沿岸、

鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭軟条数が12、眼隔域に鱗がない、頭部、体側に多くの暗赤色斑がある、背鰭には明瞭な赤色、黒色または褐色斑がある、尾鰭に明瞭な斑紋がないことなどから識別される。本調査では硫黄島の水深5-20 mの岩礁域でみられた。

(目黒昌利)



オキゴンベ KAUM-I. 29406, 101.3 mm SL, Iou-jima



オキゴンベ KAUM-I. 29407, 91.2 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ゴンベ科 オキゴンベ属

オキゴンベ

Cirrhitichthys aureus
(Temminck & Schlegel, 1842)

形態 背鰭 X, 12; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 i + 6-7 + vi-vii; 側線鱗数 40-44; 側線上方鱗数 3; 鰓耙数 4-6 + 1 + 9。体は側扁する。前鰓蓋骨の全縁は鋸歯状。頬部には鱗が 4 列ある。眼隔域に鱗はない、眼隔域前縁から吻部にかけて鱗がある。

背鰭棘先端には房状の皮弁がある。背鰭第 1 軟条は糸状に伸びる。胸鰭は臀鰭の基部まで届く。胸鰭の不分枝軟条は分枝軟条より明らかに伸長する。腹鰭は総排泄孔まで到達する。尾鰭後縁は浅く切れ込む。

色彩 体側はオレンジ色で、腹部は山吹色。背鰭と腹鰭は黄色で、尾鰭と臀鰭はオレンジ色。体側や背鰭には不明瞭な褐色斑がはいる。

分布 日本、済州島、台湾、中国沿岸、フィリピン諸島およびバリ島に分布する。国内

では千葉県以南の太平洋沿岸、新潟県佐渡島以南の日本海沿岸、鹿児島県硫黄島、屋久島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭軟条数が12、眼隔域に鱗がない、体側に不明瞭な暗赤色斑がある、背鰭や尾鰭に

不明瞭な斑紋がないことなどから識別される。本調査では硫黄島の水深5-10mの岩礁域でみられた。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 29408, 107.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29409, 94.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29410, 90.8 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106124, 83.7 mm SL, Iou-jima.



■ イソゴンベ KAUM-I. 37605, 71.3 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ゴンベ科 イソゴンベ属

イソゴンベ

Cirrhitus pinnulatus (Forster, 1801)

形態 背鰭 X, 11; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 i + 6 + vii; 側線鱗数 39-44; 側線上方鱗数 4; 鰓耙数 5-7 + 1 + 11-13。体は側扁する。前鰓蓋骨の縁は細かい鋸歯状。頬部には細かい鱗がある。眼隔域に鱗がある。背鰭棘先端には房状の皮弁がある。胸鰭は臀鰭の基部まで届かない。腹鰭は総排泄

孔まで到達する。尾鰭後縁は円い。

色彩 体側は褐色で、腹部は薄い灰色。背鰭と胸鰭、腹鰭軟条は朱色、背鰭棘間の鰭膜には赤褐色の不規則な斑がはいる。背鰭軟条部鰭膜の基部は褐色。臀鰭には褐色斑がはいる。頭部には黄褐色斑がある。体側には茶褐色斑が多数はいる。またブロック状の白斑が点在する。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、伊豆半島、鹿児

島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同科他種とは背鰭軟条数が11であること、眼隔域に鱗があること、側線鱗数が44以下であること、主鰓蓋上部と尾柄部に眼状斑がないことなどから識別される。本調査では硫黄島の潮あたりの良い潮下帯水深5m以浅の岩礁域でよくみられた。

(目黒昌利)

スズキ目 ゴンベ科 クダゴンベ属

クダゴンベ

Oxycirrhites typus Bleeker, 1857

形態 背鰭 X, 13; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 ii + 6-7 + v-vi; 側線鱗数 51-53; 側線上方鱗数 3; 鰓耙数 5 + 1 + 11-12。体は側扁する。吻は長く伸長する。前鰓蓋骨の縁は鋸歯状で上部は粗く、下部は細かい。頬部には鱗が4列ある。眼隔域には鱗がない。背鰭棘先端には房状の皮弁がある。胸鰭の長さは様々では臀鰭の基部を越えるものと越えないものがある。尾鰭後縁は浅く切れ込む。

色彩 体は白色で、体側には吻端から3本の赤色縦帯と7-10本の赤色横帯が格子状にはいる。また、3本の赤色縦帯のそれぞれの下には赤色点が並ぶ。背鰭軟条部は半透明または透明で、不規則な赤色線がはいる。胸鰭、尾鰭、臀鰭は半透明の赤色。腹鰭は透明。

分布 インド・太平洋に分布し、東太平洋の熱帯域にも分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、琉球列島に分布する。

備考 本種は水深30m以深でよくみられ、ヤギ類やウミトサカ類の周辺に多い。1属



■ クダゴンベ Iou-jima, 7 July 2008, S. Dewa

1種。他属からは吻が長く伸長することで容易に識別される。

(目黒昌利)



クダゴンベ Iou-jima, 21 Aug. 2011, Y. Matsuda



クダゴンベ Iou-jima, 9 Aug. 2011, K. Furuta



ミギマキ KAUM-I. 37634, 291.2 mm SL, Iou-jima

スズキ目 タカノハダイ科 タカノハダイ属

ミギマキ*Cheilodactylus zebra* Döderlein, 1883**形態** 背鰭 XVII, 32-34; 臀鰭 III, 8; 胸

鰭 14; 側線鱗 63-66。体は側扁する。口は前下方を向き、厚い唇をもつ。胸鰭下部の軟条は伸長する。

色彩 体側は黄色がかり、腹部は白色。唇は赤い。吻部から尾柄部にかけて8本

の黒色帯が斜走する。尾鰭上葉は黄色。

分布 本州中部から南シナ海にかけて分布する。

(田代郷国・千葉 悟)

Other collected specimen: NSMT-P 106168, 295.4 mm SL, Take-shima.



タカノハダイ KAUM-I. 37906, 321.3 mm SL, Showaiou-jima

スズキ目 タカノハダイ科 タカノハダイ属

タカノハダイ*Cheilodactylus zonatus* Cuvier, 1830

形態 背鰭 XVII, 30-34; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 14; 側線鱗 55-62。体は側扁する。口

は前下方を向き、厚い唇をもつ。胸鰭下部の軟条は伸長する。

色彩 生鮮時、体は銀白色。吻部から尾柄部にかけて9-10本の茶褐色帯が斜走する。尾鰭に多数の白色点が散在する。

分布 日本から台湾にかけて分布する。国内では伊豆諸島、南日本沿岸、琉球列島の岩礁域から知られる。

(田代郷国・千葉 悟)

Other collected specimen: NSMT-P 106148, 361.1 mm SL, Iou-jima.



シマスズメダイ KAUM-I. 37882, 17.2 mm SL, Iou-jima

スズキ目 スズメダイ科 オヤビツチャ属

シマスズメダイ

Abudefduf sordidus (Forsskal, 1775)

形態 背鰭 XIII, 14–16; 臀鰭 II, 13–16; 胸鰭 17–20; 側線有孔鱗 21–23; 鰓耙 20–28。体高は高く、体は卵円形に近い。涙骨系は鱗に被われない。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨後縁は円滑。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端がやや丸い。

スズキ目 スズメダイ科 オヤビツチャ属

オヤビツチャ

Abudefduf vaigiensis (Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 XIII, 11–14; 臀鰭 II, 11–13; 胸鰭 16–20; 側線有孔鱗 19–23; 鰓耙 23–33。体高がやや高く、体は円形に近い。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨後縁は円滑。眼下骨上に鱗列を有する。

色彩 体の地色は銀白色。体側には幅が体側鱗 3–4 枚分ほどの明瞭な 6 本の黒色横帯がはしる。胸鰭基底上端に小黒色斑がある。尾柄背部に明瞭な黒色斑がある。

分布 紅海を含むインド洋から中・西部太平洋に広く分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の南日本に分布する。

備考 水深 1–3 m の岩礁域やサンゴ礁に生息し、周年縄張りをもつ。体側の黒斑や横帯は幼魚期ほど明瞭。本種の幼魚は、

同属他種の幼魚とともに潮だまりなどでよくみられる。

(西山 肇)



シマスズメダイ Showalou-jima, 14 Aug. 2008, S. Dewa

背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は尖る。臀鰭軟条部後縁は尖る。尾鰭は二叉し、両葉先端がやや丸い。

色彩 体の地色は銀白色または青白色で、腹方ほど白味が強くなる。体側背面は黄色い。体側には幅が体側鱗 3–4 枚分ほどの明瞭な 5 本の黒色横帯がはしる。

分布 紅海を含むインド洋から中・西部太平洋にかけて広く分布する。国内では、小

笠原、千葉県以南の南日本に分布する。

備考 岩礁域やサンゴ礁域で普通にみられる種で全長 18 cm に達する。幼魚は潮間帯や漁港内の水面付近でみられる。

(西山 肇)

Other collected specimens: KAUM-I. 29594, 128.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29595, 140.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29596, 83.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32325, 126.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32329, 140.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37632, 126.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37998, 26.3 mm SL, Take-shima.



オヤビッチャ KAUM-I. 29593, 128.0 mm SL, Iou-jima



オヤビッチャ Iou-jima, 21 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 スズメダイ科 クラカオスズメダイ属

ナミスズメダイ

Amblyglyphidodon leucogaster (Bleeker, 1847)

形態 背鰭 XII–XIII, 12–13 ; 臀鰭 II, 12–14 ; 胸鰭 16–17 ; 側線有孔鱗 14–17 ; 鰓耙 25–29。体高が高く、体は卵形に近い。前鰓蓋骨後縁は円滑。涙骨系に鱗列を有する。両顎には、柄部がやや細長い切歯状歯が1列並ぶ。眼隔域はやや突出する。背鰭棘部の鰭膜は深く切れ込み、軟条部後縁は尖る。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端がやや尖る。

色彩 体は体側腹面の黄色域を除き、概ね灰褐色。胸鰭基底上端に瞳孔大の黒色斑がある。背鰭、臀鰭は軟条部後方の透明域を除き、濃褐色または黒色。腹鰭は黄色。尾鰭は両葉に基底から先端へむかう黒色帯がある。

分布 東インド洋から西太平洋にかけて分



ナミスズメダイ Iou-jima, 8 July 2008, S. Dewa

布する。国内では、伊豆諸島、高知県以南に分布する。

備考 水深 2–45 m の珊瑚礁域に群れで

みられる。硫黄島では標本は採集されなかったが、水中写真により本種の生息が確認された。

(西山 肇)



クマノミ KAUM-I. 29666, 97.3 mm SL, Take-shima

スズキ目 スズメダイ科 クマノミ属

クマノミ

Amphiprion clarkii (Bennett, 1830)

形態 背鰭 X–XI, 14–17 ; 臀鰭 II, 12–15 ;

胸鰭 18–21 ; 腹鰭 I, 5 ; 鰓耙 18–21。体は卵円形でよく側扁し、体高は背鰭始部で最大となる。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下鰓蓋骨の縁にそれぞれ長い棘が並ぶ。

色彩 幼魚は、体の地色が橙黄色で、鰓

蓋骨上、体側面中央、および尾柄に黒く縁取られた白色横帯がある。成魚では、体の地色が黒色で、鰓蓋骨上、体側面中央、および尾柄に白色横帯がある。胸鰭は橙黄色。尾鰭は雄が橙黄色で、雌が乳白色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州北西岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は雄先成熟型の性転換を行う。サンゴイソギンチャクなどと共生し、イソギンチャクを隠れ家として利用する。通常、1組の雌雄と数尾の幼魚または若魚が一緒に存在する。イソギンチャクの触手の刺胞毒に対する免疫性は生まれつきあるのではなく、イソギンチャクと触れ合うことにより徐々に備わっていく。本種を含むクマノミ亜科魚類 Amphiprioninae は特異な色彩や小型であること、飼育が容易であることから、観賞魚として利用される。

(岩坪洗樹)



クマノミ KAUM-I. 29532, 44.5 mm SL, Iou-jima



コガネスズメダイ KAUM-I. 29605, 143.7 mm SL, Iou-jima

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

コガネスズメダイ

Chromis albicauda Allen & Erdmann, 2009

形態 背鰭 XIII, 12; 臀鰭 II, 12; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 6+7 + 16-19。体は

卵円形でよく側扁する。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部は櫛鱗で覆わる。眼窩前鱗列が4-5、眼窩下鱗列が1-2である。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭は後縁が丸く、軟条長が第6軟条で最大となる。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各3本ある。尾鰭

は二分する。

色彩 生鮮時は、頭部と体側面が黄色で背面向かって暗褐色がかかる。背鰭棘条部は暗褐色がかかり、先端は赤色がかかる。胸鰭基底上方に不明瞭な褐色斑がある。臀鰭、腹鰭は黄色。肛門は黒色。尾鰭は生

時白色であるが、死後あるいは環境や体調によって黄色になることもある。

分布 国外ではインドネシアからのみ記録されている。国内では静岡県、高知県、鹿

児島県、および沖縄県に分布する。

備考 国外ではタイ産地のインドネシアからのみ記録されているが、最近までコガネスズメダイとヒマワリスズメダイ *Chromis*

analis (Cuvier, 1830) は混同されていたため、前者は西太平洋に広く分布すると考えられる。

(岩坪洗樹)

Other collected specimens: KAUM-I. 37610, 141.9 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106949, 15.8 mm SL, Iou-jima.



シロボシスズメダイ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

シロボシスズメダイ

Chromis albomaculata Kamohara, 1960

形態 背鰭 XIV, 12-13; 臀鰭 II, 12-13; 胸鰭 18-19; 側線有孔鱗 16-17; 鰓耙 6-7 + 18-20。体は楕円形で、よく側扁する。眼下骨系の縁辺は円滑。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端が尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各3本ある。

色彩 成魚の体色は一律に濃灰色。背鰭は軟条部後縁の透明域を除き、濃灰色。胸鰭は透明。腹鰭は濃灰色。臀鰭と尾鰭は後縁の透明域を除き、濃灰色。幼魚の体色は一律に青色。

分布 日本と台湾に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、琉球列島に生息する。

備考 水深 12-40 m の環礁斜面に、単独もしくは群れを形成し遊泳する。最大体長



シロボシスズメダイ Iou-jima, 9 July 2009, S. Dewa

は 15 cm に達し、スズメダイ属の中では大型種。6 月から 9 月にかけて繁殖期を迎

る。硫黄島では標本は採集されなかったが、水中写真により本種の生息が確認された。

(西山 肇)



ヒマワリスズメダイ KAUM-I. 29566, 116.7 mm SL, Iou-jima

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

ヒマワリスズメダイ

Chromis analis (Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XIII, 12; 臀鰭 II, 10-12; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 6-7 + 18-19。体は卵円形でよく側扁する。眼窩前鱗列が1-2、眼窩下鱗列が1である。前鰓蓋骨、主鰓蓋骨、間鰓蓋骨および下鰓蓋骨の後縁は滑らかである。体側鱗は楕円形。体高は背鰭始部で最大となる。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭軟条長は第3軟条が最長。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各3本ある。尾鰭は二又し、両葉先端が尖る。

色彩 生鮮時は、頭部と体側面が黄色で背面に向かって暗褐色がかかる。胸鰭基底上方に褐色斑がある。背鰭棘条部は緑みをおび、先端は赤色がかかる。臀鰭棘は濃い橙色。背鰭・臀鰭軟条部は鰭膜が透明あるいは半透明である。腹鰭は黄色で後縁に向かって白くなる。尾鰭は黄色で後縁に向かって透明になる。

分布 国外ではインドネシアのプニダ島、ミクロネシア（マーシャル諸島を除く）、フィジー、オーストラリアのグレートバリアリーフなどの西部太平洋に広く分布する。国内



ヒマワリスズメダイ Iou-jima, 23 July 2011, Y. Matsuda

では鹿児島県と沖縄県に分布する。

備考 本種は鹿児島県硫黄島から採集された標本（上写真）に基づき2010年に標準和名ヒマワリスズメダイが提唱された（岩坪・本村, 2010）。ヒマワリスズメダイはコ

ガネスズメダイ *Chromis albicauda* Allen & Erdmann, 2009 にきわめてよく似るが、胸鰭基底上方の褐色斑が大きく明瞭（コガネスズメダイでは小さく不明瞭）、涙骨上の鱗列が1-2（4-5）、眼下骨上の鱗列が1（1-2）、肛門が体側面と同様に黄色であ



■ ヒマワリスズメダイ lou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda



■ ヒマワリスズメダイ lou-jima, 11 May 2010, K. Matsuno



■ ヒマワリスズメダイ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

る（黒色）などから容易に識別される。標準和名ヒマワリスズメダイは、体色が黄色いことと丸みを帯びた体形がヒマワリの花を連想させることになむ。

（岩坪洗樹）

Other collected specimen: KAUM-I. 29567, 95.5 mm SL, lou-jima.

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

ヒレグロスズメダイ

Chromis atripes Fowler & Bean, 1928



■ ヒマワリスズメダイ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

形態 背鰭 XII, 12-14 ; 臀鰭 II, 12-14 ; 胸鰭 15-17 ; 腹鰭 I, 5 ; 鰓耙 6-9 + 18-22。体は卵円形でよく側扁する。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第 1 軟条は糸状に伸長する。背

鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭・臀鰭の後縁は尖る。尾鰭は二叉し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各 2 本ある。



ヒレグロスズメダイ KAUM-I. 31624, 43.5 mm SL, Iou-jima



ヒレグロスズメダイ Iou-jima, 19 Sept. 2010, Y. Matsuda

色彩 体の地色は褐色で、胸鰭基底の上3分の2程度を覆う黒色斑がある。背鰭、腹鰭、および臀鰭は外縁に向かって黒くなる。背鰭と臀鰭の軟条部後半は黄色。背鰭基底後端に黒色斑がある。尾鰭は黄色。

分布 西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種には最初、和名ネットイスマダイが適用されていたが、この和名は既に *Pomacentrus moluccensis* Bleeker, 1853 に対して適用されていた。そのため、*C. atripes* には益田ほか (1975) によってヒレグロスズメダイが提唱された。

(岩坪洗樹)

Other collected specimen: KAUM-I. 31626, 20.9 mm SL, Iou-jima.



ヒレグロスズメダイ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



アマミスズメダイ lou-jima, 24 July 2010, Y. Matsuda



アマミスズメダイ lou-jima, 15 May 2010, Y. Matsuda

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

アマミスズメダイ

Chromis chrysur (Bliss, 1883)

形態 背鰭 XIII, 14-15; 臀鰭 II, 10-14; 胸鰭 18-19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 8-10 + 21-23。体は円形に近い卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭後縁は尖る。尾鰭は二又し、両葉先端が尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。



アマミスズメダイ KAUM-I. 30603, 26.0 mm SL, lou-jima

色彩 幼魚の色彩は、頭部、体側腹面、および尾柄から後ろは灰色。腹面を除く体側面と背鰭は褐色で、胸鰭基底に黒色斑がある。腹鰭と臀鰭は青白色。成魚では、頭部と体側面の地色は一律に黒く、体側面の各鱗は、中央部が黄みをおびる。尾柄から後ろと背鰭軟条部は白色である。尾鰭は、両葉前縁が黒色で縁取られる。

分布 東インドと西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 アマミスズメダイの成魚はシコクスズメダイ *Chromis margaritifer* Fowler, 1946、フカミスズメダイ *C. leucura* Gilbert, 1905

に似る。しかし、アマミスズメダイはそれらの種に比べ、大型で体高が高いこと（シコクスズメダイ、フカミスズメダイは小型で体高が低い）、体側面鱗の中央部が黄みをおびること（一律に黒色）から識別される。
(岩坪洗樹)

Other collected specimens: KAUM-I. 30535, 25.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37776, 28.1 mm SL, Take-shima.



デルタスズメダイ Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

デルタスズメダイ

Chromis delta Randall, 1988

形態 背鰭 XII, 12–14; 臀鰭 II, 12–14; 胸鰭 17–19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 6 + 20。体は卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。体部はすべて櫛鱗。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭・臀鰭後縁がやや尖る。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。尾鰭は二又し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 体全体はほぼ一様に青色がかった黒色で、尾柄から後方が白色。胸鰭基底を覆う黒色斑がある。

分布 東インドと西太平洋に分布する。国内では、伊豆大島、大隅諸島、および沖縄諸島以南の琉球列島に分布する。

備考 デルタスズメダイはシコクスズメダイ *Chromis margaritifer* Fowler, 1946、オナガスズメダイ *C. alleni* Randall, Ida & Moyer, 1981 に似る。しかし、デルタスズメダイはシコクスズメダイと比べ、尾柄から後方が白色であること（シコクスズメダイでは背鰭軟条後半部から後ろが白色）から識別される。また、デルタスズメダイはオナガスズメダイと比べ、側線有孔鱗数が12–14（オナガスズメダイでは15–17）、体色が黒色であること（茶色）から識別される。本種は鹿児島県三島村でも生息しているが、標本は得られなかった。

(岩坪洗樹)



デルタスズメダイ Iou-jima, 25 July 2010, Y. Matsuda



ヒスイスズメダイ KAUM-I. 37908, 84.2 mm SL, Iou-jima

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

ヒスイスズメダイ

Chromis earina Pyle, Earle & Greene, 2008

形態 背鰭 XII-XIII, 11-13; 臀鰭 II, 12; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 13-16; 鰓耙 6-8 + 18-20。体は楕円形でよく側扁する。体高は背鰭第4棘基部で最大であり、体長の2/3程。吻は眼径より短く、吻長は眼径の2/3以下。眼隔域はやや突出する。前鼻孔は円形で、ごく短い鼻管を形成する。後鼻孔は前鼻孔よりも著しく小さく、前鼻孔の斜め上後方、眼窩縁付近に位置する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下にわずかに達する。涙骨の遊離縁は瞳孔の後縁下にわずかに達しない。前鰓蓋骨の縁辺は円滑。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨および下鰓蓋骨の縁辺は円滑。体側部は櫛鱗で覆われ、背鰭と臀鰭の基底は小櫛鱗で覆われる。涙骨上および眼下骨上の鱗は1列。背鰭棘部の鰭膜は少し切れ込み、軟条部後縁はやや尖り、わずかに糸状に伸長する。腹鰭第1軟条は糸状に長く伸長し、臀鰭起部を越える。臀鰭軟条部後縁は尖らない。尾鰭は深く二又し、両

葉先端は糸状にわずかに伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各3本ある。

色彩 体全体が概ね淡青色または淡灰色であり、背面側ほど色合いが濃くなる。体側鱗は胸部と腹部を除き後縁は濃灰色に縁取られ、網目模様を呈する。体側中央後方付近、第12-13側線有孔鱗直下に幅が体側鱗3-4枚分ほどの不明瞭な白色横帯がある。虹彩上縁に瞳孔大の青色域がある。胸鰭基底上端に明瞭な黒小斑を有する。胸部から尾柄部にかけての体側側に、6-7本の不明瞭な細い淡青色縦帯がある。背鰭棘部は淡灰色。背鰭軟条部は、鰭膜下部1/3-1/2程が淡灰色で、それより上部ではほぼ透明であり、鰭条は淡灰色。腹鰭は全体が淡灰色。臀鰭は後縁の透明部を除き淡灰色。尾鰭は後縁の透明部を除き淡灰色。胸鰭は全体がほぼ透明で、鰭条はわずかに淡灰色がかかる。

分布 パプア・ニューギニア、バヌアツ、フィジー、ミクロネシアのポロワットとバラオおよびインドネシアのミソール島とバリ島に分布する。国内では硫黄島からのみ記録されている。



ヒスイスズメダイ Iou-jima, 9 Aug. 2011, K. Furuta



ヒスイスズメダイ Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

備考 本種は Pyle et al. (2008) によって新種記載され、これまでに左記海域にのみ分布することが知られていた。最近、西山ほか (2012) は、硫黄島で得られた標本に基づき本種を日本初記録として報告し、新標準和名「ヒスイスズメダイ」を提唱した。同時に、硫黄島は本種の分布の北限記録であり、従来の北限記録であったパラオから約 2,600 km 北に更新された。

ヒスイスズメダイは、同属のアルファスズメダイ *Chromis alpha* Randall, 1988 と形態・色彩的に酷似する。しかし、本種はアルファスズメダイと比較して、鰓耙数が 25-28 (アルファスズメダイでは 27-31)、生時、体全体が一様に淡青色あるいは淡灰色 (体前方鱗は褐色に縁取られた黄色)、体側中央後方付近に不明瞭な淡青色横帯がある (有色横帯はない)、眼がやや大きく、眼径が体長の 14.0-16.9% (やや小さく体長の 10.1-12.1%) などの特徴により識別される。

(西山 肇)



ヒスイスズメダイ Iou-jima, 7 Nov. 2010, Y. Matsuda



タイワンスズメダイ KAUM-I. 29565, 37.7 mm SL, Iou-jima



タイワンスズメダイ KAUM-I. 29565, 37.7 mm SL, Iou-jima



■ タイワンスズメダイ lou-jima, 24 July 2011, Y. Matsuda

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

タイワンスズメダイ

Chromis elerae Fowler & Bean, 1928

形態 背鰭 XII, 11-12; 臀鰭 II, 10-11; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 7-9 + 19-22。体は卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。前鰓蓋骨縁に鋸歯がある。体部はすべて櫛鱗。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭後縁がやや尖る。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。尾鰭は二又し、両葉先端が尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 体全体がほぼ一様に紫色で、背鰭軟条基底と臀鰭軟条基底が黄白色。幼魚

の体は青みが強い。

分布 インド洋と南・西太平洋に分布する。国内では、鹿児島県硫黄島と沖縄以南の琉球列島に分布する。

備考 これまで本種は、標本に基づく分布の北限が沖縄島とされていたが、本報告に

よって北限を 450 km 更新したことになる。採集された個体は、体長から幼魚～若魚と思われ、水深 15 m 付近に単独で遊泳していた。

(岩坪洸樹・西山 肇)

Other collected specimens: KAUM-I. 37963, 38.6 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106151, 43.8 mm SL, lou-jima.



■ キホンスズメダイ KAUM-I. 29581, 19.4 mm SL, lou-jima



■ キホンスズメダイ KAUM-I. 29581, 19.4 mm SL, lou-jima

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

キホシスズメダイ

Chromis flavomaculata Kamohara, 1960

形態 背鰭 XII–XIV, 11–13; 臀鰭 II, 10–12; 胸鰭 17–21; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 7–10 + 20–24。体は卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭は後縁

が丸く、軟条長は第5–6軟条が最長である。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。尾鰭は二叉し、両葉先端が尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 頭部と体側面は緑色がかった褐色で、腹面にむかって白くなる。胸鰭基底を覆う黒色斑がある。背鰭は棘条部が緑色がかった褐色で、軟条部が透明。臀鰭は前半部が黒色で、後半部が白色。尾鰭は黄色。

分布 西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 キホシスズメダイは反赤道性分布を示す。南北両半球の個体群の分類学的な検討が必要である。

(岩坪洗樹)



マツバスズメダイ KAUM-I. 37784, 99.7 mm SL, Take-shima



マツバスズメダイ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

マツバスズメダイ

Chromis fumea (Tanaka, 1917)

形態 背鰭 XIII–XIV, 10–12; 臀鰭 II, 9–10; 胸鰭 17–19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 6–9 + 19–24。体は卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。前鰓蓋骨縁は鋸歯状。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭後縁は尖る。尾鰭は二叉し、両葉先端が尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 頭部と体側面は一樣に褐色で、腹面

にむかってやや白色がかかる。胸鰭基底上方に小黒色斑がある。背鰭軟条部が黒色で、背鰭基底後端に白色斑がある。尾鰭は両葉に基底から先端へむかう黒色帯がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では、伊豆諸島、秋田県以南の日本海沿岸、千葉県以南の太平洋沿岸、沖縄諸島に分布する。

備考 本種はスズメダイ *Chromis notata* (Temminck & Schlegel, 1844) によく似る。しかし、マツバスズメダイはスズメダイと比較して、スズメダイ属としては例外的に前鰓蓋骨縁に鋸歯があること（スズメダイで



■ マツバスズメダイ KAUM-I. 31658, 20.9 mm SL, Iou-jima

は円滑)、胸鰭基底上方に小黒色斑があること（胸鰭基底全体を覆う黒色斑がある）から識別される。

(岩坪洗樹)

Other collected specimen: KAUM-I. 37782, 95.4 mm SL, Take-shima.



■ ササスズメダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

ササスズメダイ

Chromis lepidolepis Bleeker, 1877

形態 背鰭 XII, 11–13; 臀鰭 II, 11–12; 胸鰭 17–19; 側線有孔鱗 15–18; 鰓耙 27–30。体は卵円形でよく側扁する。眼下骨系の縁辺は円滑。前鰓蓋骨縁辺は鋸歯状。眼隔域はやや突出する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下を越える。眼上部から後頭部にかけての各鱗に付属小鱗がある。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端がやや尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 体は概ね緑味を帯びた淡い灰色で、腹方ほど色合いは淡くなり、白色に近づく。眼に瞳孔大の黒色縦線がはしる。尾鰭は両葉に基底から先端へむかう濃灰色帯がはしり、先端は黒色。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、三浦半島以南の南日本に分布する。

備考 水深 2–20 m の岩礁域やミドリイシ類などのサンゴが群生している場所で、小さな群れを形成し生息している。硫黄島では標本は採集されなかったが、水中写真により本種の生息が確認された。

(西山 肇)



■ ササスズメダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



シコクスズメダイ KAUM-I. 29755, 36.5 mm SL, Take-shima

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

シコクスズメダイ

Chromis margaritifer Fowler, 1946

形態 背鰭 XII, 12–13; 臀鰭 II, 11–12; 胸鰭 16–18; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 7–10 + 19–21。体は卵円形でよく側扁する。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭・臀鰭後縁は尖る。尾鰭は二又し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、

上下各2本ある。

色彩 頭部と体側は一律に黒く、胸鰭基底全体を覆う体色より濃い黒色斑がある。尾柄から後ろ、背鰭軟条、および臀鰭軟条後半部は白色。

分布 東インドと太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は日本国内において、益田ほ

か(1975)による報告までインド洋に分布する *Chromis dimidiatus* (Klunzinger, 1871) とされていた。

(岩坪洗樹)

Other collected specimens: KAUM-I. 29479, 18.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30045, 27.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30060, 42.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30536, 47.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30545, 40.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 30546, 28.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 31628, 41.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37638, 47.4 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106137, 53.8 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106185, 14.5 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106932, 22.5 mm SL, lou-jima.

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

オビトウカイスズメダイ

Chromis okamurai

Yamakawa & Randall, 1989

形態 背鰭 XIV, 13; 臀鰭 II, 12; 胸鰭 18–19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 8 + 19。体は卵円形でよく側扁する。後鼻孔は小さく、円形。体部はすべて櫛鱗。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 体の地色は白色で、吻端から背鰭軟条部基底にかけてと胸鰭基底から尾柄にかけて褐色帯がある。項部から背鰭にかけてと尾鰭は黄色。腹鰭と臀鰭は白色。

分布 日本と台湾に分布する。国内では、伊豆半島東岸、鹿児島県硫黄島、久米島、沖縄舟状海盆に分布する。

備考 オビトウカイスズメダイはトウカイスズメダイ *Chromis mirationis* Tanaka, 1917 に似る。しかし、オビトウカイスズメダイはトウカイスズメダイと比べ、後鼻孔は小さく、円形であること(トウカイスズメダイでは大きく楕円形)、体側面の褐色縦帯が2本あること(1本)などから識別される。

本種は鹿児島県三島村でも生息しているが、標本は得られなかった。

(岩坪洗樹)



オビトウカイスズメダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



オビトウカイスズメダイ Take-shima, 10 Aug. 2011, K. Furuta



マルスズメダイ Iou-jima, 7 July 2008, S. Dewa



マルスズメダイ KAUM-I. 29649, 64.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

マルスズメダイ

Chromis ovatiformis Fowler, 1946

形態 背鰭 XII-XIII, 12-13; 臀鰭 II, 12-14; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; ; 鰓耙 6-9 + 20-23。体は円形に近い卵円形でよく側扁する。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭・臀鰭の後縁は糸状に伸長する。尾鰭は二叉し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 尾柄から後ろ、背鰭軟条後半、および臀鰭軟条後半は白色。胸鰭を除く各鰭の外縁は青色。他の体部は黄褐色。

分布 モルジブ諸島と西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は尾柄が白色であることで、シコクスズメダイ *Chromis margaritifer* Fowler, 1946 やフカミスズメダイ *C. leucura* Gilbert, 1905 などと似る。しかしマルスズメダイは体が黄褐色であること（シコクスズメダイ、フカミスズメダイでは黒色）で容易に識別される。

(岩坪洗樹)



マルスズメダイ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



タカサゴスズメダイ KAUM-I. 29597, 80.7 mm SL, lou-jima

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

タカサゴスズメダイ

Chromis weberi Fowler & Bean, 1928

形態 背鰭 XIII, 11; 臀鰭 II, 11-12; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 8-9 + 19-22。体は卵円形でよく側扁する。吻端はやや尖る。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭後縁はやや尖る。尾鰭は二分し、両葉先端が尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各3本ある。

色彩 体全体が一様に黒褐色で、前鰓蓋骨後縁と主鰓蓋骨後縁上半分に黒色帯がある。尾鰭両葉先端に黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では、伊豆・小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

モンスズメダイ

Chromis xanthura (Bleeker, 1854)

形態 背鰭 XIII, 9-11; 臀鰭 II, 10-12; 胸鰭 18-20; 側線有孔鱗数 16-19; 鰓耙数



タカサゴスズメダイ KAUM-I. 29597, 80.7 mm SL, lou-jima

備考 本種は、モンスズメダイ *Chromis xanthura* (Bleeker, 1854) に似るが、尾鰭上下両葉先端に黒色斑があること（モンスズメダイにはない）、背鰭最長軟条が体長

の18.5-23.4% (24.1-40.7%) であることから識別される。

(岩坪洗樹)

Other collected specimens: KAUM-I. 30604, 22.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 32326, 94.5 mm SL, lou-jima.

5-8 + 18-23。体は楕円形でよく側扁し、体高は背鰭第2-4棘基部で最大。眼隔域はやや突出する。前鼻孔は円形で、ごく短い鼻管を形成する。後鼻孔は前鼻孔よりも著しく小さく楕円形で、前鼻孔の斜め上後方、眼窩縁付近に位置する。口は端位で、口裂は斜行し、主上顎骨後端は瞳孔前縁

直下をわずかに越える。涙骨の遊離縁は瞳孔中央直下に達する。前鰓蓋骨の縁辺は円滑。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨および下鰓蓋骨の縁辺は円滑。体側部は櫛鱗で覆われ、腹鰭を除く各鰭の基底は小櫛鱗で覆われる。頭長被鱗域の前方は前鼻孔に達するが、吻端と鼻孔周辺部には鱗がない。



モンスズメダイ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

涙骨上は2-3列の鱗で覆われる。眼下骨上は1½列の鱗で覆われる。頬部は4列の鱗で覆われる。側線は不完全で、背鰭第3-4軟条基部直下で欠如する。背鰭起部は第3-4側線有孔鱗直上に位置する。背鰭棘部の鱗膜は少し切れ込む。背鰭軟条部の輪郭は中央の軟条先端付近で尖り、わずかに伸長する。胸鰭鱗条先端は背鰭第10-11棘基部直下まで達し、最上部と最下部のそれぞれ1-2軟条は不分枝である。腹鰭起部は第4-5側線有孔鱗直上に位置する。腹鰭は第1軟条が最長で、その先端は糸状に伸長し、鰭を倒すと肛門を越える。臀鰭起部は第14-15側線有孔鱗直下に位置する。臀鰭軟条部の輪郭は中央でやや尖り、最終軟条の先端付近でやや角張る。尾鰭は深く二又し、上葉と下葉の先端は糸状に伸長する。尾鰭上葉は下葉よりもわずかに長い。

色彩 頭部から尾柄前部にかけて黒みが

かった濃灰色または黒色で、頭部背面から尾柄前部背面にかけて濃く、腹方ほど淡くなる。頬部と胸部は淡灰色、腹部はわずかに黄色みがかった褐色。体側鱗は頬部と胸部を除き縁辺は濃褐色で縁取られ、網目模様を呈する。前鰭蓋骨後縁は黒く、瞳孔の約1/2幅の黒色横帯となる。主鰭蓋骨後縁上端から、胸鰭基部にかけて瞳孔幅の黒色横帯がはしる。胸鰭基部は、黒色斑に覆われる。背鰭棘部は濃灰色で縁辺は黒色で縁取られる。背鰭軟条部は第4-5軟条の基部から1/2の位置と最終軟条の基部から1/3の位置を結ぶ線よりも、縁辺側は透明で、それ以外は黒色または濃灰色。胸鰭は透明。腹鰭は濃褐色。臀鰭基底は灰色、第4-5軟条の先端と最終軟条の基部を結ぶ線よりも縁辺側は透明で、それ以外は黒色または濃灰色。尾柄部は白色。尾鰭は白色で中央付近に小黒色斑を有し(ない個体もある)、後縁の1/3は透明。

分布 東インド洋のクリスマス島とティモール海から西太平洋にかけて広域に分布する。国内では、伊豆諸島および千葉県以南の太平洋沿岸域に分布する。

備考 本種はこれまで標本や水中写真に基づき、尾柄部と尾鰭が黒色を呈する個体が知られており、尾柄部と尾鰭の色彩における色彩二型が確認されている。大隅諸島屋久島、奄美群島と論島およびインドネシアから採集されたモンスズメダイ黒色型標本を詳細に調査したところ、モンスズメダイの両色彩型に形態的差異はみられず、同一種であることが示唆された。分子解析と水中観察の結果もこれを支持した。

硫黄島では標本は採集されなかったが、水中写真により本種の生息が確認された。

(西山 肇)

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

アオスジスズメダイ

Chrysiptera caeruleolineata (Allen, 1973)

形態 背鰭 XIV, 11-14; 臀鰭 II, 13-14; 胸鰭 15-16; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 6 + 14-16。体は細長い卵円形でよく側扁する。前鰭蓋骨縁は滑らか。体部はすべて楕鱗。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。尾鰭は二又し、両葉先端が丸い。

色彩 頭部は暗い青色。体側面はほぼ一様に黄色~橙色で、眼上から背鰭軟条始部にかけて1対の青色帯がある。

分布 西太平洋とサモア諸島に分布する。国内では、伊豆諸島、福岡県、高知県柏島、大隅諸島、沖縄諸島以南の琉球列島に分布する。

(岩坪洗樹)



アオスジスズメダイ Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa



セナキルリスズメダイ KAUM-I. 29530, 58.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

セナキルリスズメダイ

Chrysiptera starcki (Allen, 1973)

形態 背鰭 XIII, 14–15; 臀鰭 II, 15–17; 胸鰭 15–17; 側線有孔鱗 15–16; 鰓耙 6 + 14。体高は低く、よく側扁する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨後縁は円滑。眼下骨上に鱗列を有する。腹鰭第一軟条は伸長する。尾鰭はわずかに二又し、両葉後端は丸い。

色彩 体の地色は鮮青色で、吻部から頭部背面を通り、体側面中央部にかけて黄色い。胸鰭基底上端に1黒色斑がある。背鰭は黄色く、縁辺は青色で縁どられる。胸鰭鰭条は黄色く、鰭膜は透明。尾鰭は基部の青色を除き黄色。腹鰭と臀鰭は体と同色。

分布 西太平洋に広く分布する。国内では、小笠原諸島、伊豆諸島以南の南日本に生息する。

備考 水深 25–52 m とやや深所に生息しており、硫黄島では、水深 20 m 付近の礁斜面や岩の隙間に単独または複数匹で遊泳している。最大体長は 70 mm に達する。

本種はオーストラリアのサンゴ海から得られた 2 標本に基づき、Allen (1973) によ



セナキルリスズメダイ KAUM-I. 29531, 33.7 mm SL, Iou-jima

て新種記載された。その後、Ida & Moyer (1975) は伊豆諸島三宅島と高知県鶴来島から採集された 2 標本に基づき日本初記録種として報告した。

(西山 肇)

Other collected specimen: KAUM-I. 37777, 32.5 mm SL, Take-shima.



セナキルリスズメダイ Iou-jima, 27 June 2010, Y. Matsuda

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

ミスジスズメダイ

Chrysiptera tricineta (Allen & Randall, 1974)

形態 背鰭 XIII, 11-13; 臀鰭 II, 12-14; 胸鰭 18-19; 側線有孔鱗 15-17; 鰓耙 20-26。体は楕円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨後縁は円滑。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。腹鰭第一軟条は伸長する。尾鰭はわずかに二又し、両葉後端は丸い。

色彩 頭部と体側面の地色は乳白色。頭部背面から眼横切り眼下位腹面へかけてと、背鰭第 1-6 棘間から腹鰭基底後方にかけてと、背鰭基底後端から臀鰭後端にかけて、3本の明瞭な黒色横帯がはしる。胸鰭と尾鰭は透明。腹鰭と臀鰭は乳白色。

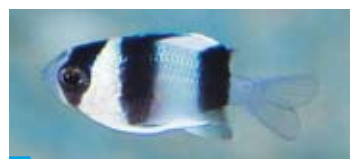
分布 西太平洋およびサモアに分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の南日本に分布する。



ミスジスズメダイ lou-jima, 15 May 2010, Y. Matsuda

備考 水深 30 m 前後の岩礁域や砂礫底に、単独またはペアで生息している。硫黄島では標本は得られなかったが、水中写真から本種の生息が確認された。

(西山 肇)



ミスジスズメダイ lou-jima, 21 Aug. 2011, S. Dewa



イチモンスズメダイ KAUM-I. 37728, 48.1 mm SL, Take-shima

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

イチモンスズメダイ

Chrysiptera unimaculata (Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XIII, 13-14; 臀鰭 II, 11-14; 胸鰭 17-19; 頬部鱗列 2; 側線有孔鱗 16-20; 鰓耙 22-23。体高は低く、よく側

扁する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。涙骨系は鱗に被われない。前鰓蓋骨後縁は円滑。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁はわずかに尖る。尾鰭はわずかに二又し、両葉先端は丸い。

色彩 成魚の体色は、概ね濃褐色で頭部

と尾柄部から尾鰭にかけては淡褐色。背鰭基底後端に腫大の黒色斑がある。幼魚の体色は、黄褐色で腹方ほど色合いは淡くなる。背鰭棘部基底後端と軟条部基底後端に、それぞれ青色で縁どられた黒色斑がある。眼上から、前者の黒色斑にいたる青色縦帯がはしる。この青色縦帯と黒色斑は、成長にとまない消失する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では、伊豆諸島、千葉県以南の南日本に生息する。

備考 本種の幼魚の体色はミヤコキセンスズメダイ *Chrysiptera brownriggii* (Bennett, 1828) に似ている。しかし、イチモンズメダイはミヤコキセンスズメダイと比較して、

前鰓蓋骨上の鱗列が2（ミヤコキセンスズメダイでは3）であることから、容易に識別される。

（西山 肇）



フタスジリュウキュウスズメダイ KAUM-I. 29645, 38.9 mm SL, Take-shima

スズキ目 スズメダイ科 ミスジリュウキュウスズメダイ属

フタスジリュウキュウスズメダイ

Dascyllus reticulatus (Richardson, 1846)

形態 背鰭 XII, 14–16；臀鰭 II, 12–14；胸鰭 19–21；腹鰭 I, 5；鰓耙 25–28。体高が高く、体は円形に近い。眼下骨系の縁辺は鋸歯状。背鰭第1棘長は、第2棘長の2分の1以下と短い。尾鰭は二又し、両葉先端が丸い。

スズキ目 スズメダイ科 ミスジリュウキュウスズメダイ属

ミツボシクロスズメダイ

Dascyllus trimaculatus (Rüppell, 1829)

形態 背鰭 XI–XII, 14–16；臀鰭 II, 13–

色彩 頭部と体側面の地色は乳白色。尾柄部は灰色。背鰭始部から腹鰭基底にかけてと背鰭基底後端から臀鰭後端にかけて、それぞれ黒色横帯がある。この黒色横帯のうち、後ろのものは若い個体ほど鮮明で、成長にしたがい不明瞭になる。背鰭棘部外縁、背鰭・臀鰭軟条基部、および腹鰭は黒色。

分布 東インド・太平洋に分布する。三宅島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿

15；胸鰭 18–21；腹鰭 I, 5；鰓耙 23–25。体高が高く、体は円形に近い。眼下骨系の縁辺は鋸歯状。背鰭第1棘長は、第2棘長の2分の1以下と短い。尾鰭は両葉先端が丸く、中央部がやや湾入する。

岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は竹島において、卓上サンゴの周りに複数匹で群がり、危険を感じるとサンゴの隙間に隠れることが観察された。

（岩坪洗樹）

Other collected specimens: KAUM-I. 29646, 29.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37770, 33.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37771, 27.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37772, 27.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37773, 23.0 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106163, 33.8 mm SL, Take-shima.

色彩 体全体はほぼ一様に黒色であり、後頭部と背鰭基底中央直下に1白色斑がある。この白色斑は幼魚～若魚時は明瞭であるが、成長にともない不明瞭になる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、



■ ミツボシクロスズメダイ KAUM-I. 29799, 108.4 mm SL, Take-shima

八丈島、小笠原諸島、房総半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は大型イソギンチャクと共生するが、クマノミ類ほどイソギンチャクへの依存度は高くない。種小名の *trimaculatus* は3個の白色斑に由来する。

(岩坪洗樹)

Other collected specimens: KAUM-I. 29582, 17.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29661, 27.2 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106105, 36.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106107, 115.9 mm SL, Take-shima.



■ ミツボシクロスズメダイ KAUM-I. 29799, 108.4 mm SL, Take-shima



■ ミツボシクロスズメダイ KAUM-I. 29533, 39.8 mm SL, Iou-jima



■ ソラスズメダイ KAUM-I. 29753, 49.8 mm SL, Take-shima

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

ソラスズメダイ

Pomacentrus coelestis Jordan & Starks, 1901

形態 背鰭 XIII, 13-15; 臀鰭 II, 14-15; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 17-18; 鰓耙 20-22。体高は低く、よく側扁する。口は端位で、口裂は斜行し、瞳孔前縁にわずかに越える。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。眼下骨下縁は円滑。涙骨系は鱗に被われぬ。尾鰭はわずかに二又し、両葉先端はやや丸みを帯びる。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。

色彩 頭部と体側の腹面および、尾柄部の黄色域を除き、体全体は概ね青色。胸鰭基底上端に小黒色斑がある。背鰭軟条部、腹鰭、臀鰭および尾鰭は黄色。胸鰭は透明。

分布 東インド洋から太平洋にかけて広く分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県、新潟県以南の南日本に生息する。

備考 水深 1-12 m の岩礁域やサンゴ礁の外側斜面で普通にみられる種。日本では5月から9月にかけて繁殖期を迎え、雄は転石下に産み付けられた卵を守る。水温の低下ともない、体色は黒味を帯びる。(西山 肇)

Other collected specimens: KAUM-I. 29752, 49.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29754, 47.0 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106186, 5 specimens, 15.6-17.0 mm SL, Take-shima.



■ ソラスズメダイ KAUM-I. 29753, 49.8 mm SL, Take-shima



■ ソラスズメダイ KAUM-I. 37661, 39.4 mm SL, Iou-jima



ナガサキスズメダイ KAUM-I. 29404, 80.3 mm SL, lou-jima

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

ナガサキスズメダイ

Pomacentrus nagasakiensis Tanaka, 1917

形態 背鰭 XIII, 14–16; 臀鰭 II, 16–17; 胸鰭 17–18; 側線有孔鱗 17–19; 鰓耙 18–21。体は楕円形で、よく側扁する。口は端位で、口裂は斜行し、眼高前縁直下をわずかに越える。眼下骨下縁は鋸歯状。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。涙骨系は鱗に被われない。尾鰭はわずかに二叉し、両葉先端は丸い。

色彩 体全体が概ね濃青色。頭部には鮮青色の不規則な斑紋がある。背鰭軟条部に鮮青色で縁どられた黒色斑がある。胸鰭基底には、上方 1/2 程を被う黒色斑がある。臀鰭と尾鰭に 2–3 本の淡青色線がはしる。

分布 モルディブ、スリランカ、アンダマン海および西太平洋にかけて広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の南日本に生息する。

備考 水深 5–30 m の岩礁域やサンゴ礁域に単独または数匹の群れで生息する。

(西山 肇)



ナガサキスズメダイ KAUM-I. 29404, 80.3 mm SL, lou-jima

Other collected specimens: KAUM-I. 29598, 106.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29647, 52.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29648, 52.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29726, 62.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 31417, 63.0 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 31627, 40.1 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 33943, 82.0 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37935, 95.8 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106125, 104.0 mm SL, lou-jima.

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

クロメガネスズメダイ

Pomacentrus vaiuli Jordan & Seale, 1906

形態 背鰭 XIII, 15–16; 臀鰭 II, 15–16; 胸鰭 17–19; 側線有孔鱗 15–18; 鰓耙



クロメガネスズメダイ KAUM-I. 31625, 65.5 mm SL, lou-jima

20-21。体は楕円形で、よく側扁する。眼下骨下縁は鋸歯状。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。涙骨系は鱗に被われない。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い。尾鰭はわずかに二又し、両葉先端はやや丸みを帯びる。

色彩 頭部から体側背面にかけての橙色域を除き、体は概ね青色または橙色味を帯びた青色。頭部に数本の青色縦線がはしる。体側に青色点が縦列し、数本の縦線

模様を呈する。背鰭は淡橙色で、軟条部に鮮青色で縁どられた黒色斑がある。胸鰭、腹鰭、尾鰭は橙色味を帯びた透明。腎鰭は青色または橙色味を帯びた青色。

分布 東インド洋から太平洋にかけて広く分布する。国内では、伊豆諸島以南の南日本に生息する。

備考 本種の幼魚の体色は、メガネスズメダイ *Pomacentrus bankanensis* Bleeker,

1853 とオジロスズメダイ *P. chrysurus* Cuvier, 1830 によく似る。しかし、クロメガネスズメダイはメガネスズメダイと比較して、尾鰭基底は体側と同色（メガネスズメダイでは白色）で、両葉は橙色味を帯びた透明（透明）であることから識別される。また、オジロスズメダイと比較して、頭部に数本の青色縦線がはしる（オジロスズメダイでは縦線はない）ことから区別される。

(西山 肇)



ブチスキベラ KAUM-I. 37636, 115.9 mm SL, lou-jima



ブチススキベラ KAUM-I. 37733, 46.9 mm SL, Take-shima

スズキ目 ベラ科 ススキベラ属

ブチススキベラ

Anampses caeruleopunctatus Rüppell, 1829

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 12-14; 側線鱗数 27。体高は高く、体はよく側扁する。口唇は厚く、口は前方に張り出す。腹鰭は短く、肛門に達しない。幼魚の尾鰭は円形で、成魚では截形。

色彩 成長段階と雌雄で体色の変異が著しい。幼魚は白色から黒色のまだら模様の地色に、白い小斑点が散在する。尾鰭は半透明。雄の体色はうすい緑色で、体側中央に黄緑色の横帯がある。頭部には正中線を通り、両眼にかかる細い青色帯がある。雌の体色は黄赤色で、体全体に青色斑点が規則正しく並ぶ。背鰭と臀鰭は青色で縁どられる。

分布 ハワイを除くインド・太平洋に広く分

布する。国内では相模湾以南の南日本の太平洋岸、屋久島、琉球列島、小笠原諸島に分布する。

備考 本種の幼魚は海藻などの浮遊物に擬態し、体をくねらせて潮に流されるように泳ぐ。雌や若魚は南日本沿岸で普通にみられるが、雄個体は稀である。硫黄島と竹島からは、それぞれ雌と若魚が採集された。最大体長は約 35 cm。

(片山英里)



ホクトベラ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ベラ科 ススキベラ属

ホクトベラ

Anampses meleagrides Valenciennes, 1840

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 12-14; 側線鱗数 26-28。体は細長く、吻はやや尖る。上顎は短い。尾鰭は截形で、雄成魚ではわずかに湾入する。

色彩 幼魚、若魚、雌の体および鰭全体が黒色で、体側には多数の白色斑点が並ぶ。尾鰭は鮮やかな山吹色を呈する。幼魚から若魚までは背鰭と臀鰭の後方にそれぞれ眼状斑があるが、成長とともに消失する。雄の体色は赤茶色で、深緑色の細長い斑紋が無数に並ぶ。頭部には深緑色の迷路状模様がある。尾鰭は後端が三日月状の黒色となり、二又しているかのようにみえる。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では南日本の太平洋岸、伊豆諸島、琉球列島に生息する。

備考 性的二型が著しく、雌から雄へと性転換を行う。潮通しの良い岩礁やサンゴ礁域に生息する。通常、水深約 10 m 以下の斜面か岩礁の壁面に出現し、サンゴやホヤをすみかとする。体長は約 22 cm 程度になる。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 ススキベラ属

ホシススキベラ*Anampses twistii* Bleeker, 1856

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 12-14; 側線鱗数 26。体は細長く、吻はやや尖る。口唇は厚い。上顎には前方に向く円歯状歯がある。尾鰭は円形。

色彩 幼魚の地色は褐色で、青色の不規則な細長い斑紋が散在する。腹部は黄色。成長とともに体色は暗色になり、体の青色斑点は小さくなる。背鰭と臀鰭の後方にそれぞれ眼状斑があり、この斑紋は成魚になっても残る。成魚では鰓蓋後端に赤、緑、紺色が混ざる1斑紋がある。雄成魚の腹部は鮮やかな黄色を呈し、それに沿って、吻から眼下を通り胸鰭基底まで延びる緑色帯が縦走する。

分布 インド・西太平洋に広く分布し、国内では屋久島、鹿児島県硫黄島、八丈島、琉球列島、小笠原諸島に分布する。



ホシススキベラ lou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

備考 本種は潮通しの良いサンゴ礁や斜面に生息する。群れで行動し、危険を感じるとサンゴの隙間などに隠れる。体長は最大で16 cmに達する。本種とされてきた紅海の個体群は、黄色斑紋など体色のパター

ンが異なるため、別種か亜種の可能性が示唆されている (Kuiter, 2012)。今後、分類学的な検討が必要である。

(片山英里)



ヒオドシベラ lou-jima, 18 Sept. 2010, Y. Matsuda

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

ヒオドシベラ*Bodianus anthioides* (Bennett, 1831)

形態 背鰭 XII, 10; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 16; 側線鱗数 31。吻は短く、眼径とほぼ同長。体高は体長の約2分の1。長い尾鰭をもち、中央が大きく湾入する。その大きさは体長の約2分の1。幼魚と成魚はほぼ同じ体型を示す。

色彩 成長段階で、類似した体色パターンを示す。幼魚は半透明の地色で、頭頂部から腹側にかけて山吹色の太い横帯がある。体側後半部には赤褐色の斑点が散在する。背鰭、臀鰭および腹鰭の前縁と尾鰭両葉は、褐色で縁取られる。成魚では体前半が山吹色、後半が白色を呈する。その間の背鰭から腹部に、濃い褐色の縁取りが走る。頭部の腹側と胸鰭および臀鰭前端は茶色。尾柄の背側と腹側から、それぞれの尾鰭の先端にむかう褐色縦帯が走る。

分布 インド・西太平洋および紅海に広く分布する。国内では南日本の太平洋岸、八丈島、小笠原諸島、琉球列島に分布する。

備考 通常、水深約10-20 mの岩礁やサンゴ礁に生息する。幼魚期には他の魚をクリーニングしている様子がみられる。ソフトコーラルなどをすみかとする。南日本沿岸では、主に幼魚が出現するが、琉球列島以南では成魚が出現する。鹿児島県の屋久島や硫黄島では幼魚が観察された。中型種で、体長は約22 cmに達する。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

スミツキベラ

Bodianus axillaris (Bennett, 1831)

形態 背鰭 XII, 10; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 15-16; 側線鱗数 30-31; 背鰭前方鱗数 28-35 (通常 31)。体は細長く、頭部はよく尖る。背鰭と臀鰭の後端は鈍く尖り、大きく広がる。背鰭前方鱗は、前鼻孔の背側に達する。頬部の鱗は、上顎の上方から鼻孔の下方面まで達する。

色彩 体長 5 cm 程度の若魚は体全体が黒色で、各鰭の基部付近の体側と頭部、吻部に白い水玉模様がある。成魚では体と背鰭前部が赤褐色で、後半部が白色となる。背鰭・臀鰭後半部の鰭条は黄白色で、臀鰭鰭膜には黄色斑点が散在する。尾鰭鰭条は淡い山吹色。背鰭始部と中央部、臀鰭および胸鰭基部にそれぞれ黒色斑がある。

分布 インド・太平洋と紅海に広く分布する。



スミツキベラ lou-jima, 7 Nov. 2010, Y. Matsuda

国内では南日本の太平洋沿岸から琉球列島、小笠原諸島に分布する。本属の中では最も広範囲に分布する。

とが特徴で、他の魚にクリーニングをする。体長 14 cm 程度の小型種。

(片山英里)

備考 硫黄島と竹島でそれぞれ 1 個体ずつの若魚が採集された。本種はケサガケベラとよく似るが、背鰭と臀鰭の黒色斑紋により区別される。吻は細長く、口が小さいこ

Collected specimens: KAUM-I. 29782, 15.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31654, 41.3 mm SL, lou-jima.



キツネベラ lou-jima, 25 July 2010, E. Shinkai

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

キツネベラ

Bodianus bilunulatus (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XII, 7; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 16; 側線鱗数 24-28; 背鰭前方鱗数 12-18。体は細長く、頭部と吻は鈍く尖る。成長にともない吻は丸みを帯び、体高が高くなる。下顎の腹側に鱗がない。尾鰭の後端は、幼魚では丸みを帯びるが、成長にともない湾入する。老成魚では腹鰭と尾鰭の両葉先端の鰭条が伸長する。



キツネベラ lou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



キツネベラ Showaiou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

色彩 本種は成長にともない黒色帯が変化する。若魚までは白色の地色に赤色の縞模様がある。背側は黄色を呈し、背鰭後方から臀鰭後方にかけて黒色横帯がある。10 cm 程度の若魚から成魚では、背鰭後

方基部のみ黒色斑が残る。老成魚では黒色斑は完全に消失する。

分布 インド・西太平洋の広域に分布し、台湾、中国、朝鮮半島の南部沿岸、国内

では南日本の太平洋岸、鹿児島県屋久島、硫黄島、小笠原諸島に分布する。

備考 潮通しのよい岩礁、ガレ場、サンゴ礁域に出現する。成魚は主に 20 m 以深に生息する。
(片山英里)



フタホシキツネベラ KAUM-I. 29779, 25.5 mm SL, Take-shima

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

フタホシキツネベラ

Bodianus bimaculatus Allen, 1973

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 16; 側線鱗数 30-31; 背鰭前方鱗数 8-10。体は細長く、体高は低い。体全体の高さは尾柄部も含めてほぼ同じ高さ。吻は短く丸みを帯びる。腹鰭は肛門に達しない。尾鰭は円形。

色彩 体と腹鰭を除く各鰭は黄色で、体側中央部に 1-5 本の橙色縦帯がある。背鰭始部に不明瞭な黒色斑がある。鰓蓋と尾鰭基部に 2 黒色斑があるが、成長に伴いそれぞれ青と赤色斑に変わる。雄では臀鰭基部の斑紋は消失する。体全体が赤みを帯びる個体変異がある。

分布 西太平洋では、パラオ、バブア・ニューギニア、ニューカレドニア、ニュージーランド、オーストラリアのクイーンズランド、インド洋ではマダガスカル、モーリシャス、モルディブに分布する。国内では南日本の太平洋岸から琉球列島にかけてと小笠原諸島に分布する。

備考 本種は潮通しのよい水深約 30-60 m の深場に生息する。ハレムを作り繁殖を行う。最大体長 6 cm 程度の小型種である。本種は竹島の水深 45-60 m で 1 個体が採集された。

(片山英里)



フタホシキツネベラ Take-shima, 12 July 2009, E. Shinkai



フタホシキツネベラ Take-shima, 12 July 2009, Y. Matsuda



スジキツネベラ KAUM-I. 37930, 143.3 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

スジキツネベラ

Bodianus leucosticticus (Bennett, 1831)

形態 背鰭 XII, 10; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 16; 側線鱗数 31-32; 背鰭前方鱗数 26-31。背鰭前方鱗は前鼻孔の背側に達する。体高は比較的高い。吻は短く、眼径よりも小さい。両顎には犬歯状歯が並び、その前端の歯は前方へ突出する。

色彩 成長に伴う体色の変異が著しい。若魚までは体色は薄い桃色を呈し、吻から尾柄にかけて細い4本の赤色縦帯がある。背鰭と臀鰭のそれぞれ前方後方の基部に眼径大の黒色斑がある。胸鰭と尾鰭基部には小さな斑点がある。胸鰭基部の斑紋は成長とともに大きく明瞭になり、成魚では胸鰭以外の黒色斑は消失する。成魚の体色はやや黄みを帯び、胸鰭上方に黒色小斑点が散在し、その一部は赤色縦帯に重なる。

分布 モーリシャス諸島を含む西インド洋南部、台湾、国内では和歌山県、高知県、八丈島、沖縄県。

備考 本種はこれまで国内では *Bodianus* sp. とされてきた(島田, 2000など)。しかし、Gomon (2006) は本種の学名を、日本で従来アカホシキツネベラとされてきた *B. leucostictus* (Bennett, 1832) とした。同時にアカホシキツネベラを *Bodianus rubrisos* Gomon, 2006 として新種記載した。本種は若魚まではアカホシキツネベラ *Bodianus rubrisos* に似るが、体側の赤色縦帯が眼



スジキツネベラ KAUM-I. 29781, 16.9 mm SL, Take-shima



スジキツネベラ Iou-jima, 7 July 2008, S. Dewa

の後方から臀鰭基部に達することにより識別される。

水深 50 m 以深に生息する稀種で、本種

の記録は少ない。最大体長は約 16 cm。

(片山英里)

Other collected specimen: KAUM-I. 37907, 90.0 mm SL, Iou-jima.



シマキツネベラ lou-jima, 28 June 2009, Y. Komiya

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

シマキツネベラ

Bodianus masudai Araga & Yoshino, 1975

形態 背鰭 XIII, 10; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 16-17; 側線鱗数 32-33; 背鰭前方鱗数 11-12。体は細長く、体高と尾柄高の差が少ない。頭部と吻は長い。口は大きく、眼径とほぼ同長。眼の前縁直下には達しない。腹鰭は肛門に達しない。尾鰭は円形。

色彩 幼魚の体色は暗褐色で、成魚では赤色となる。頭部から尾柄にかけて3縦帯があり、最上部はクリーム色で、残りの2本は黄色みがかった白色。腹鰭を除く各鰭は、赤色で白色縁がある。腹鰭はほぼ全体が黒色を呈する。

分布 オーストラリア、台湾および日本に分布し、国内では伊豆半島、伊豆諸島、和歌山県白浜、高知県柏島、鹿児島県奄美大島、硫黄島などに分布する。

備考 本種は温帯域に分布し、南日本沿岸では50-60 m 付近で観察されている。最大体長は約 13 cm と小型種である。

(片山英里)



シマキツネベラ lou-jima, 13 May 2010, K. Matsuno



シマキツネベラ lou-jima, 21 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

アカホシキツネベラ

Bodianus rubrisos Gomon, 2006

形態 背鰭 XII, 7; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 16; 側線鱗数 24-28; 背鰭前方鱗数 25-27。体高が大きく、頭部と吻はよく尖る。口は

本属の中では大きく、眼径の約 1.3 倍。背鰭前方鱗は前鼻孔の背側まで達する。

色彩 体の地色は白で、吻部を除く体全体に赤色小斑点が散在する。幼魚から若魚までは背鰭、臀鰭、胸鰭および臀鰭基部に黒色斑があるが、成長にともない消失する。尾鰭の両葉先端は赤色。成魚では体

側に3-4本の不連続な赤色縦帯があり、その間にやや不規則な斑点が並ぶ。

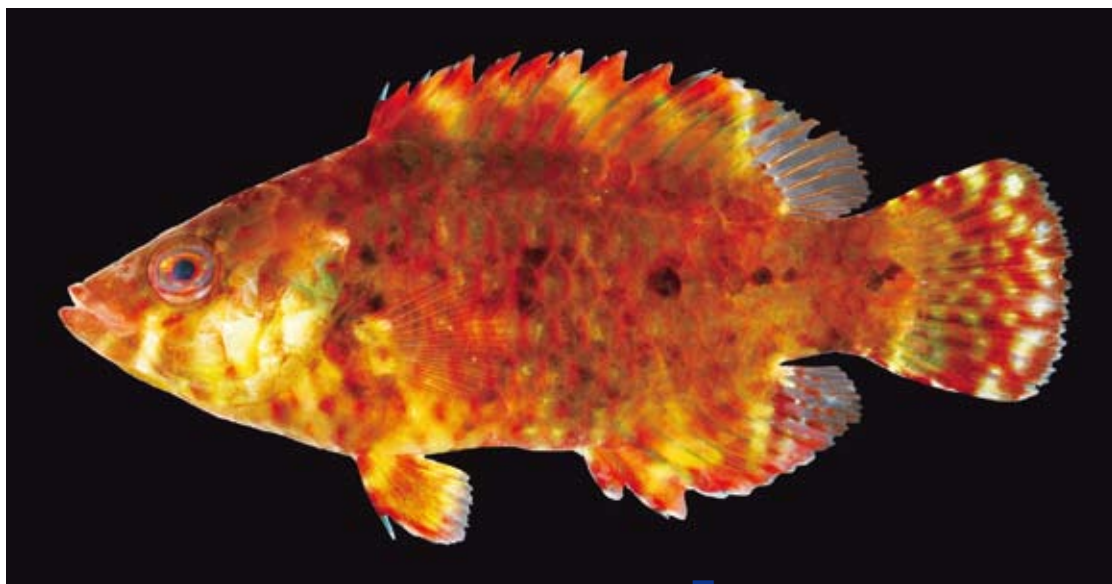
分布 インドネシア、台湾および日本に分布する。国内では主に琉球列島に分布し、幼魚は南日本の太平洋岸や伊豆半島にも出現する。

備考 本種は、現在スジキツネベラの学名とされる *Bodianus leucostictus* (Bennett, 1832) の老成魚とされ、混同されてきた。しかし、Gomon (2006) は、これら2種がすべての成長段階において体色や斑紋が異なる別種であることを明らかにし、新種記載した。

本種は幼魚から成魚を通して、水深 50m 以深の岩礁などに生息するため、その記録は少ない。最大体長は 30 cm に達する。
(片山英里)



アカホンキツネベラ lou-jima, 9 Aug. 2011, K. Furuta



ミツバモチノウオ KAUM-I. 37729, 52.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 ベラ科 モチノウオ属

ミツバモチノウオ

Cheilinus trilobatus Lacepède, 1801

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 12; 側線鱗数 15-17 + 7-9。頭部は大きく、体高が高い。臀鰭は背鰭中央の下方から始まる。背鰭と臀鰭の後方は長く、緩やかに尖る。尾鰭は大きく、二重湾入型で、中央部が長い。

色彩 若魚までの地色は褐色で、背鰭か

ら臀鰭にかけて不明瞭な3濃褐色横帯があり、体側中央には約5個の黒色斑点が並ぶ。雄成魚の体側は濃い緑褐色で、緑色と赤色の細長いラインが鱗に沿うように、背側から腹側にかけて無数に走る。各鱗は緑色で、赤色に縁取られ、頭部には橙からピンク色の模様が散在する。尾柄部には黒いバンドがあり、前後に2本の白色横帯がある。雌は地色が全体的に黄褐色となる。

分布 インド・太平洋の広範囲に分布し、

国内では南日本、小笠原諸島および琉球列島の広い海域に分布する。

備考 本種はアカテンモチノウオ *Cheilinus chlorourus* (Bloch, 1791) に似るが、体に白色斑点がない(後者では体の後半部に白色斑点が散在する)、背鰭鰭条数が9棘10軟条(10棘8-9軟条)であることにより識別される。

本種はサンゴ礁域によくみられ、サンゴや岩の隙間を寝床とする。幼魚から若魚期には内湾の浅瀬にも出現する。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 イラ属

イラ

Choerodon azurio (Jordan & Snyder, 1901)

形態 背鰭 XII, 7; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 16; 側線鱗数 24-28。体高が高く、尾柄の約2.5

倍。頭は大きく、吻は下方に位置する。吻長は成長にともなって長くなり、項部が張り出す。眼と両顎はよく離れる。上顎口唇はほとんど隠れる。主総蓋は鱗で覆われる。腹鰭は肛門に達する。尾鰭は截形で、後縁は丸みを帯びる。

色彩 本種は雌雄差がほとんどみられない。幼魚の体色は白と褐色のまだら模様。背鰭軟条部に眼状斑があり、成長とともに消失する。成魚の体は紫がかった赤色で、背鰭、臀鰭は黄色を呈する。体の背側中央部から胸鰭にかけて暗色斜帯がある。



イラ KAUM-I. 37895, 277.5 mm SL, Showaiou-jima

尾鰭は黄褐色で青色に縁取られる。

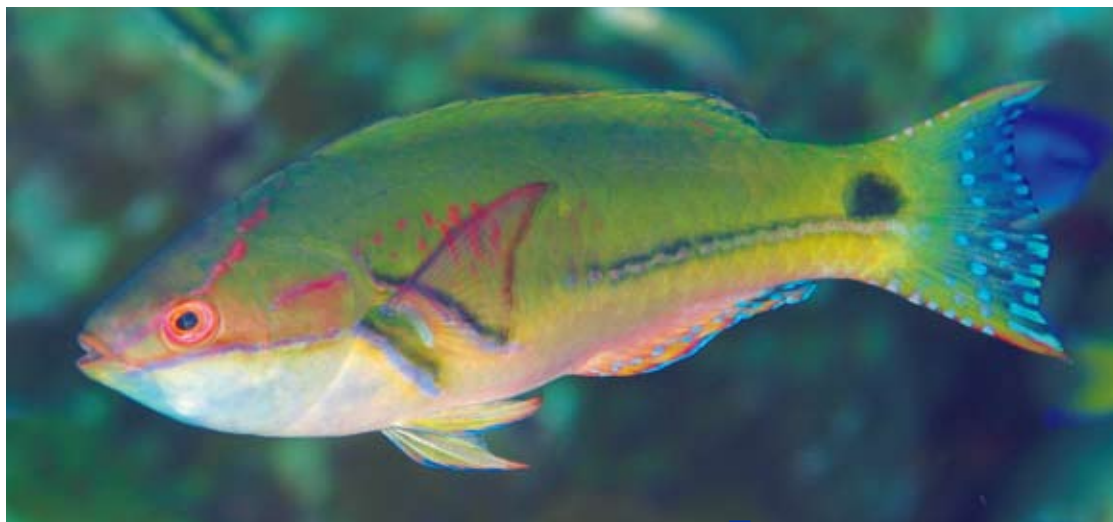
本沿岸と伊豆半島の岩礁域に出現する。

や刺網などにより漁獲されることもある。

(片山英里)

分布 東アジアの固有種であり、台湾、中国、朝鮮半島の南部沿岸、国内では南日

備考 生息水深が幅広く、潮通しのよい水深 10 m 以深で観察される。成魚は底曳網



ニシキイトヒキベラ lou-jima, 11 May 2010, K. Matsuno

スズキ目 ベラ科 イトヒキベラ属

ニシキイトヒキベラ

Cirrhilabrus exquisitus Smith, 1957

形態 背鰭 XI, 9; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-15; 側線鱗数 16-18 + 6-7; 背鰭前方鱗数 5。体は細長く、吻は短い。背鰭および臀鰭後方の鰭条は前方に比べて長い。幼魚から雌の尾鰭はやや丸みを帯びた截形、雄では二重湾入型となる。腹鰭は伸長しない。

色彩 幼魚は体と各鰭がうすい桃色で、頭部には眼の上下を通る青白色縦帯がある。体側中央部から尾柄に向い、頭部のものより細い青白色縦帯が走る。すべての成長段階を通して尾柄部に眼径とほぼ同長の眼状斑があるが、婚姻色を呈する雄では薄くなる。成魚は体が黄緑色で、幼魚と同様の青白色縦帯が走る。胸鰭は透明で赤い縁取りがある。雄の尾鰭には多数の青白色斑点が鰭条に沿って並ぶ。

分布 アフリカ東岸、パプア・ニューギニア、パラオおよび南日本の太平洋岸、伊豆諸島、琉球列島に生息する。

備考 外洋に面した、約 40 m 以深の岩礁域やガレ場、サンゴ礁域に生息する。稀種。本種はハレムを形成して繁殖を行い、雌から雄へと性転換をする。

(片山英里)



ヤリイトヒキベラ Iou-jima, 21 Aug. 2011, S. Dewa



ヤリイトヒキベラ Iou-jima, 4 June 2009, Y. Komiya

スズキ目 ベラ科 イトヒキベラ属

ヤリイトヒキベラ*Cirrhilabrus lanceolatus*

Randall & Masuda, 1991

形態 背鰭 XI, 9; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 15; 側線鱗数 16-17 + 6-7; 背鰭前方鱗数 5。体は細長く、吻は短く丸みを帯びる。背鰭および臀鰭の後端は緩やかに尖る。鰭の形状に顕著な性的二型がみられ、雄の尾

鰭は槍状で中央が長くのびるが、雌では短い。成熟した雄では後頭部がもりあがる。

色彩 幼魚から成魚まで、体は桃色を呈し、眼の後方から背鰭基底と胸鰭に向かう2本の濃桃色縦帯が走る。幼魚では背鰭基底部に小白斑点列が規則的に並ぶが、成長とともに薄い桃色になる。雄は背鰭、臀鰭および尾鰭の両葉の縁辺が青白色になる。

分布 南日本の太平洋岸、伊豆諸島、琉球列島にのみ生息する。

備考 外洋に面した、約40 m以深の岩礁域やガレ場、サンゴ礁域に生息する。本種は最大約9 cm程度の小型種で、標本に基づく記録が少ない。稀種。

(片山英里)



ツキノワイトヒキベラ Iou-jima, 27 June 2009, Y. Komiya

スズキ目 ベラ科 イトヒキベラ属

ツキノワイトヒキベラ

Cirrhilabrus lunatus

Randall & Masuda, 1991

形態 背鰭 XI, 9; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-15; 側線鱗数 17-18 + 6; 背鰭前方鱗数 5。吻部は丸みを帯びる。雄は背鰭が高く、体高の約2分の1。尾鰭は深く湾入し、両葉先端は長く伸長する。

色彩 幼魚から雌の体側の地色は薄いオレンジ色で、腹部は白みを帯びる。体側上方には5本の細い白色縦帯がある。幼魚期には尾柄上方に眼状斑があるが、成長とともに消失する。雄は体側中央部から背鰭の基部にかけて山吹色を呈し、婚姻色では腹鰭と腹部が暗色となる。

分布 台湾、インドネシアのバリ島およびサンギヘ島、国内では高知県、鹿児島県屋久島、硫黄島、沖縄県、八丈島、小笠原



ツキノワイトヒキベラ Iou-jima, 21 Sept. 2009, K. Matsuda

諸島に分布する。

備考 本種は深場に生息する種で、1975年に沖縄県で初めて雄の標本が採集されたが、雌の標本が採集されることはなかった。1990年に小笠原で初めて雌の標本が採集され、日本産の標本に基づいて記載

された (Randall, 1992)。本種の学名と和名は三日月状の尾鰭に由来し、その形状は本属の中でも特徴的である。主に水深35-50 m 付近の潮通しのよい岩礁斜面やサンゴ礁斜面に生息する。ガレ場、ゴロタ、サンゴなどにハレムを形成する。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 イトヒキベラ属

ベニヒレイトヒキベラ

Cirrhilabrus rubrimarginatus Randall, 1992

形態 背鰭 XI, 9; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-16; 側線鱗数 15-18 + 5-8; 背鰭前方鱗

数 4-5。頬に2列の鱗がある。体高はやや高く、体長の3分の1。吻は眼径よりも短く、丸みを帯びる。背鰭軟条部と臀鰭は大きい。尾鰭は円形。本種の雄は腹鰭が長く伸長し、臀鰭前端を越える。

色彩 幼魚は薄いピンク色を呈し、尾柄に眼径ほどの眼状斑がある。この斑紋は成長とともに消失する。雌雄ともに背鰭後方の先端と、尾鰭後方が朱色になる。胸鰭は半透明のオレンジ色。雄は婚姻色を現わすと、より赤みの強い体色になり、臀鰭



ベニレイトヒキベラ Iou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda



ベニレイトヒキベラ Iou-jima, 8 Sept. 2009, S. Dewa

が白色になる。

分布 南東インド洋と西太平洋に広く分布する。国内では、高知県、八丈島、鹿児島県屋久島、硫黄島、竹島および琉球列島に分布する。

備考 本種の若魚は水深20-30 mに出現するが、成魚は通常40 m付近で観察される。潮通しの良い岩礁やサンゴ礁で、ハレムを形成して繁殖を行う。

(片山英里)



ベニレイトヒキベラ Iou-jima, 13 May 2010, K. Matsuno



イトヒキベラ KAUM-I. 29691, 73.4 mm SL, Take-shima



イトヒキベラ KAUM-I. 29691, 73.4 mm SL, Take-shima

スズキ目 ベラ科 イトヒキベラ属

イトヒキベラ

Cirrhilabrus temminckii Bleeker, 1853

形態 背鰭 XI-XII, 8-10; 臀鰭 III, 9-10;
胸鰭 14-15; 側線鱗数 16-18 + 5-8; 背

鰭前方鱗数 5。体高はやや高く、吻は緩やかに尖り、上顎は下顎よりもわずかに突出する。成熟した雄は後頭部が盛り上がる。腹鰭の第2軟条が伸長し、臀鰭の後方に達する。雌の腹鰭は臀鰭始部に達しない。

色彩 幼魚から若魚は体全体が桃色となる。上顎の先端から眼の上方を通して背鰭基底に沿って走るものと、上顎後端から胸鰭にかけて走る2本の青色縦帯がある。尾柄部上方に黒色斑があり、成長とともに消失する。雄は繁殖期に鮮やかなメタリック



イトヒキベラ lou-jima, 27 June 2010, Y. Matsuda

クブルーの婚姻色を示す。

分布 西太平洋およびオーストラリア西岸に広く分布し、国内では南日本の太平洋岸から琉球列島、伊豆諸島、小笠原諸島に分布する。

備考 本種は 20 m 付近の岩礁、ガレ場などでハレムを形成する。やや小型な種で体長約 10 cm 程度。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 イトヒキベラ属

イトヒキベラ属の 1 種

Cirrhilabrus sp.

形態 尾鰭の先端は湾入するが、中央部が尖る。両葉の先端の鰭条はやや伸長するがツキノワイトヒキベラほど伸長しない。

色彩 体は桃色で、体側中央には胸鰭基部から尾柄に、黄色い帯が縦走する。頭部の背面は橙色、側面は黄色で 3 本の白色縦帯がある。体側上方の背鰭基部付近に、銀白色の縦帯がある。

分布 高知県柏島、鹿児島県の屋久島、硫黄島および琉球列島で確認されている。



イトヒキベラ属の 1 種 lou-jima, 10 Aug. 2011, K. Furuta

備考 西山・本村 (2012) は、本調査の水中写真と同様の特徴をもつものを、ツキノワイトヒキベラとイトヒキベラ属の 1 種との交雑種である可能性を示唆した。後者は、Motomura et al. (2010c) が屋久島から水中写真に基づき報告した *Cirrhilabrus* sp. 2 と同一種である。本属には他にも交雑種

と考えられる個体や未同定種が複数確認されているため、今後の分類学的研究が望まれる。

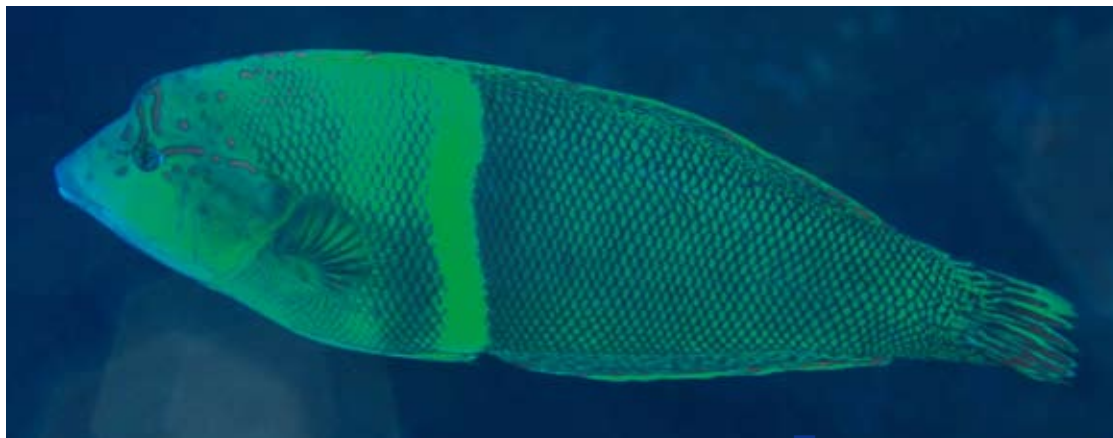
(片山英里)



イトヒキベラ属の1種 lou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda



カムリベラ KAUM-I. 37762, 290.7 mm SL, Take-shima



カムリベラ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ベラ科 カムリベラ属

カムリベラ*Coris aygula* Lacepède, 1801

形態 背鰭 XIII-IX, 12-13; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 14; 側線鱗数 61-66。体は細長く、吻はよく尖る。成長に伴い、頭頂部がコブ状になる。成魚の尾鰭後縁の鱗膜は深く切れこむ。

色彩 成長にともなう変化が著しい。幼魚

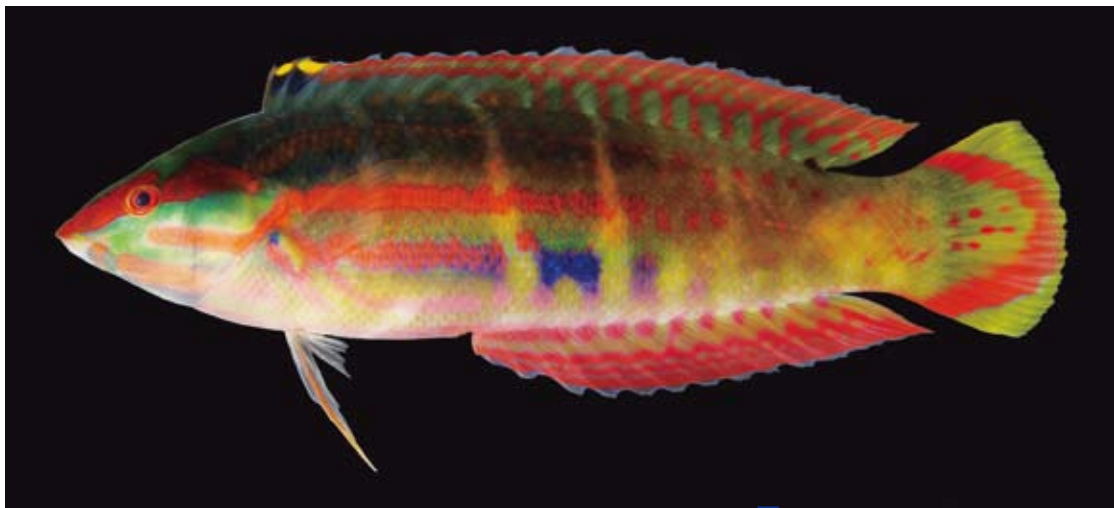
の地色は白色で、頭部は黒色の水玉模様。背鰭鱗膜から基部にかけて2眼状斑があり、その下方向に重なるように鮮やかな橙色の斑紋がある。10 cm 前後の若魚では体前方が黒色の水玉模様で、後半が黒褐色。垂直鰭は白く縁取られる。体の中央に1本の白色横帯があるが、成長に伴い明瞭になる。成魚は青黒く、頭部には橙色の斑点が散在する。

分布 ハワイを除く、インド洋のアフリカ東岸から、紅海、モルディブ、スリランカ、オー

ストラリア北西部、西太平洋の日本から、フィリピン、パプア・ニューギニア、オーストラリア東部、太平洋の島嶼まで広く分布する。国内では南日本、琉球列島、小笠原諸島に分布する。

備考 本種は礫域、岩礁やサンゴ礁に生息し、貝類やカニを捕食する。特に幼魚は南日本の広範囲に出現する。最大約 1 m に達する大型種である。

(片山英里)



スジベラ KAUM-I. 37683, 145.3 mm SL, Iou-jima



スジベラ KAUM-I. 31656, 41.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ベラ科 カムリベラ属

スジベラ*Coris dorsomacula* Fowler, 1908

形態 背鰭 IX, 11-12; 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 13; 側線鱗数 50-55; 鰓耙 17-19。体は細長く、体高が低い。吻は短く尖る。胸鰭は肛門に達しない。尾鰭は円形。

色彩 幼魚は体全体が桃色を呈し、鰓蓋後縁に後方が黄色に縁取られる黒色斑がある。また背鰭後端の基部に小黒色斑点がある。これらは雌では残るが、雄では消失する。体色は白みを呈する個体から赤みが



スジベラ KAUM-I. 37735, 28.5 mm SL, Take-shima

強いものまで変異が大きい。体側に約6本の白色横帯がある。

分布 西太平洋の温帯から熱帯域の広い地域に分布する。国内では、南日本の太平洋沿岸から琉球列島、伊豆諸島、小笠原諸島に分布する。

備考 本種の最大体長は20 cm程度。南日本において、本属の中で最も普通にみられる種。本調査では竹島と硫黄島で採集された。

(片山英里)

Other collected specimens: KAUM-I. 29778, 48.6 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106705, 11.3 mm SL, Take-shima.



スジベラ Iou-jima, 27 June 2010, Y. Matsuda



ツユベラ Iou-jima, 26 July 2010, E. Shinkai

スズキ目 ベラ科 カンムリベラ属

ツユベラ*Coris gaimard* (Quoy & Gaimard, 1824)

形態 背鰭 IX, 12-13; 臀鰭 III, 12-13; 胸鰭 13; 側線鱗数 70-80。本種の雄は成魚になると第1背鰭棘が著しく伸張する。

色彩 体色は成長にともない、著しく変化する。幼魚は橙色の地色に、黒色の縁取りがある白色の鞍状斑がある。若魚は赤褐色の体色に青色の斑点が散在する。成魚では、青色斑点がより密になり、吻部から鰓蓋と背鰭始部に向かい緑色の3縦帯が走る。

分布 東インド洋と太平洋に広く分布し、国内では南日本の太平洋岸から琉球列島にかけてと、伊豆諸島および小笠原諸島に分布する。

備考 南日本では普通種で、岩礁やサンゴ礁域でよく観察される。

(片山英里)



ツユベラ KAUM-I. 29603, 23.4 mm SL, Iou-jima



ツユベラ KAUM-I. 32323, 49.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ベラ科 キュウセン属

コガネキュウセン*Halichoeres chrysus* Randall, 1981

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 12-14; 側線鱗数 28; 鰓耙数 14-19。体は細長く、体高は体長の3分の1。口はやや斜めで、上顎後端は眼の前縁に達し



コガネキュウセン KAUM-I. 29543, 11.8 mm SL, Iou-jima



コガネキュウセン KAUM-I. 30611, 20.8 mm SL, Iou-jima

ない。吻はよく尖る。両顎の先端には後方に向く犬歯状歯がある。頭部は全体が無鱗。腹鰭は短く、肛門に達しない。

色彩 すべての成長段階において、体全体が鮮やかな黄色を呈し、尾鰭は半透明。幼魚は背鰭に3黒色斑点があり、尾柄上方に1小黒色斑点がある。雌は背鰭の前端と中央部に2黒色斑点があり、雄では後方の斑点は消失する。雄成魚の頭部には淡い緑色と赤色の縞模様がある。

分布 西太平洋に広く分布する。国内では南日本の太平洋岸、琉球列島に生息する。

備考 主に20–60 m以浅の潮通しのよい岩場、ガレ場、サンゴ礁、砂地などで普通にみられる。ハレムを形成する。本種は小



コガネキュウセン KAUM-I. 29792, 43.0 mm SL, Take-shima

型種で最大体長は約13 cm。

(片山英里)

Other collected specimens: KAUM-I. 29793, 55.8 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106902, 14.9 mm SL, Ioujima; NSMT-P 106928, 27.4 mm SL, Ioujima.



キスジキュウセン KAUM-I. 31397, 19.3 mm SL, Take-shima

スズキ目 ベラ科 キュウセン属

キスジキュウセン

Halichoeres hartzfeldii (Bleeker, 1852)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 13; 側線鱗数 27。幼魚期には体は細長く、吻がよく尖るが、成魚になると吻は丸くなる。口はやや大きくて、口唇は厚い。尾鰭は幼魚では截形で後縁は丸く、雄成魚では浅く湾入する。

色彩 幼魚では体は白く、体側中央に赤褐色の1縦帯がある。若魚になると黄色の縦帯となり、成魚ではさらに太く明瞭となる。雄は緑色を呈し、頭部に青色の太い虫食い状の模様が入る。体側の後方から尾柄部にかけて、3黒色斑がある。

分布 西太平洋に広く分布する。国内では南日本の太平洋岸と琉球列島に生息する。(片山英里)



キスジキュウセン Take-shima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



キスジキュウセン Take-shima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ベラ科 キュウセン属

トカラベラ*Halichoeres hortulanus* (Lacepède, 1801)

形態 背鰭 IX, 10-11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 13-15; 側線鱗数 26-28。体は細長く、体高はやや高く、体長の約3分の1。口は小さく、吻は尖る。眼の後方に小鱗列があり、鰓蓋上部は鱗でおおわれる。両顎に2組の犬歯状歯があり、上顎の後方には湾曲した1組の犬歯状歯がある。

色彩 幼魚から若魚では白色と黒色の不規則な縞模様となる。成魚は頭部が緑色の地色で、ピンク色の縞模様がある。項部から背鰭前方にかけてピンク色の水玉模様となり、体側は薄い緑色で青紫色の細長い小斑が規則正しく並ぶ。尾鰭は黄色を呈し、



トカラベラ lou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

雌雄ともに褐色の縞模様がある。

分布 ハワイを除くインド・太平洋に広く分布する。国内では、南日本の太平洋岸と伊豆諸島、小笠原諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は20 m以浅の潮通しの良いガレ場、サンゴ礁域に生息する。南日本の沿岸では主に幼魚が観察される。硫黄島では成魚も観察された。

(片山英里)



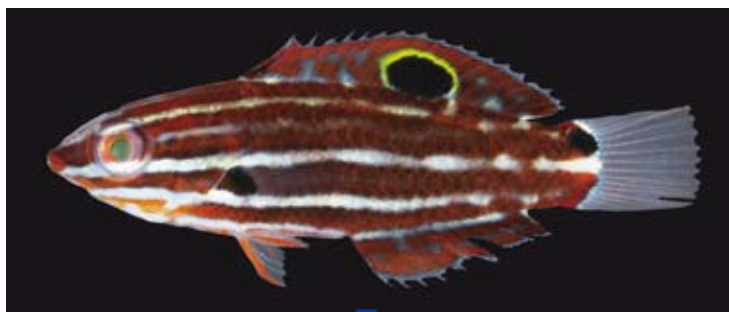
ムナテンベラ KAUM-I. 32309, 36.1 mm SL, lou-jima

スズキ目 ベラ科 キュウセン属

ムナテンベラ*Halichoeres melanochir* Fowler & Bean, 1928

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 14; 側線鱗数 27-28。体は細長く、体高は体長の1/3。吻はやや尖る。腹鰭は肛門に達しない。尾鰭は丸みを帯びた截形。

色彩 体長2 cm程度の幼魚では赤褐色の体色に吻から尾柄にかけて、3本の白色縦線がある。背鰭始部と中央部、胸鰭基部、尾柄上方には黒色斑がある。若魚の体色は青色を呈し、背鰭中央部の眼状斑は成長にともない消失するが、背鰭前方の黒色斑は成魚まで残る。体長約3 cmの幼魚から成魚まで、腹鰭は鮮やかな山吹色を呈する。成魚では胸鰭の基部の黒色斑が大きく、よく目立つ。体長10 cmを越える



ムナテンベラ KAUM-I. 31674, 17.3 mm SL, lou-jima

個体では青色の体色は橙みをおび、背鰭と臀鰭には約3本の橙色縦帯がある。雄成魚の体側中央から上方には小黒色斑点があり、眼の後方から体側後半部にかけて規則正しく並ぶ。

分布 南東インド洋および西太平洋に広く分布する。国内では南日本の太平洋岸から琉球列島にかけてと、伊豆諸島、小笠原諸島に生息する。



ツキベラ KAUM-I. 37984, 117.1 mm SL, Take-shima



ツキベラ KAUM-I. 37637, 92.8 mm SL, Iou-jima

備考 本種は 20 m 以浅の潮通しの良いガレ場、サンゴ礁域に生息する。南日本の沿岸では主に幼魚が観察される。硫黄島では成魚も観察された。

(片山英里)

Other collected specimen: KAUM-I. 32358, 39.9 mm SL, Iou-jima.

スズキ目 ベラ科 キュウセン属

ツキベラ

Halichoeres orientalis Randall, 1999

形態 背鰭 IX, 12 ; 臀鰭 III, 11-12 ; 胸鰭

13 ; 側線鱗数 27 ; 鰓耙数 16-18。体高はやや高く、体長の 1/3。体はよく側扁する。口はわずかに斜めで、小さい。口唇は厚みがある。頬と鰓蓋に鱗がない。両顎の前端に 1 組の強い犬歯状歯がある。

色彩 幼魚から成魚を通して体色は緑色で、赤い縞模様がある。背鰭の中央と後半部に 2 眼状斑がある。幼魚では体側中央に細く白い縦線が入る。この白線は成長に伴い消失する。成魚は体前半に赤色と緑色の縞模様があり、体の後半は赤色を呈する。

分布 台湾、国内では八丈島、高知県、琉球列島、小笠原諸島に分布する。

備考 本種は 1997 年に *Halichoeres* sp. と

して小笠原から報告された (Randall et al. 1997)。その後、Randall (1999) によって、沖縄県の瀬底で採集された標本に基づいて新種記載された。

ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* Schultz, 1960 に似るが、眼の後方に 1 縦帯があることで識別される。またニシキキュウセンの幼魚から若魚にみられる尾柄部の黒色斑点は、本種にはない。

岩礁およびサンゴ礁域に生息し、体長約 15 cm の小型種。

(片山英里)

Other collected specimen: KAUM-I. 30610, 23.9 mm SL, Iou-jima.



ツキペラ KAUM-I. 37672, 57.4 mm SL, Iou-jima



ツキペラ Iou-jima, 27 June 2010, Y. Matsuda



シロタスキペラ KAUM-I. 31671, 72.9 mm SL, Iou-jima



シロタスキベラ KAUM-I. 31671, 72.9 mm SL, lou-jima



シロタスキベラ lou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

スズキ目 ベラ科 シロタスキベラ属

シロタスキベラ

Hologymnosus doliatu (Lacepède, 1801)

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 側線鱗数 97-112。幼魚は体がより細長く、成魚では体高が高くなる。その長さは約3分の1から5分の1。体はよく側扁する。頭部と吻はよく尖り、前方に突出する。胸鰭は上方の後端がよく尖る。腹鰭は短く、肛門に達しない。尾鰭はほとんど截形で、雄成魚ではやや湾入する。

色彩 幼魚では白色の体に赤色の細い3縦帯がある。腹側の縦線がもっとも太い。成魚は体色が薄緑色となり、体側に多数の褐色から青みがかった細い横帯がある。



シロタスキベラ lou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

鰓蓋後端に1黒色斑がある。成熟雄の頭部には紫色の模様が入る。

分布 紅海を除くインド・西太平洋に広く分布し、サモア、ライン諸島まで分布する。国内では南日本の太平洋岸、琉球列島、小笠原諸島に分布する。

備考 本種の雄は繁殖期に婚姻色を呈すると、胸鰭後方の体側に白色の横帯が入り、頭部と横帯の間が暗色になる。幼魚は30 m以浅の礫域やサンゴ礁でみられる。体長は最大で約40 cm。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 テンス属

ホシテンス

Iniistius pavo (Valenciennes, 1840)

形態 背鰭 IX, 12-13; 臀鰭 III, 12-13; 胸鰭 12; 側線鱗数 20-22 + 5-6。体高は高く、体長の約2分の1。頭頂から口までが急勾配でほぼ垂直で、口唇が厚い。第1背鰭は幼魚から成魚まで長く伸張するが、成長にともないやや短くなる。眼下後方には2-3列の鱗がある。尾鰭は截形で後端がやや丸い。

色彩 幼魚から若魚では体全体が褐色を呈するか、褐色と白色の縞模様を示す。成魚は白色で、第2背鰭前端基部の下方に黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。富山湾、駿河湾、高知県、琉球列島に分布する。



ホシテンス Showaiou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

備考 本種は潮通しのよい砂地に生息し、危険を感じると頭から砂に潜る。幼魚は肩が潮に流されるかのように海底直上をゆらゆらと泳ぐ。

本種の若魚はしばしばテンスの若魚と混

同されるが、眼下から後方に向かう暗色帯がないことにより識別される。

本種は貝類、軟体類、甲殻類などを捕食する。最大体長は約40 cmに達する。

(片山英里)

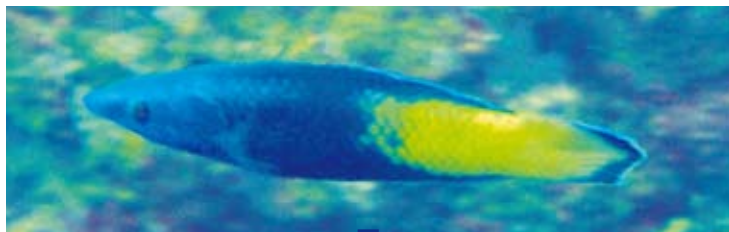
スズキ目 ベラ科 ソメワケベラ属

ソメワケベラ

Labroides bicolor Fowler & Bean, 1928

形態 背鰭 IX, 10-11; 臀鰭 III, 9-10; 胸鰭 13; 側線鱗数 26-28。体は細長く、全体を通してほぼ同じ高さ。吻は長くよく尖る。尾鰭は大きく、截形でやや丸みを帯びる。

色彩 幼魚は体色が黒色で、吻から尾鰭上葉に1黄色縦帯がある。若魚では体全体が白色になり、吻から体側中央部に向かって太い縦帯が走る。成魚では、体の前方は青みを帯びた黒色、後方では淡い黄色。尾鰭は半円形の黒色帯で、後方縁辺は白色に縁取られる。



ソメワケベラ Showaiou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では南日本の太平洋岸、琉球列島、小笠原諸島に分布する。

備考 本種の幼魚はホンソメワケベラのように頻繁にクリーニングをする。幼魚は岩

陰やサンゴの裏などの薄暗い場所をよくみられる。鹿児島県以南の屋久島や硫黄島、琉球列島では成魚も頻繁に見られるが、南日本の太平洋沿岸では、ほとんど出現しない。

(片山英里)



ホンソメワケベラ KAUM-I. 29662, 40.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 ベラ科 ソメワケベラ属

ホンソメワケベラ

Labroides dimidiatus (Valenciennes, 1839)

形態 背鰭 IX, 11–12; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 13; 側線鱗数 52–53。体は細長く、全体を通してほぼ同じ高さ。尾鰭が大きく、幼魚と若魚では円形、成魚では截形となる。

色彩 幼魚では体は黒色で、吻から尾鰭の上葉に向い青色の縦帯がある。若魚から成魚にかけて、背側と腹側に白色部が現れ、徐々に広がる。成魚では白色の体色に吻から尾鰭先端にかけて、後方にいくほど太くなる黒色縦帯がある。体側背側は淡い黄色。尾鰭は薄い青色を呈する。

分布 ハワイを除くインド・太平洋に広く分



■ ホンソメワケベラ KAUM-I. 29617, 17.8 mm SL, Iou-jima

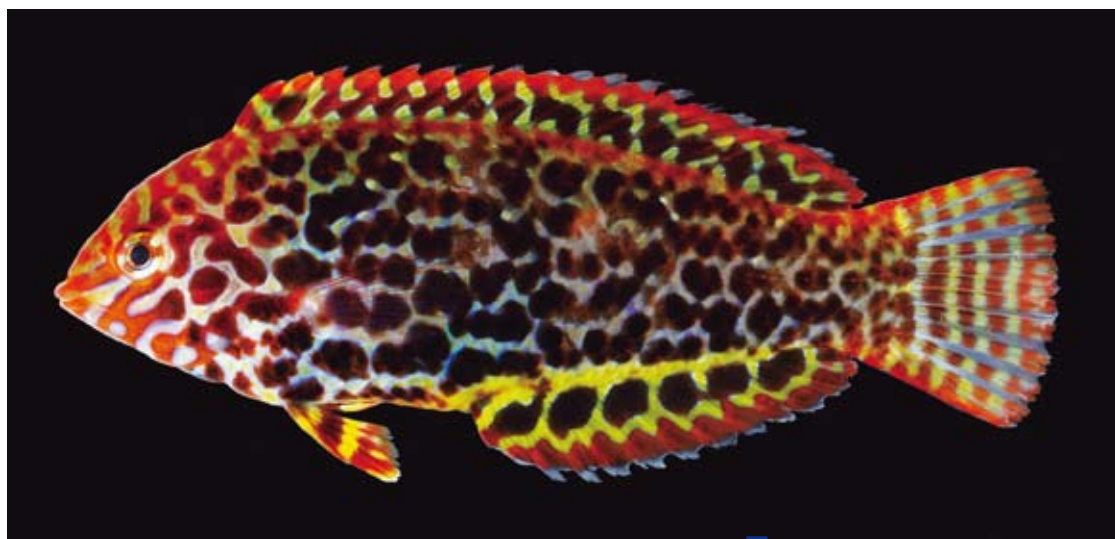
布する。国内では南日本の太平洋岸に広く分布する。

備考 クリーナーとして知られ、他の魚の体表や口腔内につく寄生虫などを食べる。岩陰などでクリーニングをしている姿が観察される。本種は一夫多妻型ハレムを作り、繁殖を行う。その中で、ハレム雄が死亡する

と、最大雌が性転換をしてハレム雄となって継続する。南日本沿岸の浅場で普通に観察される。

(片山英里)

Other collected specimens: KAUM-I. 29489, 14.4 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106704, 12.7 mm SL, Takeshima; NSMT-P 106930, 11.3 mm SL, Iou-jima.



■ ノドグロペラ KAUM-I. 37677, 68.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ベラ科 ノドグロペラ属

ノドグロペラ

Macropharyngodon meleagris (Valenciennes, 1839)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 10–11; 胸鰭 12; 側線鱗数 25–27。体高が高く、吻が長い。本種の幼魚は各鰭が大きく、背鰭始部の体高の約2分の1。

色彩 幼魚は白と赤褐色の小斑が散在する。背鰭の前方は白色で、背鰭と臀鰭の両後端にそれぞれ眼状斑があり、成長に伴い消失する。若魚から亜成魚の体側は基石模様となる。成魚の地色は赤褐色で、体と鰭全体に青緑色の斑紋が規則的に並

ぶ。頭部では後方に向けて繋がった模様となる。

分布 西部・中央太平洋、国内では三宅島、和歌山県、琉球列島南部、小笠原諸島に分布する。

備考 本種の幼魚は海藻などに擬態し、体をくねらせて、流されるように泳ぐ。また、危険を感じるとサンゴや岩の隙間に隠れる。同属の幼魚などと混泳する。

本種は近似種のウスバノドグロペラ *M. moyeri* Shepard & Meyer, 1978 とは背鰭鰭条数が通常 11 (後者は通常 12)、体側に緑色の斑紋が散在する (体全体がピンク色を呈する) ことにより識別され、セジロ



■ ノドグロペラ KAUM-I. 37677, 68.9 mm SL, Iou-jima

ノドグロペラ *M. negrosensis* Herre, 1932 とは幼魚、成魚ともに体に不規則な基石模様が並ぶ (鱗が緑色に縁どられるか、緑白色の斑点が散在する) ことで識別される。

(片山英里)



■ タコベラ KAUM-I. 31660, 47.1 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ベラ科 ホホスジモチノウオ属

タコベラ

Oxycheilinus bimaculatus
(Valenciennes, 1840)

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 12; 側線鱗数 14-15 + 9。体高が高く、吻が丸い。尾鰭は二重湾入型で、雄の尾鰭上葉の鰭条が伸長し、中央部は二分する。個体により下葉先端も伸張する場合がある。

色彩 赤色と白色のまだら模様。成魚では、体側の中央部のやや前方に瞳孔サイズの黒色斑点が出現し、その後方に不明瞭な3赤色斑点がある。雄成魚の体はピンク色からやや黄緑色を帯びる。頭部には淡緑色と桃色の放射状模様があり、背鰭前端には青色斑点がある。

分布 インド・太平洋に分布し、国内では南日本の太平洋岸、琉球列島に分布する。

ガレ場、砂地、サンゴ礁域、および海藻などに生息する。

備考 本種は潮通しのよい岩礁から内湾まで、様々な環境で生活をする。幼魚は生簀のロープや海藻などに寄り添うように身を隠す。最大体長 15 cm 程度の小型種。

(片山英里)



■ ヒメニセモチノウオ KAUM-I. 29676, 36.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 ベラ科 ニセモチノウオ属

ヒメニセモチノウオ

Pseudocheilinus evanidus
Jordan & Evermann, 1903

形態 背鰭 IX, 11-13; 臀鰭 III, 9-11; 胸鰭 14-15; 側線鱗数 14-16 + 4-7。体高が高く、吻は長い。上顎前端には3組の犬歯状歯がある。頬部には水平方向に2列(前方では3列)の鱗がある。背鰭第

1棘は短く、他の棘の約2分の1。背鰭前方2棘は糸状に伸びない。成魚の臀鰭第1、2棘が伸長する。尾鰭は円形で大きい。

色彩 幼魚から成魚までほぼ同じ体色を示

す。体はうすい赤橙色で、体側全体に無数の細い白色縦帯がある。吻から眼下、前鰓蓋にかけて銀白色の縦帯がある。

分布 紅海とハワイ諸島を含むインド・太平洋に広く分布し、国内では南日本の太平洋岸、伊豆諸島、小笠原諸島および琉球列島に生息する。

備考 本種は水深 40 m 付近のやや深場に生息する。潮通しの良い岩礁、サンゴ礁域に出現し、単独で行動する。南日本において、ニセモチノウオと比較すると浅海のサンゴ礁域に出現する頻度は低い。最大体長 7 cm の小型種。本種は性転換を行うが、性転換のサイズには地域差がある。

(片山英里)



■ ヒメニセモチノウオ KAUM-I. 30553, 16.7 mm SL, Iou-jima



■ ニセモチノウオ KAUM-I. 30541, 38.6 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ベラ科 ニセモチノウオ属

ニセモチノウオ

Pseudocheilinus hexataenia (Bleeker, 1857)

形態 背鰭 IX, 11-12; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 15-16; 側線鱗数 16-18 + 5-8。頬部の鱗は水平方向にみて 2 列。体高は高く、吻はよく尖る。口は小さい。上顎前端には 4 組の犬歯状歯がある。背鰭前方の 2 棘は糸状に伸びない。臀鰭第 1、2 棘が伸長する。尾鰭は円形で大きく、体長の約 3 分の 1。

色彩 幼魚から成魚までほぼ同じ体色を示す。紫色の体色に、6 本の橙色縦帯が走る。成魚では頬部から顎にかけて白色小斑点が散在する。尾鰭基底の上方には小眼状斑がある。尾鰭は半円形の黒色帯で、後方縁辺は白色に縁取られる。

分布 インド・太平洋域に広く分布し、国



■ ニセモチノウオ KAUM-I. 30541, 38.6 mm SL, Iou-jima

内では南日本の太平洋岸、八丈島、与論島、琉球列島に生息する。

備考 本種は最大体長 8 cm 程度の小型種で、警戒心が強く、水深 20 m 程度の斜面に生えるサンゴの隙間などに生息する。

本種の口は非常に小さく、プランクトン類を捕食する。雌性先熟で、約 3 cm 程度で性転換をする。

(片山英里)

Other collected specimens: KAUM-I. 30612, 8.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31391, 23.6 mm SL, Take-shima.



ヤマシロベラ KAUM-I. 30608, 23.9 mm SL, Iou-jima

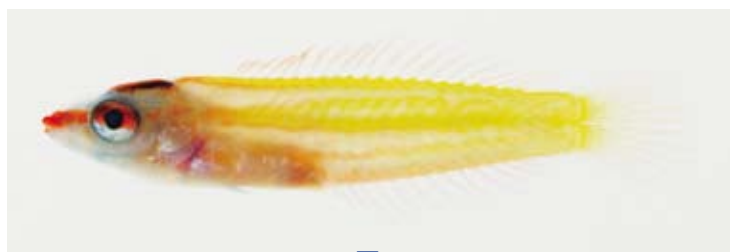
スズキ目 ベラ科 シラタキベラダマシ属

ヤマシロベラ

Pseudocoris yamashiroi (Schmidt, 1931)

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 側線鱗数 70-72。体は細長く、吻は尖る。成熟雄は背鰭第1棘が著しく伸長するが、その後方の棘は短く、やや切れ込む。雌は伸長しない。

色彩 幼魚は体全体が薄い桃色を呈する。吻から眼の上下を通り、体側中央にかけて走る2白色縦帯がある。雌は、体側が薄いオレンジ色で、鰓蓋から腹部にかけてはエメラルドグリーンになる。成熟雄の体色は薄い緑色で、腹側が白色であるが、繁殖行動時には腹側の白色がより強くなり、



ヤマシロベラ KAUM-I. 30609, 14.6 mm SL, Iou-jima

下顎の腹側周辺が濃い藍色の婚姻色となる。

分布 インド洋東部から西太平洋にかけて広く分布する。国内では南日本の太平洋岸から琉球列島と小笠原諸島に分布する。

備考 水深約 20 m の潮通しのよい、岩礁やガレ場およびサンゴ礁域に生息し、大小の群れを形成する。亜熱帯の地域に広く分布するが、インド洋と西太平洋間の個体群で体色に地理的変異があるとされる。

(片山英里)



ブダイベラ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ベラ科 ブダイベラ属

ブダイベラ

Pseudodax moluccanus (Valenciennes, 1840)

形態 背鰭 XI, 12-13; 臀鰭 III, 14; 胸鰭 15; 側線鱗数 31-33。本種は大きな2組

の門歯状歯をもつ。幼魚では体は細長い成魚になると体高が高くなる。吻はよく尖り、口は小さい。吻長は眼の約2倍。尾鰭は円形。

色彩 幼魚は赤褐色に背側と腹側にそれぞれ、吻から尾柄部にかけて白色縦帯があ

る。成魚は地色が茶色に、赤褐色の斑紋が各鱗にそれぞれあり、規則正しく並ぶ。雌は 臀鰭基部に黄色の横帯がある。上顎は黄色を呈する。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋域に広く分布し、国内では南日本から琉球列島、



スミツキオグロベラ lou-jima, 9 Oct. 2010, Y. Matsuda

伊豆諸島および小笠原諸島に分布する。

備考 名前の通り、ブダイに似た体型と大きな前歯をもつ。本種の幼魚はホンソメワケベラと同様に頻繁に他種へのクリーニングをする。外洋に面した潮通しのよい、岩礁やサンゴ礁に生息する。

(片山英里)

スズキ目ベラ科オグロベラ属

スミツキオグロベラ

Pseudojuloides mesostigma

Randall & Randall, 1981

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 側線鱗数 26-28; 背鰭前方鱗数 10-11。

体は細長く、円筒形。体高は体長の2分の1。吻はよく尖り、上顎はわずかに前方に突出する。両顎の前端に1組の犬歯状歯があり、口を閉じた際に、上顎前歯は前方に、下顎前歯は内側の上方へ向く。腹鰭は短く、肛門に達しない。尾鰭は截形。

色彩 雌の体色は薄い赤色、吻から眼下にかけて銀白色の帯が入る。雄の体側上方には青色の虫食い状の模様があり、中央には背鰭から体側にかけて黒色帯がある。尾鰭は黒色で、後端は透明。そのため、尾鰭が湾入しているようにみえる。

分布 西太平洋に分布し、国内では、南日本の太平洋岸から琉球列島にかけてと伊豆諸島に生息する。

備考 本種は同属他種と比べると、体は円筒形で細長い。水深25m以深の深場に生息し、ハレムを形成する。稀種。他のオグロベラ属の他種とも混泳する。

(片山英里)



アオスジオグロベラ lou-jima, 9 Oct. 2010, E. Shinkai

スズキ目ベラ科オグロベラ属

アオスジオグロベラ

Pseudojuloides severnsi

Bellwood & Randall, 2000

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 背鰭前方鱗数 7-9。体は細長く、体の高さは体長の約2分の1。頭長は体長の3分の1以下で、小さい。吻はよく尖り、口は前方によく突出する。両顎には前端に突出した1組の犬歯状歯がある。尾鰭は截形でやや湾入する。

色彩 雌は体全体が桃色、吻から眼下にかけて白色のラインが入る。雄は黄緑色の

体色に、眼の後方から体側中央にかけて暗色となる。体側中央部の背鰭から胸鰭後方まで濃い黒色を呈する。それらの暗色帯に沿うように吻部から尾柄に向かい、青色のラインが1-2本ある。尾鰭の両葉にはそれぞれ黒色帯がある。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では、南日本の太平洋沿岸、伊豆諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は2000年にインドネシアとスリランカで採集された個体に基づき記載された (Bellwood & Randall, 2000)。潮通しの良いガレ場、藻場、サンゴ礁に生息する。やや深場で見られるが、石垣島などでは水深13mで観察されている。雄1個体に雌6-7個体ほどのハレムを形成し、繁殖を行う。底性動物を捕食する。

(片山英里)



アカササノハベラ KAUM-I. 29734, 114.1 mm SL, Iou-jima



アカササノハベラ KAUM-I. 33938, 71.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ベラ科 ササノハベラ属

アカササノハベラ

Pseudolabrus eoethinus (Richardson, 1846)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 13; 側線鱗数 24-26。体高はやや高く、吻は

長く、その長さは眼径の約2倍。尾鰭は截形。

色彩 体は淡い赤色で、垂直鰭はやや黄色みを帯びる。頭部から鰓蓋にかけて細い3黄色縦帯がある。この縦帯は成長に伴い褐色となる。

分布 台湾、南シナ海、南日本の太平洋岸に分布する。漁港の堤防から30m付近の岩礁域まで様々な場所で見られる。

備考 最大体長約23cmに達する。本種はホシササノハベラとともに「ササノハベラ」という和名で、同種とされてきたが、



アカササノハベラ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

Mabuchi & Nakabo (1997) により2種に分類された。本種はホシササノハベラとは、体側に白色斑点がないこと（ホシササノハベラではある）、頭部に縦線のうち、最下方の縦線が眼の下を通り、胸鰭基部に達すること（水平方向に後方に伸びる）により識別される。南日本の沿岸でよくみられる普通種。

（片山英里）

Other collected specimens: KAUM-I. 29411, 143.1 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 29559, 68.0 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 34007, 131.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37684, 129.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37936, 117.7 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37937, 125.3 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106174, 128.7 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106901, 52.8 mm SL, lou-jima.



アカササノハベラ lou-jima, 12 May 2010, K. Matsuno

スズキ目 ベラ科 カミナリベラ属

オニベラ

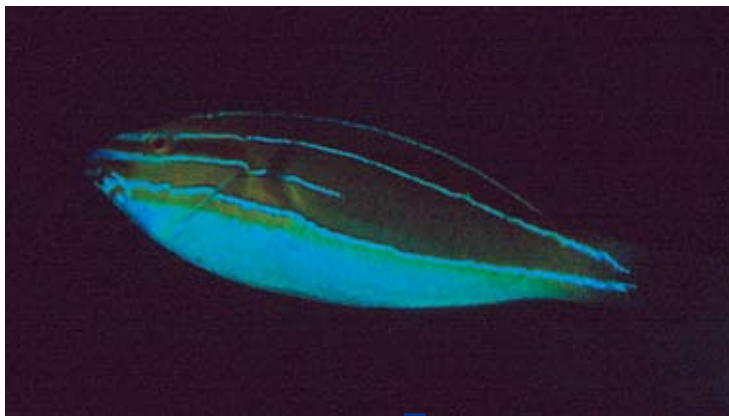
Stethojulis trilineata (Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 12-13; 側線鱗数 20-21。

色彩 雌の体側上方は薄い褐色を呈し、白色の小斑点が散在するが、下方は白色で2-3本の暗色斑点縦列がある。雄は山吹色の体色に背鰭基底部、体側上方と下方の吻から尾柄部にかけてと、吻から胸鰭基底にかけて、4本の青色縦帯がある。

分布 インド・西太平洋に広く分布し、国内では八丈島、和歌山県、高知県、屋久島、竹島、琉球列島南部に生息する。

備考 本種はハラスジベラに似るが、胸鰭鰭条数と腹部に2-3列の暗色斑点がある



オニベラ Take-shima, 9 Sept. 2007, S. Dewa

ことにより識別される。

幼魚から若魚は、内湾のサンゴや転石などを隠れ家として生活する。浅いガレ場、

岩礁、サンゴ礁などに生息する。

（片山英里）

スズキ目 ベラ科 ニシキベラ属

コガシラベラ

Thalassoma amblycephalum (Bleeker, 1856)

形態 背鰭 VIII, 13; 臀鰭 III, 10-11; 胸鰭 14-15; 側線鱗数 25-28。体は全体的に細長く、頭部は丸みを帯びる。吻は短く、眼径と吻長がほぼ同長。両顎は小さく、その後端は眼の前縁に達しない。雄では背鰭前半は後半より短く、胸鰭は上方が長く、下方が短い。幼魚から雌の尾鰭は截形で、雄では両葉先端の鰭条が伸長し、大きく湾入する。成熟した雄ではより長く、体長の約3分の1になる。頭部は鱗を欠く。

色彩 幼魚は白色の地色で、背鰭と体側背面、および吻から尾柄にかけて2本の黒色縦帯がある。成長に伴い、帯の縁辺が不明瞭になり、2縦帯間が緑褐色となる。雌の尾鰭両葉は尾柄から先端に向い、橙色を呈する。雄では、頭部から胸鰭基部後方までが黄緑色となり、体と鰭はうすい



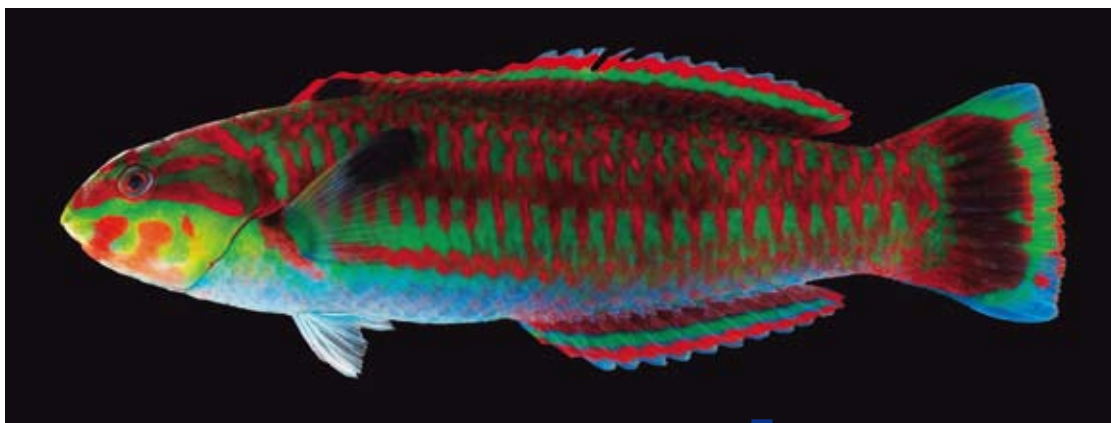
コガシラベラ lou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

ピンク色を呈する。眼の後端と眼下からそれぞれ鰓蓋に向う2本の鮮やかなピンク色の細い縦線がある。尾鰭には両葉の尾柄部から先端にかけてピンク色の帯がある。性転換中の個体は、体が雌の体色を示し、頭部が雄の体色を示す。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では相模湾以南の南日本太平洋岸から琉球列島、伊豆諸島、小笠原諸島に生息する。

備考 南日本の太平洋岸では幼魚から成魚まで、浅い岩礁などで普通に観察される。幼魚期の体色で白黒の縦帯をもつことは、ベラ科の中でも特徴的で、本種は水中でも容易に識別できる。垂直鰭をたたみ、胸鰭を動かして、岩礁やサンゴ礁に沿って飛ぶように泳ぐ。幼魚はしばしば群れを形成し、他種をクリーニングする姿も見られる。雌性先熟の性転換魚で、本調査では性転換中と考えられる個体が水中で撮影された。

(片山英里)



ニシキベラ KAUM-I. 37879, 40.6 mm SL, lou-jima

スズキ目 ベラ科 ニシキベラ属

ニシキベラ

Thalassoma cupido

(Temminck & Schlegel, 1845)

形態 背鰭 VIII, 13; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 14-16; 側線鱗数 25-28。体は細長く、吻は丸い。背鰭の第1-8棘は軟条より短い。腹鰭は短く、肛門に達しない。尾鰭は截形。

色彩 幼魚の体色は白色で体側に2本の赤褐色縦帯がある。背鰭前部に黒色斑点が3-4個ある。若魚と成魚では体側の背側が緑色で、腹側が青色を呈し、体側中央には赤褐色の骨状の模様がある。背鰭と臀鰭鰭膜は褐色で、細い緑色縦帯がある。成魚では背鰭前部の1黒色斑点のみが残る。



ニシキベラ KAUM-I. 37725, 32.6 mm SL, Take-shima

分布 朝鮮半島、台湾、南日本の広範に分布する。

備考 温帯種で、南日本の浅い岩礁およびサンゴ礁域における普通種。ハレムを形成する。

(片山英里)

Other collected specimens: KAUM-I. 37825, 19.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37878, 99.3 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37966, 40.0 mm SL, Showaiou-jima; KAUM-I. 37967, 39.5 mm SL, Showaiou-jima; KAUM-I. 37969, 19.8 mm SL, Showaiou-jima; NSMT-P 106133, 18.2 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106145, 107.2 mm SL, lou-jima.



チビブダイ KAUM-I. 37660, 28.7 mm SL, Take-shima

スズキ目 ブダイ科 ブダイ属

チビブダイ

Calotomus spinidens
(Quoy & Gaimard, 1824)

形態 胸鱗 10-13；背鱗前方鱗数 4；頬部第 1 鱗列鱗数 4-5。体高は低く、体長は体高の 2.7-3.1 倍。両顎歯の癒合は不完全で、歯は覆瓦状に並ぶ。上顎前方部は円錐状歯。歯は唇に被われる。尾鱗は円形。

色彩 幼魚は、体全体が一樣に黄緑色で体側に不明瞭な白色斑がある。背鱗の第 1 棘と 2 棘の鱗膜付近が黄白色で他は透明。尾鱗の上下両葉の縁辺は黄緑色で他は透明。胸鱗と臀鱗は一樣に透明。腹鱗は白色。雄は、眼から上顎まで 2 本の桃色斜線が入る。頭部に小橙色斑がある。背鱗棘条部前方に 1 暗色斑がある。体側に淡い橙色斑がある。胸鱗基部は暗色。雌は、体側に赤褐色や灰褐色の斑紋があり、列をなす白色点が縦に 3 本ある。その白色点列が不明瞭な幅広い縞模様になる

個体もいる。尾鱗の上下両葉の縁辺に黒色点が入る。

分布 紅海を除くインド洋からガラパゴス諸島までの太平洋に広く分布する。国内では、屋久島、竹島、琉球列島に分布する。

備考 本種はアマモなどの生えた藻場に好んで生息する。また、周囲の環境によって体色を変化させることができる。

(荻原豪太)



イロブダイ KAUM-I. 31672, 25.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ブダイ科 イロブダイ属

イロブダイ

Cetoscarus ocellatus
(Valenciennes, 1840)

形態 胸鱗 14-15；背鱗前方鱗数 5-7；頬部第 1 鱗列鱗数 6-8、第 2 列 5-8、第 3 列 3-7。吻は長く、頭長は吻長の 1.8-2.2 倍。両顎歯板の外表面は小粒状を呈し、両顎歯は癒合する。上顎歯板は唇でほとん

ど被われる。後鼻孔は前鼻孔より大きい。幼魚の尾鱗は円形で成魚では湾入形。

色彩 幼魚は、吻部を除いた頭部が黒色で縁取られた幅広い橙色横帯で被われる。

吻部と体側は白色。背鰭の前方は白色から橙色で1黒色斑があり、他は透明。尾鰭基部付近は白色で縁辺は橙色。胸鰭と臀鰭は透明。腹鰭は淡橙色。雄は、体全体が緑色で、桃色で縁取られた鱗をもつ。上顎後端から胸鰭基部下端を通り、臀鰭基部まで淡橙色線が走り、その下部を除いた頭部と体側前半部に多数の小桃色点がある。下顎から臀鰭基部までの腹面に桃色の縦帯がある。雌は、頭部が紫色を帯びた茶色。背鰭基部付近から尾柄上部まで黄色。その下部は赤色を帯びた茶色で、黒色で縁取られた鱗をもち、その鱗に多数の黒色点がある。各鰭は赤褐色で尾鰭の後端のみ白色。

分布 紅海を除くインド洋からツアモツ諸島まで広く分布する。ハワイ諸島には生息しない。国内では、八丈島と和歌山県以南の南日本、大隅諸島、口之島、伊江島、および渡嘉敷島などに分布する。

備考 イロブダイ属は *Cetoscarus bicolor* (Rüppell, 1829) の1種のみが有効とされていた。しかし Randall (2005) によると、*C. bicolor* は紅海の固有種であり、インド・太平洋に広く分布する種は *C. ocellatus* である。このことから日本近海でみられる本属魚類は *C. ocellatus* と同定される。

(荻原豪太)



ナンヨウブダイ lou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda



ナンヨウブダイ lou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ブダイ科 ハゲブダイ属

ナンヨウブダイ

Chlorurus microrhinos (Bleeker, 1854)

形態 胸鰭 15-17；背鰭前方鱗数 3-4；頬部鱗列数 3。上顎歯板の外側は滑らかで、両顎歯は癒合する。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。上顎歯板は唇でほとんど被われない。吻部の傾斜が強く、ほぼ垂直で老成個体はややこぶ状に隆起する。尾鰭は截形で、両葉後端が伸長する。幼

魚の尾鰭は弱い円形。

色彩 幼魚は体全体が一様に黒褐色で、体側に黄色がかった白色縦帯が4本入る。成魚は体全体が青色がかった緑色で、桃色横帯が各鱗に入る（ただし大型の雄個体は消失する）。上唇に青色がかった緑色帯が入る。下顎から鰓蓋後端まで明るい緑色縦帯が入る。背鰭と臀鰭は、青色がかった緑色で中央に淡い緑色縦帯が入る。歯板は青色がかった緑色。

分布 小スンダ列島、ハワイ諸島、イースター島を除く太平洋に広く分布する。国内では、小笠原諸島、伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸（幼魚のみ）、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はしばしば *Scarus gibbus* Rüppell, 1829 として誤同定されることがあるが、*S. gibbus* は紅海固有種である。また、本種と酷似する *Scarus stronglylocephalus* Bleeker, 1855 はインド洋にのみ分布する。

(荻原豪太)



ナンヨウブダイ lou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



カメレオンブダイ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

カメレオンブダイ

Scarus chameleon Choat & Randall, 1986

形態 胸鱗 14；背鱗前方鱗数 4；頬部第 1 鱗列鱗数 6-7、第 2 列 6-7、第 3 列 1-3。上顎歯板の外面は滑らかで、両顎歯は癒合する。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。上顎歯板は 3/4 が唇で被われる。雄の尾鱗は湾入形から三日月形で、雌のそれは弱い円形から弱い湾入形。

色彩 幼魚は褐色がかかった灰色で、腹側にいくにつれて白色がかり、細かい桃色斑が入る。雄は体が緑色で、桃色で縁取られた鱗、または鱗の縦半分が桃色で残りの半分が緑色。頭部腹側から臀鱗基底の半分付近までの体側が桃色。体側の腹面は明るい緑色。吻端から前鰓蓋付近まで、眼の後端から鰓蓋までと両眼間隔に緑色縦帯が入る。尾鱗は中央に緑色の D 型模様があり、その後方に似鳥色斑が入る。雌は体側背側が灰色で腹側は白色。体側の背側半分各鱗に黄色帯が入る。尾柄

の各鱗に黄色斑が入る。尾鱗は黄色。

分布 西オーストラリア州のインド洋からからフィジーの南太平洋まで分布する。国内では、和歌山県（幼魚のみ）、屋久島、硫黄島、琉球列島から知られている。

備考 本種は、ツキノワブダイ *Scarus festivus* Valenciennes, 1840 と混同されてきたが、眼上部に横帯が 1 本である（ツキノワブダイは 2 本）、雄の頭部背面が膨らまないこと（膨らむ）で識別される。（荻原豪太）



カメレオンブダイ lou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



カメレオンブダイ lou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda



ツキノワブダイ KAUM-I. 34009, 280.2 mm SL, Iou-jima



ツキノワブダイ KAUM-I. 34010, 255.4 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

ツキノワブダイ

Scarus festivus Valenciennes, 1840

形態 胸鰭 13-14；背鰭前方鱗数 4-5；類部第1鱗列鱗数 6-7、第2列 6-8、第3列 1-3。上顎歯板の外側は滑らかで、両顎歯は癒合する。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。上顎歯板は1/2以上が唇で被われる。眼上部が突出する。尾鰭は湾入形。

色彩 雄は体全体が緑色で、桃色で縁取られた鱗をもつ。頭部はわずかに紫色がかつ

た灰色。2本の緑色横帯が眼上部にある。上顎の縁辺から青緑色の横帯が前鰓蓋骨後端まである。その青緑色の横帯と平行に橙色の横帯がある。雌は体の背面部が茶色で、それぞれの鱗に橙色の横帯がある。体の腹面部は白色。不明瞭な2本の緑色横帯が眼上部にある。雌雄ともに下顎に2本の青緑色の横帯がある。

分布 アフリカ東岸からミクロネシアまでのインド・西太平洋に広く分布するが、紅海には生息しない。国内では、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島（伊江島など）に分布する。

(荻原豪太)

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

イチモンジブダイ

Scarus forsteni (Bleeker, 1861)

形態 胸鰭 14-15；背鰭前方鱗数 5-7；類部第1鱗列鱗数 5-7、第2列 6-9、第3列 2-5。大型の成魚は、上顎歯板の後ろに1から2本の円錐歯がある。上顎歯板の外側は滑らかで、それは1/2以上が唇で被われる。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。雄の尾鰭は三日月状で両葉後端が伸長し、雌のそれは浅い湾入形。

色彩 雄は頭部から体側背面が緑色で、



イチモンジブダイ（オス） KAUM-I. 37765, 333.5 mm SL, Take-shima



イチモンジブダイ（メス） KAUM-I. 37623, 250.0 mm SL, Iou-jima

腹面にかけて桃色から橙色。上下吻端から眼下を通り鰓蓋後端までと胸鰭基部から尾鰭基部まで緑色がかった青色線が入る。胸鰭は上下外縁が緑色がかった青色で中央は桃色。背鰭と臀鰭は青色で中央に橙色縦帯が入る。腹鰭は外縁が薄い青色でその内側は黄色。尾鰭両葉の外縁は青色で、その内側は橙色で中央に広い青色部がある。雌は頭部から体側背面が赤色がかった茶色から赤色がかった灰色で、腹面は淡い赤色から淡い橙色。眼の後端から尾柄にかけて、不明瞭の黒色がかった茶色縦帯が入る。背鰭と尾鰭は鮮やかな赤色。胸鰭は上部が鮮やかな赤色で下部は淡い赤色。腹鰭と臀鰭は淡い橙色。幼魚は、地色が黒褐色で4白色縦帯が入り、淡い桃色点が横列に並ぶ。



イチモンジブダイ Iou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda



イチモンジブダイ (メス) KAUM-I. 37649, 287.4 mm SL, Iou-jima



イチモンジブダイ Iou-jima, 7 July 2009, Y. Komiya

分布 ココス（キーリング）諸島からラパ島まで広く分布するが、ハワイ諸島には生息しない。国内では、小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾（幼魚のみ）、和歌山県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はダイダイブダイ *Scarus glabripes* Valenciennes, 1840 や *S. tricolor* Bleeker, 1847 と誤同定されて報告されることがある。

（荻原豪太）



イチモンジブダイ Take-shima, 19 Sept. 2010, Y. Matsuda

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

オグロブダイ

Scarus fuscocaudalis Randall & Myers, 2000

形態 胸鰭 10-13；背鰭前方鱗数 4；頬部第 1 鱗列鱗数 6-7、第 2 列 6、第 3 列 1-2；脊椎骨数 12 + 13；鰓耙数 39-47；有孔側線鱗数 17-18 + 4-5。体は中程度に細長く、体長は体高の 2.6-2.8 倍。上

顎歯板の外側は滑らかで、両顎歯は癒合する。上顎歯板は 3/4 が唇で被われる。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。鱗は大きく円鱗。雄の尾鰭は三日月形で両葉後端が伸長する、雌のそれは二重湾入形。

色彩 雄は体側の背側が桃色で腹側は緑色。体側の腹側に3本の明るい緑色縦帯が入る。上唇から眼の直下付近まで青色がかった緑色帯が入る。背鰭は青色で基部と外縁に紅色がかった桃色縦帯が入る。臀鰭は基部が紅色がかった桃色で、外縁は青色。尾鰭の基部は紅色がかった桃色と青色で、両葉の外縁は青色で縁取られた紅色がかった桃色帯が入る。尾鰭の中央は紫色がかった青色帯が入る。雌は体全体が赤褐色から赤色がかった桃色で、頭部の腹側から尾柄の腹側まで青色がかった緑色。体側の腹側に2、3本の緑色縦帯が入る。背鰭は紅色がかった桃色で、青色で縁取られ、各鰭膜に大きな青色斑が入る。臀鰭は基部が紅色がかった桃色で、外縁は青色。尾鰭に大黒色斑があり、その周りは橙色。



オグロブダイ Take-shima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

分布 インドネシアからマーシャル諸島の太平洋に分布するが、ハワイ諸島には出現しない。国内では、紀伊半島（幼魚のみ）、屋久島、竹島、奄美諸島、伊江島、西表島などから記録されている。

備考 本種はキビレブダイ *Scarus hypselopterus* (Bleeker, 1853) に酷似するが、

側腹側に走る3緑色縦帯が明瞭であることから識別される。

(荻原豪太)



ダイダイブダイ (メス) KAUM-I. 37801, 185.6 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

ダイダイブダイ

Scarus globiceps Valenciennes, 1840

形態 胸鱗 14；背鰭前方鱗数 4-6；頬部第1鱗列鱗数 5-7、第2列 6-8、第3列 1-4。上顎歯板の外縁は滑らかで、両顎歯は癒合する。雄の上下歯板には、1-2本の犬歯があり、雌にはない。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。上顎歯板は1/2以上が唇で被われる。雄の尾鰭は浅い湾入形で、雌のそれは截形。

色彩 雄は体全体が緑色で、桃色で縁取ら

れた鱗をもつ。体側腹側に3緑色縦帯が走る。体側前半の背部に多数の緑色点がある。頭部の上顎上方から腹面まで緑色域で、その上方に眼を通る緑色線が入る。胸鰭は上下外縁が緑色がかった青色で中央は橙色。背鰭と臀鰭は青色で中央に橙色縦帯が入り、背鰭軟条部の橙色域に緑色斑が入る。腹鰭は外縁が青色でその内側は橙色。尾鰭は緑色。雌は体全体が茶褐色で、腹部にいくにつれて明るい茶褐色になる。体側腹側にやや不明瞭な3白色縦帯が走る。背鰭と尾鰭は黄色みがかった褐色で、背鰭の外縁は青色みがかった灰色。臀鰭と腹鰭は赤色みがかった褐色で、臀鰭の外縁は青色みがかった灰色。

分布 アフリカ東岸からソシエテ諸島までのインド・太平洋に広く分布するが、紅海やハワイ諸島には出現しない。国内では、小笠原諸島、和歌山県（幼魚のみ）、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の雌はスジブダイ *Scarus rivulatus* Valenciennes, 1840 の雌と酷似するが、尾鰭が截形である（スジブダイでは円形）、体色が茶褐色で体側中央がやや黄色みがかかること（灰褐色）から識別される。

(荻原豪太)



■ ブチブダイ KAUM-I. 30583, 14.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

ブチブダイ

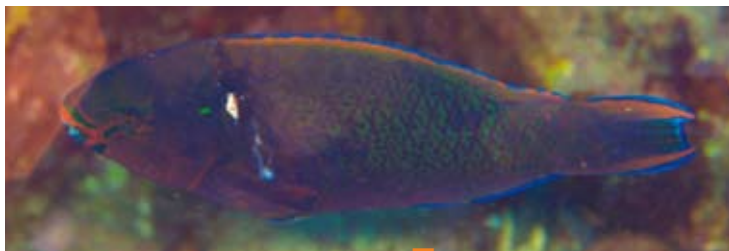
Scarus niger Forsskål, 1775

形態 胸鱗 13-15；背鱗前方鱗数 6-8；類部第 1 鱗列鱗数 6-7、第 2 列 6-9、第 3 列 3-5。上顎歯板の外面は滑らかで、両顎歯は癒合する。上顎歯板には、0-4 本の犬歯がある。上顎歯板は 1/2 以上が唇で被われる。雄の尾鱗は浅い二重湾入形で両葉後端は伸長し、雌のそれは弱い円形で、幼魚は円形。

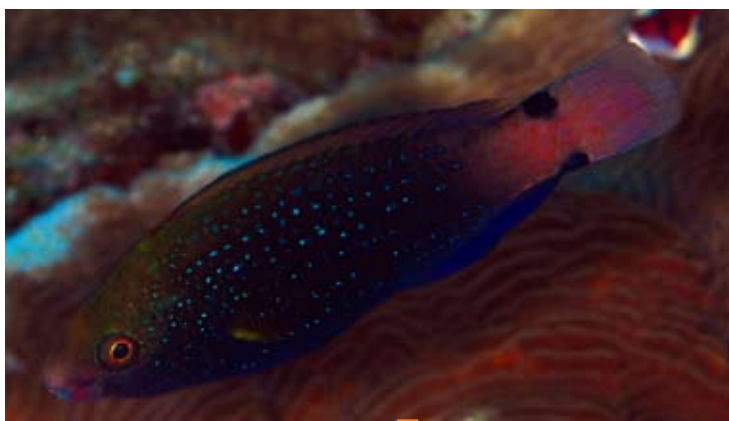
色彩 雄は体全体が緑色で、赤色みがかった褐色で縁取られた鱗をもつ。胸鱗は赤紫色。雌は体全体が緑色がかった灰色で、暗褐色で縁取られた鱗をもつ。体側前半部に暗褐色斑がある。雌雄ともに 3 本の緑色線が上顎上方、下顎、下顎下方にある。鰓蓋上方に黒色で縁取られた緑色斑がある。幼魚は体全体が褐色で、多数の白色斑が体側にある。尾柄の背面と腹面にそれぞれ黒色斑があり、その直後に白色横帯が入る。各鱗は透明。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、駿河湾以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に生息する。

(荻原豪太)



■ ブチブダイ Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



■ ブチブダイ Iou-jima, 10 Oct. 2010, Y. Matsuda

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

アオブダイ

Scarus ovifrons

Temminck & Schlegel, 1846

形態 胸鱗 15；背鱗前鱗列数 6；類部第 1 鱗列鱗数 5、第 2 列 7、第 3 列 1。上顎歯板は青く、唇にほとんど被われず、露

出する。上顎歯板の外面は滑らかである。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。吻から頭部の背面は成長するに伴い急峻になり、老成魚では顕著に前頭部の外縁が前方に突出する。尾鱗は截形。

色彩 幼魚は体全体が赤褐色で吻から尾柄まで白色縦帯が 3 本走る。成魚と若魚の背鱗、腹鱗、腎鱗、尾鱗および胸鱗の縁辺は青い。雌の体色は一樣に青緑色だ

が、雄は背鱗の前半と胸鱗縁辺以外は橙色で、頬の下部は黄緑色。

分布 韓国、日本、台湾、香港、南沙群島に分布する。国内では、八丈島、東京湾以南の南日本、大隅諸島、トカラ列島から記録されているが、琉球列島南部からの記録はない。

(荻原豪太)



アオブダイ KAUM-I. 37674, 453.3 mm SL, Iou-jima



スジブダイ KAUM-I. 37760, 275.2 mm SL, Take-shima

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

スジブダイ

Scarus rivulatus Valenciennes, 1840

形態 胸鰭 14-15；背鰭前方鱗数 6-7；頬部第 1 鱗列鱗数 5-7、第 2 列 5-7、第 3 列 1-3。上顎歯板の外縁は滑らかで、両顎歯は癒合する。雄の上顎歯板には 2 本、下顎歯板には 0-1 本の犬歯があり、雌にはない。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。上顎歯板は 1/2 以上が唇で被われる。雄の尾鰭は湾入形で両葉後端はわずかに伸長し、雌と幼魚のそれは弱い円

形または截形。

色彩 雄は体全体が緑色で、体側後半の鱗は鱗の前半が桃色で後半が緑色。鰓蓋下部は明るい橙黄色で、吻と下顎の下方は橙黄色。吻部に唐草模様がある。体側腹部に 3 緑色縦帯が走る。胸鰭は明るい黄緑色で、上縁が青色がかった緑色、下縁は淡い紅色。背鰭と臀鰭は青色がかった緑色で中央に橙黄色縦帯が入り、その橙黄色域に緑色斑が入る。腹鰭は外縁が青色でその内側は橙黄色。尾鰭は緑色。雌は体全体が灰褐色で、腹部にいくにつれて灰黄色が強い褐色になる。体側腹部にやや不明

瞭な 3 白色縦帯が走る。背鰭と尾鰭は褐色で、背鰭の外縁は暗褐色。臀鰭と腹鰭は赤色みがかった褐色。

分布 オーストラリア西部、スリランカ、アンダマン海などのインド洋と西太平洋に分布する。国内では高知県、竹島や屋久島を含む大隅諸島や伊江島などの琉球列島に分布する。

備考 *Scarus fasciatus* Valenciennes, 1840 は本種の新参異名として扱うのが妥当である。

(荻原豪太)



ナガブダイ (オス) KAUM-I. 37675, 415.5 mm SL, Iou-jima



ナガブダイ (メス) KAUM-I. 37916, 360.9 mm SL, Take-shima

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

ナガブダイ

Scarus rubroviolaceus Bleeker, 1847

形態 胸鰭 14-16；背鰭前方鱗数 5-7；
 頬部第1鱗列鱗数 5-7、第2列 5-7、第
 3列 1-3。上顎歯板の外側は滑らかで、
 両顎歯は癒合する。雄の上顎歯板には
 1-3本、雌のそれには0-1本の犬歯が
 ある。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大き
 さ。上顎歯板は1/2以上が唇で被われ
 る。吻の外縁はほぼ垂直。雄の尾鰭は
 三日月形で、雌のそれは湾入形、幼魚
 は截形。

色彩 雄は体側背面が緑色で、腹面に
 いくつれて青色みがかった緑色になり、桃

色で縁取られた鱗をもつ。上唇は淡い紅
 色でその上方は青色みがかった緑色帯
 が入り、下唇は青色みがかった緑色。
 胸鰭は、明るい黄緑色で、上縁が青色
 がかった緑色、下縁は上端より明るい
 青色がかった緑色。背鰭と臀鰭は青
 色みがかった緑色で中央に橙色縦帯
 が入り、その橙色域に青色みがか
 った緑色斑が入る。腹鰭は外縁が青
 色でその内側は橙色。歯板は濃い緑
 色で白色で縁取られる。雌は体全体
 が赤色みがかった褐色で、腹部にい
 いくつれて明るい赤色みがかった褐
 色になる。体側の鱗は黒色点と不規
 則な黒色線が入り、鱗の後端は黒
 色で縁取られる。各鰭は赤色。歯
 板は白色。幼魚は、体全体が灰色
 みがかった白色で、体側に3褐色縦
 帯が入る。

分布 イースター島、ラバ島、オース
 トラル諸島を除くインド・太平洋広
 域に分布する。国内では、小笠原諸
 島、伊豆諸島、和歌山以南の南日
 本、屋久島、竹島、硫黄島、琉球
 列島などに分布する。

備考 本種はサンゴ礁域に生息し、
 最大70 cmに達する。本種の雌は
Scarus xanthopleura Bleeker, 1853
 の雌と酷似しているが、各鱗に黒色
 点が入ることや上顎歯板に犬歯を
 有することから識別される。

(荻原豪太)

Other collected specimen: KAUM-I. 30582, 12.7 mm SL, Iou-jima.



オビブダイ (メス) KAUM-I. 37914, 250.5 mm SL, Take-shima

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

オビブダイ

Scarus schlegelii (Bleeker, 1861)

形態 胸鱗 14；背鱗前方鱗数 4；頬部第 1 鱗列鱗数 6-7、第 2 列 5-7。上顎歯板の外面は滑らかで、両顎歯は癒合する。雄の上顎歯板には 1 本、下顎には 2 本の犬歯があり、雌のそれにはない。前鼻孔と後鼻孔は同程度の大きさ。上顎歯板は 1/2 以上が唇で被われる。吻部外縁はほぼ垂直。雄の尾鱗は二重湾入形で両葉後端はわずかに伸長し、雌のそれは弱い円形。

色彩 雄は体全体が暗い緑色で、橙色みがかかった赤色で縁取られた鱗をもつ。体側中央の背面から臀鱗基部にかけて緑色みがかかった黄色横帯が入る。その横帯の背面には明るい黄色斑がある。上下唇は青色で縁どられる。胸鱗は明るい緑色で、上方が褐色、上端と基部は青色がかかった緑色。背鱗と臀鱗は橙色で青色みがかかった緑色で縁どられ、その橙色域に青色みがかかった緑色斑が入る。腹鱗は外縁が青色でその内側は橙色。尾鱗は緑色みがかかった青色で、暗い緑色横帯が 3 本入り、背縁と腹縁は青色みがかかった緑色で縁どられる。歯板は濃い緑色。雌は体全体が赤色みがかかった褐色で、5 白色横帯が体側に入る。胸鱗上端基部に黒色点がある。吻と吻部腹面は灰色で、くすんだ青色帯が上下唇に入る。背鱗と臀鱗は橙色で青色みがかかった緑色で縁どられ、その橙色域に青色みがかかった緑色斑が入る。

分布 ココス（キーリング）諸島からフランス領ポリネシア（マルキーズ諸島を除く）まで広く分布するがハワイ諸島やイース



オビブダイ (メス) Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa



オビブダイ (オス) Iou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

ター島には生息しない。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はしばしば *S. venosus* Valenciennes, 1840 と誤同定されることがある。
(荻原豪太)



ヨツメトラギス KAUM-I. 29794, 98.6 mm SL, Take-shima

スズキ目トラギス科トラギス属

ヨツメトラギス

Parapercis clathrata Ogilby, 1910

形態 背鰭 IV, 20–21；臀鰭 I, 17–18；胸鰭 17–18；側線有孔鱗数 57–60。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部と軟条部の間に浅い欠刻があるが、第4棘と第1背鰭軟条は鰭膜でつながる。尾鰭は截形で上端は伸長しない。下顎前部の犬歯状歯は3対。

色彩 体側上部はうすい褐色で、体側下部は白色。頭部、体側上部には褐色斑が散在する。雄には頭部背面に1対の黒色斑

がある。雌にはない。体側上部には不明瞭な褐色縦線がはいり、体側下部には明瞭な黄褐色縦線が走る。黄褐色縦線には10の黄褐色斑が並び、さらに黄褐色斑上には黄褐色線上に沿って黒色点が並ぶ。また体側には褐色縦線から黄褐色縦線にかけて8–9の不明瞭な褐色横線がはいる。背鰭棘条部の鰭膜は褐色。背鰭軟条部と臀鰭は半透明で、各基部に褐色点が並ぶ。腹鰭条部は白色で、先端部は透明。尾鰭前部に2黒色縦線または黒色斑があり、後部には1白色斑がはいる。

分布 インド・西太平洋、ミクロネシア、サモア諸島に分布する。国内では八丈島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県竹島、

屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本調査では竹島の水深3–20 mの砂礫域、転石帯でみられた。本種はカモハラトラギス *P. kamoharai* Schultz, 1966、オジロトラギス *P. xanthozona* (Bleeker, 1849) によく似るが、背鰭棘数が通常4（カモハラトラギスは5；オジロトラギスは5）、雄は鰓蓋上方に1黒色眼上斑をもつ、頬部の褐色斑は横線を形成しない、雌は体側中央に明瞭な白色線がないことから識別される。

(目黒昌利)

Other collected specimen: KAUM-I. 37734, 58.9 mm SL, Take-shima.



カモハラトラギス lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目トラギス科トラギス属

カモハラトラギス

Parapercis kamoharai Schultz, 1966

形態 背鰭 V, 21；臀鰭 I, 17–18；胸鰭 17–18；側線有孔鱗数 58–60。体は円筒

形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部と軟条部の間に浅い欠刻があるが、第4棘と第1背鰭軟条は鰭膜でつながる。尾鰭は截形で上端はやや伸長する。下顎前部の犬歯状歯は3対。

色彩 体側上部はうすい黄褐色で、体側下部は白色。頭部には褐色斑が散在し、雄は頬部5–7本の褐色斜線がはいる。雌にはない。体側上部には不明瞭な褐色縦線がはいり、体側下部には明瞭な黄褐色縦帯が走る。黄褐色縦帯下には9の黒褐色



■ カモハラトラギス Iou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

斑が平行に並ぶ。また体側には褐色縦線から黄褐色縦線にかけて8-9のやや明瞭な褐色横線がはいる。背鰭棘条部の鰭膜は白色、黒色点をもつ。背鰭軟条部と臀鰭は半透明で、背鰭は中央と基部に、臀鰭は中央に黒褐色点が並ぶ。腹鰭条部は白色で、先端部は透明、基部に黒色点がある。尾鰭黒色斑が並び、中央の基部か

ら後端にかけて1-2白色斑がはいる。

分布 日本、台湾、香港およびスラウェシ島に分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、屋久島に分布する。

備考 本種はヨツメトラギス *P. clathrata*

Ogilby, 1910 やオジロトラギス *P. xanthozona* (Bleeker, 1849) によく似るが、背鰭棘数が通常5 (ヨツメトラギスは4; オジロトラギスは5)、雄は頬部に複数の明瞭な褐色斜線がある、雌は体側の褐色横帯が明瞭であることから識別される。

(目黒昌利)



■ サングトラギス Iou-jima, 9 Oct. 2010, Y. Matsuda

スズキ目トラギス科トラギス属

サンゴトラギス

Parapercis multiplicata Randall, 1984

形態 背鰭 V, 21; 臀鰭 I, 16-17; 胸鰭 14-15; 側線有孔鱗数 56-58。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部と軟条部間に大きな欠刻があるが第5棘と第1背鰭軟条は軟条の基部付近で鰭膜がつながっている。尾鰭は截形で上端は伸長しない。下顎前部の犬歯状歯は4対。

色彩 体側上部は緑がかかった薄い赤色で、

体側下部は白色。頭部、体側上部には橙色斑または朱色点が散在する。眼下には橙色の斜線がはいる。体側下部には不連続な薄い橙色縦線と8本の赤色横帯がはいる。背鰭軟条部の鰭膜は白色で、中央に赤黒色斑がある。背鰭軟条部は透明。臀鰭軟条部は白色で縁辺は黄色で縁取られる。背鰭軟条部と臀鰭の鰭膜には小さな赤黒色点が並ぶ。腹鰭軟条部の基部は白色で、先端部は透明。尾鰭は赤色半透明で、赤色点が散在する。

分布 日本、台湾南部、東沙群島、南沙群島、インドネシア、ニューカレドニア、オー

ストラリア北西部、マリアナ諸島、ピトケアン諸島に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本種は水深3-30mの砂礫域、転石帯でみられる。トラギス *P. pulchella* (Temminck & Schlegel, 1843) に似るが、サンゴトラギスは体側に幅の狭い8赤色横帯(トラギスは体側に褐幅の広い6褐色横帯)があることから識別される。

(目黒昌利)



■ ハワイトラギス lou-jima, 21 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目トラギス科トラギス属

ハワイトラギス

Parapercis schauinslandi (Steindachner, 1900)

形態 背鰭 V, 21; 臀鰭 I, 16-17; 胸鰭 15-16; 側線有孔鱗数 55-58。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部と軟条部間に大きな欠刻があるが第5棘と第1背鰭軟条は軟条の基部付近で鰭膜がつながっている。尾鰭は湾入し、上下端はやや伸長する。下顎前部の犬歯状歯は3対。

色彩 体側上部は赤みがかかった白色で、体側下部は白色。頭上部は橙色で、吻端から鰓蓋上端まで赤色線がはいる。頭頂部には赤色点が散在する。体側上部に四角い8橙色斑が並び、その中には赤色または黒色の点がはいる。体側下部には8朱色斑が並ぶ。前半部の2-3橙色斑と朱色斑はつながることが多い。胸鰭基部には2赤色線がはいる。背鰭棘条部の鰭膜は朱色で、赤黒色斑がある。背鰭軟条部、臀鰭軟条部は透明。背鰭軟条部鰭膜には赤黒色点が並ぶ。腹鰭軟条部の基部は白色で、先端部は透明。尾鰭は透明で、基部に2黒赤色点がはいる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、琉球列島に分布する。

備考 本種はオヨギトラギス *P. natator* Randall, Senou & Yoshino, 2008 によく似るが、背鰭軟条数が21(オヨギトラギスは22)、有孔側線鱗数が55-58(59-61)、眼が頭部背面寄りで両眼間隔が頭長の3.35-4.4%(5.6-7.6%; Randall et al., 2008) であることから識別される。

(目黒昌利)

スズキ目トラギス科トラギス属

コウライトラギス

Parapercis snyderi Jordan & Starks, 1905

形態 背鰭 V, 21; 臀鰭 I, 16-18; 胸鰭 13-15; 側線有孔鱗数 38-44。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部と軟条部間に大きな欠刻があるが第5棘と第1背鰭軟条は軟条の基部付近で鰭膜がつながっている。尾鰭は円形で上端は伸長しない。下顎前部の犬歯状歯は4対。

色彩 体側上部は赤色で、体側下部は白色。唇は褐色。体側上部に3-5の大きな黒褐色鞍状斑がある。体側下部には不連続な薄い橙色縦線と8-9本の褐色横帯がはいる。背鰭棘条部の鰭膜は白色で、不規則な黒色域がある。背鰭軟条部、臀鰭軟条部は透明で、背鰭軟条部中央に2列の褐色点が並び、臀鰭の鰭膜基部に褐色点と白色点が並ぶ。腹鰭軟条部の基部は白色で、先端部は透明。尾鰭は赤色半透明で、青色点が散在する。個体により色彩に差がみられ体側全体が赤みを帯びる個体、鰓蓋から体側にかけて赤褐色点が散在する

個体、体側下部の褐色横帯が不明瞭な個体もみられる。

分布 西太平洋に分布する。国内では島根隠岐以南の日本海沿岸、九州北西岸、瀬戸内海、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本種は下顎前部の犬歯状歯は4対、背鰭棘数が5、胸鰭軟条数が13-15、側線有孔鱗数38-44、体側上部に3-5の黒褐色鞍状斑をもつことなどから同属他種と識別される。

(目黒昌利)



コウライトラギス lou-jima, 7 July 2007, S. Dewa



マダラトラギス KAUM-I. 29727, 142.0 mm SL, lou-jima

スズキ目 トラギス科 トラギス属

マダラトラギス

Parapercis tetraacantha (Lacepède, 1801)

形態 背鰭 V, 20–21; 臀鰭 I, 16–17; 胸鰭 17–18; 側線有孔鱗数 59–65。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部と軟条部の間欠刻があるが第5棘と第1背鰭軟条は鰭膜でつながる。截形で上端はやや伸長する。下顎前部の犬歯状歯は3対。

色彩 体側上部は黄褐色で、頭部覆面、腹部は白色。頭部には上下顎、眼下と頭部背面から鰓蓋後縁にかけて褐色帯がは

いる。体側上部に2本の不明瞭な褐色縦線と9本の褐色横帯がはいり、前方の3褐色横帯の腹部先端にはそれぞれ黒色点がある。背鰭棘条部の鰭膜前方は褐色。背鰭軟条部と臀鰭は半透明で臀鰭は赤褐色に縁取られる。背鰭と臀鰭それぞれに黒色点が並ぶ。腹鰭条部は白色。尾鰭前部に大きな黒色斑などはなく、全体に小さな黒色点が点在する。尾鰭上下端は赤褐色に縁取られる。

分布 東インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本調査では硫黄島から採集された。水深3–20 mの岩礁域、砂礫域でみられた。本種はマトウトラギス *P. ommatura* Jordan & Snyder, 1902に似るが下顎前部の犬歯状歯は3対（マトウトラギスは4対）、眼下に幅広い褐色横帯がある（下顎から鰓蓋上方にかけて2褐色縦線がはしる）ことなどから識別される。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 31705, 27.5 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 32330, 69.0 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 34008, 177.7 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106171, 104.4 mm SL, lou-jima.



トビギンポ KAUM-I. 37745, 30.4 mm SL, Take-shima

スズキ目 トビギンポ科 トビギンポ属

トビギンポ

Limnichthys fasciatus Waite, 1904

形態 背鰭 26; 臀鰭 29; 胸鰭 13; 腹鰭 1, 5; 側線有孔鱗 41。体の前半は円筒形で、後半では横扁する。吻は短く、下顎の先端はよく肥厚する。腹鰭の第 5 軟条は長く、第 4 軟条の約 80% に達する。下顎管開孔数は 2。頭部は無鱗で、前鰓蓋に 2 列の鱗がある。背鰭と臀鰭は尾鰭とは完全に離れるが、その後端は尾鰭の基底に達する。

色彩 体側はやや暗色がかった白色で、側線に沿って太くて濃い褐色縦帯がある。背側に 7 個の半円状の鞍状斑があり、後方の 5 個は側線上の縦帯とつながる。臀鰭基部には 4 黒色斑がある。尾柄部には 1 横帯があり、尾鰭基部は薄い黒褐色となる。



トビギンポ KAUM-I. 37745, 30.4 mm SL, Take-shima

吻端は茶色で、眼を通る明瞭な黒色帯があり、顎の後端まで続く。下顎の下面は黒色。背鰭、臀鰭、胸鰭および尾鰭の先端は半透明。

分布 琉球列島を含む千葉県以南の南日本と小笠原諸島に生息する。国外では台湾とオーストラリアから記録されている。

備考 本種は西オーストラリア産の標本に

基づいて記載された。熱帯域には出現しないことが知られ (Randall, 1981)、南日本からは多くの体色の変異が認められる。今後、より詳細な検討が必要であると考えられる。本項の記載は鹿児島県竹島漁港内の水深 3-5 m の砂地で採集された 1 標本に基づく。竹島での生態は不明であるが、通常は雄 1 個体に雌数個体のハレムを形成して、岩礁やサンゴ礁の間にある砂地などに生息する。

(片山英里)

Tripterygiidae



アケゴロモヘビギンポ KAUM-I. 37737, 24.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

アケゴロモヘビギンポ

Enneapterygius hemimelas
(Kner & Steindachner, 1867)

形態 背鰭 III, XII-XIV, 9-10; 臀鰭 I, 18-19; 胸鰭 ii-iii + 5-6 + vi-viii (15-16);

腹鰭 I, 2; 側線鱗 15-18 + 17-19。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、短い毛状で先端は分枝しない。側線は



アケゴロモヘビギンポ KAUM-I. 37737, 24.0 mm SL, Take-shima

2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 成熟した雄は婚姻色を示し、繁殖行動時通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄は頭部が濃い橙色。眼前縁から吻端に1本の黒色線がはしり、眼後部から鰓蓋、頤、胸鰭基部にかけて黒色。体側前半は濃い橙色、後半は黒色。体側中央に沿って5-6の白色点が並ぶ。第1背鰭、第2背鰭基部付近は橙色。そのほかの背鰭、尾鰭鰭膜は透明。胸鰭、腹鰭、臀鰭前半は

濃い橙色、臀鰭後半は黒色、臀鰭最後軟条先端部は透明。

分布 西部太平洋に分布する。国内では鹿児島県の竹島と屋久島から知られている。

備考 本調査では竹島の水深10 m以浅の岩礁域から雄のみが採集された。本種は西部太平洋に広く分布するが、日本からは Meguro & Motomura (2010) によって屋久島から初めて報告された。それまで日本から報告されていたゴマフヘビギンポが *E.*

hemimelas として扱われてきたが、下顎中央感覚孔数が2-8、および雄の婚姻色から、報告されていたゴマフヘビギンポは *E. bahasa* Fricke, 1997 と同定された。

アケゴロモヘビギンポは下顎中央感覚孔数が1、雄の婚姻色が頭部下部に黒色域をもつ、体側および臀鰭後半部が黒色、第3背鰭・尾鰭が無色透明であることから同属他種と識別される。日本から標本に基づき報告されているのは雄のみで、雌はまだ確認されていない。

(目黒昌利)



セグロヘビギンポ (オス) KAUM-I. 29571, 19.0 mm SL, Take-shima



セグロヘビギンポ (メス) KAUM-I. 29571, 19.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

セグロヘビギンポ

Enneapterygius tutuilae Jordan & Seale, 1906

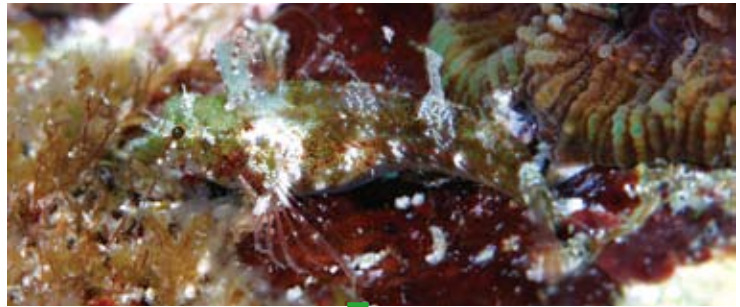
形態 背鰭 III, XI-XIII, 8-10; 臀鰭 I, 15-19; 胸鰭 13-15; 腹鰭 I, 2; 側線鱗 9-13 + 20-24。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、葉状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 成熟した雌雄で色彩が異なる。雄の頭部から腹部にかけては白色で、赤色点が密在し、鰓蓋部には黒色点が散在する。体側は黄緑色で白色斑が第2背鰭後方と尾柄部にはいる。第1背鰭鰭膜は黄緑色で、第2、第3背鰭鰭膜は透明。第1背鰭後方と第2背鰭前方には不規則な赤色斑がはいり、第2背鰭中央には大きな黒色斑がある。腹鰭の基部側1/2は黒色。臀鰭は7本の黒色斜帯がはいる。雌は全体の地色が白色で、黄緑色または橙色の不規則な模様はいる。第1背鰭鰭膜は橙色。雌は第2背鰭鰭膜に黒色斑をもたない。そのほかの鰭膜は透明。腹鰭は白色。臀鰭には7本の細い黒色斜帯がはいる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、鹿児島県硫黄



セグロヘビギンポ (メス) KAUM-I. 30627, 22.0 mm SL, Iou-jima



セグロヘビギンポ Iou-jima, 12 May 2010, K. Nakajima

島、竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本調査では竹島・硫黄島から採集された。潮通しの良い水深2-40 mの岩礁・サンゴ礁域でよくみられた。本種は小型のヘビギンポ属魚類で、全長30 mm前後。日本でみられる同属他種とは胸鰭が分枝しない、胸鰭鰭条数が12-16(通常14)、有孔側線鱗数が9-13、下顎感覚孔配置が2+2+2であることから識別される。

体色は変化しやすく、周辺環境により緑色、赤色、灰色などそれぞれの色が強い個体がみられ、変異に富む。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 30041, 16.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30622, 12.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30629, 20.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31400, 15.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31401, 13.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 32317, 15.3 mm SL, Iou-jima.



ヘビギンポ KAUM-I. 37975, 39.6 mm SL, Showaiou-jima

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

ヘビギンポ

Enneapterygius etheostoma

(Jordan & Snyder, 1903)

形態 背鰭 III, XIII-XVI, 9-11; 臀鰭 I, 17-22; 胸鰭 ii-iii + 5-7 + vi-viii (13-18); 腹鰭 I, 2; 側線鱗 18-22 + 16-21。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓

蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝する。両眼の上縁中央に皮弁があり、先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、繁殖行動時通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄は体全体が黒色。第2背鰭後端から臀鰭にかけてと、尾柄部には白色横帯がある。尾鰭基部は白く、尾鰭皮膜は透明、尾鰭軟条には褐色横線が入る。雌の体側上部はうすい褐色で、下部は白色。体側には褐色横帯が6-7本はある。各鰭膜は透明で、第1背鰭を除く鰭には褐色線がはいる。

分布 日本からベトナムにかけての沿岸に分布する。国内では北海道の奥尻島を北限に全国から知られている。ただし、岩手県、宮城県、福島県、小笠原諸島からの記録はない。

備考 本調査では昭和硫黄島から雌のみ採集された、水深1 m 以下の潮間帯岩礁域のタイドプールでみられた。本種は本属最大の種で、全長70 mmほどになる。日本でみられる同属他種とは背鰭棘数が13-16 (通常14以上)、有孔側線鱗数が

18-22、鼻管皮弁が分枝することから識別することができる。また八丈島では成熟サイズが小さい個体群、琉球列島では雄の第1背鰭が他地域に比べると伸長する個体群がみられるなど、地域により形態的に差異が認められる。

(目黒昌利)



ヘビギンポ KAUM-I. 37975, 39.6 mm SL, Showaiou-jima

Other collected specimens: KAUM-I. 37976, 40.2 mm SL, Showaiou-jima; KAUM-I. 37977, 21.8 mm SL, Showaiou-jima; KAUM-I. 37978, 21.0 mm SL, Showaiou-jima; KAUM-I. 37979, 18.3 mm SL, Showaiou-jima; KAUM-I. 37980, 16.0 mm SL, Showaiou-jima; KAUM-I. 37981, 16.8 mm SL, Showaiou-jima; NSMT-P 106181, 7 specimens, 17.1-28.0 mm SL, Showaiou-jima; NSMT-P 106916, 2 specimens, 12.6-25.7 mm SL, Showaiou-jima; NSMT-P 106934, 37.3 mm SL, Showaiou-jima.



ヘビギンポ属の1種 Iou-jima, 10 Oct. 2010, Y. Matsuda



ヘビギンポ属の1種 Iou-jima, 16 Aug. 2009, E. Shinkai



ヘビギンポ属の1種 Iou-jima, F. Yasudome



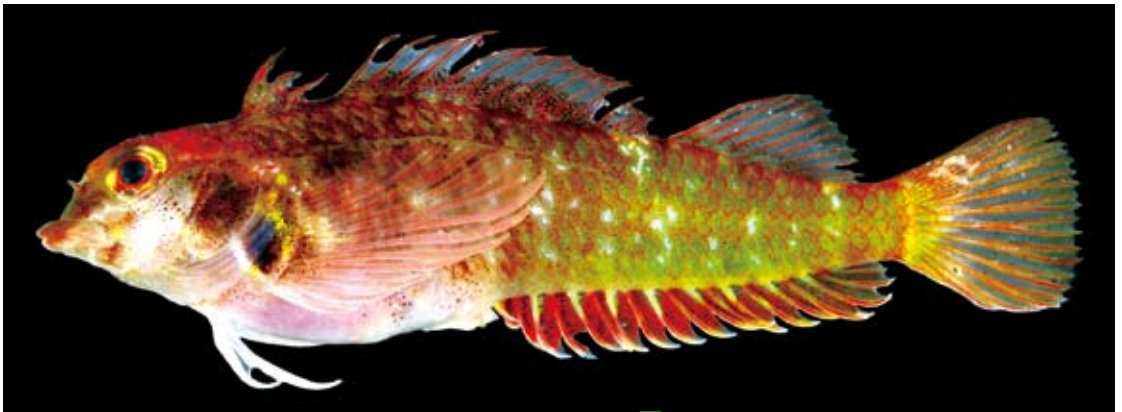
ヘビギンポ属の1種 Iou-jima, 9 June 2007, S. Dewa



ヘビギンポ属の1種（オス）KAUM-I. 29665, 27.5 mm SL, Take-shima



ヘビギンポ属の1種（オス）KAUM-I. 29665, 27.5 mm SL, Take-shima



ヘビギンポ属の1種（メス）KAUM-I. 37618, 31.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

ヘビギンポ属の1種

Enneapterygius sp.

形態 背鰭 III, XII-XIII, 9-10; 臀鰭 I, 18-19; 胸鰭 ii-iv + 5-6 + vii-viii (15-16);

腹鰭 I, 2; 側線鱗 16-19 + 17-21。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があ

り、短い毛状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 成熟した雄は婚姻色を示し、繁殖行動時通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄は第1、第2背鰭鰭膜を除く、体全体が

黒色。体側には青白色点が散在する。第1、第2背鰭鰭膜は透明。雌の頭部は白色、眼前縁から吻端にかけ褐色線がはしる。頭頂部は褐色。体側は黄緑色で、腹部は白色。体側には褐色の不規則なモザイク状の模様がはしり、白色点が散在する。胸鰭基部に2褐色斑がある。各背鰭鰭膜は透明で、第2背鰭基部近くに褐色帯がはいる。臀鰭は鰭条に沿って褐色線がはしり、その基部には白色点がある。

分布 伊豆諸島、伊豆半島以南の太平洋

沿岸、大隅諸島（屋久島、硫黄島、竹島）に分布する。

備考 本調査では竹島・硫黄島から採集された。本種は水深2–20 mの岩礁域で多くみられた。本種は形態的にソメワケヘビギンボ *E. similis* Fricke, 1997 に酷似するが、雄の婚姻色が明らかに異なることなどから別種とみられる。台湾から新種として記載された *E. erythrosomus* Shen, 1994 にもよく似ており今後より詳細な分類学的研究が必要である。（目黒昌利）

Other collected specimens: KAUM-I. 29527, 15.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29528, 13.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29664, 27.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30623, 12.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30628, 20.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31406, 21.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31407, 20.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31408, 20.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31409, 18.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31410, 17.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31685, 17.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31686, 18.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37617, 31.8 mm SL, Iou-jima.



アヤヘビギンポ Iou-jima, 9 Oct. 2010, Y. Matsuda

スズキ目ヘビギンポ科クロマスキ属

アヤヘビギンポ

Helcogramma inclinata (Fowler, 1946)

形態 背鰭 III, XIV–XVI, 10–11; 臀鰭 I, 19–21; 胸鰭 ii + 7 + vii; 腹鰭 I, 2; 側線鱗 26–35。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗におおわれない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、ヘラ状。両眼の上縁中央に皮弁があり、非常に短い毛状で先端は分枝しない。第1背鰭基底前方に1–2鱗列を有する。側線鱗列は1列で、有孔鱗のみ。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、繁殖行動時通常とは色彩が異なる。婚姻色を呈した雄は上唇前方から眼下縁を通り前鰓蓋に達する青色の縦線を有する。頭部の青色線より上部から後部にかけて赤色で、体幹部と鰭全域は黒色。鰓蓋部、胸鰭基部、体幹部には青色点が散在する。雌の頭部下面、腹部、腹鰭は乳白色で、体側は黄褐色。頭部には褐色斑が不規則にはしり、眼から上顎前方にかけて褐色線がはしる。体側には7本の褐色横帯がはいる。腹鰭を除く各鰭鰭条は赤褐色で、鰭膜は透明。

分布 フィリピンから南日本にかけて分布する。国内では硫黄島、竹島、屋久島および琉球列島から知られている。

備考 アヤヘビギンポは上唇前方から眼下縁を通り前鰓蓋に達する青色線をもつことで *H. fuscipinna* 類似種群に属する。本類似種群はインド洋・西部太平洋から11種が知られており、アヤヘビギンポは第2背鰭棘数が通常15、下顎中央の感覚管開孔数が5–10、第1背鰭基底前方に鱗域をもつことで、同類似種群の他種と識別される。

（田代郷国）

Other collected specimens: KAUM-I. 29592, 17.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29668, 44.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30629, 20.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29683, 13.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29684, 15.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30626, 31.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37834, 47.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37989, 46.1 mm SL, Take-shima.



■ アヤヘビギンポ (オス) KAUM-I. 29669, 41.6 mm SL, Take-shima



■ アヤヘビギンポ (メス) KAUM-I. 30625, 47.2 mm SL, Iou-jima



■ アヤヘビギンポ (オス) KAUM-I. 29669, 41.6 mm SL, Take-shima



■ アヤヘビギンポ (メス) KAUM-I. 30625, 47.2 mm SL, Iou-jima



■ アヤヘビギンポ Take-shima, 5 June 2009, S. Dewa



■ アヤヘビギンポ Take-shima, 9 July 2007, S. Dewa



■ アヤヘビギンポ Take-shima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda



アヤヘビギンポ Take-shima, 8 July 2009, Y. Komiya



アヤヘビギンポ Take-shima, 2 June 2009, S. Dewa

スズキ目 ヘビギンポ科 クロマスク属

タテジマヘビギンポ*Helcogramma striata* Hansen, 1986

形態 背鰭 III, XII-XV, 9-12; 臀鰭 I, 20-23; 胸鰭 ii-iii + 6-7 + vii; 腹鰭 I, 2; 側線鱗 25-33。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部

の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗におおわれない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、ヘラ状。両眼の上縁中央に皮弁がない。項部は鱗に被われる。側線鱗列は1列で、有孔鱗のみ。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、繁殖行

動時および興奮時の体色は通常時と異なる。雌は頭部から尾柄部にかけて明瞭な白色の縦線が3本はしり、体側中央に白色点が6-7個並ぶ。頭部、体幹部、臀鰭、尾鰭中央、はオレンジがかった赤色で、最も腹側をはしる縦線より下の頭部、体幹部、胸鰭および腹鰭は黄色。婚姻色を呈した雄は体全体が暗赤色になり、腹部と腹鰭は黒ずむ。白色縦線および白点は黒変する。



■ タテジマヘビギンポ KAUM-I. 37748, 38.8 mm SL, Take-shima



■ タテジマヘビギンポ Iou-jima, 7 July 2008, S. Dewa

分布 西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県、和歌山県、高知県、硫黄島、竹島、屋久島および琉球列島から知られている。

備考 本種は明瞭な3本の縦線を有する、下顎中央の感覚管開孔数が2、第1背鰭基底前方に鱗域をもつことから同属他種との識別は容易である。

水深8–15 mのサンゴ礁や岩礁に生息し、潮通しの良い場所を好む。

(田代郷国)

Other collected specimens: KAUM-I. 29515, 33.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29516, 21.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29720, 19.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29721, 12.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30049, 13.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30110, 37.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30111, 31.6 mm SL, Take-shima;

KAUM-I. 30112, 21.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30113, 15.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31713, 28.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31714, 25.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37749, 37.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37750, 35.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37751, 2 specimens, 30.2–37.2 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106095, 37.6 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106115, 37.2 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106182, 16 specimens, 17.9–24.7 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106915, 2 specimens, 14.6–19.1 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106929, 27.0 mm SL, Iou-jima.



タテジマヘビギンポ lou-jima, 9 Oct. 2010, Y. Matsuda



タテジマヘビギンポ lou-jima, 25 July 2010, E. Shinkai

スズキ目ヘビギンポ科クロマスキ属

テングヘビギンポ

Helcogramma rhinoceros Hansen, 1986

形態 背鰭 III, XIV-XV, 10-12; 臀鰭 I, 19-21; 胸鰭 ii + 7 + vii; 腹鰭 I, 2; 側線鱗 21。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹



テングヘビギンポ KAUM-I. 32332, 26.0 mm SL, Take-shima



■ テングヘビギンポ KAUM-I. 32332, 26.0 mm SL, Take-shima



■ テングヘビギンポ Take-shima, 10 June 2007, S. Dewa

部は鱗におおわれない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、ヘラ状。両眼の上縁中央に皮弁があり、短い毛状で先端は分枝しない。項部は鱗に被われない。側線鱗列は1列で、有孔鱗のみ。雄は上唇の前縁に側扁した大きな皮質突起をもつ(雌はもたない)。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、興奮時および繁殖行動時は通常時と色彩が異なる。婚姻色の雄は皮質突起を含む頭部下部から胸鰭基部にかけて、胸鰭の下部が黒色で、体側・鰭は橙色になる。上顎先端から胸鰭基部にかけて1本の青色線がはしる。通常時の体色は皮質突起を含む頭部下部から胸鰭基部にかけて、胸鰭の下部が黄色で、体側は透明がかった乳白色。橙色の横帯がはいり、青白色点散在する。上顎・下顎先端から胸鰭基部にかけて2本の青色線がはしる。雌の体側は乳白色で、頭部下部から胸鰭基部にかけても乳白色。各鰭も無色透明。体側中央には赤褐色斑と黄色斑が並ぶ。

分布 西太平洋に広く分布する。国内では竹島、屋久島および琉球列島から知られている。

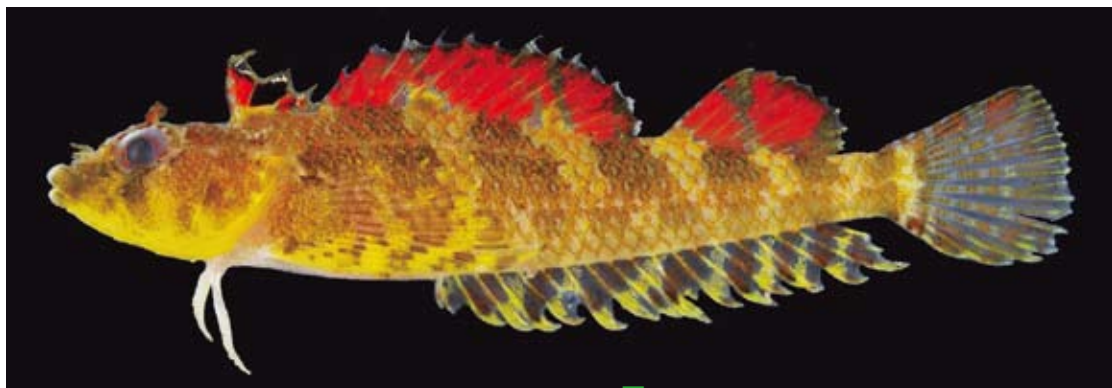


■ テングヘビギンポ Take-shima, 10 Oct. 2010, Y. Matsuda

備考 本種の雄は上顎先端から伸びる特徴的な皮質突起をもつ、第2背鰭棘数が通常15、下顎中央の感覚管開孔数が1、体側中央に赤褐色斑と黄色斑が並ぶこと

で日本産同属他種から識別される。水深5-8mの潮通しの良い岩礁に生息する。

(田代郷国)



■ コクテンニセヘビギンポ (オス) KAUM-I. 29590, 34.0 mm SL, Iou-jima



■ コクテンニセヘビギンポ (メス) KAUM-I. 29591, 38.3 mm SL, Iou-jima



■ コクテンニセヘビギンポ Iou-jima, 9 July 2009, S. Dewa



■ コクテンニセヘビギンポ Iou-jima, 18 Sept. 2010, Y. Matsuda

スズキ目 へびギンポ科 ニセへびギンボ属

コクテンニセへびギンボ

Norfolkia brachylepis (Schultz, 1960)

形態 背鰭 IV, XII-XIII, 9; 臀鰭 II, 17-20; 胸鰭 i-iv + 5-7 + vi-vii; 腹鰭 I, 2; 側線鱗 15-18 + 19-20。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は櫛鱗で被われており、頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は円鱗に被われる。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝する。両眼の上縁中央に皮弁があり、幅広く葉状で先端は3-6分枝する。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 体全体が黄褐色で、体側上部に6

本の褐色横帯がはいる。体側下部には褐色横帯の下に6-8の褐色斑がはいるが輪郭は不明瞭である。頭部には眼から上顎前方と上顎後端にかけて褐色帯がはいる。第1背鰭鰭膜には黒褐色斑がはいるが、黒褐色斑の有無、濃淡については個体差がみられる。背鰭には不規則な褐色の模様がいいる。また、成熟した雌雄では背鰭鰭膜の色彩が異なり、雄では背鰭鰭膜が赤色、雌は透明である。胸鰭軟条には黒褐色点散在する。臀鰭には8本の黒色斜帯がはいる。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県、鹿児島県硫黄島、竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本では本種以外の同属はニセへびギンボ *N. thomasi* Whitley, 1964 がみられるが、コクテンニセへびギンボは有孔側線鱗数が15-18、眼上皮弁が分枝する、体側下部の6-8褐色斑の輪郭が不明瞭であることから識別される。

本調査では竹島と硫黄島の水深20 m以下の岩礁域から採集された。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 29442, 35.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29513, 34.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29589, 43.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37752, 29.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37753, 24.1 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106117, 35.0 mm SL, Take-shima.



ニセへびギンボ KAUM-I. 29514, 19.4 mm SL, Iou-jima

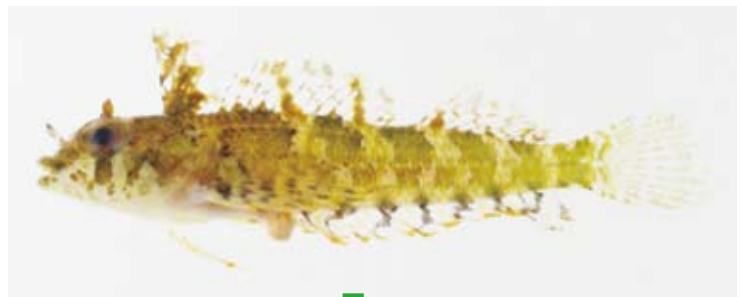
スズキ目 へびギンポ科 ニセへびギンボ属

ニセへびギンボ

Norfolkia thomasi Whitley, 1964

形態 背鰭 IV, XIII-XIV, 7-10; 臀鰭 II, 17-22; 胸鰭 ii-iii + 6-7 + vi-viii; 腹鰭 I, 2; 側線鱗 10-15 + 23-28。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は櫛鱗で被われており、頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は円鱗に被われる。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、幅広く葉状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 体全体が黄褐色で、体側上部に6本の褐色横帯がはいる。体側下部には褐色横帯の下に6-8の褐色斑がはいるが輪郭は明瞭である。頭部には眼から上顎前方と上顎後端にかけて褐色帯がはいる。第1背鰭鰭膜全体が褐色。背鰭には不規則な褐色の模様がいいる。胸鰭軟条には



ニセへびギンボ KAUM-I. 29514, 19.4 mm SL, Iou-jima

黒褐色点散在する。臀鰭には8本の黒色斜帯がはいる。

分布 ハワイ諸島を除く太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 本種以外の日本産同属はコクテンニセへびギンボ *N. brachylepis* (Schultz,

1960)のみである。ニセへびギンボはコクテンニセへびギンボと比較して、有孔側線鱗数が10-15、眼上皮弁が分枝しない、体側下部の6-8褐色斑の輪郭が明瞭であることから識別される。本調査では硫黄島の水深10 m以下の岩礁域から採集された。

(目黒昌利)

Other collected specimen: KAUM-I. 31686, 23.3 mm SL, Iou-jima.



ヒトスジギンポ KAUM-I. 29588, 48.7 mm SL, Iou-jima



ヒトスジギンポ KAUM-I. 31635, 31.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 インギンポ科 ニラミギンポ属

ヒトスジギンポ

Ecsenius lineatus Klausewitz, 1962

形態 背鰭 XII, 17-18; 臀鰭 II, 19-20; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔の後縁にのみ分枝しないやや長い皮弁をもつ。尾鰭分節軟条は分枝しない。側線は背鰭第10軟条直下まで達する。背鰭の棘条部と軟条部の間は大きく欠刻する。

色彩 体側は褐色で、腹部は白色。眼後縁から一本の黒色縦帯をもつ。黒色縦帯は個体により不連続で斑紋状になる場合がある。眼から黒色縦帯の上下に黄色縦帯がある。背鰭基部は褐色またはオレンジがかった褐色。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では三宅島、小笠原諸島、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭の

棘条部と軟条部の間大きな欠刻がある、前鼻孔の後縁のみに皮弁がある、背鰭軟条数が16-18、臀鰭軟条数が18-20、体側に明瞭な1本の黒色線または不連続な黒色斑をもつことから識別される。

本調査では硫黄島から採集された。潮通しの良い水深5-20mの岩礁・サンゴ礁域でよくみられた。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 31676, 18.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37678, 55.3 mm SL, Iou-jima.



ニラミギンポ KAUM-I. 30596, 58.9 mm SL, Iou-jima



ニラミギンポ KAUM-I. 32337, 48.2 mm SL, Iou-jima



ニラミギンポ KAUM-I. 31636, 23.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 イソギンポ科 ニラミギンポ属

ニラミギンポ

Ecsenius namiyei (Jordan & Evermann, 1902)

形態 背鰭 XII, 18–20; 臀鰭 II, 20–22; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔の前縁と後縁にそれぞれ分枝しない短い皮弁をもつ。尾鰭分節軟条は分枝しない。側線は背鰭第 10–13 軟条直下まで達する。背鰭の棘条部と軟条部の間は欠刻しない。

色彩 体側は尾柄部を除き黒色で、尾鰭を除く各鰭条も黒色。尾柄部から尾鰭にかけて鮮やかな黄色。生時には頭部、体側に青白い模様がみられる個体もある。硫黄島では本種の色彩変異とみられる標本も採集された。体色は頭部・背鰭・臀鰭・尾柄部から尾鰭にかけては濃い黄色、胸鰭後部から尾柄部にかけては灰色がかった黄色をしている。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、紀伊半島以南の太平洋沿岸、長崎県男女群島、鹿児島県硫黄島、屋久島



ニラミギンポ KAUM-I. 31638, 18.2 mm SL, Iou-jima

に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭の棘部と軟条部の間大きな欠刻がない、前鼻孔の前縁、後縁の両方に皮弁がある、背鰭棘数が 13、背鰭総鰭条数が 30–32、体側に明瞭な模様がないことから識別される。また色彩変異とみられる個体はハナダイギンポ *E. midas* Starck, 1969 に非常によく似た体色だが、背鰭棘数が 12 (ハナダイギンポは 13)、肛門前に黒色斑がない(ある)ことから識別が可能である。

本種の色彩変異とみられる個体は国内では高知、長崎などでも確認されている。

本調査では硫黄島の水深 5–20 m の岩礁域でみられた。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 31639, 18.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31667, 23.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31675, 21.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 33939, 83.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37670, 64.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37671, 71.6 mm SL, Iou-jima.



ニラミギンポ lou-jima, 18 Sept. 2010, Y. Matsuda



イシガキカエルウオ KAUM-I. 31393, 35.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 イソギンポ科 ニラミギンポ属

イシガキカエルウオ

Ecsenius yaeyamaensis (Aoyagi, 1954)

形態 背鰭 XII, 13-15; 臀鰭 II, 15-17; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。眼は上顎先端より前位。前鼻孔の後縁にのみ分枝しない短い皮弁をもつ。尾鰭分節軟条は分枝しない。側線は背鰭第 10-12 軟条直下まで達する。背鰭の棘条部と軟条部の間は大しく欠刻する。

色彩 体側は褐色のものから黄褐色のものまで個体によって変異がみられる。腹部は白色。眼後部から体側まで黒色斑が線状に並ぶ。体側部の線状の黒色斑の上下に黒色斑がある個体みられる。体側後半部には白色斑が散在する。胸鰭基部から Y 字型の暗色縦帯が走る。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では八丈島、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。



イシガキカエルウオ lou-jima, 11 May 2010, K. Matsuno

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭の棘条部と軟条部の間に大きな欠刻がある、前鼻孔の後縁のみに皮弁がある、背鰭軟条数が 13-15、臀鰭軟条数が 15-17、胸鰭基部から Y 字型の暗色縦帯がはいることから識別される。

本調査では硫黄島と竹島から採集された。潮通しの良い水深 5-30 m の岩礁・

サンゴ礁域でよくみられた。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 29777, 35.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 32331, 43.2 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37658, 47.0 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106094, 32.0 mm SL, lou-jima; NSMT-P 106907, 20.0 mm SL, Take-shima.



イシガキカエルウオ lou-jima, 10 Aug. 2011, Y. Matsuda

スズキ目 イソギンポ科 スジギンポ属

アオモンギンポ

Entomacrodus caudofasciatus (Regan, 1909)

形態 背鰭 XIII-XIV, 14-16; 臀鰭 II, 15-17; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上皮弁は1-8あり、最も大きい1本は分枝している。項部に分枝しない1対の皮弁をもつ。上唇の下縁にひだ状の突起をもつ。ひだ状の突起は上唇の下縁の側方に限られ中央部にはない。

色彩 体側は褐色で、腹部は白色。体側には5本の褐色の横帯がある。背鰭・尾鰭の鰭条部には褐色斑が並ぶ。臀鰭には褐色の縦帯がはいる。体側に白色点が散在し、胸鰭上部には眼よりやや大きな黒色斑がある。頬部から下顎にかけて、上唇には不規則な褐色線がはいる。



イシガキカエルウオ lou-jima, 10 Aug. 2011, K. Furuta

分布 東インドとハワイ諸島を除く太平洋に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、紀伊半島以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは上唇の下縁のひだ状突起が側方に限られ中央部にはない、背鰭軟条数が14-16、臀鰭軟条数が15-17、胸鰭上部には眼よりやや大きな黒色斑があることから識別される。



イシガキカエルウオ lou-jima, 9 Oct. 2009, E. Shinkai

本調査では硫黄島から採集された。潮あたりの良い水深1m以浅の岩礁域でみられた。

(目黒昌利)



アオモンギンポ KAUM-I. 37619, 42.1 mm SL, lou-jima



ケショウギンポ KAUM-I. 37893, 50.5 mm SL, Iou-jima

スズキ目 イソギンポ科 スズギンポ属

ケショウギンポ

Entomacrodus niuafoouensis (Fowler, 1932)

形態 背鰭 XIII, 15-16; 臀鰭 II, 16-17; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上皮弁は4-7本に分枝している。項部に分枝しない1対の皮弁をもつ。上唇の下縁全体にひだ状の突起をもつ。

色彩 体色は灰みがかった褐色で、腹部は白色。体側には5本の褐色横帯がはいる。背鰭には褐色斜帯がある。臀鰭には縁辺に沿って褐色縦帯がはいる。眼下から頬部、胸鰭基部にかけて橙色の不規則な模様がある。頭部腹面には顕著な斑紋がある。

分布 日本、台湾南部、マリアナ諸島、サモア諸島に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、長崎県、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは上唇の下縁全体にひだ状の突起をもつ、背鰭軟条数が15-16である、臀鰭軟条数が16-17である、頭部腹面には顕著な斑紋がある、体側には明瞭な黒色斑がないことから識別される。本調査では硫黄島から採集された。潮あたりの良い水深1m以浅の潮間帯岩礁域でみられた。

(目黒昌利)



スズギンポ KAUM-I. 37987, 65.6 mm SL, Showaiou-jima

スズキ目 イソギンポ科 スズギンポ属

スズギンポ

Entomacrodus striatus (Quoy & Gaimard, 1836)

形態 背鰭 XIII, 15-16; 臀鰭 II, 16-17; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。前鼻孔皮弁、眼上皮弁はともに分枝している。項部に分枝しない1対の皮弁をもつ。上唇の下縁全体にひだ状の突起をもつ。

色彩 体側上部は黄褐色で、体側下部は灰色。体側に黒色斑の集団がある。背鰭と尾鰭の鰭条部には褐色点が散在する。頭部腹面には顕著な斑紋がある。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県昭和硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは上唇の下縁全体にひだ状の突起をもつ、背鰭軟

条数が15-16、臀鰭軟条数が16-17、頭部腹面には顕著な斑紋がある、体側には明瞭な黒色斑の集団があることから識別される。

本調査では昭和硫黄島から採集された。潮あたりの良い水深1m以浅の潮間帯岩礁域でみられた。

(目黒昌利)

スズキ目 イソギンポ科 セダカギンボ属

セダカギンボ

Exallias brevis (Kner, 1868)

形態 背鰭 XII, 12-13; 臀鰭 II, 13-14; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 4。体は体高が高く、よく側扁する。背鰭はやや長く、深い欠刻がある。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。前鼻孔・眼上皮弁は分枝する。項部には基底の長い皮弁をもつ。頤に1対の皮弁がある。

色彩 幼魚と成魚では色彩が異なる。幼魚の体側は白色で、中心に黒色点のある褐色斑が頭部・体側に密にはいり、各鰭には散在する。成魚の体側は黄みがあった白色で、褐色点が頭部・体側に密にはいり、各鰭に散在する。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内からは八丈島、小笠原諸島、紀伊半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本属魚類はセダカギンボ1種のみ。日本でみられる同科他属とは鰓孔が大きく左右の際膜が峡部で連続する、上頤に犬歯がない、項部には基底の長い皮弁をもつ、頤に1対の皮弁がある、背鰭軟条数が12-13、臀鰭軟条数が13-14であることから識別される。

(目黒昌利)



セダカギンボ Iou-jima, 10 Oct. 2010, E. Shinkai

スズキ目 イソギンポ科 カエルウオ属

ニセカエルウオ

Istiblennius edentulus

(Schneider & Forster, 1801)

形態 背鰭 XII-XIV, 19-21; 臀鰭 II, 20-23; 胸鰭 13-14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上の皮弁は不分枝で、眼径と同長かそれより短い。項部には分枝しない1対の皮弁をもつ。側線は背鰭中央の欠刻を越え、背鰭軟条部の中央付近に達することから識別される。

色彩 雄の体側は褐色、腹部は白色。背鰭基部から体側には不規則な薄い黄緑色の横線がはいる。頭頂から眼の後部、上頤後端にかけて薄い黄緑色の線がはいる。雌の体側は黄褐色で、腹部は白色。雄に比べてやや明るい体色。背鰭基部から体側には不規則な薄い黄緑色の横線がはいる。頭頂から眼の後部、上頤後端にかけて薄い黄緑色の線がはいる。背鰭、体側後部から尾柄部にかけて褐色点が散在する。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では八丈島、紀伊半島

以南の太平洋沿岸、長崎県、鹿児島県昭和硫黄島、屋久島、琉球列島から知られている。

備考 日本でみられる同属他種とは臀鰭最後の軟条と尾柄部と鰭膜でほとんどつながらない、眼上の皮弁が不分枝で眼径と同長かそれより短い、側線は背鰭中央の欠刻を越え、背鰭軟条部の中央付近に達することから識別される。

本調査では昭和硫黄島から採集された。水深1m以浅の潮間帯岩礁域のタイプルーでみられた。

カエルウオ *I. enosimae* との分類学的問題

現在有効種とされているニセカエルウオとカエルウオは背鰭・臀鰭軟条数、背鰭最

長軟条長、雌の正中線皮弁の有無、雌の色彩などから分類可能とされているが、軟条数、軟条長は両種の数値が重複しており、確実な分類形質とはいえない。雌の体色以外では識別が難しいのが現状である。

Springer (1994) は両種を明確に識別できないとして、カエルウオ *I. enosimae* をニセカエルウオ *I. edentulus* のシノニムとしている。また雌の色彩に関しては地域個体群の色彩変異としている。両種に関する見解は研究者によって異なっており今後さらなる分類学的研究が必要である。

(目黒昌利)

Other collected specimens: KAUM-I. 37965, 86.6 mm SL, Showaiou-jima; KAUM-I. 37968, 116.5 mm SL, Showaiou-jima; NSMT-P 106176, 90.9 mm SL, Showaiou-jima; NSMT-P 106177, 72.0 mm SL, Showaiou-jima.



ニセカエルウオ KAUM-I. 37970, 95.7 mm SL, Showaiou-jima



ニセカエルウウオ KAUM-I. 37970, 95.7 mm SL, Showaiou-jima



ニセカエルウウオ KAUM-I. 37971, 86.0 mm SL, Showaiou-jima



カモハラギンポ KAUM-I. 32336, 60.3 mm SL, Iou-jima

スズキ目 イソギンポ科 ヒゲニジギンポ属

カモハラギンポ

Meiacanthus kamoharai Tomiyama, 1956

形態 背鰭 IV, 25-27; 臀鰭 II, 15-16; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。鰓孔は小さい。下顎に1対の大きな犬歯状の歯をもつ。背鰭は鰓蓋上端直上から始まり、背鰭棘条部と軟条部の間は欠刻しない。尾鰭の

上葉と下葉は伸長する。側線をもつ。

色彩 体側は黒色。個体によって体側下部の黒色縦帯が網目状になる。眼上部からやや太い青白色線が尾柄部まで走る。尾柄部が白色。頭部と背鰭に不規則な青白色の線または点がある。

分布 日本にのみ分布。伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 遊泳性が高く転石や岩礁隙間を遊泳している。本属魚類は下顎に1対の大きな犬歯状の歯があり、その歯に毒線をもつことが知られている。日本でみられる同属他種とは体全体がほぼ黒色、体側下部の黒色縦帯が網目状になるなど、体色が大きく異なることから識別することができる。

(目黒昌利)



マツバギンボ KAUM-I. 29602, 39.9 mm SL, Iou-jima



マツバギンボ KAUM-I. 31637, 33.9 mm SL, Iou-jima



マツバギンボ Iou-jima, 24 July 2010, Y. Matsuda

スズキ目 イソギンポ科 マツバギンボ属

マツバギンボ*Mimoblennius atrocinctus* (Regan, 1909)

形態 背鰭 XIII, 16-19; 臀鰭 II, 19-21;

胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上の皮弁は通常2本で、細く長い。雌は雄に比べやや短い。前鼻孔の皮弁は掌状で3-5本に分枝する。項部には分枝しない1対の皮

弁をもつ。項部の皮弁幅は広く葉状。側線は背鰭棘条部の中央付近に達する。

色彩 体側は黄褐色または黄色で、腹部は白色。吻端から鰓蓋部にかけて白色点が散在し、体側部にもわずかにある。体側

には褐色の鞍状斑がはいり、赤色点が散在する。雄は赤色点の密度は高く、背鰭第1棘と第2棘の間の鰭膜に黒色点がある。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では八丈島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる本属魚類はマツバギンポのみである。同科他種とは尾鰭軟条の大部分が分枝する、腹鰭が1棘3軟条、臀鰭最後軟条の大部分が尾柄部と皮膜でつながる、項部に皮弁がある、背鰭棘数が13であることから識別される。

本調査では硫黄島から採集された。潮あたりの良い水深10 m以浅の岩礁域でみられた。岩の小さな穴やカキ殻などによく隠れている。

(目黒昌利)

に白色点が散在する。雌の頭部は黄褐色で、鰓蓋部は赤みがかった白色。体側はうすい黄緑。胸鰭基部から腹部にかけてはうすい朱色。体側中央には褐色斑が並ぶ。吻部から鰓蓋下部にかけてと胸鰭基部、体側に白色点が散在する。



■ マツバギンポ lou-jima, 20 Aug. 2011, A. Sumino

スズキ目 イソギンポ科 ヒナギンポ属

ヒナギンポ

Nannosalarias nativitatus (Regan, 1909)

形態 背鰭 XII (XIII), 15-16; 臀鰭 II, 16-18; 胸鰭 15 (14); 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上皮弁は糸状で分枝しない。雄の眼上皮弁のほうが雌より長い。前鼻孔皮弁は葉状で、小さく分枝する場合がある。項部には分枝しない1対の皮弁をもつ。項部皮弁は扁平で小さい。側線は背鰭棘条部中央を越える。

色彩 雄の頭部は黒色で、体側前半は黒みがかった赤、後半は褐色がかった黄色。胸鰭基部から腹部にかけては朱色。体側中央には褐色斑が並ぶ。胸鰭基部、体側

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。日本では鹿児島県硫黄島、竹島、屋久島および琉球列島に分布する。

備考 本属魚類はヒナギンポ1種のみである。日本でみられる同科他種とは尾鰭軟条

の大部分が分枝する、腹鰭が1棘3軟条である、臀鰭最後軟条の大部分が尾柄部と皮膜でつながる、項部に皮弁がある、長い眼上皮弁をもつ、背鰭棘数が12である、背鰭軟条数が15-6であることから識別される。(目黒昌利)



■ ヒナギンポ KAUM-I. 29600, 31.6 mm SL, lou-jima



■ ヒナギンポ KAUM-I. 31394, 31.2 mm SL, Take-shima

Other collected specimens: KAUM-I. 29520, 24.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29599, 34.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29658, 29.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29679, 32.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30046, 30.3 mm SL, Iou-jima.



イナセギンボ KAUM-I. 37778, 51.6 mm SL, Take-shima



イナセギンボ KAUM-I. 37778, 51.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 イソギンボ科 テンクロスギンボ属

イナセギンボ

Plagiotremus laudandus (Whitley, 1961)

形態 背鰭 VII-X, 27-30; 臀鰭 II, 22-24; 胸鰭 11-12; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。鰓孔は小さい。吻端は円く、口は下位にあり腹面に開く。下顎後方に毒のない大きな犬歯をもつ。背鰭は眼後縁直上から始まり、欠刻しない。背鰭・臀鰭最後軟条は尾柄と鰭膜でつながる。腹鰭は小さく、眼径より短い。尾鰭の上葉と下葉は伸長する。側

線はない。

色彩 体側前方は紺色で、体側後方は黄色。吻端は赤褐色。背鰭前方は濃い青色、背鰭前方縁辺に沿って黒色線がはいる。その後方から黄色帯が斜めにはいり、後方縁辺は透明。臀鰭前方は黄色、後方縁辺は透明。尾鰭は上端と下端は黄色、中央部鰭膜は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、鹿児島県竹島、屋久島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは体に明瞭な黒色縦線がない、臀鰭軟条数が22-24であることなどから識別することができる。またオウゴンニジギンボ *Meiacanthus atrodorsalis* (Günther, 1877) に体色がよく似るが、吻端が赤褐色で、眼の後部に黒色線がない、腹鰭が小さい、体型がより細長いことなどから識別される。

本調査では竹島から採集された。潮通しの良い水深5-20 mの岩礁域でみられた。本種は遊泳性が高く常に遊泳している。

(目黒昌利)

スズキ目 イソギンボ科 テンクロスギンボ属

ミナミギンボ

Plagiotremus rhinorhynchos (Bleeker, 1852)

形態 背鰭 X-XI, 31-37; 臀鰭 II, 28-33; 胸鰭 11-12; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。鰓孔は小さい。吻端はとがり、口は下位にあり腹面に開く。下顎後方に毒のない大きな犬歯をもつ。背鰭は前鰓蓋骨のやや後方から始まり、欠刻しない。背鰭・臀鰭最後軟条は尾柄と鰭膜でつながる。腹鰭はやや長く、通常眼径より長い。尾鰭の上葉と下葉は伸長しない。側線はない。

色彩 通常体側は黒色で、腹部は白色。吻上方から眼上方を通り尾鰭基部上方にかけて吻端から眼下方を通り尾鰭基部下方までの2本の青白色線がはしる。吻端、背鰭、臀鰭は明るい赤褐色で、臀鰭は半透明。胸鰭、尾鰭は透明。本種は黄変した個体もみられ、体側は黄色で、腹部は白色。吻上方から眼上方を通り尾鰭基部上方にかけて吻端から眼下方を通り尾鰭基部下方までの2本の青白色線がはしる。背鰭、臀鰭、尾鰭は黄色で半透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では山口、福岡、八丈島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。



ミナミギンボ Iou-jima, 16 Aug. 2009, E. Shinkai

備考 日本でみられる同属他種とは体に明瞭な黒色縦帯があり、体側下方にも黒色域がある(黄変個体の場合はない)、背鰭軟条数が10-11、臀鰭軟条数が28-33であることなどから識別される。

(目黒昌利)

スズキ目 イソギンボ科 タネギンボ属

タネギンボ

Praealticus tanegashimae

(Jordan & Starks, 1906)

形態 背鰭 XIII-XIV, 17-19; 臀鰭 II, 18-20; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 3。体はや

や細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上の皮弁は長く羽根状で前鼻孔の皮弁は小さく不分枝。項部には皮弁はもたない。雄は頭部に正中線皮弁がある。雌は正中線皮弁がないか、痕跡的。

色彩 体側は緑がかった濃い灰色で、腹部

は白色。体側には暗褐色の横斑がはいる。雄の背鰭と尾鰭は朱色に縁取られる。頭部に褐色の斜走線がはいる。体側後半部には青白色点か少数ある。

分布 日本、台湾、グアムに分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、長崎県、大隅諸島、

琉球列島に分布する。

備考 日本で本属魚類は本種以外にタマギンポ *P. margaritarius* (Snyder, 1908)、カブキギンポ *P. striatus* Bath, 1992 の 2 種がみられるが、タマギンポとは眼上皮弁の形状が羽根状（タマギンポは掌状）、生鮮時に白色点が少ない（多い）、カブキギン

ポとは頬の斜走線が下部で合一しない（カブキギンポはする）、体側の白色点が少ない（多い）ことから識別される。

本調査では硫黄島から採集された。潮あたりのよい水深 1 m 以浅の潮間帯岩礁域のタイドプールでみられた。

（目黒昌利）

Other collected specimens: KAUM-I. 37815, 61.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37816, 44.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37817, 43.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37898, 81.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37899, 67.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37900, 43.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37901, 73.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37902, 63.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37903, 40.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37904, 39.3 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106130, 68.8 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106131, 66.9 mm SL, Iou-jima.



タネギンポ（オス） KAUM-I. 37807, 59.7 mm SL, Iou-jima



タネギンポ（メス） KAUM-I. 37806, 64.3 mm SL, Iou-jima



ロウソクギンポ KAUM-I. 37986, 61.0 mm SL, Showaiou-jima

スズキ目 イソギンポ科 ロウソクギンポ属

ロウソクギンポ

Rhabdoblennius nitidus (Günther, 1861)

形態 背鰭 XII, 18–22; 臀鰭 II, 19–23; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻

孔、眼上に皮弁をもつ。眼上皮弁は長く分枝しない。項部に皮弁はもたない。

色彩 体側は黄褐色。雄の吻部から鰓蓋上部、項部にかけてと腹鰭基部は褐色。雌の同じ部位は褐色にならない。体側中央に褐色斑が並ぶ。背鰭、臀鰭は黄褐色で、背鰭縁辺は赤く縁取られる。臀鰭は透明で、

下部は黄色く縁取られる。頬部、胸鰭基部、背鰭、尾鰭には青白色点が散在し、体側にも青白色の短線がはいる。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、紀伊半島以南の太平洋沿岸、長崎県、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる本属魚類は本種のみである。日本でみられる同科他種とは尾鰭軟条の大部分が分枝する、腹鰭が1棘3軟条、臀鰭最後軟条の大部分が尾柄部と皮膜でつながる、頂部に皮弁がない、長

い眼上皮弁をもつことから識別される。ロウソクギンボの学名は *Rhabdoblennius ellipse* (Jordan & Starks, 1906) とされていた。しかし、Bath (2005) はそれより前に記載された *Rhabdoblennius nitidus*

(Günther, 1861) が有効であるとし、*R. ellipse* をシノニムとした。本調査では昭和硫黄島から採集された。水深1m以浅の潮間帯岩礁域のタイドプールでみられた。

(目黒昌利)

スズキ目 イソギンボ科 ヤエヤマギンボ属

シマギンボ

Salarias luctuosus Whitely, 1929

形態 背鰭 XII, 18-19; 臀鰭 II, 19-20; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上皮弁は長く分枝しない。頂部に分枝しない皮弁をもつ。雌雄ともに頭部に正中皮弁をもつが、雌のものは雄に比べ小さい。

色彩 体側は緑がかった褐色。頭部、体側には白色または灰色斑が多数散在する。体側の斑点は楕円形で頭部のものより大きい。胸鰭基部に眼大の黄褐色斑がある。各鰭は透明で、背鰭には褐色斜線がはいり、前縁には黒色点がある、尾鰭にも褐色の横線がならぶ。腹鰭は白色。雄は婚姻色を示し、成熟すると頭部が黒化し、背鰭前方透明部が橙色になる。

分布 固有種。紀伊半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本産本属魚類はシマギンボ以外にヤエヤマギンボ *S. fasciatus* (Bloch,



シマギンボ Take-shima, 26 July 2010, E. Shinkai

1786)、ヒレナガカエルウオ *S. sinuosus* Snyder, 1908 の2種がみられるが、シマギンボは前鼻孔・眼上皮弁が分枝しない、

雌雄とも頭部に正中皮弁をもつ、胸鰭基部に眼大の黄褐色斑があることから識別される。

(目黒昌利)



ハダカコケギンボ KAUM-I. 29542, 38.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 コケギンボ科 コケギンボ属

ハダカコケギンボ

Neoclinus nudus Stephens & Springer, 1975

形態 背鰭 XXIV-XXVI, 16-18; 臀鰭 II, 28-30; 胸鰭 12-14; 腹鰭 I, 3。体は細長く、側扁し、後部に向かうにつれ少しず

つ細くなる。口は大きく、上顎後端は頭部中ほどにまで達する。前鼻孔後縁に細く、稀に分枝する3-8の毛状突起がある。眼上突起は2列7本、外側に4本、内側に3本あり、それぞれ分枝する。前上顎骨に17-21の歯がある。そのうち前方には門歯状の大きな歯が6-7、その後方には11-14の小さな円錐状歯がある。歯骨に

は15-20の歯があり、前方に5-8の大きな門歯があり、続いて1-3の発達した犬歯がある。その後方に7-12の小さな円錐状歯がある。頭部およびすべての鰭は無鱗である。

色彩 体側は黄褐色で、腹部は黄色。各鰭条には赤色点がはいる。腹鰭は黄色。

Chaenopsidae

コケギンポ科

頭部はオレンジ色。鰓蓋部、胸鰭基部、体側前方には赤褐色の点が散在する。色彩には変異がみられ、沖縄では全身が黒色の個体が確認されている。また体側には縞模様が見られる個体もある。

分布 台湾と日本に分布する。国内では鹿児島県硫黄島、屋久島、沖縄本島から知られている。

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭第1、2棘の間に黒点がない、眼上皮弁は2-3列、項部に皮弁がないことなどから識別することができる。

水中写真では伊豆半島以南の本州太平洋沿岸で本種とみられるものが多く撮影されているが標本に基づく報告は少ない。

本調査では硫黄島の水深5-15 mの岩礁域でみられた。

(目黒昌利)



■ ハダカコケギンポ KAUM-I. 29542, 38.0 mm SL, Iou-jima



■ ハダカコケギンポ Iou-jima, 15 June 2009, S. Dewa



■ ハダカコケギンポ Iou-jima, 9 Oct. 2010, E. Shinkai

Gobiesocidae

ウバウオ科



■ アンコウウバウオ KAUM-I. 29688, 11.6 mm SL, Take-shima

スズキ目 ウバウオ科 アンコウウバウオ属

アンコウウバウオ

Conidens laticephalus (Tanaka, 1909)

形態 背鰭 8-9; 臀鰭 5-8; 胸鰭 20-22; 尾鰭 10-13。体は細長く、頭部は縦扁し、体後部に向かうにしたがい側扁する。主上顎骨後端は瞳孔前縁直下に達する。前鼻管の皮弁は大きい。3対の下顎感覚管孔

を有する。腹鰭は吸盤状で、その形は複型。背鰭基底は臀鰭基底に比べわずかに長い。

色彩 体は全体的に濃褐色または黒色。両眼間に灰白色の横帯が走る。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、千葉県以南に分布する。

備考 本種の国外からの記録は台湾とインドネシアのみ。類似種のツルウバウオ *Aspasmichthys ciconiae* (Jordan & Fowler, 1902) とは、3対の下顎感覚管孔を有する(ツルウバウオでは1対)ことから識別される。

(西山 肇)

Other collected specimen: KAUM-I. 31653, 17.9 mm SL, Iou-jima.



■ ハシナガウバウオ KAUM-I. 30614, 46.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ウバウオ科 ハシナガウバウオ属

ハシナガウバウオ

Diademichthys lineatus (Sauvage, 1883)

形態 背鰭 13-15；臀鰭 12-14；胸鰭 25-26；尾鰭 12-14。体は細長く円筒形で、頭部はやや縦扁し、体後部に向かうにしたがい側扁する。腹鰭は吸盤状で、その

形は単型。背鰭と臀鰭は尾鰭と鰭膜でつながる。吻は著しく長く、先端は尖る。2対の下顎感覚管孔を有する。

色彩 体は赤褐色。吻端から背鰭後端にかけて背面を走る黄色縦帯と、吻端から眼上縁をとおり尾柄部に向かう黄色縦帯がある。

分布 紅海をのぞくインド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、千葉県以南に分布する。

備考 本種の雄の吻は雌のそれに比べ長く、雌雄差が認められる。珊瑚礁域や岩礁域のガンガゼ類の棘間に生息し、付着沈性卵を産む。

(西山 肇)



メシマウバウオ KAUM-I. 29576, 15.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 ウバウオ科 メシマウバウオ属

メシマウバウオ

Pherallodichthys meshimaensis
Shiogaki & Dotsu, 1983

形態 背鰭 6-7；臀鰭 6；胸鰭 23；尾鰭 10。体は細長く、体前部はやや縦扁し、体後部に向かうにしたがい側扁する。吻は丸みを帯びる。口は小さく、主上顎骨後端は眼窩前縁直下にわずかに達する。腹鰭は吸盤状で、その形は複型。2対の前鰓

蓋感覚管孔を有する。

色彩 体は赤褐色。背面には6-7本の灰白色横帯が走り、体側には不定形の灰白色斑が点在する。腹面は白色。

分布 西太平洋に分布する。国内では愛媛県、長崎県男女群島、硫黄島、琉球列島に分布する。

備考 琉球列島産の個体は、タイプ産地である男女群島産の個体と体型に若干の相



メシマウバウオ Take-shima, 12 May 2010, K. Nakajima

違が認められることから、今後別種とされる可能性がある(林・萩原, 2013)。

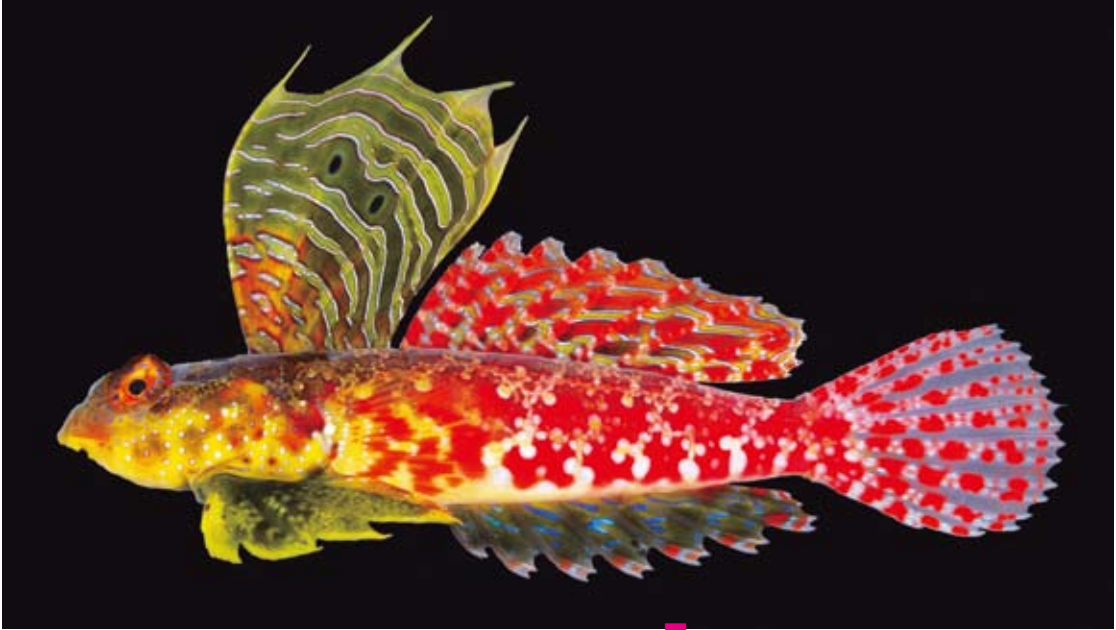
(西山 肇)

Other collected specimens: KAUM-I. 29577, 14.6 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29578, 17.2 mm SL, Take-shima.

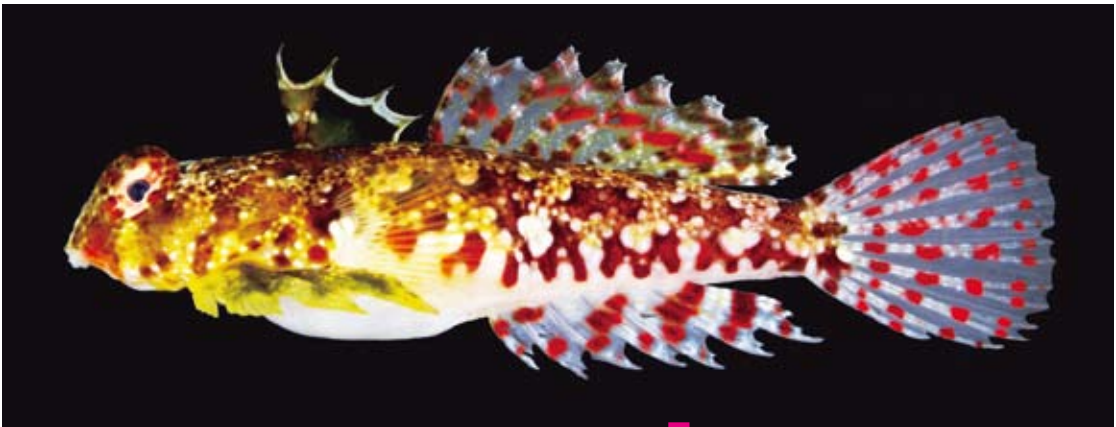
Callionymidae



ミヤケテグリ (オス) KAUM-I. 30570, 25.5 mm SL, Iou-jima



ミヤケテグリ (オス) KAUM-I. 29789, 53.7 mm SL, Take-shima



ミヤケテグリ (メス) KAUM-I. 29788, 32.5 mm SL, Take-shima

スズキ目 ネズツポ科 コウワンテグリ属

ミヤケテグリ

Neosynchiropus moyeri

(Zaiser & Fricke, 1985)

形態 背鰭 IV-8；臀鰭 7；胸鰭 18-23；腹鰭 I, 5；尾鰭 $i + 7 + ii$ ；脊椎骨 $6 + 12 = 18$ 。体は細長く縦扁し、無鱗で粘液質におおわれる。眼は体背面に位置する。吻は突出し、吻端は尖る。前鰓蓋骨に強い1棘がある。鰓孔は丸く、背鰭起部の下方に位置する。側線は体背側寄り走る。雄の第1背鰭棘長は第2背鰭軟条長の2倍程度と大きい。雄の幼魚と雌の第1背鰭棘長は第2背鰭軟条長と同じか小さい。第2背鰭のすべての軟条および第1軟条を除く臀鰭軟条は、先端が2分枝する。

色彩 体背面から体側面にかけて紅色の大理石模様で、体腹面は白色。雄の第1背鰭は帯状模様で、眼鏡状模様を含む上部の帯状模様は褐色がかった黄色、下部の帯状模様は明るい赤色。上部下部ともに帯状模様の縁は白色であり、帯状模様の間は緑色がかった黄色。雌の第1背鰭は黒色で、縁が白色。第2背鰭の地色は黄色がかった白色で、不規則な紅色斜帯がある。臀鰭は灰色がかった白色。胸鰭は透明で橙色帯が2本ある。腹鰭は暗い灰色。尾鰭の地色は白色で紅色の斑点が散在する。

分布 日本、フィリピン、インドネシア、パラオ、オーストラリアに分布する。国内では伊豆諸島、静岡県、和歌山県、高知県、鹿児島県、および沖縄県に分布する。

備考 ミヤケテグリは、藻類被度の高い転石地に好んで生息しており、竹島では水深2-22 mの同様の環境から採集された。

本種はコウワンテグリ *N. ocellatus* (Pallas, 1770) と形態的に酷似する。しかし、ミヤケテグリは体背面から体側面にかけて紅色の大理石模様であること（コウワンテグリでは茶褐色の大理石模様）雄の第1背鰭の眼鏡状模様が2-3個（通常2個）あり、連続し眼鏡状となること〔眼鏡状模様が2-6個（通常4個）〕、雄の第1背鰭上の帯状模様がすべて背鰭棘に対し垂直であること（眼鏡状模様より上部では背鰭棘に対し平行）から識別される。

(岩坪洗樹)

Other collected specimens: KAUM-I. 31415, 30.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32335, 35.5 mm SL, Iou-jima.



ズグロダテハゼ (オス) KAUM-I. 37626, 89.8 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハゼ科 ダテハゼ属

ズグロダテハゼ

Amblyeleotris melanocephala

Aonuma, Iwata & Yoshino, 2000

形態 背鰭 VI -I, 13; 臀鰭 I, 13; 胸鰭 20; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 7+6; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 91; 横列鱗数 29; 背鰭前方鱗数 9。頭部感覚管はよく発達し、前眼肩胛管に開孔 B'、C (単一)、D (単一)、E、F、G、H'、後眼肩胛管に開孔 K'、L'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O' がある。第 1 背鰭第 5 棘が最長であるが、伸張しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜が発達し、膜蓋と癒合膜の長さは最長 (第 4) 軟条の約 10% と約 60% である。頬、主鰓蓋部、胸鰭基底は無鱗、第 1 背鰭前方、項部側面、腹鰭前方、体側躯幹部、尾部第 2 背鰭下方、尾部臀鰭上方は円鱗、残る体側尾部は楯鱗を被る。第 1 背鰭前方の鱗は主鰓蓋骨中央上方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色は黄みのグレイで、頭部は赤みのグレイから青みのグレイ、腹部は白である。虹彩はゴールドで、内縁はさえた黄で縁取られる。頭部後半部から躯幹部にかけさえた黄の小点が散在する。項部と体側ににぶい黄からあさい黄の太い 4 横帯、尾鰭基底部に同色の大きな横斑がある。各鰭はうすい黄で、第 1 背鰭は白の、第 2 背鰭上縁と尾鰭上葉はうすいスカイとさえたオレンジの、腹鰭下縁、臀鰭下縁、尾鰭下葉はスカイの縁取りがある。背鰭にはうすいスカイの小点が散在する。臀鰭下半部と尾鰭下葉にスカイの縦線とスカイの虫食い模様のあるさえた黄の帯が走る。

分布 鹿児島県硫黄島、高知県、屋久島、沖縄諸島; フィリピン、インドネシア。

備考 本項の記載は硫黄島西側水深 5-10 m で採集された 1 標本 (上写真) に基づく。頭が紫から黒系の色彩であることで同属他種と区別可能。生息水深は普通 25-45 m。内湾の湾口、サンゴ礁域の礁斜面に生息し、砂泥底、崖下に続く砂底の緩斜面で、テッポウエビ類と共生する。

(鈴木寿之)



ズグロダテハゼ Iou-jima, 27 June 2009, S. Dewa



ズグロダテハゼ Iou-jima, 7 June 2009, S. Dewa



モリシタダテハゼ KAUM-I. 37600, 92.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハゼ科 ダテハゼ属

モリシタダテハゼ

Amblyeleotris morishitai

Senou & Aonuma, 2007

形態 背鰭 VI-I, 13; 臀鰭 I, 14; 胸鰭 20; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝軟条 7+7=14; 縦列鱗 99-101; 横列鱗 32; 脊椎骨 10+16=26。頭部感覚管はよく発達し、頬の孔器配列は横帯パターン。頭部感覚管は、前眼肩胛管に開孔 B'、C (単一)、D (単一)、E、F、G、H'、後眼肩胛管に開孔 K'、L'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O'がある。頤の直後の孔器列は左右 1 対の孔器からなる。体は細長く、やや側扁する。吻は短く丸い。眼は大きく上位で背面に位置する。頬はわずかに盛り上がる。口裂は斜行し、主上顎骨後端は瞳孔前端の直下に位置する。下顎前端は上顎前端より前方へ突出する。背鰭は 2 基で、第 1 背鰭基底と比べて第 2 背鰭基底が長い。体側に側線がない。体側前方は円鱗、第 2 背鰭第 3 もしくは第 4 軟条直下より後方は櫛鱗で覆われる。腹面は峽部を除いて小円鱗で覆われる。頭部背面の正中線は無鱗。

色彩 頭部と体側の背側は淡い褐色で、腹側にいくにつれて灰色みがかった白色になり、5 本の黄色みがかった橙色横帯が入る。その横帯間の背側に鮮やかな黄色斑がある。眼の下端から上顎、眼の後端から鰓蓋にかけて、明るい青色で縁どられた鮮やかな黄色帯が入る。背鰭は淡い黄色で、鮮やかな黄色斑が多数入る。臀鰭は黄色で、その中央に青色で縁どられた黄色みがかった橙色縦帯が入る。臀鰭の下方は鰭条に沿って明るい青色帯が入る。尾鰭は黄色で、背側に鮮やかな黄色斑が多数入り、その前方に弓形の青色で縁どられた黄色みがかった橙色横帯がある。腹鰭は黄色で、鰭条に沿って明るい青色帯が入る。胸鰭は透明。



モリシタダテハゼ Iou-jima, 16 June 2009, S. Dewa



モリシタダテハゼ Iou-jima, 16 June 2009, S. Dewa

分布 小笠原諸島弟島、伊豆諸島伊豆大島、鹿児島県硫黄島に分布する。

備考 形態や色彩の記載は、本調査で硫黄島から得られた KAUM-I. 37600 に基づく。本種は、小笠原諸島父島から採集された2標本に基づき2007年に新種記載され

た。現在まで本種の標本に基づく記録は、小笠原諸島父島からのみであったため、本研究で採集された個体は標本に基づく2例目の記録となると同時に鹿児島県初記録となる。

(荻原豪太)



モリシタダテハゼ lou-jima, 7 July 2009, Y. Komiyama



スジクモハゼ KAUM-I. 37885, 44.4 mm SL, lou-jima

スズキ目 ハゼ科 クモハゼ属

スジクモハゼ

Bathygobius cocosensis (Bleeker, 1854)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 7+7; 縦列鱗数 34; 横列鱗数 12; 背鰭前方鱗数 7。前鼻孔頂部に皮弁がない。上唇がやや突出する。頰の台形の皮蓋後側端は強く突出する。頭部感覚管はよく発達し、前眼肩胛管に開孔 B'、C (単一)、D (単一)、E、F、G、H'、後眼肩胛管に開孔 K'、L'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O' があり、H' と K' は融合しない。頰中央に溝が縦走する。胸鰭上端の遊離分枝鰭条は4本で、2条に枝分かれする。腹鰭は長楕円形で、膜蓋中央部は突出せず、棘と第1軟条間は浅く切れ込む。頰と主鰓蓋部は無鱗、第1

背鰭前方、項部側面、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部は小円鱗、残る体側は櫛鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は主鰓蓋骨中央上方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色はにぶい黄で、頭部、体側の胸鰭腋下、尾柄部後端から尾鰭基底は青みのグレイ。体側背面に赤みのブラウンの5鞍状斑、正中線上に5同色斑が並ぶ。各鰭は明るいグレイで、第1背鰭中央につよい赤紫の1縦帯、第2背鰭と臀鰭後部に同色の雲状斑がある。尾鰭鰭条はつよい赤紫。

分布 小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県～与那国島; インド・太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側東温泉横のタイドプール(水深0.5 m)で採集され

た1標本(上写真)に基づく。普通、生鮮時の体の地色は灰みの白で、体側背面に5暗色鞍状斑、体側正中線上に縦列する9暗色斑、腹部に2暗色斑がある。第1背鰭下部に1暗色縦線が走り、第2背鰭に暗色点縦列し、尾鰭に暗色点横線をつくる。生息水深は2 m以浅。河川の河口周辺、岩礁性海岸、サンゴ礁域の礁原内縁に生息し、死サンゴ片や死サンゴ塊混じりの砂泥底やタイドプールに単独で見られる。

(鈴木寿之)

Other collected specimens: KAUM-I. 37883, 32.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37884, 45.1 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37888, 38.4 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37889, 38.9 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37890, 32.8 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37891, 26.2 mm SL, lou-jima; KAUM-I. 37892, 30.3 mm SL, lou-jima.

スズキ目 ハゼ科 クモハゼ属

クロホシヤハズハゼ

Bathygobius hongkongensis Lam, 1986

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 21; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 7+7; 縦列鱗数 37; 横列鱗数 14; 背鰭前方鱗数 16。前鼻孔頂部に皮弁がある。上唇がやや突出する。頰の台形の皮蓋後側端は突出しない。頭部感覚管開孔はスジクモハゼとほぼ

同様であるが、開孔の前眼肩胛管 H' と後眼肩胛管 K' は1開孔 HK となる。頰中央に上側の皮膚が覆い被さった溝が縦走する。胸鰭上端の遊離分枝鰭条は5本で、2-4条に枝分かれする。腹鰭はカップ状で幅が広く、膜蓋中央部は突出せず、棘と第1軟条間は深く切れ込む。頰、主鰓蓋部は無鱗、第1背鰭前方、項部側面、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部は小円鱗、残る体側は櫛鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は眼後縁と前鰓蓋骨後縁間上方に達する。

色彩 アルコール標本の体の地色は灰みの白で、吻はグレイで、頭部と体の背面に赤みのグレイの不明瞭な5鞍状斑、体側に縦列する同色の不明瞭な約8つの斑紋がある。胸鰭起部上端に1黒斑がある。第1背鰭にグレイの2縦線があり、第2背鰭と尾鰭に同色点散在する。

分布 小笠原諸島、相模湾、静岡県、淡路島、高知県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、種子島、屋久島、奄美大島、沖縄島、

久米島、西表島；インド・西太平洋。

備考 本項の記事は硫黄島港内長浜浦水深2mで採集された1標本に基づく。生息水深は6m以浅。内湾に生息し、砂泥底や砂底にある岩の周辺や窪みに単独でみられる。*Bathygobius meggitti* (Hora & Mukerji, 1936)と同種とする報告があり、分類学的研究が必要である。

(鈴木寿之)



クロホシヤハズハゼ (メス；固定標本) KAUM-I. 37887, 42.5 mm SL, Iou-jima



ヤミクモハゼ (メス) KAUM-I. 37739, 33.3 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハゼ科 クモハゼ属

ヤミクモハゼ

Bathygobius laddi (Fowler, 1931)

形態 背鰭 VI-I, 9；臀鰭 I, 7；胸鰭 22；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 8+7；縦列鱗数 32；横列鱗数 10；背鰭前方鱗数 12。前鼻孔頂部に皮弁がある。上下両顎端は等しい。頤の台形の皮蓋後側端は強く突出する。頭部感覚管開孔はクロホシヤハズハゼと同様である。頬中央に上側の皮膚が覆い被さった溝が縦走する。胸鰭上端の遊離

分枝鰭条は6本で、2条に枝分かれする。腹鰭は長楕円形で、膜蓋中央部は突出せず、棘と第1軟条間は浅く切れ込む。頬、主鰓蓋部は無鱗、第1背鰭前方、項部側面、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部は小円鱗、残る体側は楕鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は前鰓蓋骨後縁上方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色はクリーム。頭部に眼を中心とする6本の放射状の灰みのブラウンの帯、体背側に同色の約8つの鞍状斑、体腹側に同色の9横斑がある。胸鰭上下の基底に各1つの暗い灰みのブ

ラウンの斑点がある。各鰭は明るいグレイで、背鰭、胸鰭、尾鰭に明瞭な暗い灰みのブラウンの帯がある。腹鰭は白、臀鰭は赤みがかかる。

分布 千葉県、伊豆半島、四国、鹿児島県竹島、屋久島、沖縄島、西表島；インド・太平洋。

備考 本項の記事は竹島港内水深3-5mで採集された1標本に基づく。背鰭、胸鰭、尾鰭の明瞭な横縞模様があることで同属他種から区別できる。沿岸浅所の岩礁域に生息する。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

シロイソハゼ

Eviota guttata Lachner & Karnella, 1978

形態 背鰭 VI-I, 9；臀鰭 I, 8；胸鰭 18；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 6+6；尾鰭分節鰭条数 9+8；縦列鱗数 25；横列鱗数 6；背鰭前方鱗数 0。頭部感覚管は発達し、前眼肩胛管に開孔 B'、C (単一)、D (単一)、E、F、H'、前鰓蓋管に開孔 N'、O'がある。第1背鰭第2棘が最長であるが、伸長しない。胸鰭上端4本と下端2本の軟条は分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はない。第5軟条は不分枝で短く、その長さは第4軟条の約10%、第4軟条は9本の分枝を持ち、第3-4軟条間の鰭膜は先端まで発達する。頭部、第1背鰭基底は無鱗、腹部は円鱗、残る体側は楕鱗を被る。



シロイソハゼ (メス) KAUM-I. 31396, 20.6 mm SL, Take-shima

色彩 死後、体は不透明になり、地色は黄みの白で、体側側面の鱗の前縁はあさい黄である。虹彩はうすい黄で外縁はさえた赤で縁取られる。頭部と体側の背面にさえた黄みの赤の斑紋が散在する。頬に2つのさえた黄みの赤の斑紋が縦列し、眼の後下縁後方に1つのさえた黄みの赤の縦

斑がある。胸鰭基底上部にあさい黄の斑紋がある。腹部の皮下に大きなさえた黄みの赤の2横斑がある。尾部腹中線の皮下に7つのさえた黄みの赤の斑紋が並ぶ。各鰭の鰭膜は無色半透明、鰭条は無色半透明からややオレンジがかり、第2背鰭と尾鰭にさえたオレンジの微小点が散在。

分布 小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県、相模湾、伊豆半島、紀伊半島、高知県、愛媛県、鹿児島県、大隅諸島、琉球列島；インド・太平洋。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側水深 5 m 以深で採集された 1 標本に基づく。学名は Greenfield & Randall (2010) に従ったが、太平洋産のもの、紅海やオマーン産のものとは、眼背面の暗色点の有無が異なり、今後精査が必要。腹部に大きな暗色横斑があること、眼や頭部の背面、胸鰭基底に黒点がないことなどで和名のある同属他種と区別できる。生息水深は 3–15 m。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁外縁、礁斜面に生息し、サンゴの根の上に単独でみられる。

(鈴木寿之)



■ シロイソハゼ lou-jima, 15 July 2009, Y. Komiya



■ アカイソハゼ lou-jima, 3 July 2009, Y. Komiya

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

アカイソハゼ

Eviota masudai Matsuura & Senou, 2006

形態 背鰭 VI-I, 10；臀鰭 I, 9；胸鰭 18；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 7+6；尾鰭分節鰭条数 9+8；縦列鱗数 24；横列鱗数 7；背鰭前方鱗数 0。頭部感覚管開孔はシロイソハゼと同様である。第 1 背鰭第 1・2 棘が最長で、鰭膜と共に伸長し、先端は倒すと第 2 背鰭基底中央に達する。胸鰭上端 2 本と下端 1 本の軟条は分枝しない。



■ アカイソハゼ (オス) KAUM-I. 29441, 26.2 mm SL, lou-jima

左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はない。第5軟条は不分枝で短く、その長さは第4軟条の約10%、第4軟条は6本の分枝を持ち、第3・4軟条間の鰭膜は先端まで発達する。雄の生殖突起基部に指状皮弁がない。頭部、第1背鰭基底下は無鱗、腹部は弱い櫛鱗、残る体側は櫛鱗を被る。

色彩 生鮮時、頭部の地色はあさい赤みの黄、体側の地色はうすい黄で、各体側鱗の前面に明るい黄みの赤の横斑がある。虹彩はグレイで、放射状に8つのさえた黄みの赤の斑紋がある。主鰓蓋部上方に大きな1黒斑がある。頭部にさえた黄みの赤の斑紋が散在する。胸鰭基底に2つのさ

えた黄みの赤の円形斑があり、その表面に黒点が凝集する。腹部の2・3つ、尾部正中線に5つ、尾部腹中線に7つの紫みのピンクの不明瞭な斑紋がそれぞれ皮下にある。各鰭は明るいグレイで背鰭と尾鰭にさえた黄みの赤からあさい黄の黒点が密在する。腎鰭にさえた黄みの赤とにぶい黄の縞模様がある。

分布 小笠原諸島、伊豆諸島、房総半島～鹿児島県、瀬戸内海、佐渡島、隠岐島、奄美大島。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10-60 mで採集された1標本（前頁写真）

に基づく。腹部に白の横斑や斜目模様がある個体もある。頬と眼後方に短い赤系の色彩の縦線があることで近似的イソハゼと区別できる。生息水深は普通2-20 m。岩礁域に生息し、単独かペアでみられる。（鈴木寿之）

Other collected specimens: KAUM-I. 29425, 25.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29484, 20.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29485, 19.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29551, 48.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29652, 20.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29723, 23.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30584, 18.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30586, 10.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31395, 23.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37931, 24.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106134, 19.1 mm SL, Iou-jima.

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

ナンヨウミドリハゼ

Eviota prasina (Klunzinger, 1871)

形態 背鰭 VI-I, 10; 腎鰭 I, 8; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 4; 尾鰭分枝鰭条数 7+6; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 24; 横列鱗数 7; 背鰭前方鱗数 0。頭部感覚管開孔はシロイソハゼとほぼ同様であるが、前眼肩胛管に開孔 H のみを欠く。第1背鰭第1棘が最長で、糸状に伸長し、先端は倒すと第2背鰭基底中央に達する。胸鰭上端7本と下端1本の軟条は分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第5軟条もない、第4軟条は7本の分枝を持ち、第3と4軟条間の鰭膜の発達は悪い。雄の生殖突起基部に多数の指状皮弁がある。頭部、第1背鰭基底下、腹部腹中線上は無鱗、腹部は円鱗、残る体側は櫛鱗を被る。

色彩 死後や時間がたった体は不透明になり、地色はあさい黄緑で、各体側鱗の前面につよい赤みのオレンジの横斑がある。虹彩は明るいグレイで、周囲につよい赤み



■ ナンヨウミドリハゼ（オス）KAUM-I. 29657, 22.5 mm SL, Take-shima

のオレンジの斑紋がある。頭部にはつよい赤みのオレンジの斑紋が散在し、胸鰭基底には同色の大きな2楕円形斑がある。尾柄部後端付近の正中線の上に1黒眼状斑がある。尾部腹中線上の皮下に灰みのピンクの5斑紋がある。各鰭は明るいグレイで、垂直鰭はグレイで太く縁取られる。背鰭につよい赤みのオレンジの斑紋が散在する。

分布 小笠原諸島、千葉県、八丈島、伊豆半島、和歌山県、徳島県、高知県、愛媛県、種子島、屋久島、鹿児島県竹島、琉球列島; インド・西太平洋。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側水深5-20 mで採集された1標本（上写真）に基づく。体の地色は黄みがつよく、斑紋は赤みがつよい個体も多い。ミドリハゼと混同されることが多いが、本種の頭部の斑紋が点状で帯にならないことで区別できる。生息水深は3-6 m。内湾、サンゴ礁域の礁池に生息し、タイドプール、ガレ場の死サンゴ片や死サンゴ塊の隙間に、単独でみられる。

（鈴木寿之）

Other collected specimen: KAUM-I. 29659, 20.5 mm SL, Take-shima.

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

ミドリハゼ

Eviota toshiyuki Greenfield & Randall, 2010

形態 背鰭 VI-I, 9; 腎鰭 I, 8; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 4; 尾鰭分枝鰭条数 7+7; 尾鰭分節鰭条数 9+7; 縦列鱗数 24; 横列鱗数 7; 背鰭前方鱗数 0。頭部感覚管開孔はシロイソハゼと同様である。第1背鰭第1棘が最長で、第1-3棘はやや糸状に伸長し、第1棘先端は倒すと第2背鰭起点に達する。胸鰭上端1本と下端2本の軟条は分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第5軟条もない、第4軟条は5本の分枝を持ち、第3と4軟条間の鰭膜は発達は悪い。雄の生殖突起基部に指状皮弁がない。頭部、第1背鰭基底下は無鱗、腹部は円鱗、残る体側は櫛鱗を被る。



■ ミドリハゼ（オス）KAUM-I. 29573, 17.0 mm SL, Take-shima

色彩 生鮮時、体の地色は灰みの白、背面はやや黄みがかかり、腹部をのぞく各体側鱗の前面にこい赤の横斑がある。虹彩は明るいグレイで、周囲にこい赤の斑紋があ

る。頭部に5-6本のこい赤のジグザグ横帯がある。第1背鰭の前方から鰭下方にかけて6つのこい赤の斑紋が並ぶ。胸鰭基底に2こい赤の円形斑がある。体側の皮

下に太い6グレイの横帯があり、2と5番目の横帯は二又して逆「V」字状になる。各鱗は灰みの白で、背鱗にこい赤点が散在し、臀鱗基底に2つのこい赤の斑紋がある。

分布 小笠原諸島、伊豆諸島、伊豆半島、和歌山県、高知県、鹿児島県硫黄島、竹島、

屋久島、琉球列島、南大東島。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側水深5–20 mで採集された1標本（上写真）に基づく。本標本はTomiyama (1936) のミドリハゼの図や記載、Greenfield & Randall (2010) の原記載や図によく一致する。第1背鱗第1–2棘が伸張する個体も

ある。頭部に5–6本のこい赤のジグザグ横帯があることで近似種と区別できる。生息水深は4–10 m。主に岩礁域に生息する。（鈴木寿之）

Other collected specimens: KAUM-I. 29653, 19.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29656, 17.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30585, 11.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30619, 8.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32346, 13.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37614, 18.5 mm SL, Iou-jima.



セホシサンカクハゼ（メス） KAUM-I. 29611, 39.1 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハゼ科 サンカクハゼ属

セホシサンカクハゼ

Fusigobius duospilus Hoese & Reader, 1985

形態 背鱗 VI-I, 9; 臀鱗 I, 8; 胸鱗 17; 腹鱗 I, 5; 尾鱗分枝鱗条数 6+6; 尾鱗分節鱗条数 9+8; 縦列鱗数 22; 横列鱗数 7; 背鱗前方鱗数 0。頭部感覚管は、前眼肩胛管に開孔 B', C (単一)、D (単一)、E、F、G、H'、後眼肩胛管に開孔 K', L'、前鰓蓋管に開孔 M', N、O' がある。後鼻孔は上唇後縁と眼窩前縁間の中央よりやや後ろに開孔する。第1背鱗第1–2棘が最長であるが伸張せず、第2背鱗より低い。左右の腹鱗間の膜蓋は痕跡的であるが、癒合膜はやや発達し、その長さは第5軟条の約 60 % である。第5軟条は分枝する。頬、主鰓蓋部、第1背鱗前方、第1背鱗基底下は無鱗。項部側面、胸鱗基底、

腹鱗前方、腹部の前部と腹中線上は円鱗、残る体側は楡鱗を被る。項部側面の鱗は眼後縁と前鰓蓋骨後縁間の上方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色は白で、腹面をのぞき、明るい黄の斑点と黒色素胞が散在する。虹彩は明るいグレイで、放射状に5つのこい赤みのブラウンの小点があり、下部は白である。吻、眼下、眼後部に明るいオレンジの線がある。主鰓蓋部の下半分は明るいオレンジである。胸鱗腋上方と体側正中線上に明るいオレンジの斑紋が縦列する。各オレンジの斑紋や黄斑には黒色素胞が凝集し、尾鱗基底部では眼径より小さい三角形の1黒斑をつくる。各鱗は半透明で、背鱗に4本の明るい黄の縦線、第1背鱗前部には1本の黒の垂線、同後部には1黒斑、第2背鱗基底に3つの明るいオレンジの斑紋があり、尾鱗には明るい黄点が散在する。

分布 小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾、伊豆半島、三重県、和歌山県、徳島県、高知県、愛媛県、屋久島、鹿児島県硫黄島・竹島、琉球列島; インド・太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島西側水深5–20 mで採集された1標本（上写真）に基づく。生息水深は10–20 m。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁外縁やドロップオフ下に生息し、崖下の砂だまり、礫や死サンゴ片混じりの砂底に、単独でみられる。（鈴木寿之）

Other collected specimens: KAUM-I. 30615, 41.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32347, 27.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37991, 40.5 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106919, 36.2 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106926, 35.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106942, 14.8 mm SL, Iou-jima.

スズキ目 ハゼ科 サンカクハゼ属

セズジサンカクハゼ

Fusigobius gracilis (Randall, 2001)

形態 背鱗 VI-I, 9; 臀鱗 I, 8; 胸鱗 18; 腹鱗 I, 5; 尾鱗分枝鱗条数 6+6; 尾鱗分節鱗条数 9+8; 縦列鱗数 23; 横列鱗数 7; 背鱗前方鱗数 0。頭部感覚管はよく発達し、開孔はセホシサンカクハゼと同様である。後鼻孔は上唇後縁と眼窩前縁間の中央に開孔する。第1背鱗第2棘が最長であるが伸張せず、第2背鱗より低い。左右の

腹鱗間の膜蓋はないが、癒合膜は発達し、その長さは第5軟条の約 75 % である。第5軟条は分枝する。鱗の分布は第1背鱗基底下に楡鱗を被る以外は、セホシサンカクハゼと同様である。

色彩 生鮮時、体の地色は白で、腹面をのぞき、黒色素胞が中央に凝集するあさい黄の斑点が散在する。黒色素胞は、眼下、眼の後方、胸鱗基底、胸鱗腋上方、体側正中線上で、多数凝集し、尾鱗基底部で腫大の1黒斑をつくる。虹彩は明るいグレイで、放射状にこい赤みのブラウンの5小

点があり、下部は白である。各鱗は半透明で、背鱗と尾鱗に黒色素胞が中央に凝集するあさい黄の斑点が散在し、第1背鱗前部に1本の黒の垂線がある。

分布 小笠原諸島、紀伊半島、徳島県、高知県、鹿児島県竹島、屋久島、口永良部島、琉球列島; 中・西部太平洋。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側水深5–20 mで採集された1標本（次頁写真）に基づく。セホシサンカクハゼに似るが、本種の第1背鱗後部に1黒斑がない

こと（セホシサンカクハゼではある）、尾鰭基底の黒斑が円形であること（三角形）で区別できる。生息水深は5–20 m。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁池、礁湖、礁斜面に生息し、礫や死サンゴ片混じりの砂底に、単独でみられる。

（鈴木寿之）



■ セスジサンカクハゼ（メス） KAUM-I. 37779, 41.1 mm SL, Take-shima



■ ハタタテサンカクハゼ（メス） KAUM-I. 29430, 45.4 mm SL, Iou-jima



■ ハタタテサンカクハゼ Iou-jima, 5 June 2009, S. Dewa

スズキ目 ハゼ科 サンカクハゼ属

ハタタテサンカクハゼ

Fusigobius inframaculatus (Randall, 1994)

形態 背鰭 VI-I, 9 ; 臀鰭 I, 8 ; 胸鰭 18 ; 腹鰭 I, 5 ; 尾鰭分枝鰭条数 6+6 ; 尾鰭分節

鰭条数 9+8 ; 縦列鱗数 26 ; 横列鱗数 8 ; 背鰭前方鱗数 0。頭部感覚管はよく発達し、開孔はセホシサンカクハゼと同様である。後鼻孔は上唇後縁と眼窩前縁間の中央に開孔する。第1背鰭第1棘が最長で第2棘とともに糸状に伸張し、第1棘先端は倒すと第2背鰭基底中央に達する。左右の

腹鰭間に膜蓋と癒合膜が発達し、癒合膜の長さは第5軟条の約80%である。第5軟条は分枝する。鱗の分布は項部側面に櫛鱗が混じる以外は、セスジサンカクハゼと同様である。

色彩 生鮮時、体の地色は黄みの白で、

黒色素胞が密に、腹面をのぞき鱗はチョコレートに縁取られる。虹彩はグレイで、数個の明るいオレンジの斑紋がある。頭部にチョコレートで縁取られた瞳大の明るいオレンジの斑紋が多数ある。体側に瞳大の明るい黄みのオレンジから明るい黄の斑紋が多数ある。体側正中線の皮下にグレイの輪郭の不明瞭な斑紋が縦列し、尾鰭基底部に眼径大の三角形の1黒斑がある。各鰭は半透明で、背鰭と尾鰭に明るいオレンジから明るい黄の斑紋が、臀鰭基部付

近に明るい黄の1縦線がある。

分布 伊豆諸島、静岡県、紀伊半島、高知県柏島、屋久島、鹿児島県硫黄島、琉球列島；インド・西太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10 m以深で採集された1標本（前頁写真）に基づく。第1背鰭第1棘は糸状に伸長すること、尾鰭基底に眼径大の黒色三角斑があるなどで同属他種と区別できる。生息

水深は6—30 m。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁外縁やドロップオフに生息し、礁原の亀裂や崖下の砂だまりに多い。礫混じりの砂底や砂泥底に単独でみられる。

（鈴木寿之）

Other collected specimens: KAUM-I. 29445, 17.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29476, 28.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29552, 27.4 mm SL, Iou-jima.



オオモンハゼ（オス） KAUM-I. 29541, 39.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハゼ科 オオモンハゼ属

オオモンハゼ

Gnatholepis anjerensis (Bleeker, 1850)

形態 背鰭 VI-1, 11；臀鰭 I, 11；胸鰭 16；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 7+6；尾鰭分節鰭条数 9+8；縦列鱗数 29；横列鱗数 9；背鰭前方鱗数 9。口は小さく、強く傾斜せず、口角部に皮質突起がある。吻は丸く突出する。頭部感覚管はよく発達し、前眼肩胛管に開孔 A'、B、C、D（単一）、F、H'、後眼肩胛管に開孔 K'、L'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O' がある。第1背鰭第2-3棘が最長であるが伸張しない。類、主鰓蓋部、第1背鰭前方、項部側面、胸鰭基底、腹鰭前方は円鱗、残る体側は楯鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は左右の眼後縁を結ぶ線に達する。

色彩 生鮮時、体の地色はうすいベージュ、体腹側はやや白みがかかる。左右の虹彩上部から両眼間にかけて、背面から見て逆「ハ」の字の暗い灰みのブラウンの斑紋、虹彩下部から同色の眼下垂線がある。頭部側面と胸鰭基部にあさい黄や明るいオレンジの斑紋が散在する。胸鰭基部上方に不明瞭なブラウンみのゴールドの斑点を囲む暗いグレイの2小点がある。体背側に5つのあさい黄みのブラウンの鞍状斑、体側正中線に6つの大きな長方形のぶい赤の斑紋がある。体側に7本の暗い灰みのブラウンからあさい赤みのブラウンの点列が縦走する。背鰭に5列、臀鰭基底に1列のこい赤みのブラウンからあさい赤みのブラウンの点列が縦走する。尾鰭にこい赤みのブラウン点が散在する。

分布 八丈島、静岡県、和歌山県、高知県、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島；インド・太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10 m以深で採集された1標本（上写真）に基づく。胸鰭基部上方に黄点を囲む小黒斑の有無、体側の色斑には個体変異が見られカタボシオオモンハゼとの識別点にはならない。生息水深は普通2 m以浅。河川の河口周辺、サンゴ礁域の礁地に生息し、タイドプールや岸よりの死サンゴ片混じりの砂底や砂泥底に単独でみられる。

（鈴木寿之）

Other collected specimens: KAUM-I. 31414, 43.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31690, 27.4 mm SL, Iou-jima.

スズキ目 ハゼ科 オオモンハゼ属

カタボシオオモンハゼ

Gnatholepis cauerensis (Bleeker, 1853)

形態 背鰭 VI-1, 11；臀鰭 I, 11；胸鰭 17；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 7+6；尾鰭分節鰭条数 9+8；縦列鱗数 27；横列鱗数 9；背鰭前方鱗数 10。腹部は円鱗を被る以外の形態はオオモンハゼとほぼ同じである。

色彩 生鮮時、体の地色は黄みの白、体腹側はやや白みがかかる。左右の虹彩上部から両眼間に真一文字の黒の線があり、虹彩下部から同色の眼下垂線がある。胸鰭基部上方に明るい赤みの黄の斑点を囲むにぶい青斑がある。体背側にブラウンみのオリブの8-9鞍状斑、体側正中線に同色の大きな5円形斑がある。体側から尾鰭にかけて6本のブラウンみのオリブからさえた紫みの赤の点列が縦走する。背鰭に3-4本、臀鰭基底に1本のさえた

紫みの赤の縦線がある。

分布 小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県～高知県、愛媛県、屋久島、鹿児島県硫黄島、琉球列島；インド・太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10 m以深で採集された1標本（次頁写真）に基づく。両眼間の横線は個体によって、背中線上で途切れるが左右の線は一直線となす。オオモンハゼと体側の色斑が酷

似するものがあるが、本種の胸鰭条数が16-19（モード17）と多く（オオモンハゼでは14-17）、両眼間に一直線の横線がある（逆「ハ」の字の黒色斑）ことで、両種は区別可能である。生息水深は1-35 m。

内湾の湾口から湾奥、サンゴ礁域の礁池、礁湖、礁斜面、ドロップオフ下に生息し、ドロップオフ下の砂底、サンゴの根の周辺の死サンゴ片や死サンゴ塊混じりの砂泥底や砂底、ガレ場などに、単独でみられる。
（鈴木寿之）

Other collected specimens: KAUM-I. 30539, 17.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32315, 32.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32348, 30.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32349, 36.1 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106703, 15.8 mm SL, Take-shima.



カタボシオオモンハゼ（メス） KAUM-I. 37743, 42.7 mm SL, Iou-jima



フタイロサンゴハゼ（オス） KAUM-I. 29677, 34.0 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハゼ科 コバンハゼ属

フタイロサンゴハゼ

Gobiodon quinquestrigatus

(Valenciennes, 1837)

形態 背鰭 VI-I, 10 ; 臀鰭 I, 8 ; 胸鰭 20 ; 腹鰭 I, 5 ; 尾鰭分枝鰭条数 8+8 ; 尾鰭分節鰭条数 9+8。両顎はほぼ同長。鰓孔は狭く、胸鰭基底間に限られる。頭部感覚管は発達し、前眼肩胛管に開孔 B'、C（単一）、D（単一）、E、F、H'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O'がある。頭部腹面左右に溝はない。両顎歯は円錐形で、3種の大きさの歯列が見られる。下顎縫合部内側に巨大な2犬歯状歯がある。第1背鰭は半円形

で、棘は伸張しない。胸鰭上・下端の1軟条は分枝しない。左右の腹鰭間の膜蓋と癒合膜はよく発達してカップ状をなし、後端は起点と臀鰭起点間の中央に達しない。膜蓋前面は湾入せず、棘先端はイボ状に突出する。体に鱗はない。

色彩 生鮮時、体と鰭の地色はうすいピンクで、腹部は白である。虹彩は明るい黄みの赤、内縁はうすい黄で縁取られる。頭部から胸鰭基底にかけ5本のうすいスカイの横線、胸鰭上方から腋下の体側に3本の同色横線がある。背鰭と臀鰭の基底部にうすいスカイの1縦帯が走る。

分布 小笠原諸島、八丈島、静岡県、和

歌山県、高知県柏島、愛媛県、屋久島、種子島、鹿児島県竹島、琉球列島；インド太平洋。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側水深5-20 mで採集された1標本（上写真）に基づく。生時、頭部は淡色で、体側と鰭は暗色であること、頭部から胸鰭基底にかけ青系の5横線を持つことで、同属他種から区別できる。生息水深は1-15 m。内湾の湾口から湾奥、サンゴ礁域の礁池、礁湖、礁外縁、礁斜面に生息し、ミドリイシ属の主にテーブル状サンゴの枝間に、単独から数尾でみられる。

（鈴木寿之）



■ コバンハゼ属の1種(メス) KAUM-I. 30552, 20.1 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハゼ科 コバンハゼ属

コバンハゼ属の1種

Gobiodon sp.

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 20; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 8+8; 尾鰭分節鰭条数 9+8。両顎はほぼ同長。鰓孔は狭く、胸鰭基底間に限られる。頭部感覚管開孔はフタイロサンゴハゼと同様である。頭部腹面左右に溝はない。両顎歯は円錐形で、2種の大きさの歯列が見られる。下顎縫合部内側に巨大な1犬歯状歯がある。第1背鰭は半円形で、棘は伸張しない。胸鰭下端の1軟条は分枝しない。左右の腹鰭

間の膜蓋と癒合膜はよく発達してカップ状をなし、後端は起点と臀鰭起点間の中央に達する。膜蓋前面は湾入せず、棘先端は糸状に突出する。体に鱗はない。

色彩 生鮮時、体の地色は明るい灰みの黄緑で、頭部腹面は青みの白である。腹面と項部をのぞく頭部にさえた黄みのオレンジで太く縁取られた多数のスカイの横線があり、体側正中線付近に迷路状の同色線がある。各鰭は明るいグレイ、背鰭と臀鰭の基底部にさえた黄みのオレンジの2縦帯に挟まれたうすいスカイの1縦帯が走る。腹鰭はあさいオレンジである。

分布 鹿児島県硫黄島、西表島。

備考 本項の記載は硫黄島西側水深2-22mで採集された1標本(上写真)に基づく。鈴木・渋川(2004)のコバンハゼ属の1種-5と同種。タスジコバンハゼ *Gobiodon rivulatus* (Rüppell, 1830) に似るが、眼下に3本のスカイの垂線があることで区別できる(タスジコバンハゼでは2本)が、今後、両種の詳細な比較検討が必要である。生息水深は4-8m。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁外縁、礁斜面に生息し、ミドリイシ属のテーブル状サンゴの枝間に、単独かペアでみられる。

(鈴木寿之)



■ ホシカザリハゼ(オス) KAUM-I. 37742, 36.9 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハゼ科 クツワハゼ属

ホシカザリハゼ

Istigobius decorates (Herre, 1927)

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 7+6; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 29; 横列鱗数 7; 背鰭前方鱗数 8。頭部感覚管はよく発達し、

前眼肩胛管に開孔 B'、C(単一)、D(単一)、E、F、G、H'、後眼肩胛管に開孔 K'、L'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O' がある。第1背鰭第3棘が最長であるが、伸張しない。胸鰭に遊離軟条はなく、最上・下端の1軟条は分枝しない。腹鰭は長楕円形の皿状で、膜蓋と癒合膜がよく発達する。頬、主鰓蓋部は無鱗、第1背鰭前方、項部側面、胸鰭基底、腹鰭前方は円鱗、残る体

側は楕鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は左右の眼後縁を結ぶ線に、腹鰭前方の鱗は眼後縁と前鰓蓋骨後縁間の下方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色は白で、腹面をのぞく鱗はグレイで縁取られる。頭部の背面にこい赤の斑紋が散在し、眼下に同色の短い縦線、頬に「へ」の字の同色斑がある。体背側に、こい赤のつながった2点

が2列、その下方にこいオレンジの小点が2列に縦走する。体側から尾鰭基底にかけての正中線上をこい赤みのブラウンのつながった2点が5つ縦に並び、その下方を同色点が縦走する。各鰭は黄みの白で、第1背鰭1-3棘間の上部に2つの黒点がある。第1背鰭に2本、第2背鰭に3本、臀鰭基底に1本のこい赤みのオレンジの縦線がある。尾鰭にこい赤みのオレンジの斑

紋が散在する。

分布 伊豆諸島、伊豆半島、紀伊半島、高知県柏島、愛媛県、屋久島、鹿児島県竹島、琉球列島；インド・太平洋。

備考 本項の記載は竹島港内水深3-5mで採集された1標本（前頁写真）に基づく。第1背鰭前上部に黒斑があることで同属他

種と区別できる。生息水深は普通10-15m。内湾、サンゴ礁域のドロップオフ下に生息し、崖下の砂底、サンゴの根の周辺の死サンゴ片や死サンゴ塊混じりの砂泥底や砂底に単独でみられる。

(鈴木寿之)

Other collected specimen: KAUM-I. 37741, 54.1 mm SL, Take-shima.

スズキ目 ハゼ科 ウミシヨウブハゼ属

スケロクウミタケハゼ

Pleurosicya boldinghi Weber, 1913

形態 背鰭 VI-I, 7；臀鰭 I, 8；胸鰭 20；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 6+6；尾鰭分節鰭条数 9+8；縦列鱗数 25；横列鱗数 10；背鰭前方鱗数 0。頭高と体高が高い。両顎前端はほぼ同長。下顎先端は丸い。鰓孔下前端は眼後縁下に達する。頭部感覚管は発達し、前眼肩胛管に開孔 B'、C (単一)、D (単一)、E、F、G'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O' がある。第1背鰭第2・3棘が最長であるが伸張しない。胸鰭上端2軟条と下端3軟条は分枝しない。腹鰭は浅いスーブ皿状で、後端は起点と臀鰭起点間の中央をやや超える。腹蓋前面は後方に袋状に浅く湾入し、棘先端は指状に突出する。尾鰭後縁は截形。頬、主鰓蓋部、第1背鰭前方、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部腹中線周辺は無鱗、項部側面と残る体側は櫛鱗を被る。項部側面の鱗は前鰓蓋骨後縁上方に達する。

色彩 生鮮時、体と鰭は半透明で、うすい黄である。虹彩は明るい赤で、瞳の周囲は黄みの白である。吻から眼前縁にかけ明るいオレンジの帯、眼後縁から後方と後上方にかけて2本のあさいオレンジの帯がある。各鰭に斑紋がない。

分布 伊豆諸島、千葉県、相模湾、伊豆半島、紀伊半島、高知県柏島、愛媛県宇和海、鹿児島県硫黄島、琉球列島；インド・太平洋。

備考 本項の形態の記載は硫黄島西側水深5-20mで採集された1標本(KAUM-I. 26694、幼魚、体長17.2mm)に基づく。色彩の記載は、同地点で採集された1標本(右写真)に基づく。体高が高いこと、吻部のオレンジの帯以外に顕著な斑紋がないことで、同属他種と区別できる。生息水深は30-40m。内湾、サンゴ礁域の礁斜面に生息し、トゲトサカ類に、単独かペアで着生する。(鈴木寿之)

Other collected specimens: KAUM-I. 29614, 17.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29615, 13.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29616, 12.0 mm SL, Iou-jima.



スケロクウミタケハゼ KAUM-I. 29612, 12.4 mm SL, Iou-jima



スケロクウミタケハゼ Iou-jima, 8 July 2009, S. Dewa



スケロクウミタケハゼ Take-shima, 7 July 2009, S. Dewa

スズキ目 ハゼ科 ウミシヨウハゼ属

セボシウミタケハゼ

Pleurosicya mossambica Smith, 1959

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 6+5; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 27; 横列鱗数 8; 背鰭前方鱗数 0。上顎前端は下顎よりやや突出する。鰓孔下前端は眼後半部下に達する。頭部感覚管開孔はスケロクウミタケハゼと同様である。第1背鰭第2棘が最長であるが、伸張しない。胸鰭上・下端3軟条は分枝しない、腹鰭の形状はスケロクウミタケハゼと同様であるが後半部は平坦な皿状である。尾鰭後縁は丸い。頬、主鰓蓋部、第1背鰭前方、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部腹中線周辺は無鱗、項部側面と残る体側は櫛鱗を被る。項部側面の鱗は眼後縁にわずかに達しない。

色彩 生鮮時、体の地色は白で、黒とこいピンクの微小点が密在する。虹彩はこい紫みのピンクで、瞳の周囲はうすい黄である。吻から眼前縁にかけさえた黄みのオレンジの帯がある。眼後方と主鰓蓋部はうすい黄である。各鰭は半透明で、背鰭と臀鰭の基底部と縁辺につよい赤みのオレンジの微小点からなる縦帯がある。第1背鰭基底に1つの黒の半楕円形斑がある。胸鰭下縁はつよい赤みのオレンジで縁取られ、尾鰭は同色の微小点による縞模様がある。

分布 伊豆諸島、千葉県、相模湾、伊豆半島、高知県、愛媛県、屋久島、鹿児島県硫黄島、琉球列島; インド・西太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島西側水深3-16 mで採集された1標本(上写真)に基づく。第1背鰭基底に1黒半楕円形斑があることで同属他種と区別できる。生息水深は2-20 m。内湾の湾口から湾奥、サンゴ礁域の礁原外縁、礁斜面に生息し、ウミトサカ類、カイメン類、スリパチサンゴ類に着生する。体色にはいくつかのタイプがみられ、今後、精査が必要。

(鈴木寿之)

Other collected specimen: KAUM-I. 30631, 16.4 mm SL, lou-jima.



■ セボシウミタケハゼ lou-jima, 14 Aug. 2008, S. Dewa



■ セボシウミタケハゼ KAUM-I. 37613, 15.9 mm SL, lou-jima



■ セボシウミタケハゼ lou-jima, 13 July 2007, S. Dewa



■ セボシウミタケハゼ lou-jima, 7 July 2008, S. Dewa



■ セボシウミタケハゼ lou-jima, 15 June 2009, S. Dewa



■ セボシウミタケハゼ lou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa



ベンケイハゼ KAUM-I. 29741, 21.9 mm SL, Iou-jima



ベンケイハゼ Iou-jima, 18 Sept. 2010, Y. Matsuda

スズキ目 ハゼ科 イレズミハゼ属

ベンケイハゼ

Priolepis cincta (Regan, 1908)

形態 背鰭 VI-I, 11; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 7+6; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 28; 横列鱗数 12; 背鰭前方鱗数 18。頭部感覚管がなく、頬の孔器配列は退縮的である。両眼間と眼後方に溝がない。第1背鰭第3棘が最長であるが、伸長しない。胸鰭上・下端の1軟条は分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋はないが、癒合膜はよく発達し、その長さは第5軟条の約95%。頬は無鱗、主鰭蓋部上部は2列5枚の小円鱗、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部は小円鱗、第1背鰭前方、項部側面、残る体側は櫛鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は左右の瞳孔後縁を結ぶ線に達する。

色彩 生鮮時、体の地色はにぶい黄で、各体側鱗はブラウンみのオリーブで縁取られる。虹彩はうすい緑で放射状に7つの明るい黄みのオレンジの斑紋がある。頭部に4本、体側に8本のオリーブで縁取られた黄みの白の横帯が並ぶ。各鱗はにぶい黄からあさい赤みのブラウンで縁辺は白く縁取られる。第2背鰭と尾鰭上・中葉に黄みのブラウンの小点が散在する。

分布 小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県、相模湾、静岡県～西表島、瀬戸内海；インド・西太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10m以深で採集された1標本（上写真）に基づく。本種の幼魚には第1背鰭前部に1つの黒の眼状斑をもつ個体もあり、*Priolepis triops* Winterbottom & Burrige, 1993に混同されることもある。しかし本種

の第2背鰭と尾鰭に暗斑が散在することで区別できる。生息水深は3–30m。内湾の中程から湾奥、サンゴ礁域の礁原、礁斜面に生息し、サンゴの根の亀裂や岩穴の天井面に、単独かペアでみられる。

(鈴木寿之)

Other collected specimens: KAUM-I. 29491, 13.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29575, 34.9 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30068, 30.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30069, 26.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30070, 24.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 33948, 24.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37691, 33.9 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37759, 30.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 37962, 32.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37758, 33.5 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 32356, 25.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31689, 16.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106135, 28.1 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106188, 9 specimens, 8.6–14.9 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106709, 2 specimens, 13.7–19.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106913, 2 specimens, 26.9–29.9 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106974, 8.2 mm SL, Iou-jima.



■ フトスジイレズミハゼ KAUM-I. 30537, 13.0 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハゼ科 イレズミハゼ属

フトスジイレズミハゼ

Priolepis latifascima

Winterbottom & Burrige, 1993

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 6+6; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 25; 横列鱗数 8; 背鰭前方鱗数 0。頭部感覚管がなく、頬の孔器配列は退縮的である。両眼間は広く、浅い窪みをつくり、眼後方に浅い溝がある。第 1 背鰭第 2 棘が最長で、第 1-4 棘は伸長し、その間の鰭膜の欠刻は深い。胸鰭上端の 5 軟条は分枝しない。左右の腹鰭

間に膜蓋はないが、癒合膜はやや発達し、その長さは第 5 軟条の約 67%。胸鰭基底上端と第 2 背鰭基底中央を結ぶ線より前方の頭部と体側背面は無鱗、腹部は小円鱗、残る体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、頭部から体側前端部、腹部の地色は明るい黄、残る体側は白で、黄みブラウンから黒の微小点が密在する。虹彩はうすい緑で放射状に 7 つの明るい黄みのオレンジの斑紋がある。頭部に 4 本、体側前端部に 1 本の暗い灰みのブラウンで縁取られた白の横帯があり、後 2 本は背側で 1 本に融合する。体背側に 6 つ、尾部腹側に 4 つの明るい黄の斑紋がある。

各鰭は明るい黄である。背鰭に白の小点が散在し、臀鰭基底と縁辺が白い。

分布 小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県、相模湾、駿河湾、紀伊半島、鹿児島県硫黄島、奄美大島、徳之島、沖縄島、西表島; 台湾。

備考 本項の記載は硫黄島西側水深 2-22 m で採集された 1 標本（上写真）に基づく。生息水深は 3-13 m。河川の河口周辺、内湾の湾奥、サンゴ礁域の礁池、礁原に生息し、砂底や藻場の死サンゴ塊下、タイドプールの穴に、単独かペアでみられる。（鈴木寿之）



■ イレズミハゼ KAUM-I. 37738, 23.1 mm SL, Take-shima

スズキ目 ハゼ科 イレズミハゼ属

イレズミハゼ

Priolepis semidoliata (Valenciennes, 1837)

形態 背鰭 VI-I, 6（後方の軟条が欠損）; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 7+6; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 28; 横列鱗数 11; 背鰭前方鱗数 0。他の形態は、第 1 背鰭第 3 棘が最長で、

第 1-3 棘が糸状に伸張すること、胸鰭上・下端の 1 軟条は分枝しないこと、腹鰭前方に 3 小円鱗をもつことを除いて、フトスジイレズミハゼほぼ同様。

色彩 生鮮時、頭部から体側前端部、腹部の地色はこい黄、残る体側は灰みの白で、各体側鱗はつよい緑みの黄で縁取られる。虹彩はうすい緑で放射状に7つの明るい黄みのオレンジの斑紋がある。頭部に4本、体側前端部に1本の暗い灰みのブラウンで縁取られた白の横帯があり、後2本は背側で1本に融合する。躯幹部背側はあさいブラウンがかり、約7本の暗い灰みのブラウンで縁取られた白の横帯がある。背鰭は灰みの白で半透明、鰭条はつ

よい緑みの黄で、下半部に1列のあさいブラウンの小点が縦走する。他の鰭はつよい緑の黄である。

分布 小笠原諸島、八丈島、紀伊半島、愛媛県、種子島、屋久島、鹿児島県竹島、琉球列島；インド・太平洋。

備考 本項の記載は竹島港内水深3-5mで採集された1標本（前頁写真）に基づく。フトスジイレズミハゼ *P. latifascima*

Winterbottom & Burrige, 1993によく似るが、本種の項部にある二叉する明色横帯が、分枝点付近で同じ太さであること（フトスジイレズミハゼでは後方のものが前方より太い）、体側に網目状模様があること、(なし)、体側の明色横帯が側面まで達する（明色鞍状斑）ことで区別できる。生息水深は普通2m以浅。フトスジイレズミハゼとほぼ同様な環境に生息する。

（鈴木寿之）

Other collected specimen: NSMT-P 106114, 23.4 mm SL, Take-shima.



■ アワセイソハゼ（オス） KAUM-I. 29650, 16.9 mm SL, Take-shima



■ アワセイソハゼ（メス） KAUM-I. 29444, 17.4 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハゼ科 アワセイソハゼ属

アワセイソハゼ

Sueviota lachneri

Winterbottom & Hoese, 1988

形態 背鰭 VI-I, 9；腎鰭 I, 8；胸鰭 17-18；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 6+6-5；尾鰭分節鰭条数 8+7-8；縦列鱗数 25-26；横列鱗数 6-7；背鰭前方鱗数 0。頭部感覚管は発達し、前眼肩胛管に開孔 B'、C（単一）、D（単一）、E、F'、前鰓蓋管に開孔 N'、O' がある。鰓孔は狭く、前下端は主

鰓蓋部中央下に達する。雄の第1背鰭第1棘が最長で、やや糸状に伸張する。左右の腹鰭間に膜蓋がないが、融合膜は第5軟条の先端近くまで発達し、第3-4軟条間の鰭膜も先端近くまで発達する。各軟条はよく分枝し、第5軟条は長く、その長さは第4軟条の約90%である。胸鰭基底上端と第2背鰭起点を結ぶ線より前方の頭部と体側背面、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残る体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体は半透明で、頭部は白、体側はあさい黄である。前鼻管はさえた黄



■ アワセイソハゼ Iou-jima, 5 June 2009, S. Dewa

みの赤、虹彩はさえた黄である。虹彩から眼の周囲にかけて放射状に6本のさえた黄みの赤の線があるが、眼下の垂線は眼下縁に接せず、頬の線は中央で中断する。鰓蓋部と項部にさえた黄みの赤の斑紋が散在する。胸鰭基底上下にさえた黄みの赤の斑紋がある。躯幹部に明るいオレンジの1横帯と逆Y字斑が1つ、尾部に同色の1横帯とX字斑が3つ並ぶ。体背側の鱗はこいオレンジで縁取られる。各鰭は半透明で、背鰭と尾鰭はさえた黄がかり、数

本のさえた黄みの赤の小点列がある。臀鰭には鰭条に沿って走るさえた黄の3本の帯がある。

分布 小笠原諸島、八丈島、高知県、鹿児島県硫黄島・竹島、屋久島、琉球列島；西太平洋。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側産の雄標本（前頁写真）と硫黄島南側産の雌標本（前頁写真）に基づく。本標本

は Winterbottom & Hoese (1988) の *S. lachneri* の原記載や図にほぼ一致する。鈴木・渋川 (2004) のアワセイソハゼ属の1種-2は本種である。生息水深は20–35 m。内湾の中程から湾奥、サンゴ礁域の礁斜面に生息し、つぼ状カイメンの表面に単独かペアでみられる。

(鈴木寿之)

Other collected specimens: KAUM-I. 29428, 18.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29574, 17.8 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30630, 17.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32311, 15.3 mm SL, Iou-jima.



ペガサスベニハゼ (オス) KAUM-I. 29655, 17.6 mm SL, Take-shima



ペガサスベニハゼ Iou-jima, 3 July 2009, Y. Komiya

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

ペガサスベニハゼ

Trimma annousum Winterbottom, 2003

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 6+5; 尾鰭分節

鰭条数 8+8; 縦列鱗数 25; 横列鱗数 6; 背鰭前方鱗数 5。両眼間に中庸の、眼後方に浅い溝がある。第1背鰭前方に皮質隆起がない。第1背鰭第2棘が最長であるが、伸長しない。胸鰭軟条は全て不分枝。左右の腹鰭間に膜蓋はないが、癒合膜はやや発達し、その長さは第5軟条の

約65%である。腹鰭第5軟条は二又し、その長さは第4軟条の約60%。頬は無鱗、主鰓蓋部、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部腹中線上は円鱗、第1背鰭前方、項部側面、残る体側は櫛鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は左右の眼後縁を結ぶ線をやや超える。

色彩 生鮮時、体の地色はうすいピンクで、各鱗は紫みのグレイで縁取られる。虹彩はさえたオレンジで斑紋はなく、内縁は明るい黄である。頭後半部と体側に、さえたオレンジからあさい黄の斑紋が縦に3・4列に並び、同色の縦帯が腹部後部から尾部腹面にかけ走る。各鱗の鱗膜は明るいグレイである。背鰭と臀鰭の鰭条はうすいピンクで、背鰭基底近くにあさい黄の1縦帯がある。尾鰭前半部に数個のあさい黄の斑紋があり、後半部、腹鰭と臀鰭の中央はあさい黄。

い黄。

分布 伊豆諸島、静岡県、紀伊半島、高知県、鹿児島県硫黄島・竹島、屋久島、奄美大島、沖縄島、石垣島、西表島；インド・太平洋。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側水深5-20mで採集された1標本（上写真）に基づく。体側や鰭の斑紋が赤みがかる個体も多い。眼下や虹彩に斑紋がないこと、

と、眼後方の頭側面中央から胸鰭基底にかけてオレンジの4斑紋があること、体に白斑がないことで同属他種から区別可能である。生息水深0.5-14m。サンゴ礁域の岸近くにある岩礁などに生息する。

（鈴木寿之）

Other collected specimens: KAUM-I. 29718, 18.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31706, 19.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37835, 20.0 mm SL, Iou-jima.



■ ベニハゼ（オス） KAUM-I. 29426, 24.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

ベニハゼ

Trimma caesiurum Jordan & Seale, 1906

形態 背鰭 VI-I, 8；臀鰭 I, 8；胸鰭 17；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 6+5；尾鰭分節鰭条数 8+7；縦列鱗数 25；横列鱗数 7；背鰭前方鱗数 7。両眼間と眼後方に深い溝がある。第1背鰭前方に皮質隆起がない。第1背鰭第3棘が最長であるが、伸長しない。胸鰭中央7軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋はなく、癒合膜は痕跡的である。腹鰭第5軟条は二叉し、その長さは第4軟条の約60%である。頬は無鱗、主鰓蓋部上部、胸鰭基底、腹鰭前

方、腹部前部腹中線上は円鱗、第1背鰭前方、項部側面、残る体側は楡鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は左右の眼後縁を結ぶ線をやや超える。

色彩 生鮮時、体の地色はさえた黄みの赤で、明るいグレイの斑が散在し、鱗はにぶい赤に縁取られる。各鱗は半透明で灰みがかかり、鰭条はさえた黄みの赤である。第1背鰭基底に1列のさえた黄みの赤の点列、第2背鰭に4列のさえた黄みの赤からあさい黄の点列、臀鰭中央にあさい黄の不明瞭な縦帯、尾鰭基底にさえた黄みの赤の大きな円形斑とその後縁にあさい黄の横斑がある。

分布 八丈島、静岡県、紀伊半島、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島；中・西部太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10mで採集された1標本（上写真）に基づく。チゴベニハゼ *T. naudei* Smith, 1957 に似るが第1背鰭第2棘が糸状に伸長しないこと、吻に青の微小点が密在しないことで区別可能である。生息水深3-20m。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁斜面、ドロップオフに生息し、サンゴの根の壁面、崖壁の亀裂内に、単独でみられる。（鈴木寿之）

Other collected specimen: KAUM-I. 29523, 19.6 mm SL, Iou-jima.

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

アオギハゼ

Trimma caudomaculatum

Yoshino & Araga, 1975

形態 背鰭 VI-I, 8；臀鰭 I, 9；胸鰭 14；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条数 6+5；尾鰭分節鰭条数 8+7；縦列鱗数 25；横列鱗数 7；背鰭前方鱗数 12。両眼間と眼後方に溝がない。第1背鰭前方に皮質隆起がない。第1背鰭第2棘が最長で、糸状に著しく伸

長する。胸鰭中央3軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋はなく、癒合膜は痕跡的である。第5軟条は不分枝で、その長さは第4軟条の約50%。頬、主鰓蓋部、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部前部腹中線上は円鱗、第1背鰭前方、項部側面、残る体側は楡鱗を被る。第1背鰭前方の鱗は左右の眼中央を結ぶ線に達する。

色彩 生鮮時、体の地色はさえた黄で、明るい紫の2縦帯が、吻から眼を通り体背側を尾柄末端部まで、上顎後端から腹部、

尾部腹中線を通り尾柄末端部まで走る。尾柄末端部から尾鰭基底に大きなこい赤紫の斑紋がある。各鱗はあさい黄で、背鰭と臀鰭の基底と上半分、腹鰭前・下縁、尾鰭前半部の鰭条は明るい紫である。

分布 八丈島、紀伊半島、高知県、屋久島、鹿児島県硫黄島、琉球列島；台湾。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10mで採集された1標本（次頁写真）に基づく。眼後縁から体背側を1本の青系の



アオギハゼ (メス) KAUM-I. 29521, 29.3 mm SL, Iou-jima

縦帯が走ること、尾鰭基底に暗斑があることなどで同属他種と区別可能である。生息水深は 6–55 m。内湾、サンゴ礁域の礁斜面、ドロップオフに生息し、サンゴの根の下、崖壁の洞窟入り口や亀裂下で、上方を向いて群がりでホバリングを行う。最近まで、*T. tevegae* Cohen & Davis, 1969 の新参異名とされてきたが、*T. tevegae* は第 1 背鰭第 2 棘が著しく伸張しないことで識別される。

(鈴木寿之)

Other collected specimen: KAUM-I. 30131, 29.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30132, 29.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 30133, 29.6 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106153, 26.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106944, 2 specimens, 14.8–20.5 mm SL, Iou-jima.

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

ナガシメベニハゼ

Trimma kudo Suzuki & Senou, 2008

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 6+6; 尾鰭分節鰭条数 8+7; 縦列鱗数 24; 横列鱗数 8; 背鰭前方鱗数 0。両眼間に中庸の溝があり、眼後方に溝がない。第 1 背鰭前方の背中線上に低い皮質隆起があり、前端は左右の眼後縁を結ぶ線に達する。第 1 背鰭第 3・4 棘が最長であるが、伸張しない。胸鰭軟条は不分枝。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はない。第 5 軟条は不分枝で、その長さは第 4 軟条の約 50%。頬、主鰓蓋部、項部側面、第 1 背鰭前方は無鱗、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部前部腹中線上は円鱗、残る体側は楕鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は明るいオレンジ



アオギハゼ Iou-jima, 17 June 2009, S. Dewa

で、頭部腹側、腹部、尾部腹側は明るい黄で、各体側鱗は明るい黄で縁取られるか、同色点がある。虹彩は明るい黄で上下縁と中央にこい紫みのピンクに縁取られたこい青の縦線がある。頭部側面に明るい黄の横帯、背面に同色の斑紋がある。各鰭はうすいピンクで、第 1 背鰭基底に明るい黄の 1 縦線、第 2 背鰭に同色の 2 列の点列があり、尾鰭に同色点が散在する。臀鰭中央は明るい黄である。

分布 伊豆大島、伊豆半島、和歌山県、高知県、鹿児島県、沖縄県。

備考 本項の記事は硫黄島南側水深 10 m

で深で採集された 1 標本（次頁写真）に基づく。眼の上下縁と中央を縦に走る暗色線があること、背鰭基底を 1 本の黄の縦線が走ることなどで同属他種と区別可能である。生息水深は 20 m 以深。内湾に生息し、岩礁域の壁面に単独でみられる。

(鈴木寿之)

Other collected specimen: KAUM-I. 29544, 17.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29689, 21.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29690, 20.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29737, 21.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29738, 21.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37932, 27.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106154, 17.7 mm SL, Iou-jima.



ナガシメベニハゼ (オス) KAUM-I. 29427, 22.9 mm SL, Iou-jima



ナガシメベニハゼ Iou-jima, 17 June 2009, S. Dewa



オオメハゼ Iou-jima, 4 July 2009, Y. Komiya

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

オオメハゼ

Trimma macrophthalmum (Tomiya, 1936)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 6+6; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 24; 横列鱗数 8; 背鰭前方鱗数 0。両眼間に中庸の溝があり、眼後方に溝がない。第 1 背鰭前方に皮質隆起がない。第 1 背鰭第 2 棘が最長で、糸状に伸長する。胸鰭中央 12 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋はないが、癒合膜はよく発達し、その長さは第 5 軟条の約 90%。第 5 軟条は 4 条に枝分かれし、その長さは第 4 軟条の約 75 % である。頬、主鰓蓋部、項部側面、第 1 背鰭前方は無鱗、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部前部腹中線上は円鱗、残る体側は櫛鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色はうすいピンクで、あさい黄斑が密在し、鱗はつよいピンクで縁取られる。この黄斑は後方へ向かって小

さくなり尾柄部では 3 列に並ぶ。虹彩はさえた赤で周囲にさえた黄点を取り囲む。頭部腹面の斑紋と胸鰭基底の 2 斑紋はさえた赤である。各鰭はうすいピンクで、第 1 背鰭基底に 1 列、第 2 背鰭に 2 列、臀鰭に 2-3 列のあさい黄の点列があり、尾鰭に同色点が散在する。

分布 伊豆諸島、伊豆半島、相模湾、紀伊半島、高知県柏島、愛媛県、鹿児島県、屋久島、鹿児島県硫黄島・竹島、口永良部島、琉球列島; インド・西太平洋。

備考 本項の記事は硫黄島南側水深 10 m 以深で採集された 1 標本 (次頁写真) に基づく。体や鰭がより赤みがかかる個体も多い。体に黄からオレンジの斑点が多密なこと、胸鰭基底に 2 つの赤の斑紋があることなどで同属他種と区別可能である。生息水深は 3-20 m。内湾、サンゴ礁域のドロップオフに生息し、サンゴの根の窪みの天井面、崖壁の亀裂内に、単独でみられる。(鈴木寿之)

Other collected specimen: KAUM-I. 29446, 19.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29475, 16.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29686, 15.4 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29687, 16.3 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30621, 8.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 32310, 17.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106707, 11.4 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106910, 2 specimens, 9.5-12.8 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106921, 2 specimens, 13.9-16.1 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106927, 16.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106941, 9.6 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106945, 4 specimens, 9.4-14.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106948, 6 specimens, 10.2-15.6 mm SL, Iou-jima; .



オオメハゼ (メス) KAUM-I. 29740, 18.2 mm SL, lou-jima



オヨギベニハゼ (オス) KAUM-I. 37934, 19.9 mm SL, lou-jima

スズキ目 ハゼ科 ペニハゼ属

オヨギベニハゼ

Trimma taylori Lobel, 1979

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 6+5; 尾鰭分節鰭条数 8+7; 縦列鱗数 24; 横列鱗数 7; 背鰭前方鱗数 9。両眼間と眼後方に溝がない。第 1 背鰭前方に皮質隆起がない。第 1 背鰭第 2 棘が最長であるが、糸状に伸長する。胸鰭中央 10 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋はないが、癒合膜は発達し、その長さは第 5 軟条の約 75 % である。第 5 軟条は二叉し、その長さは第 4 軟条の約 50%。頬、主鰓蓋部は無鱗、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部腹中線上は円鱗、第 1 背鰭前方、項部側面、残る体側は楯



オヨギベニハゼ lou-jima, 24 July 2011, Y. Matsuda

鱗を被る。第 1 背鰭前方の鱗は左右の瞳孔後端を結ぶ線をやや超える。

色彩 生鮮時、体は半透明、地色はうすいピンク、各鱗と鰓蓋上部に明るい赤みの黄の斑点がある。虹彩はうすいスカイで、さ

えた赤紫に縁取られたあさい黄のH字形の斑紋がある。各鱗は半透明で灰みの白で黄がかり、背鱗、臀鱗、尾鱗にあさい黄の斑点が散在する。

分布 八丈島、伊豆半島、紀伊半島、鹿

児島県硫黄島、琉球列島；インド・太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10–30 mで採集された1標本（上写真）に基づく。胸鱗と腹鱗をのぞく全身に黄斑が密在することで同属他種と区別可能であ

る。生息水深は6–55 m。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁斜面、ドロップオフに生息し、サンゴの根の下、崖壁の洞窟入り口や亀裂下で、群がりでホバリングを行う。

（鈴木寿之）

Other collected specimen: KAUM-I. 37933, 19.8 mm SL, lou-jima.



■ ホシクズベニハゼ（メス） KAUM-I. 29739, 17.6 mm SL, lou-jima

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

ホシクズベニハゼ

Trimma milta Winterbottom, 2002

形態 背鱗 VI-I, 9；臀鱗 I, 8；胸鱗 17；腹鱗 I, 5；尾鱗分枝鱗条数 6+5；尾鱗分節鱗条数 8+7；縦列鱗数 24；横列鱗数 7；背鱗前方鱗数 6。両眼間に中庸の、眼後方に浅い溝がある。第1背鱗前方に皮質隆起がない。第1背鱗第3棘が最長であるが、伸長しない。胸鱗中央10軟条は分枝する。左右の腹鱗間に膜蓋はなく、癒合膜は痕跡的である。第5軟条は二叉し（右側は不分枝）、その長さは第4軟条の50%以上。頬は無鱗、主鰓蓋部上部、胸

鱗基底、腹鱗前方、腹部前部腹中線上は円鱗、第1背鱗前方、項部側面、体側は櫛鱗を被る。第1背鱗前方の鱗は左右の眼後端を結ぶ線に達する。

色彩 生鮮時、体の地色はうすいピンクで、頭部背面はオレンジがかり、各体側鱗はにぶいピンクで縁取られ、前部に明るい黄の小横斑がある。眼の上方にうすいスカイの斑点が散在する。虹彩はさえたオレンジで、周囲にさえた黄やこい青の小斑がある。頭部背・側面にさえた黄斑が散在する。各鱗は明るいグレイ、腹鱗をのぞく鱗条はさえたオレンジ、両背鱗基部に1列の明るい黄の縦列点、尾鱗基部に数個の明るい黄の小斑がある。

分布 四国柏島、鹿児島県硫黄島、屋久島、琉球列島；中・西部太平洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10 m以深で採集された1標本（上写真）に基づく。生息水深は6–40 m。体がさらに赤みがかかる個体も多い。第1背鱗棘が伸長しないこと、吻背面と両眼間に緑みのスカイの多数の小点や虫食い模様があること、虹彩に暗色点があること、眼後方に黄斑が散在することなどで同属他種と区別可能である。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁斜面やドロップオフに生息し、崖壁や、礁斜面にある根などの窪みや側面に、単独でみられる。

（鈴木寿之）

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

ニンギョウベニハゼ

Trimma sheppardi Winterbottom, 1984

形態 背鱗 VI-I, 9；臀鱗 I, 9；胸鱗 19；腹鱗 I, 5；尾鱗分枝鱗条数 6+5；尾鱗分節鱗条数 9+8；縦列鱗数 25；横列鱗数 10；背鱗前方鱗数 0。体高が高い。両眼間と眼後方に溝がない。第1背鱗前方の背中線上に低い皮質隆起があり、先端は左右の眼窩後縁を結ぶ線に達する。第1背鱗第2棘が最長であるが、伸長しない。

胸鱗中央12軟条は分枝する。左右の腹鱗間に膜蓋はなく、癒合膜は痕跡的である。第5軟条は二叉し、その長さは第4軟条の約70%。頬、主鰓蓋部、第1背鱗前方は無鱗、胸鱗基底、腹鱗前方、腹部腹中線上は円鱗、項部側面、残る体側は櫛鱗を被る。項部側面の鱗は主鰓蓋部中央上方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色はさえた紫みの赤で、頭部背側と体背・腹側はあさい黄がかり、体背側鱗は黄みのブラウンで縁取られる。虹彩はこい紫みのピンクで、明るい

黄とさえた青紫の斑紋がある。頭部側面に明るい黄の5横帯があり、前3横帯は眼を横切る。鰓孔上方に大きな楕円形の黒斑がある。体側正中線上に不明瞭で大きなグレイの5斑紋が縦列する。各鱗はうすいピンク、背鱗基底に明るい黄の1縦線、尾鱗基底に数個の明るい黄の斑点がある。臀鱗と腹鱗は中央があさい黄である。

分布 鹿児島県硫黄島、琉球列島；インド洋。

備考 本項の記載は硫黄島南側水深10 m



■ ニンギョウベニハゼ (メス) KAUM-I. 29743, 19.9 mm SL, Iou-jima

以深で採集された1標本(上写真)に基づく。生息水深は10–55 m。第1背鰭第2棘が伸長する個体もある。頬から鰓蓋部に黄の4横線があること、生時、半透明で

体内部を脊柱に沿って縦長の黒斑が縦列することなどで同属他種と区別可能である。内湾、サンゴ礁域のドロップオフに生息し、サンゴの根の窪みの天井面、崖壁の亀裂

内に、単独でみられる。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 シマイソハゼ属

シマイソハゼ

Trimmatom sp.

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 6+5; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 25; 横列鱗数 7; 背鰭前方鱗数 0。鰓孔は広く、前下端は眼の後縁下に達する。頭部感覚管はない。雄の第1背鰭第2棘が最長で、糸状に伸張し、先端は倒すと第2背鰭基底後部に達する。第2背鰭と臀鰭は最後の軟条をのぞき、胸鰭は全ての軟条が分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜がない。最初の4軟条は二叉し、第5軟条は不分枝で短く、その長さは第4軟条の約10%で、第3・4軟条間の鰭膜は発達が悪い。胸鰭基底上端と第1背鰭棘基部を結ぶ線より前方の頭部と体側背面、背鰭基底下方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残る体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色はさえた黄みの赤で、吻から頭部腹側は黄である。頭部に2本、体側に6本の明るいブラウンみのグレイの横帯があり、体側の最初の横帯は第



■ シマイソハゼ (オス) KAUM-I. 29572, 42.7 mm SL, Take-shima

1背鰭起点直前に始まり、最後の横帯は鞍状斑である。各鰭の鰭条はさえた黄みの赤、鰭膜は半透明である。アルコール標本で黄やさえた黄みの赤は消失し、地色は黄みの白、横帯は黄みのブラウンになる。

分布 屋久島、鹿児島県竹島、トカラ列島、琉球列島; インド・西太平洋。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側の水深5–20 mで採集された1標本(上写真)に基づく。生息水深は3–10 m。サンゴ礁域の礁池、礁外縁、岩礫性海岸に生息し、岩礁や洞窟にある窪みに、主に単独でみられる。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 クロイトハゼ属

オトメハゼ

Valenciennes puellaris (Tomiyama, 1956)

形態 背鰭 VI-I, 12; 臀鰭 I, 12; 胸鰭 21; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗数 85; 横列鱗数 25。頭部感覚管はよく発達し、頬の孔器配列は縦列パターン。頭部感覚管は、前

眼肩胛管に開孔 B'、C (単一)、D (単一)、E、F、G、H'、後眼肩胛管に開孔 K'、L'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O' がある。体は細長く円筒形。腹鰭は左右に分離し、

その後端は肛門に達しない。背鰭は2基で、第1背鰭基底と比べて第2背鰭基底が長い。第2背鰭は肛門直上から始まり、後方へ行くにつれてやや高くなる。体側に側線がない。尾鰭後端は丸い。

色彩 頭部と体側の背側は淡い褐色で、腹側にいくにつれて白色になる。上顎から鰓蓋にかけて青白色斑が縦列に3列並ぶ。頭部背側から尾柄にかけてさまざまな大きさの黄色みがかかった橙色斑が散在する。体側の中央あたりに鰓蓋から尾柄まで青白

色に縁どられた幅の広い黄色横帯が走る。第1背鰭は淡い青色で乱れた黄色斑が入る。第2背鰭は淡い青白色で縁どられ、その下方は黄色縦帯、青白色縦帯、幅が広い黄色縦帯が入り、その幅広い黄色縦帯に青白色で縁どられた黄色斑が入る。臀鰭は淡い青白色で、外縁付近に1本の淡い黄色縦帯が入る。尾鰭の上方に赤色みがかかった黄色帯が入り、下縁は青白色で縁どられ、その直上に赤色みがかかった橙色帯が入る。胸鰭は透明。腹鰭は白色。

分布 アフリカ東岸のインド洋からサモアまでの南部太平洋（ハワイ諸島を除く）まで分布する。国内では、小笠原諸島、相模湾以南の南日本、鹿児島県竹島、渡嘉敷島や西表島などに分布する。

備考 形態や色彩の記載は、本調査で竹島から得られた KAUM-I. 29692 に基づく。本種は、紅海と西部インド洋、スリランカ、東部インド洋と太平洋、サモアの各海域で色彩変異が知られている。

(荻原豪太)



オトメハゼ KAUM-I. 29692, 109.6 mm SL, Take-shima

Ptereleotridae

スズキ目 クロユリハゼ科 カグヤハゼ属

カグヤハゼ属の1種

Navigobius sp.

形態 体は著しく側扁しない。第1背鰭の鰭条は伸長しない。下唇は下顎を覆う。腹鰭は完全に分離する。尾鰭は深く二又し、上葉がやや長い。

色彩 体はピンク色で、体側に目立った模様はない。背鰭、臀鰭、尾鰭は青紫色に縁どられる（おそらくオスの婚姻色）。臀鰭に2本の黄色縦線がない。尾鰭上葉中央に青色線がない。

分布 対馬から五島列島、高知県、大隅諸島、奄美大島、沖縄諸島、西表島。

備考 中層を遊泳する。2009年に鹿児島湾から新属新種として記載されたモモイロカグヤハゼ *Navigobius dewa* Hoese & Motomura, 2009 に近縁で、同じカグヤハゼ属 *Navigobius* に含まれる未記載種。本種はモモイロカグヤハゼと比較して、背鰭と臀鰭に2本の黄色縦線がないこと、尾鰭上葉の中央に青色縦線がないことなどから容易に識別される。



カグヤハゼ属の1種 lou-jima, 24 July 2010, E. Shinkai

モモイロカグヤハゼの日本における分布状況や生息環境、生態、飼育記録は出羽

ほか（2010）で詳しく記載されている。（本村浩之）

スズキ目 クロユリハゼ科 ハタタテハゼ属

アケボノハゼ

Nemateleotris decora Randall & Allen, 1973

形態 背鰭 VI + I, 27-32; 臀鰭 I, 28-31; 胸鰭 20-21; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗数 135-160; 横列鱗数 34; 脊椎骨 10+16=26。頭部感覚管は、前眼肩胛管に開孔 B'、C、D (単一)、E、F、H'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O' がある。体は細長く円筒形。第1背鰭は非常に高く、その先端は尖らない。腹鰭は左右に分離し、その後端は臀鰭に達しない。背鰭は2基で、第1背鰭基底と比べて第2背鰭基底が長い。尾鰭後端はわずかに湾入する。

色彩 頭部と体側の前方は白色がかった黄色で、後方は尾柄にいくにつれて濃い紫色になる。下顎から吻端、両眼間隔を通り第1背鰭基部まで青色がかった紫色帯が入る。第1背鰭の前方は青色がかった紫色で縁取られ、その後方は橙色がかった赤色になる。第2背鰭と臀鰭は橙色がかった赤色で、基部と外縁は濃い紫色縦帯が走る。尾鰭は紫色で、上下両葉に橙色がかった赤色が入る。胸鰭は透明。腹鰭は基部から、白色がかった黄色、紫色、橙色がかった赤色なる。

分布 モーリシャスなどの(紅海を含む)インド洋からマーシャル諸島までの太平洋まで分布する。国内では、伊豆諸島、静岡



アケボノハゼ Iou-jima, 3 June 2009, S. Dewa

県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 普段は海底にある巣穴近くをホバリ

ングしているが、危険を感じると巣穴に素早く逃げ込む。

(荻原豪太)

スズキ目 クロユリハゼ科 ハタタテハゼ属

ハタタテハゼ

Nemateleotris magnifica Fowler, 1938

形態 背鰭 VI-II, 28; 臀鰭 I, 28; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条数 6+6; 尾鰭分節鰭条数 9+8; 縦列鱗数 109; 横列鱗数 35; 背鰭前方鱗数 0。第1背鰭前方の背中線上に低い皮弁があり、前端は左右の瞳孔後縁を結ぶ線に達する。頭部感覚管は発達し、前眼肩胛管に開孔 B'、C、D (単一)、E、F、H'、前鰓蓋管に開孔 M'、N、O' がある。第1背鰭第1棘が最長で第1-3棘が鰭膜とともに著しく伸張する。左右の腹鰭間に鰓蓋と癒合膜がなく、よく分離する。尾鰭後縁は丸い。頬、主鰓蓋部、第1背鰭前方は無鱗、項部側面、胸

鰭基底、腹鰭前方、体側躯幹部、尾部第2背鰭前部下、尾部臀鰭前部上方は円鱗、残る体側尾部は楯鱗を被る。項部側面の鱗は前鰓蓋骨後縁と主鰓蓋骨中央間の上方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色は明るいグレイで、頭部前半部はうすい黄緑、頭部腹面と腹部は白であり、尾部から尾鰭後端にかけて明るいオレンジからさえた赤に変化する。虹彩は白で、後縁はうすい黄緑、上・下部に明るい紫の斑紋がある。眼の上方から第1背鰭にかけての背中線に明るい紫の縦線、頬から第1背鰭下にかけて同色点が散在する。第1背鰭と第2背鰭前部はうすい黄緑で、うすいライラックの小点が密在する。第1背鰭前縁と第2背鰭縁は明るい黄みの赤である。残る第2背鰭と

臀鰭は、後方にかけさえた黄から明るい黄みの赤に変化する。第2背鰭と臀鰭後部から尾鰭後縁にかけて黄色がかった黒の斜線が走る。

分布 小笠原諸島、八丈島、相模湾、伊豆半島、和歌山県、高知県柏島、愛媛県宇和海、屋久島、鹿児島県竹島、琉球列島; インド・太平洋。

備考 本項の記載は竹島オンボ崎南側水深 5-20 m で採集された1標本(次写真)に基づく。生息水深は 3-30 m。内湾の湾口から中程、サンゴ礁域の礁外縁、礁斜面、ドロップオフに生息し、礫混じりの砂底やガレ場の中層を単独かペアで、ホバリングする。

(鈴木寿之)

スズキ目 クロユリハゼ科 クロユリハゼ属

スジクロユリハゼ

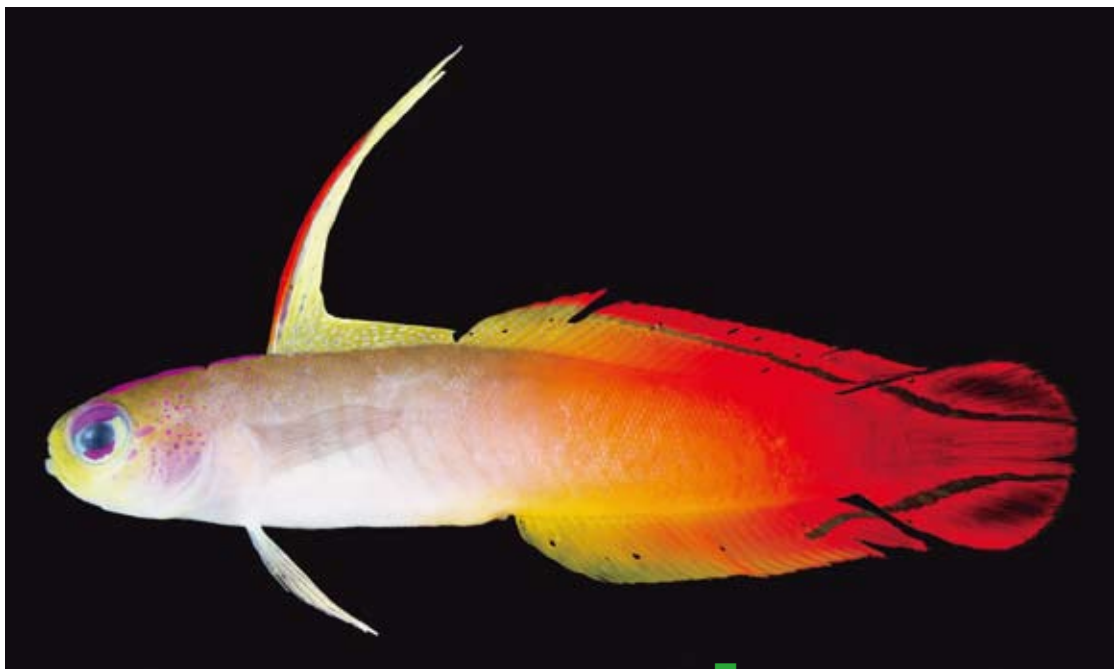
Ptereleotris grammica Randall & Lubbock, 1982

形態 背鰭 VI-I, 26-27; 臀鰭 I, 25-26; 胸

鰭 22-23; 腹鰭 I, 4; 脊椎骨 10+16=26。頭部感覚管は発達せず、孔器の配列のみ。体は細長く、やや側扁する。吻は短く丸い。眼は大きく、頭部の側面に位置する。口裂は斜行し、主上顎骨後端は瞳孔前縁の直下に位置する。下顎前端は上顎前端より

前方へ突出する。背鰭は2基で、第1背鰭基底と比べて第2背鰭基底が長い。尾鰭は截形からわずかに湾入形。

色彩 体全体が透明感のある淡い紫色で、腹側にいくにつれて白色が強くなる。眼か



ハタタテハゼ KAUM-I. 29682, 56.9 mm SL, Take-shima



ハタタテハゼ Iou-jima, F. Yasudome



スジクロユリハゼ lou-jima, 9 Oct. 2010, A. Sumino

ら尾柄にかけて体側背側を黄色から褐色の縦帯が走る。胸鰭基部から尾柄にかけて体側中央を黄色縦帯が走る。吻端から眼の前縁まで、顎から眼の直下を通り鰓蓋まで黄色帯が入る。第1背鰭は基部から黄色、紫色、黄色で、その直上は先端に向かって黄色から紫色のグラデーションになる。第2背鰭と臀鰭は黄色で、基部付近と外縁付近に紫色縦帯が走り、その紫

色縦帯に挟まれた黄色部に紫色斑が入る。尾鰭は黄色で、基部は淡い紫色。尾鰭各葉の外縁付近に紫色帯が入る。胸鰭は透明。腹鰭は透明感のある紫色で、前縁が紫色で先端は白色がかった紫色。

分布 モーリシャスなどのインド洋からパプアニューギニアまでの西太平洋まで分布する。国内では、小笠原諸島、伊豆大島、

静岡県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はサンゴ礁域や岩礁域の斜面に生息し、底から離れて遊泳するが、危険を感じると瓦礫の下などに素早く隠れる。

(荻原豪太)



ハナイゴ KAUM-I. 37840, 290.0 mm SL, lou-jima

スズキ目 アイゴ科 アイゴ属

ハナアイゴ

Siganus argenteus (Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 XIII, 10; 臀鰭 VII, 9; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 3, I。体は長楕円形で、側扁する。口は小さく、唇は厚い。背鰭の棘条部と軟条部の間には欠刻があり、軟条

先端は大部分が2分枝する。尾鰭は二分形。

色彩 体は茶褐色で、腹部は白色。体全体に多数の黄色点が散在し、頭部背面では斑紋状になる。生時、体は鮮やかな水色で、背部に黄色帯が入る。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に広

く分布する。国内では和歌山県以南の太平洋沿岸、小笠原諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種はセダカハナアイゴ *Siganus woodlandi* Randall & Kulbicki, 2005 によく似るが、体長が背鰭最後棘下の体高の3.6倍以上（セダカハナアイゴでは3.5倍以下）であること、背鰭軟条先端のほとんどが2分枝（3-4分枝）することにより識別される。（田代郷国）



アイゴ KAUM-I. 37746, 31.8 mm SL, Take-shima

スズキ目 アイゴ科 アイゴ属

アイゴ

Siganus huscenscens (Houttuyn, 1782)

形態 背鰭 XIII, 10; 臀鰭 VII, 9; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 3, I。体は長楕円形で、側扁する。口は小さく、唇は厚い。各鰭棘条は鋭く発達し、背鰭の棘条部と軟条部の間

には欠刻がある。尾鰭は湾入形。

色彩 体は茶褐色で、白色点が散在する。体色は変異に富み、周囲の環境、成長および生理状態によって変化する。

分布 東インドから西太平洋にかけて広く分布する。国内では青森県以南の太平洋沿岸・日本海・東シナ海、小笠原諸島およ

び琉球列島に分布する。

備考 本種には白色点が大きく数が少ない型と、白色点が小さく数が多いシモフリアイゴ型の2型が存在するが、両型は遺伝学的に同種であることが明らかになっている。シモフリアイゴ型は高知県以南、琉球列島で多くみられる。アイゴ科は棘に毒線をもつため、扱いには注意が必要である。（田代郷国）

スズキ目 ツノダシ科 ツノダシ属

ツノダシ

Zanclus cornutus (Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 VII, 40-43; 臀鰭 III, 33-36; 胸鰭 18-19; 腹鰭 I, 5。体は側扁し、体高は著しく高い。口は小さく、ブラシ状の歯をもつ。吻部は成長にともない突出する。眼隔部に1対の突起がある（幼魚にはない）。背鰭棘は伸長し、特に第3棘は長く糸状。

色彩 体の地色は前半部が白色で、後半部は黄色。頭部と尾柄にそれぞれ太い黒色横帯が入る。尾鰭は黒色で、縁辺は白色。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、青森県以南の太平洋沿岸、山口県、長崎県、屋久島、琉球列島に生息する。

備考 ツノダシ科は1属1種からなり、ニザダイ科にもっとも近縁とされる。水中で

は体形と色彩が似ていることからチョウチョウウオ科のハタタテダイ *Heniochus acuminatus* (Linnaeus, 1758) と混同されることが多いが、尾鰭が黒色であることで容易に区別できる。特徴的な体形と鮮やかな色彩もことから、観賞魚として人気が高い。

（田代郷国）

Other collected specimens: KAUM-I. 37624, 170.9 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106077, 147.6 mm SL, Iou-jima.



ツノダシ KAUM-I. 37720, 72.6 mm SL, Take-shima

Acanthuridae

スズキ目ニザダイ科クロハギ属

ニセカンランハギ

Acanthurus dussumieri Valenciennes, 1835

形態 背鰭 IX, 25-27; 臀鰭 III, 24-26; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は22以下。

顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。頭部に白色域がない。眼後部、鰓蓋部、ま

たは胸鰭上部に暗色斑がない。尾柄の可動棘を被う被膜は白色。生時の背鰭は黄色で顕著な縦帯がない。尾鰭後半部に多数の暗色斑がある。生時の胸鰭上部は薄黄色で下部は薄暗色。生時の眼の直前および直後部に黄色域がある。

分布 インド・西太平洋域。国内では南日本に分布する。

備考 全長 40 cm になる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。サンゴ礁外縁の斜面

や礁湖で単独または小さな群れでいるのがよくみられる。

(千葉 悟)



ニセカンランハギ KAUM-I. 37647, 272.1 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

スジクロハギ

Acanthurus leucopareius (Jenkins, 1903)

形態 背鰭 IX, 25-27; 臀鰭 III, 23-25; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は 22 以下。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内

側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。

一島、マリアナ諸島と和歌山県以南の南日本および八丈島、小笠原諸島に分布する。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。鰓蓋部の白色域がある。

備考 全長 30 cm になる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。サンゴ礁外縁の碎波帯で群れているのがよくみられる。

(千葉 悟)

分布 ハワイ諸島、マーカス島、イースタ

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

ヒラニザ

Acanthurus mata (Cuvier, 1829)

形態 背鰭 IX, 24-26; 臀鰭 III, 23-24; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は 22 以上。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。吻が短く、体長は吻長の約 6.5 倍以上で吻長は尾柄高の約 2.2-2.5 倍。

色彩 頭部と体側には多数の青色縦帯が走る。尾鰭は体色と同色。

分布 インド・西太平洋域; 南日本。

備考 全長 40 cm になる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。稚魚は内湾の浅所でみられるが、成魚はサンゴ礁の内・外縁の斜面でみられる。(千葉 悟)



ヒラニザ KAUM-I. 37612, 155.4 mm SL, Iou-jima



スジクロハギ KAUM-I. 37990, 235.5 mm SL, Take-shima



ヒラニザ KAUM-I. 37612, 155.4 mm SL, Iou-jima



モンツキハギ KAUM-I. 37761, 273.6 mm SL, Take-shima



モンツキハギ KAUM-I. 31623, 44.1 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

モンツキハギ

Acanthurus olivaceus

Bloch & Schneider, 1801

形態 背鰭 IX, 23-25; 臀鰭 III, 22-24; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は22以下。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内

側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。胸鰭上部に暗色斑に囲まれた橙色域がある。尾柄部可動棘周辺の暗色域は前方へのびない。尾鰭後端に白色の三日月紋がある。幼魚の体色は全身黄色で、体長が約6 cmになると胸鰭上部に橙色の色素が現

れ始め、体長約12cm以上になると体色が成魚の色彩に似てくる。

分布 東インド洋、オセアニア、マリアナ諸島、小笠原諸島を含む南日本に分布する。

備考 全長35 cmになる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。

(千葉 悟)

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

クログチニザ

Acanthurus pyroferus Kittlitz, 1834

形態 背鰭 VIII, 27-30; 臀鰭 III, 24-28; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5。吻はやや長く、体長はその 5.5 倍以下となる。下顎歯数は 22 以下で、顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。頭部に白色域がなく鰓蓋部に暗色斑がある。

分布 インド・太平洋域。国内では和歌山県以南と八丈島、小笠原諸島に分布する。

備考 岩礁域に生息する。幼魚の尾鰭後縁は丸い。幼魚の色彩には 2 型があり、全身が黄色くキンチャクダイ科のコガネヤッコ *Centropyge flavissima* (Cuvier, 1831) やヘラルドコガネヤッコ *Centropyge heraldi* Woods & Schultz, 1953 に類似するもの、体側の前 3 分の 2 ほどがオリーブ色、それより後が暗色でキンチャクダイ科のナメラヤッコ *Centropyge vrolikii* (Bleeker, 1853) に類似するものがある。竹島で採集された体長 41.6 mm の幼魚は前者のタイプで、臆病なために巣穴から離れないコガネヤッコに擬態することで非捕食者となる危険性を低くしていると想像される。

(千葉 悟)



クログチニザ KAUM-I. 32338, 41.6 mm SL, Take-shima



クログチニザ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

オハグロハギ

Acanthurus thompsoni (Fowler, 1923)

形態 背鰭 IX, 23-26; 臀鰭 III, 23-26; 胸鰭 16-19; 腹鰭 I, 5。吻は極端に短く、体長は吻長の約 6.5 倍以上。下顎歯数は 22 以上で、顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。成魚の尾鰭後縁は湾入するが幼魚では湾入しない。

色彩 成魚の体は暗色で尾鰭は淡色。幼魚は眼後部、鰓蓋部、胸部を除いて透明な白色。

分布 インド・西太平洋域。国内では駿河湾以南の南日本および小笠原諸島に分布する。

備考 全長 25 cm になる。岩礁域やサンゴ礁域に生息し、サンゴ礁外縁の中層を遊



オハグロハギ KAUM-I. 37972, 32.5 mm SL, Showaiou-jima

泳しているのがみられる。
昭和硫黄島のタイドプールから本種の体

長 32.5 mm の幼魚が採集された。
(千葉 悟)



クロハギ KAUM-I. 31622, 63.6 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

クロハギ

Acanthurus xanthopterus
Valenciennes, 1835

形態 背鰭 IX, 25–27; 臀鰭 III, 23–25; 胸鰭 16–17; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は22以下。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に

可動な1棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。頭部に白色域がない。眼後部、鰓蓋部、または胸鰭上方部に暗色斑がない。尾鰭の可動棘を被う被膜は暗色。生時、背鰭は暗色で後半部に3–5本の縦帯があり、胸鰭は黄色から透明で、眼の直前および直後部に黄色から暗黄色域がある。尾鰭に

顕著な斑点がない。

分布 インド・太平洋域。国内では南日本に分布する。

備考 全長50 cmになる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。稚魚は内湾や河口で見られるが、成魚は礁湖やサンゴ礁外縁の斜面などでみられる。

(千葉 悟)

スズキ目 ニザダイ科 サザナミハギ属

コクテンサザナミハギ

Ctenochaetus binotatus Randall, 1955

形態 背鰭 VIII, 24–27; 臀鰭 III, 22–25; 胸鰭 15–16; 腹鰭 I, 5。顎歯の幅が狭く先端の片側だけが鋸歯状となり、口内側に倒すことができる。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。眼の外周は青い。背鰭と臀鰭の基底後端に1黒色斑がある(背鰭基底後端の黒色斑がない個体もいる)。成魚の尾鰭は体色と同色であるが、幼魚では尾鰭が黄色。

分布 フィリピン、モルッカ諸島、マリアナ諸島、台湾、小笠原諸島、静岡県以南の南日本、琉球列島に分布する。

(千葉 悟)



コクテンサザナミハギ KAUM-I. 31385, 35.6 mm SL, Take-shima



コクテンサザナミハギ KAUM-I. 37645, 116.4 mm SL, Iou-jima



ヒメテングハギ KAUM-I. 37797, 176.4 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ニザダイ科 テングハギ属

ヒメテングハギ

Naso annulatus (Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 V-VI, 28-29 ; 臀鰭 II, 27-30 ;

胸鰭 17-19 ; 腹鰭 1, 3。成魚の前頭部に角状突起がある。角状突起の基部下縁から吻端までと眼の前縁までの距離がほぼ等しい。尾柄部に2個の不可動な骨質板がある。成魚の雄の尾鰭両端は糸状に延長する。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。尾鰭の後縁は白い。幼魚では尾柄部に白色帯がある。

分布 インド・太平洋域。国内では小笠原諸島、駿河湾以南に分布。

備考 全長 60 cm になる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。成魚は群れをつくり、潮通しのよい礁の外側でよくみられる。硫黄島で採集された体長 176.4 mm の個体は、成魚にみられる角状突起が発達しておらず、幼魚にみられる尾柄部の白色帯もない。幼魚と成魚の中間的成長段階と思われる。

(千葉 悟)

スズキ目 ニザダイ科 テングハギ属

テングハギモドキ

Naso hexacanthus (Bleeker, 1855)

形態 背鰭 VI, 25-29; 臀鰭 II, 27-31; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 3。顎歯は、細く先端は尖る。口および吻の背縁は丸い。吻部は前方へ膨出しない。頭長は第 1 背鰭棘長の約 2.0 倍以上。体は比較的丸く、体長は体高の約 2.9 倍以下。体側背部は隆起しない。前頭部に角状突起がない。尾柄部に不可動な骨質板数が 2 個以上ある。

色彩 体側に顕著な斑紋がない。背鰭軟



テングハギモドキ lou-jima, 10 Aug. 2011, S. Dewa

条部外縁に白色帯がない。舌は成長につれて黒くなる。

備考 全長 70 cm になる。岩礁域に生息し、大きな群れで中層を遊泳する。雄は婚姻色を示す。

分布 インド・太平洋域。国内では南日本に分布する。

(千葉 悟)



ニザダイ lou-jima, 9 Aug. 2011, S. Dewa



ニザダイ KAUM-I. 37837, 229.9 mm SL, Iou-jima

スズキ目 ニザダイ科 ニザダイ属

ニザダイ

Prionurus scalprum Valenciennes, 1835

形態 背鰭 IX, 22-24; 臀鰭 III-IV, 21-23; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5。両顎には約

7尖頭に分割された10本ほどの門歯状歯が並ぶ。成魚でも前頭部に隆起部がない。尾柄部に不可動な4-5個の骨質板がある。背鰭第1棘は非常に短い。尾鰭は截型で糸状にのびる鰭条はない。

色彩 成魚の尾鰭は体色と同色であるが、幼魚の尾鰭は白色。

分布 宮城県以南から台湾に分布する。

備考 全長50 cmになる。岩礁域に生息し、幼魚は岩の下などになどに単独でいることが多いが、成魚は群れている。主に石灰藻類を摂食する。

(千葉 悟)



ゴマサバ KAUM-I. 37939, 170.2 mm SL, Iou-jima

スズキ目 サバ科 サバ属

ゴマサバ

Scomber australasicus Cuvier, 1832

形態 背鰭 XI-XII-I, 11-12 + 5; 臀鰭 I, 11-13 + 5; 胸鰭 18-21; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗数 185-195; 鰓耙数 31-40。体はやや丸い。尾柄中央部に顕著な隆起がない。腹鰭間突起は小さい。体は全て鱗に

被われる。第1背鰭と第2背鰭はよく離れ、第1背鰭起部から第1背鰭第10棘条起部までの距離は第1背鰭第10棘条起部から第2背鰭起部までの距離より小さい。歯は円錐形で側扁せず、微小なものから

Scombridae

サバ科

強いものである。

色彩 体背面は青みがかった黒色。体側背部は青く、黒色の虫くい状斑紋がある。体側下部から腹面にかけては銀色。体側下部に多くの小黑点がある。

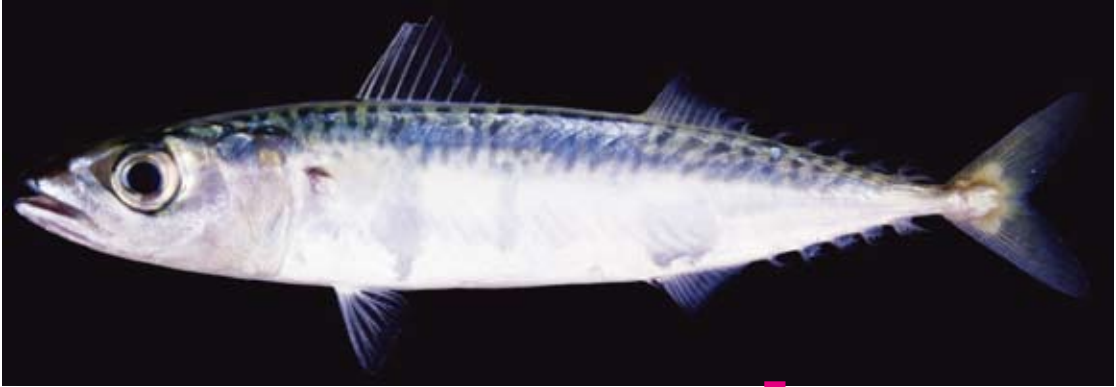
分布 北海道南部以南から太平洋西南部および東部にかけて広く分布する。

備考 同属のマサバ *Scomber japonicus* Houttuyn, 1782 とは、個体により体側下部に多くの小黑斑を有する（マサバでは体側下部に小黑斑がない）こと、第1背鰭

第1棘から第9棘までの距離が尾叉長の12%未満（12%以上）であることから識別される。

（畑 晴陵）

Other collected specimens: KAUM-I. 37679, 115.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37680, 105.0 mm SL, Iou-jima.



スズキ目 サバ科 サバ属

マサバ

Scomber japonicus Houttuyn, 1782

形態 背鰭 IX-X-I, 11-12 + 5; 臀鰭 I, 11-12 + 5; 胸鰭 20-21; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗数 210-220; 鰓耙数 37-47。体はやや側扁する。尾柄中央部に顕著な隆起がない。腹鰭間突起は小さい。体は全て

鱗に被われる。第1背鰭と第2背鰭はよく離れているが、第1背鰭基底後端から第2背鰭起部までの距離は、第1背鰭基底の長さよりも短い。歯は円錐形で側扁せず、微小なものから強いものまでである。

色彩 体背面は青みがかった黒色。体側背部は青く、黒色の虫くい状斑紋がある。体側下部から腹面にかけては銀色。体側下部に多くの小黑点がない。

マサバ KAUM-I. 29416, 109.4 mm SL, Iou-jima

分布 日本列島近海および世界中の亜熱帯・温帯海域に分布。

備考 ゴマサバとの比較は上記参照。
（畑 晴陵）

Other collected specimens: NSMT-P 106113, 123.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106140, 97.3 mm SL, Iou-jima.

Soleidae

ササウシノシタ科

カレイ目 ササウシノシタ科 トビササウシノシタ属

ムスメウシノシタ

Aseraggodes sp.

形態 背鰭 72-74; 臀鰭 51-54; 腹鰭 5。両眼間隔は狭く、上眼がわずかに前方に位置する。口はわずかに曲がる。有眼側の前鼻管は長く下眼の前縁か、それよりわずかに後方に達する。両体側ともに胸鰭がない。

色彩 有眼側の体色は薄い黄土色や茶褐色であり、不定形な白色斑と小黑点が散在する。側線上に輪郭が不明瞭な黒色斑が2-3個存在する。

分布 伊豆、徳島県、鹿児島県から報告がある。

備考 硫黄島と竹島では水深5-60 mの岩礁域の砂底から採集された。本種は未記載種であると考えられる。同属のオトメウシノシタ *A. xenicus* (Matsubara & Ochiai



ムスメウシノシタ Iou-jima, 5 June 2009, S. Dewa

1963) に似るが、背鰭軟条数と臀鰭軟条数が多いこと、有眼側の側線上に輪郭が不明瞭な黒色斑が2-3個あることで識別される。
（大橋祐太）

Other collected specimens: KAUM-I. 29722, 69.1 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29764, 78.1 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 33936, 85.2 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106175, 78.6 mm SL, Take-shima.



ムスメウシノシタ KAUM-I. 37646, 72.7 mm SL, Iou-jima



ミナミウシノシタ KAUM-I. 37756, 237.7 mm SL, Take-shima

カレイ目 ササウシノシタ科 ミナミウシノシタ属

ミナミウシノシタ

Pardachirus pavoninus (Lacepède, 1802)

形態 背鰭 66–70；臀鰭 50–53；腹鰭 5；側線有孔鱗数 75–78；脊椎骨数 38。口はわずかに曲がる。有眼側の前鼻管は短く、下眼の前縁を越えない。背鰭と臀鰭の

軟条が分枝する。背鰭、臀鰭、腹鰭の各軟条の基部に毒腺の開孔がある。両体側ともに胸鰭がない。

色彩 有眼側の体色は薄い黄土色や茶褐色であり、中に褐色点がある楕円形に近い不定形な白色斑が散在する。その斑紋の間に黄色点散在する。有眼側に明瞭な縞模様や黒褐色の横縞はない。無眼側は

白色。

分布 インド洋・西部太平洋に広く分布し、国内では渥美湾以南の太平洋沿岸に生息する。

備考 本種は背鰭、臀鰭、腹鰭軟条基部の孔から毒液を出すことが知られている。(大橋祐太)



クマドリ KAUM-I. 31668, juvenile, 55.5 mm SL, Iou-jima

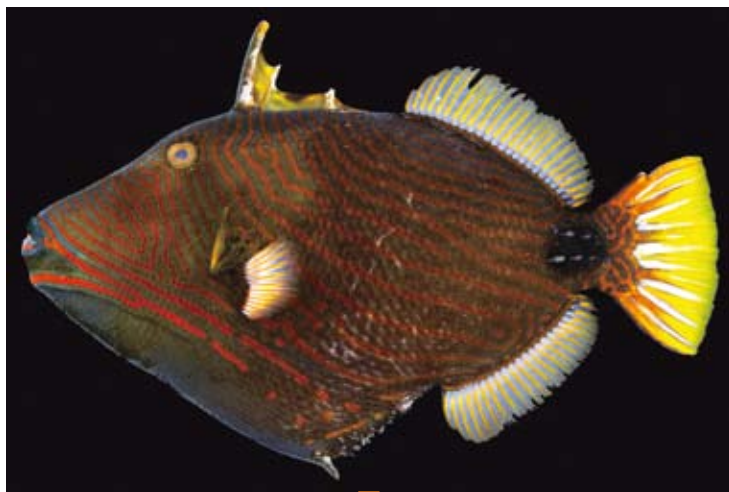
フグ目 モンガラカワハギ科 クマドリ属

クマドリ

Balistapus undulatus (Park, 1797)

形態 背鰭 III+24-27 (通常 25 か 26); 臀鰭 20-24; 胸鰭 13-15 (通常 14); 縦列鱗 36-40。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。雄では吻の背縁は直線的かやや凸状で、雌ではやや凹む。眼の前方に1縦溝がない。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。鞘状鱗は前後方向に4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄側面に2列に並ぶ前方を向いた棘がある。

色彩 体と頭部は暗緑色で、やや茶色味を帯び、多数の橙色の波状線に覆われる。口から胸鰭下方にかけて赤橙色線が2-3本走る。雄の吻部は茶色で、橙色の波状線がない。雌の吻部には波状線がある。第1背鰭の鰭膜は淡橙色で、第1棘と2棘の間の鰭膜の縁辺付近は黒い。第2背鰭、臀鰭及び尾鰭の鰭条は橙黄色を呈す



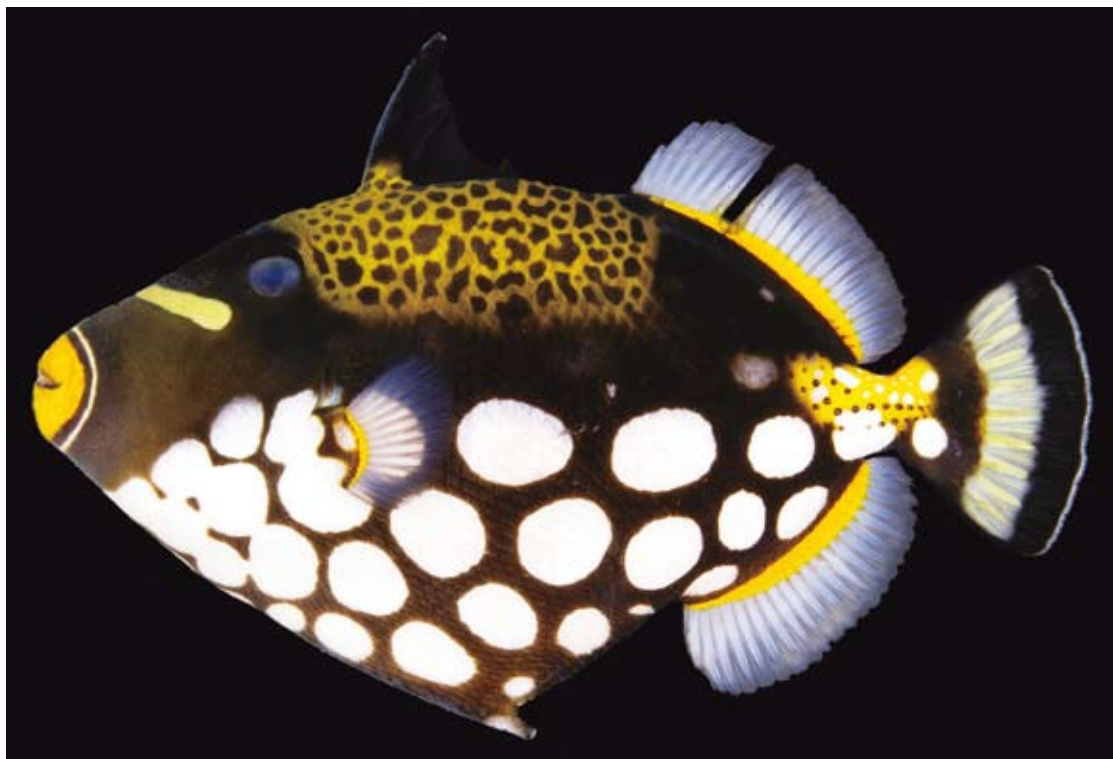
クマドリ KAUM-I. 29796, 166.4 mm SL, Take-shima

る。尾柄側面の逆向棘周辺に楕円形の黒斑がある。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。日本では本州中部以南に分布する。

備考 全長 30 cm になる。繁殖期になるとサンゴ礁の底にすり鉢状の穴を作り産卵する。小型の魚類、ウニ類、カニ類、ゴカイ類、貝類などを食べる。

(松浦啓一)



モンガラカワハギ KAUM-I. 29549, 158.9 mm SL, lou-jima

フグ目 モンガラカワハギ科 モンガラカワハギ属

モンガラカワハギ

Balistoides conspicillum (Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 III+25-27；臀鰭 21-23；胸鰭 14-15；縦列鱗 39-50。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われ、吻部の鱗は他の鱗より小さい。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。鞘状鱗は前後方向に4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄側面に3-4列に並ぶ前方を向いた小棘がある。

色彩 体と頭部は黒い。口より下方の体と頭部に楕円状の白色斑が多数ある。鰓孔の上方から第2背鰭前部に至る体背部には、橙色の網目状模様がある。口の周辺は橙黄色で、その直後を細い黄色線が環状に取り囲む。眼の前方を黄色の帯が横切る。尾柄背面に橙色の網目状模様がある。第2背鰭、臀鰭及び胸鰭の基部に橙黄色の線がある。尾鰭は黒く、中央部に背腹方向に走る黄色帯がある。

分布 紅海を除くインド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。日本では本州中部以南に分布する。

備考 全長 30 cm になる。サンゴ礁外縁部で、群れを作らず単独か2尾で行動する。甲殻類、カニ類、ウニ類、貝類などを食べる。(松浦啓一)

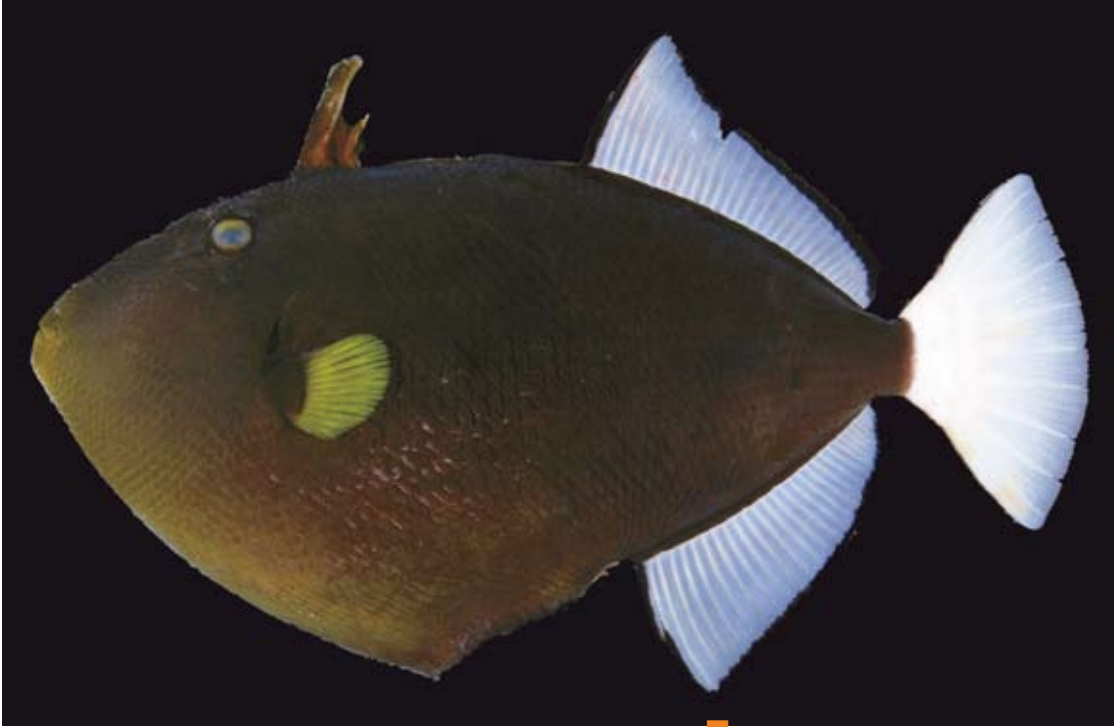
Other collected specimens: NSMT-P 106090, 238.9 mm SL, lou-jima.



モンガラカワハギ lou-jima, 15 Apr. 2010, S. Dewa



モンガラカワハギ KAUM-I. 31620, juvenile, 46.8 mm SL, lou-jima



クロモンガラ KAUM-I. 29795, 193.2 mm SL, Take-shima

フグ目 モンガラカワハギ科 ソロイモンガラ属

クロモンガラ

Melichthys vidua (Richardson, 1845)

形態 背鰭 III+31-35；臀鰭 27-31；胸鰭 14-15；縦列鱗 50-59。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。鞘状鱗は4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。

フグ目 モンガラカワハギ科 アカモンガラ属

アカモンガラ

Odonus niger (Rüppell, 1836)

形態 背鰭 III+33-36；臀鰭 28-31；胸鰭 14-15；縦列鱗 29-34。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。1対の犬歯が口から外部に突出する。下顎は上顎より前方に位置し、口は上を向く。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。第2背鰭と臀鰭の前部は後部より

色彩 体と頭部、第1背鰭は黒い。第2背鰭と臀鰭は白いが、縁は黒く縁取られる。胸鰭は黄色。尾鰭後部は淡桃色で、基部は白い。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。日本では本州中部以南に分布する。

備考 全長30 cmになる。サンゴ礁外縁部に見られる。海藻、ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。

(松浦啓一)

Other collected specimens: KAUM-I. 32359, 216.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 34005, 188.0 mm SL, Iou-jima;



クロモンガラ KAUM-I. 29795, 193.2 mm SL, Take-shima

KAUM-I. 37654, 218.5 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 99042, 197.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106085, 191.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106088, 181.9 mm SL, Iou-jima.

明らかに高い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。鞘状鱗は前後方向に4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾鰭の上葉と下葉は後方に延長する。尾柄から第2背鰭前部下方向に至る体側に、小棘が6-7縦列を形成して並ぶ。

色彩 体は紺色を帯びた黒色。口から鰓孔までの頭部の色は体よりも淡く、灰青色を呈する。第2背鰭、臀鰭及び尾鰭の縁辺部は淡青色に縁取られる。眼から口にかけて、2本の青色線が斜めに走る。口から後方に1本の青色線が水平に走る。犬歯は赤い。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。日本では、本州中部以南に分布する。

備考 全長50 cmになる(尾鰭の延長部を含む)。サンゴ礁外縁部で大きな群れを作ることが多い。動物プランクトンや海綿を食べる。背鰭第1棘を第2棘で垂直に固定する機能がある。敵に襲われそうになると、サンゴ礁の隙間や穴に逃げ込んで、背鰭第1棘と腰骨後端の鞘状鱗を隙間や穴の壁に突っ張り、体を固定する。このような防御行動はモンガラカワハギ科特有のものである。

(松浦啓一)



アカモンガラ KAUM-I. 32308, juvenile, 54.8 mm SL, Iou-jima



ムスメハギ KAUM-I. 34001, 160.0 mm SL, Iou-jima

フグ目 モンガラカワハギ科 メガネハギ属

ムスメハギ

Sufflamen bursa (Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 III+27-30; 臀鰭 25-27; 胸鰭 13-14; 縦列鱗 43-50。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は前後方向に4

節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄から第1背鰭下方までの体側に鋭い小棘があり、多数の縦列を形成する。

色彩 頭部と体は茶色。白色線が口から肛門にかけて走り、肛門付近で前方向きを変え、腹鰭基部で終わる。弧状の褐色帯が第1背鰭の基部付近から眼を通り、胸

鰭基部下端に走る。この褐色帯の後に、もう1本の褐色帯が眼の後方から胸鰭基部の背方へ走る。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。日本では本州中部以南に分布する。

備考 全長 25 cm になる。雑食性。藻類より底生動物を食べることが多い。

(松浦啓一)

Other collected specimens: KAUM-I. 34000, 160.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106079, 117.1 mm SL, Iou-jima.



ツマジロモンガラ KAUM-I. 37744, 156.4 mm SL, Take-shima

フグ目 モンガラカワハギ科 メガネハギ属

ツマジロモンガラ

Sufflamen chrysopteron (Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 III+26-28; 臀鰭 23-26; 胸鰭 12-14 (通常 13); 縦列鱗 41-47。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。体側の多くの鱗は規則的に並んでいる。鰓孔の周囲には小さな鱗がある。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。第1棘の前には小さな突起が多数ある。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。鞘状鱗は前後方向に4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄から第2背鰭中央部までの体側に鋭

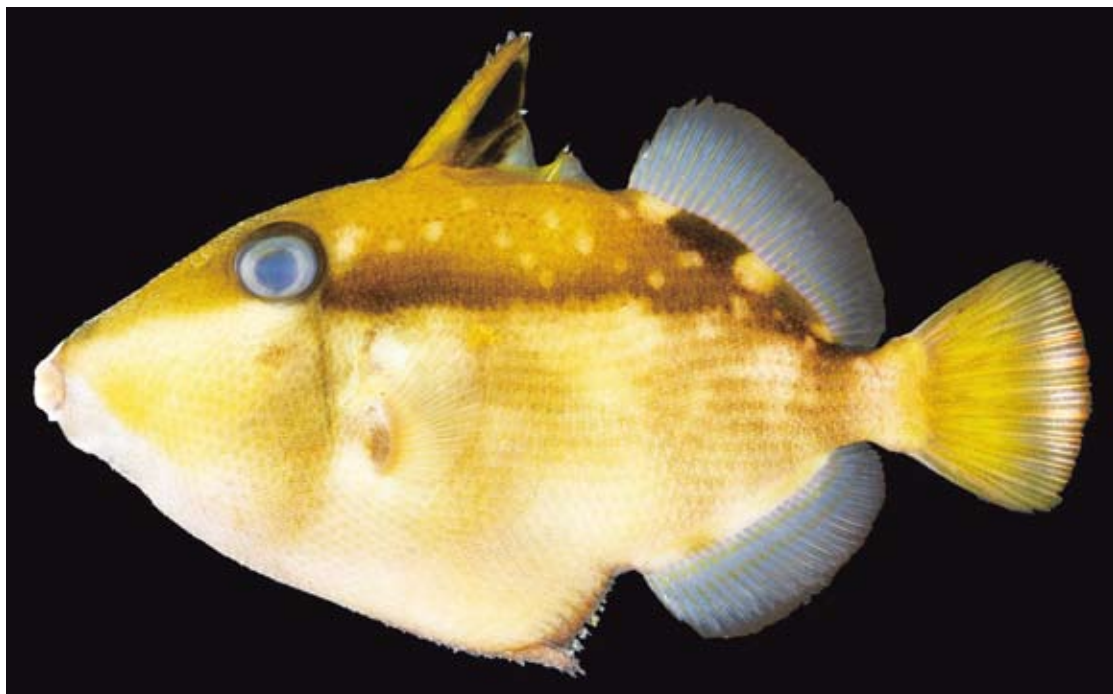
い小棘があり、多数の縦列を形成する。

色彩 頭部と体は褐色で、眼の後部下縁から細い弧状の乳白色帯が腹方に向かって走り、鰓孔の前方を走り、胸鰭基部の腹方で終わる。雄では下顎から腹鰭後端に至る部分が鮮やかな青紫色であるが、雌では暗褐色を呈する。下顎の後部を横切る1本の短い乳白色帯がある。尾鰭は褐色で、後端は白く、背縁と腹縁も白い。尾柄部や尾鰭が黄褐色となる個体も見られる。幼魚では眼の下縁より腹方の頭部と体は白色で、眼の下縁より背方の頭部と体は黒

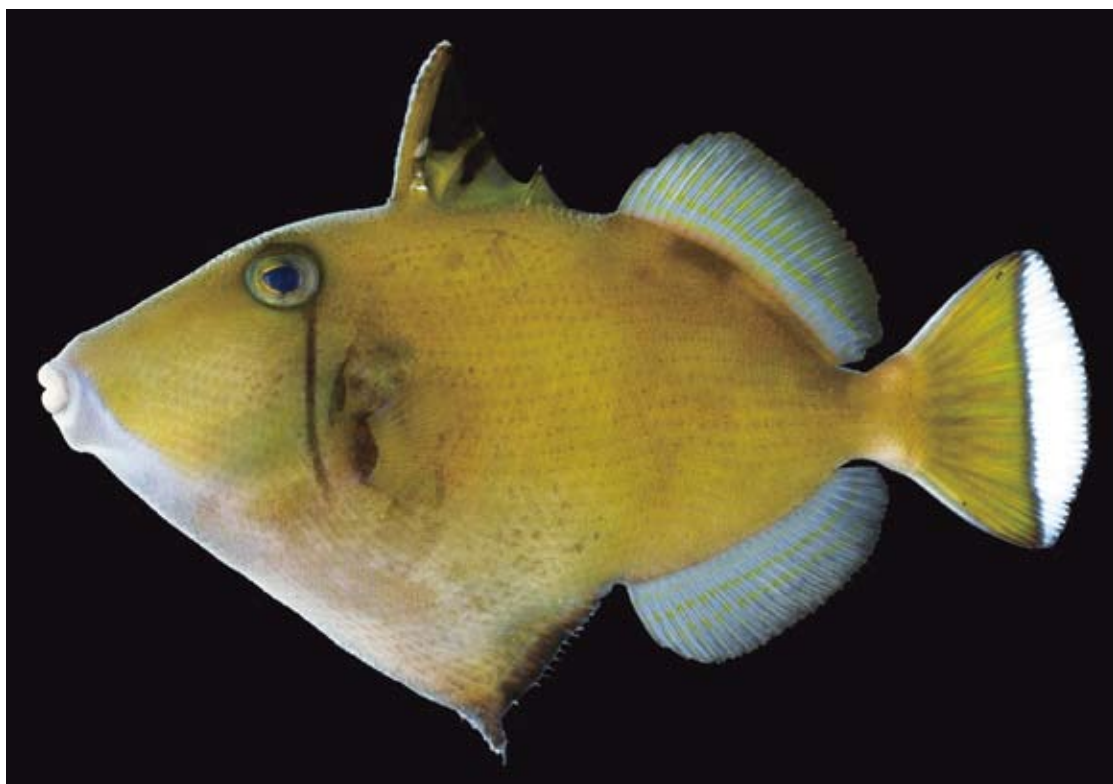
褐色を呈する。黒褐色の部分は腹方で濃く、背方で淡くなる。また、黒褐色部に白色点が散在する個体もいる。幼魚では尾鰭後端の白色部が成魚より相対的に大きく、白色部の前方は緩やかな弧を描く。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域のサンゴ礁に生息する。日本では、本州中部以南に分布する。

備考 サンゴ礁で普通に見られる種で、全長 25 cm になる。多くの場合、水深 30 m 以浅で見られる。群れは作らず、単独で行動することが多い。雄と雌のペアで日出時に繁殖行動を行い、雌はサンゴ礁の海底に産卵する。雌は卵が孵化するまで保護する。背鰭第1棘を立て、背鰭第2棘によって背鰭第1棘を固定することができる。ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。敵に襲



ツマジロモンガラ KAUM-I. 31621, juvenile, 42.0 mm SL, Iou-jima



ツマジロモンガラ KAUM-I. 31669, juvenile, 55.4 mm SL, Iou-jima

われそうになると、サンゴ礁の隙間や穴に逃げ込んで、背鰭第1棘と腰骨後端の鞘状鱗を隙間や穴の壁に突っ張り、体を固定する。このような防御行動を取った場合でも、体の後半部は露出していることが多く、「頭隠して尻隠さず」の状態となる。しかし、体を固定する力が強く、また、体後半部の鱗には小棘が多数あるため、手でつかんで引き出すことはできない。

(松浦啓一)

Other collected specimens: KAUM-I. 29696, 149.8 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 29700, 139.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31665, 35.0 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 34002, 142.7 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37655, 132.6 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37764, 175.8 mm SL, Takeshima; NSMT-P 106078, 146.0 mm SL, Iou-jima.



ツマジロモンガラ KAUM-I. 29550, 138.3 mm SL, Iou-jima



メガネハギ KAUM-I. 37622, 224.0 mm SL, Iou-jima

フグ目 モンガラカワハギ科 メガネハギ属

メガネハギ

Sufflamen fraenatum (Latreille, 1804)

形態 背鰭 III+27-31; 臀鰭 24-28; 胸鰭 14-15; 縦列鱗 43-54。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は項丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状

鱗がある。鞘状鱗は前後方向に4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄から第2背鰭起部までの体側に鋭い小棘があり、多数の縦列を形成する。

色彩 体は褐色で、雄では1本の淡黄色線が口角から斜め後方に走り、鼻孔の腹方で終わる。この淡黄色線には、口角のやや後方で腹方に向かう分枝があり、反対側の分枝と連続する。雌には淡黄色線はない。幼魚では眼の下縁より腹方の頭部と体は白色で、眼の下縁より背方の頭部と体は黒褐色を呈する。体の白色部には、前

後方向に走る短い褐色線が多数散在する。黒褐色の部分は腹方で濃く、背方で淡くなる。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。日本では、本州中部以南に分布する。

備考 全長 38 cm になる。水深 50 m 以下のサンゴ礁外縁部に単独で生息する。ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。メガネハギとツマジロモンガラの幼魚は似ているが、体の腹側の白色部に褐色線があるか、ないかで区別できる。

(松浦啓一)



ハクセイハギ KAUM-I. 37695, 236.9 mm SL, Iou-jima

フグ目 カワハギ科 センウマツラハギ属

ハクセイハギ

Cantherhines dumerilii (Hollard, 1854)

形態 背鰭 II+34-39；臀鰭 28-35；胸鰭 12-14。体は強く側扁し、やや長い菱形を呈する。第1背鰭は2棘で構成され、第1棘は長い。第2棘は短くて、皮下に隠れている。第1背鰭の後方の背部に浅い1縦溝がある。腹鰭は単一で、筒状を呈する

小さな鞘状鱗から構成される。鞘状鱗は前後方向に3節に分かれているが、背腹方向に動かすことはできない。腹部膜状部は小さい。鰓孔は裂孔状で、やや前方に傾き、眼の後半部分の腹方に位置する。尾柄に2対の前方を向いた大きな棘がある。

色彩 幼魚と若魚の体には、瞳孔大もしくは瞳孔よりやや大きな白色点が多数散在する。成魚になると体は褐色で、白色点はない。背鰭、臀鰭、胸鰭の鰭条は黄色。背鰭基部と臀鰭基部は鮮黄色。尾鰭の鰭

条は黄褐色で鰭膜は褐色。尾柄部の前向棘は黄色。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域のサンゴ礁に生息する。日本では、本州中部以南に分布する。

備考 全長 35 cm になる。水深 30 m 以浅のサンゴ礁を2尾で泳いでいることが多い。小型甲殻類、ゴカイ類、貝類、サンゴのポリブなどを食べる。

(松浦啓一)

フグ目 カワハギ科 センウマツラハギ属

アミメウマツラハギ

Cantherhines pardalis (Rüppell, 1837)

形態 背鰭 II+32-36；臀鰭 29-32；胸鰭 12-14。体は強く側扁し、やや長い菱形を呈する。第1背鰭は2棘で構成され、第1棘は長い。第2棘は短くて、皮下に隠れている。第1背鰭の後方の背部に浅い1縦溝がある。背鰭の第1棘を立てると、やや前方に傾く。腹鰭は単一で、筒状を呈する小さな鞘状鱗から構成される。鞘状鱗は前後方向に3節に分かれているが、背腹方向に動かすことはできない。腹部膜状部は小さい。鰓孔は裂孔状で、やや前方に

傾き、眼の後半部分の腹方に位置する。

色彩 体は褐色で、網目状を呈する淡黄色の模様がある。網目模様には個体変異がかなりある。頭部には淡黄色の縦線が多数走り、これらの淡黄色線は口部に向かって収束する。尾柄上部に1白色斑がある(標本にすると不鮮明になる)。第1背鰭は褐色で、背鰭、臀鰭、胸鰭の鰭条は黄色い。尾鰭の鰭条は黄褐色で、鰭膜は褐色。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域のサンゴ礁に生息する。日本では、本州中部以南に分布する。

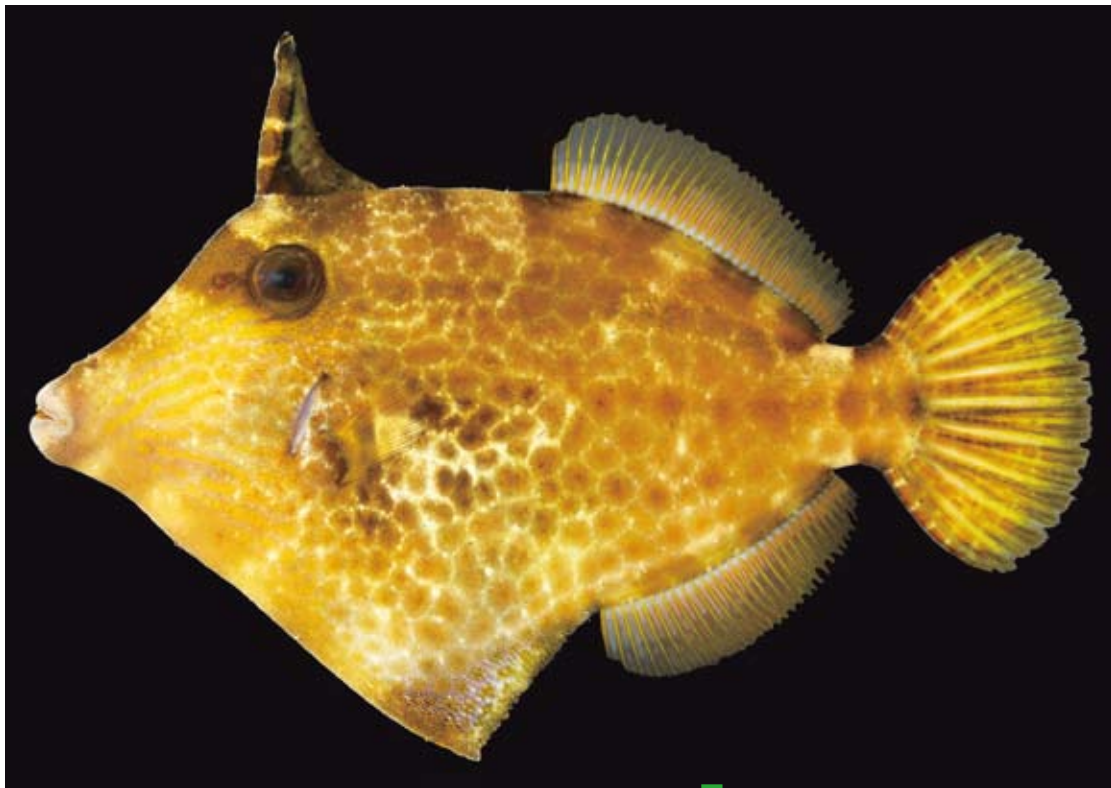
備考 全長 35 cm になる。水深 30 m 以浅



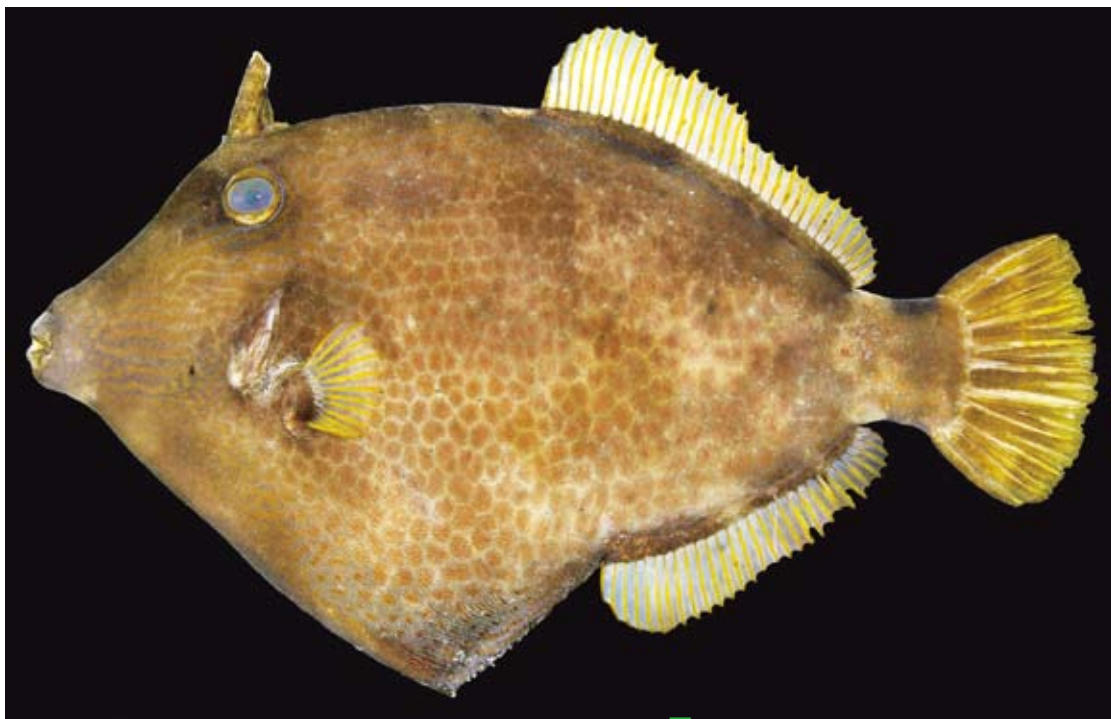
アミメウマツラハギ KAUM-I. 31386, 76.5 mm SL, Take-shima

のサンゴ礁外縁を単独で泳いでいることが多い。小型甲殻類、ゴカイ類、貝類、サンゴのポリブなどを食べる。

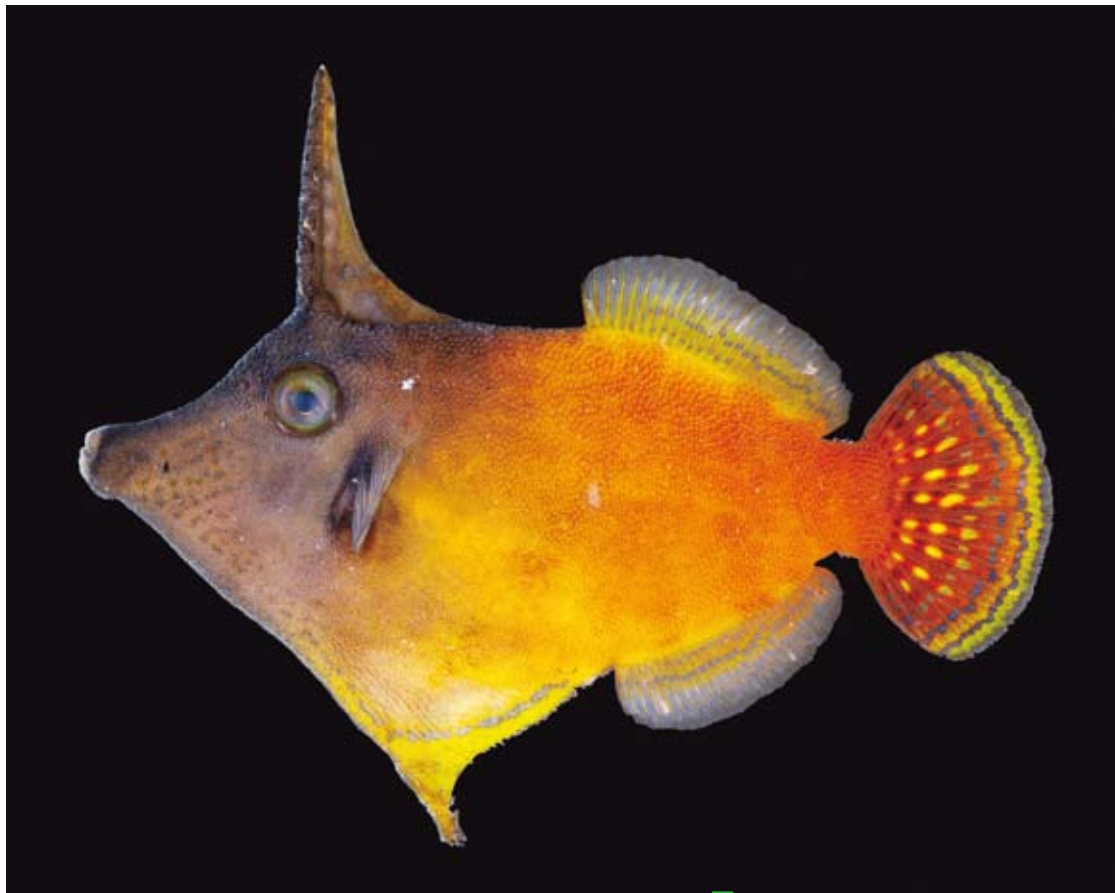
(松浦啓一)



アミメウマヅラハギ KAUM-I. 37929, 78.9 mm SL, Iou-jima



アミメウマヅラハギ KAUM-I. 37994, 189.9 mm SL, Take-shima



ヌリワケカワハギ KAUM-I. 30572, 53.3 mm SL, Iou-jima

フグ目 カワハギ科 ニシキカワハギ属

ヌリワケカワハギ

Pervagor melanocephalus (Bleeker, 1853)

形態 背鱗 11+30-33；臀鱗 27-30；胸鱗 12-13。体は強く側扁し、やや長い。第1背鱗は2棘で構成され、第1棘は長い。第2棘は短くて、皮下に隠れている。腹鱗は単一で、筒状を呈する小さな鞘状鱗から構成される。鞘状鱗は前後方向に3節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。腹部膜状部は発達する。

色彩 第2背鱗起部より前の体は暗青色で、体の後半は橙黄色を呈する。鰓孔の周辺に長楕円形の黒色斑がある。尾鱗は体後半と同色であるが、暗青色の細い線が尾鱗後部を背腹方向に数本走る。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域のサンゴ礁に生息する。日本では、本州中部以南に分布する。通常、水深 10 m 前後の場所で見られる。

備考 カワハギ科の中では小型で、全長



ヌリワケカワハギ KAUM-I. 32339, 83.5 mm SL, Iou-jima

12 cm 以下。群れを作らない。小型甲殻類、ゴカイ類、貝類などを食べる。

Other collected specimens: NSMT-P 106165, 74.2 mm SL, Take-shima.

(松浦啓一)



ウミスズメ KAUM-I. 29798, 180.5 mm SL, Take-shima

フグ目 ハコフグ科 コンゴウフグ属

ウミスズメ*Lactoria diaphana* (Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 9；臀鰭 9；胸鰭 10。体の横断面は五角形を呈する。背中の中央に大きな1棘がある。短い1棘が眼の上部から前方へ突出する。また、体甲の腹部後

隅から短い1棘が後方へ突出する。成魚の体はやや長いが、幼魚や若魚の体は成魚より短く、腹面が丸く膨出する。

色彩 成魚の体は淡褐色で、黒点と黒斑が散在する。幼魚や若魚の体は成魚に比べると白っぽく、体の腹方は半透明。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域のサンゴ礁や岩礁に生息する。日本では、本州

中部以南に分布する。

備考 全長 25 cm になる。成魚になると海底付近を単独で行動するが、幼魚や若魚は表層付近に生息し、群れを作る。

(松浦啓一)

Other collected specimens: KAUM-I. 30605, 189.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106073, 180.5 mm SL, Iou-jima.



シマウミスズメ KAUM-I. 37763, 108.0 mm SL, Take-shima

フグ目 ハコフグ科 コンゴウフグ属

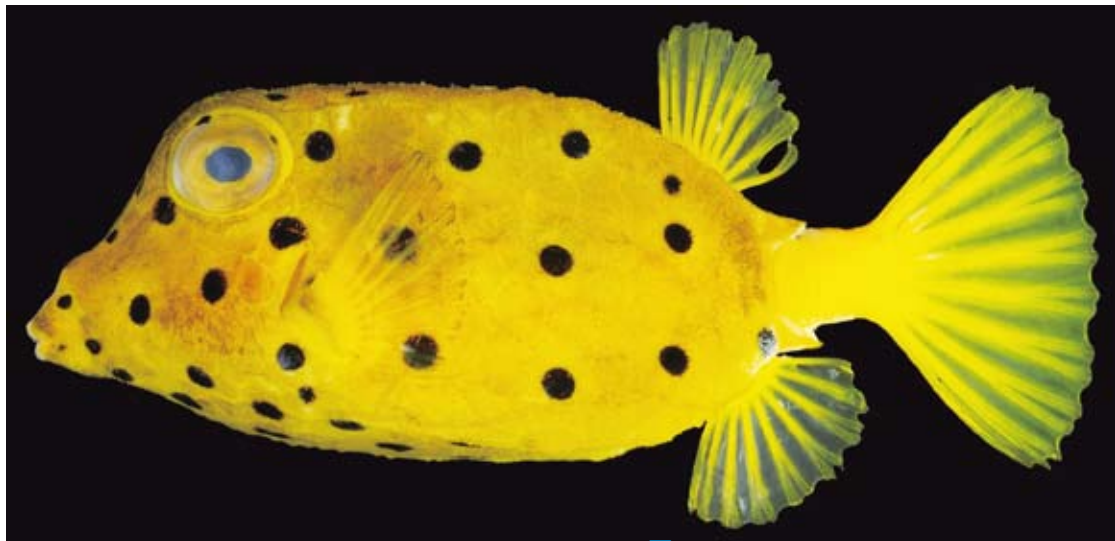
シマウミスズメ*Lactoria fornasini* (Bianconi, 1846)

形態 背鰭 9；臀鰭 9；胸鰭 10-11。体の横断面は五角形を呈する。背中の中央に1棘がある。短い1棘が眼の上部から突出し、腹部後隅から1棘が突出する。

色彩 体は黄褐色で不規則な青色線が多数ある。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域のサンゴ礁や岩礁に生息する。日本では、本州中部以南に分布する。

備考 全長 15 cm になる。(松浦啓一)



ミナミハコフグ KAUM-I. 37774, juvenile, 50.7 mm SL, Take-shima

フグ目 ハコフグ科 ハコフグ属

ミナミハコフグ

Ostracion cubicus Linnaeus, 1758

形態 背鰭 9；臀鰭 9；胸鰭 10-11。体の横断面は四角形。

色彩 成魚は黄褐色で、骨板には黒点が3個あり、黒点で囲まれた部分は白い。幼魚は鮮黄色で、黒点が散在する。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域のサンゴ礁や岩礁に生息し、日本では本州中部以南に分布する。

備考 全長 40 cm になる。

(松浦啓一)



ハコフグ KAUM-I. 29735, 143.2 mm SL, Iou-jima

フグ目 ハコフグ科 ハコフグ属

ハコフグ

Ostracion immaculatus Temminck & Schlegel, 1850

青色点が散在する。

分布 東北部から九州までの日本各地と台湾、中国、韓国に分布する。

(松浦啓一)

形態 背鰭 9；臀鰭 9；胸鰭 10。体の横断面は四角形を呈する。

色彩 成魚は褐色で、雄の背部は青く、雌では青くない。幼魚は黄褐色で、黒点と淡

Other collected specimens: KAUM-I. 29695, 116.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 30594, 139.2 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 34004, 133.3 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 37793, 129.5 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106072, 39.7 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106074, 135.1 mm SL, Iou-jima.



ハコフグ KAUM-I. 29660, juvenile, 11.6 mm SL, Take-shima



■ ホシフグ KAUM-I. 30569, 94.8 mm SL, Iou-jima

フグ目 フグ科 モヨウフグ属

ホシフグ

Arothron firmamentum (Temminck & Schlegel, 1850)

形態 背鰭 14；臀鰭 13-14；胸鰭 16。体はやや長く、横断面は円い。体は背鰭、臀鰭、胸鰭の基部を除き、多数の小棘に覆われる。背鰭と臀鰭の先端は尖る。胸鰭は大きくて、円い。尾鰭の後端は円い。腹鰭はない。鰓孔は小さな裂孔状で、胸鰭基部の直前に位置する。鼻孔にある皮弁は二つに分かれる。スズキ亜目に見られるような歯を持たないが、上顎と下顎に強大な歯板が2枚ずつある。側線は明瞭ではないが、体側を前後方向に走る。

色彩 体は暗青色か青紫色で、眼とほぼ同

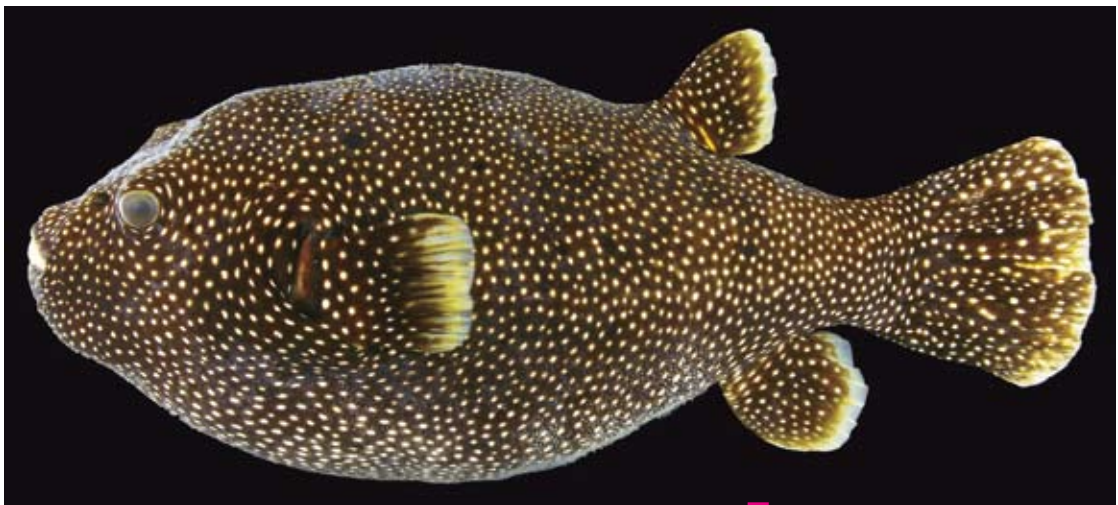
じ大きさの白色点が多数ある。腹側は白っぽい。

分布 本州中部以南の日本、南シナ海北部、ニュージーランド、オーストラリア東部、ニューカレドニア、南アフリカ、アルゼンチンに分布する。フグ科魚類の中で、このような非熱帯分布 (antitropical distribution) を示す種はホシフグのみである。

備考 全長 45 cm になる。モヨウフグ属の多くの種の形態的特徴は似ている。しかし、ホシフグを他のモヨウフグ属の種と比較

すると、背鰭と臀鰭の条数が多く（ホシフグでは背鰭条数 14、臀鰭条数 13-14 であるが、他の種では背鰭及び臀鰭条数は 10-13 と少ない）、体全体が暗青色か青紫色で、白色点を多数有することによって、明瞭に識別できる。本種は水深 100-400 m に生息する。ときとして、40 m 以浅に現れることもある。フグ科魚類の中ではヨリトフグと並んで最も深い所にすむ種である。沿岸の定置網で小型個体が大量に捕獲されることがあり、少なくとも若魚は群れを作ると思われる。フグ科魚類の胃の一部は膨張囊となっており、水を大量に飲み込んで拡張し、腹部を大きく膨らませることができる。飲み込む水の量は体重の 2-3 倍に達する。

（松浦啓一）



■ ミゾレフグ KAUM-I. 37803, 279.9 mm SL, Iou-jima



ミゾレフグ (黄色個体) KAUM-I. 32360, 258.9 mm SL, Iou-jima

フグ目 フグ科 モヨウフグ属

ミゾレフグ

Arothron meleagrís (Anonymous, 1798)

形態 背鰭 10-13 (通常 11-12); 臀鰭 11-13 (通常 12); 胸鰭 18-21 (通常 19-20)。体はやや長く、横断面は円い。体は背鰭、臀鰭、胸鰭の基部を除き、多数の小棘に覆われる。背鰭と臀鰭の先端は円い。胸鰭は大きくて、円い。尾鰭の後端は円い。腹鰭はない。鰓孔は小さな裂孔状で、胸鰭基部の直前に位置する。鼻孔にある皮弁は2つに分かれる。上顎と下顎に強大な歯板が2枚ずつある。側線は

明瞭ではないが、体側を前後方向に走る。

色彩 成魚では、通常の個体の体とすべての鰭は黒い。多くの白色点が体にある。しかし、体が鮮やかな黄色の個体もいる。黄色個体の体には黒色斑や黒色点があるが、口の周囲は黒くない。また、黄色個体と通常の個体の色彩が混じり合ったような色彩を示す個体もいる。

分布 インド洋と太平洋 (東部太平洋を含む) の熱帯域のサンゴ礁に生息する。日本では伊豆諸島以南に分布する。

備考 全長 35 cm になる。モヨウフグ属の中では中型の種である。サンゴや海綿、

貝類、甲殻類、海藻、デトリタスなど多様な餌を食べる。サンゴ礁を単独で行動し、群れを作らない。体が黒く、多数の白色点を持つという特徴はホシフグに一見似ているが、ミゾレフグの体色は黒であり (ホシフグでは暗青色か青紫色)、白色点が瞳孔より小さいこと、背鰭と臀鰭が円いこと (ホシフグでは先端が尖る) によって容易に識別できる。また、黄色個体はコクテンフグの黄色個体に似ているが、コクテンフグの口の周囲は黒く縁取られるのに対して、ミゾレフグでは黒い縁取りがないため、両者の黄色個体は区別できる。

(松浦啓一)



ハナキンチャクフグ KAUM-I. 29481, juvenile, 29.4 mm SL, Iou-jima



ハナキンチャクフグ KAUM-I. 29547, 72.5 mm SL, Iou-jima



ハナキンチャクフグ KAUM-I. 29548, 97.0 mm SL, Iou-jima

フグ目 フグ科 キタマクラ属

ハナキンチャクフグ

Canthigaster axiologa Whitley, 1931

形態 背鰭 9-10 (通常 10); 臀鰭 9-10 (通常 9); 胸鰭 16-17 (通常 17)。体はやや側扁し、眼の後ろから背鰭起部までの背中線上にキール状隆起がある。吻はやや突出し、側面から見ると三角形を呈する。

色彩 体は白く、4本の黒色帯が背部を横切る。1番目の横帯は後頭部にあり、2番目の横帯は鰓孔の背方から鰓孔腹部にかけて走り、3番目の横帯は背鰭基部の前

半部から体側面の中部に達する。最後の横帯は尾柄背面から斜め前方に走り、体側面の中部に達する。これらの横帯は橙黄色や淡青色の点や短い線で交互に縁取られる。短い橙黄色線と淡青色線が、眼から放射状に走る。尾鰭は淡黄色で、背縁と腹縁は黒褐色。尾鰭中央の鰭条には淡黄色点が数個散在する。

分布 西太平洋熱帯域のサンゴ礁と岩礁に生息する。日本では本州中部以南に分布する。

備考 全長 14 cm になる。通常、サンゴ礁外縁部の水深 10-20 m で見られる。雑食性で、海綿、貝類、カニ類、クモヒトデ類、海藻などを食べる。本種に対して *Canthigaster coronata* (Vaillant & Sauvage, 1875) という学名が用いられていたが、*C. coronata* はハワイ固有種である (Randall et al., 2008)。

(松浦啓一)

Other collected specimens: KAUM-I. 31392, 74.7 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 31661, 70.5 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31662, 49.4 mm SL, Iou-jima; KAUM-I. 31663, 40.0 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106080, 26.6 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106081, 25.4 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106917, 22.2 mm SL, Iou-jima.



キタマクラ KAUM-I. 37609, 28.9 mm SL, Iou-jima

フグ目 フグ科 キタマクラ属

キタマクラ

Canthigaster rivulata (Temminck & Schlegel, 1850)

形態 背鰭 9-10 (通常 10); 臀鰭 9-10 (通常 9); 胸鰭 16-18 (通常 17)。体はやや側扁し、眼の後ろから背鰭起部までの背中線にキール状隆起がある。

色彩 体の背方は褐色か暗紫色で、不定形の淡青色線と黄色線が多数ある。体側に長い馬蹄形を呈する黒褐色帯があり、鰓孔前部から始まり、尾柄背部と尾鰭基部に向かって走る。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域のサンゴ礁と岩礁に生息する。日本では本州中部以南に分布する。

備考 全長 20 cm になる。通常は水深 30m 以浅に生息するが、水深 90 m からの記録もある。岩礁域で数尾が集まっていることがある。

(松浦啓一)

Other collected specimen: KAUM-I. 37754, 37.2 mm SL, Take-shima; NSMT-P 106152, 36.1 mm SL, Iou-jima.



シマキンチャクフグ KAUM-I. 37661, 52.1 mm SL, Iou-jima

フグ目 フグ科 キタマクラ属

シマキンチャクフグ

Canthigaster valentini (Bleeker, 1853)

形態 背鰭 9; 臀鰭 9; 胸鰭 16-17 (通常 17)。体はやや側扁し、眼の後ろから背

鰭起部までの背中線にキール状の隆起がある。吻はやや突出し、側面から見ると三角形を呈する。

色彩 体は白く、4本の黒色帯が背部を横切る。最前部の横帯は後頭部にあり、最後の横帯は尾柄背面にある。2番目と3番目の横帯は体腹部に達する。

分布 インド洋と太平洋 (東はトゥアモトゥ諸島まで) の熱帯域に分布する。日本では本州中部以南に分布する。

備考 全長 11 cm になる。

(松浦啓一)

Other collected specimen: NSMT-P 106917, 22.2 mm SL, Iou-jima.



イシガキフグ KAUM-I. 29748, 305.0 mm SL, Iou-jima

フグ目ハリセンボン科イシガキフグ属

イシガキフグ

Chilomyxerus reticulatus (Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 12-14; 臀鰭 11-14; 胸鰭 19-22。上顎と下顎に大きな歯板が1枚ずつある。腹鰭はない。体に多数の大きな棘がある。

ある。棘は短く、不動性で立てることはできない。尾柄背面に棘がある。吻から背鰭起部までの棘は8-10横列を形成する。

色彩 体背方は灰褐色で、腹方は白い。体に多数の黒色点がある。4本の薄い暗色帯が体の背面を横切る。すべての鰭に小黒色点がある。表層生活期の個体は体全体が青みを帯びるが、沿岸に生息する

ようになると青みは消える。

分布 青森県以南の全世界の温帯・熱帯の海に分布する。

備考 全長 55 cm になる。水深 40 m 以下のサンゴ礁や岩礁に生息する。
(松浦啓一)



ハリセンボン KAUM-I. 29747, 207.3 mm SL, Iou-jima

フグ目ハリセンボン科ハリセンボン属

ハリセンボン

Diodon holocanthus Linnaeus, 1758

形態 背鰭 13-15; 臀鰭 13-15; 胸鰭 20-25。上顎と下顎に大きな歯板が1枚ずつある。腹鰭はない。体に多数の長くて、鋭い棘がある。棘は立てることができる。吻から背鰭起部までの棘は12-16横列を形成する。

色彩 体の背方は淡褐色で、腹方は白い。体に多数の小黒色点があるが、鰭には黒点がない。眼を横切る褐色の横帯がある。鰓孔直前の背部に1褐色横帯がある。胸鰭の背方に褐色の斑紋がある。背鰭の直前にも褐色斑紋がある。背鰭基部は褐色の斑紋で覆われる。これらの褐色斑紋や横帯に白い縁取りはない。

分布 全世界の温帯・熱帯の浅海に分布する。

備考 胃に大量の水を飲んで体を膨らませ、棘を立てることができる。ヒトヅラハリセンボン *Diodon liturosus* Shaw, 1804 に似るが、ハリセンボンには鰓孔の直前の側面に褐色の横帯がないので区別できる。
(松浦啓一)

Other collected specimens: KAUM-I. 29694, 187.0 mm SL, Take-shima; KAUM-I. 29699, 146.5 mm SL, Iou-jima; NSMT-P 106104, 164.5 mm SL, Iou-jima.

引用文献

- Allen, G. E. 1973. Three new species of deep-dwelling damselfish (Pomacentridae) from the South-west Pacific Ocean. *Aust. Zool.*, 18: 31–43.
- Allen, G. R. 1987. Descriptions of three new pseudochromid fishes of the genus *Pseudoplesiops* from Australia and surrounding regions. *Rec. W. Aust. Mus.*, 13: 249–261.
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xiii + 1292 pp.
- Allen, G. R., M. V. Erdmann, and A. M. Hamilton. 2010. *Hoplolatilus randalli*, a new species of tilefish (Pisces: Malacanthidae) from the tropical western Pacific with comments on the validity of *H. luteus*. *Aqua, J. Ichthyol.*, 16: 171–186.
- Allen, G. R., A. C. Gill & A. M. Hamilton. 2008. A new species of *Pictichromis* (Pisces: Pseudochromidae) from western New Guinea with a redescription of *P. aurifrons*. *Aqua, J. Ichthyol.*, 13: 145–154.
- Bath, H. 2004. Revision of the genus *Rhabdoblennius* Whitley (Pisces: Blenniidae: Salariae), with descriptions of two new species. *Stuttg. Beitr. Naturk. Ser. A (Biol.)*, 669: 1–26.
- Böhlke, E. B. & J. E. McCosker. 2001. The moray eels of Australia and New Zealand, with the descriptions of two new species (Anguilliformes: Muraenidae). *Rec. Aust. Mus.*, 53: 71–102.
- Böhlke, E. B. & J. E. Randall. 2000. A review of the moray eels (Anguilliformes: Muraenidae) of the Hawaiian Islands, with descriptions of two new species. *Proc. Acad. Nat. Sci. Phila.*, 150: 203–278.
- 出羽慎一・出羽尚子・本村浩之. 2010. オオメワラスボ科魚類 *Navigobius dewa* モモイロカグヤハゼ (新称) の生息状況. *Nature of Kagoshima*, 36: 89–92.
- Fraser, T. H. 2008. Cardinalfishes of the genus *Nectamia* (Apogonidae, Perciformes) from the Indo-Pacific region with descriptions of four new species. *Zootaxa*, 1691: 1–52.
- Gill, A. C. 1999. Pseudochromidae. Pages 2557–2577 in K. E. Carpenter & V. H. Niem (eds.), *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific*. Vol. 4. FAO, Rome.
- Gill, A. C. & A. J. Edwards. 1999. Monophyly, interrelationships and description of three new genera in the dottyback fish subfamily Pseudoplesiopinae (Teleostei: Perciformes: Pseudochromidae). *Rec. Aust. Mus.*, 51: 141–160.
- Gill, A. C. & A. J. Edwards. 2002. Two new species of the Indo-Pacific fish genus *Pseudoplesiops* (Perciformes, Pseudochromidae, Pseudoplesiopinae). *Bull. Nat. Hist. Mus. London (Zool.)*, 68: 19–26.
- Gill, A. C. & A. J. Edwards. 2003. *Pseudoplesiops wassi*, a new species of dottyback fish (Teleostei: Pseudochromidae: Pseudoplesiopinae) from the West Pacific. *Zootaxa*, 291: 1–7.
- Gomon, M. F. 2006. A revision of the labrid fish genus *Bodianus* with descriptions of eight new species. *Rec. Aust. Mus., Suppl.*, 30: 1–133.
- Greenfield, D. W. 2001. Revision of the *Apogon erythrinus* complex (Teleostei: Apogonidae). *Copeia*, 2001: 459–472.
- Greenfield, D. W. & J. E. Randall. 2010. Four new gobiid fishes of the genus *Eviota* from the western Pacific, with clarification of *Eviota guttata* and *Eviota albolineata* (Teleostei: Gobiidae). *Proc. Calif. Acad. Sci.*, 61: 269–289.
- 波戸岡清峰. 2000. ハタンボ科. 中坊徹次 (編), pp. 878–880, 1570–1571. 日本産魚類検索 全種の同定, 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- Hayashi, M. 1990. Two new cardinalfish (Apogonidae: genus *Apogon*) from the Indo-west Pacific. *Sci. Rep. Yokosuka City Mus.*, (38): 7–18.
- 林 公義. 1993. 日本 (奄美諸島) 初記録のタナバタメギス科魚類. 横須賀市博物館研究報告, (41): 27–29.
- 林 公義. 2000. タナバタメギス科. 中坊徹次 (編), pp. 737, 1549–1550. 日本産魚類検索 全種の同定, 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 2000. テンジクダイ科. 中坊徹次 (編), pp. 750–779, 1553–1555. 日本産魚類検索 全種の同定, 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科. 中坊徹次 (編), pp. 826–864, 1979–1986. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野市.
- 林 公義・萩原清司. 2013. ウバウオ科. 中坊徹次 (編), pp. 1326–1329, 2105–2106. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野市.
- 市川 聡・砂川 聡・松本 毅. 1992. 屋久島産魚類の概観. *海中公園情報*, (97): 3–11.
- Ida, H. & J. T. Moyer. 1975. Range extension of the damselfish *Abudefduf starcki* from the Coral Sea to Japan. *Japan. J. Ichthyol.*, 22: 109–111.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2010. スズメダイ科魚類 *Chromis analis* ヒマワリスズメダイ (新称) と *C. albicauda* コガネスズメダイの日本における記録と標準和名. *日本生物地理学会会報*, 65: 57–64.
- 岩坪洗樹・出羽慎一・崎向幸和・伊東正英・古田和彦・本村浩之. 2011. 鹿児島県から得られたハナダイ亜科2種コウリンハナダイ *Pseudanthias parvirostris* とサクラダイ *Sacura margaritacea* の記録. *Nature of Kagoshima*, 37: 17–22.
- Koeda, K., H. Imai, T. Yoshino & K. Tachihara. 2010. First and northernmost record of *Pempheris oualensis* (Pempheridae), from Ryukyu Archipelago, Japan. *Biogeography*, 12: 71–75.

- Kuiter R. H. 2012. Labridae fishes: wrasses. Second edition. Aquatic Photographics, Seaford. 398 pp.
- 国安俊夫(編). 1999. 生態系多様性地域調査(屋久島沿岸海域)報告書. 環境庁自然保護局・鹿児島自然愛護協会. 64 pp.
- 馬淵浩一. 2001. テンジクダイ科. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳(編), pp. 51–54, 185–189. 以布利 黒潮の魚. 海遊館, 大阪.
- Mabuchi, K. & T. Nakabo. 1997. Revision of the genus *Pseudolabrus* (Labridae) from the East Asian waters. Ichthyol. Res., 44: 321–334.
- 益田 一・ジェラルド R アレン. 1987. 世界の海水魚 太平洋・インド洋編. 山と溪谷社, 東京. 528 pp.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1988. 日本産魚類大図鑑. 改訂版. 東海大学出版会, 東京. 382 pp.
- 松沼瑞樹・藍澤正宏・桜井 雄・本村浩之. 2011. ミズヒキミノカサゴ *Pterois mombasae* (フサカサゴ科)の屋久島からの記録および国内におけるミズヒキミノカサゴとネットタイミノカサゴ *P. antennata* の分布状況. Nature of Kagoshima, 37: 3–8.
- 松沼瑞樹・本村浩之. 2011. ミノカサゴ亜科魚類 ミズヒキミノカサゴ(新称) *Pterois mombasae* の日本からの初記録および近縁種ネットタイミノカサゴ *P. antennata* との形態比較. 魚類学雑誌, 58: 27–40.
- Meguro, M. & H. Motomura. 2010. First records of a triplefin (Tripterygiidae), *Enneapterygius hemimelas*, from Japan. Pages 1–8 in H. Motomura & K. Matsuura (eds.), Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Natl. Mus. Nat. Sci., Tokyo.
- Motomura, H., S. Arbuwan & P. Musikasinthorn. 2010a. *Thysanichthys evides* Jordan and Thompson, 1914, a senior synonym of *Sebastella littoralis* Tanaka, 1917, and a valid species of *Scorpaenodes* (Actinopterygii: Scorpaenidae). Spec. Div., 15: 71–81.
- Motomura, H., P. Béarez & R. Causse. 2011. Review of Indo-Pacific specimens of the subfamily Scorpaeninae (Scorpaenidae), deposited in the Museum national d'Histoire naturelle, Paris, with description of a new species of *Neomerinthe*. Cybium, 35: 55–73.
- Motomura, H., S. Dewa, K. Furuta & H. Senou. 2010b. Description of *Pseudanthias rubrolineatus* (Serranidae: Anthiinae) collected from Take-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Biogeography, 12: 119–125.
- Motomura, H. & S. Harazaki. 2007. *In situ* ontogenetic color changes of *Pentapodus aureofasciatus* (Perciformes: Nemipteridae) off Yakushima Island, southern Japan and comments on the biology of the species. Biogeography, 9: 23–30.
- Motomura, H., K. Kuriwa, E. Katayama, H. Senou, G. Ogiwara, M. Meguro, M. Matsunuma, Y. Takata, T. Yoshida, M. Yamashita, S. Kimura, H. Endo, A. Murase, Y. Iwatsuki, Y. Sakurai, S. Harazaki, K. Hidaka, H. Izumi & K. Matsuura. 2010c. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pages 65–248 in H. Motomura & K. Matsuura (eds.), Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Natl. Mus. Nat. Sci., Tokyo.
- Motomura, H., Y. Sakurai, H. Senou & H.-C. Ho. 2009. Morphological comparisons of the Indo-West Pacific scorpionfish, *Parascorpaena aurita*, with a closely related species, *P. picta*, with first records of *P. aurita* from East Asia (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Zootaxa, 2191: 41–57.
- Motomura, H. & H. Senou. 2009. New records of the dwarf scorpionfish, *Sebastapistes fowleri* (Actinopterygii: Scorpaeniformes: Scorpaenidae), from East Asia, and notes on Australian records of the species. Spec. Div., 14: 1–8.
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (Scorpaenidae: *Scorpaenopsis*) の分類学的検討. 魚類学雑誌, 51: 89–115.
- 中坊徹次. 1993. フサカサゴ科. 中坊徹次(編), pp. 491–518, 1295–1298. 日本産魚類検索 全種の同定, 初版. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次. 2000. フサカサゴ科. 中坊徹次(編), pp. 565–595, 1524–1528. 日本産魚類検索 全種の同定, 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- 西山 肇・出羽真一・千葉 悟・本村浩之. 2012. 鹿児島県硫黄島から採集された日本初記録種のスズメダイ科魚類ヒスイスズメダイ(新称) *Chromis earina*. 魚類学雑誌, 59: 61–67.
- 西山一彦・本村浩之. 2012. 日本のペラ大図鑑. 東方出版, 大阪市. 303 pp.
- Okada, Y. 1938. A catalogue of vertebrates of Japan. Maruzen, Tokyo. iv + 412 pp.
- Orr, J. W. & R. A. Fritzsche. 1993. Revision of the ghost pipefishes, family Solenostomidae (Teleostei: Syngnathoidei). Copeia, 1993: 168–182.
- Pietsch, T. W. & D. B. Grobecker. 1987. Frogfishes of the world: Systematics, zoogeography, and behavioral ecology. Stanford Univ. Press, Stanford. xxii + 420 pp.
- Pyle, R. L., J. L. Earle & B. D. Greene. 2008. Five new species of the damselfish genus *Chromis* (Perciformes: Labroidae: Pomacentridae) from deep coral reefs in the tropical western Pacific. Zootaxa, 1671: 3–31.
- Randall J. E. 1981. Examples of antitropical and antiequatorial distribution of Indo-West-Pacific fishes. Pac. Sci., 35: 197–209.

- Randall J. E. 1992 A review of the labrid fishes of the genus *Cirrhitilabrus* from Japan, Taiwan and the Mariana Islands, with description of two new species. *Micronesica*, 25: 99–121.
- Randall J. E. 1999. *Halichoeres orientalis*, a new labrid fish from southern Japan and Taiwan. *Zool. Stud.*, 38: 295–300.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific. New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. University of Hawai'i Press, Honolulu. xii + 707 pp.
- Randall, J. E. & C. C. Baldwin. 1997. Revision of the serranid fishes of the subtribe Pseudogrammina, with descriptions of five new species. *Indo-Pac. Fishes*, (26): 1–56.
- Randall, J. E., M. L. Bauchot, A. Ben-Tuvia & P. C. Heemstra. 1985. *Cephalopholis argus* Schneider, 1801 and *Cephalopholis sexmaculata* (Rüppell, 1830) (Osteichthyes, Serranidae): proposed conservation by suppression of *Bodianus guttatus* Bloch, 1790, *Anthias argus* Bloch, 1792 and *Serranus zanana* Valenciennes, 1828. *Bull. Zool. Nom.*, 42: 374–378.
- Randall, J. E. & P. C. Heemstra. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. *Indo-Pac. Fishes*, (20): 1–332.
- Randall, J. E. & P. C. Heemstra. 2006. Review of the Indo-Pacific fishes of the genus *Odontanthias* (Serranidae: Anthiinae), with descriptions of two new species and a related new genus, *Indo-Pac. Fishes*, (38): 1–32.
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle & J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of inshore fishes of the Ogasawara Islands. *Natl. Sci. Mus. Monogr.*, (11): 1–74.
- Randall, J. E., H. Senou & T. Yoshino. 2008. Three new pinguipedid fishes of the genus *Parapercis* from Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Suppl.*, 2: 69–84.
- Randall, J. E., J. T. Williams & L. A. Rocha. 2008. The Indo-Pacific tetraodontid fish *Canthigaster coronata*, a complex of three species. *Smithiana, Publ. Aquatic Biodiv., Bull.* (9): 3–13.
- 瀬能 宏. 1994. 日本産カミソリウオ科魚類の分類—学名と和名の整理—. *伊豆海洋公園通信*, 5: 2–6.
- 瀬能 宏. 2013. カワリハナダイ科. 中坊徹次(編), pp. 804, 1972. *日本産魚類検索 全種の同定*, 第三版. 東海大学出版会, 秦野市.
- Senou, H., K. Matsuura & G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Mem. Natl. Sci. Mus.*, (41): 389–542.
- 島田和彦. 2000. ベラ科. 中坊徹次(編), pp. 969–1013, 1582–1587. *日本産魚類検索 全種の同定*, 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- 島田和彦. 2009. キンチャクダイ科. 岡村 収・尼岡邦夫(編), pp. 402–412. *日本の海水魚*, 第三版. 山と溪谷社, 東京.
- 清水 長. 1984. フサカサゴ属・オニカサゴ属. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編), pp. 300–301. *日本産魚類大図鑑* (解説・図版). 東海大学出版会, 東京.
- 篠原現人. 1998. フサカサゴ科の1種 *Scorpaenodes varipinnis* の日本からの記録. *魚類学雑誌*, 45: 37–41.
- Snyder, J. O. 1912. The fishes of Okinawa, one of the Riu Kiu Islands. *Proc. U. S. Natl. Mus.*, 42: 487–519.
- Springer, V. G. & J. T. Williams. 1994. The Indo-Pacific blennioid fish genus *Istiblennius* reappraised: a revision of *Istiblennius*, *Blenniella*, and *Paralticus*, new genus. *Smithson. Contr. Zool.*, 565: i–iv + 1–193.
- 鈴木寿之・渋川浩一. 2004. 決定版日本のハゼ. 平凡社, 東京. 534 pp.
- 高田陽子・渋川浩一・篠原現人. 2008. ヨウジウオ科カスミオイランヨウジ (新称) *Dunckerocampus naja* の日本からの記録. *魚類学雑誌*, 55: 135–138.
- Tominaga, Y. 1968. Internal morphology, mutual relationships and systematic position of the fishes belonging to the family Pempheridae. *Japan. J. Ichthyol.*, 15: 43–95.
- Tomiyama, I. 1936. Gobiidae of Japan. *Japan. J. Zool.*, 7: 37–112.
- Winterbottom, R. & D. F. Hoese. 1988. A new genus and four new species of fishes from the Indo-West Pacific (Pisces; Perciformes; Gobiidae), with comments on relationships. *Royal Ontario Mus. Life Sci. Occa. Pap.*, (37): 1–17.
- Yasuda, F. & Y. Tominaga. 1969. A new pomacanthine fish, *Holocanthus venustus*, from the Pacific coast of Japan, with notes on the young of *H. sexstriatus* and *H. septentrionalis*. *Japan. J. Ichthyol.*, 16: 143–151.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (5): 1–51.
- 吉田朋弘・藍澤正宏・本村浩之. 2011. テンジクダイ科魚類7種の屋久島における初記録. *Nature of Kagoshima*, 37: 119–126.
- Yoshida, T., S. Harazaki & H. Motomura. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Pages 27–64 in H. Motomura & K. Matsuura (eds.), *Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. *Natl. Mus. Nat. Sci.*, Tokyo.
- Yoshino, T. & H. Kishimoto. 2008. *Plotosus japonicas*, a new eeltail catfish (Siluriformes: Plotosidae) from Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl.*, 2: 1–11.
- 吉野哲夫・昆 健志. 1998. 日本初記録のキツネアマダイ科魚類アカオビスンゴアマダイ *Hoplolatilus marcosi*. *魚類学雑誌*, 45: 111–114.

- ア**
- アイゴ…………… 344
 アオギハゼ…………… 334
 アオスジオグロベラ…………… 269
 アオスジスズメダイ…………… 234
 アオスジテンジクダイ…………… 110
 アオハナテンジクダイ…………… 108
 アオブダイ…………… 281
 アオモンギンポ…………… 305
 アオヤガラ…………… 35
 アカイソハゼ…………… 321
 アカエソ…………… 17
 アカオビスンゴアマダイ…………… 140
 アカササノハベラ…………… 270
 アカハタ…………… 74
 アカヒメジ…………… 163
 アカフジテンジクダイ…………… 112
 アカホシキツネベラ…………… 247
 アカボシハナゴイ…………… 84
 アカマツカサ…………… 22
 アカモンガラ…………… 358
 アケゴロモヘビギンポ…………… 289
 アケボノチョウチョウウオ…………… 181
 アケボノハゼ…………… 341
 アザハタ…………… 71
 アジアコショウダイ…………… 155
 アデウツボ…………… 12
 アブラヤッコ…………… 190
 アマミスズメダイ…………… 222
 アミメウマヅラハギ…………… 363
 アミメチョウチョウウオ…………… 184
 アヤヘビギンポ…………… 294
 アワセイソハゼ…………… 332
 アンコウウバウオ…………… 314
- イ**
- イシガキカエルウオ…………… 304
 イシガキダイ…………… 207
 イシガキフグ…………… 372
 イシダイ…………… 206
 イシヨウジ…………… 32
- イソカサゴ…………… 48
 イソゴンベ…………… 211
 イタチウオ…………… 17
 イチモンジブダイ…………… 277
 イチモンズメダイ…………… 236
 イッテンフサカサゴ…………… 42
 イトタマガシラ…………… 158
 イトヒキコハクハナダイ…………… 90
 イトヒキベラ…………… 253
 イトヒキベラ属の1種…………… 254
 イナセギンポ…………… 311
 イヌカサゴ…………… 60
 イラ…………… 248
 イレズミハゼ…………… 331
 イロブダイ…………… 273
- ウ**
- ウスジマイシモチ…………… 107
 ウツボ…………… 9
 ウミスズメ…………… 366
 ウミテング…………… 31
 ウメイロモドキ…………… 152
 ウルマカサゴ…………… 57
 ウロコマツカサ…………… 23
- オ**
- オオウルマカサゴ…………… 56
 オオスジイシモチ…………… 114
 オオメタナバタメギス…………… 100
 オオメハゼ…………… 336
 オオモンカエルアンコウ…………… 18
 オオモンハゼ…………… 325
 オオモンハタ…………… 73
 オキゴンベ…………… 210
 オキザヨリ…………… 21
 オキナワサンゴアマダイ…………… 139
 オキフェダイ…………… 149
 オグロブダイ…………… 279
 オジサン…………… 165
 オトメハゼ…………… 339
 オニイシモチ…………… 134

オニカサゴ	51
オニダルマオコゼ	68
オニペラ	271
オハグロハギ	349
オビトウカイスズメダイ	230
オビブダイ	284
オヤビツチャ	214
オヨギベニハゼ	337

カ

カガミチョウチョウウオ	173
カグヤハゼ属の1種	340
カサゴ	67
カシワハナダイ	80
カスマアジ	144
カスミオイランヨウジ	34
カスリイシモチ	122
カタクチイワシ	15
カタボシオオモンハゼ	325
カメレオンタナバタメギス	104
カメレオンブダイ	275
カメンタマガシラ	160
カモハラギンポ	308
カモハラトラギス	285
カワリハナダイ	69
カンムリペラ	256

キ

キスジキューセン	259
キタマクラ	371
キツネアマダイ	141
キツネペラ	244
キビナゴ	15
キホシスズメダイ	228
キミオコゼ	45
キューセンフエダイ	150
キリンミノ	38
キンギョハナダイ	91
キンセンイシモチ	127
キンメモドキ	167
ギンユゴイ	205

ク

グアムカサゴ	50
クサヤモロ	145
クダゴンベ	211
クマドリ	356
クマノミ	216
クラカケエビス	27
クレナイニセスズメ	101
クロアナゴ	14
クロオビエビス	30
クロオビマツカサ	25
クログチニザ	349
クロシマゴチ	69
クロハギ	350
クロホシイシモチ	126
クロホシフエダイ	151
クロホシヤハズハゼ	319
クロメガネスズメダイ	240
クロモンガラ	358

ケ

ケショウギンポ	306
ケラマハナダイ	83

コ

コウライトラギス	287
コウリンハナダイ	84
コガシラペラ	272
コガタオニカサゴ	63
コガネキューセン	258
コガネスズメダイ	217
コクテンカタギ	176
コクテンサザナミハギ	350
コクテンニセヘビギンポ	301
コクハンハタ	71
コスジイシモチ	116
コトヒキ	204
コバンハゼ属の1種	327
コボラ	20
ゴマサバ	353
ゴマチョウチョウウオ	176

- ゴマヒレキントキ 106
 コミナトテンジクダイ 123
 ゴンズイ 16
- サ**
- ササズメダイ 229
 サザナミヤッコ 201
 サビウツボ 13
 サンゴアマダイ属の1種 139
 サンゴウツボ 7
 サンゴトラギス 287
- シ**
- シイラ 142
 ショクスズメダイ 230
 シテンヤッコ 188
 シノビウツボ 13
 シマアラシウツボ 7
 シマイソハゼ 339
 シマウミスズメ 366
 シマキツネベラ 247
 シマキンチャクフグ 371
 シマギンポ 313
 シマスズメダイ 214
 シマヒメヤマノカミ 37
 シラコダイ 182
 シロイソハゼ 320
 シロタスキベラ 263
 シロボシスズメダイ 218
- ス**
- スカシテンジクダイ 137
 スグロダテハゼ 317
 スケロクウミタケハゼ 328
 スジアラ 78
 スジキツネベラ 246
 スジギンポ 306
 スジクモハゼ 319
 スジクロハギ 346
 スジクロユリハゼ 341
 スジハナダイ 82
- スジブダイ 282
 スジベラ 256
 スミツキオグロベラ 269
 スミツキカノコ 29
 スミツキベラ 244
 スミレナガハナダイ 87
 スミレヤッコ 199
- セ**
- セグロヘビギンポ 291
 セスジサンカクハゼ 323
 セダカギンポ 307
 セナキルリスズメダイ 235
 セボシイソカサゴ 50
 セボシウミタケハゼ 329
 セボシサンカクハゼ 323
- ソ**
- ソメワケベラ 264
 ソラスズメダイ 239
- タ**
- ダイダイブダイ 280
 タイワンスズメダイ 227
 タカサゴスズメダイ 233
 タカノハダイ 213
 タキゲンロクダイ 186
 タコベラ 266
 タツノオトシゴ属の1種 34
 タテジマキンチャクダイ 199
 タテジマヘビギンポ 296
 タテジマヤッコ 195
 タネギンポ 311
- チ**
- チビハナダイ 77
 チビブダイ 273
 チャイロマルハタ 73
 チョウチョウウオ 174
 チョウハン 179
 チンアナゴ 14

ツ

ツキチョウチョウウオ	184
ツキノワイトヒキベラ	251
ツキノワブダイ	277
ツキベラ	261
ツノダシ	344
ツノハタタテダイ	188
ツマグロハタンポ	168
ツマジロオコゼ	68
ツマジロモンガラ	360
ツムブリ	142
ツユベラ	258

テ

テリエビス	28
デルタズメダイ	223
テングダイ	203
テングハギモドキ	352
テングヘビギンポ	298

ト

トウヨウウルマカサゴ	54
トカラベラ	260
トゲイッテンフサカサゴ	39
トゲチョウチョウウオ	174
トゲナガイシモチ	110
トゲメギス	97
トサヤッコ	198
トビギンポ	289

ナ

ナガサキズメダイ	240
ナガシメベニハゼ	335
ナガブダイ	283
ナミスズメダイ	216
ナミマツカサ	24
ナメラヤッコ	190
ナンヨウカイワリ	144
ナンヨウブダイ	274
ナンヨウミドリハゼ	322

ニ

ニザダイ	353
ニジエビス	28
ニシキイトヒキベラ	249
ニシキフウライウオ	32
ニシキベラ	272
ニジハタ	72
ニセカエルウオ	307
ニセカンランハギ	345
ニセタカサゴ	154
ニセフウライチョウチョウウオ	179
ニセヘビギンポ	301
ニセモチノウオ	267
ニライカサゴ	53
ニラミギンポ	303
ニンギョウベニハゼ	338

ヌ

ヌノサラシ	75
ヌリワケカワハギ	365

ネ

ネツタイフサカサゴ	41
ネツタイミノカサゴ	43

ノ

ノコギリヨウジ	33
ノトイスズミ	170
ノドグロベラ	265

ハ

ハクセイハギ	363
ハコフグ	367
ハシナガウバウオ	315
ハダカコケギンポ	313
ハダカハオコゼ	65
ハタタテサンカクハゼ	324
ハタタテハゼ	341
ハナアイゴ	344
ハナイシモチ	130
ハナオコゼ	19

- ハナキンチャクフグ 370
 ハナゴイ 86
 ハナゴンベ 97
 ハナミノカサゴ 47
 ハマフエフキ 161
 パラハタ 99
 ハリセンボン 372
 ハワイトラギス 287
 バンダイシモチ 136
- ヒ**
- ヒオドシベラ 243
 ヒスイスズメダイ 224
 ヒトスジイシモチ 119
 ヒトスジギンポ 302
 ヒナギンポ 310
 ヒマワリスズメダイ 219
 ヒメウツボ 10
 ヒメテングハギ 351
 ヒメニセモチノウオ 266
 ヒュウガカサゴ 61
 ヒラニザ 346
 ヒレグロコショウダイ 155
 ヒレグロスズメダイ 220
 ヒレナガカンパチ 146
 ヒレボシミノカサゴ 36
- フ**
- フェヤッコダイ 186
 フカミヤッコ 192
 フダイベラ 268
 フタイロサンゴハゼ 326
 フタイロハナゴイ 78
 フタスジイシモチ 120
 フタスジタマガシラ 159
 フタスジリュウキュウスズメダイ 237
 フタホシキツネベラ 245
 フチススキベラ 242
 フチドリハナダイ 89
 フチフサカサゴ 65
 フチブダイ 281
- フトスジイレズミハゼ 331
 フリ 145
- へ**
- ベガススベニハゼ 333
 ヘダイ 162
 ベニカエルアンコウ 18
 ベニハゼ 334
 ベニハナダイ 94
 ベニヒレイトヒキベラ 251
 ベニマツカサ 25
 ヘビギンポ 291
 ヘビギンポ属の1種 293
 ヘラヤガラ 35
 ヘリゴイシウツボ 8
 ベンケイハゼ 330
- ホ**
- ホウセキキントキ 106
 ホウセキハタ 73
 ホウライヒメジ 163
 ホクトベラ 242
 ホシエビス 30
 ホシカザリハゼ 327
 ホシクズベニハゼ 338
 ホシススキベラ 243
 ホシテンス 264
 ホシニセスズメ 103
 ホシフグ 368
 ホホスジタルミ 151
 ホホベニイトウダイ 26
 ホソソメワケベラ 265
- マ**
- マアジ 147
 マサバ 354
 マジマクロイシモチ 138
 マダラトラギス 288
 マダラハナダイ 75
 マダラフサカサゴ 65
 マツカサウオ 21

マツバギンポ	309
マツバスズメダイ	229
マメサンゴカサゴ	49
マルクチヒメジ	164
マルスズメダイ	232

ミ

ミギマキ	213
ミスジスズメダイ	236
ミスジチョウチョウウオ	180
ミスジテンジクダイ	129
ミゾレチョウチョウウオ	177
ミゾレフグ	369
ミツバモチノウオ	248
ミツボシクロスズメダイ	237
ミドリハゼ	322
ミナミアカエソ	16
ミナミウシノシタ	355
ミナミウツボ	8
ミナミギンポ	311
ミナミゴンベ	209
ミナミハコフグ	367
ミナミハタタテダイ	187
ミナミハタンポ	168
ミナミヒメジ	165
ミナミフトスジイシモチ	124
ミミトゲオニカサゴ	59
ミヤケテグリ	316

ム

ムギイワシ	20
ムスジコシヨウダイ	157
ムスメウシノシタ	354
ムスメハギ	360
ムナテンベラ	260
ムナホシイシモチ	112

メ

メガネハギ	362
メギス	100
メジナ	171

メシマウバウオ	315
---------	-----

モ

モリシタダテハゼ	318
モンガラカワハギ	357
モンズメダイ	233
モンツキハギ	348

ヤ

ヤイトヤッコ	197
ヤクシマキツネウオ	158
ヤセアマダイ	141
ヤマシロベラ	268
ヤミクモハゼ	320
ヤミテンジクダイ	128
ヤライイシモチ	133
ヤリイトヒキベラ	250
ヤリカタギ	183

ユ

ユカタイシモチ	117
ユカタハタ	70

ヨ

ヨコシマクロダイ	162
ヨゴレアオダイ	152
ヨスジフエダイ	148
ヨツメトラギス	285

リ

リュウキュウイシモチ	120
リュウキュウハタンポ	169
リュウキュウヤライイシモチ	130

ロ

ロウソクギンポ	312
ロクセンフエダイ	149

ワ

ワカウツボ	11
-------	----

A

Ablabys taenianotus 68
Abudefduf sordidus 214
Abudefduf vaigiensis 214
Acanthurus dussumieri 345
Acanthurus leucopareius 346
Acanthurus mata 346
Acanthurus olivaceus 348
Acanthurus pyroferus 349
Acanthurus thompsoni 349
Acanthurus xanthopterus 350
Amblyeleotris melanocephala 317
Amblyeleotris morishitai 318
Amblyglyphidodon leucogaster 216
Amphiprion clarkii 216
Amsichthys knighti 100
Anampses caeruleopunctatus 242
Anampses meleagrides 242
Anampses twistii 243
Antennarius commerson 18
Antennarius nummifer 18
Apogon angustatus 107
Apogon apogonides 108
Apogon aureus 110
Apogon caudicinctus 110
Apogon cheni 112
Apogon crassiceps 112
Apogon doederleini 114
Apogon endekataenia 116
Apogon exostigma 117
Apogon fraenatus 119
Apogon fukuii 120
Apogon indicus 120
Apogon kallopterus 122
Apogon kominatoensis 123
Apogon nigrofasciatus 124
Apogon notatus 126
Apogon properuptus 127
Apogon semiornatus 128
Apogon taeniophorus 129
Apogon unicolor 130

Apolemichthys trimaculatus 188
Arothron firmamentum 368
Arothron meleagris 369
Aseraggodes sp. 354
Atherion elymus 20
Aulostomus chinensis 35

B

Balistapus undulatus 356
Balistoides conspicillum 357
Bathygobius cocosensis 319
Bathygobius hongkongensis 319
Bathygobius laddi 320
Bodianus anthioides 243
Bodianus axillaris 244
Bodianus bilunulatus 244
Bodianus bimaculatus 245
Bodianus leucosticticus 246
Bodianus masudai 247
Bodianus rubrisos 247
Brotula multibarbata 17

C

Caesio teres 152
Calotomus spinidens 273
Cantherhines dumerilii 363
Cantherhines pardalis 363
Canthigaster axiologa 370
Canthigaster rivulata 371
Canthigaster valentini 371
Carangoides orthogrammus 144
Caranx melampygus 144
Centropyge tibicen 190
Centropyge vrolikii 190
Cephalopholis sexmaculata 71
Cephalopholis sonnerati 71
Cephalopholis urodeta 72
Cephalopholis miniata 70
Cetoscarus ocellatus 273
Chaetodon argentatus 173
Chaetodon auriga 174

- Chaetodon auripes* 174
Chaetodon citrinellus 176
Chaetodon guentheri 176
Chaetodon kleinii 177
Chaetodon lineolatus 179
Chaetodon lumula 179
Chaetodon lunulatus 180
Chaetodon melannotus 181
Chaetodon nippon 182
Chaetodon trifascialis 183
Chaetodon wiebeli 184
Chaetodon xanthurus 184
Cheilinus trilobatus 248
Cheilodactylus zebra 213
Cheilodactylus zonatus 213
Cheilodipterus macrodon 130
Cheilodipterus quinquelineatus 133
Chelon macrolepis 20
Chilomycterus reticulatus 372
Chlorurus microrhinos 274
Choerodon azurio 248
Chromis albicauda 217
Chromis albomaculata 218
Chromis analis 219
Chromis atripes 220
Chromis chrysur 222
Chromis delta 223
Chromis earina 224
Chromis elerae 227
Chromis flavomaculata 228
Chromis fumea 229
Chromis lepidolepis 229
Chromis margaritifera 230
Chromis okamurai 230
Chromis ovatiformis 232
Chromis weberi 233
Chromis xanthura 233
Chrysiptera caeruleolineata 234
Chrysiptera starcki 235
Chrysiptera tricincta 236
Chrysiptera unimaculata 236
Cirrhilabrus sp. 254
Cirrhilabrus exquisitus 249
Cirrhilabrus lanceolatus 250
Cirrhilabrus lunatus 251
Cirrhilabrus rubrimarginatus 251
Cirrhilabrus temminckii 253
Cirrhichthys aprinus 209
Cirrhichthys aureus 210
Cirrhites pinnulatus 211
Conger japonicus 14
Conidens laticephalus 314
Coradion altivelis 186
Coranthus polyacanthus 134
Coris aygula 256
Coris dorsomacula 256
Coris gaimard 258
Coryphaena hippurus 142
Corythoichthys haematopterus 32
Ctenochaetus binotatus 350
- D**
- Dascyllus reticulatus* 237
Dascyllus trimaculatus 237
Decapterus macarellus 145
Dendrochirus biocellatus 36
Dendrochirus brachypterus 37
Dendrochirus zebra 38
Diademichthys lineatus 315
Diodon holocanthus 372
Doryrhamphus japonicus 33
Dunckerocampus naia 34
- E**
- Echidna polyzona* 7
Ecsenius lineatus 302
Ecsenius namiyei 303
Ecsenius yaeyamaensis 304
Elagatis bipinnulata 142
Engraulis japonicus 15
Enneapterygius sp. 293
Enneapterygius etheostoma 291

Enneapterygius hemimelas 289
Enneapterygius tutuilae 291
Entomacrodus caudofasciatus 305
Entomacrodus niuafoouensis 306
Entomacrodus striatus 306
Epinephelus areolatus 73
Epinephelus chlorostigma 73
Epinephelus coioides 73
Epinephelus fasciatus 74
Eurypegasmus draconis 31
Eviota guttata 320
Eviota masudai 321
Eviota prasina 322
Eviota toshiyuki 322
Eviotias acutirostris 203
Exallias brevis 307

F

Fistularia commersonii 35
Forcipiger flavissimus 186
Fusigobius duospilus 323
Fusigobius gracilis 323
Fusigobius inframaculatus 324

G

Genicanthus bellus 192
Genicanthus lamarck 195
Genicanthus melanospilos 197
Genicanthus semifasciatus 198
Girella punctata 171
Gnatholepis anjerensis 325
Gnatholepis cauerensis 325
Gobiodon sp. 327
Gobiodon quinquestrigatus 326
Grammistes sexlineatus 75
Gymnothorax buroensis 7
Gymnothorax chilospilus 8
Gymnothorax fimbriatus 8
Gymnothorax kidako 9
Gymnothorax melatremus 10
Gymnothorax meleagris 11

Gymnothorax nudivomer 12
Gymnothorax phasmatodes 13
Gymnothorax thyrsoideus 13

H

Halichoeres chrysus 258
Halichoeres hartzfeldii 259
Halichoeres hortulanus 260
Halichoeres melanochir 260
Halichoeres orientalis 261
Helcogramma inclinata 294
Helcogramma rhinoceros 298
Helcogramma striata 296
Heniochus chrysostomus 187
Heniochus varius 188
Heteroconger hassi 14
Heteropriacanthus cruentatus 106
Hippocampus bargibanti 34
Histrio histrio 19
Hologymnosus doliatus 263
Hoplolatilus cuniculus 139
Hoplolatilus marcosi 140
Hoplolatilus randalli 139

I

Iniistius pavo 264
Istiblennius edentulus 307
Istigobius decorates 327

K

Kuhlia mugil 205
Kyphosus bigibbus 170

L

Labracinus cyclophthalmus 100
Labroides bicolor 264
Labroides dimidiatus 265
Lactoria diaphana 366
Lactoria fornasini 366
Lethrinus nebulosus 161
Limnichthys fasciatus 289

<i>Lutjanus fulvus</i>	149
<i>Lutjanus kasmira</i>	148
<i>Lutjanus quinquelineatus</i>	149
<i>Lutjanus rufolineatus</i>	150
<i>Lutjanus russellii</i>	151

M

<i>Macolor macularis</i>	151
<i>Macropharyngodon meleagris</i>	265
<i>Malacanthus brevirostris</i>	141
<i>Malacanthus latovittatus</i>	141
<i>Meiacanthus kamoharai</i>	308
<i>Melichthys vidua</i>	358
<i>Mimoblennius atrocinctus</i>	309
<i>Monocentris japonica</i>	21
<i>Monotaxis grandoculis</i>	162
<i>Mulloidichthys vanicolensis</i>	163
<i>Myripristis berndti</i>	22
<i>Myripristis botche</i>	23
<i>Myripristis kochiensis</i>	24
<i>Myripristis kuntee</i>	25
<i>Myripristis vittata</i>	25

N

<i>Nannosalarias nativitatus</i>	310
<i>Naso annulatus</i>	351
<i>Naso hexacanthus</i>	352
<i>Navigobius</i> sp.	340
<i>Nectamia bandanensis</i>	136
<i>Nemateleotris decora</i>	341
<i>Nemateleotris magnifica</i>	341
<i>Neoclinus nudus</i>	313
<i>Neoniphon aurolineatus</i>	26
<i>Neosynchiropus moyeri</i>	316
<i>Norfolkia brachylepis</i>	301
<i>Norfolkia thomasi</i>	301

O

<i>Odontanthias borbonius</i>	75
<i>Odonus niger</i>	358
<i>Oplegnathus fasciatus</i>	206

<i>Oplegnathus punctatus</i>	207
<i>Ostracion cubicus</i>	367
<i>Ostracion immaculatus</i>	367
<i>Oxycheilinus bimaculatus</i>	266
<i>Oxycirrhites typus</i>	211

P

<i>Paracaesio sordida</i>	152
<i>Paracentropyge venusta</i>	199
<i>Parapercis clathrata</i>	285
<i>Parapercis kamoharai</i>	285
<i>Parapercis multiplicata</i>	287
<i>Parapercis schauinslandi</i>	287
<i>Parapercis snyderi</i>	287
<i>Parapercis tetracantha</i>	288
<i>Parapriacanthus ransonneti</i>	167
<i>Parascorpaena mcadamsi</i>	39
<i>Parascorpaena mossambica</i>	41
<i>Parascorpaena moultoni</i>	42
<i>Pardachirus pavoninus</i>	355
<i>Parupeneus ciliatus</i>	163
<i>Parupeneus cyclostomus</i>	164
<i>Parupeneus multifasciatus</i>	165
<i>Pempheris</i> sp.	169
<i>Pempheris japonica</i>	168
<i>Pempheris schwenkii</i>	168
<i>Pentapodus aureofasciatus</i>	158
<i>Pentapodus nagasakiensis</i>	158
<i>Pervagor melanocephalus</i>	365
<i>Pherallodichthys meshimaensis</i>	315
<i>Pictichromis porphyrea</i>	101
<i>Plagiotremus laudandus</i>	311
<i>Plagiotremus rhinorhijnchos</i>	311
<i>Plectorhinchus lessonii</i>	155
<i>Plectorhinchus picus</i>	155
<i>Plectorhinchus vittatus</i>	157
<i>Plectranthias longimanus</i>	77
<i>Plectropomus leopardus</i>	78
<i>Pleurosicya boldinghi</i>	328
<i>Pleurosicya mossambica</i>	329
<i>Plotosus japonicus</i>	16

Pomacanthus imperator 199

Pomacanthus semicirculatus 201

Pomacentrus coelestis 239

Pomacentrus nagasakiensis 240

Pomacentrus vaiuli 240

Praealticus tanegashimae 311

Priacanthus hamrur 106

Priolepis cincta 330

Priolepis latifasciata 331

Priolepis semidoliata 331

Prionurus scalprum 353

Pseudanthias sp. 94

Pseudanthias bicolor 78

Pseudanthias cooperi 80

Pseudanthias fasciatus 82

Pseudanthias hypselosoma 83

Pseudanthias lori 84

Pseudanthias parvirostris 84

Pseudanthias pascalus 86

Pseudanthias pleurotaenia 87

Pseudanthias randalli 89

Pseudanthias rubrolineatus 90

Pseudanthias squamipinnis 91

Pseudocheilinus evanidus 266

Pseudocheilinus hexataenia 267

Pseudochromis marshallensis 103

Pseudocoris yamashiroi 268

Pseudodax moluccanus 268

Pseudogramma polyacantha 97

Pseudojuloides mesostigma 269

Pseudojuloides severnsi 269

Pseudolabrus eoethinus 270

Pseudoplesiops annae 104

Ptereleotris grammica 341

Pterocaesio marri 154

Pterois antennata 43

Pterois radiata 45

Pterois volitans 47

R

Rhabdamia gracilis 137

Rhabdoblennius nitidus 312

Rhabdosargus sarba 162

S

Salarias luctuosus 313

Sargocentron caudimaculatum 27

Sargocentron diadema 28

Sargocentron ittodai 28

Sargocentron melanospilos 29

Sargocentron praslin 30

Sargocentron punctatissimum 30

Scarus chameleon 275

Scarus festivus 277

Scarus forsteni 277

Scarus fuscocaudalis 279

Scarus globiceps 280

Scarus niger 281

Scarus ovifrons 281

Scarus rivulatus 282

Scarus rubroviolaceus 283

Scarus schlegeli 284

Scorpaenis bilineata 159

Scorpaenis xenochroa 160

Scomber australasicus 353

Scomber japonicus 354

Scorpaenodes evides 48

Scorpaenodes guamensis 50

Scorpaenodes hirsutus 49

Scorpaenodes varipinnis 50

Scorpaenopsis cirrosa 51

Scorpaenopsis diabolus 53

Scorpaenopsis orientalis 54

Scorpaenopsis oxycephala 56

Scorpaenopsis papuensis 57

Scorpaenopsis possi 59

Scorpaenopsis ramaraoi 60

Scorpaenopsis venosa 61

Scorpaenopsis vittapinna 63

Sebastapistes fowleri 65

Sebastapistes strongia 65

Sebastiscus marmoratus 67

<i>Seriola quinqueradiata</i>	145
<i>Seriola rivoliana</i>	146
<i>Serranocirrhitis latus</i>	97
<i>Siganus argenteus</i>	344
<i>Siganus huscescens</i>	344
<i>Siphamia majimai</i>	138
<i>Snanceia verrucosa</i>	68
<i>Solenostomus paradoxus</i>	32
<i>Spratelloides gracilis</i>	15
<i>Stethojulis trilineata</i>	271
<i>Sueviota lachneri</i>	332
<i>Sufflamen bursa</i>	360
<i>Sufflamen chrysopterum</i>	360
<i>Sufflamen fraenatum</i>	362
<i>Symphysanodon katayamai</i>	69
<i>Synodus dermatogenys</i>	16
<i>Synodus ulae</i>	17

T

<i>Taenianotus triacanthus</i>	65
<i>Terapon jarbua</i>	204
<i>Thalassoma amblycephalum</i>	272
<i>Thalassoma cupido</i>	272
<i>Thysanophrys chiltonae</i>	69
<i>Trachurus japonicus</i>	147
<i>Trimma annousum</i>	333
<i>Trimma caesiurum</i>	334
<i>Trimma caudomaculatum</i>	334
<i>Trimma kudo</i>	335
<i>Trimma macrophthalmum</i>	336
<i>Trimma milta</i>	338
<i>Trimma sheppardi</i>	338
<i>Trimma taylori</i>	337
<i>Trimmatom</i> sp.	339
<i>Tylosurus crocodilus crocodilus</i>	21

U

<i>Upeneus vittatus</i>	165
-------------------------------	-----

V

<i>Valenciennesa puellaris</i>	339
--------------------------------------	-----

<i>Variola louti</i>	99
----------------------------	----

Z

<i>Zanclus cornutus</i>	344
-------------------------------	-----

執筆者一覧

伊東正英 Masahide Ito

1968年、長野県生まれ。鹿児島県南さつま市笠沙町漁業協同組合・丸世大吉漁業生産組合。鹿児島大学総合研究博物館ボランティア。

岩坪洸樹 Hiroki Iwatsubo

1989年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究科・修士課程2年。専門はスズメダイ科魚類の分類学。

大石一樹 Kazuki Oishi

1992年、新潟県生まれ。鹿児島大学水産学部・学部2年。鹿児島大学総合研究博物館ボランティア。

大橋祐太 Yuta Ohashi

1988年、新潟県生まれ。新潟県柏崎市農林水産課水産係（元鹿児島大学水産学部）。専門はカレイ目の分類学。

萩原豪太 Gota Ogihara

1983年、神奈川県生まれ。鹿児島大学大学院連合農学研究科・博士課程3年。専門はオニオコゼ科魚類の分類学。

片山英里 Eri Katayama

1982年、岡山県生まれ。博士（理学）。国立科学博物館・支援研究員。専門はベラギンポ科・トビギンポ科魚類の分類学。

鈴木寿之 Toshiyuki Suzuki

1955年、大阪府生まれ。兵庫県立川西緑台高等学校・教諭。専門はハゼ亜目魚類の分類学。

田代郷国 Satokuni Tashiro

1990年、東京都生まれ。鹿児島大学水産学部・学部4年。専門はヘビギンポ科魚類の分類学。

千葉 悟 Satoru N. Chiba

1980年、宮城県生まれ。博士（理学）。国立科学博物館・特定非常勤研究員。専門はタイ科魚類の分子系統地理学。

出羽慎一 Shin'ichi Dewa

別掲

西山 肇 Hajime Nishiyama

1988年、大阪府生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究科・修士課程2年。専門はスズメダイ科魚類の分類学。

畑 晴陵 Harutaka Hata

1991年、ドイツ生まれ。鹿児島大学水産学部・学部3年。専門はニシン目魚類の分類学。

波戸岡清峰 Kiyotaka Hatooka

1956年、広島県生まれ。大阪市立自然史博物館・主任学芸員。専門はウナギ目の分類学。

原口百合子 Yuriko Haraguchi

1962年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学総合研究博物館ボランティア。

古田和彦 Kazuhiko Furuta

別掲

松浦啓一 Keiichi Matsuura

別掲

目黒昌利 Masatoshi Meguro

1985年、岐阜県生まれ。鹿児島大学大学院連合農学研究科・博士課程3年。専門はヘビギンポ科魚類の分類学。

本村浩之 Hiroyuki Motomura

別掲

吉田朋弘 Tomohiro Yoshida

1986年、大阪府生まれ。鹿児島大学大学院連合農学研究科・博士課程1年。専門はテンジクダイ科魚類の分類学。

編者

本村浩之

1973年、静岡県生まれ。博士(農学)。国立科学博物館、オーストラリア博物館を経て、現在、鹿児島大学総合研究博物館、副館長、教授(鹿児島大学大学院連合農学研究科教授を兼任)。日本魚類学会編集委員、日本動物分類学会編集委員長、鹿児島県自然愛護協会編集理事。日本魚類学会奨励賞、日本動物分類学会奨励賞受賞。専門は魚類分類学。主な著書に『Threadfins of the world (family Polynemidae)』(国連食糧農業機関)、『Fishes of Australia's southern coast』(分担、ニューホーランドプレス)、『魚類標本の作製と管理マニュアル』(鹿児島大学総合研究博物館)、『Fishes of Yaku-shima Island』(国立科学博物館)、『Fishes of Terengganu』(トレンガヌ大学他)、『黒潮の魚たち』(分担、東海大学出版会)、『日本のベラ大図鑑』(監修、東方出版)などがある。

出羽慎一

1969年、大阪府生まれ。ダイビングサービス海案内・代表。鹿児島大学大学院水産学研究科修士課程修了。専攻は魚類行動生態学。(財)鹿児島市水族館公社展示課職員を経て、2000年、「ダイビングサービス海案内」を設立。鹿児島県内の海を中心に、海水域、汽水域、淡水域、源流の森や里山まで、水域環境のガイド、撮影、生物調査に従事。年間300日以上を鹿児島の水中に潜る。日本魚類学会会員、日本水産学会会員、NACS-J自然観察指導員、PADIダイビングインストラクター。著書に『桜島の海へー錦江湾生き物万華鏡ー』(南日本新聞社)。海洋生物の図鑑等に生態写真の提供多数、テレビ番組等に水中映像の提供多数。

古田和彦

1962年、愛知県生まれ。ダイビングスクール & サービス海工房・代表。初ダイビングは1982年、ハワイのオアフ島。サラリーマンを経て、NAUIインストラクター、潜水士の資格取得。2002年「ダイビングスクール & サービス海工房」開業。同時に、「ダイビングサービス海案内」の出羽慎一氏と出会い、錦江湾の素晴らしさに魅せられ、水中写真の手解きを受け、本格的にのめり込む。以来、全面的にサポートを受け、「潜り仲間」として濃ゆ〜いダイビング人生が始まる。たくさんのお出会いとチャンスに恵まれ、様々な経験を重ねて、鹿児島大学総合研究博物館の本村浩之教授の研究に携わることになり、2010年、本村教授と出羽氏と共に「イトヒキコハクハナダイ」を命名した。今回は三島村の図鑑作製に参加することになった。5年前より、鹿児島大学水産学部で「潜水士養成集中講義」の非常勤講師に就任。水産学部各研究室の実験、実習、教習などに携わり、レジャーダイビングショップ経営、潜水士業務等で生計を立てる。鹿児島島の海をホームにし、海外ツアー、国内は北海道から八重山諸島までツアーを組み、お客様と海へ出かけ、日々、「海」を紹介し学んでいる。多数のライセンス講習を毎年開催し、ダイバーを育て、今後もテックダイビングを駆使し、未知なる水中世界へ挑み続けている。

松浦啓一

1948年、東京都生まれ。水産学博士。1979年に国立科学博物館動物研究部研究員となり、同主任研究官、室長、コレクションディレクター、研究調整役(動物研究部長と昭和記念筑波研究資料館長を兼任)を歴任。東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授を兼任。GBIF(地球規模生物多様性情報機構副議長)、日本魚類学会会長、日本分類学会連合代表などを歴任。日本動物分類学会賞受賞、アメリカ魚類・両生爬虫類学会名誉会員。専門は魚類分類学と生物多様性情報学。主な著書に『魚の自然史ー水中の進化学』(北海道大学図書刊行会)、『動物分類学』(東京大学出版会)、『虫の名、貝の名、魚の名』(東海大学出版会)、『魚の形を考える』(東海大学出版会)、『Fishes of Bitung』(国立科学博物館)、『Fishes of Yaku-shima Island』(国立科学博物館)、『黒潮の魚たち』(東海大学出版会)などがある。



鹿児島県三島村

硫黄島と竹島の魚類

Fishes of Iou-jima and Take-shima islands
Mishima, Kagoshima, Japan

発行日 2013年3月29日

編著者 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一

DTP 本村浩之

発行所 鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30

Tel: 099-285-8141; fax: 099-285-7267

<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

国立科学博物館

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

印刷所 株式会社朝日印刷

〒890-0055 鹿児島市上荒田町854-1

Tel: 099-251-2191; fax: 099-253-7331

©2013 The Kagoshima University Museum

Printed in Japan ISBN978-4-905464-02-0



Citation:

本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一（編）. 2013. 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 390 pp., 883 figs.

Motomura, H., S. Dewa, K. Furuta and K. Matsuura (eds.). 2013. Fishes of Iou-jima and Take-shima islands, Mishima, Kagoshima, Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima and the National Museum of Nature and Science, Tsukuba. 390 pp., 883 figs.

